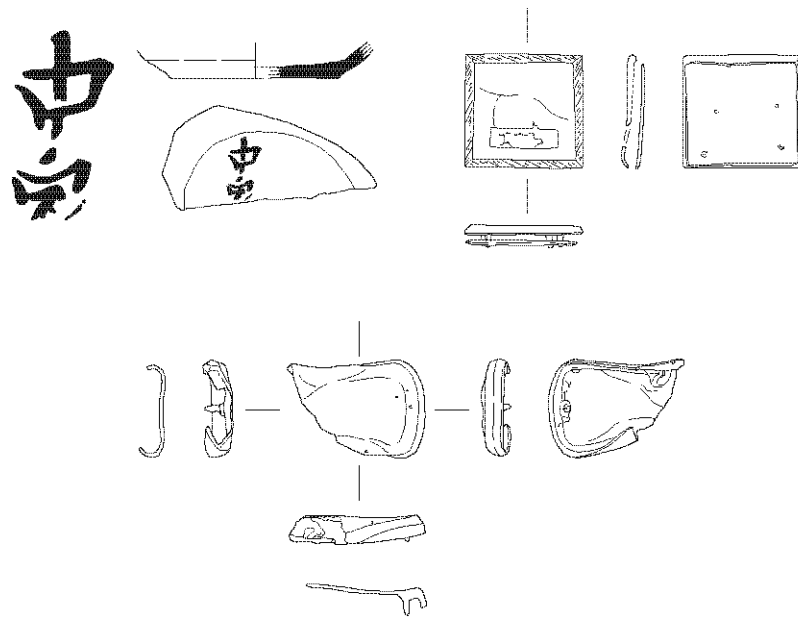


うま こし い せき
馬 越 遺 跡 III

— 県営吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 —



2010

新潟県加茂市教育委員会

うま　　こし　　い　　せき
馬　　越　　遺　　跡　　Ⅲ

— 県営古津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2010

新潟県加茂市教育委員会



馬越遺跡遠景 空中写真（西から）



馬越遺跡遠景 空中写真（南西から）



C区 (2005年) 全景 空中写真 (西から)



C区 (2005年) 全景 空中写真 (北から)



D区 全景 空中写真(西から)



J・K区 全景 空中写真(南西から)



A区 河川1・2 遺物出土状況 (南から)



C区下層 断面 (北西から)



C区上層 SE2 木16 出土状況 (北から)



C区下層 SE7 断面 (南から)



C区下層 SE14 断面 (南から)



F区 SD10 木5出土状況(南から)



I区 SB1 全景(西から)



I区 SB1-3 (SP50) 断面(南から)



J区 SE87 断面(東から)



J区 SD71 遺物出土状況(南東から)



「若」(474)・「中家」(457) 墨書土器



鍔帯金具 (1・2)

序

平成8年から平成18年にかけて、一般国道403号線道路改良事業と吉津川地区
県営ほ場整備事業に係わり、馬越遺跡の確認調査と本調査が実施されてきました。そ
の成果につきましては適宜報告書にまとめられているところであります。

馬越遺跡は、古墳時代からの活動痕跡が確認され、奈良・平安時代を主体時期とし
た遺跡と位置付けられています。その河川跡や建物跡の調査から、奈良時代の集落跡
であることが一層明らかになってまいりました。

加茂市域は「青海郷」の有力な比定地とされていることは周知の通りですが、長岡
市の八幡林遺跡から出土した木簡から「高志君大虫」と「青海郷」の名前が発見され、
一躍脚光を浴びました。近年は遺跡分布状況も変化し、遺跡の内容も各地でかなり蓄
積されつつあることから、「青海郷」についての新しい視点もこれから見えてくるの
ではないでしょうか。

今回の発掘調査では、新たに「中家」墨書土器や「帯金具」など、貴重な遺物が出
土しました。また、これまでにおける加茂市内の中世の遺跡は、発掘調査の事例がご
く限られたものでしたが今回の一連の調査により、中世史の解明にとっても貴重な資
料を多数得ることができました。

本書が当地域の学習、研究資料として多くの皆様に活用され、埋蔵文化財に対する
理解と保存意識の高揚のために役立つことができれば幸いです。

最後に、発掘調査に対してご指導とご協力を頂いた新潟県教育庁文化行政課、並び
に発掘調査と整理作業に参加された地元の方々、また、発掘調査から本報告書刊行に
至るまで各段のご配慮を賜った新潟県三条地域振興局農業振興部、石油資源開発株式
会社長岡鉱業所に対して厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

加茂市教育委員会

教育長 井上 信二

例 言

- 1 本書は新潟県加茂市大字下条字馬越地内に所在する馬越遺跡の発掘調査報告書である。報告書名は、同一遺跡の発掘調査報告書であることから、『馬越遺跡』（2005年刊行）、『馬越遺跡Ⅱ』（2009年刊行）に続く『馬越遺跡Ⅲ』とした。
- 2 調査は県営吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に伴い、加茂市が新潟県及び石油資源開発（株）長岡鉱業所から委託を受け、加茂市教育委員会が平成17年9月29日～平成17年11月14日と平成18年8月7日～平成18年11月17日にかけて実施したものである。調査面積は約3,615m²である。
- 3 調査に要した経費は、平成17年度は90%を事業主体である新潟県（担当 三条地域振興局）が負担し、工事費の農家負担分である10%を文化財保護担当部局としての加茂市が、50%は文化庁、15%は新潟県から補助金の交付を受けて支出した。平成18年度から平成21年度は、新潟県および石油資源開発（株）長岡鉱業所それぞれが全体工事面積に占める各自工事分の責任面積から負担割合を決め、平成18年度が調査に要した経費の11.9%、平成19～21年度が10.3%を石油資源開発（株）長岡鉱業所が負担し、それを差し引いた経費を平成17年度同様の負担区分により支出した。
- 4 平成17・18年度に発掘調査を、平成17～21年度にかけて整理作業及び報告書作成を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 5 調査記録図面・写真類、出土遺物は一括して加茂市教育委員会が保管している。遺物の注記記号は「UK」とし、出土区・出土遺構及び位置・取り上げ日などを記した。
- 6 本書で示す方位は全て真北である。
- 7 挿図に使用した既存図面については、その出典を記した。
- 8 本書に掲載した遺物は種別毎に通し番号を付し、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて同一としている。
- 9 写真図版1上段の空中写真は（財）日本地図センター発行で、建設省国土地理院が昭和40年10月に撮影したものを使用した。縮尺は約1/20,000である。巻頭図版1及び写真図版1下段の空中写真は平成10・11年度に朝日航洋（株）が撮影したものを使用した。
- 10 引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕で文中に示し、巻末に一括して掲載している。ただし、第VI章自然科学分析は引用文献を節毎の末尾にそれぞれ記した。
- 11 本報告書の編集・執筆は全て伊藤秀和が行ったが、第VI章については、パリノ・サーヴェイ（株）と漆器文化財科学研究所四柳嘉章氏に資料を委託し、同社及び四柳氏より原稿を頂いた。
- 12 本報告書掲載遺物のうち、土器、石製品、土製品、木製品、金属製品の一部についての実測作業は（株）セビラス及び（株）イビソク、遺構観察表作成の一部については（株）イビソク、遺物写真撮影は（株）セビラスに委託した。写真図版83の金属製品X線写真は（株）吉田生物研究所、木簡赤外線写真は田中一穂氏（当時新潟県埋蔵文化財調査事業団）が撮影した。
- 13 金属製品及び木製品の一部について、遺物保存処理を（株）吉田生物研究所に委託した。
- 14 挿図、遺構図版、遺物図版の製図、図面図版・写真図版の版組み及び全体のデジタル編集・データ化は、（株）セビラスに委託した。
- 15 須恵器の産地、須恵器・土師器の年代については春日真実氏（新潟県埋蔵文化財調査事業団）、木簡及び墨書土器については田中一穂氏からご指導・教示を頂いた。
- 16 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏から多大な御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。（敬称省略・五十音順、機関などは順不同）
相沢 央・青山誠八・安藤正美・池野芳男・小熊博史・尾崎高宏・春日真実・鹿取 渉・金子拓男・桑原正史
小林昌二・坂井秀弥・坂上有紀・桜岡正信・笹澤正史・関 正平・高花宏之・田中一穂・田中 靖・田村浩司
立木宏明・福田仁史・水澤幸一・宮田志保・四柳嘉章
石油資源開発（株）長岡鉱業所・（株）ジャベックスパイプライン・社団法人加茂市シルバー人材センター
（株）渡辺建材・（株）涌井建設工業・（株）涌井組・（株）イビソク・（株）セビラス・加茂市農林課・三条土地改良区
新潟県三条地域振興局・新潟県教育庁文化行政課・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・加茂市文化財調査審議会

目 次

第I章 序 説

- 1 馬越遺跡の発見と既往の調査について……………1
- 2 調査に至る経緯……………1

第II章 遺跡の位置と歴史的環境

- 1 馬越遺跡の地理的環境……………6
- 2 馬越遺跡周辺の高墳時代～古代遺跡……………9

第III章 発掘調査の概要

- 1 確認調査の概要……………14
- 2 発掘調査方法とグリッドの設定……………15
- 3 発掘調査・整理作業の経過……………18
 - A 発掘調査の経過……………18
 - B 整理作業の経過……………21
- 4 発掘調査・整理作業の体制……………21
- 5 遺跡の概要……………24
- 6 地形と基本土層……………24

第IV章 遺 構

- 1 遺構の概要……………27
- 2 記述の方法と遺構の分類……………27
 - A 掘立柱建物跡……………28
 - B 井戸・土坑・不明遺構・ピット……………28
 - C 溝・河川（自然流路）……………29
- 3 A区の遺構……………29
 - A A区の概要……………29
 - B A区遺構各説……………29
 - 1) 溝 (SD)……………29
 - 2) 河 川……………30
- 4 B区の遺構……………30
 - A B区の概要……………30
 - B B区遺構各説……………30
 - 1) 土 坑 (SK)……………30
 - 2) 溝 (SD)……………30
 - 3) ピ ッ ト (SP)……………31
 - 4) 河 川……………32
- 5 C区上層の遺構……………32
 - A C区上層の概要……………32
 - B C区上層遺構各説……………32
 - 1) 井 戸 (SE)……………32
 - 2) 土 坑 (SK)……………33
 - 3) 不明遺構 (SX)……………33
 - 4) 溝 (SD)……………33

| | | | |
|-----------------------------|----|---------------------|----|
| 5) ピ ッ ト (SP) | 34 | 6) 河 川 | 34 |
| 6 C 区下層の遺構 | 35 | | |
| A C 区下層の概要 | 35 | | |
| B C 区 (2005 年) 下層遺構各説 | 35 | | |
| 1) 井 戸 (SE) | 35 | 2) 土 坑 (SK) | 35 |
| 3) 溝 (SD) | 36 | 4) ピ ッ ト (SP) | 37 |
| C C 区 (2006 年) 下層遺構各説 | 37 | | |
| 1) 井 戸 (SE) | 37 | 2) 土 坑 (SK) | 38 |
| 3) 溝 (SD) | 38 | 4) ピ ッ ト (SP) | 38 |
| 7 D 区の遺構 | 38 | | |
| A D 区の概要 | 38 | | |
| B D 区遺構各説 | 38 | | |
| 1) 土 坑 (SK) | 38 | 2) 溝 (SD) | 38 |
| 3) ピ ッ ト (SP) | 39 | | |
| 8 E 区上層の遺構 | 39 | | |
| A E 区上層の概要 | 39 | | |
| B E 区上層遺構各説 | 40 | | |
| 1) 井 戸 (SE) | 40 | 2) ピ ッ ト (SP) | 40 |
| 9 E 区下層の遺構 | 40 | | |
| A E 区下層の概要 | 40 | | |
| B E 区下層遺構各説 | 40 | | |
| 1) 土 坑 (SK) | 40 | 2) 溝 (SD) | 40 |
| 3) 河 川 | 40 | | |
| 10 F 区の遺構 | 41 | | |
| A F 区の概要 | 41 | | |
| B F 区遺構各説 | 41 | | |
| 1) 土 坑 (SK) | 41 | 2) 溝 (SD) | 41 |
| 3) ピ ッ ト (SP) | 42 | 4) 河 川 | 42 |
| 11 G 区の遺構 | 43 | | |
| A G 区の概要 | 43 | | |
| B G 区遺構各説 | 43 | | |
| 1) 溝 (SD) | 43 | 2) 河 川 | 43 |
| 12 H 区の遺構 | 44 | | |
| A H 区の概要 | 44 | | |
| B H 区遺構各説 | 44 | | |
| 1) 土 坑 (SK) | 44 | 2) 河 川 | 44 |
| 13 I 区の遺構 | 45 | | |
| A I 区の概要 | 45 | | |
| B I 区遺構各説 | 45 | | |
| 1) 掘立柱建物跡 (SB) | 45 | 2) 土 坑 (SK) | 45 |
| 3) 不明遺構 (SX) | 45 | 4) 溝 (SD) | 45 |
| 14 J 区の遺構 | 46 | | |
| A J 区の概要 | 46 | | |
| B J 区遺構各説 | 46 | | |
| 1) 井 戸 (SE) | 46 | 2) 土 坑 (SK) | 46 |
| 3) 溝 (SD) | 47 | 4) ピ ッ ト (SP) | 47 |
| 15 K 区の遺構 | 47 | | |
| A K 区の概要 | 47 | | |

| | |
|---------------|----|
| B K区遺構各説 | 48 |
| 1) 土 坑 (SK) | 48 |
| 2) 溝 (SD) | 49 |
| 3) ピ ッ ト (SP) | 50 |
| 16 そ の 他 | 50 |

第V章 遺 物

| | |
|--------------------|----|
| 1 遺物の概要 | 51 |
| 2 古墳時代の土器 | 51 |
| A 記述の方法 | 51 |
| B 土器の器種分類 | 51 |
| C 遺物各説 | 53 |
| 1) A区出土土器 | 53 |
| 2) B区出土土器 | 54 |
| 3) G区出土土器 | 55 |
| 4) H区出土土器 | 55 |
| 5) J区出土土器 | 55 |
| 6) 立会い調査出土土器 | 55 |
| 3 奈良・平安時代の土器 | 55 |
| A 記述の方法 | 56 |
| B 土器の器種分類 | 59 |
| 1) 灰釉・緑釉陶器 | 59 |
| 2) 須 恵 器 | 59 |
| 3) 土 師 器 | 60 |
| 4) 黒 色 土 器 | 62 |
| C 遺物各説 | 64 |
| 1) A区出土土器 | 64 |
| 2) B区出土土器 | 64 |
| 3) C区上層出土土器 | 66 |
| 4) C区(2005年)下層出土土器 | 66 |
| 5) C区(2006年)下層出土土器 | 68 |
| 6) D区出土土器 | 69 |
| 7) E区下層出土土器 | 70 |
| 8) F区出土土器 | 72 |
| 9) G区出土土器 | 72 |
| 10) I区出土土器 | 73 |
| 11) J区出土土器 | 73 |
| 12) K区出土土器 | 76 |
| 13) 立会い調査出土土器 | 78 |
| 4 鎌倉・室町時代の土器 | 79 |
| 1) B区出土土器 | 79 |
| 2) C区上層出土土器 | 79 |
| 3) E区下層出土土器 | 80 |
| 4) F区出土土器 | 80 |
| 5) K区出土土器 | 81 |
| 6) 立会い調査出土土器 | 81 |
| 5 土 製 品 | 81 |
| 6 金 属 製 品 | 81 |
| 7 石 製 品 | 82 |
| 8 木 製 品 | 82 |
| 9 自 然 遺 体 | 86 |

第VI章 自然科学分析

| | |
|---------------------|----|
| 1 馬越遺跡の自然科学分析の概要 | 87 |
| 2 分析結果 | 87 |
| A 平成18年度馬越遺跡の自然科学分析 | 87 |
| 1) はじめに | 87 |
| 2) 骨 同 定 | 87 |
| B 平成19年度馬越遺跡の自然科学分析 | 90 |
| 1) はじめに | 90 |
| 2) 花粉分析・植物珪酸体分析 | 90 |
| 3) 植物遺体 | 94 |
| 4) 木材利用 | 95 |

| | |
|------------------------------|-----|
| C 平成 20 年度馬越遺跡の自然科学分析 | 100 |
| 1) はじめに | 100 |
| 2) 木製品の樹種 | 100 |
| 3) 骨 同 定 | 105 |
| D 加茂市馬越遺跡出土漆器（平成 18 年度）の科学分析 | 108 |
| 1) 分析の方法 | 108 |
| 2) 分析結果 | 108 |
| 3) 小 結 | 116 |

第VII章 ま と め

| | |
|------------------------|-----|
| 1 井戸跡について | 121 |
| 2 土 器 | 127 |
| A 古墳時代中期の土器について | 127 |
| B 平安時代の土器について | 128 |
| C 胎土 E 群須恵器について | 134 |
| 3 主要墨書土器などから見た馬越遺跡について | 136 |
| 《要 約》 | 139 |
| 《引用・参考文献》 | 140 |
| 《別 表》 | 144 |
| 1 遺構観察表 | 144 |
| 2 主要遺構出土土器器種構成率 | 164 |
| 3 土器観察表 | 165 |
| 4 土製品観察表 | 177 |
| 5 金属製品観察表 | 178 |
| 6 石製品観察表 | 178 |
| 7 木製品観察表 | 178 |

挿 図 目 次

| | | | | |
|---|----|----------------------------------|------------|-----|
| 第 1 図 馬越遺跡既往調査区 (S=1:4,000) | 2 | 第 15 図 包含層のグリッド別土器出土重量分布図 (2) | (S=1:1000) | 58 |
| 第 2 図 調査区域按分平面・断面図 | 4 | 第 16 図 馬越遺跡古代土器器種分類図 (1) (S=1:6) | | 61 |
| 第 3 図 馬越遺跡の位置図 (S=1:50,000) | 7 | 第 17 図 馬越遺跡古代土器器種分類図 (2) (S=1:6) | | 63 |
| 第 4 図 馬越遺跡周辺の地形分類図 (S=1:50,000) | 7 | 第 18 図 馬越遺跡古代土器器種分類図 (3) (S=1:6) | | 64 |
| 第 5 図 馬越遺跡周辺の旧地形図 (S=1:30,000) | 8 | 第 19 図 馬の骨格 | | 88 |
| 第 6 図 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡分布図 (S=1:30,000) | 10 | 第 20 図 馬の上顎骨・下顎骨の概念図 | | 88 |
| 第 7 図 馬越遺跡と八幡林官衙遺跡位置図 (S=1:300,000) | 13 | 第 21 図 骨 | | 89 |
| 第 8 図 馬越遺跡確認調査トレンチ及び立会い調査区位置図 (S=1:4,000) | 14 | 第 22 図 花粉化石群集の層位分布 | | 92 |
| 第 9 図 馬越遺跡グリッド設定図 (S=1:2,500) | 16 | 第 23 図 植物珪酸体群集の層位分布 | | 92 |
| 第 10 図 地形と旧河川跡 (S=1:2,500) | 26 | 第 24 図 花粉化石・植物珪酸体・木材 (1) | | 99 |
| 第 11 図 遺構の形状分類模式図 | 28 | 第 25 図 木材 (2) | | 100 |
| 第 12 図 馬越遺跡 I 区 SB4 平面図 | 48 | 第 26 図 木材・骨 | | 107 |
| 第 13 図 馬越遺跡古式土器器種分類図 (S=1:6) | 54 | 第 27 図 赤外線吸収スペクトル | | 113 |
| 第 14 図 包含層のグリッド別土器出土重量分布図 (1) (S=1:1000) | 57 | 第 28 図 蛍光 X 線スペクトル (1) | | 114 |
| | | 第 29 図 蛍光 X 線スペクトル (2) | | 115 |
| | | 第 30 図 分析漆器実測図 | | 115 |
| | | 第 31 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (1) | | 118 |
| | | 第 32 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (2) | | 119 |

第 33 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真(3) ……120
 第 34 図 井戸(古代)の計測値 ……121
 第 35 図 馬越遺跡の井戸と出土遺物(古代) ……123
 第 36 図 井戸(中世)の計測値 ……125
 第 37 図 馬越遺跡の井戸と出土遺物(中世) ……126
 第 38 図 A区河川1・2出土土器組成図 ……127
 第 39 図 主要遺構毎の器種別構成比率図 ……129
 第 40 図 主要遺構毎の全体の種類別構成比率図
 ……130

第 41 図 主要遺構毎の機能別構成比率図 ……131
 第 42 図 主要遺構毎の食膳具の種類別構成比率図
 ……132
 第 43 図 土師器食膳具の法量分布図 ……133
 第 44 図 頸城郡産と推測される須恵器 ……135
 第 45 図 時期毎の主要墨書・ヘラ書き土器と帯金具・
 分銅・木簡 ……137
 第 46 図 主要特殊遺物出土分布図 ……138

表 目 次

第 1 表 馬越遺跡調査履歴一覧表 …… 1
 第 2 表 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡一覧表
 …… 11
 第 3 表 調査区の概要 …… 15
 第 4 表 各区の主なグリッド杭の座標一覧表 …… 17
 第 5 表 各区の遺構一覧表 …… 27
 第 6 表 調査区及び器種別出土総数一覧表 …… 52
 第 7 表 骨同定結果 …… 88
 第 8 表 花粉分析結果 …… 91
 第 9 表 植物珪酸体分析結果 …… 92

第 10 表 灰像分析結果 …… 95
 第 11 表 樹種同定結果 …… 96
 第 12 表 時期別種類構成 …… 97
 第 13 表 樹種同定結果 …… 104
 第 14 表 器種別種類構成(1) …… 104
 第 15 表 器種別種類構成(2) …… 104
 第 16 表 井戸(古代)の分類 …… 121
 第 17 表 馬越遺跡の井戸(古代) …… 122
 第 18 表 井戸(中世)の分類 …… 125
 第 19 表 馬越遺跡の井戸(中世) …… 125

図 版 目 次

[巻頭図版]

巻頭図版 1 遺跡遠景
 巻頭図版 2 調査区全景(1)
 巻頭図版 3 調査区全景(2)
 巻頭図版 4 個別遺構(1)
 巻頭図版 5 個別遺構(2)
 巻頭図版 6 出土遺物

[図版目次]

図版 1 馬越遺跡調査区位置図(1:2,500)
 図版 2 A区遺構平面図(1:200・1:100)
 図版 3 A区遺構個別実測図1
 図版 4 A区遺構個別実測図2
 図版 5 B区遺構平面図(1:250・1:80)
 図版 6 B区遺構個別実測図1
 図版 7 B区遺構個別実測図2
 図版 8 C区上層遺構平面図(1:150・1:80)
 図版 9 C区上層遺構個別実測図1
 図版 10 C区上層遺構個別実測図2
 図版 11 C区上層遺構個別実測図3
 図版 12 C区上層遺構個別実測図4
 図版 13 C区下層遺構平面図(1:250・1:100)
 図版 14 C区下層(2005年調査区)遺構個別実測図1
 図版 15 C区下層(2005年調査区)遺構個別実測図2
 図版 16 C区下層(2005年調査区)遺構個別実測図3

図版 17 C区下層(2006年調査区)遺構個別実測図4
 図版 18 D区遺構平面図(1:400・1:100)
 図版 19 D区遺構個別実測図1
 図版 20 D区遺構個別実測図2
 図版 21 E区上層遺構平面図(1:80)・遺構個別実測図
 図版 22 E区下層遺構平面図(1:250・1:100)
 図版 23 E区下層遺構個別実測図1
 図版 24 E区下層遺構個別実測図2
 図版 25 F区遺構平面図1(1:500・1:100)
 図版 26 F区遺構平面図2(1:100)
 図版 27 F区遺構個別実測図1
 図版 28 F区遺構個別実測図2
 図版 29 F区遺構個別実測図3
 図版 30 G区遺構平面図(1:400・1:100)
 図版 31 G区遺構個別実測図1
 図版 32 G区遺構個別実測図2
 図版 33 H区遺構平面図(1:250・1:100)
 図版 34 H区遺構個別実測図
 図版 35 I区遺構平面図(1:200・1:100)
 図版 36 I区遺構平面図2(1:100)・I区遺構個別
 実測図1
 図版 37 I区遺構個別実測図2
 図版 38 J区・K区遺構平面図(1:500・1:250)
 図版 39 J区遺構平面図(1:100)

| | |
|-------|--|
| 図版 40 | J区 遺構個別実測図 1 |
| 図版 41 | J区 遺構個別実測図 2 |
| 図版 42 | J区 遺構個別実測図 3 |
| 図版 43 | K区 遺構平面図 1 (1:100) |
| 図版 44 | K区 遺構平面図 2 (1:100)・K区 遺構個別実測図 1 |
| 図版 45 | K区 遺構個別実測図 2 |
| 図版 46 | K区 遺構個別実測図 3 |
| 図版 47 | K区 遺構個別実測図 4 |
| 図版 48 | 出土遺物 1 A区 (1) |
| 図版 49 | 出土遺物 2 A区 (2) |
| 図版 50 | 出土遺物 3 B区 (1) |
| 図版 51 | 出土遺物 4 B区 (2) |
| 図版 52 | 出土遺物 5 B区 (3) |
| 図版 53 | 出土遺物 6 C区 (2005年) 上層 |
| 図版 54 | 出土遺物 7 C区 (2005年) 下層 (1) |
| 図版 55 | 出土遺物 8 C区 (2005年) 下層 (2) |
| 図版 56 | 出土遺物 9 C区 (2005年) 下層 (3)・C区 (2006年) 下層 (1) |
| 図版 57 | 出土遺物 10 C区 (2006年) 下層 (2)・D区 (1) |
| 図版 58 | 出土遺物 11 D区 (2) |
| 図版 59 | 出土遺物 12 E区 下層 (1) |
| 図版 60 | 出土遺物 13 E区 下層 (2) |
| 図版 61 | 出土遺物 14 E区 下層 (3)・F区 (1) |
| 図版 62 | 出土遺物 15 F区 (2)・G区 |
| 図版 63 | 出土遺物 16 H区・I区 |
| 図版 64 | 出土遺物 17 J区 (1) |
| 図版 65 | 出土遺物 18 J区 (2) |
| 図版 66 | 出土遺物 19 J区 (3) |
| 図版 67 | 出土遺物 20 K区 (1) |
| 図版 68 | 出土遺物 21 K区 (2) |
| 図版 69 | 出土遺物 22 K区 (3) |
| 図版 70 | 出土遺物 23 K区 (4) |
| 図版 71 | 出土遺物 24 立会い (1) |
| 図版 72 | 出土遺物 25 立会い (2) |
| 図版 73 | 出土遺物 26 土製品・金属製品 (1) |
| 図版 74 | 出土遺物 27 金属製品 (2)・石製品 (1) |
| 図版 75 | 出土遺物 28 石製品 (2)・木製品 (1) |
| 図版 76 | 出土遺物 29 木製品 (2) |
| 図版 77 | 出土遺物 30 木製品 (3) |
| 図版 78 | 出土遺物 31 木製品 (4) |
| 図版 79 | 出土遺物 32 木製品 (5) |
| 図版 80 | 出土遺物 33 木製品 (6) |
| 図版 81 | 出土遺物 34 木製品 (7) |
| 図版 82 | 出土遺物 35 木製品 (8) |
| 図版 83 | 出土遺物 36 木製品 (9) |
| 図版 84 | 出土遺物 37 木製品 (10) |
| 図版 85 | 出土遺物 38 木製品 (11) |

[写真図版目次]

| | |
|---------|----------------------------------|
| 写真図版 1 | 馬越遺跡周辺空中写真 |
| 写真図版 2 | A区 調査区全景ほか |
| 写真図版 3 | A区 基本土層・溝・河川 (1) |
| 写真図版 4 | A区 河川 (2) |
| 写真図版 5 | B区 調査区全景ほか |
| 写真図版 6 | B区 基本土層・溝 |
| 写真図版 7 | B区 ピット・河川 |
| 写真図版 8 | C区 (2005年) 調査風景ほか |
| 写真図版 9 | C区 (2005年) 上層 調査区全景 (1) |
| 写真図版 10 | C区 (2005年) 上層 調査区全景 (2)・井戸 (1) |
| 写真図版 11 | C区 (2005年) 上層 井戸 (2) |
| 写真図版 12 | C区 (2005年) 上層 井戸 (3)・土坑・不明遺構 (1) |
| 写真図版 13 | C区 (2005年) 上層 不明遺構 (2)・溝・ピット・河川 |
| 写真図版 14 | C区 (2005年) 下層 調査区全景 |
| 写真図版 15 | C区 (2005年) 下層 井戸・土坑 |
| 写真図版 16 | C区 (2005年) 下層 溝・ピット |
| 写真図版 17 | C区 (2006年) 下層 調査区全景 (1)ほか |
| 写真図版 18 | C区 (2006年) 下層 調査区全景 (2) |
| 写真図版 19 | C区 (2006年) 下層 井戸・溝・ピット |
| 写真図版 20 | D区 調査区全景 (1)ほか |
| 写真図版 21 | D区 調査区全景 (2) |
| 写真図版 22 | D区 調査区全景 (3)ほか |
| 写真図版 23 | D区 土坑・溝・ピット |
| 写真図版 24 | E区 上層 調査区全景ほか |
| 写真図版 25 | E区 上層 ピット 下層 調査区全景ほか |
| 写真図版 26 | F区 調査区全景ほか |
| 写真図版 27 | F区 土坑・溝 (1) |
| 写真図版 28 | F区 溝 (2)・ピット・河川 |
| 写真図版 29 | G区 調査区全景ほか |
| 写真図版 30 | G区 河川 |
| 写真図版 31 | H区 調査区全景ほか |
| 写真図版 32 | I区 調査区全景ほか |
| 写真図版 33 | I区 掘立柱建物跡ほか |
| 写真図版 34 | J区 調査区全景 (1)ほか |
| 写真図版 35 | J・K区 調査区全景 (2) |
| 写真図版 36 | J区 井戸・土坑 (1)ほか |
| 写真図版 37 | J区 土坑 (2)・溝 (1) |
| 写真図版 38 | J区 溝 (2)・ピット |
| 写真図版 39 | K区 調査風景ほか |
| 写真図版 40 | K区 調査区全景 (1) |
| 写真図版 41 | K区 調査区全景 (2) |
| 写真図版 42 | K区 土坑 (1)ほか |
| 写真図版 43 | K区 土坑 (2)・溝・ピット |
| 写真図版 44 | 出土遺物 1 A区 出土土器 (1) |

- 写真図版 45 出土遺物 2 A区出土土器 (2)
- 写真図版 46 出土遺物 3 A区出土土器 (3)・B区出土土器 (1)
- 写真図版 47 出土遺物 4 B区出土土器 (2)
- 写真図版 48 出土遺物 5 B区出土土器 (3)
- 写真図版 49 出土遺物 6 B区出土土器 (4)・C区上層出土土器
- 写真図版 50 出土遺物 7 C区下層出土土器 (1)
- 写真図版 51 出土遺物 8 C区下層出土土器 (2)
- 写真図版 52 出土遺物 9 C区下層出土土器 (3)
- 写真図版 53 出土遺物 10 C区下層出土土器 (4)・D区出土土器 (1)
- 写真図版 54 出土遺物 11 D区出土土器 (2)
- 写真図版 55 出土遺物 12 D区出土土器 (3)・E区出土土器 (1)
- 写真図版 56 出土遺物 13 E区出土土器 (2)
- 写真図版 57 出土遺物 14 E区出土土器 (3)
- 写真図版 58 出土遺物 15 E区出土土器 (4)・F区出土土器 (1)
- 写真図版 59 出土遺物 16 F区出土土器 (2)・G区出土土器
- 写真図版 60 出土遺物 17 H区出土土器・I区出土土器 (1)
- 写真図版 61 出土遺物 18 I区出土土器 (2)・J区出土土器 (1)
- 写真図版 62 出土遺物 19 J区出土土器 (2)
- 写真図版 63 出土遺物 20 J区出土土器 (3)
- 写真図版 64 出土遺物 21 J区出土土器 (4)
- 写真図版 65 出土遺物 22 K区出土土器 (1)
- 写真図版 66 出土遺物 23 K区出土土器 (2)
- 写真図版 67 出土遺物 24 K区出土土器 (3)
- 写真図版 68 出土遺物 25 K区出土土器 (4)
- 写真図版 69 出土遺物 26 K区出土土器 (5)
- 写真図版 70 出土遺物 27 K区出土土器 (6)・立会い出土土器 (1)
- 写真図版 71 出土遺物 28 立会い出土土器 (2)
- 写真図版 72 出土遺物 29 立会い出土土器 (3)・土製品・金属製品 (1)
- 写真図版 73 出土遺物 30 金属製品 (2)・石製品 (1)
- 写真図版 74 出土遺物 31 石製品 (2)・木製品 (1)
- 写真図版 75 出土遺物 32 木製品 (2)
- 写真図版 76 出土遺物 33 木製品 (3)
- 写真図版 77 出土遺物 34 木製品 (4)
- 写真図版 78 出土遺物 35 木製品 (5)
- 写真図版 79 出土遺物 36 木製品 (6)
- 写真図版 80 出土遺物 37 木製品 (7)
- 写真図版 81 出土遺物 38 木製品 (8)
- 写真図版 82 出土遺物 39 木製品 (9)
- 写真図版 83 出土遺物 40 金属製品 X線写真・木簡
赤外線写真 墨書土器

第 I 章 序 説

1 馬越遺跡の発見と既往の調査について（第 1 図・第 1 表）

馬越遺跡の発見、周知化は、平成 7 年に新潟県教育委員会主催による詳細分布調査により成された。これ以後、平成 8 年から平成 18 年にかけて一般国道 403 号線道路改良事業と吉津川地区県営ほ場整備事業に係わり確認調査と本調査が実施されてきた。既にその成果については報告書が刊行され、本遺跡が古代青海郷の加茂市域を代表する重要な遺跡であることが判明している。

一般国道 403 号線道路改良事業地内においては、平成 8 年、9 年、16 年の 3 次にわたる合計 130 トレンチ、約 544m² の確認調査を踏まえ、平成 10 年、11 年、18 年に合計約 14,617m² の本発掘調査が行われた。報告書は平成 17 年、21 年に刊行されている [伊藤 2005a・2009]。吉津川地区県営ほ場整備事業地内においては、平成 10 年、12 年、15 年の 3 次にわたる合計 82 トレンチ、約 559m² の試掘・確認調査を踏まえ、平成 17 年、18 年に合計約 3,615m² の本発掘調査が行われた。

これらの調査により、馬越遺跡の推定範囲は拡大し、現在の遺跡推定範囲は約 18 万 m² に達している。各調査面積合計は約 20,000m² で、遺跡推定面積の約 11%程度、発掘調査が行なわれたことになる。

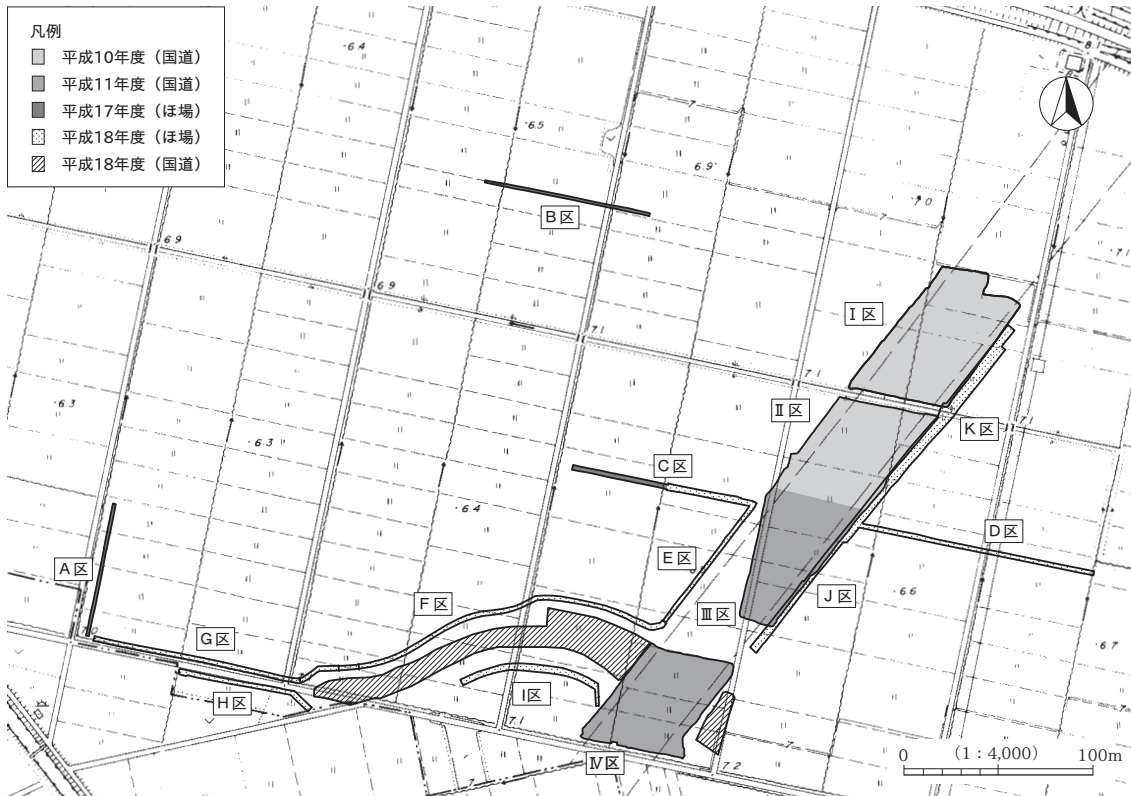
| 調査年次 | 調査種別 | 調査原因 | 調査主体 | 調査支援業者 | 調査区 | 調査面積 | 文献 |
|---------------------------------|-------|------------------------|----------|-------------|---------|---------------------|-----------------|
| 平成 7 年 (1995) | 分布調査 | 新潟県詳細分布調査 | 新潟県教育委員会 | | | | |
| 平成 8 年 (1996) 6.13 ~ 6.20 | 確認調査 | 国道 403 号線道路改良工事 | 加茂市教育委員会 | | | 280m ² | 伊藤 1997 |
| 平成 9 年 (1997) 4.22 ~ 4.25 | 確認調査 | 国道 403 号線道路改良工事 | 加茂市教育委員会 | | | 210m ² | 伊藤 1998 |
| 平成 10 年 (1998) 7.14 ~ 12.10 | 本発掘調査 | 国道 403 号線道路改良工事 | 加茂市教育委員会 | | I・II区 | 6,466m ² | 伊藤 2005a |
| 平成 10 年 (1998) 9.29 ~ 10.1 | 確認調査 | 吉津川地区県営ほ場整備事業 | 加茂市教育委員会 | | | 70m ² | 伊藤 1999 |
| 平成 11 年 (1999) 8.31 ~ 12.17 | 本発掘調査 | 国道 403 号線道路改良工事 | 加茂市教育委員会 | | III・IV区 | 5,248m ² | 伊藤 2005a |
| 平成 12 年 (2000) 10.19 ~ 11.15 | 確認調査 | 吉津川地区県営ほ場整備事業 | 加茂市教育委員会 | | | 180m ² | 伊藤 2001a |
| 平成 15 年 (2003) 10.10 ~ 10.28 | 確認調査 | 吉津川地区県営ほ場整備事業 | 加茂市教育委員会 | | | 309m ² | 伊藤 2005b |
| 平成 16 年 (2004) 6.9 ~ 6.10 | 確認調査 | 国道 403 号線道路改良工事 | 加茂市教育委員会 | | | 54m ² | 伊藤・立木ほか 2006 |
| 平成 17 年 (2005) 9.29 ~ 11.14 | 本発掘調査 | 吉津川地区県営ほ場整備事業 | 加茂市教育委員会 | (株)イビソク | A~C区 | 478m ² | 本書 |
| 平成 18 年 (2006) 8.7 ~ 11.17 | 本発掘調査 | 吉津川地区県営ほ場整備事業・送ガス管移設工事 | 加茂市教育委員会 | (株)イビソク | C~K区 | 3,137m ² | 本書 |
| 平成 18 年 (2006) 8.28 ~ 11.14 | 本発掘調査 | 国道 403 号交通連携事業 | 加茂市教育委員会 | (有)山武考古学研究所 | | 2,903m ² | 伊藤 2009 |

第 1 表 馬越遺跡調査履歴一覧表

2 調査に至る経緯

吉津川地区県営ほ場整備事業 事業者の調査によれば、本区域は用水不足、湛水被害が発生し、道路も狭く大型機械の利用が困難であることから、区画は 100a 割を基本とし、用水はパイプ灌漑方式、排水はフリーム、暗渠排水を施工し、生産性の高い圃場とし、農業経営の安定化を目的とするとされた。加茂市下条地区（全工事面積の約 60%を占める）を含んだ本事業については、平成 9 年にその計画が知られると

2 調査に至る経緯



第1図 馬越遺跡既往調査区 (S=1:4,000)
(加茂市 平成4年修正「加茂市街図その11」S=1:2,500原図)

ころとなり、平成10年から正式に、事業主体者である三条農地事務所（当時の名称。現在は改組され、三条地域振興局農業振興部、以下、振興局）、三条土地改良区、三条市教育委員会、県教育庁文化行政課（以下、県教委）、加茂市教育委員会（以下、市教委）で協議を開始した。工事区域内で確認され、試掘・確認調査の対象となった遺跡は、稻荷浦遺跡、横土居遺跡、西吉津川遺跡、鬼倉遺跡、馬越遺跡、新堀遺跡、太田遺跡（平成14年度周知化、後に荒又遺跡と分離独立）、山通遺跡の8遺跡と三条市との市域境に存在する新田川遺跡、吉津川遺跡、安曲遺跡、中谷地遺跡の各周辺地である。

試掘・確認調査は、平成7年に周知化された遺跡と範囲を基準に計画された。平成10年度には、工業団地及び知的障害者援護施設建設予定地が計画された創設非農用地を対象とした馬越遺跡と鬼倉遺跡の確認調査が行われた。平成11年度には稻荷浦遺跡、横土居遺跡、西吉津川遺跡を対象とした確認調査を実施した。調査は周辺の調査成果などから、面工事では遺物包含層まで掘削が及ばないことが想定され、深く掘削工事が行われる主線排水路法線部分のみが対象となった。一部中世の遺物が出土したが、遺構に伴わないことなどから、確認調査後の取扱いは工事立会い調査とした。平成12年度には馬越遺跡、新堀遺跡、山通遺跡、新田川遺跡周辺地、吉津川遺跡周辺地、中谷地遺跡周辺地、安曲遺跡周辺地を対象とした試掘・確認調査を行った。新堀遺跡、山通遺跡、新田川遺跡周辺地、中谷地遺跡周辺地からは遺跡は確認されず、吉津川遺跡周辺地からは古代の墨書土器が出土したが、遺構に伴わないことなどから工事立会い調査とした。安曲遺跡周辺地からは古代の遺構、遺物が確認され、本調査対象区域（後に荒又遺跡）となることが判明した。馬越遺跡では、広範囲で古代～中世の遺構、遺物が確認され、遺跡の範囲も当初より拡大することが明らかとなった。確認調査対象区域のA地区（本調査I区）、B地区（本調査C区）、C地区（本調査D区）、D地区（工事立会い区域）で本調査対象区域となることが判明した。なお、B地区において

浅い層位に中世の遺構、遺物が残存することが確認され、面整備工事により、掘削される恐れが生じた。この時点で工事内容との調整を行い、本調査必要面積を決めるところであったが、引き続き面整備区域を対象とした確認調査が必要となり、平成15年度に太田遺跡とともに追加の確認調査を実施した。

市教委は、試掘・確認調査の結果を県教委及び振興局に報告し、関係諸機関と馬越遺跡、太田遺跡、荒又遺跡地内の取扱いについて調整、協議を重ねた。平成13年度に実施設計が策定され、平成14年度から面工事に着手していたが、平成16年度に、市教委と振興局は県教委の助言を頂きながら、面整備区域の切土を少なくし、盛土工法で本調査面積を減じる手法が取れないか、協議を重ねた。その結果、基本的に遺物包含層までの保護層厚を30cm前後確保可能な盛土工法を主体的に採択し、遺跡調査は排水路、用水パイプライン布設工事部分のみを対象とすることで合意に達した。市教委は工事内容と遺跡の内容を勘案し、全体の必要調査面積と調査費について、振興局に伝え、本調査に向けた協議を重ねた。本調査は工事の年次計画に沿う形で工事に先立つ期間で計画された。当初、平成16年度内に馬越遺跡の一部（本調査C区・H区・I区の約803m²）について発掘調査を実施する計画であったが、工事費削減の影響で、平成17度から調査を開始することに計画が変更された。

平成17年度に入り、平成17年5月17日付け三農地第141号で馬越遺跡A区・B区・C区約629m²についての埋蔵文化財発掘調査・整理作業についての依頼文が市教委に提出された。これを受けて市教委は平成17年8月12日付け民資109号で馬越遺跡発掘調査計画書を振興局に提出した。その後、平成17年8月25日に農業基盤整備事業実施地区内埋蔵文化財包蔵地発掘調査費用負担契約書を締結し、調査の準備に入った。調査中、C区において予想以上の遺構が確認され、当初予定した期間及び予算内において終了させることが不可能と判断されたことから、振興局の了解を得て、C区下層の一部を平成18年度の調査に送ることとした。

なお、この間の文書事務などについては以下のとおりである。文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知については平成17年4月11日付け三農地第48号にて、県教育委員会教育長宛に行われた。県教委からは平成17年4月20日付け教文第101号にて発掘調査実施の通知文が出された。これを受けて、市教委は平成17年9月28日付け民資第133号で文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を県教育委員会教育長宛に行った。

平成18年度に入り、平成18年4月7日付け三振農第24号で馬越遺跡C～K区約2,552m²についての埋蔵文化財発掘調査・整理作業についての依頼文が市教委に提出された。これを受けて市教委は平成18年4月13日付け民資55号で馬越遺跡発掘調査計画書を振興局に提出した。しかし、その後に石油資源開発株式会社長岡鉱業所（以下、石油資源開発）による送ガス管移設工事に伴う用水パイプラインに並行する掘削工事が明らかとなり、振興局も含め協議した結果、一旦は増加した調査費用についてもほ場整備事業の関連でもあることから農地部局の経費負担行為の中で行うこととなった。市教委は平成18年7月の加茂市議会7月臨時会に増額分の調査費を補正予算として計上して、承認を得た。市教委は再度、平成18年7月18日付け民資141号で馬越遺跡発掘調査変更計画書を振興局に提出した。

この間の文書事務などについては以下のとおりである。文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知については平成18年4月17日付け三振農第87号及び平成18年6月30日付け三振農第322号にて、県教育委員会教育長宛に行われた。県教委からは平成18年5月8日付け教文第172号及び平成18年7月11日付け教文第525号にて発掘調査実施の通知文が出された。これを受けて、市教委は平成18年8月7日付け民資第147号で文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の

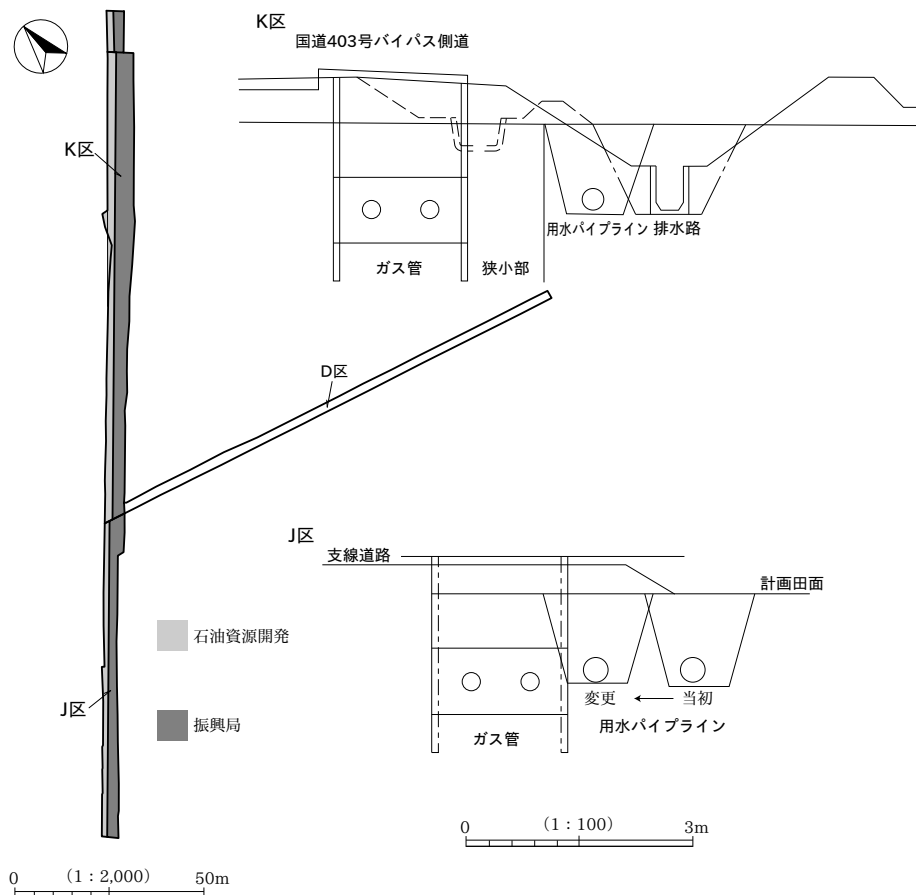
2 調査に至る経緯

報告を県教育委員会教育長宛に行った。

その後、平成 18 年 4 月 27 日付け農業基盤整備事業実施地区内埋蔵文化財包蔵地発掘調査費用負担契約書及び平成 18 年 8 月 9 日付け埋蔵文化財包蔵地発掘調査費用の負担に係る変更契約書を締結し、調査の準備を開始した。最終的な精算は、後に石油資源開発が負担することになったこともあり、平成 19 年 2 月 13 日付け埋蔵文化財包蔵地発掘調査費用の負担に係る変更契約書を締結した。

送ガス管移設工事 本工事は石油資源開発が、国道 403 号線バイパス建設工事及びほ場整備事業に伴う見附～二本木送ガス管と見附～下条川送ガス管を部分的に既設管を廃棄し、バイパスに沿う位置（J区・K区）に新設して、切替を行うものである。これにより、J区では用水パイプラインと送ガス管、K区では用水パイプライン、小排水路と送ガス管、送ガス管単独の工事区域が設定されることとなった。

本工事について市教委と協議が開始された時期は、工期も押し迫った平成 18 年 4 月であり、全く想定外の事であった。工事内容と『新潟県における発掘調査等の要否の判断基準』とを照合すると、場所により掘削幅が 1m 未満で、立会い調査で対応できるところもあったが、加茂市域のほとんどで新設管 2 本が並行して布設される計画で、掘削幅も 1.8～2.4m の規模であった。市教委は県教委の助言を頂きながら、なんとか立会い調査に出来ないか模索したが、本発掘調査を回避できる状況でないことは明らかであった。さらに、ガス管の布設箇所がほ場整備事業の用水パイプラインと隣接しており、ガス管と用水パイプラインの中間区域が判断基準で示されたところの狭小部に該当し、合わせて本調査対象区域になることが判明した。できるだけ本調査対象面積を減らすため、振興局、石油資源開発、双方にそれぞれの管の間隔を狭



第 2 図 調査区域按分平面・断面図

めることが可能か否か検討をお願いした。ガス管の移動はガス関連法の関係や管が特注品であることなどから不可能であったが、用水パイプラインの位置を若干変更することが可能であった。そして、両方の工事区域を同時に発掘調査する方向で準備を進めた。7月に市教委、振興局、ほ場整備施工業者、送ガス管移設工事業者で工程会議を行い、ほ場及びガス管移設工事予定に沿った調査工程を考えることとした。J・K区は9月から開始し、一部土の掘削工事をガス管移設工事業者が先に行うことなどが協議、確認された。

さて、増高した調査経費について、振興局と石油資源開発は協議し、送ガス管工事用地が土木管轄用地内であり、ほ場の用地内ではないことから、石油資源開発が負担することになった。その際、第2図のとおり、各自工事分はそれぞれの負担、狭小部は均等割りとする事で合意した。よって、調査終了後に実測面積で両者の責任面積を算出し、全体面積から割合を求め、それぞれの経費負担率とすることとし、報告書刊行までの整理作業期間についても、それぞれと年度毎に契約し、負担率に基づいて、精算払いとすることとした。これらの合意内容を基に振興局、石油資源開発、加茂市の三者は協定書を締結した。当初計画時点では負担区分が平成18年度振興局82.2% (2,612m²)、石油資源開発17.8% (566m²)、平成19・20年度振興局84.5% (3,090m²)、石油資源開発15.5% (566m²)の内容で平成18年10月25日付け馬越遺跡発掘調査に関する協定書、調査面積が確定した後の負担区分が平成18年度振興局88.1% (2,764m²)、石油資源開発11.9% (373m²)、平成19・20年度振興局89.7% (3,242m²)、石油資源開発10.3% (373m²)の内容で平成19年2月13日付け馬越遺跡発掘調査に関する変更協定書を締結した。平成18年度馬越遺跡発掘調査委託契約書は平成18年10月27日に締結した。さらに、整理作業についても当初平成20年度に完了させる見込みであったが、平成21年度末までの延長をご理解頂き、調査費の増額と合わせた内容で平成20年2月4日付け馬越遺跡発掘調査に関する変更協定書を再度締結した。

なお、文書事務などについては以下のとおりである。文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出については平成18年9月29日付けにて、県教育委員会教育長宛に行われた。県教委からは平成18年10月20日付け教文第904号にて発掘調査実施の通知文が出された。

複数年度にまたがる一連の発掘調査事業に対して格別なるご理解とご配慮を賜った新潟県及び振興局、そして石油資源開発に対し、厚く御礼申し上げる次第である。

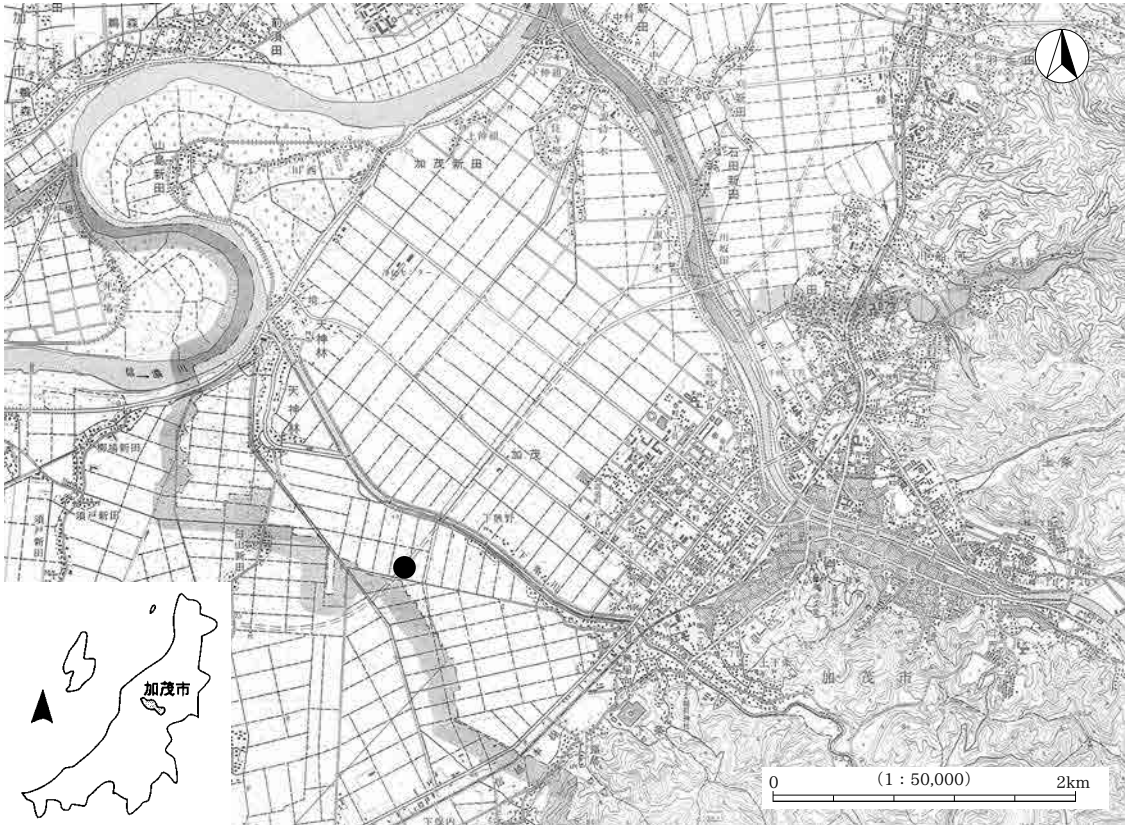
第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

1 馬越遺跡の地理的環境 (第3～5図)

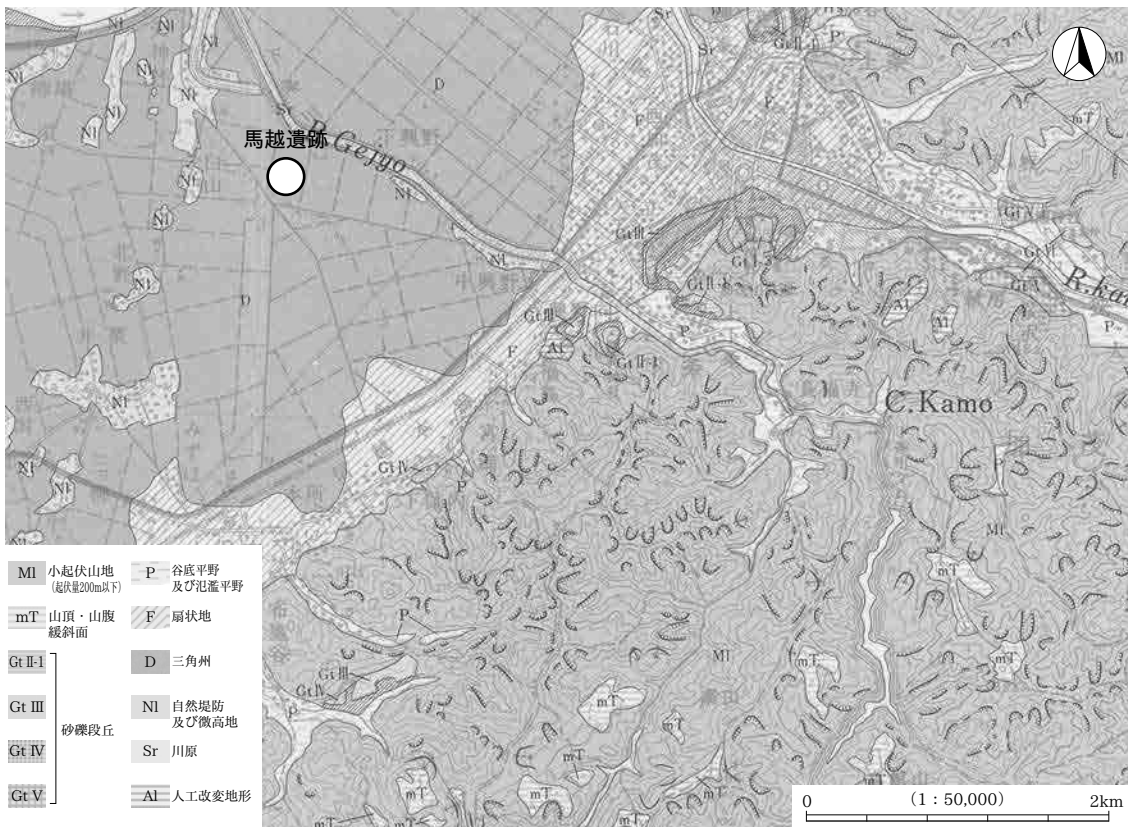
加茂市の市域は、東西に細長い形状で、東西方向約 17.08km、南北方向約 7.76km で面積約 133.68km² を測る。新潟県のほぼ中央部に位置し、中越地方に属する。県庁所在地である新潟市まで北方面に約 30km、長岡市までが南西方面約 40km 程の距離である。周辺自治体では合併が進み、北西部で新潟市（旧白根市）、北部で田上町、北東部で五泉市（旧村松町）、西～南部で三条市（旧三条市、旧下田村）と市域を接する。加茂町は昭和 29 年 3 月、下条村を合併し、市制を施行した。同年 11 月に七谷村、30 年 11 月に須田村を合併し、概ね現在の加茂市の姿が形成された。現在の加茂市の人口は約 31,600 人を数える。加茂川上流部から七谷、加茂、下条、須田の 4 地区に区分けされ、地区別面積比率はそれぞれ、七谷が 60.6%、加茂が 20.9%、下条が 12.8%、須田が 5.7% である。加茂市の気象概況は平成 16～20 年の 3 カ年の各平均で気温 12.9～13.9℃、降水量 1,853.0～2,281.5mm、降雪量 72～493cm である [加茂市 2009]。特産品として、往時は全国生産量の約 7 割を占めた「加茂桐箆笥」は、昭和 51 年には通商産業大臣より伝統工芸品の指定を受けている。

加茂市は古くから清流加茂川が三方を山野に囲まれた風光明媚な景観を育み、市街地を縦貫して信濃川に注ぐ様や京都賀茂別雷神社と賀茂御祖神社の分霊が賀茂神社の神領として遷祀されていることなどに由来し、「北越の小京都」と呼ばれる。市域最南東部に位置する標高約 1,293 m を測る粟ヶ岳（県立自然公園）を水源とする加茂川は市域を東西に二分する形で縦貫し流れる。上流部の七谷地区で小俣川（延長約 1.3km）・小乙川（延長約 2.0km）・高柳川（延長約 3.5km）・大谷川（延長約 3.4km）・西山川（延長約 4.6km）などの支流を合し、谷底平野と市街地を縦貫し、流域延長約 17.7km で市域北西部に位置する信濃川に注ぐ。地勢はほとんどが山地、丘陵で占められる。東部地区に粟ヶ岳、権の神岳（標高約 1,122m）、堂の窪山（標高約 1,088m）、白山（標高約 1,012m）などの標高 1,000 m 級の山地がそびえ立ち、緩やかに高度を下げながら、七谷地区において山間地が展開する。加茂川流域及び支流沿いには小規模ながら段丘地形が形成され、旧石器時代～縄文時代の遺跡が多数確認されている。七谷地区を抜けた市域中央部付近の丘陵は新潟平野南東部の東山丘陵の一角を占め、加茂川がこの東山丘陵を抜け出る周辺に小規模ながら展開する扇状地形に現在の市街地が重なる。その北西部、信濃川に向かい低平な沖積地が展開する。加茂川とほぼ平行するように流れる信濃川支流の下条川は、高館山背後の沢から源を発し、丘陵地を開析し、全長約 10.6km で大字天神林地内において信濃川に注ぐ。古くは加茂川と合流していたとされるが、現在の両河川間の距離は約 1.5～3.0 km 程を測る。下条川による扇状地形は未発達で、両岸の自然堤防地形も比較的未発達である。馬越遺跡は下条川左岸域の沖積低地部、加茂市大字下条字馬越地内に広く展開する。東山丘陵部から北西方向に約 2km 離れた、現況水田地帯に立地し、現地表面の標高は約 6～7m、遺構確認面が標高約 5.0～5.5m となる。

珪藻化石分析からは、平安時代の遺物包含層は止水性種、好汚濁性種などが多産することなどから、遺構は洪水の影響を受けた後に構築され、その後水位が上昇して潟湖となり、遺構が埋没したと推測されている。また、花粉分析からの考察では、ハンノキ属の花粉化石が特徴的であることから遺跡周辺は湿地林

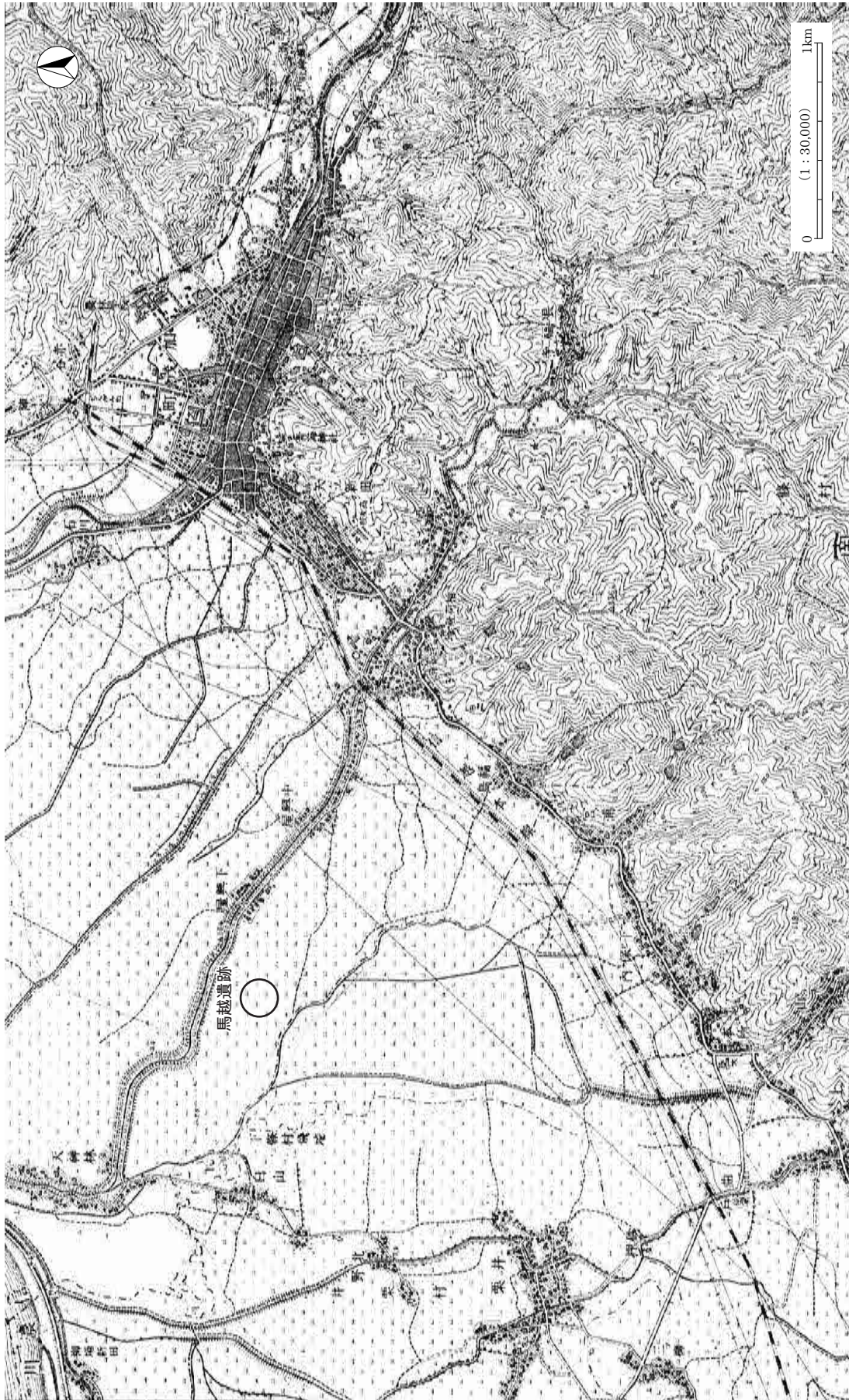


第3図 馬越遺跡の位置図 (S = 1:50,000)
 (国土地理院 平成8年発行「加茂市全図」 1:25,000原図)



第4図 馬越遺跡周辺の地形分類図 (S = 1:50,000)
 (新潟県『土地分類基本調査 加茂』1984年 1:50,000原図)

1 馬越遺跡の地理的環境



第5図 馬越遺跡周辺の旧地形図 (S = 1:30,000)
(大日本帝国陸地測量部 昭和8年発行「明治44年測図 昭和6年要部修正測図 加茂」 1:25,000原図)

を形成していたとされる。

2 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡 (第6・7図)

馬越遺跡は古墳時代中期からの活動痕跡が確認され、奈良・平安時代を主体時期とした遺跡である。その後、層位を異にして中世の集落が営まれる。旧石器時代～中世の加茂市内及び周辺の遺跡分布については、『馬越遺跡Ⅱ』で詳しく記したので、ここではできるだけ重複を避け、馬越遺跡周辺の古墳時代～古代を中心とした遺跡の分布について概観したい。第6図には本遺跡周辺の古墳～奈良・平安時代遺跡分布を示す。地形的には西部を信濃川中～下流域に区切られ、東部に向かい沖積地と扇状地、東山丘陵縁辺の緩傾斜地、東山丘陵と推移する。行政区域では加茂市と三条市の一部が該当している。

古墳時代の遺跡 古墳時代前期になると沖積低地部に多くの集落遺跡が確認され、積極的に開発を進めた様相が窺える。丘陵部から1～2km程離れ、加茂川と下条川に囲まれた区域と下条川左岸で三条市の現集落域の後背湿地部に集中する。古墳前期の調査事例としては、土器溜まり、土坑などが検出された釜淵遺跡(15)、根絡み構造の柱根を持つ特殊な建物跡と土器や木製品が多量に廃棄された旧河道が検出され、祭祀に関連した遺跡と考えられる丸瀉遺跡(8)[伊藤・平岡ほか2000]、灌漑水路が検出された新通遺跡(10)、集落の中心的な施設である周溝を持つ平地式住居などが約30cmの間層をはさみ3面(上面・中面・下面)で検出されるなど、集落の中心部が調査された吉津川遺跡(39)[田村2004]がある。この他に前期の土器が出土、採集された遺跡は、石川遺跡(5)[伊藤1996]、馬寄遺跡(6)[伊藤1997]、鬼倉遺跡(14)[伊藤2001b]、中沢遺跡(16)[伊藤2000b・2005b]、荒又遺跡(27)[伊藤2008a]、川東遺跡(38)[三条市歴史民俗産業資料館2005]、石川遺跡(51)[中島1981a]、水戸川遺跡(60)[渡邊2006]などがある。古墳中期の調査事例は馬越遺跡(25)[伊藤2005b・本書]、平地式住居の存在が推測される谷内遺跡(44)[三条市歴史民俗産業資料館2004]、藤ノ木遺跡(46)[三条市歴史民俗産業資料館2004]がある。他に中期の土器が出土、採集された遺跡は鬼倉遺跡、中沢遺跡、新田川遺跡(36)[中島1981b]などである。古墳後期では千刈遺跡(3)[中島・駒形・八百枝1973]、釜淵遺跡から多量に土器が出土している。他に後期の土器が出土、採集された遺跡は馬越遺跡、白山B遺跡(35)[中島1981b]などがある。

このように、馬越遺跡周辺域の沖積地においては、古墳時代前期集落の密集地帯であり、早くから開発が進められた地域であることが理解される。また、これまで、古墳中期の様相は明確でなかったが、近年は資料が増加し、土器、集落変遷が追える可能性がある。馬越遺跡、谷内遺跡、藤ノ木遺跡は前期集落とは重ならず、新規に成立し、短期に廃絶、移動した集落であった可能性が高い。前期～中期にかけて盛行した下条川左岸地域であるが、後期になると確認された遺跡は極めて少ない状況となる。

これら集落遺跡を母体として構築されたと見られる古墳が丘陵上に確認されている。加茂市の下条地区の丘陵上に福島古墳群(32)と宮ノ浦古墳(通称熊野山)(33)が確認されており[関1986・伊藤2003]、平成15～16年に測量と確認調査が行なわれた。ともに眺望に優れた場所を選地し、眼下に沖積地を見下ろす。福島古墳群は5基(1号～5号)からなる。宮ノ浦古墳は福島古墳群と谷ひとつ隔てた丘陵最高所に単独で立地する。確認調査では弥生後期の土器が出土しており、古墳構築前にいわゆる高地性集落が営まれた可能性を示唆する。いずれも10～20m前後の円墳である。立地環境や形態から前期古墳と考えられる。宮ノ浦古墳から南東方向約1.8kmの丘陵上には保内三王山古墳群(61)[甘粕・荒木ほか1989]が立地する。古墳群は17基で構成され、4号墳(前方後方墳)→11号墳(造出付円墳)→1号墳(前

2 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡



第6図 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡分布図 (S = 1:30,000)
(国土地理院 平成2年発行 (加茂) 1:25,000 原図)

方後円墳)が前期古墳で、5号墳(円墳)→12号墳(方墳)が後期の構築と考えられている。前期古墳の盛行は平野部の集落の密度からも首肯されるが、後期古墳に対応する集落の確認が今後の課題となる。

古代の遺跡 集落遺跡は、田上町～三条市にかけての沖積地内において、微高地や自然堤防上を中心に多数の遺跡が確認されている。加茂川流域沿いでは市街地から約4km上流部までは少数の古代の遺跡が確認されるが、より上流部の七谷地区では全く確認されていない[伊藤2000a]。全体的に7～8世紀前半頃の様相は不明で、8世紀後半～9世紀頃からの遺跡数が多くなる。明確に7世紀代の土器が出土した遺跡は、かえりを持つ須恵器杯蓋が採集されている井栗乙郷遺跡(55)[中島1981b]があるに過ぎない。

加茂川と下条川に挟まれた区域では、鬼倉遺跡(14)と中沢遺跡(16)が発掘調査されている。鬼倉遺跡は、加茂市における古代遺跡調査の初例である。平成9年に国道403号線バイパス工事に伴い発掘調査が行われ、堰状遺構を伴う河川跡を中心に掘立柱建物跡4棟、土坑などが検出された。特筆される遺物は、和同開珎・神功開寶・土製獣脚・石帯・漆付着土器や「古安人」・「秦女」・「是人」などの人名、「千」を含む約120点程の文字資料である。「是人」は馬越遺跡と共通する墨書である。9世紀前半を中心とし、平野の開発を主導した有力者が関与した新興の集落遺跡と考えられる[伊藤2001b・2002]。中沢遺跡では道路建設や民間開発に関係し、平成11～13年に発掘調査が行われている。8世紀後半～9世紀前半を中心とし、柱掘り方が方形を呈する大型の掘立柱建物跡、井戸が確認されている。「吉永」、「他田」などと記された墨書土器、漆付着土器が数点出土している[伊藤2005b・2008b]。鬼倉遺跡との距離は約1kmであり、ともに下条川右岸で河川に近い場所に立地する。この他では、確認調査であるが、馬寄遺跡(6)から詳細不明ながら付札木簡1点が出土している[伊藤1997]。現在の青海神社境内地内に所在する青海神社遺跡(18)からは、12世紀頃の柱状高台皿などが出土している[坂井1994・伊藤2001d]。

下条川左岸～三条市域にかけても多数の遺跡が確認されている。平成19年には場整備事業に伴い荒又遺跡(27)、太田遺跡(28)が発掘調査され、後者からは「良カ」と記された墨書土器や炭化米、ガラ

| 番号 | 遺跡名 | 市町村 | 時代 | 備考 | 番号 | 遺跡名 | 市町村 | 時代 | 備考 |
|----|----------|-----|----------|----------------|----|----------|---------|-------|-----------------|
| 1 | 千刈北遺跡 | 加茂市 | 縄文・奈良・平安 | | 32 | 福島古墳群 | 加茂市 | 古墳 | |
| 2 | 陣ヶ峰遺跡 | 加茂市 | 縄文・奈良・平安 | | 33 | 宮ノ浦古墳 | 加茂市・三条市 | 古墳 | |
| 3 | 千刈遺跡 | 加茂市 | 古墳～中世 | | 34 | 白山A遺跡 | 三条市 | 古墳～中世 | |
| 4 | 舞台遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 35 | 白山B遺跡 | 三条市 | 古墳～中世 | 灰釉陶器、墨書土器 |
| 5 | 石川遺跡 | 加茂市 | 古墳～中世 | | 36 | 新田川遺跡 | 三条市 | 古墳・古代 | 漆紗冠 |
| 6 | 馬寄遺跡 | 加茂市 | 古墳・古代 | 付札木簡 | 37 | 府敬遺跡 | 三条市 | 古墳・古代 | |
| 7 | 舟戸遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 38 | 川東遺跡 | 三条市 | 古墳～中世 | |
| 8 | 丸瀧遺跡 | 加茂市 | 古墳・古代 | | 39 | 吉津川遺跡 | 三条市 | 古墳・平安 | 緑緑陶器、墨書土器 |
| 9 | 五反田遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 40 | 安曲遺跡 | 三条市 | 平安 | 木棺墓、墨書土器 |
| 10 | 新通遺跡 | 加茂市 | 古墳・古代 | | 41 | 六反田遺跡 | 三条市 | 平安 | |
| 11 | 八反田遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 42 | 中谷内遺跡 | 三条市 | 平安 | |
| 12 | 堀割遺跡 | 加茂市 | 古代 | | 43 | 反田遺跡 | 三条市 | 平安・中世 | |
| 13 | 稲荷面遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 44 | 谷内遺跡 | 三条市 | 古墳～中世 | |
| 14 | 鬼倉遺跡 | 加茂市 | 古墳・古代 | 墨書土器、石帯、銭貨 | 45 | 割前遺跡 | 三条市 | 古墳～中世 | |
| 15 | 釜淵遺跡 | 加茂市 | 古墳～中世 | | 46 | 藤ノ木遺跡 | 三条市 | 平安・中世 | 倉跡(後地業) |
| 16 | 中沢遺跡 | 加茂市 | 弥生～近世 | 大型建物、墨書土器 | 47 | 水久保遺跡 | 三条市 | 平安 | |
| 17 | 宮山貴船神社遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 48 | 割町遺跡 | 三条市 | 弥生～平安 | |
| 18 | 青海神社遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | 柱状高台皿 | 49 | 来迎寺遺跡 | 三条市 | 平安・中世 | 墨書土器 |
| 19 | 尼寺遺跡 | 加茂市 | 縄文・古代・中世 | | 50 | 坪ノ尾遺跡 | 三条市 | 平安 | 緑緑、灰釉陶器、墨書土器 |
| 20 | 天神口遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 51 | 石川遺跡 | 三条市 | 弥生～中世 | |
| 21 | 長福寺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 52 | 石田遺跡 | 三条市 | 平安 | |
| 22 | 稲荷浦遺跡 | 加茂市 | 古代 | | 53 | 梅田遺跡 | 三条市 | 平安 | |
| 23 | 横土居遺跡 | 加茂市 | 古代 | | 54 | 五郎田遺跡 | 三条市 | 平安 | |
| 24 | 西吉津川遺跡 | 加茂市 | 古代・中世 | | 55 | 井栗乙郷遺跡 | 三条市 | 奈良 | |
| 25 | 馬越遺跡 | 加茂市 | 古墳～中世 | 本書 | 56 | 第四中学校脇遺跡 | 三条市 | 古墳～中世 | |
| 26 | 新堀遺跡 | 加茂市 | 古代 | | 57 | ヨモギ田遺跡 | 三条市 | 平安 | |
| 27 | 荒又遺跡 | 加茂市 | 古墳・古代 | | 58 | 道田遺跡 | 三条市 | 平安・中世 | |
| 28 | 太田遺跡 | 加茂市 | 平安 | 炭化米、ガラス丸玉、墨書土器 | 59 | 合屋遺跡 | 三条市 | 平安 | 緑緑、灰釉陶器、墨書土器、石帯 |
| 29 | 山通遺跡 | 加茂市 | 古代 | | 60 | 水戸川遺跡 | 三条市 | 古墳 | |
| 30 | 花立遺跡 | 加茂市 | 縄文・古代 | | 61 | 保内三王山古墳群 | 三条市 | 古墳 | |
| 31 | 福島甲遺跡 | 加茂市 | 縄文・古代 | | | | | | |

第2表 馬越遺跡周辺の古墳時代～古代遺跡一覧表

ス丸玉 1 点などが出土している [伊藤 2005b・2008a]。馬越遺跡との距離は約 1km である。吉津川遺跡 (39) 周辺地からも鬼倉遺跡に見られたような墨書土器が出土している [伊藤 2001a]。三条市域では、加茂市に近い区域で古代の遺跡発掘調査が進展している。白山 B 遺跡 (35) は平成 15 年には場整備事業に伴い発掘調査が行われ、9 世紀中～後半を主体とした集落跡で掘立柱建物跡 2 棟、井戸などが確認された。出土遺物では灰釉陶器、「釜田」と記された墨書土器が注目される [田中^{ほか} 2006]。新田川遺跡 (36) は平成 14 年に国道 403 号線バイパス工事に伴い発掘調査され、奈良時代の三方を溝で囲まれた掘立柱建物跡、井戸、畝状遺構などが同時期でひとつの宅地の景観として良好な状態で確認された。高貴な人物の存在を伺わせる漆紗冠が出土している [三条市歴史民俗産業資料館 2007]。馬越遺跡 IV 区及び「三宅」墨書土器出土地点に隣接しており、その関連性が極めて注目される。吉津川遺跡 (39) は過去に、緑釉陶器の出土が報告されていた [中島 1981b] が、平成 13～15 年に発掘調査され、3 間×5 間の大型掘立柱建物跡や井戸、畑跡など平安時代の集落が確認されている。「井」墨書土器や漆付着土器が出土している [三条市歴史民俗産業資料館 2007]。安曲遺跡 (40) は荒又遺跡と同一の遺跡と考えられるが、木棺墓 1 基が検出されている [三条市歴史民俗産業資料館 2007]。良好に遺存し、木製柩の大きさが長さ約 185cm、幅約 45cm、深さ約 30cm、板の厚さは約 2cm とされる。馬越遺跡で確認された木棺墓の規模に近似する点は注目される。藤ノ木遺跡 (46) は、平成 15 年調査区域から、古代の 3 間×3 間、方 6.3m 前後の正方形の総柱建物跡が 1 棟検出された。40cm 前後の太い柱を用いて、筏地業と呼ばれる部材を組み合わせた沈下防止策が施され、倉跡と考えられている [田村 2004]。来迎寺遺跡 (49) は、平成 8・9 年に発掘調査が行われ、9 世紀後半頃の一般農村集落跡と見られている。「山」、「陶」などの墨書土器が出土している [金子・田村 1997、金子 1998]。坪ノ尾遺跡 (50) は、平成 9 年に発掘調査され、灰釉・緑釉陶器を含む 10 世紀前半頃の有力者の集落跡と考えられている [金子・田村^{ほか} 2000]。合屋遺跡 (59) からは、礎板を持つ大型の掘立柱建物跡が検出され、有力者の存在が推測されている。石帯や緑釉陶器が出土している [金子・田村^{ほか} 2000]。以上、馬越遺跡を中心として見れば、調査された遺跡は田上町域を除き、ほとんどが 1～2km 圏内に収まり、多彩な遺跡が調査されている。古代の遺跡が密集する状況は、近接したエリアに複数の郷比定地を有する本地域の特徴と調和的である。しかしながら、馬越遺跡と新田川遺跡の一部は同一遺跡として把握できる可能性が高いことから、単純に現市町村境で青海郷と井栗郷の郷域の線引きは出来ない。地形的にも明確な区分は不可能で、郷域が入り組んだ状況も想定される。また、田上町域においては、奈良時代の集落跡が確認され、「酒人」、「鳥村」などの墨書土器が出土した向田遺跡 [栢森 1997]、木簡が出土した大坪遺跡 [田畑 1997]、平面積約 220m² 以上の掘立柱建物跡が検出された道下遺跡 [田畑 1994] が注目される。特に道下遺跡は 10 世紀前半の良好な土師器食膳具や小型の硯、「王」墨書土器などが出土し、加茂川右岸地域の富豪層の存在が推測される。丘陵部には、須恵器短頸壺に約 150 枚以上と推定される和同開珎が入られた茗ヶ谷遺跡が存在し、相当な在地有力者が存在したことが窺える。なお、須恵器窯跡は加茂、三条近辺には今のところ未確認であり、8 世紀には新津丘陵窯跡群から、9 世紀に入り佐渡小泊窯跡 [川村^{ほか} 2005] から供給されたことが知られる。

古代蒲原郡青海郷 加茂市域は 10 世紀に成立した『和名類聚抄』に見える古代蒲原郡に設置された「日置・桜井・勇礼・青海・小伏」の 5 郷のうち、「青海郷」の有力な比定地とされていることは周知の事実である。平成 2 年、長岡市 (旧三島郡和島村) 八幡林官衙遺跡 A 地区出土の第 1 号木簡に記された「青海郷ノ事高志君大虫」は加茂市近辺に居住した人物と推測される。八幡林官衙遺跡は、馬越遺跡周辺から南西方向約 25km の距離に位置する (第 7 図)。

加茂市域を「青海郷」とする根拠は大きくは二つある。ひとつは『吾妻鏡』文治2（1186）年3月12日条にみえる蒲原郡の荘園の中で、高松院御領として、12世紀半ばの鳥羽院政期に成立したと考えられる「青海荘」が「青海郷」の郷名を継承したと考えられることである〔田村 1993 ほか〕。「青海荘」は文和4（1355）年4月29日条「羽黒義成軍忠状」に「青海荘賀茂口於陣峰」と記され、現在の加茂川右岸、田上町近くの陣ヶ峰の字名にあてられている。また、15世紀末頃とやや時代の下る資料である「蒲原郡段銭帳」に、青海荘内の地名として、「上条・井栗条・坂田条・下条・河骨川条・蓑口条・山之内条・小吉之条」などが見え、加茂市を中心に、田上町、旧白根市、三条市、旧中之口村の一部が荘域と推測されている。「青海荘」の荘域＝「青海郷」の郷域とはならないとしても、「青海郷」を加茂に比定する有力な根拠とされている。もうひとつは、『延喜式神明帳』に記載された青海神社の存在である。青海神社は青海首一族が、神亀3（726）年に祖神椎根津彦命と大国魂命を祭り創建されたと伝わる。青海が郷名及び荘名と一致することから有力な根拠となっている。ちなみに、「勇礼郷」は三条市井栗地区、「小伏郷」は三条市上保内地区に比定する考えがあり、三条市～加茂市近辺にかけて蒲原郡5郷のうち3郷が近接して設けられていた可能性がある。延喜式内社も青海神社の他に伊久礼神社、小布施神社が現存する神社にそれぞれ比定される見解がある。

金子拓男氏はこれらの郷域について、遺跡分布や地理的条件、郷の記載順序などから推定した〔金子 1983〕。それによれば、青海郷域は信濃川以東の加茂・田上地区、新津周辺、能代川左岸地域であるという。この方法論は木村宗文氏にも採用され、特に古墳の存在に注目されている〔木村 1988〕。その後も木村氏は、遺跡から高志君大虫の居住域についても田上町茗ヶ谷から加茂山付近に想定された〔木村 1991〕。しかし、近年、遺跡分布状況も変化し、遺跡の内容も各地区でかなり蓄積されつつあることから、郷について、再検討の時期に来ているように思われる。いずれにしろ古代の遺跡が密集する区域であることから、集落数が多く、人口密度が高いことは間違いないところであろう。金子氏、木村氏の遺跡の分布から郷を考える方法論を念頭に馬越遺跡周辺域の古代遺跡について考える必要がある。

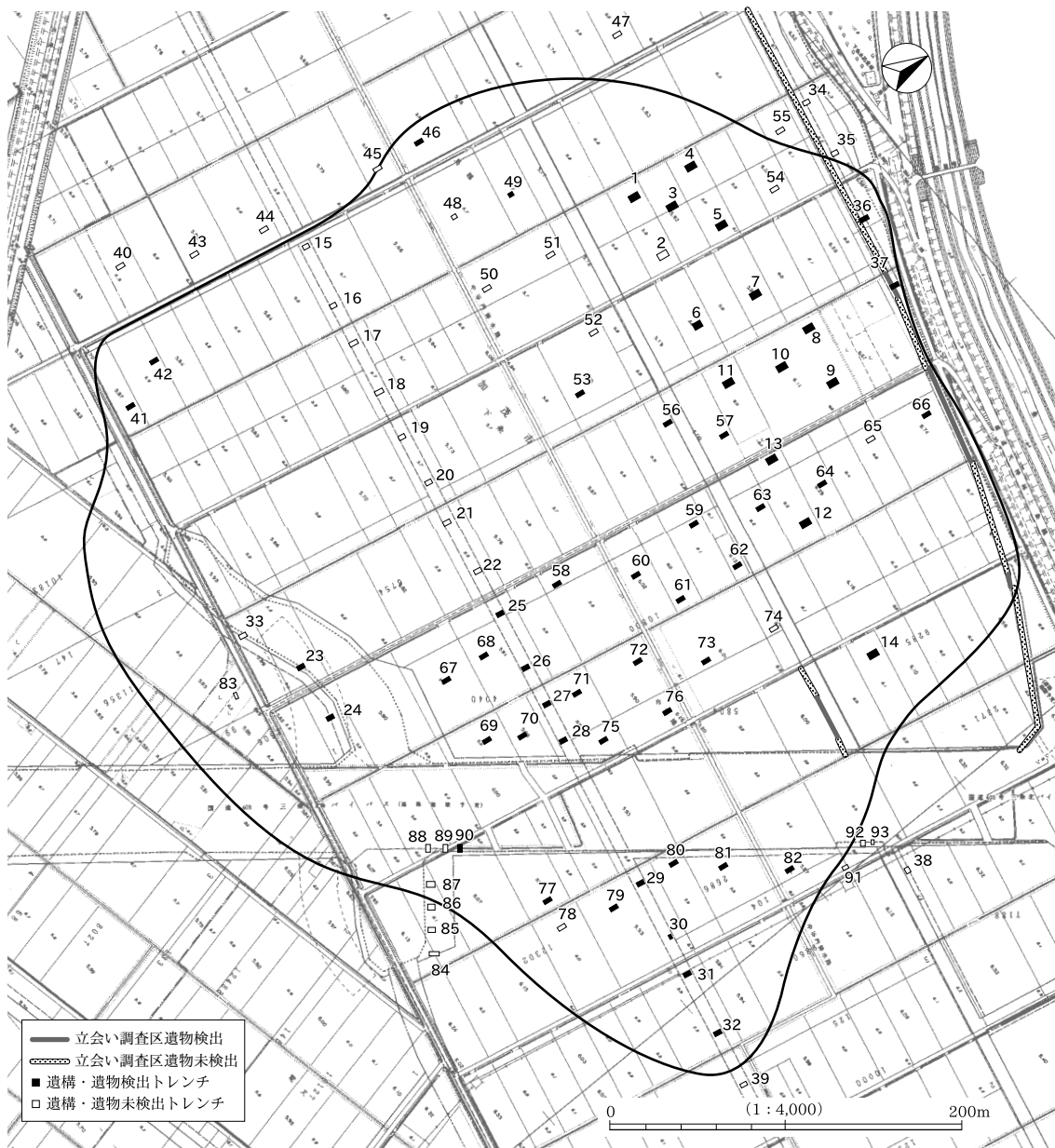


第7図 馬越遺跡と八幡林官衙遺跡位置図 (S = 1:300,000)
 (国土地理院 平成8年発行【新潟】・長岡 1:200,000 原図)

第三章 発掘調査の概要

1 確認調査の概要 (第8図)

吉津川地区は場整備事業に係る確認調査は、事業計画との関係から、平成10年、12年、15年の3次にわたり行われた。平成10年の調査は、工業団地造成予定地を対象にし、14トレンチ(1~14)、約70m²が調査され、ほぼ全域から古代の遺構、遺物が確認され、一部中世の遺物も出土した。遺物の中では墨書土器2点、灰釉陶器1点が注目される[伊藤1999]。今回報告のB区と近接した区域である。平成12年には、排水路部分を対象とし、25トレンチ(15~39)、約180m²が調査された。今回報告のC



第8図 馬越遺跡確認調査トレンチ及び立会い調査区位置図 (S = 1 : 4,000)
[伊藤1999・2001a・2005bから転載・加筆して合成]

区、D区、I区、立会い調査区が相当する。古代～中世の遺構、遺物が確認され、C区においては中世、古代と2面の調査が必要であることが判明した[伊藤2001a]。平成15年には面整備工事区域を対象にし、43トレンチ(40～82)、約309m²が調査された。古墳時代中期、古代、中世と幅広い時期の遺構、遺物が確認され、馬越遺跡の拡がりとは多彩な内容が明らかとなった。「大」、「若」墨書土器や漆付着土器、武蔵型甕など貴重な遺物が出土した[伊藤2005b]。そして、この調査成果や周辺部の状況などから、A区、E区、F区、G区、H区、J区、K区の本調査実施の判断を下した。

なお、83～93の11トレンチ約106m²(本調査面積に含まれている)は、平成18年度に本調査範囲を限定するために、本調査と並行して行ったものである。J区の90トレンチから中世の漆器が出土した。また、排水路延長約450m間・パイプライン延長50m間について、平成18年4月上旬と8月下旬を中心に工事立会いを行い、多くの遺物が出土した。

2 発掘調査方法とグリッドの設定(第9図、第3・4表)

確認調査の結果や周辺部の調査状況も参考とし、A～K区の本調査区を設定した。年次別工事計画との調整を図り、平成17年度にA区・B区・C区、平成18年度にD区・E区・F区・G区・H区・I区・J区・K区を対象とし、2カ年度をかけて実施した。第1章にも記したが、C区下層面の一部が17年度

調査から18年度調査に変更になった。各区を合計した調査面積は、上端面積約3,615m²、下端面積約2,364m²である。

表土剥ぎ 遺物の出土に注意を払いながら、0.25～0.4m³のバックホーにて遺物包含層上面まで掘削

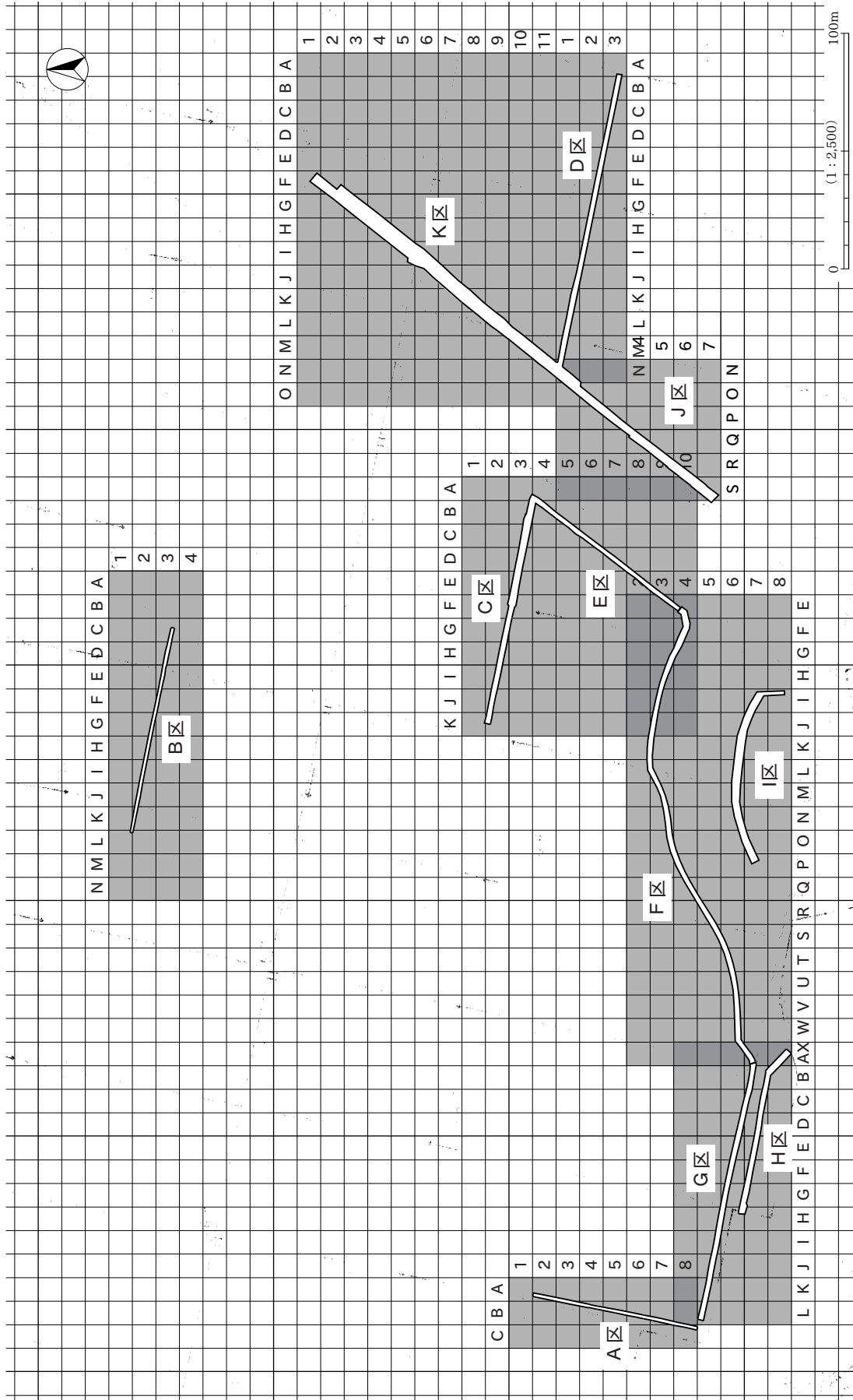
| 区 | 層 | 調査面積(m ²) | | 主な時代 | 出土遺物(箱) | | 調査年度 |
|--------|---------|-----------------------|-------|---------|---------|-------|--------|
| | | 上端面積 | 下端面積 | | 土器 | 木製品など | |
| A | | 107 | 92 | 古墳中期 | 3 | 1 | 平成17年度 |
| B | | 124 | 107 | 平安 | 7 | 2 | |
| C | 2005年上層 | 111 | 94 | 中世 | 1 | 5 | |
| | 2005年下層 | 136 | 104 | 平安 | 7 | 1 | |
| | 2006年下層 | 159 | 77 | 平安 | 1 | 3 | |
| D | | 290 | 153 | 平安 | 4 | 2 | 平成18年度 |
| E | 上層 | 51 | 39 | 中世 | 0 | 0 | |
| | 下層 | 167 | 78 | 平安 | 7 | 1 | |
| F | | 495 | 287 | 奈良～中世 | 2 | 2 | |
| G | | 264 | 160 | 古墳中期・奈良 | 1 | 1 | |
| H | | 187 | 104 | 古墳中期・奈良 | 2 | 1 | |
| I | | 287 | 172 | 奈良 | 2 | 5 | |
| J | | 419 | 302 | 奈良・平安 | 6 | 7 | |
| K | | 818 | 595 | 奈良・平安 | 7 | 8 | |
| 立会い調査区 | | | | 平安 | 7 | 1 | |
| 合計 | | 3,615 | 2,364 | | 57 | 40 | |

第3表 調査区の概要

を行う。掘削土はそれぞれ点圧しながら固めて、横置きとした。各調査区の進捗状況を見ながら、適宜先行して次の調査区へ入った。17年度、18年度ともに重機2台で進めた。重機の先には民間調査員及び調査補助員2ないし3名を配置し、包含層出土遺物について小破片については、出土地点を配慮しながら、ビニール袋につめた後その場におき、概ね地山面直上まで掘削を行った。これらの遺物についてはグリッド杭打設後、小グリッド単位で取り上げた。ただし、遺物が密集した地点や完形に近いもの、特殊遺物などについてはトータルステーションにより出土地点を記録し、取り上げた。その際、何点かの遺物については出土状況写真を撮影した。表土剥ぎと並行し、調査区の湛水を防ぐためそれぞれの調査区の周囲に、ホソを使い人力にて幅約20cm前後、深さ約20cmの土側溝を掘削した。隅部に集水枡を設け、2吋の電動ポンプで24時間の強制排水を行った。なお、調査区は幅が狭く、深度も1mを超えるところも多く、安全勾配を取りにくい状況から、各区、特にA区、B区にて壁面の崩落が顕著であった。その際には適宜、両側壁面に簡易の合板を短管で止める形で処置した。

遺構確認と遺構発掘 表土剥ぎ終了後、人力にてミニジョレンを主に用いて精査を繰り返す。遺構の平面プランの確認を行った。確認した土坑やピットなどはすべて半截、溝は数カ所に土層観察のための畔を

2 発掘調査方法とグリッドの設定



第9図 馬越遺跡グリッド設定図 (S=1:2,500)
 (加茂市 平成4年修正「加茂市街図その11」 S=1:2,500原図)

のこして、覆土の観察と断面実測を行ってから完掘した。排土については、調査区の狭さと深さのため、1 人手間では容易に上に搬出できないことから、適宜作業員を配置し、バケツなどで土をリレー方式で排出した。また、遺構内から良好な形で出土した遺物については平面位置を記録した後に、取り上げた。なお、遺構番号は平成 17 年度については、種別毎に各区で通し番号を付けた。種別については整理・報告の段階で変更したものがあ。平成 18 年度については、各区毎に、種別関係なくすべて連続する通し番号を付した。

実測・写真 遺構断面図及び基本土層柱状図は 1 / 10・1 / 20、遺跡全体図及び遺構平面図は調査支援会社に委託し、簡易遣り方及びトータルステーションにより作成した。遺構詳細図を 1 / 10 で作成したのもある。なお、遺構番号メモなどのため、遺構配置模式図を適宜作成した。調査状況、遺物出土状況、遺構断面、遺構完掘写真撮影は適宜行った。カメラは 35mm 版を用い、カラーネガとカラーリバーサルフィルムを必要に応じて併用した。全景写真については、6 × 7 判を適宜使用した。また、全景空中写真撮影はラジコンヘリコプターを使い、平成 17 年度に C 区 1 回、平成 18 年度に C 区、D 区、J・K 区各 1 回の合計 4 回撮影している。

グリッドの設定 各調査区域全域をカバーするように、国土地理院の第Ⅷ系座標軸を使用し、真北を基準に 10m 方眼を設定した。この 10m 方眼を大グリッドとし、北東隅の杭を基点とし、東から西にかけて大文字のアルファベット A～X、北から南にかけて算用数字の 1～5 などとした。両者を組み合わせ「A3」・「D5」と示し、大グリッドをさらに 2m 方眼の小グリッドを設定し、北東隅上から 1～25 に分割した。「A3 - 1」・「D5 - 25」などと呼んだ。レベルは基準点及び適宜各グリッド杭上にもとめ、実測作業に近い杭高を適宜利用した。基準杭、グリッド杭の打設は調査支援会社に委託した。各区の主なグリッド杭の X 座標、Y 座標、緯度、経度は第 4 表のとおりである。座標北は真北に対し、0 度 22 分 55 秒東偏し、磁北は真北に対し 7 度 50 分 00 秒西偏する。

| 調査区 | グリッド杭 | 座 標 | | 緯 度 | 経 度 | 調査年度 |
|-----|-------|------------|-----------|--------------------|---------------------|-------------|
| | | X 座標 | Y 座標 | | | |
| A | B4 | 184070.000 | 45730.000 | 37° 39' 27". 70916 | 139° 01' 05". 88258 | 平成 17 年度 |
| | C7 | 184040.000 | 45720.000 | 37° 39' 26". 73783 | 139° 01' 05". 46781 | |
| | C9 | 184020.000 | 45720.000 | 37° 39' 26". 08909 | 139° 01' 05". 46330 | |
| B | B4 | 184240.000 | 46030.000 | 37° 39' 33". 16953 | 139° 01' 18". 16135 | |
| | G3 | 184250.000 | 45980.000 | 37° 39' 33". 50292 | 139° 01' 16". 12355 | |
| | K2 | 184260.000 | 45940.000 | 37° 39' 33". 83450 | 139° 01' 14". 49375 | |
| C | C4 | 184090.000 | 46060.000 | 37° 39' 28". 29853 | 139° 01' 19". 35132 | 平成 17・18 年度 |
| | G3 | 184100.000 | 46020.000 | 37° 39' 28". 63012 | 139° 01' 17". 72156 | |
| | K2 | 184110.000 | 45980.000 | 37° 39' 28". 96171 | 139° 01' 16". 09180 | |
| D | D3 | 184060.000 | 46230.000 | 37° 39' 27". 29466 | 139° 01' 26". 28060 | 平成 18 年度 |
| | K2 | 184070.000 | 46160.000 | 37° 39' 27". 63171 | 139° 01' 23". 42684 | |
| | N1 | 184080.000 | 46130.000 | 37° 39' 27". 96151 | 139° 01' 22". 20510 | |
| E | C5 | 184080.000 | 46060.000 | 37° 39' 27". 97416 | 139° 01' 19". 34905 | |
| | D7 | 184060.000 | 46050.000 | 37° 39' 27". 32722 | 139° 01' 18". 93650 | |
| | F9 | 184040.000 | 46030.000 | 37° 39' 26". 68208 | 139° 01' 18". 11595 | |
| F | F4 | 184030.000 | 46020.000 | 37° 39' 26". 35952 | 139° 01' 17". 70568 | |
| | S5 | 184020.000 | 45890.000 | 37° 39' 26". 05856 | 139° 01' 12". 39936 | |
| | X7 | 184000.000 | 45840.000 | 37° 39' 25". 41881 | 139° 01' 10". 35483 | |
| G | B4 | 184000.000 | 45830.000 | 37° 39' 25". 42061 | 139° 01' 09". 94682 | |
| | G3 | 184010.000 | 45780.000 | 37° 39' 25". 75396 | 139° 01' 07". 90907 | |
| | L2 | 184020.000 | 45730.000 | 37° 39' 26". 08730 | 139° 01' 05". 87130 | |
| H | B5 | 183990.000 | 45830.000 | 37° 39' 25". 09623 | 139° 01' 09". 94456 | |
| | D5 | 183990.000 | 45810.000 | 37° 39' 25". 09982 | 139° 01' 09". 12856 | |
| | H4 | 184000.000 | 45770.000 | 37° 39' 25". 43138 | 139° 01' 07". 49881 | |
| I | J7 | 184000.000 | 45980.000 | 37° 39' 25". 39361 | 139° 01' 16". 06686 | |
| | L7 | 184000.000 | 45960.000 | 37° 39' 25". 39722 | 139° 01' 15". 25086 | |
| | P7 | 184000.000 | 45920.000 | 37° 39' 25". 40442 | 139° 01' 13". 61885 | |
| J | O1 | 184080.000 | 46120.000 | 37° 39' 27". 96332 | 139° 01' 21". 79709 | |
| | P3 | 184060.000 | 46110.000 | 37° 39' 27". 31638 | 139° 01' 21". 38454 | |
| | S7 | 184020.000 | 46080.000 | 37° 39' 26". 02431 | 139° 01' 20". 15143 | |
| K | G2 | 184180.000 | 46200.000 | 37° 39' 31". 19256 | 139° 01' 25". 08392 | |
| | J7 | 184130.000 | 46170.000 | 37° 39' 29". 57613 | 139° 01' 23". 84850 | |
| | N11 | 184090.000 | 46130.000 | 37° 39' 28". 28588 | 139° 01' 22". 20737 | |

第 4 表 各区の主なグリッド杭の座標一覧表

3 発掘調査・整理作業の経過

A 発掘調査の経過

本調査はほ場整備事業計画にあわせ、2カ年度に渡って行われた。基本的な調査体制は平成17年度が調査担当1名、副調査員1名、調査補助員1名、現場世話人2名、そして測量委託と合わせた発掘調査支援業務として調査担当1名、調査員1名、作業員（加茂市シルバー人材センター会員）は2班20名体制、平成18年度が調査担当1名、調査補助員3名、現場世話人2名、そして測量委託と合わせた発掘調査支援業務として調査担当2名、調査員2名、作業員（加茂市シルバー人材センター会員）は2班30名体制で行った。調査期間は平成17年度（A区・B区・C区上層・C区下層の一部）が平成17年9月29日～11月14日までで、実働日30日間、延べ作業員数371名、平成18年度（C区下層の一部・D区・E区・F区・G区・H区・I区・J区・K区）が平成18年8月7日～11月17日までで、実働日70日間、延べ作業員数1,237.5名であった。平成17年、18年合計で実働日100日間、延べ作業員数1,608.5名となる。以下、調査日誌を参照に各年度毎の作業経過などについて記す。

平成17年度調査（A区・B区・C区上層・C区下層の一部）

9月28日（水）～10月3日（月） 重機搬入、仮設トイレ設置、発電機搬入、現場事務所（仮設ハウス）設置と内装工事、器材収納庫設置、安全施設設置、器材搬入などの発掘調査事前準備を行う。

9月29日（木）・30日（金） A区表土剥ぎ。重機0.4m³級1台と0.25m³級1台で南～北部に向かう形で掘削する。散発的に古式土師器が出土し、遺構も溝が数条確認できる。なお、一部で壁面が崩落する危険が生じ、合板（短管止め）を設置した。

9月30日（金）～10月6日（木） B区表土剥ぎ。重機0.4m³級1台と0.25m³級1台で西～東部に向かう形で掘削する。当初の調査予定区域の中で、西端部延長約19m間、東端部延長約18m間は遺構、遺物ともに全く認められず、壁面崩落の危険性が高いことから、確認状況を写真撮影し、直後に埋め戻した。また、現表土下約50cmから古代の遺物が出土する層位があり、遺物を採集しながら、遺構確認面近くまでの掘削を行った。

10月5日（水） 本日より作業員20名投入する。シルバー局長挨拶、諸連絡の後、A区とB区に班別に分かれ作業を開始する。各区に休息用のパイプテント設置。

10月5日（水）～7日（金） A区下場周囲にホソで排水溝を設け、2個所に集水場を設け2吋の水中ポンプで常時強制排水を行った。なお、排水については発電機を電源としたが、天気及び作業状況を勘案し、時に24時間の強制排水も行った。遺構確認及び遺構発掘を行う。自然流路から多量の古式土師器を検出する。特に自然流路における遺物出土状況及び土層断面の確認に重点をおいて進める。

10月8日（土） A区グリッド杭の打設。

10月5日（水）～14日（金） B区下場周囲にホソで排水溝を設けながら、遺構確認を行う。全体的に壁面の崩落が著しく、合板による土留め工事を随時行う。確認した遺構から発掘を行う。遺物の取上げを平板測量にて行う。

10月11日（火） 本日より、発掘調査支援業者より調査担当及び調査員が配置される。

10月11日（火）～13日（木） A区自然流路における遺物出土状況写真撮影、土層断面実測及び遺物出土地点の測量と取り上げ作業を行う。トータルステーションによる全体平面図作成作業。12日（水）

加茂市文化財調査審議会委員 関 正平氏来跡。

10月12日(水) C区上層面表土剥ぎ。重機0.4m³級1台で東～西部に向かう形で掘削する。土坑(後に井戸と判明)、溝など確認する。

10月14日(金) A区遺構全体の清掃、水抜きとホワイトスプレーによるマーキングを行い、完掘写真撮影、基本土層の土壌サンプリングを行う。調査完了とし、器材を撤収する。

10月17日(月)～20日(木) B区、C区上層面遺構確認と発掘作業を行う。溝などが多く、土層断面は壁面で確認し、実測する。調査区域幅が狭く、遺構の切り合い関係の把握が難しい。20日(木)礎板を持つ柱根(SP4)の検出。完掘写真撮影を行う。18日(火) 若宮中学校先生1名、生徒2名来跡。C区上層面SP19から古銭出土。井戸から漆器や箸状木製品などが出土する。井戸の調査に手間がかかる。

10月18日(火)～20日(木) C区下層面表土剥ぎ。重機0.4m³級1台で西～東部に向かう形で掘削する。確認調査トレンチ部分が埋め戻しの川砂で崩落する危険性があり、軽量矢板を打設する。ホソで排水溝を設ける。黒色土から多量の遺物が出土する。

10月21日(金)～25日(火) B区遺構平面図の作成と補足調査。基本土層の土壌サンプリングを行う。調査完了とし、器材を撤収する。C区下層面一旦遺構確認を開始するも、掘り下げ不足が明確となり、再度重機により掘削を行う。24日(月) C区上層面前日からの降雨で、調査区が水没。排水作業に時間がかかる。

10月25日(火)～28日(金) C区上層面井戸を中心に調査を進める。遺物出土状況の写真撮影と平面図作成を併行させ、調査を行う。合わせて、細かいピットなどの確認作業を行う。25日(火) 全景の斜め写真の撮影。28日(金) SX1の底面でSE3が確認され、発掘する。「南」と読める木簡出土する。平面図の作成。

10月26日(水)～11月7日(月) C区下層面遺構確認と発掘作業を進める。南北方向に延びる畝状の溝が多数確認される。壁面にて土層断面の確認と実測作業を行う。遺構内の遺物出土位置を記録して取上げ。遺構確認の精査を繰り返し行う。断面及び平面図作成。C区上層面 再度、遺構精査と発掘。井戸の完掘を進める。31日(月) 雨で作業中止。1日(火) 関 正平氏来跡。

11月8日(火) C区 午前、遺構の清掃とホワイトスプレーによるマーキングを行い、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行う。午後から雨のため作業中止。

11月10日(木)～14日(月) C区上層面井戸の完掘写真撮影及び補足調査。平面図作成を行う。C区下層面各遺構の補足調査、排土からの遺物採集作業、平面図作成作業を行う。11日(金) SD18・22付近を再度重機により掘り下げ、下層の遺構の調査を行う。確認された溝と重複するものも含め、溝が10条確認される。発掘し、平面図を作成した。器材を撤収する。

平成18年度調査(C区下層の一部・D区・E区・F区・G区・H区・I区・J区・K区)

8月7日(月)～9日(水) C区下層及びD区の表土剥ぎ。それぞれ重機0.4m³級1台で、西～東部へ向かう形で掘削する。

8月8日(火)～10日(木) E区表土剥ぎ。上層にて中世の遺構面を確認する。

8月8日(火)～11日(金) 安全施設搬入、設置を行う。8月14日(月)～16日(水) お盆休み。

8月17日(木)～21日(月) 先行して作業員3名投入し、C区・D区の排水溝の掘削を行う。基準点、水準点設置作業。

8月22日(火) 本日より作業員28名投入する。シルバー局長挨拶、諸連絡の後、E区上層面から遺

3 発掘調査・整理作業の経過

構確認作業を開始する。休息用のパイプテント設営。

8月23日(水)～25日(金) C区下層面、E区上・下層面の遺構確認、遺構発掘作業を行う。24日(木) E区上層面SE15完掘、古銭(金8)出土。25日(金) C区下層面SE14から木簡(木1)出土。E区上層完掘、平面図作成。

8月28日(月)～31日(木) D区遺構確認、遺構発掘作業。E区上層面を重機にて掘削。29日(火) 加茂市教育研究会の先生方現場見学。30日(水) 雨で作業中止。

9月1日(金) 午前、C区下層面の空中写真撮影1。空撮後、0.25m³のバックホーにて河川跡を掘削し、遺物の回収を行う。県文化行政課尾崎高宏氏現地指導。郷土史家青山誠八氏来跡。

9月1日(金)～2日(土) C区下層面の平面図作成。

9月2日(土) J区4トレンチの確認調査を行い、本調査対象面積の調整を図る。

9月4日(月)～6日(水) E区下層面、D区の遺構確認、遺構発掘作業。J区盛土除去作業。6日(水) E区下層面の完掘写真撮影。

9月7日(木) J区3トレンチの確認調査を行いながら、表土剥ぎを進める。

9月8日(金)～11日(月) D区の遺構確認、遺構発掘作業。E区下層面の平面図作成。J区表土剥ぎ。8日(金) D区SK80から巡方(金1)出土。

9月12日(火)・13日(水) 雨で作業員の作業中止し、J区の表土剥ぎを行う。

9月14日(木)～20日(水) D区の遺構確認、遺構発掘作業。J区表土剥ぎ及び遺構確認、遺構発掘作業。K区表土剥ぎ。

9月20日(水) 午前、D区の空中写真撮影2。

9月21日(木)～22日(金) D区の平面図作成。J区遺構発掘作業。K区表土剥ぎ。K区最北部に試掘坑を設け、遺跡の拡がりを確認する。22日(金) J区 SD67から刀子(金5)出土。若宮中学校1年生2名体験発掘。

9月25日(月)～30日(土) J区の遺構確認、遺構発掘、平面図作成作業。K区表土剥ぎと遺構確認作業。27日(水) K区グリッド杭打設。

10月2日(月) 雨で作業員の作業中止し、G区の表土剥ぎを行う。

10月3日(火)～5日(木) J区、K区の遺構確認、遺構発掘作業。

10月4日(水) J・K区の空中写真撮影3。

10月6日(金)・7日(土) 雨で作業員の作業中止し、G区の表土剥ぎを行う。

10月10日(火)～12日(木) J区の平面図作成。K区遺構確認、発掘作業。10日(火) 加茂市文化財調査審議委員会視察。

10月13日(金)～17日(火) K区遺構確認、発掘、平面図作成作業。G区遺構確認、発掘作業。H区表土剥ぎを行う。

10月18日(水)～23日(月) K区遺構確認、発掘、平面図作成作業。G区遺構確認、発掘作業。完掘写真撮影。H区遺構確認、発掘作業。18日(水)からF区表土剥ぎを行う。19日(木) 須恵器無台杯墨書土器「若」(474)出土。

10月21日(土) K区の空中写真撮影4。F区、G区遺構確認、発掘作業。

10月24日(火) 雨で作業員の作業中止し、F区の表土剥ぎを行う。K区平面図作成作業。

10月25日(水) F区表土剥ぎ。遺構発掘。G区、H区遺構確認、発掘作業。

10月26日(木)～30日(月) G区、H区平面図作成と完掘写真撮影。F区の表土剥ぎ完了し、遺構確認作業を行う。I区表土剥ぎ。

10月31日(火)～11月1日(水) F区、I区遺構確認、発掘作業。

11月2日(木)～4日(土) K区の中谷地排水路部分の表土剥ぎと遺構確認、発掘作業。F区遺構確認作業。

11月6日(月) F区河川22の発掘作業。I区SB1などの遺構発掘。

11月7日(火) 雨で作業員の作業中止。

11月8日(水)～10日(金) F区平面図作成と完掘写真撮影。I区遺構確認、発掘作業、完掘写真撮影、平面図作成作業。一部器材搬出。

11月13日(月)～17日(金) F区、I区土層断面精査。取上げ遺物の調査。断面図面確認。器財撤収。

B 整理作業の経過

平成17年度 11月～3月 加茂市民俗資料館内(以下、資料館)にて遺物水洗い、注記作業を行う。

平成18年度 7月～3月 17年度出土遺物について、計量、接合・復元、分類、選別、実測作業を行う。木製品、石製品については写真実測、土器のトレース業務を業者委託し、校正作業を行った。18年度出土遺物については、現場プレハブ内及び資料館にて遺物水洗い、注記作業を行う。また、18年度調査区について、全景俯瞰写真の合成作成業務を行った。自然科学分析は獣骨の同定を実施した。なお、木製品2点(木16・20)の補強修復作業を専門業者に委託して実施した。

平成19年度 6月～3月 18年度出土遺物について、計量、接合・復元、分類、選別、実測作業を行う。木製品、金属製品、石製品、土製品についての写真実測、土器のトレース業務を業者委託し、校正作業を行った。自然科学分析は木製品の樹種同定、土壌分析について実施した。なお、木製品8点(木1・2・4・5・6・7・8・14)、金属製品2点(金2・4)の補強修復作業を専門業者に委託して実施した。

平成20年度 6月～3月 18年度出土遺物について、計量、接合・復元、分類、選別、実測作業を行う。土器のトレース、写真撮影、主に遺構図版、写真図版の編集、遺構観察表作成などの整理調査支援、遺跡全体図面作成業務を業者委託し、校正作業を行った。自然科学分析は木製品の樹種同定及び漆器について実施した。なお、木製品16点(木15・17・18・19・21・22・23・25・26・53・54・55・56・57・58・60)、金属製品1点(金1)の補強修復作業を専門業者に委託して実施した。

平成21年度 6月～3月 主に遺物写真、遺物図版の編集、原稿執筆作業を行い、報告書刊行を行った。あわせて報告遺物の収納作業を行った。なお、木製品2点(木1・2)、金属製品2点(金3・5)の補強修復作業を専門業者に委託して実施した。

4 発掘調査・整理作業の体制

加茂市の調査担当者が1名という現状の中で、平成17年度の発掘調査においては、距離のある調査区が複数拡がること、平成18年度の発掘調査においては、同時期に一般国道403号交通連携事業に伴う馬越遺跡発掘調査が同時進行で行わなければならない状況などから、民間委託を行う必然性が生じたのである。ただし、全委託ではなく、市担当者がかげもちながら、常に現場に常駐し、指示・監督する形態で行う発掘調査支援業務とした。なお、支援業務の内容は、第1には現場作業の全体的な掌握を行うことができる発掘調査担当者(平成17年度1名 平成18年度2名)とその補佐を行い、作業員の指揮監督を行

4 発掘調査・整理作業の体制

うことができる調査員（平成17年度1名 平成18年度2名）を常駐させる形での派遣業務が主たるものである。第2には基準点測量、グリッド杭打設などの基本測量業務、遺構平面図作成などの測量作業の委託である。第3には完掘後の空中写真撮影の委託である。また、事業者への説明として、一時的に増加した埋蔵文化財行政の一部である発掘調査に対応するために専門職員の増員を図ることが不可能なこと、新潟県内における民間調査組織の導入の進捗状況などから、発掘調査に対応するための民間委託を行う環境が整いつつあることを挙げた。さらには、加茂市においても、類似した状況から平成10年度にすでに民間調査会社への発掘調査委託を実施している。業者の選定にあたっては、県内における調査実績などを考慮し、6社に対し、見積り依頼を行い、総合計額の最低価格を提示した会社と随意の委託契約を締結した。平成17、18年度ともに発掘調査支援業務は（株）イビソクに委託して実施した。

加茂市は副調査員（平成17年度1名）、調査補助員（平成17年度1名 平成18年度3名）を日々雇用として採用し、主に遺構断面実測や遺物取上げなどに従事した。作業員は、加茂市が社団法人加茂市シルバー人材センターに委託し、概ね平成17年度が20名、平成18年度が30名体制で開始した。なお、平成18年度には作業員の安全確保や駐車場スペースの関係などから、（株）渡辺建材にマイクロバス2台による送迎をお願いした。

発掘現場作業全般の労務・安全管理等の業務については、市内建設業者A級13社による見積り合わせにより、平成17年度、18年度ともに（株）渡辺建材と賃貸借業務契約を締結してお願いした。主な業務内容は、安全衛生等の諸法令の有資格者を現場世話人として常駐させること、重機による表土掘削、作業員の送迎、安全施設設置・撤去作業（平成18年度のみ）などである。また、同様の方法で平成17年度が（株）涌井建設工業、平成18年度が（株）涌井組と賃貸借業務契約を締結して、発掘調査に関係した施設の設置・撤去及び機械・器具等を賃借した。主なものは、調査事務所（内部備品類含む）、器材収納庫、仮設トイレ、水中ポンプ、仮設電気・水道の設置・撤去（平成18年度のみ）などである。

このように発掘調査業務の専門的業務については、平成17・18年度ともに（株）イビソク、作業員は社団法人加茂市シルバー人材センターとそれぞれ委託契約、労務・安全管理業務は平成17・18年度ともに（株）渡辺建材、施設の設置・撤去及び機械・器具等の調達については平成17年度が（株）涌井建設工業、平成18年度が（株）涌井組とそれぞれ賃貸借業務契約を締結して、調査体制を整えた。

整理作業については、加茂市が整理作業員2～4名を日々雇用として採用し、加茂市民俗資料館内において調査担当の指示のもと、作業を進めた。木製品などの写実実測、遺物のデジタルトレース、遺物写真撮影や報告書編集業務については（株）セビアスに委託して、作業の効率化を行った。

年度毎の体制は以下のとおりである。

【平成17年度】 発掘調査 A～C区

| | |
|--------|------------------------------------|
| 調査主体 | 加茂市教育委員会（教育長 井上信二） |
| 事務局 | 中滝孝明（社会教育課長）・相田喜一郎（同参事）・石井美代子（同主査） |
| 調査担当 | 伊藤秀和（社会教育課係長） 副調査員 山田 昇（日々雇用職員） |
| 調査補助員 | 鈴木 進（日々雇用職員） |
| 調査支援業者 | 株式会社イビソク（調査担当 熊谷洋一 調査員 瀬戸かな子・熊谷文子） |
| 現場世話人 | 番場 崇・森山大樹（株式会社渡辺建材） |
| 現場作業員 | 荒井新吉・飯岡 健・薄木善勝・大橋宏治・小川啓一・小柳正樹・金子 登 |

桑原政治・玄間圭六・杉山忠男・鈴木定二・関 昭策・高野正夫・千葉泰行・
土田 實・鶴巻英一・長沢孝作・早川栄八・鷺尾弘一・渡辺英子・渡辺ヨキノ
(社団法人加茂市シルバー人材センター会員)

整理作業員 前崎朋子(日々雇用職員)

【平成 18 年度】 発掘調査 C～K 区

調査主体 加茂市教育委員会(教育長 井上信二)

事務局 中滝孝明(社会教育課長)・相田喜一郎(同参事)・石井美代子(同主査)

調査担当 伊藤秀和(社会教育課係長)

調査補助員 泉田智子・風間 亮・鈴木 進(日々雇用職員)

調査支援業者 株式会社イビソク(調査担当 松田 繁・田中俊輔 調査員 五十嵐一樹・小林成光・牧野耕作・
三本俊輔・山田 昇)

現場世話人 小林善司・森山大樹(株式会社渡辺建材)

現場作業員 相田英市・青柳秋雄・阿部勝平・五十嵐国男・梅田 栄・梅田常世・大橋宏二・小川啓一・
小野栄子・小柳サク・小柳正樹・桑原政治・桑原 守・小池 登・小林正明・駒形邦清・
酒井昭代・桜井三代吉・茂野鉦治・鈴木定二・高橋キク・高橋助郎・高橋 武・田中忠男・
千葉泰行・土田 實・坪谷弘三郎・戸石善雄・長沢孝作・中村フミエ・中村良八・番場
多越・山崎延光・横山勝三・吉田 博・渡辺倉二(社団法人加茂市シルバー人材センター会員)

整理作業員 池田智枝・櫻井恵美子・高橋雅子・前崎朋子(日々雇用職員)

【平成 19 年度】 整理作業

調査主体 加茂市教育委員会(教育長 井上信二)

事務局 中滝孝明(社会教育課長)・相田喜一郎(同参事)・石井美代子(同主査)

整理担当 伊藤秀和(社会教育課係長)

整理作業員 池田智枝・泉田智子・櫻井恵美子・前崎朋子(日々雇用職員)

整理作業協力者 鈴木 進・高橋雅子・山田 昇(日々雇用職員)

【平成 20 年度】 整理作業

調査主体 加茂市教育委員会(教育長 井上 信二)

事務局 中滝孝明(社会教育課長)・相田喜一郎(同参事)・石井美代子(同主査)

整理担当 伊藤秀和(社会教育課係長)

整理作業員 櫻井恵美子・前崎朋子(日々雇用職員)

整理作業協力者 池田智枝・泉田智子・高橋雅子・山田 昇(日々雇用職員)

整理調査支援業者 株式会社イビソク(調査担当 小林成光 調査員 小林理恵)

【平成 21 年度】 整理作業・報告書刊行

調査主体 加茂市教育委員会(教育長 井上信二)

事務局 中滝孝明(社会教育課長 平成 21 年 10 月 31 日まで)・齋藤 淳(社会教育課長 平成 21 年

11月1日～・樋口恒志（同参事 平成21年10月31日まで）・石井美代子（同主査）

整理担当 伊藤秀和（社会教育課係長）

整理作業員 泉田智子・櫻井恵美子・高橋雅子・前崎朋子（日々雇用職員）

5 遺跡の概要

馬越遺跡は既往の調査成果から、散発的に古墳前期の古式土師器も出土しているが、明確な遺構が構築され、定量の出土遺物が見られる時期は古墳中期である。その後、ごく少量であるが古墳後期の土器も出土しているが、出土土器の年代観から概ね8世紀中頃～10世紀中頃までの約200年間、奈良・平安時代に最も盛行する遺跡である。そして、一旦無人化した本地域には、13世紀頃の鎌倉時代に再び集落が形成されることが判明している。

今回報告するA～J調査区は幅が狭く、遺構の全貌を把握できたところは少ないが、夥しい遺構が確認され、多彩な内容の遺物が出土している。各区毎に概要を記す。

A区は、遺跡推定範囲の西端部にあたる。古代の遺物は少量であったが、古墳中期の良好な土器が自然流路からまとまって出土した。B区では、平安時代の礎板を持つ柱穴や河川跡が確認され、緑釉陶器が出土した。C区では、上層面に井戸を中心とした鎌倉時代の集落跡が検出され、漆器などの良好な木製品が出土した。下層面では平安時代の畝状遺構や井戸などが検出され、井戸からは木簡が出土した。D区では、溝を中心とした疎らな遺構であるが、調査区東端部に近い土坑から羽口や銚帯金具が出土した。E区でも、上層面でC区の繋がりで見られる鎌倉時代の集落の一部が確認された。下層面では遺構は疎らであるが、多量の土器が出土し、金属製品の鉄斧などが出土した。F区では古代～中世の遺構、遺物が見られた。調査区の大半は、河川跡で占められる。この河川は国道バイパス取付道路の調査区で検出された河川3と同一である。溝からほぼ完全な状態で櫓が出土した。G区、H区は溝や流路で占められ、古墳時代中期～中世の遺物が出土している。I区は奈良時代の遺構、遺物が中心である。大型の建物跡の一部が確認されている。J・K区は国道403号線バイパス法線調査区のI・II・III区の東端に沿う調査区であり、その際確認された遺構と同じと見られる溝などが、多数出土した。斎串を多数出土した井戸や土坑から銚帯金具が出土するなど注目される。また、何らかの施設を考えさせる「中家」墨書土器などがある。

以上のように、今回の調査区からは断片的ではあるが、遺跡の出現から消滅にいたる過程が垣間見れたと言える。加茂周辺では希薄であった古墳中期の資料、荘園・官衙関連遺跡としての地域を代表する豊富な奈良・平安時代の遺構・遺物、中世前期の集落など多彩な内容を持つ遺跡であることが鮮明となった。

6 地形と基本土層（第10図、図版3・6・14・17・19・21・23・27・31・34・36・40・44）

馬越遺跡地内の現況はほぼ平坦な水田地帯で、現水田面の標高は約6～7m前後である。現況地形分類では、本区域は低地の三角州に分類される〔鈴木1984〕。しかし、これまでの調査から各所で、遺構確認面（地山）の起伏が認められ、一面平らではなく、微高地と微低地が入り組んだ地形であることが明らかとなっている。第10図は、道路工事区域の調査区での代表する等高線と各所で確認された河川跡などを記入したものである。I～IV区での遺構確認面標高5.5m前後をピークに東西方向に向かい高さを減じる様相が窺える。

各区での遺構確認面標高を見ると、A区、G区、H区、I区では標高約5.0m前後で、本線IV区から標高を減じながら、遺構が展開した取付道路部分と比べて大きな変化はないようである。しかし、F区では標高約5.0～5.4m前後と一部周辺より安定した場所が展開するようである。C区、E区上層面では標高約5.6～5.7m前後で中世の遺構が確認される。下層面では標高約4.9～5.2m前後となり、やや起伏を持つ場所と見られる。B区はやや離れた区域であるが、遺構確認面標高は約5.0～5.3mで起伏を持ちながらも安定した場所であったと見られる。D区、J区、K区の一部では標高約4.8～5.1m前後で、やはり道路本線部分からは、標高を減じて展開している。K区付近では南北方向に伸びる微高地があり、道路本線部分と同じく北東部に向かい標高を減じている。このように、古墳～古代の遺構確認面は道路本線部分を頂きとして、その周辺部は標高を減じて展開する。

基本土層堆積については、調査区が細長いトレンチであることからいずれかの遺構の土層断面に関連し確認している。なお、個々の土層の認識及び注記については、年度毎に観察者が異なり、表記内容も若干違う箇所も存在するが、極力そのままとし、各区毎については担当者で調整した。ご寛容願いたい。

A区では大きく6層に大別され、地点により8層に細分される。IV層、V層に腐植物を多く含み、その下層のVI層がオリーブ黒色土で遺物包含層となる。B区では大きく5層に大別され、地点により11層に細分される。III層に腐植物を多く含み、その下層のV層がオリーブ黒色粘質土で遺物包含層となる。C区（2005調査区）では大きく9層に大別され、地点により19層に細分される。上層面においてはI層耕作土下に灰色粘質土が堆積し、V層の遺構確認面も灰白色土である。I層直下で遺構が確認できる地点がある。中世の遺構はFグリッドより西方では検出できない。そして約40cm程の間層を挟み、古代の遺構確認面が確認される。VII層が遺物包含層である。その下層のVIII層、IX層にも遺物が含まれることから、時期差を持つ複数の包含層が存在した可能性が高い。遺構が比較的希薄となるC区（2006調査区）では、大きく6層に大別され、地点により10層に細分される。D区では大きく13層に大別される。V～VII層が腐植物を多量に含む層で、X層、XI層が遺物包含層である。E区上層面の状況はC区とほぼ同じである。約70cmの間層を挟み、古代の遺構確認面が確認される。E区では大きく9層に大別され、12層に細分される。腐植物を多量に含むVI層を挟んで下位に、遺物包含層であるIX層が存在する。

F区では大きく11層に大別され、14層に細分される。腐植物を多量に含むIV層、VI層下位に、X層、XI a層の遺物包含層が確認される。F区では地点により、腐植物層より上位で確認できる遺構もあり、出土遺物からも中世の生活面の存在が推測される。G区では大きく5層に大別され、9層に細分される。III層、IV層に腐植物が多量に含まれる。遺物包含層は明確ではない。H区では大きく10層に大別され、11層に細分される。腐植物層はそれほど顕著ではなく、遺物包含層も不明確である。I区では大きく9層に大別され、18層に細分される。III、V～VII層と腐植物を多量に含む層が複数堆積し、その下位にIX層の遺物包含層が存在する。J区では大きく6層に大別され、7層に細分される。V層に腐植物を含み、その下位にVI層の遺物包含層が存在する。K区では、最北西端部で11層に大別される。砂質土、腐植物層が顕著で、河川との関係が窺える。その下位にXI層の遺物包含層が存在する。

各区とも自然流路や河川跡が存在し、氾濫などの影響を受けた腐植物層の堆積が顕著であるが、かつて本線部分の基本土層⑦VII層の腐植物層において放射性炭素年代測定を実施したところ、年代値は概ね9世紀頃とされており、A区は検討を要するが、他の区はその腐植物層を古代に堆積した鍵層として、出土遺物の年代観も含めて、慎重な検討が必要である。



第10図 地形と旧河川跡 (S=1:2,500)
 (加茂市 平成4年修正「加茂市街図その11」S=1:2,500原図)

第Ⅳ章 遺 構

1 遺構の概要

遺構は各区毎で粗密の差はあるが、全調査区で確認された。A区では古墳時代中期、C区、E区、F区で中世の遺構が見られたが、他は奈良・平安時代を中心とする。調査区の形状から、柱根を伴うピットが確認されても、建物跡の認定は出来ないものがいくつかある。I区で掘立柱建物跡1棟を推定したにとどまる。各区の種類毎の遺構数を第5表に示した。全体では井戸11基、土坑183基、不明遺構1基、溝410条、ピット516基、河川・自然流路13条が検出されている。

遺跡推定範囲の西端に位置するA区では古墳時代中期の自然流路が確認され、近接するG区、H区でも同時期の土器が出土する自然流路がある。B区では平安時代の自然流路が確認され、東側に多彩な遺構が存在する。C区・E区上層面では井戸を中心に多数のピットが検出された。C区下層面からは多数の同一方向に伸びる溝が確認され、畝状遺構と判断されるが、国道403線バイパス道路工事地内のⅡ・Ⅲ区で確認されたまとまりと関連を持つものと見られる。D区は比較的遺構は疎らだが、やはり畝状遺構と見られる溝を中心とする遺構が確認された。E区下層面、F区、G区、H区は遺構密度が低く、河川跡や大きな溝などが中心を占める。I区は掘立柱建物跡1棟が確認されている。J区、K区は遺構が密集する。J区では同一方向に伸びる溝を中心とし、先のⅡ・Ⅲ区で確認された溝と同一遺構が存在する。K区も同じく、I区・Ⅱ区と同一の遺構が確認される。

| 区 種別 | A | B | C上 | C(2005) 下 | C(2006) 下 | D | E上 | E下 | F | G | H | I | J | K | 合計 |
|---------|----|----|-----|--------------|--------------|-----|----|----|-----|----|----|----|-----|-----|-------|
| 井戸 | | | 7 | 1 | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | 11 |
| 土坑 | | 5 | 7 | 8 | 2 | 9 | | 7 | 14 | | 8 | 24 | 21 | 78 | 183 |
| 不明 | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ピット | 12 | 26 | 183 | 12 | 5 | 44 | 27 | 3 | 49 | 6 | 1 | 30 | 32 | 86 | 516 |
| 溝 | 6 | 28 | 7 | 71 | 18 | 55 | 3 | 11 | 39 | 17 | 4 | 15 | 58 | 78 | 410 |
| 河川・流路 | 2 | 1 | 1 | | 1 | | | | 1 | 4 | 3 | | | | 13 |
| 合計 | 20 | 60 | 205 | 92 | 27 | 108 | 31 | 21 | 103 | 27 | 16 | 70 | 112 | 242 | 1,134 |

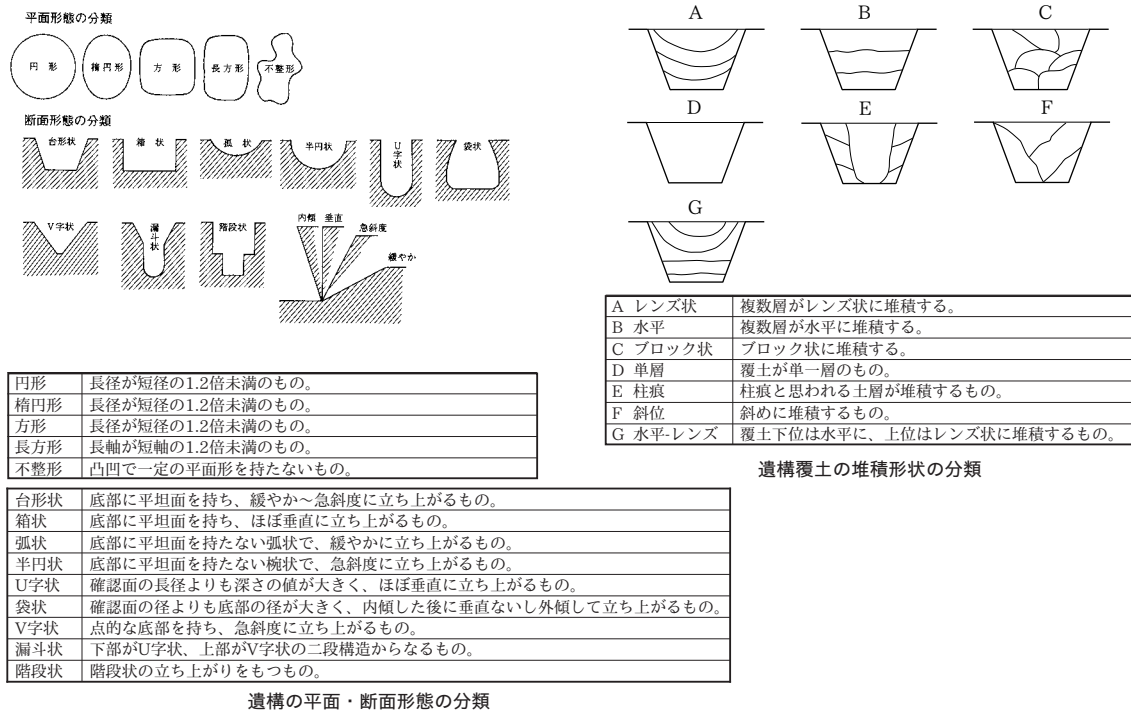
第5表 各区の遺構一覧表

2 記述の方法と遺構の分類 (第11図)

各節においては掘立柱建物跡、井戸、土坑、不明遺構、溝、ピット、河川の順番で特徴的なものや遺物出土の有無を基準に選別した遺構について記述を行い、すべてに対しては詳述しない。個々については遺構観察表に記載した。取り上げる遺構数は全遺構総数の約1割に過ぎない。

平成17年度調査区域であるA～C区の一部については各遺構の番号は現場で種別毎、検出順に通し番号で付けている。本報告書では、整理段階で種別や番号を変更したものがある。平成18年度調査区域であるC～K区については種別に関係なく調査現場で、検出順に通し番号を付し、その通し番号を活かし、番号の前に遺構種類の略称を付している。ピットについては、遺構平面図では略称(SP)を省き、通し番

2 記述の方法と遺構の分類



第 11 図 遺構の形状分類模式図 (荒川ほか [2006] から転載)

号のみを記している。掘立柱建物を SB、井戸を SE、土坑を SK、不明遺構を SX、溝を SD、ピットを SP の略号、河川（自然流路含む）はそのまの用語を用いた。なお、遺構の平面形、断面形、堆積状況に関しては大坪遺跡 [荒川ほか 2006] の分類を参考にした。重複する遺構に対しては、新旧関係が明確な場合には「旧（切られる）→新（切る）」と表現している。

個々の遺構の説明にあたり、作成した遺構図面は各区毎に異なるが、1:150、1:200、1:250、1:300、1:400、1:500 の遺構全体配置図、1:80、1:100、1:250 の分割平面図及び遺構個々の図面である。遺構個々の図面は、基本土層断面図を 1:40、1:80、掘立柱建物平面図を 1:80、柱穴断面を 1:40、井戸・土坑平面図を 1:20、1:40、断面図を 1:40、溝平面、断面図を 1:40、1:50、1:60、1:80、ピット平面、断面図を 1:40、河川平面図及び遺物出土状況図を 1:100、断面図を 1:40、1:60、1:100 とした。各個別図の中で遺物の出土位置が明らかなものについては、●で記し、遺物実測図を配置したものがある。写真図版に関しては選択的に使用した。

A 掘立柱建物跡

柱穴が一定の間隔で並ぶことや柱根の存在などから掘立柱建物跡を認定した。確認できたものは I 区で僅か 1 棟のみであったが、柱根の存在などから、B・C・D・E、F・J・K 区での存在が推測される。

記述にあたり、主軸方位は柱列主軸の方向で表し、北を中心に東西に偏する角度、N - 10° - W などとした。また、柱穴については建物毎に通し番号を付した。それぞれの平面形及び深さの数値については最大値をとった。深さは遺構確認面からのものである。

B 井戸・土坑・不明遺構・ピット

記述にあたり、規模を示す際は長軸が平面形の最大径、短軸が長軸と直交する部位で最長部を計測して

いる。深さは遺構確認面からのものである。土坑とピットの分類については、覆土の堆積状況や規模及び深度などから判断した。

C 溝・河川（自然流路）

記述にあたり、幅は最大幅と最小幅を計測した。深さは遺構確認面からのものである。走向する方向には方位を使用した。

3 A 区の遺構

A A 区の概要

A 区は遺跡推定範囲の西端部に位置する。遺構は疎らで、溝、ピット、自然流路が確認された。溝、自然流路の走向方向はSD5を除き、ほぼ北西～南東方向に伸びる。ピットはB7グリッドにまとまり、径20cm前後と規模の小さいものである。古代の遺物は少量で、古墳時代中期の古式土師器が自然流路からまとまって出土した。

B A 区遺構各説

1) 溝 (SD)

SD1 1号溝 (図版2・3、写真図版3)

調査区最北端部のA3～B3グリッドに位置し、主軸方位N－43°－W、北西～南東方向に走向する遺構である。幅は28～44cmで、深さ10cmである。覆土は2層に分かれ、レンズ状に堆積する。断面形は弧状である。SD2の覆土3層を切り、底面標高も他より高い位置にあることや須恵器長頸瓶、土師器無台碗・長甕が出土したことから、平安時代の遺構と考えられる。

SD2 2号溝 (図版2・3、写真図版3)

A3～B3グリッドに位置し、主軸方位N－56°－W、北西～南東方向に走向する遺構である。幅は確認面で90～126cmであるが、覆土3層も含めると幅約3mとなる。覆土は3層に分かれ、腐植物を含んだ黒色土がレンズ状に堆積する。深さは15cm程であるが、中央部に幅約30cm、深さ15cmの単層の溝を持つ。3層上部からの深さは49cmである。出土遺物は古式土師器高杯・甕、須恵器無台杯・甕が見られ、古墳時代～平安時代の遺構と考えられる。

SD3 3号溝 (図版2・3、写真図版3)

B7グリッドに位置し、主軸方位N－22°－W、北西～南東方向に走向する遺構である。幅は116～132cm、深さ11cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物はない。

SD5 5号溝 (図版2・3、写真図版3)

調査区最南端部のB8～C8グリッドに位置し、主軸方位N－66°－E、西～東方向に走向する遺構である。幅は20～28cmで、深さ8cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物はない。

SD6 6号溝 (図版2・3、写真図版3)

B5グリッドに位置し、主軸方位N－53°－W、北西～南東方向に走向する遺構である。幅は158cmで、深さ9cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は古式土師器甕1個体が出土した。古墳時代中期の遺構である。

2) 河 川

河川 1・2 (図版 2・4、写真図版 3・4)

B3～B4 グリッドに位置する、北西～南東方向に走向する自然流路である。土層断面からは、SX2 が SX1 を切る状況が観察されたが、土質や出土遺物の時期などで明確に区分できないことから、一連の遺構とした。SX1、SX2 あわせて幅は約 6.6m、確認面からの深さは 28～42cm である。覆土は斜位及びレンズ状に、腐植物を多量に含んだ粘質土が堆積する。覆土の上部も腐植物層が顕著であり、埋没後も窪地状であったことが推測される。覆土中には流木も見られる。断面形は弧状である。出土遺物は古式土師器がまとまって出土した。流路のほぼ中央部に集中する。古代の遺物は見られない。土器は古墳時代中期のもので、高杯・甕を中心に一括性の高い土器群と考えられる。他に板状及び棒状の木製品が数点出土した。

河川 3 (図版 2・3、写真図版 4)

B5～B6 グリッドに位置する、北西～南東方向に走向する自然流路である。幅は約 5.6m、確認面からの深さは 10～18cm である。覆土は単層で、灰色粘質土が堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。走向方向や周辺の出土遺物の様相から古墳時代中期の遺構と考えられる。

4 B 区の遺構

A B 区の概要

B 区は国道 403 号線バイパス調査区域から北西方向に約 150m 離れた地点にある。遺構は南北方向に伸びる溝が中心で、他に土坑、ピット、河川(自然流路)が確認された。ピットには柱根や礎板を持つものがあり、掘立柱建物跡が周辺に展開することが推測される。調査区西側には遺構の空白域が存在する。包含層から中世の遺物が少量出土しているが、ほとんどが平安時代の遺構である。

B B 区遺構各説

1) 土 坑 (SK)

SK3 3 号土坑 (図版 5)

E3 グリッドに位置し、南側を SD12 に切られ、SP14 を切る。SP14 < SK3 < SD12 の新旧関係がある。平面形は方形を呈し、深さ 15cm である。覆土は黒色土が水平に堆積し、断面形は弧状である。出土遺物は須恵器甕、土師器無台碗・小甕がある。

SK4 4 号土坑 (図版 5)

D3 グリッドに位置し、南側は調査区域外に拡がる。平面形は円形を呈し、深さ 7cm である。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は須恵器無台杯、土師器長甕がある。須恵器無台杯は、約 2m 離れた地点から出土した破片と接合している。図示した土器は、V₂ 期と考えられる。

2) 溝 (SD)

SD1 1 号溝 (図版 5・6、写真図版 6)

G2 グリッドに位置し、SD20 を切る。主軸方位 N - 3° - E、南～北に走向する遺構である。幅は 50～65cm で、深さ 10cm である。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物はない。

SD2 2号溝 (図版5・6、写真図版6)

G2グリッドに位置し、SD14、SD20を切る。SD1とは約1mの間隔にある。主軸方位N-11°-E、南～北に走向する遺構である。幅は110～130cmで、深さ16cmである。覆土は単層で、断面形は台形状である。出土遺物は比較的多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗がある。図示した土器はV₂～VI期と見られる。

SD3 3号溝 (図版5・6、写真図版6)

J2グリッドに位置する。主軸方位N-9°-E、南～北に走向する遺構である。幅は93～100cmで、深さ19cmである。規模などSD2と類似する。覆土は単層で、断面形は台形状である。出土遺物は覆土上面に多く、須恵器有台杯・無台杯・甕、土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗がある。図示した土器はVII₁期と見られる。

SD4 4号溝 (図版5・6、写真図版6)

J2グリッドに位置し、SD3とは約1mの間隔にある。主軸方位N-2°-W、南～北に走向する遺構である。幅は126～135cmで、深さ14cmである。覆土は単層で、断面形は台形状である。出土遺物は多く、緑釉陶器無台碗、須恵器無台杯・小型瓶、土師器無台杯・無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器有台碗・無台碗がある。また、底面近くから板状木製品とそこに付着した獣骨(ウマ)が出土した。図示した土器はVI₁期と見られる。

SD5 5号溝 (図版5、写真図版6)

調査区最西端部でJ2グリッドに位置し、SD4と隣接する。主軸方位N-22°-E、南～北に走向する遺構である。幅は98～124cmで、深さ25cmである。覆土は単層で、断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗がある。

SD12 12号溝 (図版5・6、写真図版6)

E3グリッドに位置し、SK3、SP14を切る。主軸方位N-65°-E、北東～南西に走向する遺構である。幅は70～100cmで、深さ17cmである。覆土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。断面観察から何回か掘り直した状況が推測される。断面形は弧状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、板状及び櫛などの木製品がある。櫛は約80cm程が下端部から地中に突き刺さった状態で検出された。

SD18 18号溝 (図版5・7、写真図版6)

調査区最東端部でC3グリッドに位置する。主軸方位N-4°-E、南～北に走向する遺構である。幅は226cmで、深さ20cmである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕、中世土師器がある。

3) ピット (SP)**SP4 4号ピット** (図版5・7、写真図版7)

F3グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は(25)×24cm、深さ20cmである。覆土は2層に分層され、レンズ状に堆積し、長さ24cm、径12cmの柱根が遺存した。柱根の下部に幅15cm前後のミカン割材2点が設置され、礎板と考えられる。また、柱根の下部側面にも2点のミカン割材が出土した。樹種はすべてクリである。出土遺物はない。

SP6 6号ピット (図版5、写真図版7)

5 C区上層の遺構

D3グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、規模は30×30cm、深さ47cmである。断面形はU字状である。長さ30cm、径9.5cmの柱根が遺存した。樹種はヤナギ属である。出土遺物はない。

4) 河 川

河川1 (図版5・7、写真図版7)

H2～I2～J2グリッドに位置する。主軸方位N-17°-E、南～北に走向する自然流路である。幅は確認面で約12mを測る。覆土は単層で、灰色粘質土が堆積する。深さは確認面から20cm程である。遺物は、土器、木製品などがほぼ全域からまばらに出土している。出土遺物は須恵器有台杯・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器有台皿・無台碗、木製品(工具・用途不明)、獣骨(ウマ)がある。獣骨(ウマ)は西側の肩付近から出土した。図示した土器はV₂～VI_{2・3}期と見られる。

5 C区上層の遺構

A C区上層の概要

C区はバイパス本線のⅢ区に取り付く位置にある。遺構は密で、井戸7基を中心に、多数のピットが確認された。井戸は全て円形素掘りである。井戸からは木製品が多く出土した。全体的に土器類の出土量は少なく、珠洲焼を中心とする。13世紀後半頃の集落域の中心部分に相当するものと見られる。E区上層と一連と見られる。

B C区上層遺構各説

1) 井 戸 (SE)

SE1 1号井戸 (図版8・9、写真図版10)

河川1に近接したB3～B4グリッドに位置する。南半分は調査区域外に広がる。深さは確認面から97cmである。覆土は腐植物や炭化物を含んだ灰色土がブロック状に堆積し、断面形は台形である。出土遺物は少なく、底面近くから珠洲焼播鉢が出土したのみである。他に用途不明の木材が1点ある。

SE2 2号井戸 (図版8・9、写真図版10)

C3グリッドに位置する。SE1の4m西方にある。南半分は調査区域外に広がる。SP63・86を切る。平面形は約1m四方の方形で、深さは確認面から82cmである。覆土は5層以下に腐植物や炭化物を多量に含んだ灰色粘質土がレンズ状に堆積し、断面形は箱状である。出土遺物は少ないが、6層上面からほぼ完形の漆器碗が出土している。他に珠洲焼甕、箸状木製品(2本)、用途不明の木材(2点)などがある。

SE3 3号井戸 (図版8・9、写真図版10・11)

C3グリッドに位置する。SE2から2m北西方にある。北側の一部が調査区域外に広がる。SX1に切られる。平面形は82cm四方の方形で、深さは確認面から91cmである。覆土は5層以下に腐植物や炭化物を多量に含んだオリーブ黒色土がほぼ水平に堆積し、断面形は箱状を呈する。遺物は、木簡、櫛、下駄、曲物、箸状(21本)、両端が炭化した付け木状などの木製品が6層以下から出土した。土器は中世土師器が少量ある。

SE4 4号井戸 (図版8・9、写真図版11)

C3グリッドに位置する。SE3から2m西方にある。SE5と隣接する。平面形は径72cmの円形で、

深さは確認面から 115cm である。覆土は腐植物や炭化物を含んだ灰色粘質土やオリーブ黒色土がほぼ水平に堆積し、断面形は箱状を呈する。出土遺物は 5 層から漆器椀、6 層から曲物、5・6 層から箸状木製品（26 本）が出土した。他に板状木製品もある。

SE5 5号井戸（図版 8・10、写真図版 11・12）

C3 グリッドに位置する。SE4 と隣接する。平面形は径 77cm の円形で、深さは確認面から 116cm である。規模、形状ともに SE4 と類似する。覆土は腐植物や炭化物を含んだ灰白色粘質土やオリーブ灰色土がほぼ水平に堆積し、断面形は箱状を呈する。出土遺物は木製品が比較的多く出土した。2 層から中世土師器、5 層から箸状（27 本）、板状、棒状木製品や曲物、8 層から漆器鉢が出土している。漆器鉢は底部を下にした横位で出土している。他にも漆器小皿が層位不明（下層と注記があり、8 層付近の可能性が高い）であるが、出土している。古代の土器が少量混入する。

SE6 6号井戸（図版 8・10、写真図版 12）

D3 グリッドに位置する。SE5 から 4m 西方にある。南側の一部が調査区域外に広がる。平面形は楕円形で、96 × 74cm、深さは確認面から 119cm である。中位ほどから板状木製品が正位に配される。また、その下層からは漆器片が出土している。古代の土器が少量混入する。

SE7 7号井戸（図版 8・10、写真図版 12）

E3 グリッドに位置する。SE6 からは約 10m 西方にある。北側の一部が調査区域外に広がる。SP83 を切る。平面形は約 90cm 四方の方形と見られ、深さは確認面から 105cm である。覆土は腐植物や炭化物を含んだ灰色粘質土やオリーブ黒色土がブロック状に堆積し、断面形は箱状を呈する。遺物は確認面から浅い、2・3 層から珠洲焼播鉢、甕及び石製品の砥石が出土した。古代の遺物も少量混入する。

2) 土 坑 (SK)

SK3 3号土坑（図版 8・11、写真図版 12）

C3 ～ D3 グリッドに位置する。南側半分が調査区域外に広がる。SD7、SP12 などに切られる。平面形は不整形で、深さは確認面から 19cm である。覆土はオリーブ黒色土などがレンズ状に堆積し、断面形は弧状を呈する。出土遺物はない。

SK4 4号土坑（図版 8・11）

D3 グリッドに位置する。北側の一部が調査区域外に広がる。平面形は楕円形と見られ、深さは確認面から 37cm である。覆土は炭化物を含んだ灰色粘質土やオリーブ黒色土がレンズ状に堆積し、断面形は半円状である。珠洲焼甕が出土している。

3) 不明遺構 (SX)

SX1 1号不明遺構（図版 8・11、写真図版 12・13）

C3 グリッドに位置する。南側の一部が調査区域外に広がる。SE3、SP64 などを切る。長方形の竪穴状の遺構である。現状で長軸（220）×短軸（170）cm、深さは確認面から 15cm である。覆土は斜位に堆積し、断面形は台形状である。珠洲焼甕及び古代の土器が少量出土している。

4) 溝 (SD)

SD2 2号溝（図版 8・11）

D3グリッドに位置する。SK5に切られる。長さ307cm、幅が52～64cm、深さ12cmを測る。主軸は東西方向で、N-80°-Eである。覆土は単層で、灰白色粘質土が堆積する。断面は弧状を呈する。遺物は出土していない。

SD3 3号溝 (図版8・11、写真図版13)

D3グリッドに位置する。SD4と並列するが、断面観察からSD4を切る。幅が40～50cm、深さ36cmを測る。主軸はN-44°-Eである。覆土はほぼ水平で、灰色粘質土が堆積する。断面は半円状を呈する。遺物は出土していない。

SD4 4号溝 (図版8・11、写真図版13)

D3グリッドに位置する。SD3と並列するが、断面観察からSD3に切られる。幅が40～50cm、深さ24cmを測る。主軸はN-50°-Eである。覆土は、灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面は弧状を呈する。珠洲焼播鉢と古代の遺物が少量出土している。

SD6 6号溝 (図版8・12、写真図版13)

調査区最西端部のF3グリッドに位置する。南側の一部を欠く。幅が93～150cm、深さ25cmを測る。主軸はN-68°-Eである。覆土は、炭化物を含む灰色粘質土、黒色土がレンズ状に堆積する。断面は半円状を呈する。遺物は珠洲焼甕、石製品(砥石)が1層から出土している。

5) ピット (SP)

SP1 1号ピット (図版8・12)

C3グリッドに位置する。SP17を切る。円形を呈し、規模は42×38cm、深さ39cmを測る。覆土は6層に分層され、ブロック状に堆積する。断面形はU字状である。出土遺物はない。

SP3 3号ピット (図版8・12)

C3グリッドに位置する。SP2を切る。楕円形を呈し、規模は37×30cm、深さ30cmを測る。覆土は4層に分層され、斜位に堆積する。断面形はV字状である。出土遺物はない。

SP19 19号ピット (図版8・12、写真図版13)

D3グリッドに位置する。円形を呈し、規模は35×34cm、深さ7cmを測る。覆土は単層で、断面形は弧状である。古銭が1点出土した。

6) 河川

河川1 (図版8・12、写真図版13)

確認された流路は、B3～B4グリッドにかけて、南北方向に走向する片岸の一部分である。位置関係からバイパス本線のⅢ区で確認された河川1と同一と考えられる。確認面から深さ約90cmで調査は中止した。C区(2006年)・E区下層面で確認された河川23と同じものと見られる。覆土は腐植物を含んだ緑灰色砂質土がレンズ状に堆積する。流木も含まれる。断面形は台形状に近い。出土遺物は少ない。珠洲焼播鉢、須恵器甕がある。

6 C区下層の遺構

A C区下層の概要

C区下層では、約70m幅で主軸方向から2グループに大別可能な溝が約90条も確認された。群としては不明なところもあるが、規模や形状から畝状遺構と考えられる。溝は密集するが、同一方向での切り合い関係は少ない。他に井戸が2基、土坑、ピット、河川（自然流路）が確認された。柱根を持つ柱穴も数基見られ、掘立柱建物跡の存在も推測される。また、H2～I2グリッド周辺では、最下層としたもう1層の遺構確認面が存在し、同様の溝が見られる。

B C区（2005年）下層遺構各説

1) 井 戸 (SE)

SE7 7号井戸（図版13・14、写真図版15）

F3グリッドに位置する。SE14とは約3mの距離にある。北半分が調査区域外に広がる。やや遺構が希薄なエリアに存在する。平面形は楕円形で、現状で長軸140cm、確認面から深さ76cmである。覆土は腐植物や炭化物を含んだオリーブ黒色、黒色シルト質土がレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。遺物は多く、須恵器長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土した。また、底面から板状木製品が出土している。図示した土器から、VII₁期頃と考えられる。

2) 土 坑 (SK)

SK1 1号土坑（図版13・14、写真図版15）

I2グリッドに位置する。SD52・53・55などを切る。北半分が調査区域外に広がる。溝の密集する区域にある。平面形は楕円形で、現状で長軸92cm、確認面からの深さ100cmである。断面形はU字状である。中位よりやや下部、西壁よりから完形に近い土師器無台碗が出土した。他に須恵器甕、黒色土器無台碗が出土しており、VII₁期と見られる。

SK2 2号土坑（図版13・14、写真図版15）

I2グリッドに位置する。SD18を切る。平面形は楕円形で、規模は70×56cm、深さは18cmである。覆土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕がある。VII₁期と見られる。

SK3 3号土坑（図版13・14・15、写真図版15）

I2グリッドに位置する。SD54を切る。南側の一部が調査区域外に広がる。平面形は楕円形で、規模は現状で(70)×(70)cm、深さは14cmである。覆土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鉢、黒色土器無台碗がある。VII₁期と見られる。

SK4 4号土坑（図版13・14、写真図版15）

I2グリッドに位置する。SD49を切る。平面形は楕円形で、規模は78×60cm、深さは25cmである。覆土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。断面形は半円状を呈する。確認面から3層にかけて斜位に、長さ40cm、幅15cm程の板状の材が見られる。出土遺物は少なく、土師器長甕がある。

SK6 6号土坑 (図版13・14)

H2～I2グリッドに位置する。SD19を切り、SD29に切られる。北側の一部が調査区域外に拡がる。規模は現状で(70)×(50)cm、深さは36cmである。覆土は6層に分層され、オリーブ黒色土を主体にレンズ状に堆積する。断面形は半円状を呈する。出土遺物は土師器無台碗・長甕がある。SD19出土遺物がVI_{2・3}期と見られることから、本遺構の時期はVII₁期頃であろう。

SK8 8号土坑 (図版13・16、写真図版15)

G2～G3グリッドに位置する。SD40を切り、SD41に切られる。南側の一部が調査区域外に拡がる。規模は現状で(92)×(76)cm、深さは22cmである。覆土は3層に分層され、黒色シルト質を主体にレンズ状に堆積する。断面形は台形状を呈する。出土遺物は土師器無台碗・長甕・小甕、両面黒色土器無台碗、木製品(祭祀具)がある。VII₁期と見られる。

3) 溝 (SD)

SD2・4・5・6・7・8 2・4・5・6・7・8号溝 (図版13・15、写真図版16)

調査区最西部のJ2グリッドに位置する。SD7を除き、SD3に切られる。4m幅に溝間隔約50cmで、6条の溝が、主軸方位N-5～18°-Wにまとまる。各溝の幅は20～40cm前後、確認面からの深さ12～26cmである。覆土は灰色シルト質土が単層、水平、レンズ状に堆積する。断面形は台形状、半円状、弧状と多様であるが、各溝のまとまりから畝状遺構の一群として把握できる。出土遺物は少なく、SD4から土師器無台碗が出土したのみである。なお、SD5、SD6の覆土及びその上層堆積土を対象に、花粉分析・植物珪酸体分析を実施し、栽培種のイネ属が検出されている。

SD19 19号溝 (図版13・14・15)

H2～I2グリッドに位置する。SK6に切られる。幅30～92cm、深さは25cmである。主軸方位は、N-6°-Eである。覆土は単層で、黒色土が堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・甑、両面黒色土器無台碗がある。図示した土器からVI_{2・3}期と考えられる。

SD21 21号溝 (図版13・15)

H2グリッドに位置する。SD22、SD23に切られる。長軸418cm、幅44～70cm、深さは32cmである。主軸方位はN-81°-Wで、数少ない東西方向を指向する溝である。覆土は黒色土がレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・甑、黒色土器無台碗がある。

SD22 22号溝 (図版13・15、写真図版16)

H2グリッドに位置する。SD21、SD37を切る。幅56～80cm、深さは21cmである。主軸方位はN-7°-Eで、SD19、SD23などと同じ方向である。覆土は3層に分層され、灰色シルト質土がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯・横瓶、土師器無台碗・長甕・小甕・甑、黒色土器無台碗がある。図示した土器からVI_{2・3}期と考えられる。

SD23 23号溝 (図版13・15)

H2グリッドに位置する。SD21、SD37を切る。幅80～118cm、深さは47cmである。主軸方位はN-10°-Eである。覆土は6層に分層され、1～3層に黒色、4～6層に灰色シルト質土がレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は多く、須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕・甑、黒色

土器無台碗がある。

SD24 24号溝 (図版13・15、写真図版16)

H2グリッドに位置する。幅110～130cm、深さは21cmである。主軸方位はN-2°-Eである。中央部に一段下がる幅20cm前後の溝が設けられる。覆土は単層で、灰オリーブ色粘質土が堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は多く、須恵器長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・甌、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗がある。図示した土器からVI_{2・3}期と考えられる。

SD25 25号溝 (図版13・16)

H2グリッドに位置する。SK5、SD26に切られる。深さは32cmである。主軸方位はN-6°-Wである。覆土はブロック状に堆積し、何度かの改修が推測される。断面形は弧状である。出土遺物は、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋がある。図示した土器からVII₁期と考えられる。

SD34 34号溝 (図版13・16、写真図版16)

G2グリッドに位置する。幅44～50cm、深さは23cmである。主軸方位はN-5°-Eである。覆土はオリーブ黒色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は、土師器無台碗・長甕・鍋、黒色土器無台碗がある。図示した土器からVI_{2・3}期と考えられる。

SD36・39・42・43・44 36・39・42・43・44号溝 (図版13・15、写真図版16)

G2・3～F2・3グリッドに位置する。5条の溝が、4.5m幅に溝間隔約40～80cm、主軸方位N-26～33°-Wにまとまる。各溝の幅は20～40cm前後、確認面からの深さ15～24cmである。覆土は灰色粘質土が単層、水平、レンズ状に堆積する。断面形は台形状、U字状である。畝状遺構の一群と考えられる。各溝から須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している。2006年調査区の溝の切り合い関係を考慮するとSD2・4・5・6・7・8の一群より古いことが推測される。また、同様の畝状遺構として、G2グリッドのSD32周辺にも一群が把握できる可能性がある。

SD41 41号溝 (図版13・16、写真図版16)

G2～G3グリッドに位置する。SK8、SD35、SD65を切る。幅58～102cm、深さは27cmである。主軸方位はN-39°-Eである。覆土は暗灰色シルト質土がブロック状に堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗がある。図示した土器からはVI₁期と考えられるが、遺構の切り合い関係の前後関係と遺物の年代観とは一致していない。

4) ピ ッ ト (SP)

SP3 3号ピット (図版13・16、写真図版16)

G2グリッドに位置する。円形を呈し、規模は30×28cm、深さ67cmを測る。断面形はU字状である。径12cmのは柱根が遺存した。樹種はハンノキ属ハンノキ亜属である。他の出土遺物はない。

C C区 (2006年) 下層遺構各説

1) 井 戸 (SE)

SE14 14号井戸 (図版13・17、写真図版19)

E3～F3グリッドに位置する。SE7とは約3mの距離にある。北半分が調査区域外に広がる。平面形は楕円形で、現状で長軸200cm、確認面から深さ95cmである。覆土は腐植物を多量に含んだ黒色、灰白色粘質土がレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。遺物は多く、須恵器無台杯・甕、土師

7 D区の遺構

器無台碗・長甕、黒色土器無台碗が出土した。また、3層の黒色粘質土から木簡を始め、木製品が出土した。図示した土器から、VI_{2・3}期と考えられる。木簡に見える「元慶」年間の年代観と大きな矛盾はない。

2) 土坑 (SK)

SK18 18号土坑 (図版13・17)

D3グリッドに位置する。SD19を切る。平面形は楕円形で、規模は76×62cm、深さは38cmである。覆土は5層に分層され、黒褐色粘質土が水平に堆積する。断面形は半円状を呈する。出土遺物はない。

3) 溝 (SD)

SD2・3・4・5・8・10・12・15・16 2・3・4・5・8・10・12・15・16号溝 (図版13・17、写真図版19)

D3～E3グリッドに位置する。10m幅に溝間隔約100～150cmで、9条の溝が、主軸方位N-7～16°-Wにまとまる。各溝の幅は20～60cm前後、確認面からの深さ9～26cmである。覆土は単層で、断面形は半円状である。各溝のまとまりから畝状遺構の一群として把握できる。SD2がより西に主軸を向けるSD1を切る。出土遺物は各溝から須恵器長頸瓶・横瓶、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗が出土している。

4) ピット (SP)

SP22 22号ピット (図版13・17、写真図版19)

F3グリッドに位置する。円形を呈し、規模は34×32cm、深さ51cmを測る。断面形はU字状である。径19cmのは柱根が遺存した。樹種はヒノキである。土師器無台碗・長甕が出土している。

7 D区の遺構

A D区の概要

D区は遺跡推定範囲の東限に位置する。G2～H2グリッドからは比較的疎らではあるが、南北方向を指向する溝群を中心に検出されている。規模や形状から畝状遺構と考えられる。他に土坑、ピットが確認された。柱根を持つ柱穴も数基見られ、掘立柱建物跡の存在も推測される。

B D区遺構各説

1) 土坑 (SK)

SK80 80号土坑 (図版18・19、写真図版23)

調査区の東端部に近い、C3～D3グリッドに位置する。南側の一部が調査区域外に拡がる。平面形は楕円形で、規模は164×124cm、確認面からの深さは56cmである。覆土は7層に分層され、炭化物を含んだ灰色粘質土を中心にレンズ状に堆積する。断面形は半円状を呈する。出土遺物は多く、須恵器有台杯・無台杯・長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕の土器類の他、銚帯金具や羽口も出土した。図示した土器から、VI_{2・3}期と考えられる。

2) 溝 (SD)

SD1 1号溝 (図版18・19、写真図版22・23)

M1グリッドに位置する。断面観察からはSD77を切る。幅130～160cm、深さは32cmである。主軸方位はN-10°-Wである。覆土は暗灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器甕、土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀がある。確認面からほぼ完形の土師器無台椀が出土した。図示した土器からはVI_{2・3}期と考えられる。

SD77 77号溝 (図版18・19、写真図版22・23)

M1グリッドに位置する。断面観察からはSD1に切られる。幅48～86cm、深さは47cmである。主軸方位はN-14°-Wである。覆土は灰色粘質土がレンズ状に堆積する。最下層の一部に黒色腐植物層が堆積し、柱根、棒状木製品などが出土した。断面形は台形状である。出土遺物は、土師器無台椀・長甕がある。図示した土器からはVI_{2・3}期と考えられる。

SD85 85号溝 (図版18・20、写真図版23)

調査区最東部のB3グリッドに位置する。幅50～150cm、深さは24cmである。主軸方位はN-9°-Eで、蛇行する。覆土は灰黄褐色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は少なく、土師器小甕がある。

SD106 106号溝 (図版18・20)

E2～E3グリッドに位置する。SD88、SD98に切られる。幅20～36cm、深さは9cmである。主軸方位はN-25°-Wである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は少なく、須恵器有台杯・甕がある。

3) ピ ッ ト (SP)

SP29 29号ピット (図版18・20)

N1グリッドに位置する。北半分は土側溝により壊される。楕円形を呈し、規模は20×12cm、深さ17cmを測る。覆土は単層で、断面形は半円状である。径12cmの柱根が遺存した。樹種はヤナギ属である。他の出土遺物はない。

SP112 112号ピット (図版18・19、写真図版23)

N1グリッドに位置する。北半分は土側溝により壊される。不整形を呈し、規模は70×42cm、深さ56cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。径11cmの柱根が遺存した。柱根は14°ほど東に傾く。樹種はコナラ属コナラ亜属コナラ節である。他に須恵器甕が出土した。

8 E区上層の遺構

A E区上層の概要

E区上層は約25m間で検出された中世の遺構確認面である。バイパス本線のⅢ区に並行する位置にある。遺構は疎らで、遺構の重複はない。井戸1基の他、溝、ピットが確認された。ピットは平面形が方形のものが目立つ。土器類の出土遺物はなく、砥石や古銭が出土した。C区上層面と連続することから、13世紀後半頃の集落域の一部に位置付けられる。

B E区上層遺構各説

1) 井戸 (SE)

SE15 15号井戸 (図版 21、写真図版 24)

C6～D6グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径74cm、確認面からの深さは85cmである。覆土は7層に分層され、黄灰色と黒褐色粘質土がレンズ状に堆積する。底面中央に大きな石が1点見られた。7層には有機質の植物遺体が特徴的であったことから、土壌の灰像分析を行った。イネ、チゴザサ、ヨシ、ススキ属の短細胞列が確認されている。断面形は箱状を呈する。出土遺物は板状木製品や柱根が出土した。

2) ピット (SP)

SP13 13号ピット (図版 21)

D7グリッドに位置する。円形を呈し、規模は直径32cm、深さ53cmを測る。断面形はU字状である。西側に浅い円形の掘り込みが見られる。底面に長さ15～25cm、幅5cm前後の板材が3点確認され、礎板の可能性はある。出土遺物はない。

9 E区下層の遺構

A E区下層の概要

E区下層では包含層から多量の土器が出土したが、確認された遺構は少ない。北東部ではC区で確認された河川と一連の河川が見られ、その周辺は遺構が確認されない。不規則な配置での溝を中心に、土坑、ピットが確認された。

B E区下層遺構各説

1) 土坑 (SK)

SK4 4号土坑 (図版 22・23、写真図版 25)

E8～E9グリッドに位置する。南側の一部が調査区域外に拡がる。現状で規模は(112)×(84)cm、確認面からの深さは30cmである。覆土は場所により9層に分層され、炭化物を含んだ黒色粘質土を中心にレンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は、須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕がある。

2) 溝 (SD)

SD18 18号溝 (図版 22・24、写真図版 25)

D7グリッドに位置する。幅150～200cm、深さは15cmである。主軸方位はN-38°-Eである。覆土は3層に分層され、黒褐色粘質土などが堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、土師器無台碗・長甕・小甕がある。図示した土器からVI_{2・3}期と考えられる。

3) 河川

河川 23 (図版 22・24、写真図版 25)

C区～E区にかけて、A3・4～B3・4グリッドで確認された。南北方向に走向する片岸の一部分であ

る。位置関係からバイパス本線のⅢ区で確認された河川1と同一と考えられる。幅は現況で8m以上あり、10mを超える川幅が推測される。覆土は腐植物を多く含んだ暗灰黄色粘質土がレンズ状に堆積する。出土遺物は、須恵器有台杯・無台杯、土師器無台椀、下駄や箸状木製品が出土した。図示した土器は、本遺跡では古手の時期で、Ⅲ～Ⅳ₁期のものである。

10 F区の遺構

A F区の概要

F区は東西方向に蛇行しながら伸びる調査区で、国道403号線バイパス取付道路調査区から約5mの距離で北側に沿う。東側でE区、西側でG区と接続する。ほぼ中央部約50m間は河川跡で占められ、その両岸に古代の遺構が展開する。遺構の密度は濃くない。不規則な配列を示す溝が多く、ピットの配列、形状から掘立柱建物跡の存在も考えられる。また、U6～W6グリッドにかけて、遺構確認面が一段高く、土質や珠洲焼が出土したことなどから、中世の遺構である可能性が高い。

B F区遺構各説

1) 土 坑 (SK)

SK11 11号土坑 (図版25・27、写真図版27)

調査区の西端部に近い、X6グリッドに位置する。東側の一部がSD10に切られる。平面形は楕円形で、規模は128×88cm、確認面からの深さは80cmである。覆土は13層に分層され、黒褐色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形はU字状を呈する。出土遺物はない。

2) 溝 (SD)

SD5 5号溝 (図版25・27、写真図版27)

U6～V6グリッドに位置する。周辺より一段高い区域である。幅70～114cm、深さは20cmである。主軸方位はN-65°-Eである。覆土は単層で、腐植物を含んだ褐灰色粘質土が堆積する。断面形は半円状である。底面中央部で同じ方向に伸びる、幅30～40cm、深さ20cmの溝が確認された。出土遺物は、須恵器杯蓋・小型壺・甕、土師器無台椀・長甕がある。出土した遺物は古代のものばかりであるが、遺構確認面の高さなどから中世の遺構と考えられる。古代の土器は底面に確認された幅狭の溝に伴うものであろう。

SD9 9号溝 (図版25・27、写真図版27)

調査区西端部のX6～X7グリッドに位置する。幅118～148cm、深さは44cmである。主軸方位はN-65°-Wである。覆土は4層に分かれ、黒褐色と灰色粘質土の混合層がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器長頸瓶・甕、土師器無台椀・長甕がある。

SD10 10号溝 (図版25・27、写真図版27)

W6～X6グリッドに位置する。SK11を切る。幅440cm、深さは40cmである。主軸方位はN-4°-Wである。覆土は4層に分かれ、黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は台形状である。土器は全く出土せず、木製品の榿が出土したのみである。榿は中央やや東寄りのところから主軸方向に直交する形で出土し、榿の柄の中ほどには直交する形で木材が枕木状に置かれる。通水量はそれ程でもなく、

貯木や流出防止の工作与考えられる。土層などから中世の遺構と考えられる。

SD14 14号溝 (図版25・27、写真図版26)

U6グリッドに位置する。SP42を切る。幅20～38cm、深さは27cmである。主軸方位はN-60°-Eで、SD5とほぼ同じである。覆土は5層に分かれ、腐植物を含んだ黒褐色土などがブロック状に堆積する。断面形は半円状である。古代の遺物包含層を切って構築されている。出土遺物は珠洲焼甕があり、中世の遺構と考えられる。

SD74 74号溝 (図版26・28、写真図版28)

調査区最東端部のE4グリッドに位置する。断面からはSD76を切る。深さは32cmである。主軸方位はN-87°-Eである。覆土は5層に分かれ、黄灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は少なく、須恵器無台杯がある。

SD76 76号溝 (図版26・28、写真図版28)

E4～G4グリッドに蛇行しながら位置する。断面からはSD74に切られる。幅は170～250cm、深さは10～17cmである。覆土は3層に分かれ、黄灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は少なく、須恵器長頸瓶、土師器長甕がある。

SD79 79号溝 (図版26・28、写真図版28)

G3～G4グリッドに位置する。幅は150～168cm、深さは49cmである。主軸方位はN-22°-Eである。覆土は7層に分かれ、黄灰色粘質土などがブロック状に堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は少なく、土師器長甕がある。

SD90 90号溝 (図版26・28、写真図版28)

S5～S6グリッドに位置する。幅は250～310cm、深さは23cmである。主軸方位はN-25°-Wである。覆土は単層で、オリーブ灰色粘質土が堆積する。断面形は台形状である。出土遺物は少なく、土師器無台椀・小甕がある。

3) ピット (SP)

SP48 48号ピット (図版26・29、写真図版28)

I3グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は30×16cm、深さ39cmを測る。断面形はU字状である。覆土は4層に分かれ、柱痕を留める。中位から下位に長さ約20cm、径10cmの柱根が遺存する。出土遺物はない。

SP64 64号ピット (図版26・29、写真図版28)

J3グリッドに位置する。方形を呈し、規模は30×26cm、深さ13cmを測る。断面形は半円状である。覆土は2層に分かれ、柱痕を留める。出土遺物はない。

4) 河川

河川20 (図版25・26・29、写真図版28)

M3～P3、O4～Q4、Q5グリッドにかけて確認された。本河川は国道403号線バイパス取付道路調査区で確認された河川3及び河川108と連結する同一河川の一部である。西側では流木も確認される。覆土は腐植物を多量に含む土層である。出土遺物は少なく、土師器長甕がある。

11 G 区の遺構

A G 区の概要

G 区は東西方向に伸びる調査区で、東側で F 区と接続する。西側約 3m に A 区があり、遺跡の内容も A 区と類似する。また、南側 5m の距離で、H 区がある。遺構は疎らで、南北方向に伸びる溝や河川跡が中心となる。古墳時代中期～平安時代の遺構、遺物が見られる。

B G 区遺構各説

1) 溝 (SD)

SD11 11 号溝 (図版 30・31、写真図版 29)

E3 グリッドに位置する。幅は 80～142cm、深さは 23cm である。主軸方位は N - 22° - E である。覆土は 2 層に分かれ、レンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。

2) 河 川

河川 5 (図版 30・31、写真図版 29・30)

J2～K2 グリッドにかけて確認された。主軸方位 N - 4° - W、南～北に走向する自然流路である。幅は 550cm、深さ 24cm である。覆土は腐植物を含んだ褐灰色粘質土が堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。

河川 9 (図版 30・32、写真図版 30)

F3～G3 グリッドにかけて確認された。主軸方位 N - 29° - E、南～北に走向する自然流路である。西側を河川 10 に切られる。現状で幅は約 15m、深さ約 1.5m である。流木も多く見られた。覆土は腐植物を含んだ黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。東側は II b 層から掘り込まれた 12～15 層を覆土とする溝が確認される。中世以降の掘削と見られる。出土遺物は比較的多く、古式土師器高杯・壺・甕、須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している。出土状況に違いはあるが、古式土師器が比較的まとまって出土する点は、A 区河川 1・2 との関係が考慮される。

河川 10 (図版 30・32、写真図版 30)

G3～H3 グリッドにかけて確認された。主軸方位 N - 33° - E、南～北に走向する自然流路である。河川 9 を切る。現状で幅は約 4.5m、深さ約 82cm である。覆土は腐植物を含んだ黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、古式土師器甕、須恵器鉢・横瓶、土師器小甕、木製品の下駄などが出土している。

河川 26 (図版 30・32、写真図版 30)

D3～E3 グリッドにかけて確認された。主軸方位 N - 14° - E、南～北に走向する自然流路である。底面ほぼ中央部に SD21 がある。現状で幅は約 9.9m、深さ約 48cm である。覆土は明青灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。

12 H 区の遺構

A H 区の概要

H 区は東西方向に伸びる調査区で、北側 5m の距離で、G 区がある。遺構は疎らで、南北方向に伸びる河川跡が中心となる。G 区の河川跡と一連のものが確認された。古墳時代中期～平安時代の遺物が見られるが、極めて少ない。

B H 区遺構各説

1) 土 坑 (SK)

SK12 12 号土坑 (図版 33・34、写真図版 31)

調査区の西端部、H3 グリッドに位置する。河川 1 の底面で確認された。平面形は楕円形で、規模は現状で (138) × 108cm、確認面からの深さは 46cm である。覆土は 3 層に分層され、褐灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物はない。

SK17 17 号土坑 (図版 33・34)

E4～F4 グリッドに位置する。河川 2 の底面で確認され、河川 2 の一部に切られる。平面形は長方形に近く、規模は現状で (124) × 94cm、確認面からの深さは 40cm である。覆土は 5 層に分層され、褐灰色粘質土などが水平に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物はない。

2) 河 川

河川 1 (図版 33・34、写真図版 31)

調査区の西端部、G3、H3、H4 グリッドに位置する。主軸方位 N - 45° - E、南～北に走向する自然流路である。確認面からの深さ 138cm である。覆土は腐植物を多量に含んだ灰黄褐色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は少なく、土師器長甕のみである。なお、走向方向や土層から G 区河川 10 と連結する可能性が高い。

河川 2 (図版 33・34、写真図版 31)

E4～F4 グリッドに位置する。主軸方位 N - 8° - E、南～北に走向する自然流路である。最終的な幅は約 8m、確認面からの深さ 50～88cm である。土層断面から時期が異なる河川が重なることが理解される。覆土 6、7 層が古く、それを切る 8～14 層が新しい流路である。8～14 層の流路も 8～11 層が古く、12～14 層が新しい流路である。8～14 層の流路は中世以降の河川であろう。覆土は腐植物を含んだ灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、古式土師器高杯、須恵器甕、土師器長甕がある。なお、走向方向や土層から G 区河川 9 と連結する可能性が高い。

河川 5 (図版 33・34、写真図版 31)

調査区の東端部、A5 グリッドに位置する。主軸方位 N - 85° - E、南西～北東方向に走向する自然流路である。確認面からの深さ 30cm である。覆土は単層で、黄灰色粘質土が堆積する。断面形は弧状である。出土遺物はない。

13 I 区の遺構

A I 区の概要

I 区は東西方向に伸びる調査区で、国道 403 号線バイパス取付道路調査区から南へ約 10m の位置にある。遺構は部分的に集中する区域もあるが、総じて密度は低い。部分的ではあるが、掘立柱建物跡 1 棟の存在を推測させる柱列が 1 基確認された。その他、溝は少なく、土坑、ピットが中心である。また、古代の遺構及び遺物包含層を切る地震による液状化現象の痕跡（噴砂）が顕著に見られた。

B I 区遺構各説

1) 掘立柱建物跡 (SB)

SB1 1 号掘立柱建物跡 (図版 35・36、写真図版 33)

J6～J7 グリッドに位置する。東西方向の 2 間分 (3.7m)、3 基の柱穴を確認した。周辺の遺構分布状況から、建物主軸方向は南北に向け、北側に建物跡が展開するものと見られる。3 基確認された柱穴には全て柱根が遺存する。柱穴掘り方確認面よりも、柱根の頭が上部に出る。柱穴が調査区壁面にかかることなどから、きちんと柱穴掘り方を確認できていないが、平面形はすべて円形と見られる。掘り方規模は 70～80cm、深さは 75～102cm である。覆土は柱痕が確認でき、灰白色砂質土などが堆積する。断面形はすべて U 字状を呈する。柱根径は 22～25cm と太い。遺存長は約 110～150cm 前後である。柱根は SP29 が北に 4°、SP30 が西に 16°、SP50 が西に 3°傾いている。なお、樹種同定から全てクリを使用していることが確認された。柱穴からの出土遺物は少なく、SP29 と SP50 から土師器小甕の小片が出土したのみである。

2) 土 坑 (SK)

SK34 34 号土坑 (図版 36・37、写真図版 33)

調査区の東端部、I8 グリッドに位置する。西側の一部は調査区域外に広がる。平面形は楕円形と見られ、規模は現状で (128) × (64) cm、確認面からの深さは 24cm である。覆土は単層で、断面形は台形状を呈する。出土遺物は少なく、土師器長甕・小甕がある。

3) 不明遺構 (SX)

SX60 61 号不明遺構 (図版 35・37)

O6～O7 グリッドに位置する。北側の一部は調査区域外に広がる。平面形は不整形で、規模は現状で (210) × (112) cm、確認面からの深さは 18cm である。覆土は単層で、断面形は弧状を呈する。出土遺物は、須恵器杯蓋・有台杯・長頸瓶・甕、土師器長甕・小甕がある。東西方向に伸びる噴砂に切られる。

4) 溝 (SD)

SD58 58 号溝 (図版 35・37)

N6～O6 グリッドに位置する。幅は 194～216cm、深さは 12cm である。主軸方位は N - 24° -

Wである。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕がある。東西方向に伸びる噴砂に切られる。

14 J区の遺構

A J区の概要

J区はバイパス本線のⅢ区南東部に連続した調査区で、D区との連結部までとした。南側に7カ所の確認調査トレンチを設けながら、調査範囲を決めた。7トレンチや溝から中世の遺物が出土したが、J区の主体は本線のⅢ区同様に古代である。概ね南北方向の溝を中心に井戸、土坑、ピットなど多数の遺構が確認された。

B J区遺構各説

1) 井戸 (SE)

SE87 87号井戸 (図版38～40、写真図版36)

調査区の最北東部でD区との連結部に近いN1グリッドに位置する。西半分が調査区域外に広がる。平面形は楕円形で、現状で長軸228cm、確認面から深さ111cmである。覆土は10層に分層され、炭化物を多量に含んだ黒色土、灰黄色砂質土がレンズ状に堆積し、断面形は半円状を呈する。遺物はそれ程多くなく、土器類は須恵器甕、土師器無台碗のみである。しかし、覆土7層以下の土層から木製品の斎串が5点出土している。出土状態が確認できたものは横位の状態で出土した。図示した土器からは、Ⅶ₁期と考えられる。

2) 土坑 (SK)

SK15 15号土坑 (図版38～40、写真図版36)

R6グリッドに位置する。SK95、SD99を切る。平面形は不整形であるが長方形を呈し、主軸方位をN-65°-Eと東西方向に向ける。長軸の長さ270cm、幅100～116cm、深さは38cmである。覆土は4層に分層され、黒色粘質土を中心にレンズ状に堆積する。断面形は半円状を呈する。1、2層を中心に多量の土器片が出土した。出土遺物は、須恵器有台碗・無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗がある。図示した土器からは、Ⅶ₁期と考えられる。

SK29 29号土坑 (図版38～40、写真図版37)

Q4～Q5グリッドに位置する。SD30を切る。平面形は円形で、規模は82×72cm、深さは15cmである。覆土は3層に分層され、黒褐色粘質土を中心にレンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は多く、須恵器有台碗・無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗がある。図示した土器からは、Ⅵ_{2・3}期と考えられる。

SK90 90号土坑 (図版38・39・41、写真図版37)

N1グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸の長さ108cm、幅68cm、深さは14cmである。覆土は2層に分層され、腐植物を含んだ黒褐色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状を呈する。出土遺物は少なく、土師器無台碗がある。

3) 溝 (SD)

SD20 20号溝 (図版38・39・41、写真図版37)

Q5～R5グリッドに位置する。主軸方位はN-52°-Eで、北東～南西方向に伸びる。SD72など北西～南東方向に伸びる数条の溝やSD27、SK23などを切り、南北方向に伸びるSD30、SD75やSD25に切られる。幅52～64cm、深さは22cmである。覆土は3層に分かれ、黄灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は土師器無台杯・無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、土製品(笠状)がある。図示した土器からは、一部古い土器も混入するがVI期主体と考えられる。

SD67 67号溝 (図版38・39・41、写真図版37)

P3グリッドに位置する。主軸方位はN-74°-Wで、北西～南東方向に伸びる。SD65など南北方向に伸びる数条の溝を切る。土層断面からは2条の溝が合流した形が窺えるが、合わせた幅458～585cm、深さは57～62cmである。覆土は30層に分かれ、暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。一部に流木などが見られる。断面形は弧状である。出土遺物は須恵器無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、金属製品(刀子)、木製品(漆器・弓)がある。出土遺物は古代が中心であるが、漆器は中世である。本遺構はバイパス本線Ⅲ区河川1と連結するものと見られ、河川1からは中世の遺物が出土していることから、本遺構も中世の所産と考えられる。

SD71 71号溝 (図版38・39・42、写真図版37)

O2グリッドに位置する。主軸方位はN-21°-Wで、南北方向に伸びる。幅74～126cm、深さは26cmである。覆土は2層に分かれ、黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。遺物は主に2層から出土し、須恵器長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・鉢がある。図示した土器からは、VII期と考えられる。

4) ピ ッ ト (SP)

SP85 85号ピット (図版38・39・42、写真図版38)

O1グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は58×36cm、深さ27cmを測る。断面形は箱状である。覆土は3層に分かれ、柱痕を留める。出土遺物はない。

SP102 102号ピット (図版38・39・42)

O2グリッドに位置する。西半分は土側溝により切られる。楕円形を呈し、長軸の規模は32cm、深さ35cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。柱根が遺存する。土坑(番号なし)の覆土である2、3層を切る。3層から土師器長甕の大型破片が出土している。

SP103 103号ピット (図版38・39・42、写真図版38)

O1グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は20×14cm、深さ41cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。柱根が遺存する。樹種はクリである。

15 K区の遺構

A K区の概要

K区はバイパス本線のI・II区南東部に連続した調査区で、J区とはD区との連結部から区別した。南

北方向の溝、土坑、ピットなど多数の遺構が確認された。中央部付近に遺構の空白域が存在するが、本線Ⅱ区から連続した同様の遺構が確認される状況である。

B K区遺構各説

1) 土坑 (SK)

SK1 1号土坑 (図版43・44、写真図版42)

M11グリッドに位置する。一部は土側溝により切られる。平面形は楕円形であるが、規模は56×52cm、深さ12cmを測る。断面形は台形状である。確認面上に須恵器長頸瓶の大型の底部片が、底部を上に向けた形で出土した。他の出土遺物は須恵器甕、土師器無台碗・長甕がある。図示した土器からは、VI_{2・3}期と考えられる。

SK19 19号土坑 (図版43・44、写真図版42)

M10グリッドに位置する。SD21、SD60を切る。平面形は円形で、規模は90×86cm、深さ13cmを測る。断面形は台形状である。出土遺物は多く、須恵器長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕、木製品(板状)がある。また、大きな礫も混入した。図示した土器からは、VI_{2・3}～VII₁期と考えられる。

SK74 74号土坑 (図版43・44、写真図版42)

H6～I6グリッドに位置する。東半部は調査区域外に拡がる。平面形は楕円形と見られ、現状で規模は(202)×70cm、深さ64cmを測る。覆土は13層に分層され、上部に2層の黒色腐植物層が堆積する。他も炭化物などを含んだ暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。7層から完形の土師器無台皿が正位で出土した。他の出土遺物は、須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕がある。図示した土器からは、VI_{2・3}期と考えられる。

SK75 75号土坑 (図版43・44)

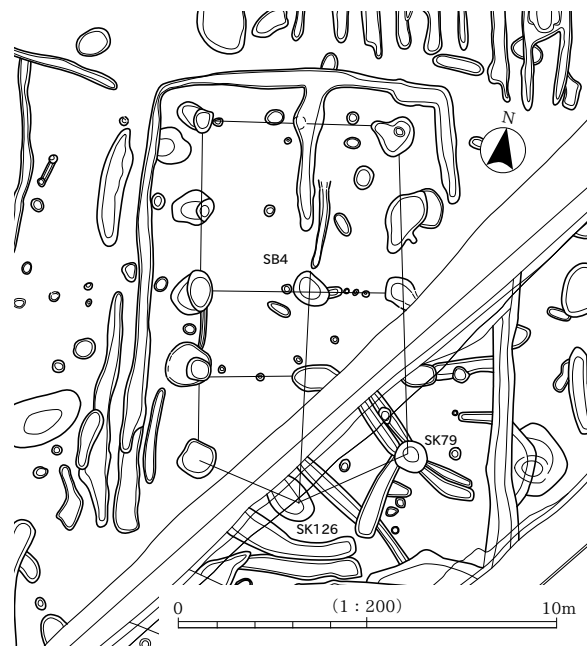
H4グリッドに位置する。東半部は調査区域外に拡がる。SD87に切られる。現状規模は(254)×(102)cm、深さ19cmを測る。覆土は単層で、断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗がある。

SK77 77号土坑 (図版44・45、写真図版43)

G4グリッドに位置する。SD98・99を切る。平面形は円形で、規模は152×144cm、深さ25cmを測る。覆土は6層に分層され、暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器杯蓋・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕がある。図示した土器からは、VI_{2・3}期と考えられる。

SK79 79号土坑 (図版43・45)

H4グリッドに位置する。SD123、SD124を切る。平面形は円形で、規模は86×80cm、深さ53cmを測る。覆土は8層に分層され、黒褐色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は、須恵器無台杯・甕、土



第12図 馬越遺跡Ⅰ区 SB4平面図

師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、土製品がある。なお、本遺構は土坑としたが、位置、形状、規模などを考慮するとバイパス本線 I 区で確認された SB4 の南東端部を構成する柱穴と見られる（第 12 図）。後記する SK126 も同様の可能性がある。これにより SB4 の規模が確定したと見られるが、規模などの変更はない。

SK88 88 号土坑（図版 44・45）

G3 グリッドに位置する。東半部は調査区域外に広がる。平面形は楕円形で、現状規模は（138）×118cm、深さ 15cm を測る。覆土は 2 層に分層され、暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕がある。

SK126 126 号土坑（図版 43・45）

H4 グリッドに位置する。SK79 とは 3.5m の距離にある。西半部は調査区域外に広がる。平面形は楕円形を呈し、現状規模は（120）×96cm、深さ 40cm を測る。覆土は 6 層に分層され、灰黄色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・甕、土師器長甕がある。図示した土器からは、V₂ 期と考えられる。なお、本遺構は土坑としたが、位置、形状、規模などを考慮するとバイパス本線 I 区で確認された SB4 の柱穴のひとつと考えられる。

SK181 181 号土坑（図版 43・45）

H4 グリッドに位置する。SK173、SK200 を切り、SD76 に切られる。SD76 > SK181 > SK173 > SK200 の新旧関係がある。現状規模は（212）×（66）cm、深さ 28cm を測る。覆土は 2 層に分層され、炭化物を含む暗灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、土師器無台碗・長甕がある。

SK190 190 号土坑（図版 44・46、写真図版 43）

G3 グリッドに位置する。平面形は不整形を呈し、規模は 86 × 70cm、深さ 6cm を測る。底面は西側に向かい傾斜する。北西端底面から銚帯金具が 1 点出土した。他の出土遺物は土師器小甕がある。

2) 溝 (SD)

SD47 47 号溝（図版 43・46）

N11 グリッドに位置する。SD46 と並列し、SD7、SK34 を切る。幅は 38 ~ 92cm、深さは 29cm である。主軸方位は N - 20° - W である。覆土は 2 層に分かれ、レンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は比較的多く、須恵器無台杯・長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕がある。「中家」墨書土器が出土している。図示した土器からは、VI_{2・3} 期と考えられる。

SD51 51 号溝（図版 43・46、写真図版 43）

J6 ~ J7 グリッドに位置する。幅は 156 ~ 220cm、深さは 21cm である。主軸方位は N - 7° - W である。覆土は 3 層に分かれ、黄灰色粘質土がレンズ状に堆積する。断面形は弧状である。出土遺物は、須恵器無台杯・長頸瓶、土師器長甕がある。図示した土器からは、V₂ ~ VI 期頃と考えられる。

SD76 76 号溝（図版 44・46）

H4 グリッドに位置する。SK181、SK201、SD108、SD115 を切る。幅は 50 ~ 86cm、深さは 45cm である。主軸方位は N - 9° - W である。覆土は 5 ~ 8 層に分かれ、黄灰色粘質土などがレンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は多く、須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、土製品（土器片円盤）がある。図示した土器からは、V₂ ~ VI_{2・3} 期の幅を持つと考えられる。

SD90 90号溝 (図版44・46)

G3グリッドに位置する。SK89、SK116に切られる。幅は30～60cm、深さは17cmである。主軸方位はN-12°-Wである。覆土は2層に分かれ、レンズ状に堆積する。断面形は半円状である。出土遺物は、須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋がある。図示した土器からは、VI_{2・3}～VII₁期頃と考えられる。

SD193 193号溝 (図版44・47、写真図版43)

G3グリッドに位置する。SK170に切られる。幅は32～52cm、深さは12～15cmである。主軸方位はN-4°-Wである。出土遺物は、「若」の墨書を持つ須恵器無台杯、長頸瓶がある。図示した土器からは、VI_{2・3}期頃と考えられる。

3) ピット (SP)

SP20 20号ピット (図版43・47)

M10グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は44×32cm、深さ34cmを測る。覆土は単層で、断面形は半円状である。柱根が遺存する。樹種はカツラである。出土遺物はない。

SP32 32号ピット (図版47、写真図版43)

M10～M11グリッドに位置する。楕円形を呈し、規模は48×34cm、深さ64cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。柱根が遺存する。柱根は東に21°傾く。樹種はクリである。出土遺物はない。

SP61 61号ピット (図版43・47、写真図版43)

M11グリッドに位置する。SD63に切られる。現状規模は(36)×(16)cm、深さ50cmを測る。覆土は単層で、断面形はU字状である。柱根が遺存する。樹種はクリである。出土遺物はない。

16 その他

噴砂

既往の調査区からも、強い地震により発生した液状化現象を起因とする噴砂の痕跡が多数確認されており、ほとんどが遺構埋没後に発生した地震による現象と想定されている。今回の調査で確認されたのはE区下層、F区、I区からである。

E区下層基本土層2断面では、地山を切り裂き、古代の遺構に覆われる形の砂脈が確認される。古代以前の地震によるものと推測される。F区ではSD76の覆土を砂脈が切ることから遺構埋没後の地震が想定される。I区では平面上でも非常に顕著に砂脈が確認できる。概ね東西方向の砂脈が主体で、主軸方位N-80～87°-W、N-88°-Eのもの、少ないが南北方向で主軸方位N-40°-Wのものが見られる。取付道路の調査区で確認された方位とほぼ同様である。砂脈の規模は幅10～30cm前後のものが主体であるが、幅70cmに及ぶ大きなものも見られる。長さは途切れながら9m以上のものもある。各砂脈は古代の溝や土坑を切っており、古代以降の地震によるものと推測される。

第V章 遺 物

1 遺物の概要

出土遺物の総量は、整理、分類前で平箱（44.5 × 32.5 × 16cm 内測）換算で 97 箱を数える。内訳は、土器 57 箱、土製品・石製品・金属製品で 2 箱、木製品 38 箱である。8 世紀中頃～10 世紀前半頃の古代の土器が中心で、他には古墳時代中期及び中世の遺物が出土している。主体時期である古代に限れば、土師器を主体とし、須恵器、黒色土器及び少量の施釉陶器が出土している。古墳時代中期の土器は A 区、G 区から主体的に出土し、B 区、H 区、J 区からも散発的に出土している。中世の遺物は C 区上層から主体的に出土し、B 区、E 区上層、F 区、J 区、K 区から少量出土している。土器以外では、円筒形・土錘・土器片円盤などの土製品、銚帯・鉄斧・刀子・銭貨などの金属製品、砥石などの石製品、木簡・下駄・櫛・漆器・櫛・斎串・曲物などの木製品が井戸や溝跡から出土している。

以下、出土遺物の説明にあたり、古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代に分けて記述する。古墳時代、奈良・平安時代の遺物については、器種分類を行い、遺構出土土器、包含層出土土器の順に記述する。遺構出土土器については、遺構別の番号順に行う。包含層出土土器は器種分類毎に行う。土製品、金属製品、石製品、木製品も種別毎に説明を行う。

2 古墳時代の土器

古墳時代の古式土師器は、A 区からまとまって出土した。次いで A 区に近い G 区から多く出土している。A 区の河川 1・2 からは総重量 11,807.7g、総点数 603 点の古式土師器が出土し、古式土師器全体重重量 16,467.8g の約 72%、全体総点数 952 点の約 63% を占める。G 区でも河川 9 から比較的多く出土し、溝や河川といった水に関係した遺構から多く出土する傾向がある。古墳時代の遺構、遺物は遺跡推定範囲の南西部に限定される。年代もほぼすべて古墳時代中期と見られる。他は B 区及び J 区の包含層から古墳時代後期の土器が少量出土している。

A 記述の方法

最初に土器の器種分類を行い、各区毎に遺構別、包含層出土順に記述する。成形・調整技法の表現は以下のように区分した。

①指などにより器面をなでたものを「ナデ」とした。②ヘラ状の工具を使い器面を磨いたものを「ミガキ」とした。③櫛歯状工具を使い器面を調整したものを「ハケメ」とした。④板状の工具を使い器面を削ったものを「ケズリ」とした。

B 土器の器種分類（第 15 図）

器種は高杯、壺、甕、小型甕、有孔鉢がある。

高杯 完形品は少ない。杯部と脚部の形態により分類し、両者を組み合わせて表記した。杯部は、屈曲

するA類、内湾するB類、口縁部が外反するC類に大別される。A類は、杯部の下半部で段を持つものをA1類、杯部の中ほどに明瞭な稜を持つものをA2類とした。C類は、杯部が直線的に伸びるものをC1類、杯部が内湾するものをC2類とした。脚部は、いわゆる「畿内系」の屈折脚をI類、「ハ」の字状に開脚するものをII類とした。II類は、中ほどで少し屈折するII1類、「ハ」の字状に外反するII2類とした。

壺 比較的大型であるが、点数は少ない。いずれも二重口縁であるが、口縁部の形態で分類した。大別として二重口縁のものをA類とし、内湾するA1類、中ほどで括れ外反するA2類とした。

甕 基本的にすべて口縁部が「く」の字状に外反するものである。その中で、口縁部がやや長く、直線的に伸びるものをA類、口縁部がやや短く屈曲するものをB類とした。A類は、口径20cmを超えるものをA1類、口径20cm以下のものをA2類とした。B類は、口径20cm前後のものをB1類、口径20cm以下のものをB2類とした。なお、壺・甕類の底部資料については、底部中央が凹むA類、底部全体が上げ底状のB類、平底のC類に分類した。C類は底径6cm前後のC1類と3～4cm前後のC2類とした。

小型甕 口径13cm、器高14cm前後で、口縁部が直線的に伸びる器形である。外面はケズリ調整痕が見られる。

有孔鉢 1点のみ出土した。内外面ともハケメ調整痕が見られる。

C 遺物各説

1) A区出土土器

a 遺構出土土器

SD6 6号溝(図版48 4、写真図版44)

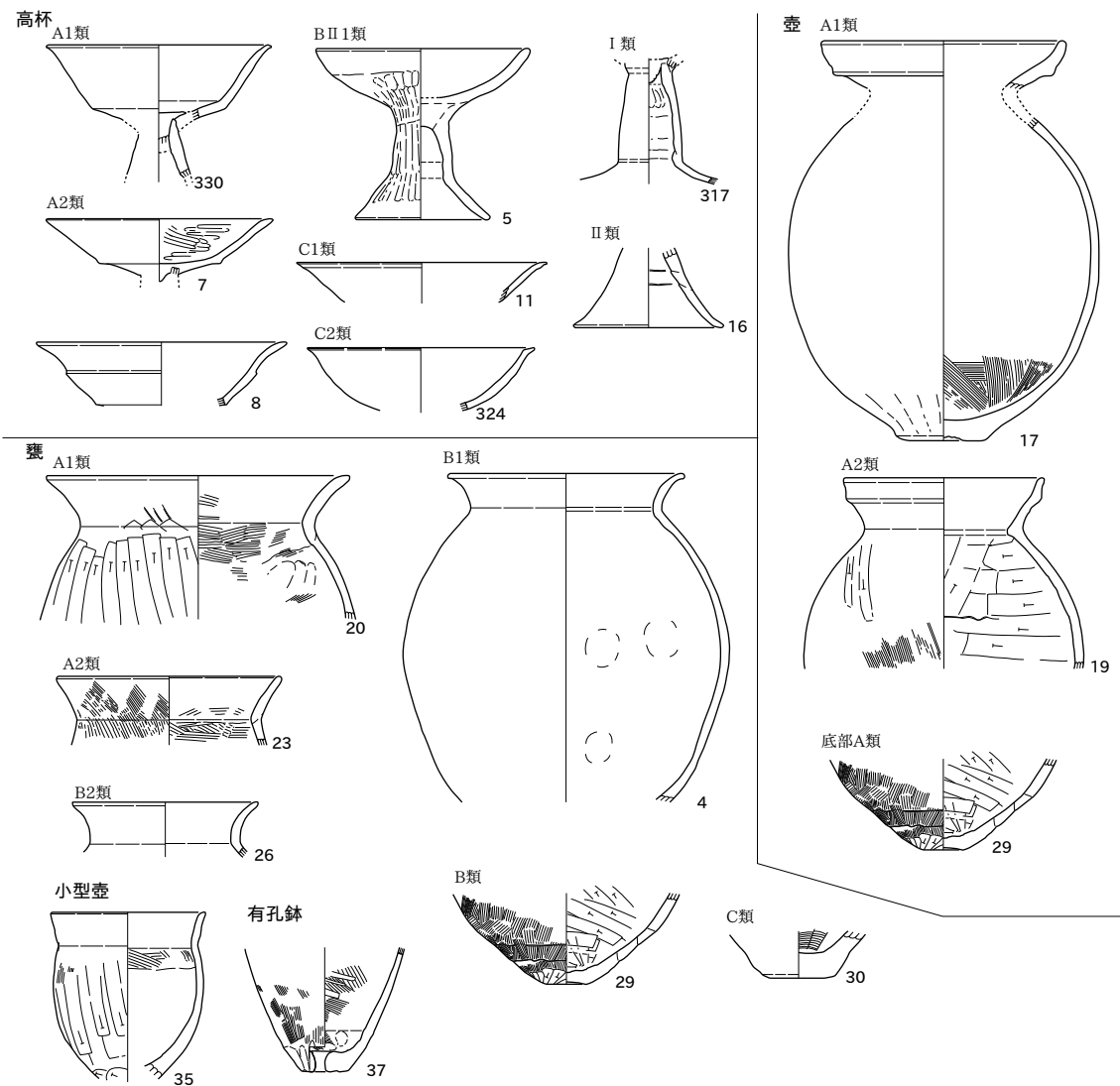
4はB1類の甕である。倒卵形を呈した体部中位に最大径を持ち、底部を欠く。内外面とも磨耗により不明瞭であるが、ナデが施される。

河川1・2(図版48 5～37、写真図版44～46)

5～16は高杯である。5はBII1類の完形品である。内湾する肉厚の杯部にやや長めの脚部が付く。杯部、脚部ともに外面は縦方向のミガキ、内面はナデが施される。6はB類の杯部片である。口縁端部がやや外反する。外面は縦方向のミガキ、内面は底面にまでハケメが施されている。5・6は胎土が類似する。7はA1類の杯部片である。内面はミガキ、ナデが施される。8・9はA2類の杯部片である。7と9は色調が橙色で類似する。10～12はC1類の杯部片である。13～16は脚部である。13・14はI類である。13は中ほどが膨らむ器形である。外面は縦方向のミガキが施される。内面には多段の粘土紐接合痕を明瞭に残す。焼成良好である。14は外面に縦方向のミガキ、裾部内面にハケメが施される。15・16はII2類である。全体的に胎土、調整ともに粗いものが多い。

17～19は二重口縁の壺である。17は中央がやや凹む底部から卵形の体部が付く。体部の器壁はやや薄い。口縁部はやや厚手で内湾するA1類である。磨耗のため、調整は不明瞭であるが、体部下半にハケメが見られる。胎土、調整ともに粗い。18・19はA2類である。18は胎土、調整ともに粗い。19は外面にハケメと縦方向、内面は横方向のケズリが施される。

20～27は甕の口縁～体部片である。口縁部は「く」の字状に外反し、端部は丸くおさまられる。20～22は口径20～25cm前後のA1類である。20は体部外面に縦方向のケズリ、内面はハケメが施される。21・22は内外面ともにハケメが見られる。ハケメは粗い。20・22の内面には指ナデ痕が見られる。胎土、



第13図 馬越遺跡古式土師器器種分類図 (S=1:6)

調整ともに粗いが、焼成は比較的良好。23は口径18cmとやや小型のA2類である。口縁部の外反度が緩やかである。外面には斜方向、内面には横方向のハケメが施される。24～27はB類である。24・25は口径20cm前後のB1類、26・27は口径15cm前後のB2類である。24・26は胎土が粗い。

28～34は壺・甕の底部片である。28はA類で、内外面ともにケズリが施されている。29はB類で、体部外面にはランダムなハケメとケズリ、内面はケズリが施される。外面にはススが付着する。30・31はC類で、厚みがある。32はA類、33・34はC2類である。

35・36は小型甕である。ともに口縁部が直線的に伸び、外面は縦方向のケズリが施される。

37は有孔鉢である。平底の底部に直径1.0cmの孔を穿つ。内外面ハケメが施される。

2) B区出土土器

a 包含層出土土器 (図版51 71、写真図版48)

71は杯である。口縁部中位で括れ、外反する。古墳時代後期と見られる。

3) G区出土土器

a 遺構出土土器

河川9 (図版62 315～318、写真図版59)

315～317は高杯である。315は脚部でⅡ2類、316は杯部でC1類、317は脚部でI類である。315・317ともに胎土が粗い。318は甕でB2類である。端部にやや面を持つ。

b 包含層出土土器 (図版62 324～326、写真図版59)

324～326は高杯である。324はC2類、325はA1類の杯部である。326は脚部でⅡ2類である。324は胎土が粗い。

4) H区出土土器

a 包含層出土土器 (図版63 330、写真図版60)

330は高杯である。やや深身の杯部を持つA1類である。

5) J区出土土器

a 包含層出土土器 (図版66 420、写真図版64)

420は高杯脚部である。短脚で、「ハ」の字に開脚する。古墳時代後期のものと見られる。

6) 立会い調査出土土器 (図版71 524、写真図版70)

524は甕の底部片である。底部外面にまでランダムなハケメが施される。古墳時代中期であろう。

3 奈良・平安時代の土器

古代の遺物は、土師器を主体とし、須恵器・黒色土器と少量の施釉陶器が出土した。各区合計の総重量比率では、土師器66.3%(95,045.8g)、須恵器30.7%(44,064.2g)、黒色土器2.9%(4,206.2g)、施釉陶器0.1%(68.4g)である。総点数比率では、土師器85.2%(12,272点)、須恵器10.3%(1,479点)、黒色土器4.4%(638点)、施釉陶器0.1%(7点)である。口残値の比率は総点数比とほぼ同じである。

B区の全体出土土器重量は23,507.7gで、機能別の比率内訳は食膳具が44.6%、煮炊具が20.0%、貯蔵具が35.4%で、食膳具は、施釉陶器20.2g(0.2%)、土師器8,256.5g(78.8%)、黒色土器1,224.5g(11.7%)、須恵器977.8g(9.3%)と、土師器食膳具が8割近くを占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が69.4%、煮炊具が25.6%、貯蔵具が5.0%で、食膳具は、施釉陶器3点(0.1%)、土師器1,602点(83.8%)、黒色土器208点(10.9%)、須恵器99点(5.2%)となる。C区の全体出土土器重量は21,089.7gで、機能別の比率内訳は食膳具が49.3%、煮炊具が35.0%、貯蔵具が15.7%で、食膳具は、土師器9,323.7g(89.8%)、黒色土器686.9g(6.6%)、須恵器377.2g(3.6%)と、土師器食膳具が9割を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が68.2%、煮炊具が28.3%、貯蔵具が3.5%で、食膳具は、土師器1,676点(93.1%)、黒色土器90点(5.0%)、須恵器35点(1.9%)となる。D区の全体出土土器重量は8,337gで、機能別の比率内訳は食膳具が20.3%、煮炊具が44.0%、貯蔵具が35.7%で、食膳具は、土師器975g(57.6%)、

3 奈良・平安時代の土器

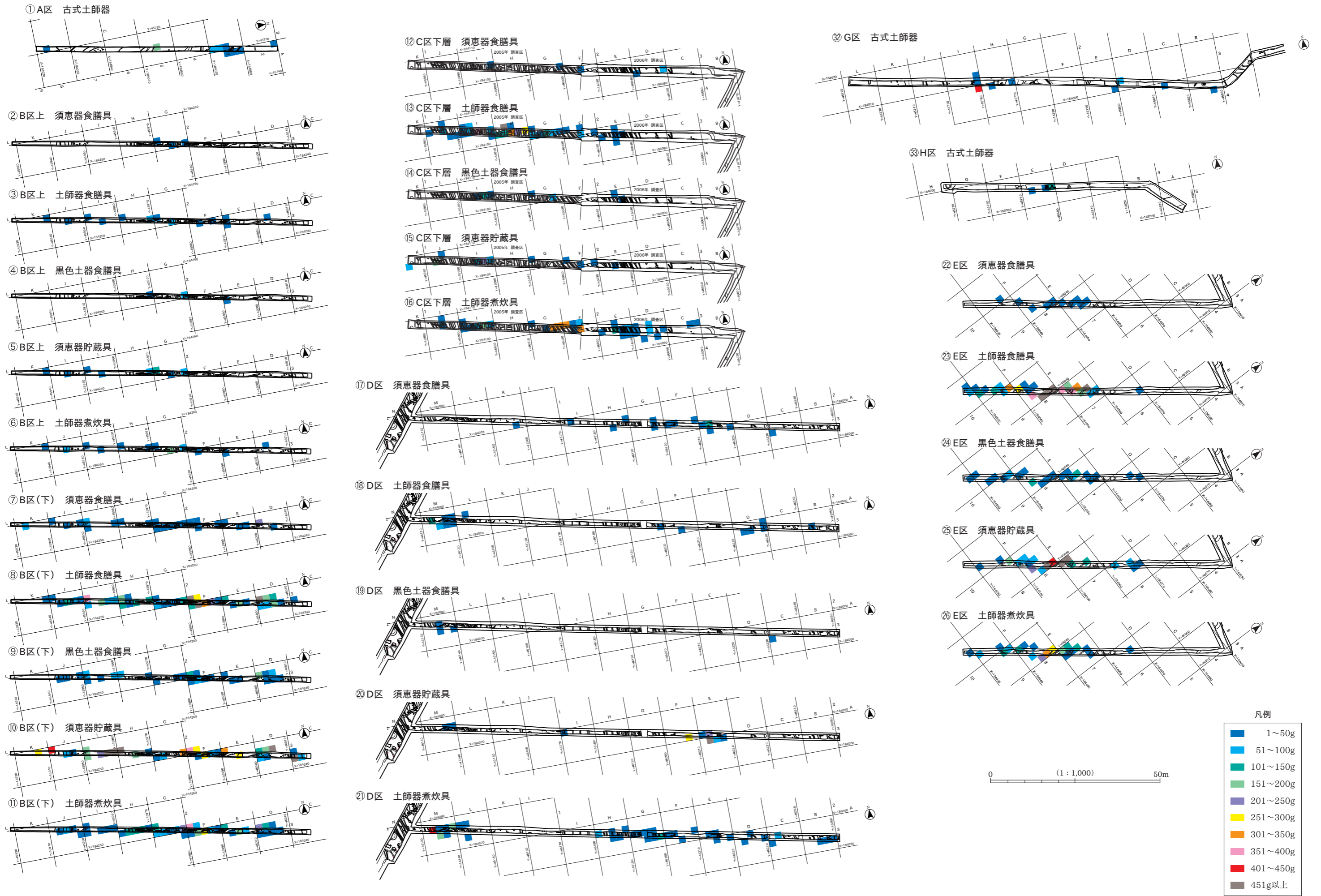
黒色土器 30.8g (1.8%)、須恵器 688.6g (40.6%) と、須恵器が 4 割を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が 29.3%、煮炊具が 59.7%、貯蔵具が 11.0% で、食膳具は、土師器 136 点 (71.6%)、黒色土器 6 点 (3.1%)、須恵器 48 点 (25.3%) となる。E 区の全体出土土器重量は 18,828.5g で、機能別の比率内訳は食膳具が 57.3%、煮炊具が 16.0%、貯蔵具が 26.7% で、食膳具は、土師器 9,114.9g (84.4%)、黒色土器 1,262.7g (11.7%)、須恵器 422.3g (3.9%) と、やはり土師器食膳具が 8 割以上を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が 84.7%、煮炊具が 9.4%、貯蔵具が 5.9% で、食膳具は、土師器 1,611 点 (87.2%)、黒色土器 201 点 (10.9%)、須恵器 35 点 (1.9%) となる。I 区の全体出土土器重量は 6,971.4g で、機能別の比率内訳は食膳具が 20.8%、煮炊具が 64.1%、貯蔵具が 15.1% で、食膳具は、土師器 522.8g (36.1%)、須恵器 925.2g (63.9%) と、須恵器食膳具が 6 割以上を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が 18.6%、煮炊具が 78.0%、貯蔵具が 3.4% で、食膳具は、土師器 80 点 (55.6%)、須恵器 64 点 (44.4%) となる。J 区の全体出土土器重量は 21,348.5g で、機能別の比率内訳は食膳具が 22.3%、煮炊具が 68.5%、貯蔵具が 9.2% で、食膳具は、施釉陶器 4.0g (0.1%)、土師器 3,909.9g (82.1%)、黒色土器 312.1g (6.6%)、須恵器 533.8g (11.2%) と、土師器食膳具が 8 割以上を占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が 33.4%、煮炊具が 64.3%、貯蔵具が 2.3% で、食膳具は、施釉陶器 1 点 (0.1%)、土師器 646 点 (85.0%)、黒色土器 53 点 (7.0%)、須恵器 60 点 (7.9%) となる。K 区の全体出土土器重量は 37,201.9g で、機能別の比率内訳は食膳具が 22.3%、煮炊具が 47.3%、貯蔵具が 30.4% で、食膳具は、土師器 4,706.9g (56.6%)、黒色土器 643g (7.7%)、須恵器 2,971.9g (35.7%) と、須恵器食膳具が 4 割近くを占める。点数比では、機能別の比率内訳は食膳具が 40.5%、煮炊具が 53.3%、貯蔵具が 6.2% で、食膳具は、土師器 667 点 (60.6%)、黒色土器 74 点 (6.7%)、須恵器 360 点 (32.7%) となる。A・F・G・H 区は出土量が少なく、検討していない。重量比率から見ると、食膳具が卓越する B・C・E 区と煮炊具が卓越する D・I・J・K 区に大別される。また、食膳具の内訳を見ると、土師器が 8 割近くを占める B・C・E・J 区、土師器が 6 割、須恵器が 4 割を占める D・K 区、土師器が 4 割、須恵器が 6 割を占める I 区に大別される。この傾向は各区での主体的時期差の反映と考えられる。

包含層の各区毎のグリッド別出土重量分布図を第 13・14 図に示した。B 区上層からは散発的に出土するが、下層はほぼ全域から出土する。C 区下層では食膳具、貯蔵具は 2005 年調査区に偏って見られる。土師器食膳具は H2 グリッドに多く見られる。煮炊具はより広範囲から出土する。D 区では食膳具、貯蔵具ともに限定的な出土状況であるが、煮炊具はやや広範囲から出土する。E 区では遺構が集中する調査区中央～南西部分に集中する。F 区では須恵器、黒色土器食膳具は出土する区域が限定されるが、土師器食膳具、貯蔵具、煮炊具は広範囲から出土する傾向にある。I 区では食膳具、貯蔵具は散発的な出土状況であるが、煮炊具は一部に集中地点があるがほぼ全域から出土する。J・K 区では、遺構の空白地帯を除き、ほぼ全域から出土している。食膳具に際立った集中出土区域は見られない。貯蔵具は散発的な出土状況で、煮炊具は広範囲から出土するが、いくつかの集中区域を持つ状況である。E 区を除き、いずれの区も遺構の分布密度と出土状況の関係に大きな矛盾は見えない。

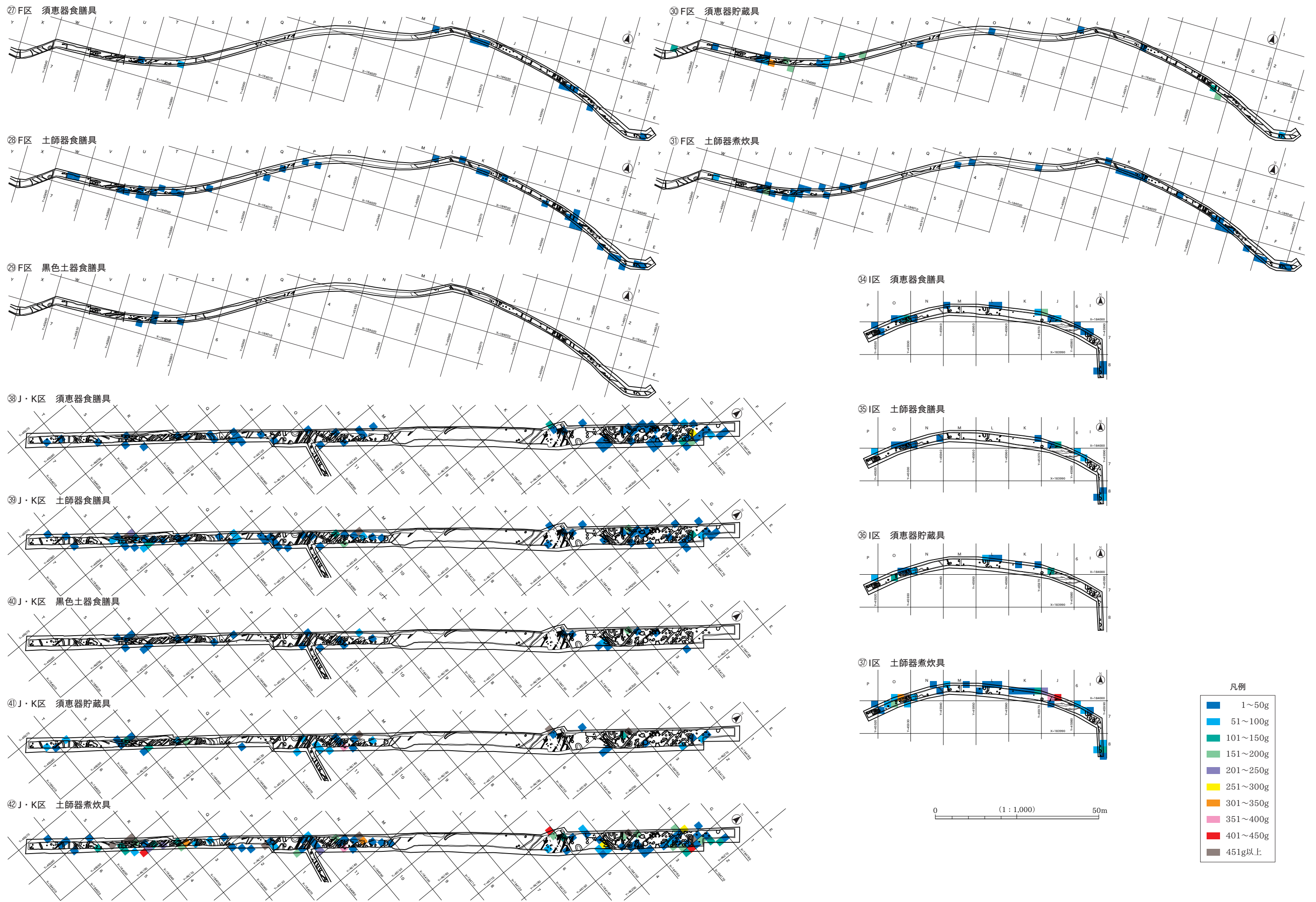
出土した奈良・平安時代の土器の年代は 8 世紀中頃～10 世紀前半にまたがり、9 世紀後半～10 世紀前半頃を主体とする。

A 記述の方法

最初に出土資料全体の分類を行い、次に各区毎の遺構別、包含層出土土器について記す。遺構の順序は「第



第 14 図 包含層のグリッド別土器出土重量分布図 (1) (S=1 : 1,000)



第 15 図 包含層のグリッド別土器出土重量分布図 (2) (S=1:1,000)

IV章「遺構」に準じている。主に特徴的な土器について記述し、他については巻末の遺物観察表を参照願いたい。調整技法の表現については、次のとおりとした。

①ロクロ・回転台を利用した撫で・削り・ハケ目をそれぞれ「ロクロナデ」・「ロクロケズリ」・「カキメ」とした。②ロクロ・回転台を利用しない撫で・削り・ミガキ・ハケ目をそれぞれ「ナデ」・「ヘラケズリ」・「ヘラミガキ」・「ハケメ」とした。③貯蔵具・煮炊具などの外面に見られる叩板工具を用いた成形痕を「タタキメ」、内面の当て具工具を用いた成形痕を「当て具痕」とした。

須恵器胎土の特徴から、次のとおり分類し、産地を推測した。分類にあたり『吉田町史』[春日 2000]を参考とした。なお、土師器の胎土については分類していない。

A群 阿賀北地域の窯跡群。胎土に石英・長石・雲母など花崗岩起源の大型の鉱物を多量に含み、器面が粗い胎土のもの。笹神丘陵の五頭山麓窯跡群を中心とする。本遺跡からの直線距離は約32kmである。

B群 佐渡小泊窯跡群。胎土に白色小粒子を多く含み、器面がなめらかなもの。器面に黒色の斑点や吹出しが見られる。本遺跡からの直線距離は約67kmで、最も遠いところにある。

C群 新津丘陵窯跡群。胎土に小型の石英・長石を比較的多く含み、器面がなめらかで粘土質の強い胎土のもの。本遺跡からの直線距離は約17kmで、現在のところ最も近い窯跡である。

D群 西古志窯跡群。胎土の粒子は砂質が強く、海綿骨針を含むものが多い。本遺跡からの直線距離は約27kmである。

E群 A～D群以外のもの。C群に類似するが、器形などを考慮し、高田平野西部丘陵産と推定されるものである。

なお、時期区分については、『新潟県の考古学』における春日真実氏の編年[春日 1999]を基準とし、その後の春日氏の論考[春日 2005 ほか]も参考にした。

B 土器の器種分類

1) 灰釉・緑釉陶器 (第16図)

出土点数は僅かである。灰釉陶器を4点、緑釉陶器を1点図示した。灰釉陶器の器種は長頸瓶、小瓶がある。皿類も見られるが、小片のため図示していない。緑釉陶器は碗がある。

2) 須恵器 (第16図)

食膳具と貯蔵具に大別される。食膳具は杯蓋・有台杯・無台杯・有台碗・無台碗が、貯蔵具には小型壺・広口壺・小型瓶・長頸瓶・横瓶・甕がある。

杯蓋 全体的に出土量は少ない。つまみと端部の形態から細分した。A類はつまみがボタン状を呈し中央部がほぼ平らなもの、B類はつまみが擬宝珠形を呈し中央部が盛り上がるもの、C類はつまみがボタン状を呈し中央部が凹むものとした。また、端部の形態からは、1類が端部断面を長く屈曲させ、断面三角形になるもの、2類が端部を丸くおさめるもの、3類が端部断面を短く屈曲させ、先端が丸まるものとした。口径は13.0～17.2cmのものが見られるが、口径約17cm以上のものをI類、15～17cm前後のものをII類、13～14cmのものをIII類とした。なお、内面に墨痕があり、転用硯と見られるものが2点確認される。

有台杯 杯のうち、高台を持つもの。身の形態により細分した。出土数が少ないため、法量による細分はしていない。A類・B類は身が浅く、C類・D類・E類は身が深いものである。概ね器高5cm以下をA類、

B類、5cm以上をC類、D類とした。E類は出土点数は極めて少ないが、体部が鋭角に立ち上がる特徴的な器形で頸城地方の窯跡産と見られるものである。

無台杯 杯のうち、高台を持たないもの。産地を推測する胎土別に、体部の立ち上がりの形態、器高指数から細分した。体部が内湾して立ち上がるものをA類、直線的に立ち上がるものをB類、内湾気味に立ち上がり端部で外反するものをC類とした。器高指数からは19～22の1類、23～24の2類、25～28の3類、29～31の4類に分類される。口径からは14cm以上をI類、13cm以上～14cm未満をII類、12cm以上～13cm未満をIII類、12cm未満をIV類とした。

有台椀 定量見られる。時期がⅦ期に限定され、全て胎土B群である。体部はやや内湾しながら立ち上がる。

無台椀 身が深く、体部は直線的に伸び口縁部がやや外反する。出土点数は少ない。

広口壺 体部資料が1点のみ確認された。体部が大きく屈曲する。いわゆる肩衝壺である。

小型壺 下半部のみ1点出土した。いわゆる平城京分類壺Gであり、県内の出土例は少ない。

小型瓶 長い頸部を持つ小型の瓶類。出土点数は少ない。

長頸瓶 長い頸部を持つ瓶類。完形を知れるものはないが、定量出土している。口縁部及び底部形態により分類可能である。口縁部では中位が凹むもの、端部が下方につままれるものがある。底部では高台がしっかりしたもの、やや細いもの、内端接地するものなどがある。

横瓶 俵形の体部を持つ。出土点数は非常に少なく、完形を知れるものはない。胎土C群が主体的である。

甕 口縁の形態で分類した。大きく外反するA類、「く」の字状に外反し、口縁部が長いB類、「く」の字状に外反し、B類に比べ、頸部の括れ度が強く、口縁部が短いものをC類とした。端部の形態でさらに細分され、B類では端部を下方につままれるものを1類、端部の引き出しが弱く、丸くおさめるものを2類とした。C類では端部が内傾し、面を持つものを1類、端部外面に面を持つものを2類とした。また、口径から、40cm以上をI類、30～35cmをII類、25～30cmをIII類、20～25cmをIV類とした。

3) 土 師 器 (第17・18図)

無台杯 須恵器無台杯と同じ形である。体部が内湾して立ちあがる。内外面赤彩される。

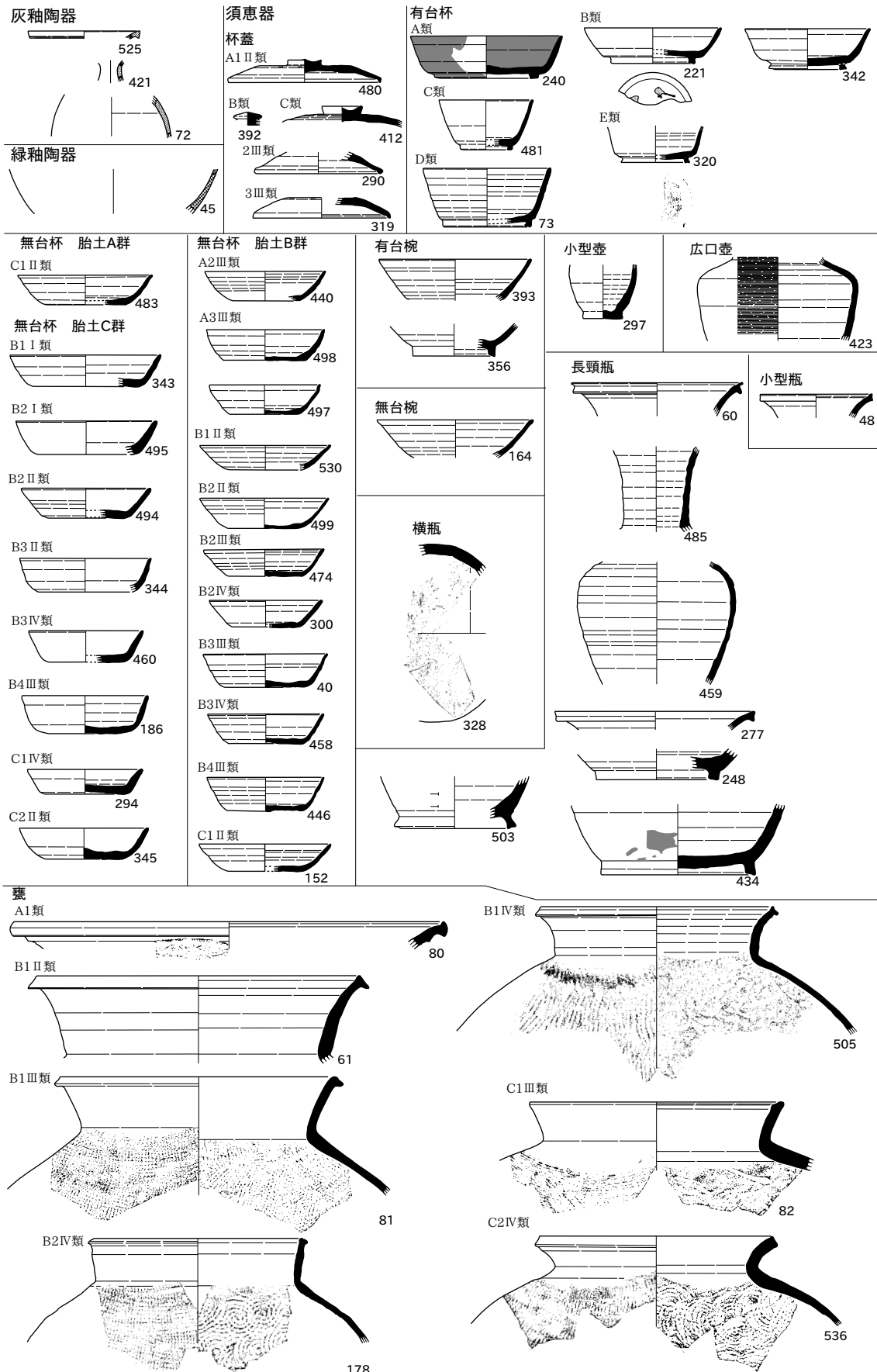
無台椀 底部は糸切り後無調整が大半である。体部の立ち上がりの形態、器高指数から細分した。体部が内湾して立ちあがるものをA類、直線的に立ち上がるものをB類、内湾気味に立ち上がり端部で外反するものをC類とした。器高指数からは27以下の1類、27～32の2類、33～36の3類、37～39の4類、40以上の5類がある。口径では20cm以上をI類、16cm以上～20cm未満をII類、14cm以上～16cm未満をIII類、12cm以上～14cm未満をIV類、12cm未満をV類とした。なお、底部、体部にロクロケズリ、ヘラミガキなどの再調整を施すものが少量見られる。

片口付無台椀 1点のみ確認された。大きな底部から体部が内湾して立ち上がり、口縁端部で外反する器形に一ヶ所に片口が付く。

有台皿 皿に張り付けの高台が付いたもの。1点のみ確認された。

無台皿 無台椀を平たくした形態で、体部が直線的に伸びるもの、端部が内傾するものがある。

長甕 非ロクロ成形のA類とロクロ成形のB類に大別される。A類は少ない。B類は主に口縁部の形態で細分した。1類は口縁端部が丸く収められるもの。2類は口縁端部がやや尖り気味に収められるもの。3類は口縁端部が上方にやや摘まれるもの。4類は口縁端部に面を持つもの。5類は口縁端部がやや下方



第16図 馬越遺跡古代土器器種分類図(1) (S=1:6)

に摘まれ面を持つもの。6類は口縁端部が上方に摘まれるもの。7類は口縁端部が上方内面に摘まれるもの。8類は器壁が厚手で、頸部の括れが弱く、口縁端部に面を持つもの。9類は頸部の括れが弱く、口縁端部が上下にやや摘まれ、面を持つもの。10類は口縁端部が凹みながら上方に摘まれるもの。11類は口縁端部がやや凹みながら大きく上方に摘まれるもの。12類は口縁端部に面を持ち、ハケメ調整が見られる、いわゆる西古志型である。13類は口縁端部が屈曲するもの。14類は口縁部が短く、端部が上方に摘まれるもの。15類は口縁端部が水平に面を持つものとした。これらの分類のうち、A類とB1～3類はIV期、B5・9・15類はVII期、他はV～VI期を主体とする。

小甕 非ロクロ成形のA類とロクロ成形のB類に大別される。今回A類は確認されていない。B類は主に口縁部の形態で細分される。1類は頸部の括れが弱く、口縁端部が丸く収められるもの。最大径を口縁に持つ。2類が球胴形の体部から頸部の括れが弱く、口縁端部が丸く収められるもの。3類は「く」の字に外反した口縁部で、端部が丸く収められるもの。4類は「く」の字に外反した口縁部で、端部に緩やかな面を持つもの。5類は口縁部が内湾し、受口状を呈するもの。6類は口縁部が短く、括れも少なく、端部が上方に摘まれるもの。6類は頸部の括れがやや弱く、口端部は丸く収められる。7類は口縁端部が短く上方に摘まれるもの。8類は口縁端部が上方に摘まれるもの。9類は口縁端部が短く、凹みながら上方に摘まれるもの。10類は口縁端部が内面側に摘まれるもの。11類は口縁部が内傾しながら立ち上がり、受口状を呈するもの。12類は口縁端部が下方に摘まれるもの。13類は口縁部がやや長く上方に摘まれ、端部がやや尖り気味に収められるものとした。

鍋 全形を窺えるものは少ないが、大半が丸底と思われる。主に口縁端部の形態で細分した。A類は端部がやや内傾し、面を持つもの。B類は端部が上に摘まれるもの。C類は端部が上に摘まれ、丸く収められるもの。D類は端部が下方に引き出され、面を持つもの。E類は口縁部の括れが少なく、端部が肥厚し丸く収められるもの。F類は端部に面を持つが、上下に引き出されるもの。G類は端部外面が凹みながら上に摘まれるものとした。

甌 単孔でつつぬける。内傾するもの、外反するものがある。

鍋形鉢 口縁部が短く屈曲し、受口状を呈する。

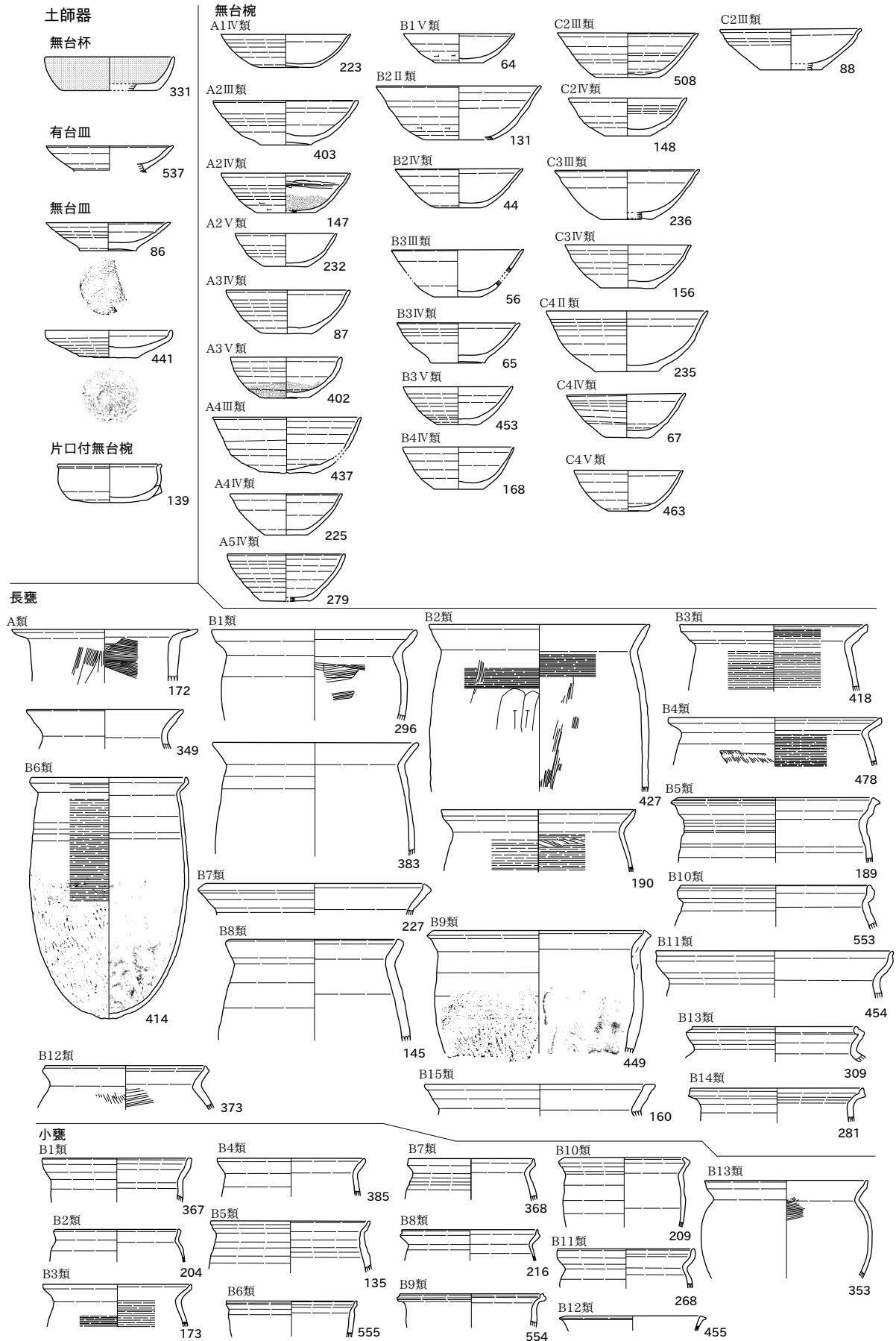
有台鉢 高台部分のみ確認された。

4) 黒色土器 (第18図)

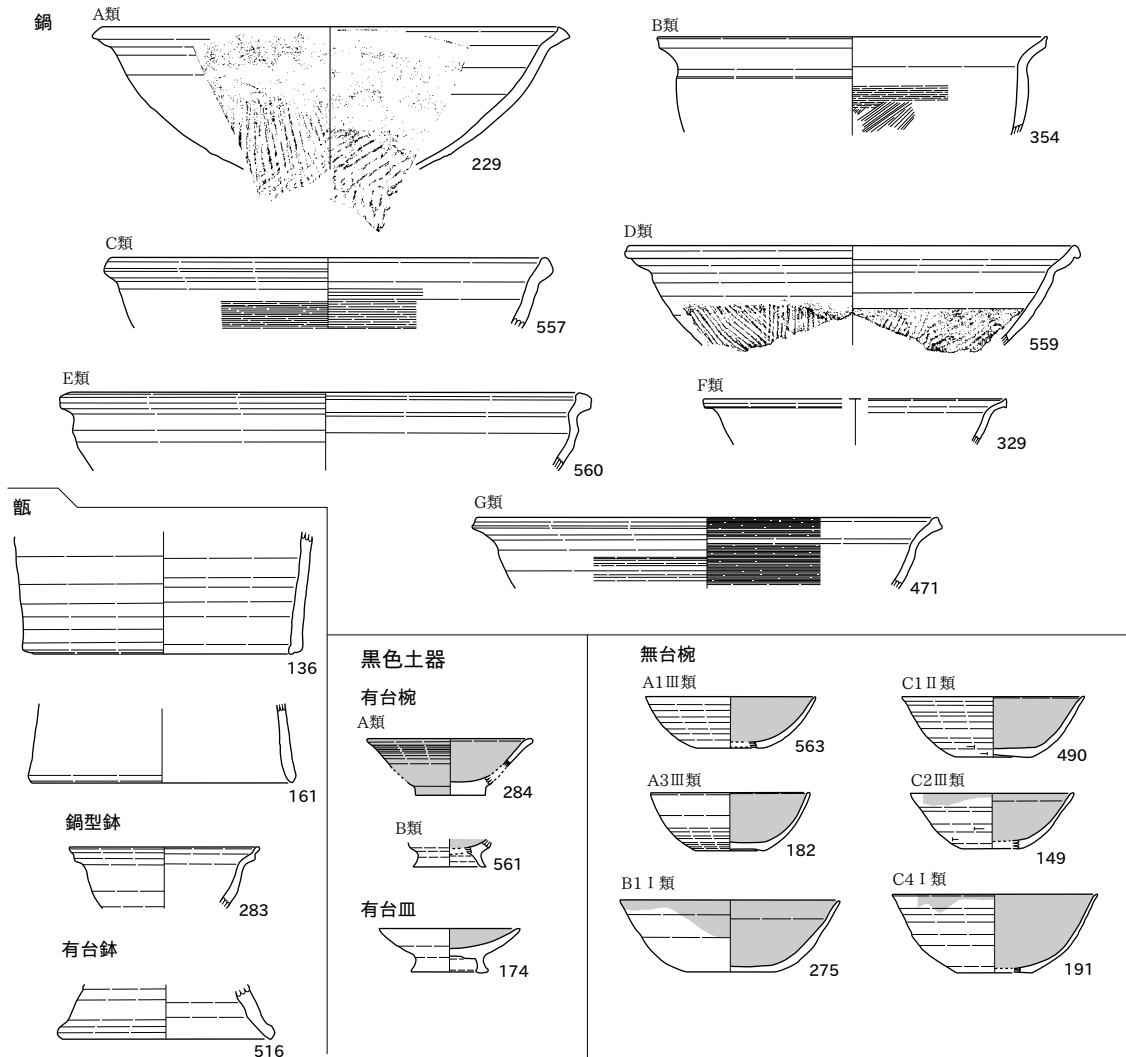
有台椀 高台のつくりで分類される。削りだされるものをA類、張り付けられるものをB類とした。A類は両面黒色処理される。

無台椀 底部はケズリ後無調整及びケズリ後ミガキのものがある。内面はミガキ、体部下半はケズリを施すものが多い。また、内面に暗文を施す特殊品も見られる。土師器無台椀と同様に、体部の立ち上がりの形態、器高指数から細分した。体部が内湾して立ちあがるものをA類、直線的に立ち上がるものをB類、内湾気味に立ち上がり端部で外反するものをC類とした。器高指数からは、31～33の1類、34～36の2類、37～39の3類がある。口径では、16cm～20cm未満をI類、14cm以上～16cm未満をII類、12cm以上～14cm未満をIII類とした。

有台皿 器高が低く、体部は内湾気味に立ち上がる。



第 17 図 馬越遺跡古代土器器種分類図 (2) (S=1:6)



第 18 図 馬越遺跡古代土器器種分類図 (3) (S=1:6)

C 遺物各説

1) A 区出土土器

a 遺構出土土器 (図版 48 1～3、写真図版 44)

SD1 1号溝 (図版 48 1、写真図版 48)

1 は土師器長甕の体部片である。外面平行タタキメ、内面平行当て具痕が見られる。

SD2 2号溝 (図版 48 2・3、写真図版 48)

2 は薄手で小振りの須恵器無台杯である。B IV類で、胎土 B 群である。VI 期に位置付けられる。3 は須恵器甕の体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕が見られる。胎土 C 群である。

2) B 区出土土器

a 遺構出土土器 (図版 50・51 38～70、写真図版 46・47)

SK2 2号土坑 (図版 50 38、写真図版 46)

38 は薄手の胎土 B 群の須恵器無台杯 B III類である。端部内面がやや凹む。VI 期に位置付けられる。

SK3 3号土坑 (図版 50 39、写真図版 46)

39 は B II 類の土師器無台碗の口縁部片である。

SK4 4号土坑 (図版 50 40、写真図版 46)

40 は胎土 B 群の須恵器無台杯 B3 III 類である。包含層出土の破片と接合する。底部外面に回転方向左のヘラ切り痕を留める。V₂ 期に位置付けられる。

SD2 2号溝 (図版 50 41・42、写真図版 46)

41 は胎土 B 群の須恵器無台杯 A II 類である。内外面に黒色の斑点が顕著である。42 は土師器無台碗 B III 類である。内面に漆が付着し、パレットとして使用されたと見られる。41 は V₂ 期、42 は VI 期に位置付けられる。

SD3 3号溝 (図版 50 43・44、写真図版 46)

43・44 ともに土師器無台碗である。43 は B3 IV 類、44 は B2 IV 類である。ともに底部外面に回転方向右の糸切り痕を留める。VII₁ 期に位置付けられる。

SD4 4号溝 (図版 50 45～51、写真図版 46・47)

45 は緑釉陶器碗の体部片である。軟質のつくりや淡緑色の釉から京都産と推測される。46・47 は胎土 B 群の須恵器無台杯で、それぞれ B I 類、A III 類である。48 は胎土 B 群の須恵器小型瓶で、長頸になるものと見られる。49 は焼成良好な C IV 類の土師器無台碗である。50 は土師器鍋 B 類である。51 は黒色土器有台碗の高台部で、端部は丸く内端接地する。外面には右回転のヘラ切り痕を留める。概ね VI₁ 期に位置付けられる。

SD5 5号溝 (図版 50 52、写真図版 47)

52 は土師器無台碗の底部片である。底部外面に墨書が見られる。VI 期に位置付けられよう。

SD9 9号溝 (図版 50 53、写真図版 47)

53 は土師器小甕である。B7 類で、口縁部内面にタールが付着する。

SD19 19号溝 (図版 50 54、写真図版 47)

54 は胎土 B 群の須恵器無台杯 B III 類である。V 期に位置付けられよう。

SD20 20号溝 (図版 50 55、写真図版 47)

55 は胎土 B 群の須恵器無台杯 B II 類である。V₂ 期に位置付けられよう。

SP7 7号ピット (図版 50 56・57、写真図版 47)

56・57 は土師器無台碗である。56 が B3 III 類、57 が B IV 類である。VI 期に位置付けられよう。

河川 1 (図版 50・51 58～70、写真図版 47)

58 は胎土 B 群の須恵器有台杯である。やや長く、細い高台が付く。外面に自然釉が見られる。59 は胎土 B 群の須恵器無台杯である。底部外面に回転方向左のヘラ切り痕を留める。60 は胎土 B 群の須恵器長頸瓶口縁部である。先端部が細く、上方に摘まみ出される。61～63 は須恵器甕である。61 は口縁部で口径 33.0cm、B1 II 類である。62・63 は体部片で、62 が外面平行タタキメ、内面平行当て具痕、カキメ、63 が外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。61・63 が胎土 B 群、62 が胎土 C 群である。64～69 は土師器無台碗である。64 は浅身の B1 V 類で、体部下半～底部にかけて糸切り後、ロクロケズリを施す。65 は B3 IV 類、66・68 は C3 IV 類、67 は深身で C4 IV 類、69 は C IV 類である。糸切り痕から窺える回転方向は全て右である。70 は黒色土器無台碗で C2 III 類である。58・59・64 などが V₂ 期頃と見られる他は、VI_{2・3} 期に位置付けられよう。

b 包含層出土土器 (図版 51・52 72～99、写真図版 48・49)

72 は灰釉陶器小瓶である。内外面にススが付着する。尾張の尾北窯産と推測される。73 は胎土 B 群の須恵器有台杯で、深身の D 類である。74～79 は須恵器無台杯である。74 はやや厚手の A3 III 類である。底部外面に回転方向左のヘラ切り痕を留める。75 は B III 類で、内外面に黒色の斑点が顕著である。76 は A III 類である。77～79 は底部片である。77 は外面に回転方向右のヘラ切り痕を留める。また、内面に墨痕が見られ、転用硯と考えられる。78 は外面にタール、79 は漆が付着する。74～76 が胎土 B 群、77～79 は胎土 C 群である。80～85 は須恵器甕である。80 は外面に櫛歯状工具による 4 条 1 単位の波状文が施された A I 類である。81 は口径 29.4cm の B1 III 類である。外面は格子タタキメ、内面は平行当て具痕を留める。また、内面に光沢のある漆様の付着物が見られる。82 は C1 III 類で、口端部が内傾する。外面は平行タタキメ、内面は同心円当て具痕を留める。83～85 は体部片で、83 が外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕、84・85 が外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。80・82・85 が胎土 A 群、81・84 が胎土 B 群、83 が胎土 C 群である。86 は土師器無台皿である。口縁部は外反する。87～96 は土師器無台碗である。87 は A3 IV 類、88 は浅身の C2 III 類で口縁部が強くナデられ、大きく外反する特徴的な器形である。89 は C2 IV 類、90 は C3 IV 類で、やや深身であるが口縁部のつくりが 88 に類似する。91 は C IV 類である。92 は底部片で、外面に「大カ」墨書が見られる。内面には鉄分と見られる付着物がある。93～95 は内面に漆が付着するもので、パレットとして使用されたと見られる。96 は内面にススが付着する。糸切り痕から窺える回転方向は全て右である。97 は土師器小甕 B7 類である。98 は両面黒色土器無台碗 C II 類である。外面に漆様の付着物がある。99 は黒色土器無台碗である。いずれも体部～底部にかけてロクロケズリ痕を留める。須恵器については、77 が IV 期、73～76 が V 期と見られるが、土師器の無台碗はほとんどが VII₁ 期である。

3) C 区上層出土土器

a 遺構出土土器 (図版 53 114、写真図版 49)

河川 1 (図版 53 114、写真図版 49)

114 は須恵器甕体部片である。外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土 C 群である。外面や断面部に磨面があり、砥石として転用されたと見られる。

b 包含層出土土器 (図版 53 116、写真図版 49)

116 は須恵器瓶類の底部片である。底部外面に回転糸切り痕を留める。胎土 C 群である。

4) C 区 (2005 年) 下層出土土器

a 遺構出土土器 (図版 54・55 124～161、写真図版 50～52)

SE7 7 号井戸 (図版 54 124・125、写真図版 50)

124 は須恵器甕体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土 B 群である。125 は土師器無台碗である。C3 IV 類である。内外面にススが付着する。VII₁ 期に位置付けられよう。

SK1 1 号土坑 (図版 54 126～128、写真図版 50)

126～128 は土師器無台碗である。126 が B3 IV 類、127 が C3 IV 類、128 が C II 類である。糸切り

痕から窺える回転方向は全て右である。126 は内外面、128 は内面にタール、ススが付着する。VII₁ 期に位置付けられよう。

SK3 3号土坑 (図版 54 129、写真図版 50)

129 は土師器無台椀で、底部が小さく、深身の C4 IV類である。内面にススが付着する。VII₁ 期に位置付けられよう。

SK8 8号土坑 (図版 54 130、写真図版 50)

130 は土師器無台椀である。B2 IV類である。VII₁ 期に位置付けられよう。

SD19 19号溝 (図版 54 131・132、写真図版 50)

131 は焼成良好な土師器無台椀である。比較的大振りなつくりの B2 II類である。体部下半～底部にかけて糸切り後、ロクロケズリを施す。黒色土器のつくりと同じである。132 は両面黒色土器無台椀の口縁部片である。B II類である。概ねVI_{2・3} 期に位置付けられよう

SD20 20号溝 (図版 54 133、写真図版 50)

133 は須恵器甕である。焼成不良である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土 B 群である。

SD21 21号溝 (図版 54 134～136、写真図版 50)

134 は須恵器甕体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土 B 群である。135 は土師器小甕で、B5 類である。136 は土師器甕である。概ねVI期に位置付けられよう

SD22 22号溝 (図版 54 137・138、写真図版 50)

137・138 は土師器無台椀である。137 は大振りな A II類で、内面全体にススが付着する。138 は C2 IV類である。口縁端部付近を強くナデる。底部外面には右回転の糸切り痕を留める。VI_{2・3} 期に位置付けられよう。

SD24 24号溝 (図版 54 139～143、写真図版 51)

139 は片口付無台椀である。大きな平底の底部から体部が内湾して立ち上がり、口縁部が短く外反する。体部下半部に片口を設ける。底部はロクロケズリのちナデが施される。内面の一部が黒色化していること、胎土や調整から黒色土器の可能性もある。140～142 は土師器無台椀である。140 は C3 IV類、141・142 が C IV類である。141・142 は外面に沈線状のナデ痕を留める。143 は黒色土器無台椀で C II類である。全てVI_{2・3} 期に位置付けられよう。

SD25 25号溝 (図版 54 144、写真図版 51)

144 は土師器無台椀である。B3 IV類で、内面にタールが付着する。VII₁ 期に位置付けられよう。

SD37 37号溝 (図版 55 145、写真図版 51)

145 は土師器長甕である。厚手のつくりの B4 類で、V～VI期頃であろう。

SD41 41号溝 (図版 55 146～148、写真図版 51)

146 は須恵器甕頸部～体部片である。外面平行タタキメとカキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土 C 群である。147・148 は土師器無台椀である。147 は焼成良好な A2 IV類で、体部～底部外面はロクロケズリ、口縁部内面には横方向のミガキ痕を留める。内面にはタールが付着する。148 は C2 IV類である。底部外面には右回転の糸切り痕を留める。

SD44 44号溝 (図版 55 149、写真図版 51)

149 は黒色土器無台椀で C2 III類である。概ねVI期に位置付けられよう。

SD63 63号溝 (図版 55 150、写真図版 51)

150 は須恵器甕体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土 B 群である。

SD64 64号溝 (図版 55 151、写真図版 51)

151 は土師器小甕底部片である。底部外面には右回転の糸切り痕を留める。

遺構間接合 (図版 55 152～162、写真図版 51・52)

152 は SD19 と SD37 から出土した須恵器無台杯である。体部が大きく開く胎土 B 群の C1 II 類である。153 は SD21 と SD22 から出土した須恵器無台杯である。胎土 B 群の B II 類である。154 は SK9 と SD24 から出土した須恵器長頸瓶である。胎土 C 群である。外面にススが付着する。155 は SD41 と SD51 から出土した須恵器甕体部片である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土 B 群である。156～159 は土師器無台碗である。156 は SK6 と SD19 から出土した C3 IV 類である。157 は SD35 と SD41 から出土した C3 IV 類である。体部～底部外面はロクロケズリ、口縁部内面には横方向のミガキ痕を留め、内面の一部が黒色化している。158 は SD24 と SD44 から出土した C IV 類である。159 は SK3 と SD18 から出土した C IV 類で、口縁部が強くナデられ、大きく外反する。160 は SD24 と SD25 から出土した土師器長甕で、B4 類である。161・162 は土師器甕である。「ハ」の字状に開き、端部にやや面を持つ。161 は SD22 と SD24、162 は SD19・21・23・29 から出土した。概ね VI_{2・3}～VII₁ 期に位置付けられよう。

b 包含層出土土器 (図版 55・56 163～176、写真図版 52・53)

163 は須恵器有台杯の高台である。径が小さくやや長い高台である。胎土 A 群である。164 は須恵器無台碗である。口端部で外反する。胎土 B 群である。165・166 は須恵器甕である。165 は B1 II 類で、内外面に自然釉がかかる。胎土 B 群である。166 は頸部～体部片で、外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。胎土 C 群である。外面に自然釉がかかる。167 は土師器有台碗の高台である。やや開いた長い高台である。168～171 は土師器無台碗である。168 が B4 IV 類、169・170 が C3 IV 類、171 が C IV 類である。169・170 の内面にはススが付着する。168～170 の底部外面には回転糸切り痕を留めるが、全て回転方向は右である。172 は非ロクロ A 類の土師器長甕である。外面は縦、内面は横方向の細かいハケメが施される。173 は土師器小甕 B3 類である。174 は黒色土器有台皿である。全体的に低平な器形で、短く踏ん張った高台に、直線的な体部が付く。175 は黒色土器有台碗の高台である。176 は黒色土器無台碗である。176 は底部外面糸切り後、無調整のものである。163・172 が IV₁ 期、164・168～171・174～176 が VII₁ 期、他は V～VI 期に位置付けられよう。

c 出土地不明土器 (図版 56 177、写真図版 52)

177 は黒色土器無台碗、A II 類である。時期は概ね VI 期に位置付けられよう。

5) C 区 (2006 年) 下層出土土器

a 遺構出土土器 (図版 56 178～190、写真図版 53)

SE14 14号井戸 (図版 56 178～182、写真図版 53)

178・179 は須恵器甕である。178 は B2 IV 類で、外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。179 は体部片で、外面格子タタキメ、内面格子当て具痕を留める。内外面にススが付着する。ともに胎

土B群である。180・181は土師器無台碗である。180は焼成良好なB3 IV類である。181は底部片で、回転方向右の糸切り痕を留める。182は黒色土器無台碗で、A3 III類である。内面に暗文を施す。暗文の一単位のループは切り合い関係から左回りで描かれたと見られる。概ねVI_{2・3}期に位置付けられよう。

SD2 2号溝（図版56 183、写真図版53）

183は土師器無台碗である。C IV類である。概ねVII₁期に位置付けられよう。

SD4 4号溝（図版56 184、写真図版53）

184は黒色土器無台碗である。C I類である。概ねVI～VII期に位置付けられよう。

SD12 12号溝（図版56 185、写真図版53）

185は須恵器横瓶である。外面カキメ、内面ハケメを留める。胎土C群である。

b 包含層出土土器（図版57 186～191、写真図版53）

186は須恵器無台杯である。B4 III類で、底部外面にヘラ切り痕を留める。回転方向は右である。胎土C群である。187・188は土師器無台碗である。187がB2 IV類、188がB3 IV類である。187は内面にススが付着する。底部外面には糸切り痕を留めるが、回転方向は右である。189・190は土師器長甕である。189がB5類、190がB2類である。191は黒色土器無台碗で、C3 I類である。186・190がIV₁期、189がVII₁期、他は概ねVI_{2・3}期に位置付けられよう。

c 出土地不明土器（図版57 192・193、写真図版53）

192は土師器無台碗である。B2 IV類である。内外面にススが付着する。193は土師器長甕B4類である。時期は概ねVI_{2・3}～VII₁期に位置付けられよう。

6) D区出土土器

a 遺構出土土器（図版57・58 194～220、写真図版53・54）

SK11 11号土坑（図版57 194、写真図版53）

194は須恵器無台杯である。薄手で、胎土B群である。VI_{2・3}期頃であろう。

SK80 80号土坑（図版57 195～205、写真図版53・54）

195は須恵器有台杯の高台部である。胎土B群である。底部外面に左回転のヘラ切り痕を留める。また、内外面に墨痕が見られ、転用硯と考えられる。形状から意図的な打ち欠きが推測される。196は胎土B群の須恵器無台杯C II類である。197～201は土師器無台碗である。197・198がB IV類、199・200がC IV類である。201は底部である。202・203は土師器長甕体部片である。外面には平行タタキメ、内面には平行当て具痕を留める。204・205は土師器小甕で、204がB2類、205がB10類である。概ねVI_{2・3}期に位置付けられよう。

SD1 1号溝（図版57 206～210、写真図版54）

206～208は土師器無台碗である。206・208がC3 IV類、207がC2 IV類である。208は口縁部が強くナデられ、大きく外反する。底部も外側に張り出す。209・210が土師器小甕で、209がB10類、210がB7類である。210は口縁部内面にタールが付着する。概ねVI_{2・3}期に位置付けられよう。

SD47 47号溝（図版58 211、写真図版54）

211は須恵器無台杯である。底部から比較的急角度で体部が立ち上がる。底部外面に太字の墨書がある。

胎土 B 群である。V₂期であろう。

SD53 53号溝 (図版 58 212、写真図版 54)

212 は須恵器無台杯である。B III類で、胎土 B 群である。V₂期であろう。

SD61 61号溝 (図版 58 213、写真図版 54)

213 は須恵器無台杯である。B2 III類で、胎土 B 群である。底部外面に左回転のヘラ切り痕を留める。V₂期であろう。

SD77 77号溝 (図版 58 214、写真図版 54)

214 は土師器無台碗底部片である。内外面にススが付着する。概ねVI期頃であろう。

SD83 83号溝 (図版 58 215、写真図版 54)

215 は土師器長甕体部片である。外面には平行タタキメ、内面には平行当て具痕を留める。

SD85 85号溝 (図版 58 216、写真図版 54)

216 は土師器小甕で、B8類である。概ねV～VI期頃であろう。

SD106 106号溝 (図版 58 217、写真図版 54)

217 は須恵器有台杯である。深身のD類で、胎土 B 群である。底部外面に墨書がある。V₂期であろう。

SP30 30号ピット (図版 58 218、写真図版 54)

218 は土師器長甕体部片である。外面には平行タタキメ、内面には平行当て具痕を留める。

SP112 112号ピット (図版 58 219、写真図版 54)

219 は須恵器甕体部片である。外面には平行タタキメを留める。胎土 A 群である。

遺構間接合 (図版 58 220、写真図版 54)

220 はSD77 と SP30 から出土した土師器長甕で、B4類である。外面にタールが付着する。概ねVI₂₋₃期頃であろう。

b 包含層出土土器 (図版 58 221～229、写真図版 54・55)

221 は須恵器有台杯である。浅身のB類で、胎土 B 群である。底部外面に漆が付着する。222 は須恵器甕で、胎土 C 群である。外面に格子タタキメ、内面には同心円当て具痕を留める。223～226 は土師器無台碗である。223 はA1 IV類、224 はA2 IV類、225 はA4 IV類である。224 は口縁端部内外面にタールが付着し、灯明皿として使用されたと見られる。底部外面には糸切り痕を留めるが、全て回転方向は右である。227・228 は土師器長甕 B7類である。229 は土師器鍋である。A類で、外面には平行タタキメ、内面には格子当て具痕を留める。内外面にタールが付着する。221 がV₂期、他はVI～VII期に位置付けられよう。

c 出土地不明土器 (図版 58 230、写真図版 55)

230 は厚手の須恵器無台杯底部片である。外面に付着物がある。胎土 C 群である。IV₁期であろう。

7) E 区下層出土土器

a 遺構出土土器 (図版 59 231～241、写真図版 55・56)

SD1 1号溝 (図版 59 231、写真図版 55)

231 は須恵器無台杯底部片である。底部外面に墨書が見られる。胎土 B 群である。概ねVI期であろう。

SD2 2号溝 (図版 59 232、写真図版 55)

232は土師器無台碗である。A2 V類である。底部外面に右回転の糸切り痕を留める。VI_{2・3}期であろう。

SD7 7号溝（図版59 233、写真図版55）

233は須恵器甕口縁部片である。外面に波状文が描かれる。胎土C群である。

SD11 11号溝（図版59 234、写真図版55）

234は土師器無台碗である。B IV類である。概ねVI期であろう。

SD18 18号溝（図版59 235～239、写真図版55）

235・236は土師器無台碗である。235は大型で深身のC4 II類、236はC3 III類である。237～239は土師器小甕である。237はB6類で、口縁部内面にはタールが付着する。238・239は底部外面に右回転の糸切り痕を留める。238の内外面にはタールが付着する。概ねVI_{2・3}期に位置付けられる。

河川23（図版59 240・241、写真図版56）

240は須恵器有台杯で、短い高台の付いたA類である。内外面に劣化した漆が付着している。241は厚手の須恵器無台杯底部片である。ともに胎土C群である。III～IV期頃のものであろう。

b 包含層出土土器（図版59～61 242～275、写真図版57）

242は灰釉陶器小瓶である。尾張の尾北窯産と推測される。243～246は須恵器無台杯である。243がA II類、244がB III類、245がA IV類、246がB II類で、243～245が胎土B群、246が胎土C群である。247・248は須恵器長頸瓶である。全て胎土B群である。底部内面に自然釉が見られる。247の底部外面にロクロケズリ痕を留める。249は須恵器横瓶である。外面には平行タタキメ、カキメ、内面には同心円当て具痕を留める。内面にタールが付着する。胎土C群である。250～252は須恵器甕である。全て胎土B群である。外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。251・252は同一個体の可能性がある。253～264は土師器無台碗である。253はA3 IV類で、内面に漆が付着する。漆パレットとしての使用が考えられる。254はC2 III類で、体部外面に墨書「一」がある。255・256はC2 IV類で、内外面にススが付着する。257はC3 IV類で内面にスス、外面に漆が付着する。258はC2 IV類。259はC3 IV類で体部外面に墨痕がある。260～264はC II～IV類である。260の内外面は赤彩された可能性がある。265～267は土師器長甕である。265は厚手のB4類、266はB5類、267はB7類である。268～272は土師器小甕である。268はB11類、269はB10類、270はB4類である。271・272は底部である。273は土師器鍋である。D類で、外面に平行タタキメ痕を留める。274は黒色土器有台碗である。275は黒色土器無台碗である。275は大振りのB1 I類である。時期は270がIV期の他は、概ねVI_{2・3}～VII₁期に位置付けられる。

c 出土地不明土器（図版61 277～287、写真図版58）

277・282は須恵器長頸瓶である。胎土B群である。279は土師器無台碗A5 IV類である。280は黒色土器つくりの土師器無台碗底部片である。底部外面はロクロケズリ後ミガキである。内面に暗文を施す。暗文の一単位のループは切り合い関係から左回りで描かれたと見られる。281は土師器長甕B14類である。282は土師器小甕B6類である。283は土師器鉢である。口縁部が強くナデられ、凹みながら外反する。新発田市坂ノ沢C遺跡で出土し、鍋形鉢とされた土器〔渡邊・田中2001〕と類似する。284は両面黒色土器有台碗で、ベタ高台である。285は両面黒色土器無台碗である。286・287は黒色土器無台碗である。286はC I類、287はC II類である。時期は概ねVI_{2・3}～VII₁期に位置付けられる。

8) F 区出土土器

a 遺構出土土器 (図版 61 288・290～297、写真図版 58)

SD1 1号溝 (図版 61 288、写真図版 58)

288 は土師器小甕 B11 類である。VI 期頃であろう。

SD5 5号溝 (図版 61 290、写真図版 58)

290 は須恵器杯蓋である。端部が退化した 2 Ⅲ類である。胎土 B 群である。VI_{2・3} 期頃であろう。

SD9 9号溝 (図版 61 291、写真図版 58)

291 は須恵器長頸瓶である。胎土 B 群である。VI 期頃であろう。

SD30 30号溝 (図版 61 293、写真図版 58)

293 は須恵器無台杯である。A Ⅲ類、胎土 B 群である。VI 期頃であろう。

SD74 74号溝 (図版 61 294、写真図版 58)

294 は須恵器無台杯である。C1 IV 類で、胎土 C 群である。底部外面には右回転のヘラ切り痕を留める。やや小振りな点から IV_{2・3} 期頃であろう。

河川 20 (図版 61 296、写真図版 58)

296 は土師器長甕 B1 類である。内面ハケメ調整される。IV 期に位置付けられる。

遺構間接合 (図版 61 297、写真図版 58)

297 は須恵器小型壺、平城京分類壺 G である。SD5 と SD30 から出土した。上半部を欠損する。焼成不良である。底部外面には回転系切り痕を留める。

b 包含層出土土器 (図版 61・62 298～311、写真図版 58・59)

298・299 は須恵器有台杯である。298 は内端接地する高台が外側に貼り付く。胎土 C 群である。299 はやや内側に高台が貼り付く。胎土 B 群である。底部外面には左回転のヘラ切り痕と墨痕が見られ、転用硯と考えられる。300・301 は須恵器無台杯である。300 は B2 IV 類である。301 は底部外面に墨書が見られる。ともに胎土 B 群である。302 は胎土 B 群の須恵器長頸瓶である。303 は胎土 C 群の須恵器横瓶である。304・305 は須恵器甕である。304 が胎土 B 群で、外面格子タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。305 が胎土 C 群で、外面平行タタキメ、内面同心円当て具痕を留める。306～308 は土師器無台碗である。306 は A Ⅲ類で、内外面ミガキ調整される。底部内面にタールが付着する。307 は B Ⅲ類である。308 は底部であるが、ほぼ底部中央に焼成前に円孔が穿たれる。309 は土師器長甕 B13 類である。310 は鉢の底部と見られる。311 は黒色土器無台碗である。時期は 298・303 が IV 期、299 が V₂ 期、他は VI_{2・3} 期頃であろう。

9) G 区出土土器

a 遺構出土土器 (図版 62 319～323、写真図版 59)

河川 9 (図版 62 319～323、写真図版 59)

319 は胎土 B 群の須恵器杯蓋である。3 Ⅲ類である。320・321 は須恵器有台杯である。320 はやや底部外側に貼り付く高台から鋭角に体部が立ち上がる。頸城地方西側丘陵窯跡産の胎土 E 群である。底部外面にヘラ書きが見られる。321 は胎土 C 群である。322・323 は胎土 C 群の須恵器無台杯である。

321・322がIV₁期、他は概ねV期であろう。

b 包含層出土土器 (図版 62 327～329、写真図版 59)

327は胎土B群の須恵器有台杯である。328は胎土C群の須恵器横瓶である。外面にカキメ、内面に同心円当て具痕を留める。329は土師器鍋で、F類である。概ねV₂期に位置付けられよう。

10) I区出土土器

a 遺構出土土器 (図版 63 331～340、写真図版 60)

SK25 25号土坑 (図版 63 331、写真図版 60)

331は土師器無台杯である。厚手のつくりで、内外面とも赤彩される。時期はIV₁期であろう。

SX60・61 60・61号不明遺構 (図版 63 332～334、写真図版 60)

332は胎土C群の須恵器杯蓋である。口径17.2cmと大きなI類である。333は胎土C群の須恵器有台杯である。334は胎土C群の須恵器甕である。時期はIV₁期であろう。

SD58・59 58・59号溝 (図版 63 335～339、写真図版 60)

335・336は胎土C群の須恵器無台杯である。335はBⅡ類である。336は底部外面に右回転のヘラ切り痕を留める。337は胎土B群の須恵器長頸瓶の頸部である。338・339は胎土C群の須恵器甕である。338は外面に他の須恵器片が接着する。時期は337がV期、他はIV₁期頃であろう。

SP4 4号ピット (図版 63 340、写真図版 60)

340は胎土C群の須恵器甕である。内面に同心円当て具痕を留める。

b 包含層出土土器 (図版 63 341～354、写真図版 60・61)

341は胎土C群の須恵器杯蓋である。IⅡ類である。342は胎土C群の須恵器有台杯B類である。343～345は胎土C群の須恵器無台杯である。343がB1Ⅰ類、344がB3Ⅱ類、345がC2Ⅱ類である。346は胎土C群の須恵器甕で、C2Ⅳ類である。347は胎土A群の須恵器甕で、焼成不良である。外面は平行タタキメ、内面は同心円当て具痕を留める。348は土師器無台杯である。底部外面には右回転のヘラ切り痕を留める。内面と底部外面の一部に漆が付着する。349は非ロクロA類の土師器長甕である。350は薄手のつくりの土師器長甕B1類である。351～353は土師器小甕である。351・353はB13類、352はB3類である。352は体部が球胴形を呈する。353は内面にハケメを留める。354は土師器鍋13類である。内面にハケメ調整痕が見られる。これらの土器は全てIV₁を中心としたIV期の幅の中に位置付けられるものである。

11) J区出土土器

a 遺構出土土器 (図版 64～66 355～419、写真図版 61)

SE87 87号井戸 (図版 64 355、写真図版 61)

355は土師器無台碗である。時期はVII₁期と見られる。

SK15 15号土坑 (図版 64 356～369、写真図版 61)

356・357は胎土B群の須恵器有台碗である。外端接地するやや長い高台を持つ。358は胎土B群の須恵器甕である。外面格子タタキメ、内面格子当て具痕を留める。359～366は土師器無台碗である。

359 は小型で深身の A4 IV類、360 は C IV類、361 は C III類、362 は A IV類、363 は B IV類、364・365 は C IV類、366 は底部である。確認できる底部の回転糸切り痕は右回転である。359 は糸切り後、一部ナデ消されている。367・368 は土師器小甕で、367 が B1 類、368 が B7 類である。369 は両面黒色土器無台椀である。C II類である。時期はVII₁期と考えられる。

SK29 29号土坑 (図版 64 370・371、写真図版 61)

370 は土師器長甕で B4 類である。371 は深身の黒色土器無台椀で A I類である。内面に若干であるが暗文が見られる。時期はVI_{2・3}期であろう。

SD17 17号溝 (図版 64 372、写真図版 61)

372 は土師器小甕である。B4 類である。時期はIV期であろう。

SD18 18号溝 (図版 64 373、写真図版 61)

373 は土師器長甕である。B12 類のいわゆる西古志型である。時期はIV～V期であろう。

SD20 20号溝 (図版 64 374～378、写真図版 61・62)

374 は土師器無台椀 C V類である。375 は土師器長甕の底～体部である。平底の底部から体部はあまり膨らまずに立ち上がる。外面には縦方向のヘラケズリ、内面は斜め方向のハケメ調整痕が見られる。376・377 は土師器小甕である。376 は B4 類、377 は底部片である。378 は深身の黒色土器無台椀で、底部外面に墨書が見られる。375 はIV期であるが、他は概ねVI期に位置付けられよう。

SD25 25号溝 (図版 64 379、写真図版 62)

379 は土師器小甕である。B7 類である。時期はV～VI期であろう。

SD27 27号溝 (図版 64・65 380～385、写真図版 62)

380 は胎土 C 群の須恵器無台杯である。381 は土師器無台杯である。やや小振りである。382～384 は土師器長甕で、383・384 が B1 類、382 が B2 類である。胎土が粗い。385 が土師器小甕 B4 類である。時期はIV₁期である。

SD30 30号溝 (図版 65 386・387、写真図版 62)

386 は胎土 C 群の須恵器無台杯で、B I類である。387 は土師器無台杯の底部である。底部外面に右回転のヘラ切り痕を留める。時期はIV₁期である。

SD31 31号溝 (図版 65 388～391、写真図版 62)

388 は土師器無台椀で、C IV類である。389 は土師器長甕の底部である。平底の底部で、内外面にハケメが見られる。390 は土師器小甕の底部、391 は土師器壺の底部と見られる。内面にハケメ痕を留める。時期はIV₁期である。

SD32 32号溝 (図版 65 392・393、写真図版 62)

392 は胎土 C 群の須恵器杯蓋で、摘み B 類である。393 は胎土 B 群の須恵器有台椀である。時期はVII₁期である。

SD35 35号溝 (図版 65 394、写真図版 62)

394 は胎土 A 群の須恵器甕で、外面格子タタキメ、内面平行当て具痕が見られる。

SD42 42号溝 (図版 65 395、写真図版 62)

395 は土師器無台椀の底部である。時期はVII₁期であろう。

SD44 44号溝 (図版 65 396、写真図版 62)

396 は土師器無台椀の底部である。時期はVII₁期であろう。

SD56 56号溝 (図版 65 397、写真図版 62)

397 は土師器無台碗の底部である。時期はVII₁期であろう。

SD63 63号溝 (図版 65 398、写真図版 62)

398 は土師器無台碗、C IV類である。時期はVI_{2・3}期であろう。

SD67 67号溝 (図版 65 399～401、写真図版 62)

399 は胎土 A 群の須恵器甕である。外面に平行タタキメ痕を留める。400 は土師器無台碗で C III類である。401 は土師器長甕 B3 類である。時期は概ねVI_{2・3}期であろう。

SD71 71号溝 (図版 65 402～407、写真図版 63)

402～406 は土師器無台碗である。402 は A3 V類、403 は A2 III類、404 は B4 IV類、405 は B2 IV類、406 は B III類である。402・404 は内外面にスス、タールが付着する。404 は灯明皿として使用されたものであろう。407 は土師器鉢の底部である。内面にハケメ痕を留める。時期はVII₁期に位置付けられよう。

SD86 86号溝 (図版 65 408・409、写真図版 63)

408 は胎土 B 群の須恵器無台杯、C I 類である。409 は黒色土器無台碗、C II 類である。概ねVI_{2・3}期であろう。

SP53 53号ピット (図版 65 410・411、写真図版 63)

410 は胎土 B 群の須恵器無台杯、A IV類である。411 は土師器無台碗の底部である。410 はV期、411 はVII₁期であろう。

SP101 101号ピット (図版 65 412・413、写真図版 63)

412 は胎土 B 群の須恵器杯蓋で、C 類である。413 は胎土 C 群の須恵器甕である。外面平行タタキメ、内面平行当て具痕を留める。V₂期に位置付けられよう。

SP102 102号ピット (図版 66 414、写真図版 63)

414 は土師器長甕 B6 類である。外面体部下半部は平行タタキメ、内面は当て具痕を留める。外面中位～上半部はカキメが顕著である。

遺構間接合 (図版 66 415～419、写真図版 64)

415 はSD31とSD32から出土した胎土 B 群の須恵器有台碗である。416・417 は土師器無台碗である。416 はSD20とSD30、417 はSK29とSD32から出土した。418・419 は土師器長甕である。418 はSK29とSD30から出土した B3 類、419 はSK29・SD27・SD30から出土した B4 類である。時期は415～417がVII₁期、418・419は概ねV期であろう。

b 包含層出土土器 (図版 66 421～433、写真図版 64)

421 は灰釉陶器の小瓶で、猿投の尾北窯産と見られる。422 は胎土 B 群の須恵器杯蓋で、I II類である。423 は胎土 C 群の須恵器広口壺である。肩部が鋭角に屈曲するいわゆる肩衝壺である。外面にはカキメ痕が顕著である。424 は胎土 B 群の須恵器長頸瓶である。425・426 は土師器無台碗である。425 内面にタールが付着する。426 は底部片で、外面にヘラ書きがある。427～432 は土師器長甕である。427・428 は B2 類である。体部外面上半にはカキメ痕と中～下半部には縦方向のヘラケズリ痕、内面は上半にカキメ痕、中～下半部には斜方向のハケメ調整が見られる。外面にタールが付着する。429 は B3 類、430 は B7 類、431 は B6 類、432 は B7 類である。433 は黒色土器無台碗である。底部外面は糸切り後、無調整である。時期は427・428がIV₁期、425がVII₁期、他はV～VI期であろう。

12) K区出土土器

a 遺構出土土器 (図版 67 ~ 69 434 ~ 490、写真図版 65 ~ 68)

SK1 1号土坑 (図版 67 434・435、写真図版 65)

434・435は胎土B群の須恵器長頸瓶である。434は大型で、体部外面には漆が付着する。435は底部外面にススが付着する。時期はVI_{2・3}期であろう。

SK19 19号土坑 (図版 67 436 ~ 439、写真図版 65)

436は胎土B群の須恵器長頸瓶である。437 ~ 439は土師器無台椀である。437はA4Ⅲ類、438はBⅢ類、439は底部である。時期は概ねVI ~ VII期であろう。

SK74 74号土坑 (図版 67 440・441、写真図版 65)

440は胎土B群の須恵器無台杯である。A2Ⅲ類である。441は土師器無台皿である。口縁端部が内傾する。新潟市(旧新津市)中谷地遺跡[立木ほか1999]に類例がある。時期はVI_{2・3}期であろう。

SK77 77号土坑 (図版 67 442、写真図版 65)

442は胎土B群の須恵器杯蓋である。C類である。内面に墨痕があり、よく磨れている。転用硯と見られる。時期はVI_{2・3}期であろう。

SK81 81号土坑 (図版 67 443、写真図版 65)

443は胎土B群の須恵器杯蓋である。2Ⅱ類である。内面に墨痕があり、よく磨れている。転用硯と見られる。口端部に降灰が見られる。時期はV₂期である。

SK110 110号土坑 (図版 67 444、写真図版 65)

444は土師器小甕である。B11類で、内面にタールが付着する。時期はV ~ VI期であろう。

SK116 116号土坑 (図版 67 445、写真図版 65)

445は胎土B群の須恵器杯蓋である。内面の一部に降灰が見られる。時期は概ねV期であろう。

SK126 126号土坑 (図版 67 446、写真図版 65)

446は胎土B群の須恵器無台杯である。B4Ⅲ類である。時期はV₂期である。

SK181 181号土坑 (図版 67 447、写真図版 66)

447は土師器長甕である。B3類で、外面にタールが付着する。時期はV ~ VI期であろう。

SK185 185号土坑 (図版 67 448、写真図版 66)

448は胎土B群の須恵器無台杯である。底部外面に墨書が見られる。時期はVI期であろう。

SK204 204号土坑 (図版 67 449、写真図版 66)

449は土師器長甕である。B9類で、外面に平行タタキメ、内面に当て具痕を留める。外面には「×」のヘラ書きが見られる。内外面にタールが付着する。時期はVII期である。

SK241 241号土坑 (図版 67 450、写真図版 66)

450は胎土B群の須恵器有台杯である。短い高台が貼り付く。時期は概ねV期であろう。

SD3 3号溝 (図版 67 451、写真図版 66)

451は胎土B群で深身の須恵器有台杯である。D類であろう。時期は概ねV期であろう。

SD7 7号溝 (図版 67 452、写真図版 66)

452は土師器小甕である。底部外面には回転糸切り痕を留める。外面にタールが付着する。

SD21 21号溝 (図版 67 453、写真図版 66)

453 は土師器無台椀である。小振りの B3 V類である。時期は概ねVI期であろう。

SD22 22号溝 (図版 67 454、写真図版 66)

454 は土師器長甕である。大型の B11 類である。時期は概ねVI期であろう。

SD23 23号溝 (図版 67 455、写真図版 66)

455 は土師器小甕である。B12 類である。時期はVI期であろう。

SD41 41号溝 (図版 67 456、写真図版 66)

456 は土師器長甕である。B6 類である。時期は概ねV期であろう。

SD47 47号溝 (図版 67 457、写真図版 66・83)

457 は胎土 B 群の須恵器無台杯である。底部外面左寄りに「中家」と墨書される。墨痕は薄い。時期はVI_{2・3}期である。

SD51 51号溝 (図版 68 458・459、写真図版 66)

458 は須恵器無台杯である。胎土 B 群で B3 IV類である。底部外面には左回転のヘラ切り痕を留める。

459 は胎土 B 群の長頸瓶である。時期はV₂期であろう。

SD76 76号溝 (図版 68 460～465、写真図版 66・67)

460・461 は須恵器無台杯である。460 は胎土 C 群、461 は胎土 B 群の B3 IV類である。462～465 は土師器無台椀である。462 は C2 IV類、463 は C4 V類、464 は C3 IV類、465 は C V類である。462 の底部外面には「×」のヘラ書きがある。口縁内外面にススが付着する。時期は460 はV期、他はVI_{2・3}期に位置付けられよう。

SD87 87号溝 (図版 68 466、写真図版 67)

466 は土師器小甕 B7 類である。

SD90 90号溝 (図版 68 467～471、写真図版 67)

467 は土師器無台椀である。A3 IV類である。468・469 は土師器長甕で、それぞれ B3 類、B5 類である。

470 は土師器小甕 B7 類である。口縁内面にタールが付着する。471 は土師器鍋の G 類である。内外面ともカキメが顕著である。内面にタールが付着する。時期は467 がVII₁期、他は概ねVI_{2・3}期であろう。

SD99 99号溝 (図版 68 472、写真図版 67)

472 は土師器無台椀の底部で、丸底気味である。底部付近はヘラケズリされる。時期はIV₁期であろう。

SD186 186号溝 (図版 68 473、写真図版 67)

473 は土師器小甕 B7 類である。

SD193 193号溝 (図版 68 474・475、写真図版 67・83)

474 は胎土 B 群の須恵器無台杯である。B2 III類である。底部外面左上寄りに「若」と墨書される。墨痕は薄い。475 は胎土 B 群の須恵器長頸瓶である。内面に自然釉がかかり、外面には付着物がある。時期はVI_{2・3}期であろう。

SD216 216号溝 (図版 68 476、写真図版 68)

476 は土師器長甕 B6 類である。外面はナデ後ヘラケズリ調整痕を留める。時期はVI期であろう。

SD223 223号溝 (図版 68 477、写真図版 68)

477 は須恵器甕 B1 III類である。胎土 B 群である。外面に格子タタキメ、内面に同心円当て具痕を留める。時期はV～VI期であろう。

SD234 234号溝 (図版 68 478、写真図版 68)

478 は土師器長甕 B4 類である。外面はナデ後ハケメ調整痕を留める。時期はVI期であろう。

SP8 8号ピット (図版 69 479、写真図版 68)

479 は土師器長甕 B8 類である。時期はVII₁期であろう。

SP135 135号ピット (図版 69 480、写真図版 68)

480 は胎土 B 群の須恵器杯蓋である。A1 II類である。口縁端部に降灰がある。時期はV₂期である。

遺構間接合 (図版 69 481～490、写真図版 68)

481 は胎土 B 群の須恵器有台杯 C 類である。SK120 と SP135 から出土した。482～484 は須恵器無台杯である。482 は胎土 B 群 A3 III類で SK122 と SD76 から出土した。黒色吹き出し物が顕著である。483 は胎土 A 群 C1 II類で SK120 と SK177 から出土した。484 は胎土 A 群で SK168 と SP175 から出土した。485 は胎土 B 群の須恵器長頸瓶である。SK119 と SK122 から出土した。486 は B2 IV類の土師器無台碗である。SK122 と SD76 から出土した。487～489 は土師器長甕である。487 は B3 類で SK66 と SD51 から出土した。488 は B8 類で SD21 と SD22 から出土した。489 は B6 類で SK120 と SD179 から出土した。490 は黒色土器無台碗で、C1 II類である。底部外面に黒斑が見られる。SK110 と SD115 から出土した。時期は 482・488 が VII₁期で他は V～VI期に位置付けられるであろう。

b 包含層出土土器 (図版 69・70 491～521、写真図版 68～70)

491・492 は須恵器有台杯である。491 は低平な高台が付く。胎土 C 群と見られる。492 は胎土 E 群で、底部外面に糸切り痕を留める。493～502 は須恵器無台杯である。493～495 は胎土 C 群で、493・494 が B2 II類、495 が B2 I類である。493 は内外面に漆が付着する。495 は酸化炎焼成である。496～502 は胎土 B 群である。496～498 はやや小振りで 496 が B3 IV類、497 が A3 IV類、498 が A3 III類である。499 は薄手の B2 II類である。497・499 は右、498 は左回転のヘラ切り痕を底部外面に留める。499 の底部外面には板状圧痕が顕著である。500 は体部外面、501・502 は底部外面に墨書が見られる。503 は胎土 D 群の須恵器長頸瓶である。高台は内端接地する。504～506 は須恵器甕である。504 は胎土 B 群の B1 III類、505 は胎土 C 群の B1 IV類で体部外面に平行タタキメ、内面に同心円当て具痕を留める。506 は胎土 B 群で外面に格子タタキメ、内面に同心円当て具痕を留める。507・508 は土師器無台碗である。507 が C3 IV類、508 が C2 III類である。509～511 は土師器長甕である。509 が B8 類、510 が B11 類、511 が B10 類である。512～515 は土師器鍋である。512 が C 類、513・514 が A 類、515 が G 類である。516 は有台鉢の高台である。517～521 は黒色土器無台碗である。518 は底部外面に「×」のヘラ書きがある。519～521 は暗文を持つ。520 の暗文も左回りである。時期は 491・493～495 が IV期、492・496～498・501 が V期、513・514 が VII期、他は概ね VI期頃に位置付けられよう。

c 出土地不明土器 (図版 70 522、写真図版 70)

522 は胎土 B 群の須恵器無台杯底部片である。意図的に円形に打ち欠いた可能性も考えられる。

13) 立会い調査出土土器 (図版 71・72 525～564、写真図版 70～72)

525 は灰釉陶器の長頸瓶口縁部である。猿投の尾北窯産と見られる。526 は胎土 B 群の須恵器杯蓋の摘みで A 類である。527・528 は胎土 B 群の須恵器有台碗である。528 は底部外面に墨書が見られ、転

用硯と考えられる。529～534は胎土B群の須恵器無台杯である。529はB3Ⅲ類、530はB1Ⅱ類である。531は体部外面に「上」の字が横位に墨書される。532は底部内面、533・534は底部外面に墨書が見られる。535は胎土B群の須恵器長頸瓶である。536は胎土D群の須恵器甕である。C2Ⅳ類である。外面には平行タタキメ、内面は同心円当て具痕を留める。537は土師器有台皿である。538・539は土師器無台杯で、内外面赤彩される。540～547は土師器無台椀である。540はA2Ⅳ類、541はAⅣ類、542はC3Ⅳ類、543・545がCⅢ類、544・546・547がCⅣ類である。548～553は土師器長甕である。548・549はB1類、550・552はB3類、551はB4類、553はB10類である。554～556は土師器小甕である。554はB9類、555はB6類である。557～560は土師器鍋である。557・558がC類、559がD類、560がE類である。561は黒色土器有台椀である。562～564は黒色土器無台椀である。562はA3Ⅲ類、563はA1Ⅲ類、564はAⅢ類である。時期は538・539・548・549がⅣ期、526・529・531・550・551などがⅤ期、530・532・541～547・552～558・560・562～564などがⅥ期、527・528・537・540・559・561がⅦ期と考えられる。

4 鎌倉・室町時代の土器

鎌倉・室町時代の土器はB・C区上層、E・F・K区、立会い調査区から出土した。C区上層からは遺構に伴い、一定量出土しているが、他は散発的な出土状況である。分類などは行っていない。

1) B区出土土器

a 包含層出土土器 (図版 52 100～103、写真図版 49)

100～102は珠洲焼甕で、外面に100と101が3cmで11条、102が15条と細かい平行タタキメが見られる。103は珠洲焼播鉢口縁部で、口縁端部は平坦で、内面に7条単位の卸し目が確認できる。100～102は吉岡編年〔吉岡1994〕Ⅱ期で13世紀代、103はⅣ期で14世紀代と見られる。

2) C区上層出土土器

a 遺構出土土器 (図版 53 104～113・115、写真図版 49)

SE1 1号井戸 (図版 53 104、写真図版 49)

104は珠洲焼播鉢で、口縁端部はやや外傾する。内面に8条単位の卸し目が確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

SE2 2号井戸 (図版 53 105、写真図版 49)

105は珠洲焼甕で、外面に3cmで17条と細かい平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

SE5 5号井戸 (図版 53 106、写真図版 49)

106は中世土師器皿である。内面に漆が付着する。時期は14世紀代であろう。

SE7 7号井戸 (図版 53 107・108、写真図版 49)

107は珠洲焼甕で、外面に3cmで10条の平行タタキメが見られる。108は珠洲焼播鉢で、口縁端部は水平である。内面に5～8条単位の卸し目が確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

SK2 2号土坑 (図版 53 109、写真図版 49)

109は珠洲焼播鉢で、片口付きである。口縁端部は外傾する。内面に11条単位の卸し目が確認できる。

吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

SK4 4号土坑 (図版 53 110、写真図版 49)

110 は珠洲焼甕で、外面に 3cm で 10 条の平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

SX1 1号不明遺構 (図版 53 111、写真図版 49)

111 は珠洲焼甕で、外面に 3cm で 12 条と細かい平行タタキメが見られる。破片割れ面が磨れており、砥石状に転用されたと考えられる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

SD4 4号溝 (図版 53 112、写真図版 49)

112 は珠洲焼播鉢である。焼成不良である。内面に卸し目が確認できる。

SD6 6号溝 (図版 53 113、写真図版 49)

113 は珠洲焼甕で、外面に 3cm で 10 条の平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

河川 1 (図版 53 115、写真図版 49)

115 は珠洲焼播鉢である。内面に卸し目、波文が確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

b 包含層出土土器 (図版 53 117～123、写真図版 49)

117～119 は珠洲焼甕である。117 は口端部が方頭状を呈し、短く外反する。外面には 3cm で 10 条の平行タタキメが見られる。118 は 3cm で 9 条、119 は 15 条と細かい平行タタキメが見られる。120・121 は珠洲焼播鉢である。120 は口端部が外傾する。内面に 11 条単位の卸し目が確認できる。122・123 は中世土師器皿である。122 は体部が屈曲する。内面に漆が付着する。珠洲焼はすべて吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期で、土師器もほぼ同じ 14 世紀代と見られる。

3) E 区下層出土土器

a 包含層出土土器 (図版 61 276、写真図版 57)

276 は珠洲焼播鉢である。口端部が外傾する。内面に 10 条単位の卸し目が確認できる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期であろう。

4) F 区出土土器

a 遺構出土土器 (図版 61 289・292・295、写真図版 58)

SD3 3号溝 (図版 61 289、写真図版 58)

289 は珠洲焼甕で、外面に 3cm で 15 条と細かい平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

SD14 14号溝 (図版 61 292、写真図版 58)

292 は珠洲焼甕で、外面に 3cm で 11 条と細かい綾杉状タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

SD109 109号溝 (図版 61 295、写真図版 58)

295 は珠洲焼甕で、外面に 3cm で 12 条と細かい綾杉状タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

b 包含層出土土器 (図版 62 312～314、写真図版 59)

312～314 は珠洲焼甕である。312 は綾杉状タタキメ、313・314 は 3cm で 12 条、13 条と細かい平行タタキメが見られる。吉岡編年Ⅲ期であろう。

5) K区出土土器

a 出土地不明土器 (図版 70 523、写真図版 70)

523 は珠洲焼播鉢である。比較的密に卸し目が入る。吉岡編年IV期であろう。

6) 立会い調査出土土器 (図版 72 565～568、写真図版 72)

565 は青磁有台碗の高台である。566・567 は珠洲焼甕である。3cm で 8 条、9 条の平行タタキメが見られる。568 は珠洲焼播鉢である。内面に 8 条単位の卸し目が確認できる。吉岡編年III～IV期であろう。

5 土製品

円筒形土製品 (図版 73 1、写真図版 72)

1 はE区下層の包含層から出土した。焼成良好な土師器質で筒抜けの円筒形である。有段状と見られる。口径は 24.2cm である。口端部は水平である。外面にロクロナデ、内面上部に平行当て具痕が残る。時期は周辺の出土土器を考慮すると、VI～VII期と考えられる。

土器片円盤 (図版 73 2～14、写真図版 72)

須恵器甕体部片を利用したもので、13 点出土した。2 がK区 SD76、3・4 がB区包含層、他が立会い調査区からの出土である。2 が長方形で、周囲に磨痕を持つが、他は打ち欠いた円形状を呈する。長さ 1.9～3.6cm のものが見られ、2cm 前後が多い。重さは 6～14g 前後である。

羽口 (図版 73 15、写真図版 72)

15 はD区 SK80 から出土した。残存部で長さ 13.7cm、幅 8.3cm、重さ 782.73g、外径が約 7～8cm、内径約 2.8～3.0cm である。先端に溶解部を持つ。砂粒を多く含んだ胎土である。

土錘 (図版 73 16、写真図版 72)

B区から 1 点出土した。土師質の細型管状土錘である。長さ 3.3cm、幅 1.3cm、重さ 4.43g、孔径 0.3cm である。粗い胎土である。

かさ状土製品 (図版 73 17、写真図版 72)

J区 SD20 から出土したかさ状の土製品である。直径約 5cm の円形のかさ部から約 2cm 程のつまみ部が設けられる。ナデ痕が顕著である。重さは 38.85g である。

6 金属製品

銚帯金具 (図版 73 1・2、写真図版 72・83)

1 はD区 SK80 から出土した完形の銅製巡方である。角部は面取りされる。長方形の垂孔を持つ。表金具と裏金具が表金具に鑄出された 4 カ所の銚足により一体化されている。金具横幅 3.0cm：垂孔の横幅 1.8cm と金具縦幅 3.1cm：垂孔の縦幅 0.5cm との比率分布から田中広明氏の垂孔分類の小孔で、第II期に位置付けられ、8世紀第4四半期に出土の頂点があるとされる [田中 2003]。SK80 出土土器の年代は9世紀後半頃である。2 はK区 SK190 から出土した銅製鉞尾と考えられる。一部欠損するがやや横長気味であり、現状で長さ 3.6cm、幅 2.6cm である。端部は弧状となる。銚が 1 カ所鑄出されている。

8 木製品

幅：長さの比は約1：1.4程度となり、田中氏分類のC類と見られる。

釘（図版73 3、写真図版72・83）

3はD区の包含層から出土した。長さ7.1cmのやや湾曲した棒状の鉄製品で、上端部は方頭、下端部は尖る形状で、断面は方形である。釘と考えられる。

鉄斧（図版73 4、写真図版72・83）

4はE区下層の包含層から出土した鉄斧である。柄装着部が袋式になる。袋部分は長さ約4cm、幅約2.5cmを測る。片側がやや潰れる。袋部断面は歪んだ円形である。斧身平面形は無肩である。長さ6.9cm、刃部幅3.4cmを測る。

小刀（図版73 5、写真図版73・83）

5はJ区SD67から出土した完形品である。平棟造り、両関式で長さ27.9cm、幅2.2cm、厚さ4mm、重量62.67gである。刃部、峰部ともに関は比較的明瞭である。径3mmの目釘穴がある。

鉄滓（図版73 6、写真図版72）

6はK区SK81から出土した鉄滓である。椀形滓と見られる。

銭貨（図版74 7～11、写真図版73）

7はC区上層包含層出土の開元通寶（初鑄年621年）、8はE区上層包含層出土の祥符通寶（初鑄年1,009年）、9は立会い調査出土の至和元寶（初鑄年1,054年）の真書体、10はC区上層SP19出土の熙寧元寶（初鑄年1,068年）の真書体、11はF区SD5出土の元祐通寶（初鑄年1,086年）の篆書体である。

7 石製品

砥石（図版74・75 1～16、写真図版73・74）

16点出土した。1・6・11～13の5点がC区上層、E区上層の遺構から出土した中世に位置付けられるものである。他の11点は、B区、C区下層、E区下層、I区、K区の遺構、遺構外出土の古代のものである。使用石材は1が頁岩の可能性、2が安山岩、他は全て凝灰岩である。1は砥面が顕著ではない。長さ17.2cm、重量1,769.9gを測る。2は撥形を呈し、砥面が4面あり、擦痕を留める。3は上面が弧状を呈し、砥面が3面あり、擦痕を留める。4は不整形で、全面に砥面または擦痕を留める。5～14は概ね長方形を呈する。5～11・13・14は4面、12は3面、15は2面に砥面または擦痕を留める。形状や大きさから2～15は、長さ10cm以上で、重量が500gを超えるA群（2・5）、長さ6～10cm前後で、重量が60g以上のB群（3・4・6～9）、長さ3～5cm前後、重量10～30g前後のC群（10～15）に大別される。16は灰黒色を呈し、一方に紐かけ状の突起部を設け、下端部が弧状を呈する。全面に部分的に砥面と擦痕を留める。長さ5.7cm、幅2.9cm、重量39.55gを測る。形状から携帯用の砥石の可能性はある。

磨石（図版75 17、写真図版74）

17はK区SD76から出土した。自然礫で、磨面は顕著ではない。全面に鉄分が付着している。

8 木製品

各区の河川やC区上層の井戸を中心に、多種類の木製品が出土した。柱穴に伴う柱根もある。種

別分類及び型式分類においては特に断らない限り『木器集成図録—近畿古代篇—』[奈良国立文化財研究所 1985]を参考としている。

木簡(図版 75 1・2、写真図版 74・83)

1はC区下層のSE14から出土した。上下端、側面の一部を欠損し、型式は不明である。

・「^[慶カ]元□

同日□□□□□□□ []

・「 []」

124 × (23) × 6mm

表面に二列の文字列、裏面には墨痕が確認される。墨痕は薄い。表面には削り痕が見られ、文字が消されている。樹種はスギである。本木簡が元慶年間(877～885年)に作成されたとすれば、共伴した土器群の年代観と調和的な成果となる。

2はC区上層のSE3から出土した。下部を欠損し、型式は不明である。薄い板材である。表裏面に墨痕がある。

・「南 □

・「□□□

(51) × 13 × 3mm

南の一文字しか読めないが、井戸から出土していることなどから、「南無大日如来」などの呪符が省略された可能性もあろう。時期は中世である。

工具(図版 75 3、写真図版 74)

3はB区河川1から出土した。横断面が楔形をした組み合わせ式の木槌で、頭部分の可能性があろう。柄を挿入した3.5 × 2.5cmの方形の孔があるが貫通しない。樹種はヒノキである。

櫂(図版 76 4・5、写真図版 75)

4はB区SD12から地面に下端部から突き刺した状態で出土した。長さ93.6cm残存するが、水かき部分で、81.6cmを占める。水かきの中～下位部表裏両面に加工痕を明瞭に留め、断面が低い山形を呈する。先端部はV字状で尖鋭に削り出される。樹種はスギである。5はF区SD10から出土したほぼ完形の櫂である。柄頭の有無は不明。全長は128.5cm、水かき部の長さ50.0cm、幅20.0cmである。先端部は不均衡で緩やかな円形を呈する。また、裏面に横幅から約40°の角度で、幅2～4cmの溝が約10cm間隔で2条設けられている。水かきの技法状の工夫と見られる。樹種はモクレン属である。

弓(図版 76 6、写真図版 75)

6はJ区SD67から出土した長さ47.6cmの完形の弓である。上下端部に柄穴状に長さ1.6cm前後の弓弭が作られている。約45cmの弦を張ることができよう。図の上端腹側にも凸状に削りだされる部分がある。樹種はイヌガヤである。実用品か判断できないが、胎内市屋敷遺跡のA調査区川跡などから弓形が出土しており、祭祀目的の可能性も指摘されている[水澤2008]。

櫛(図版 76 7、写真図版 74)

7はC区上層SE3から出土した中世の横櫛である。形は長方形で、肩部に丸みを持つAⅡ形式と見られる。歯は2cmあたり24本を挽き出す。樹種はイスノキである。

下駄(図版 76・77 8～13、写真図版 74・75)

8はC区下層河川23から出土した中世の差歯式の台部である。隅丸長方形のCa形式である。9～12はG区河川10から出土した。9・10は連歯式である。9は後壺を歯の内側にあけ、縦断面が台形状の歯で、

隅丸長方形のCⅡa形式、10は前、後壺ともに歯の外側にあけたAⅡa形式である。9は薄い板状である。11は台部、12は歯部である。13はC区上層SE3から出土した中世の差歯式の歯部である。樹種は8がスギ、9がハリギリ、10～12がモクレン属である。

挽物 (図版77・78 14～25、写真図版75・76)

14はK区SK74から出土した白木の有台皿である。厚みのあるベタ高台から体部が直線的に外反する。15はC区下層SD51から出土した、厚さ1～2mmと極めて薄いつくりの総黒色漆の口縁部が大きく外反する端反り椀と考えられる。16はC区上層SE2から出土した有台椀である。総黒色漆で内外面に赤漆の扇や鶴などの文様が描かれる。17はC区上層SE4から出土した皿である。総黒色漆。18はJ区の確認調査90トレンチから出土した有台椀である。総黒色漆。高台内側に0.5cmの溝が廻る。高台外面は露胎となる。19・20はJ区SD67から出土した有台椀で、内面赤色漆、外面黒色漆である。19・20は同一個体と見られる。21・22はC区上層SE5から出土したほぼ完形の小皿と有台椀である。21・22ともに総黒色漆。22は厚手で低い高台に体部は内湾して立ち上がる。口唇部はほぼ平に作られる。23はH区河川2から出土した器種不明のものである。総黒色漆で、上端部は弧状になる。24は立会い調査区から出土した折敷である。総黒色漆。25はK区SP130から出土した鉢の口縁部片と考えられる。総黒色漆。樹種は14・17・19・24・25がケヤキ、15・16・18・21がブナ属、22がトチノキ、23がスギである。14・15・23～25が古代、他は中世のものと考えられる。

円形曲物 (図版78 26～33、写真図版76・77)

26はK区の包含層から出土した曲物側板で、直径約29cmを測る。現状で樺皮の綴方は1列上内下外6段綴じと見られる。内面には縦平行線のケビキが入る。内外面に漆が塗られる。27はC区上層SE4から出土した曲物側板で下端部が炭化する。内面にケビキが入る。28はC区下層SE7から出土した曲物側板である。直径0.4cmの結合又は補修孔が1カ所見られる。内面は縦平行線のケビキが入る。内面は炭化する。29はC区下層河川23から出土した曲物側板である。内外面が炭化している。30はC区上層SE5から出土した曲物底板で、推定直径は約49cmである。31はK区SK74から出土した推定直径約20cmの底板である。32はC区上層SE3から出土した直径10.0cmの底板で、0.4cmの孔がある。33はJ区SD67から出土した曲物底板で、推定直径は約16cmである。

長方形曲物 (図版78 34、写真図版77)

34はJ区SD71から出土した。現在長11.1×5.9cm、側板と考えられる。直径0.3cmの円孔が1ヶ所認められる。内面は炭化している。

栓? (図版78 35、写真図版77)

35はC区下層SE14から出土した。丸棒状材の先端部約2cm程を加工し、尖らせている。現在長5.1cm、直径1.5cmを測る。

箸 (図版78・79 36～52、写真図版77)

17点図示した。井戸及び河川跡から出土している。全て中世のものと考えられる。完形品は少ないが、長さ14.7～21.5cmを測り、20cm前後が多い。両口式である。36～39はC区上層SE3、40～46はC区上層SE4、47～51はC・E区の河川23・52はF区河川20から出土した。

斎串 (図版79 53～60、写真図版77)

8点出土した。井戸を中心に溝、土坑から出土している。53～57はJ区SE87から層位は異なるが、まとまって出土したものである。53・56は完形であるが、他は一端を欠損している。53は32.8cmを

測る大型品である。上端は緩やかな圭頭状、下端は剣先状に仕上げる。左右4カ所に不規則で大きな切り欠きを入れる。55も同様の形態と見られる。D型式としたい。54は下端部が剣先状となる。56は長さ14.6cmの小型品である。切り欠きは認められない、C I型式。57も同じであろう。58はJ区SK15から出土した、完形品で、長さ11.0cmのC I型式。59はC区下層SE14から出土した。上端が圭頭状のものである。薄い板である。60はK区SD93から出土した。不規則で大きな切り欠きが左右に見られ、55に類似しよう。時期は共伴した土器から53～58が10世紀前半、59が9世紀後半頃と考えられる。

陽物形（図版79 61、写真図版78）

61はC区下層SK8から出土した。丸木を半割した棒状材の片面を加工する。あまり、写実的ではない。何らかの祭祀具のひとつであろう。樹種はトネリコ属である。時期は共伴した土器から10世紀前半頃と考えられる。

付け木（図版79 62・63、写真図版78）

62・63は割材の一端または両端が焦げたものである。C区上層SE3から出土した。中世のものである。礎板・柱根・杭（図版79～83 64～93、写真図版78～81）

64～68はすべてB区SP4から出土した。64～66は長さ18.4～23.4cm、幅11.7～15.1cmの方形または長方形を呈した礎板である。64・65が芯去ミカン割り材、66が芯去削り出し材である。66の樹種はクリである。67・68は径10cm前後の柱根である。67は先端がやや尖るように加工される。芯持丸木。68は芯去ミカン割り材である。67の樹種はクリ。69はB区SP6から出土した径9.7cmの芯持丸木の柱根である。樹種はヤナギ属である。70・71はC区上層SP83から出土した。径13～14cm前後で、それぞれ樹種がトネリコ属とスギと異なる。72はC区上層SP84から出土した径8.0cmの芯持丸木の柱根である。表面に樹皮を残す。樹種はヤナギ属である。73はC区下層SP3から出土した径15.6cmの芯持丸木の柱根である。表面に樹皮を残す。樹種はハンノキ属ハンノキ亜属である。74はC区下層SP5から出土した径9.5cmの芯持丸木の柱根である。樹種はヤナギ属である。75はC区下層SP22から出土した径18.9cmの芯持丸木の柱根である。樹種はヒノキである。柱底面から上に20cm程のところには2カ所、約4×5cmの長方形の柄穴が作られる。縄かけ用であろう。76はC区下層F3-2グリッドから出土した径18.0cmの芯去ミカン割りの柱根で、樹種はスギである。77はD区SP29から出土した径11.8cmの芯持偏半割の柱根である。樹種はヤナギ属である。78はD区SD77から出土した径13.7cmの芯去削り出しの柱根である。樹種はスギである。79はD区SP112から出土した径11.6cmの芯持丸木の柱根である。先端が尖るように加工される。樹種はコナラ属コナラ亜属コナラ節である。80はE区上SE15から出土した径7.8cmの芯持丸木の柱根である。81はF区SP48から出土した径10.5cmの芯持丸木の柱根である。樹種はカツラである。82～85はI区SB1の柱根である。82・83はSP29から出土した同一の柱と見られる。径は20～22cm前後で、芯去削り出し材や芯持削り出し材を用いている。140cmを超える長さが遺存する。樹種はすべてクリである。86はJ区SP100から出土した径9.0cmの芯去削り出しの柱根である。残存長の1/2に加工痕が見られ、先端を著しく尖らせる。樹種はクリである。87はJ区SP101から出土した径12.4cmの芯去削り出しの柱根である。残存長の1/2強に加工痕が見られ、先端を著しく尖らせる。樹種はクリである。88はJ区SP103から出土した径10.8cmの芯去削り出しの柱根である。先端が尖るように加工される。樹種はクリである。89はK区SP20から出土した径8.6cmの芯持削り出し材の柱根である。樹種はカツラである。90はK区SP32から出土した径18.8cmの芯去削り出し材の柱根である。残存長の1/2程に加工痕が見られ、先端を尖ら

9 自然遺体

せる。樹種はクリである。91はK区SP61から出土した径12.1cmの芯持削り出し材の柱根である。樹種はクリである。92はK区SP62から出土した径9.0cmの芯持丸木の柱根である。先端部が少し加工され、一方が尖る。樹種はヤナギ属である。93は立会い調査区から出土した径16.0cmの芯去偏半割りの柱根である。時期は70～73が中世であるが他は大半が奈良・平安時代のものである。

用途不明品（図版83～85 94～117、写真図版80～82）

94はC区上層SE5、95～97はC区上層SE6から出土した長方形の板材である。94・96・97の樹種はスギである。98はB区SD12から出土した不整長方形の板材である。99はB区SD4から出土し、側面に切り込みが入る。100はB区の包含層から出土した長さ100cmを超える板状材で、柄穴状の長方形の孔が見られる。99・100はともに何らかの部材の可能性はある。101はC区下層SD25から出土した棒状に近いものである。樹種はスギである。102はC区上層SE4から出土した薄い板材である。103はA区河川1・2から出土した長さ112.3cmを測る板材である。特に加工痕は認められない。104はB区河川1から出土した芯去削り出し材を用いた厚みのある木製品である。105はC区下層SE7から出土した長方形の板材である。樹種はコナラ属コナラ亜属クヌギ節である。106はJ区SE87から出土した細長い板材である。107はC区上層SE3から出土した板材である。下端部が斜めに切断され、上端部は炭化する。108はC区上層SE5から出土した細長い角棒状の木材である。下端部は炭化する。109はK区SK19から出土した断面三角形の長い木材である。110はK区の包含層から出土した長さ44.6cm、径1.8cmの棒状の木製品で、下端に向かい細くなる。111はA区河川2から出土した下端部が尖り、断面楕円形の棒状の木製品である。樹種はスギである。112はB区SD6から出土した角材状の木製品である。113はF区SD5から出土した角材状の木製品である。114・115はF区SD10から出土した芯持丸木、芯持偏半割材で杭状のものである。114は樹皮を残し、上下端部が炭化する。出土状況から、櫓(5)に関連した用途が推測される。116・117はC区下層SE14から出土した角棒状のものである。これらのうち、103・111が古墳中期、94～97・102・107・108・114・115が中世、他が古代の所産と見られる。

9 自然遺体

動物遺体

B区SD4、河川1からは小片の獣骨がややまとまって出土した。SD4からは、出土した板材(木99)に付着する状態で確認された。分析の結果、ウマの下顎、中手、中心足根骨などに同定されている。また、I区P7-1グリッドからも獣骨片が1点出土し、人為的影響を受けた焼骨と推測された(第VI章参照)。

第Ⅵ章 自然科学分析

1 馬越遺跡の自然科学分析の概要

馬越遺跡ではこれまで、古環境変遷の推定及び栽培植物の検出を目的とした土壌の科学分析、用材の把握や年代を知るため、柱根や木製品の樹種同定及び年代測定、動物遺体（獣骨）の同定、木棺墓と推測される遺構の性格を推定するための土壌分析、貴重品である漆器・漆製品の科学分析を年度毎に実施し、極めて有意な情報もたらされている。今回の調査にあたっては既往の科学分析との関連や出土遺物の特徴を考慮し、下記の自然科学分析をそれぞれ専門会社、研究所に委託して行った。

平成 18 年度には、主に B 区、古代の河川跡から出土した骨片を試料とした①骨同定、平成 19 年度には C 区下層、古代の畝状遺構の土壌を試料とした②花粉分析、③植物珪酸体分析と E 区上層、中世の井戸の土壌を試料とした④灰像分析、各区の柱根を試料とした⑤樹種同定、平成 20 年度には各区から出土した木製品を試料とした⑥樹種同定、I 区出土骨片を試料とした⑦骨同定、出土した古代～中世の漆器を試料とした⑧塗膜分析、⑨赤外分光分析、⑩蛍光 X 線分析をそれぞれ①～⑦はパリノ・サーヴェイ株式会社、⑧～⑩は漆器文化財科学研究所四柳嘉章氏に委託し、分析報告書を頂いた。⑤・⑥の一部の試料採取はパリノ・サーヴェイ株式会社、①～④、⑦の試料については教育委員会が採取したもの、⑧～⑩についてはそのまま送付した。なお、報告書掲載にあたっては、それぞれ了解を得て、編集している。

2 分析結果

A 平成 18 年度馬越遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1) はじめに

馬越遺跡は、新潟県加茂市に所在し、下条川左岸の自然堤防上に位置する。これまでの発掘調査により、奈良・平安時代（8 世紀中頃～10 世紀前半頃）の集落跡であり、掘立柱建物跡、井戸、溝（畝状遺構）などが検出されている。本遺跡では、これまでも自然科学分析を応用して、当時の生活に関する情報が得られている。今回は、発掘調査の段階で出土した獣骨類の種類を明らかにする。

2) 骨 同 定

a 試 料

試料は、遺物番号 1（B 区河川 1 I2-10 グリッド）・遺物番号 2（B 区河川 1 No.10）・遺物番号 3（B 区 SD4 木 99 の木材に付着）の骨、遺物番号 4（C 区上層 SE5 の 8 層出土）の、計 4 試料である。

遺物番号 1・遺物番号 2 は、ともに古代の自然流路とされる B 区河川 1 の流路埋積物上部から採取されたもので、1 試料中に複数点の骨片が含まれる。遺物番号 3 の木材に付着していた骨は、B 区 SD4 から出土しており、これも複数点の骨片がみられる。これら B 区で出土した骨は、いずれもビビアナイト（藍

2 分析結果

鉄鉱)が析出し、地下水の影響を受けていたことが同われる。

一方、C区上層SE5の8層で採取された試料は、黒褐色を呈し、長さ2.5cm、径0.5cm程度の大きさの遺物1点である。

b 分析方法

試料中から土壌と骨を分離した後、骨片を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、同定および解析には金子浩昌先生の協力を得た。なお、ウマの骨格各部の名称を第19図に、また歯牙の配列状況を第20図に示す。

c 結果

結果を第7表に示す。確認された種類は1種類のみで、ウマ (*Equus caballus*) である。以下、試料ごとに結果を記す。

<遺物番号1 B区河川1 I2-10 グリッド>

右下顎第3後臼歯の破片で、一部下顎骨片がみられる。

<遺物番号2 B区河川1 No.10>

左下顎歯牙の破片で、一部下顎骨片がみられる。破損し、舌側の顎骨を残す。臼歯は複数点の臼歯が破片となっていたと思われる。

<遺物番号3 B区SD4 木99の木材に付着していた骨>

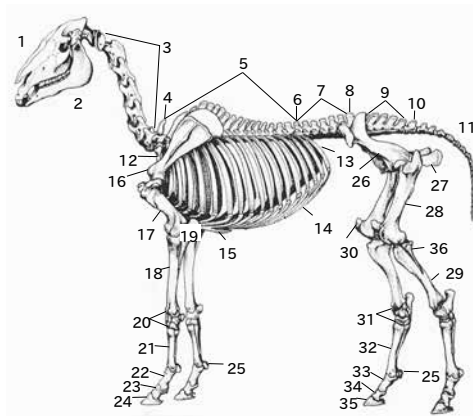
歯牙片、右中手骨の近位端、左中心足根骨片、四肢骨片、手根骨/足根骨片が確認される。ここには、こうした骨格がもともと残されていたものが破損して、骨端が残されたと思われる。

<遺物番号4 C区上層 SE5 8層>

管状の酸化鉄の塊、いわゆる高師小僧であり、骨でない。

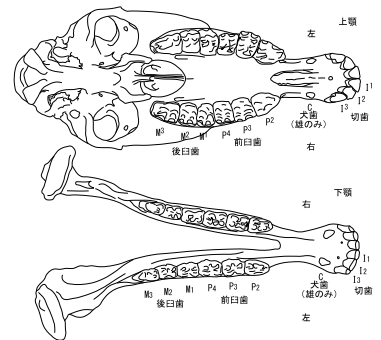
| 地区 | グリッド | 遺構 | 遺物番号 | 種類 | 部位 | 左 | 右 | 部分 | 数量 | 備考 |
|----|-------|-----|------|-----|---------|---|----|-------|-------|--------|
| B区 | I2-10 | 河川1 | 1 | ウマ | 下顎第3後臼歯 | | 右 | 破片 | 7 | 一部顎骨着 |
| | | | | | 歯牙 | | | 破片 | 9 | |
| | | | | | 不明 | | | 破片 | 15.6g | |
| | | | 2 | ウマ | 下顎歯牙 | 左 | 破片 | 39 | 一部顎骨着 | |
| | | | | | 不明 | | | 破片 | 22.0g | 顎骨片含む |
| | J2-9 | SD4 | 3 | ウマ | 歯牙 | | | 破片 | 5 | 木99に付着 |
| | | | | | 中手骨 | | 右 | 近位端 | 1 | |
| | | | | | 中心足根骨 | 左 | 破片 | 1 | | |
| | | | | | 四肢骨 | | | 破片 | 14 | |
| | | | | | 手根骨/足根骨 | | | 破片 | 4 | |
| 不明 | | | | | | | 破片 | 42.4g | | |
| 土塊 | | | | | | | | 14.1g | | |
| C区 | 上層 | SE5 | 4 | その他 | 酸化鉄 | | | 1 | 8層 | |

第7表 骨同定結果



第19図 馬の骨格〔加藤・山内2003〕を改変

- 1.頭蓋
- 2.下顎骨
- 3.頸椎
- 4.第一胸椎
- 5.胸椎
- 6.最後位胸椎
- 7.腰椎
- 8.最後位腰椎
- 9.仙骨
- 10.第一尾椎
- 11.尾椎
- 12.第一肋骨
- 13.最後位肋骨
- 14.軟肋骨
- 15.剣状軟骨
- 16.肩甲骨
- 17.上腕骨
- 18.腕骨
- 19.尺骨
- 20.手根骨
- 21.中手骨
- 22.指骨(基節骨)
- 23.指骨(中節骨)
- 24.指骨(末節骨)
- 25.基節骨種子骨
- 26.腓骨
- 27.坐骨
- 28.大腿骨
- 29.脛骨
- 30.膝蓋骨
- 31.足根骨
- 32.中足骨
- 33.趾骨(基節骨)
- 34.趾骨(中節骨)
- 35.趾骨(末節骨)
- 36.腓骨



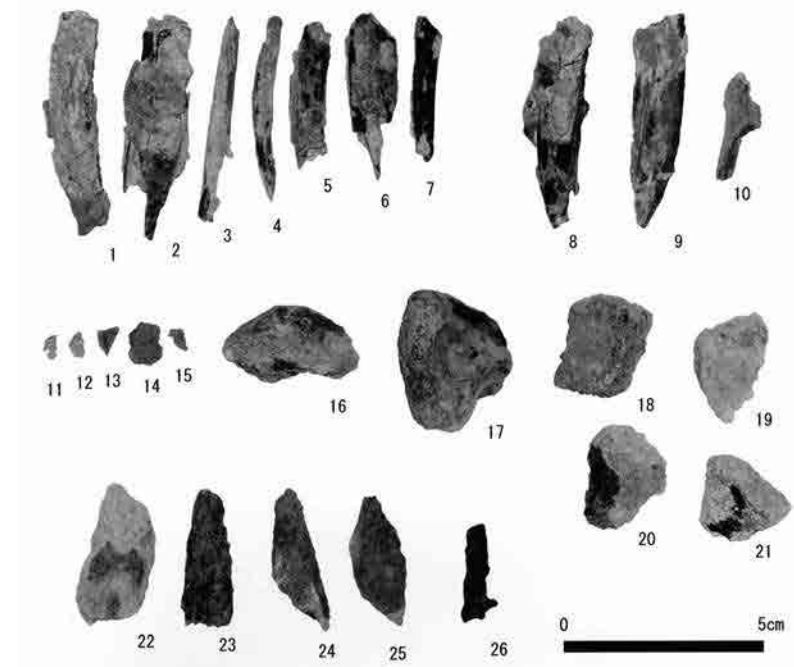
第20図 馬の上顎骨・下顎骨の概念図

d 考 察

本遺跡で確認されたのはウマ遺骸であって、下顎骨、中手骨、中心足根骨などであった。下顎骨はかなり破損していたが、左右が揃う一個がもともとは埋存していたと思われる。白歯は破損し、歯全高などを計測できなかったが、咬耗の進まない歯と思われ、5～6歳位の可能性がある。四肢骨から体高などの推定はできなかったが、中近世のウマは中形あるいは中小形馬が普通であり、本遺跡のウマも体高132cm前後であった可能性がある。

出土した獣骨は、ウマの遺骸であった。ウマは、5世紀中頃以降に普及したと考えられ、7・8世紀には他の動物に混じって、一般の集落からも出土するようになると思われる[松井1991]。本遺跡では、これまでもI区SD10やIII区SP86でウマの歯牙が検出されており(パリノ・サーヴェイ株式会社,2005)、遺跡内においてウマが飼われていたことが推定された。今回の出土もそれを裏付けるものであろう。ところで、ウマは、騎乗・荷役・農耕作業などに使役されるほか、祭祀の際の犠牲や、食肉や皮革製品・骨製品の原料、肥料としても利用

された家畜などとされている(久保・松井,1999)。馬骨、特に頭骨が溝の脇・道路状遺構・土坑などで出土することは各地に類例があり、祭祀的目的とみられることが多い。今回の場合、古代の自然流路B区河川1では、同じ位置から左右の下顎歯牙片と顎骨片がみられることから左右下顎骨が揃って存在していたと推定され、祭祀・儀礼等に伴う可能性がある。一方、B区SD4は、歯牙片および四肢骨片がみられ、河川1と異なり、祭祀・儀礼以外の目的があった可能性がある。



1-7. 右下顎第3後臼歯片 (B区河川1遺物番号1)
 11-15 歯牙片 (B区SD4遺物番号3)
 17. 左中心足根骨片 (B区SD4遺物番号3)
 22-25. 四肢骨片 (B区SD4遺物番号3)
 8-10. 左下顎歯牙片 (B区河川1位物番号2)
 16. 右中手骨近位端 (B区SD4遺物番号3)
 18-21. 手根骨/足根骨片 (B区SD4遺物番号3)
 26. 酸化鉄 (C区上層SE5 8層)

第21図 骨

引用文献

加藤嘉太郎・山内昭二 2003 『新編 家畜比較解剖図説』上巻 p315 養賢堂
 久保和士・松井 章 1999 『家畜その2—ウマ・ウシ. 考古学と自然科学2 考古学と動物学』 西本豊弘・松井章編 p169-208 同成社
 松井 章 1991 「家畜と牧—馬の生産—」『古墳時代の研究4』生産と流通I p105-119 雄山閣出版
 パリノ・サーヴェイ株式会社 2005 「平成13年度馬越遺跡の自然科学分析」『加茂市文化財調査報告14 馬越遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』p124-129 加茂市教育委員会

B 平成 19 年度馬越遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1) はじめに

新潟県加茂市大字下条に所在する馬越遺跡は、信濃川支流である下条川左岸の沖積低地に立地している。これまでの発掘調査結果では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や井戸跡、土坑、畝状遺構等が検出されており、当該期の集落跡であることが明らかとされている。

本報告では、本遺跡の発掘調査成果から課題とされた、1) 古植生と植物利用、2) 井戸跡底部から出土した植物遺体、3) 木材利用の検証を目的として自然科学分析調査を実施する。

2) 花粉分析・植物珪酸体分析

a 試料

C 区下層で検出された畝状遺構は数条の並走する溝状遺構からなり、発掘調査所見から畑跡に伴うサク列と推定されている。試料は、畝状遺構の掘り込み面に相当する堆積物、畝状遺構埋土（覆土）、これらの上位に相当する堆積物等から土壌 17 点が採取されている。

分析試料は、分析目的及び各試料の観察結果から、溝状遺構埋土（7 層 SD5、8 層 SD6）、溝状遺構上位の堆積物（IX a 層・VI a 層）を選択・抽出している。7 層 SD5 は、地山（明灰色シルト～極細粒）に由来すると考えられる偽礫が混じる黒灰色泥質土、8 層 SD6 は炭化物や地山に由来すると考えられる偽礫が混じる暗灰色泥質土、IX a 層は青灰色シルトや明灰色極細粒砂等からなる偽礫が混じる暗灰色泥質土、VI a 層は管状酸化鉄が発達し、炭化物が混じる淡黒灰色泥質土である（図版 15 参照）。これらの試料を対象に、花粉分析・植物珪酸体分析を行う。

b 分析方法

花粉分析

試料約 10g について、水酸化ナトリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重 2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

植物珪酸体分析

湿重 5g 前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリユウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由

来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、これらを含む珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された分類群とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から栽培植物について検討するために、植物珪酸体群集の産状を図化した。その際、出現率は短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

c 結 果

花粉分析

結果を第8表、第22図に示す。図表中で複数の種類を「-」で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。木本花粉総数が100個体未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるため、出現した種類を+で表示するに留めている。以下に、各試料の産状を示す。

(1) 7層 SD5

本試料からは花粉化石がほとんど検出されず、定量解析に有効な個体数は得られなかった。検出された種類は、木本花粉ではモミ属、ツガ属、トウヒ属、マツ属、サワグルミ属が、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、キク亜科が1～6個体検出されるのみであり、シダ類胞子の多産が認められた。

(2) 8層 SD6・IX a層・VI a層

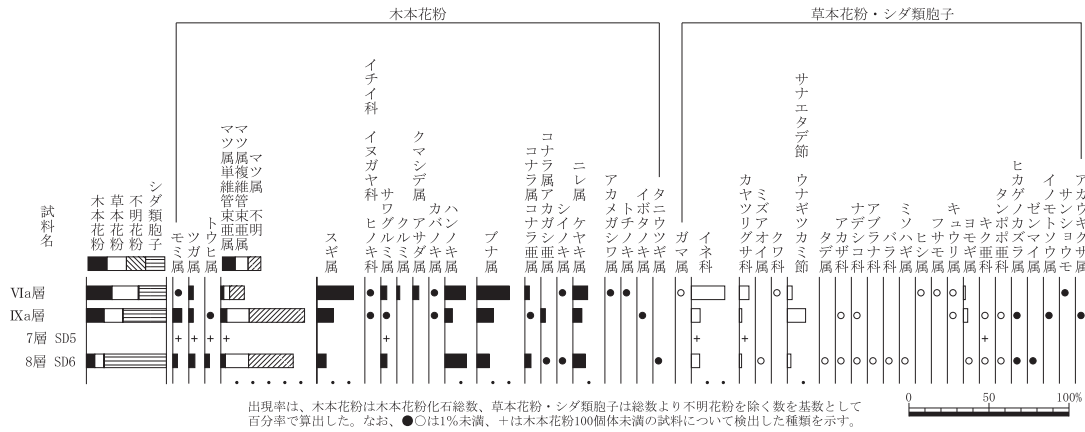
これらの試料からは、かろうじて定量解析が出来る程度の産出が認められた。花粉化石の保存状態はやや不良であり、花粉外膜が破損・溶解しているものが多く認められ、シダ類胞子が多産する。8層 SD6・IX a層の花粉群集は類似し、木本花粉ではマツ属が多産し、モミ属、ツガ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属等を伴うほか、8層 SD6 ではサワグルミ属等も認められる。草本花粉では、イネ科やカヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属等が産出する。この他に、8層 SD6 からミズアオイ属（8層 SD6）やアカウキクサ属（IX a層）等の水湿地の環境を示す分類群も検出される。

VI a層は下位堆積物試料と比較すると、草本花粉の割合が増加し、シダ類胞子の割合は減少する。検出される種類に大きな変化は認められない

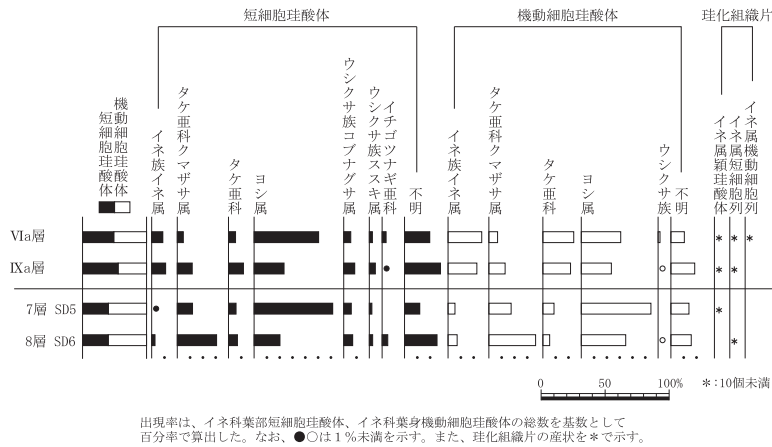
| 種 類 | 試料 | C区下層 | | | |
|-----------------|----|-------|-------|--------|--------|
| | | VI a層 | IX a層 | 7層 SD5 | 8層 SD6 |
| 木本花粉 | | | | | |
| モミ属 | | 1 | 6 | 2 | 3 |
| ツガ属 | | 3 | 3 | 1 | 4 |
| トウヒ属 | | - | 1 | 1 | 3 |
| マツ属単維管束亜属 | | 2 | 4 | - | 3 |
| マツ属複維管束亜属 | | 4 | 15 | - | 15 |
| マツ属（不明） | | 10 | 37 | 6 | 29 |
| スギ属 | | 25 | 11 | - | 6 |
| イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科 | | 1 | 1 | - | - |
| サワグルミ属 | | 4 | 1 | 2 | 4 |
| クルミ属 | | 2 | - | - | - |
| クマシデ属-アサダ属 | | 4 | - | - | - |
| カバノキ属 | | 1 | 1 | - | - |
| ハンノキ属 | | 14 | 5 | - | 14 |
| ブナ属 | | 22 | 11 | - | 8 |
| コナラ属コナラ亜属 | | 3 | 1 | - | 4 |
| コナラ属アカガシ亜属 | | - | 3 | - | 1 |
| シイノキ属 | | 1 | - | - | 1 |
| ニレ属-ケヤキ属 | | 10 | 6 | - | 8 |
| アカメガシワ属 | | 1 | - | - | - |
| トチノキ属 | | 1 | - | - | - |
| イボタノキ属 | | - | 1 | - | - |
| タニウツギ属 | | - | - | - | 1 |
| 草本花粉 | | | | | |
| ガマ属 | | 2 | - | - | - |
| イネ科 | | 70 | 26 | 6 | 51 |
| カヤツリグサ科 | | 20 | 7 | 1 | 14 |
| ミズアオイ属 | | - | - | - | 1 |
| クワ科 | | 1 | - | - | - |
| サナエタデ節-ウナギツカミ節 | | 10 | 54 | - | 22 |
| タデ属 | | - | - | - | 2 |
| アカザ科 | | - | 2 | - | 4 |
| ナデシコ科 | | - | 4 | - | 1 |
| アブラナ科 | | - | - | - | 1 |
| バラ科 | | - | - | - | 1 |
| ミソハギ属 | | - | - | - | 1 |
| ヒシ属 | | 1 | - | - | - |
| フサモ属 | | 1 | - | - | - |
| キュウリ属 | | 1 | 1 | - | - |
| ヨモギ属 | | 4 | 13 | - | 8 |
| キク亜科 | | - | 1 | 1 | 3 |
| タンポポ科 | | - | 1 | - | 1 |
| 不明花粉 | | 3 | 3 | 2 | 6 |
| シダ類胞子 | | | | | |
| ヒカゲノカズラ属 | | - | 1 | - | 1 |
| ゼンマイ属 | | - | - | - | 3 |
| イノモトソウ属 | | - | 1 | - | - |
| サンショウモ | | 2 | - | - | - |
| アカウキクサ属 | | - | 1 | - | - |
| 他のシダ類胞子 | | 114 | 254 | 373 | 762 |
| 合 計 | | | | | |
| 木本花粉 | | 109 | 107 | 12 | 104 |
| 草本花粉 | | 110 | 109 | 8 | 110 |
| 不明花粉 | | 3 | 3 | 2 | 6 |
| シダ類胞子 | | 116 | 257 | 373 | 766 |
| 総計（不明を除く） | | 335 | 473 | 393 | 980 |

第8表 花粉分析結果

2 分析結果



第 22 図 花粉化石群集の層位分布



第 23 図 植物珪酸体群集の層位分布

が、木本花粉では、スギ属、ブナ属が多く産出し、ツガ属、マツ属、サワグルミ属、クマシデ属ーアサダ属、ハンノキ属、コナラ亜属、ニレ属ーケヤキ属等を伴う。草本花粉では、イネ科が多産し、カヤツリグサ科、サナエタデ節ーウナギツカミ節、ヨモギ属等を伴う。この他に、ガマ属、ヒシ属、フサモ属、サンショウモ等の水湿地生植物に由来する花粉・胞子がわずかに認められる。また、IX a 層およびVI a 層からは、渡来種のキュウリ属に由来する花粉が検出される。

植物珪酸体分析

結果を第 9 表、第 23 図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められるなど、保存状態は不良である。以下に、各試料の産状を示す。

(1) 7 層 SD5・8 層 SD6

畝状遺構埋土（覆土）に相当する 7 層・8 層からは、栽培植物のイネ属の葉部に形成される短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が認められ、SD5 では粉殻に形成される珪酸体も認められる。また、SD6 では、短細胞珪酸体に細胞列を呈する珪化組織片も認められる。なお、

| 種 類 | C 区下層 | | | |
|--------------|--------|--------|---------|---------|
| | VI a 層 | IX a 層 | 7 層 SD5 | 8 層 SD6 |
| 試料番号 | | | | |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | | | | |
| イネ族イネ属 | 11 | 14 | 1 | 3 |
| タケ亜科クマザサ属 | 6 | 15 | 12 | 35 |
| タケ亜科 | 7 | 15 | 6 | 8 |
| ヨシ属 | 64 | 30 | 62 | 23 |
| ウシクサ族コブナグサ属 | 7 | 11 | 6 | 8 |
| ウシクサ族ススキ属 | 3 | 6 | 2 | 3 |
| イチゴツナギ亜科 | 4 | 1 | - | 5 |
| 不明キビ型 | 15 | 24 | 7 | 25 |
| 不明ヒゲンバ型 | 5 | 1 | 2 | 1 |
| 不明ダンチク型 | 5 | 11 | 3 | 3 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | | | | |
| イネ族イネ属 | 35 | 23 | 8 | 12 |
| タケ亜科クマザサ属 | 9 | 13 | 26 | 62 |
| タケ亜科 | 32 | 22 | 13 | 9 |
| ヨシ属 | 41 | 24 | 81 | 59 |
| ウシクサ族 | 2 | 1 | - | 1 |
| 不明 | 14 | 19 | 21 | 27 |
| 合 計 | | | | |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | 127 | 128 | 101 | 114 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | 133 | 102 | 149 | 170 |
| 総 計 | 260 | 230 | 250 | 284 |
| 珪化組織片 | | | | |
| イネ属珪酸体 | 7 | 2 | 1 | - |
| イネ属短細胞列 | 6 | 7 | - | 3 |
| イネ属機動細胞列 | 1 | - | - | - |

第 9 表 植物珪酸体分析結果

イネ属の出現率は上位堆積物（IX a層・VI a層）よりも低率であり、イネ属以外の栽培植物は検出されない。

この他に検出された分類群では、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。SD5はヨシ属の産出が顕著であり、SD6はヨシ属やタケ亜科の産出が目立つ。

(2) IX a層・VI a層

これらの2試料からは、畝状遺構試料と同様の分類群が検出される。イネ属は、短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体、穎珪酸体が認められ、珪化組織片も検出される。また、イネ属の植物珪酸体中では、機動細胞珪酸体の出現率が高く、このほかの分類群と比較しても産出が顕著である。イネ属を除く分類群では、ヨシ属やタケ亜科の産出が目立つ。

d 考 察

古植生

花粉化石が検出された8層SD6、IX a層、VI a層の産出状況は、花粉外膜が破損・溶解しているものが多く、花粉化石の保存状態は不良であった。花粉やシダ類胞子の腐蝕に対する抵抗性は種類により異なり、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている〔中村1967；徳永・山内1971；三宅・中越1998など〕。検出された花粉化石の保存状態やシダ類胞子の多産等を考慮すると、得られた花粉化石群集は経年変化による分解・消失の影響を受けていると推定される。このことから、分解に強い花粉が選択的に多く残され、当時の周辺植生を正確に反映していない可能性があり、本稿では、これらの点を考慮し考察を行う。

畝状遺構埋土（8層SD6）及び上位堆積物（IX a層）の花粉化石群集は類似し、木本類ではマツ属が多産したほか、モミ属、ツガ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ属等が検出された。草本類では、イネ科やカヤツリグサ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ヨモギ属等が検出された。VI a層では、木本類のスギ属、ハンノキ属、ブナ属、ニレ属—ケヤキ属が比較的多く、草本類は8層SD6、IX a層と類似し、イネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ヨモギ属等が検出された。イネ科については、植物珪酸体の産出から、栽培種のイネ属をはじめとして、クマザサ属やヨシ属、コブナグサ属、ススキ属等の分類群が含まれていると考えられる。

なお、多産したマツ属には、ニヨウマツ類（複維管束亜属）とゴヨウマツ類（単維管束亜属）があるが、本分析結果ではニヨウマツ類の割合が高い。ニヨウマツ類は、明るく開けた場所であれば、土壌条件に関係なく生育可能な種類であることから、7・8層～IX a層形成時には遺跡周辺の開けた場所に生育していたと推定される。落葉広葉樹のアカメガシワ属も陽地にいち早く進入する種類であることから、同様に生育していたと考えられる。草本類で認められた種類では、ヨモギ属やススキ属などは耐乾性が高く、人の影響を強く受けるような場所にも生育する種類が多いことから、遺跡内や周辺の開けた場所に生育していたと考えられ、多少湿り気のある場所には、シダ類のイノモトソウ属等が生育していた可能性がある。

後背丘陵や山地には、ブナ属、コナラ亜属等の落葉広葉樹が林分を形成し、部分的に針葉樹のモミ属、ツガ属等が分布していたと考えられる。ブナ属は、現在の日本海側で林分（ブナ林）を形成するブナの可能性があり、コナラ亜属は、丘陵地などに二次林を形成するコナラや山地で林分を形成するミズナラ等が考えられる。植物珪酸体分析で検出されたクマザサ属には、これらの落葉広葉樹林の林床に生育する種類が含まれる。針葉樹のスギ属、落葉広葉樹のサワグルミ属やハンノキ属、ニレ属—ケヤキ属は、河畔林や

2 分析結果

湿地林を構成する種類が含まれることから、遺跡周辺の河畔や低湿地、丘陵・山地内の沢沿い等で河畔林・湿地林を構成していたと推定される。この他に、常緑広葉樹のアカガシ亜属やシイノキ属も検出されており、周辺域には、これらの分類群の生育も窺われる。流れの緩やかな水域には、水生植物のミズアオイ属、アカウキクサ属やイネ科のヨシ属等が生育していたと考えられる。

VI a 層では、マツ属の割合が減少し、スギ属、ブナ属等の増加が認められた。ただし、シダ類孢子の産状を考慮すると、この他の試料と比較して経年変化等の影響が少なく、相対的にマツ属の割合が低くなった可能性がある。木本類では、検出される分類群に大きな変化はみられないことから、周辺域は同様の植生であったと推定される。なお、8層 SD6・IX a 層で検出されなかったクルミ属、クマシデ属ーアサダ属、トチノキ属は河畔林・渓谷林構成種であることから、ニレ属ーケヤキ属等と共に河畔林を構成していたことが推定される。また、水生植物のフサモ属、ヒシ属、サンショウモやイネ科のガマ属、ヨシ属は、遺跡周辺の低地や水湿地に生育していたと考えられる。これまでの分析調査では、本遺跡のII区①の奈良・平安時代の堆積物の花粉化石群集が確認されており [パリノ・サーヴェイ株式会社 2005a]、その組成は本分析結果と調和的である。

栽培植物

C 区下層面より検出された畑跡と推定される畝状遺構埋土の植物珪酸体分析結果では、栽培種のイネ属が検出された。一方、イネ属以外のイネ科栽培種（ムギ類・ヒエ・アワ・キビ等）は、畝状遺構埋土をはじめとして、IX a 層やVI a 層などの上位堆積物からも全く検出されなかった。イネ属の機動細胞珪酸体の出現率は、畝状遺構埋土では6%前後であったが、イネ属の産出が目立つIX a 層やVI a 層では約23%、約26%と高率となる傾向を示した。

現在の水田土壤中に含まれる植物珪酸体の調査によれば、機動細胞珪酸体中のイネ属の割合は9%であるが、稲藁を堆肥として与えている水田では16%に上がるという結果が得られている [近藤 1988]。この調査例と比較すると、IX a 層やVI a 層のイネ属の出現率は現在の水田耕土と比較しても高く、さらに、湿潤な場所に生育するヨシ属の産出が目立つことや、水田雑草でもある水生植物の花粉も検出されたことなどを考慮すると、堆積環境や土地利用の変化といった可能性もある。この点については、発掘調査所見等と合わせて検討することが望まれる。

また、IX a 層・VI a 層からキュウリ属の花粉が検出された。キュウリ属は、野生種が日本に存在したとの説があるが、渡来した栽培種であるキュウリやメロン類も含まれる。これらの花粉や種子は弥生時代以降に多く検出される傾向にあり、IX a 層・VI a 層から検出されたキュウリ属花粉も栽培に由来する可能性がある。本遺跡では、栽培種としてイネ属の植物珪酸体、モモの核、ヒョウタン類の果皮、ソバ属の花粉が検出されている [パリノ・サーヴェイ株式会社 2005a] が、キュウリ属の栽培種に由来する種実等は検出されていない。そのため、キュウリ属の栽培や利用については、資料の蓄積を待って、改めて評価・検討することが望まれる。

3) 植物遺体

a 試料

試料は、E 区上層面で検出された井戸跡 (SE15) 底部 (7層) より採取された土壌である。井戸跡は、発掘調査所見から、鎌倉時代の遺構と推定されており、同遺構から採取された試料は、多量の植物遺体が混じる黒褐色砂質土である。植物遺体は、径 5mm 前後の中空の棒状を呈し、炭化した状態で塊状をなす。

本試料を対象に、灰像分析を実施する。

b 分析 方法

試料は、大部分が炭化し、灰像の観察が困難であった。ここでは、試料の状況を考慮し、過酸化水素水で漂白、灰化を行い、400倍の光学顕微鏡下で観察を行う。イネ科葉部（葉身と葉鞘）に由来した植物珪酸体を包含する珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定する。

c 結 果

結果を第10表に示す。植物遺体は、分析処理の行程で炭素を十分に除去できず、灰像の観察に至らない。なお、処理残渣内には珪化組織片が検出され、イネ属短細胞列、チゴザサ属短細胞列、ヨシ属短細胞列、ススキ属短細胞列が認められる。また、実体顕微鏡による植物遺体の横断面の観察では、不斉中心柱の組織構造が観察される。

| 種 類 | E区上層 井戸跡 (SE15) 7層 |
|-----------|--------------------|
| イネ属短細胞列 | +++ |
| チゴザサ属短細胞列 | + |
| ヨシ属短細胞列 | +++ |
| ススキ属短細胞列 | + |
| 炭化物片 | +++ |

+++ : 非常に多い, + : 少数検出

第10表 灰像分析結果

d 考 察

井戸跡 (SE15) 底部から検出された植物遺体は、灰像の観察に至らず種類を特定には至らなかったが、外観的な形状や横断面に不斉中心柱の構造を持つことから、植物遺体はイネ科の稈に由来すると考えられる。また、処理残渣内にはイネ属、チゴザサ属、ヨシ属、ススキ属の珪化組織片や炭化物が認められたことから、被熱を受け炭化、あるいは灰化した植物体由来する可能性がある。ただし、イネ属やチゴザサ属、ヨシ属、ススキ属等は前述した分析結果でも確認されていることから、土壌に含まれる植物珪酸体由来する可能性もある。

4) 木 材 利 用

a 試 料

試料は、奈良～平安時代及び中世と考えられる柱根や礎板等 19点である。各試料の詳細は、結果とともに第5表に示す。

b 分析 方法

樹種同定

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製する。切片は、ガム・クロラール(抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。試料が広葉樹の場合には、独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを活用して同定を実施する。

同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。各樹種の木材組織は、林(1991)、伊東(1995・1996・1997・1998・1999)も参考にする。

2 分析結果

c 結果

結果を第 11 表に示す。柱材は、針葉樹 2 種類（スギ・ヒノキ）と広葉樹 6 種類（ヤナギ属・ハンノキ属ハンノキ亜属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・カツラ・トネリコ属）に同定された。C 区下層 SP5、C 区上層 SP83 の柱根は、道管を有することから広葉樹と判断され、SP83 については組織配列から環孔材と判断されるが、組織が収縮しているなど保存状態が悪く種類の同定には至らない。また、K 区 SP62 は、樹皮部分のみで木部細胞が観察できなかったことから、種類の同定には至らない。以下に、同定された各種類の解剖学的特徴等を記す。

| 調査年度 | 調査区 | 遺構名 | 報告番号 | 実測番号 | 種別 | 時期 | 樹種 | 備考 |
|----------|-----|-------|------|-------|----|-----------------|---------------|----|
| 平成 17 年度 | B | SP4 | 67 | No.17 | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | クリ | |
| | B | SP4 | 66 | No.11 | 礎板 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | クリ | |
| | B | SP6 | 69 | No.5 | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | ヤナギ属 | |
| | C 下 | SP3 | 73 | No.9 | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | ハンノキ属ハンノキ亜属 | |
| | C 下 | SP5 | 74 | No.6 | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | ヤナギ属 | |
| | C 上 | SP83 | 70 | No.18 | 柱根 | 中世 | トネリコ属 | |
| | C 上 | SP83 | 71 | No.19 | 柱根 | 中世 | スギ | |
| 平成 18 年度 | C 下 | SP22 | 75 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | ヒノキ | |
| | D | SP112 | 79 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | コナラ属コナラ亜属コナラ節 | |
| | F | SP48 | 81 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | カツラ | |
| | I | SB1 | SP29 | 82 | 柱根 | 奈良 (8 世紀) | クリ | |
| | I | | SP30 | 84 | 柱根 | 奈良 (8 世紀) | クリ | |
| | I | | SP50 | 85 | 柱根 | 奈良 (8 世紀) | クリ | |
| | J | SP100 | 86 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | クリ | |
| | J | SP101 | 87 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | クリ | |
| | J | SP103 | 88 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | クリ | |
| | K | SP20 | 89 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | カツラ | |
| | K | SP32 | 90 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | クリ | |
| | K | SP61 | 91 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | クリ | |
| | K | SP62 | 92 | | 柱根 | 平安 (9 世紀～10 世紀) | ヤナギ属 | |

第 11 表 樹種同定結果

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 1-3 個。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界付近でやや径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15 細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus* subgen. *Alnus*) カバノキ科

試料は収縮した痕跡がある。散孔材で、管孔は単独または 2-4 個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと集合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

なお、平成17年度のB区SP4遺物番号1(実No.17)の柱根は、木片に年輪界が認められず、また観察範囲も狭かった。クリとよく似た組織を有するコナラ節の可能性も残るため、クリ近似種とした。

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

d 考 察

試料は、柱根19点、礎板1点からなり、奈良時代(8世紀)に比定される試料(3点)、平安時代(9~10世紀)に比定される試料(15点)、中世に比定される試料(2点)からなる。

各試料の所見及び分析結果に基づく時期別の種類構成(第12表)では、奈良時代の柱根3点と平安時代(9~10世紀)の試料14点のうち7点(柱根6点、礎板1点)はクリであったことから、クリを主体とした種類構成が窺われる。クリ以外の樹種では、平安時代の試料に、カツラ(2点)、ヤナギ属、ハンノキ亜属、コナラ節、ヒノキ(各1点)が認められた。

| 分類群\時期・器種 | 奈良 | 平安 | | 中世 | 合計 |
|---------------|-----------|--------------|----|---------|----|
| | 8世紀 柱根 | 9-10世紀 柱根 | 礎板 | - 柱根 | |
| 針葉樹 | | | | | |
| スギ | - | - | - | 1 | 1 |
| ヒノキ | - | 1 | - | - | 1 |
| 広葉樹 | | | | | |
| ヤナギ属 | - | 3 | - | - | 3 |
| ハンノキ属ハンノキ亜属 | - | 1 | - | - | 1 |
| コナラ属コナラ亜属コナラ節 | - | 1 | - | - | 1 |
| クリ | 3 | 6 | 1 | - | 10 |
| カツラ | - | 2 | - | - | 2 |
| トネリコ属 | - | - | - | 1 | 1 |
| 合計 | 3 | 14 | 1 | 2 | 20 |

1) クリ近似種はクリに含めて集計した。

第12表 時期別種類構成

各樹種の材質は、最も多く認められたクリは重硬で強度・耐朽性が高い材質を有し、ハンノキ亜属とコナラ節は比較的強度は高いが耐朽性はクリに比べ低い。また、ヒノキは木理が通直で割裂性・耐水性が高く、加工が容易といった材質を有し、カツラも木理が通直で加工が容易である。ヤナギ属は、加工は容易であるが、強度・保存性は低いといった特徴を示す。したがって、クリが多く利用された背景としては、柱等の樹種として適した材質を有することが考えられる。また、コナラ節やハンノキ亜属は強度が高いこと、ヒノキは耐水性が高いこと、カツラは比較的樹幹が真直で大径木となることや加工しやすい材質が利用された背景と考えられる。一方、ヤナギ属は、強度・保存性が低く、柱としては不適と推定され、前述した樹種と同様の用途であるか課題が残る。なお、ヒノキを除く樹種は、いずれも河畔林構成種、あるいは、河畔林構成種を含む分類群であり、花粉分析結果などから遺跡周辺で入手可能な木材であったと考えられる。

一方、中世の柱根2点は、スギとトネリコ属であった。少なくとも2種類の木材が利用されていたことが推定される。スギは、木理が通直で割裂性が高く、加工が容易で耐水性も有し、トネリコ属は、重硬で強度が高い材質を有する。いずれも低地で水分の多い土地を好む種類であり、遺跡周辺の低地部に生育していた可能性がある。

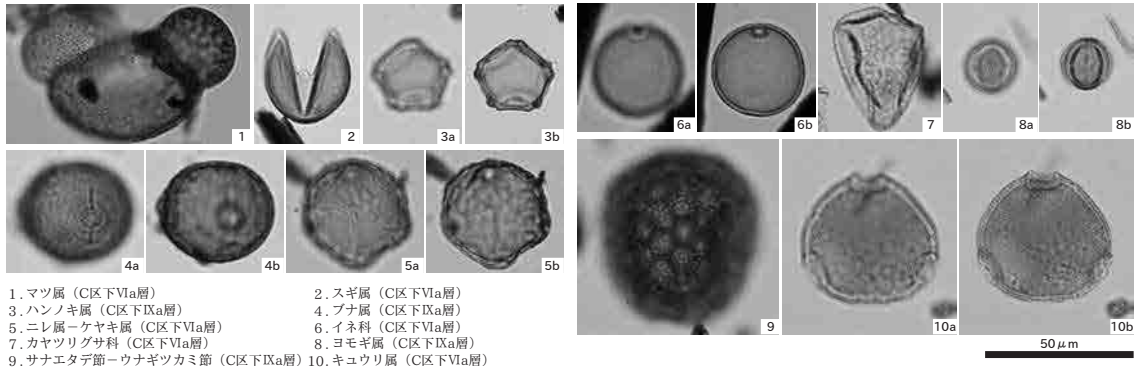
2 分析結果

馬越遺跡では、これまでも8～10世紀の柱根等を対象とした分析調査が実施されている。これらの調査結果では、クリを主体として、オニグルミやヤナギ属、ハンノキ亜属、ケヤキ、アカメガシワ、カエデ属、トネリコ属の利用が確認されている [パリノ・サーヴェイ株式会社 2005b]。クリを多用する傾向は、本分析結果と調和的であり、当該期の柱材にはクリが主体的に利用されていたことが示唆される。一方、ヤナギ属はIII区SB13の柱(4点)にも利用が認められ、クリを主体とする建物が存在する一方、柱材に不適なヤナギ属を主体とする建物の存在も窺われる。また、I区SB5,6では強度・保存性の低いアカメガシワがクリに混じって利用されており、柱材として不適と考えられる樹種が混在するといった特徴も指摘される。江添C遺跡(燕市)では、建物の規模が大きく、柱穴掘り方が方形となる建物は全てクリであるのに対し、柱間寸法が不揃いとなる建物では種類構成が雑多となる傾向(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2000)が認められている。上記したSB13は、同時期(10世紀初頭～中頃)のクリの柱材からなるSB8・SB9と対照的であり、江添C遺跡と同様に建物の規模や性格等の差異が木材利用に反映されている可能性がある。本分析試料については、遺構単位での樹種構成等の検討は行っていないため、今後、これらの調査所見を含め再検討する必要がある。

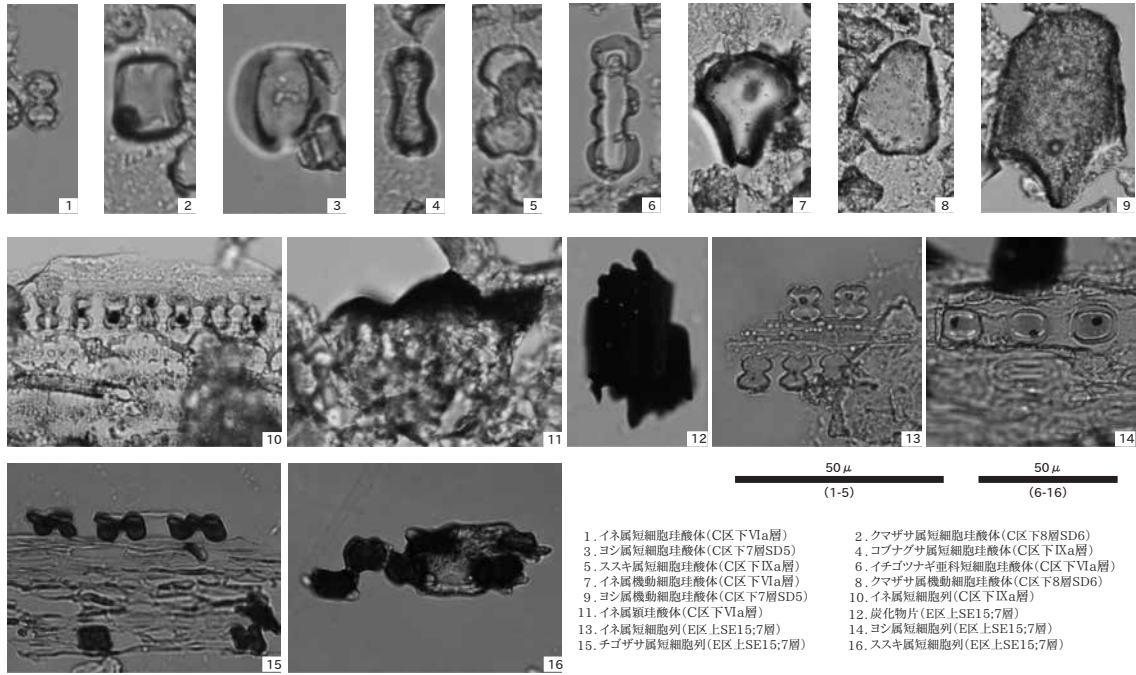
引用文献

- 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 p81-181 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 p66-176 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 p83-201 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 p30-166 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 p47-216 京都大学木質科学研究所
- 近藤 鍊三 1988 「十二遺跡土壌の植物珪酸体分析」『鑄師屋遺跡群十二遺跡－長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書－』 p377-383 御代田町教育委員会
- 近藤鍊三 2004 『植物ケイ酸体研究』 p48、46-64 ペドロジスト
- 三宅 尚・中越 信和 1998 「森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態」『植生史研究』p6、15-30
- 中村 純 1967 『花粉分析』p232 古今書院.
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2000 「自然科学分析」『吉田町文化財調査報告書第5集 江添C遺跡－吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』 p206-213 吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2005a 「平成11年度馬越遺跡の自然科学分析」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡－国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書－』 p103-123 加茂市教育委員会
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2005b 「平成13年度馬越遺跡の自然科学分析」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡－国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書－』 p124-129 加茂市教育委員会
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 p70 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修) 海青社 [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』 p176 地球社
- 徳永重元・山内輝子 1971 「花粉・胞子」『化石の研究法』 p50-73 共立出版株式会社
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 p122 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社 [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

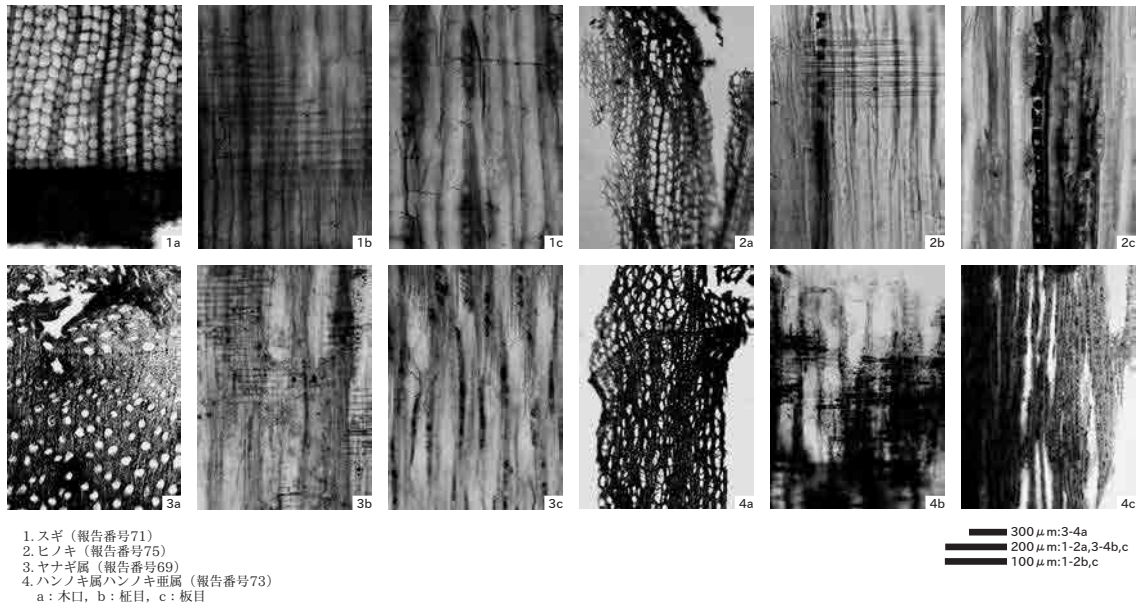
花粉化石



植物珪酸体



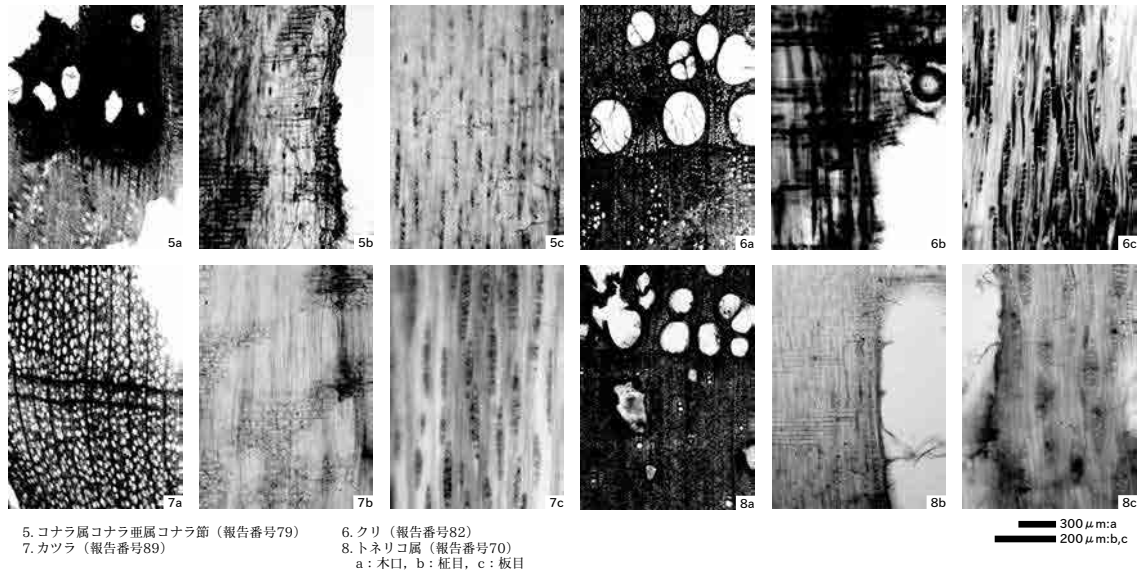
木材 (1)



第 24 図 花粉化石・植物珪酸体・木材 (1)

2 分析結果

木材 (2)



第 25 図 木材 (2)

C 平成 20 年度馬越遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1) はじめに

馬越遺跡は、新潟県加茂市下条に所在し、信濃川右岸、信濃川の支流である下条川左岸の沖積低地に立地している。本報告では、馬越遺跡の H17・18 年度発掘調査で出土した木製品や骨片を対象に自然科学分析調査を実施し、木製品等の樹種や木材利用、骨片の種類や部位等を検討する。

2) 木製品の樹種

a 試料

試料は、H17 年度発掘調査出土の木製品 17 点、H18 年度調査発掘調査出土の木製品 16 点の計 33 点である。これらの木製品を対象に樹種同定を行う。各試料の詳細は、結果とともに第 13 表に示す。

b 分析方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称や特徴については、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考に、日本産木材の組織配列については、林 (1991) や伊東 (1995・1996・1997・1998・1999) を参考にする。

c 結果

結果を第 13 表に示す。木製品は、針葉樹 3 分類群（スギ・ヒノキ・イヌガヤ）と広葉樹 9 分類群（ヤナギ属・

ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・ケヤキ・モクレン属・イスノキ・ハリギリ・トチノキ・トネリコ属)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1～2個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

試料はいずれも収縮している。散孔材で、道管は単独または2～3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1～15細胞高。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2～3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織までである。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

試料は早材部の一部と晩材部で、年輪界が含まれていない。環孔材で、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～8細胞幅、1～50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～40細胞高。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、

2 分析結果

放射方向にほぼ等間隔に配列する。

・ハリギリ (*Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai) ウコギ科ハリギリ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性～同性、1～5細胞幅、1～30細胞高。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高で階層状に配列する。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

d 考 察

今回分析調査を行った木製品33点は、古墳時代中期、平安時代、鎌倉時代、中世、時期不明に分けられ、器種は土木材や農具、武器、下駄、容器、祭祀具、建築部材等多岐に渡る。木製品からは、針葉樹3分類群(スギ・ヒノキ・イヌガヤ)と広葉樹9分類群(ヤナギ属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・ケヤキ・モクレン属・イスノキ・ハリギリ・トチノキ・トネリコ属)の計12分類群が確認された。各分類群の材質をみると、針葉樹のスギやヒノキは、木理が通直で割裂性が高く、加工が容易である。イヌガヤは、重硬・強靱で強度が高く、加工はやや困難な部類である。広葉樹では、ブナ属やクヌギ節、ケヤキ、イスノキ、トネリコ属は、重硬で強度が高く、ヤナギ属やハリギリ、モクレン属、トチノキはそれよりも強度が低い。このうち、ヤナギ属やトチノキは保存性が低いとされる。本分析結果に基づく木製品の時期別および器種別種類構成を第14・15表に示す。

古墳時代中期の木製品は、棒状品1点(H17年度;実24)であり、針葉樹のスギであった。馬越遺跡では、同時期の木製品の調査事例は少ないが、スギは古代の木製品でも棒状品や板状品に比較的によく利用されている樹種である[パリノ・サーヴェイ株式会社2005a・2005b・2005c]。

平安時代の木製品は、文房具(木簡)、土木材(土木具)、農具(農具)、武器(弓)、容器(漆器・椀・皿)、祭祀具(陽物形?)、建築部材(柱根)、不明品(棒状・不明)からなる。木簡はスギであった。割裂性が高く板への加工が容易な樹種が選択・利用されたと推定される。土木具は、器種の詳細は不明であるが、針葉樹のヒノキであったことから加工性や耐水性を考慮した木材利用が推定される。農具も器種の詳細は不明であるが、針葉樹のスギであったことから強度よりも加工性を考慮した木材利用が推定される。

弓は、芯持丸木の素木弓であり、強靱なイヌガヤが利用されている。本地域には基本種であるイヌガヤは分布しておらず、多雪地域の変種とされるハイイヌガヤが一般的であることから、ハイイヌガヤが利用されたと考えられる。新潟県内における古代とされる素木弓は、一之口遺跡(上越市)や屋敷遺跡・蔵ノ坪遺跡(胎内市)、桃川遺跡群(村上市)より計5例出土しており、一之口遺跡でスギが1例確認されているほかは、全てイヌガヤである[パリノ・サーヴェイ株式会社1994・2002・2003a;株式会社吉田生物研究所2004]。イヌガヤの利用は、青田遺跡(新発田市)の縄文時代後・晩期の丸木弓や平田遺跡(佐

渡市)の弥生時代中期の丸木弓等に確認されており[松葉 2000; 鈴木^{ほか} 2004]、古くから利用されていたことが推定される。本地域では、弓の調査事例が少ないが、本分析結果から他地域と同様にイヌガヤが利用されていたと考えられる。

容器は、漆器類と漆塗りが認められない椀/皿からなる。また、漆器類には、椀/皿のほかに、板状を呈する試料が3点(報告番号23~25)確認された。漆器類のうち、板状木製品には針葉樹のスギ(1点)とケヤキ(2点)、椀・皿類にはケヤキとブナ属が認められた。ケヤキとブナ属は、共に漆器椀・皿の木材として一般的な種類であり、本遺跡でも利用されていたことが推定される。また、板状木製品からもケヤキが確認されており、椀/皿に由来する可能性や同様の木材利用を示す資料の可能性はある。一方、スギに同定された漆器は、小型の柁目板状で、2辺が曲線状となる。形状から、他の部材との組み合わせが推定され、容器以外の器種である可能性もある。

これまでの馬越遺跡における古代の椀や皿の調査結果では、ケヤキが多い傾向が認められている。今回の調査結果も調和しており、古代の漆器木材にケヤキを主とした木材利用が推定される。また、漆塗りが認められなかった椀/皿も漆器(椀・皿類)と同様の樹種(ケヤキ)・木取り(横木地柁目取)が確認されたことから、同様の木材選択・利用が推定される。

陽物形?は、半裁木を加工したものであり、トネリコ属であった。トネリコ属は、渓谷林・湿地林を構成するシオジやヤチダモが含まれ、馬越遺跡より検出された古代の立木にも認められている[パリノ・サーヴェイ株式会社 2005a]。また、隣接する太田遺跡における花粉群集においてもトネリコ属が確認されている(未公表資料)。このことから、本遺跡周辺の河畔・湿地に生育したトネリコ属を利用したことが推定される。

柱根は、スギ等の針葉樹とヤナギ属が認められた。保存性や耐水性が比較的高いスギが利用されている一方、保存性の低いヤナギ属の利用が看取される。馬越遺跡のこれまでの柱材の調査結果では、クリを主体としてアカメガシワやオニグルミ、カエデ属、ケヤキ、トネリコ属、ハンノキ亜属、ヤナギ属の利用が確認されており[パリノ・サーヴェイ株式会社 2005b]、広葉樹を主とする種類構成が示唆されている。本分析結果から、針葉樹材も利用されていたことが推定される。なお、馬越遺跡や同時期の遺跡における建物跡の柱材の調査結果から、建物跡の規模や構造と木材の材質(強度や保存性・耐水性)との関連性が示唆されているが、針葉樹材については調査事例が少なく、今後の検討課題である。

鎌倉時代の木製品は、容器(漆器)や服飾具(櫛)、建築部材(柱根)、不明品(板状)、また、中世の木製品は、下駄(差齒下駄)、容器(漆器)と運搬具(櫓)からなる。漆器は、いずれも椀/皿類であり、木取り観察が可能であった試料はすべて横木地柁目取であった。漆器6点のうち3点がブナ属であり、この他にケヤキが2点とトチノキが1点と、ブナ属が多く利用される。木材利用の傾向は平安時代と同様であるが、これまでの馬越遺跡における漆器の調査結果から、古代に比べ中世において容器に利用される樹種が多様化し、ケヤキの利用が少なくなる傾向が確認されている。本分析結果は、この傾向と調和的である。櫛は横櫛であり、常緑広葉樹のイスノキであった。イスノキは、国産材の中でも最も重硬・緻密な材質を有する種類であり、櫛のような細かな加工には適材である。本遺跡では、古代の櫛にイスノキが確認されている[パリノ・サーヴェイ株式会社 2005c]。新潟県内では、八反田遺跡・用言寺遺跡・仲田遺跡(上越市)、住吉遺跡(新発田市)、城田遺跡・樋渡・堀下遺跡(村上市)等で中世の櫛(12例)の分析調査が行われており、全てイスノキに同定されている[パリノ・サーヴェイ株式会社 2001c・2003b; 株式会社パレオ・ラボ 2002; 三村・植田 2003; 植田 2006; 株式会社古環境研究所 2006]。イスノキは、暖温帯常緑広

2 分析結果

葉樹林の構成種で、本州では伊豆半島以西の太平洋側に分布しているが、日本海側には分布していない。このことから、これらのイスノキの櫛は、他地域から持ち込まれた可能性がある。

柱根は、ヤナギ属であった。本遺跡における過去の調査では、中世の柱材にスギとトネリコ属が確認されている。いずれも平安時代の柱材に認められた分類群であり、耐水性のあるスギや、強度の高いトネリコ属が利用される一方、保存性の低いヤナギ属が認められる点は類似する。平安時代と同様の木材利用が

| 調査年度 | 調査区 | 位置 | 遺構名 | 層位 | 報告番号 | 実測番号 | 年代 | 器種 / 種別 | 木取り | 樹種 | |
|------|------|---------|------|-----|------|---------|---------------|-----------|--|------|---------------|
| H17 | A 区 | F3-2 | 河川 2 | | 111 | 実 24 | 古墳時代中期 | 棒状 | 横木地榎目取 横木地榎目取 横木地榎目取 板目 半裁木 横木地 | スギ | |
| | B 区 | | SD12 | | 4 | 実 7 | 平安時代 | 農具 | | スギ | |
| | B 区 | | 河川 1 | | 3 | 実 10 | 平安時代 | 土木具 | | ヒノキ | |
| | C 区上 | | SP84 | | 72 | 実 23 | 鎌倉時代 | 柱根 | | ヤナギ属 | |
| | C 区上 | | SE2 | | 16 | | 鎌倉時代 | 漆器 | | ブナ属 | |
| | C 区上 | | SE4 | | 17 | | 鎌倉時代 | 漆器 | | ケヤキ | |
| | C 区上 | | SE5 | | 21 | | 鎌倉時代 | 漆器 | | ブナ属 | |
| | C 区上 | | SE5 | 6 層 | 22 | 実 37 | 鎌倉時代 | 漆器 | | トチノキ | |
| | C 区上 | | SE3 | 7 層 | 7 | 実 36 | 鎌倉時代 | 櫛 | | イスノキ | |
| | C 区上 | | SE5 | | 94 | 実 27 | 鎌倉時代 | 鎌倉時代 | | スギ | |
| | C 区上 | | SE6 | | 96 | 実 4・12 | 鎌倉時代 | 板状 | | スギ | |
| | C 区上 | | SE6 | | 97 | 実 3 | 鎌倉時代 | 板状 | | スギ | |
| | C 区下 | | | | 76 | 実 2 | 平安時代 | 柱根 | | スギ | |
| | C 区下 | | SK8 | | 61 | 実 28 | 平安時代 | 不明 (陽物形?) | | 半裁木 | トネリコ属 |
| | C 区下 | | SE7 | | 105 | 実 33 | 平安時代 | 不明 | | | コナラ属コナラ亜属クヌギ節 |
| | C 区下 | | SD25 | | 101 | 実 25 | 平安時代 | 棒状 | | | スギ |
| | C 区下 | | SD51 | | 15 | 実 40 | 平安時代 | 漆器 | | | ブナ属近似種 |
| H18 | C 区下 | 河川 23 | | 8 | | 中世 | 差歯下駄 (露卯) ; 台 | 榎目 | スギ | | |
| | D 区 | SP29 | | 77 | | 平安時代 | 柱根 | 芯持材 | ヤナギ属 | | |
| | D 区 | SD77 | | 78 | | 平安時代 | 柱根 | | スギ | | |
| | F 区 | SD10 | | 5 | | 中世? | 櫛 | 榎目 | モクレン属 | | |
| | G 区 | 河川 10 | | 12 | | | 差歯下駄 (露卯) ; 歯 | 板目 | モクレン属 | | |
| | G 区 | 河川 10 | | 10 | | | 連歯下駄 | 板目 | モクレン属 | | |
| | G 区 | 河川 10 | | 9 | | | 連歯下駄 | 榎目 | ハリギリ | | |
| | G 区 | 河川 10 | | 11 | | | 差歯下駄 ; 台 | 板目 | モクレン属 | | |
| | H 区 | 河川 2 | | 23 | | 平安時代 | 漆器 (板状) | 榎目 | スギ | | |
| | J 区 | SD67 | 2 層 | 19 | | 中世 | 漆器 | 横木地榎目取 | ケヤキ | | |
| | J 区 | 90 トレンチ | | 18 | | 中世 | 漆器 | 横木地榎目取 | ブナ属 | | |
| | J 区 | SD67 | | 6 | | 平安時代 | 弓 | 芯持丸木 | イヌガヤ | | |
| | K 区 | SP130 | | 25 | | 平安時代 | 漆器 (板状) | 榎目 | ケヤキ | | |
| | K 区 | SK74 | | 14 | | 平安時代 | 椀 / 皿 | 横木地榎目取 | ケヤキ | | |
| 立会い | | | 24 | | 平安時代 | 漆器 (板状) | 榎目 | ケヤキ | | | |
| C 区下 | SE14 | | 1 | | 平安時代 | 木簡 | 板目 | スギ | | | |

第 13 表 樹種同定結果

| 分類群 | 時代・器種 | 平安時代 | | | | | | | | | | |
|-------------|-------|------|-----|-----|----|----|----|-------|------|----|----|----|
| | | 不明 | 文房具 | 土木 | 農具 | 武器 | 容器 | 祭祀 | 建築 | 不明 | 不明 | |
| | | 棒状 | 木簡 | 土木具 | 農具 | 弓 | 漆器 | 椀 / 皿 | 陽物形? | 柱根 | 棒状 | 不明 |
| スギ | | 1 | 1 | | 1 | | 1 | | | 2 | 1 | |
| ヒノキ | | | | 1 | | | | | | | | |
| イヌガヤ | | | | | | 1 | | | | | | |
| ヤナギ属 | | | | | | | | | | 1 | | |
| ブナ属 (近似種含む) | | | | | | | 1 | | | | | |
| クヌギ節 | | | | | | | | | | | | 1 |
| ケヤキ | | | | | | | 2 | 1 | | | | |
| モクレン属 | | | | | | | | | | | | |
| イスノキ | | | | | | | | | | | | |
| ハリギリ | | | | | | | | | | | | |
| トチノキ | | | | | | | | | 1 | | | |
| トネリコ属 | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 |

第 14 表 器種別種類構成 (1)

| 分類群 | 時代・器種 | 鎌倉時代 | | | | 中世 | | | 不明 | | | 合計 |
|-------------|-------|------|----|----|----|------|----|----|------|------|----|----|
| | | 容器 | 服飾 | 建築 | 不明 | 下駄 | 容器 | 運搬 | 下駄 | | 連歯 | |
| | | 漆器 | 櫛 | 柱根 | 板状 | 差歯の台 | 漆器 | 櫛 | 差歯の歯 | 差歯の台 | 連歯 | |
| スギ | | | | | 3 | 1 | | | | | | 11 |
| ヒノキ | | | | | | | | | | | | 1 |
| イヌガヤ | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| ヤナギ属 | | | | | | | | | | | | 2 |
| ブナ属 (近似種含む) | | 2 | | | | | 1 | | | | | 4 |
| クヌギ節 | | | | | | | | | | | | 1 |
| ケヤキ | | 2 | | | | | | | | | | 5 |
| モクレン属 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| イスノキ | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ハリギリ | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| トチノキ | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| トネリコ属 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | | 5 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 33 |

第 15 表 器種別種類構成 (2)

継続していた可能性がある。

下駄は、露卯タイプの差歯下駄の台のみで、台表が柾目となる木取りであった。針葉樹のスギが利用されていたことから、加工性を考慮した木材利用が推定される。本遺跡では、過去の分析調査において古代の連歯下駄にクリが確認されている [パリノ・サーヴェイ株式会社 2005c]。また、本地域では、鬼倉遺跡や三角田遺跡（燕市）で古代の連歯下駄にヒノキやスギが確認されている [パリノ・サーヴェイ株式会社 2001a・2001b] が、差歯下駄の調査事例は確認できない。本分析結果から、おそらく連歯下駄と同様の樹種が利用されていたと推定される。

櫛は、モクレン属であった。新潟県内では、中世の櫛の調査事例がなく、木材利用状況は不明である。

時期不明の木製品は下駄である。下駄は、差歯下駄の台と歯、連歯下駄があり、差歯下駄の台と歯はいずれもモクレン属、連歯下駄はモクレン属とハリギリであった。下駄の台は、形態や部位に関わらずモクレン属が利用されており、連歯下駄ではモクレン属と共にハリギリも利用されていることから、少なくとも2種類が利用されていたことが推定される。

3) 骨 同 定

a 試 料

試料は、I区 P7-1 グリッドより出土した骨片1点（大きさ 40mm × 18mm 程度）である。

b 分析 方法

試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

c 結果および考察

I区 P7-1 グリッドより出土した骨片は、獣類四肢骨片とみられる。白～白灰色を呈し、直接火を受けた焼骨と考えられ、何らかの人為的影響を受けたことが推定される。

引用文献

- 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 p81-181 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 p66-176 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 p83-201 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 p30-166 京都大学木質科学研究所
- 伊東 隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 p47-216 京都大学木質科学研究所
- 株式会社古環境研究所 2006 「自然科学分析」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第159集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅳ 用言寺遺跡Ⅰ』 p53-62 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 株式会社パレオ・ラボ 2002 「木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第110集 北陸自動車道上越春日・木田地区発掘調査報告Ⅶ 八反田・高畑遺跡』 p49-55 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 株式会社吉田生物研究所 2004 「屋敷遺跡出土木製品の樹種調査結果」『中条町埋蔵文化財調査報告書第31集 屋敷遺跡2次 県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅷ』 p72 中条町教育委員会
- 松葉 礼子 2000 「平田遺跡出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第98集 県営ほ場整備事業関連発掘調査報告書 平田遺跡』 p100-104 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 三村昌史・植田弥生 2003 「仲田遺跡出土木製品の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第128集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅱ 仲田遺跡』 p35-41 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査

2 分析結果

事業団

- パリノ・サーヴェイ株式会社 1994 「一之口遺跡東地区から出土した木質遺物の同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 60 集 北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区(本文編)』 p147-167 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2001a 「鬼倉遺跡出土遺物の自然科学分析」『加茂市文化財調査報告(13) 鬼倉遺跡 国道 403 号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書』 p144-158 加茂市教育委員会
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2001b 「三角田遺跡から出土した木材の樹種」『燕市埋蔵文化財調査報告書第 1 集 三角田遺跡 国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 p45-49 燕市教育委員会
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2001c 「城田遺跡の自然科学分析」『神林村埋蔵文化財報告第 10 城田遺跡(本文編)』 p57-77 神林村教育委員会・山武考古学研究所
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2002 「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 115 集 蔵ノ坪遺跡 一般国道 7 号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書』 p45-59 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2003a 「桃川遺跡群の自然化学分析」『神林村埋蔵文化財報告第 19 桃川遺跡群 石川遺跡・草田遺跡・桃川板碑・堤下瓦窯跡』 p18-55 神林村教育委員会・山武考古学研究所
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2003b 「樋渡・堀下遺跡の自然化学分析」『神林村埋蔵文化財報告第 18 樋渡遺跡・堀下遺跡』 p13-22 神林村教育委員会・山武考古学研究所
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2005a 「平成 11 年度馬越遺跡樹種同定」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡- 国道 403 号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』 p113-115 加茂市教育委員会
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2005b 「平成 13 年度馬越遺跡柱材等の樹種」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡- 国道 403 号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』 p124-129 加茂市教育委員会
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2005c 「平成 14 年度馬越遺跡木製品の用材」『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡- 国道 403 号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』 p130-132 加茂市教育委員会
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 p70 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修) 海青社 [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 島地 謙・伊東 隆夫 1982 『図説木材組織』 p176 地球社
- 鈴木三男・小川とみ・能城修一 2004 「青田遺跡出土木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡 関連諸科学・写真図版編』 p53-70 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 植田 弥生 2006 「出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 157 集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告 XIII 住吉遺跡』 p75-82 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 p122 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社 [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]



300 μ m: 4-12a
 200 μ m: 3a, 4-5b, c
 100 μ m: 1-3a, 4-12b, c
 1cm: 13a, b

1. スギ (報告番号96)
2. ヒノキ (報告番号3)
3. イヌガヤ (報告番号6)
4. ナナギ属 (報告番号72)
5. ブナ属 (報告番号21)
6. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (報告番号105)
7. ケヤキ (報告番号17)
8. モクレン属 (報告番号10)
9. イスノキ (報告番号7)
10. ハリギリ (報告番号9)
11. トチノキ (報告番号22)
12. トネリコ属 (報告番号61)
- a: 木口, b: 柱目, c: 板目
13. 獣類四肢骨破片 (I区P7-1)

第26図 木材・骨

D 加茂市馬越遺跡出土漆器（平成 18 年度）の科学分析

漆器文化財科学研究所 四柳 嘉章

1) 分析の方法

漆製品はその品質の解明が、製作技術、用途、流通などの復元に大きな手がかりを与える。以下の分析方法を用いて、品質の解明をおこなった。

a 塗膜構造分析（塗膜分析と略）

塗装工程や材料の解明。漆製品の内外面数箇所から数 mm の塗膜片を採取し実体顕微鏡で観察した後、ポリエステル樹脂に包埋し、その断面を研磨（# 100～3000）のうえプレパラートに接着。さらに同工程で研磨を加え、金属・偏光顕微鏡で観察する方法。

b 赤外分光分析

塗料及び膠着液（剤）の同定。塗膜分析では間接的であるため、赤外線（普通赤外波長 2.5～25 μm 、波数 4000～400 cm^{-1} ）を固有の振動をしている分子（試料）に波長を連続的に変化させて照射して、分子構造を解析するフーリエ変換赤外分光法（FT-IR）を用いた。

c 蛍光 X 線分析

赤色顔料の同定。試料に X 線を当てると、元素特有の X 線（特性 X 線ないし固有 X 線）が発生（放出）する。この波長と強度を測定することによって元素の定性や定量分析を行うエネルギー分散型蛍光 X 線分析を用いた。

2) 分析結果

a 塗膜分析

塗膜分析を行った漆器は 1 資料につき、内外面複数の試料を作成し平均値を算出した。したがって必ずしも図版のスケールとは一致しない。木胎（木地）から塗装順に番号（①～）を付して説明する。「表層変質」とあるものは、酸化劣化防止層の形成を意味する。報告番号は加茂市教育委員会の整理番号。なお、本稿で用いる用語のうち、意味が曖昧で誤解をまねくものについては、以下のように規定して使用する。

(1) 赤色漆

赤色の主な顔料である朱 (HgS) やベンガラ (Fe_2O_3) が未同定の場合には「赤色漆（未同定）」と最初に断って使用し、同定済みは「赤色（朱）漆」「朱漆」「ベンガラ漆」などと表記する。よく使われる「赤漆」は「赤漆」（木地を蘇芳で染め透漆を施したもの）との混同をさけるために用いない。内外面とも赤色漆の場合は、未同定は「総赤色（未同定）漆」、同定済みの場合は「総赤色（朱）漆」、あるいは慣例による「総（惣）朱」「皆朱」「朱漆器」などを用いる。

(2) 黒色漆と黒色系漆

上塗漆が黒色の場合、黒色顔料の有無によって 2 種類に分けられる。炭素粒子（油煙）や鉄系化合物粒子などの黒色顔料を含むものを「黒色漆」、黒色顔料を含まないものを「黒色系漆」として区別する。黒色系漆においては、黒色顔料を含まずとも漆自体の表層が茶黒色に変質し、さらに下地色を反射して肉眼では黒色に見える。筆者の調査では古代以来こうした方法が一般的と考えられるので、品質の判別や、材料科学の上からも両者の区別が必要である。未同定の場合は、はじめに「黒色漆（未同定）」とことわる。

内外面とも黒色漆の場合は「総黒色漆」、同じく黒色系は「総黒色系漆」（いわゆる「総黒」は両者を含む）、内面赤色外面黒色は「内赤外黒色漆」、同じく「内赤外黒色系漆」とする。赤色顔料が同定されている場合は「内朱外黒色漆」あるいは「内赤（ベンガラ）外黒色漆」などと呼称する。

(3) 下地の分類

一般の粗い鉱物粒子を用いたものは「地の粉漆下地」、珪藻土使用は「珪藻土漆下地」、より細かい砥の粉類似は「サビ（錆）漆下地」、膠使用は「地の粉またはサビ（錆）膠下地」、炭粉は漆を用いたものは「炭粉漆下地」、柿渋を用いたものは「炭粉渋下地」とする。炭粉粒子は下記のように3分類する。

細粒…破碎工程が中粒炭粉より細かく炭粉粒子は均一で、針葉樹などの木口組織を全くとどめないもの。

中粒…炭粉粒子は1～2 μm × 5～10 μm程度の針状粒子と長径5 μm前後の多角形粒子などからなり、針葉樹などの木口組織はごく一部にしか認められないもの。

粗粒…破碎工程が粗く針葉樹などの木口組織を各所にとどめるもの。炭粉粒子は不定形で各種形状のものを含み、長径30 μm前後の針状ないし棒状粒子を含むことが多い。

◇ No.24 (第31図) 折敷 (総黒色系、平安)

器形・表面観察

厚さ4mmほどの針葉樹の柾目板を用いた折敷。内外面総黒色系漆塗り。

塗膜分析

内外面(木地に漆が十分しみこんでいる—木固めの漆)①漆層。層厚74 μm前後。炭粉粒子は粗粒。②漆層。層厚15～36 μm。表層12 μmが変質。

◇ No.22 (第31図) 椀 (総黒色系、中世)

器形・表面観察

まっすぐに立ち上がる厚手の総黒色系椀。口唇部はフラットで低い高台を有する。ヨコ木取り(板目)。

塗膜分析

内外面①漆層。層厚40 μm前後。②漆層。層厚12 μm前後。表層7 μmが変質。③漆層。層厚15 μm前後。表層3 μm前後が変質。④漆層。層厚12 μm前後。表層3 μm前後が変質。⑤漆層。層厚7 μm前後。表層3 μm前後が変質。

◇ No.16 (第31図) 椀 (総黒色系、中世)

器形・表面観察

斜上方に立ち上がるおおぶりの総黒色系椀。高台を欠くが内面まで黒色系漆が施されている。内外面に手彫れた朱漆絵による扇文の加飾がある。内面は全体に蝙蝠扇を描くが、その意匠が興味深い。扇の意匠は左右の親骨の先に土坡を描いて天・山・谷の弧線をつなぎ、扇面を片身替わりとする。左面は土坡に笹竹、右面は中骨の細線を引くが、要の部分も土坡にして、ここから中骨が四方に生え出る様に描いている。外面は対面に鶴を配している。ヨコ木取り(柾目)。

塗膜分析

内外面①炭粉渋下地層。層厚29～74 μm。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚12 μm前後。③朱漆絵層。最大層厚10 μm。朱粒子は直径5 μm前後と1 μm以下の不定形粒子からなる。

◇ No.17 (第31図) 皿 (総黒色系、中世)

器形・表面観察

2 分析結果

内湾ぎみに立ち上がる総黒色系皿。全体に塗りは薄い。ヨコ木取り（柾目）。

塗膜分析

内外面①炭粉漆層 1 層だけの塗り。層厚 24 ~ 74 μm 。炭粉は中粒~粗粒で、沈殿している。表層 5 μm 前後が変質。

◇ No.15 (第 31 図) 椀ないし皿 (総黒色、平安)

器形・表面観察

器厚わずか 1mm の薄く硬い総黒色塗膜片。口縁部内面に稜を持って強く外反する、いわゆる端反口縁である。強い端反と薄さから見て、中国製陶磁器ないし佐波理（銅に数%程度の錫と鉛を加えた合金）の椀や皿を写した漆器である。木胎はほとんど残っていないので木取りは不明。

塗膜分析

口縁部内外面①布着せ層。タテ糸繊維束幅 74 μm 前後。ヨコ糸繊維束幅 320 × 686 μm 。断面形状は胡瓜形が多いことから苧麻の類が考えられる。②地の粉（鉱物粒子）漆下地層。層厚 200 ~ 340 μm 。地の粉は粘質で、石英・長石・有色鉱物からなる。③黒色漆層。層厚 4 ~ 24 μm 。分散密度の濃い黒色粒子で、0.5 μm 以下の微粒子。楕円形粒子からみて油煙と判断される。④地の粉（鉱物粒子）漆下地層。層厚 10 ~ 100 μm 。地の粉は②層に同じ。⑤黒色漆層。層厚 4 ~ 20 μm 。分散密度の濃い黒色粒子で③層に同じ。⑥黒色漆層。層厚 50 ~ 60 μm 。黒色粒子は 0.5 μm 以下の微粒子であるが、分散密度は③や⑤層より粗い。

体部内面①地の粉（鉱物粒子）漆下地層。層厚 196 ~ 300 μm 。地の粉は口縁部外面に同じ。②地の粉（鉱物粒子）漆下地層。層厚 147 ~ 245 μm 。地の粉は口縁部外面に同じ。③層厚 34 ~ 78 μm 。黒色粒子は 0.5 μm 以下の微粒子であるが、分散密度は口縁部外面⑥層に同じ。

◇ No.23 (第 32 図) 器形不明 (総黒色、平安)

器形・表面観察

端部が弧状となる特殊な器形で、切断部分と接着痕がある。内外面黒色漆塗りで、塗膜は硬く光沢がある。

塗膜分析

内外面①黒色漆下地層。層厚不詳。黒色顔料は長径 0.5 μm 以下の楕円形粒子で、形状から油煙と考えられる。②黒色漆層。層厚 37 μm 前後。黒色粒子は①層に同じ。分散は上層より粗い。③黒色漆層。層厚 37 μm 前後。黒色粒子は①層に同じ。分散は②層より密である。

◇ No.19・20 (第 32 図) 椀 (内面赤色、中世)

器形・表面観察

碁笥底から斜上方にゆるやかに立ち上がる内面赤色、外面黒色系椀。外面の剥離が著しい。内面赤色のマンセル値は、7.5R 3.5/6 (印度赤)。ヨコ木取り（柾目）。No.19・20 は同一個体。

塗膜分析

No.19 内面①炭粉漆下地層。層厚は 110 μm 前後。炭粉中粒。②漆層。層厚 30 μm 前後。③朱漆層。層厚 17 μm 前後。朱粒子は長径 12 μm のものも含んでいるが、大半は長径 2 ~ 3 μm と 1 μm 以下。

外面①炭粉漆下地層。層厚は不詳だが炭粉粒子（中粒）は沈殿。②漆層。層厚 12 μm 前後。③漆層。層厚 20 μm 前後。表層 5 μm 前後が変質。

No.20 内面①炭粉漆下地層。層厚 24 ~ 69 μm 。炭粉中粒。②漆層。層厚 40 μm 前後。③朱漆層。層厚 17 μm 前後。朱粒子は長径 19 μm のものも含んでいるが、大半は長径 2 ~ 3 μm と 1 μm 以下。

外面①炭粉漆下地層。層厚 14～50 μm 。炭粉中粒。②漆層。層厚 20 μm 前後。表層 1～2 μm が変質。
③漆層。層厚 16 μm 前後。全体がやや変質。

*②漆層を①炭粉漆下地層の分離とみることもできる。

◇ No.18 (第 32 図) 椀 (総黒色系、中世)

器形・表面観察

やや厚手の高台から、ゆるやかに立ち上がる総黒色系椀。木地外面下半部にカンナ目が著しい。高台裏は露胎状態だが、元来は塗りが施されていた。高台に沿った U 字状削りは幅広。ヨコ木取り (柾目)。

塗膜分析

内外面①炭粉漆下地層。層厚 73～122 μm 。炭粉は中粒。②漆層。層厚は薄く 5～10 μm 。

◇ No.25 (第 33 図) 鉢ないし大盤 (総黒色系、平安)

器形・表面観察

鉢ないし大盤と考えられる口縁部片 (総黒色系)。椀。ヨコ木取り (柾目)。

塗膜分析

内面①地の粉 (鉍物粒子) 漆下地層。層厚 150 μm 前後。地の粉は石英・長石・有色鉍物からなるが、これに若干炭粉粒子が含まれている。②漆層。層厚 24 μm 前後。表層 7 μm が変質。

外面①地の粉 (鉍物粒子) 漆下地層。層厚 5～245 μm 。地の粉は内面に同じ。②漆層。層厚 30 μm 前後。表層 15 μm が変質。

◇ No.26 (第 32 図) 曲物 (総黒色系、平安)

器形・表面観察

曲物 (針葉樹の柾目材) の内外面に総黒色系漆塗り。

塗膜分析

内外面①漆層。層厚 12 μm 前後。

b 赤外分光分析

分光学 (Spectroscopy) は「光と物質との相互作用によって生じる光の強度やエネルギー変化を調べる学問」¹⁾ と定義され、固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて赤外線照射してゆくと、分子の固有振動と同じ周波数の赤外線が吸収され、分子構造に応じたスペクトルが得られる。このスペクトルから分子構造を解析する方法を赤外線吸収スペクトル法 (Infrared Absorption Spectroscopy) という²⁾。

漆塗膜の分析にはフーリエ変換赤外分光法 (Fourier Transform Infrared Spectroscopy FT-IR) を用いた。赤外光は近赤外 (波数 14000～4000 cm^{-1} 、波長 700nm～2.5 μm)、普通赤外 (波数 4000～400 cm^{-1} 、波長 2.5～25 μm)、遠赤外 (波数 400～10 cm^{-1} 、波長 25 μm ～1mm) に分けられるが、ここでは普通赤外光を用いる。波数は 1cm 当たりの波の数で、振動数を光速で割ったものであり、波長の逆数である。

FT-IR は普通赤外の場合は波数 4000～400 cm^{-1} の光を 2 つの光束に分割し、1 つは固定し (固定鏡、ミラー A)、他方の光路長は可動ミラー (可動鏡、ミラー B) を用いて変化させる。つまり干渉計から位相の異なる光が出るわけで、2 つの光束間の距離が変化すると干渉の結果、加え合わさった部分と差し引かれた部分の系列が生ずることによって、強度の変化が起こる。すなわち干渉図形が得られる。フーリエ変換という数学的操作を行うと、干渉図形は時間領域から振動数領域のスペクトル点の 1 つに変換される。ピストンの長さを連続的に変化させ、ミラー B の位置を調節し、光束 B の光路を変化させる。この変化させた各点において、次々とフーリエ変換を行うと完全な赤外スペクトルが得られる³⁾。このようにして

2 分析結果

得られたスペクトルをあらかじめ得られている基準のスペクトルと比較検討することによって、塗装液及び顔料の同定ができる。

分析用試料は1～2を採取しKBr(臭化カリウム)100mgとともにメノウ鉢で磨り潰して、これを錠剤成形器で加圧成形したものを用いた(錠剤法)。条件は分解能 4cm^{-1} 、積算回数16、アポダイゼーション関数Cosine。こうして測定した赤外線吸収スペクトルを第9～11図に掲載した。縦軸は吸光度(Abs)、横軸は波数(cm^{-1})である(測定機器は日本分光製FT-IR420)。分析は下記の遺物について実施した。

第27図A(ノーマライズ)はNo.122(②、中世)・240(④、須恵器付着)・348(③、土師器パレット)・434(①、須恵器付着)の赤外線吸収スペクトル。①と②はゴム質の吸収が増大しているものの、漆塗膜の同定要素である、 3422cm^{-1} (水酸基)、 2925cm^{-1} (炭化水素の非対称伸縮振動)、 2850cm^{-1} (炭化水素の対称伸縮振動)、 $1720\sim 1710\text{cm}^{-1}$ (カルボニル基)、 $1650\sim 1630\text{cm}^{-1}$ (糖タンパク)、 1465cm^{-1} (活性メチレン基)、 $1280\sim 1270\text{cm}^{-1}$ (フェノール性OH)、 $1070\sim 1030\text{cm}^{-1}$ (ゴム質)の吸収が確認できる。③は第2図の事例と同じく劣化漆。④は即漆と同定しかねるものだが、劣化漆の可能性のある検討例として掲載した。

第27図B(ノーマライズ)はNo.106(①、土師器パレット)・259(③、土師器パレット)・A(④、土師器パレット)に、劣化漆の基準として、平成10・11年度出土の漆パレットNo.986(②、土師器)の赤外線吸収スペクトル。 $1465\text{cm}^{-1}\sim 1270\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収がブロードになり、ゴム質の吸収が著しい。これも劣化漆塗膜の特徴といえる。

第27図C(ノーマライズ)は口縁の内外面にかけて、燈明のように部分的な煤の付着が認められたNo.404(①、土師器無台碗)と荏胡麻油(②)の赤外線吸収スペクトル。以前の報告書では燈明油について取り上げてきたが、土師器や一部の須恵器口縁部に付着したタール状の光沢がある黒色付着物は、大半が『延喜式』に記載されている荏油(荏胡麻油)と考えられる。

c 蛍光X線分析

蛍光X線分析は試料にX線を当てると、元素特有のX線(特性X線ないし固有X線)が発生(放出)する。この波長と強度を測定することによって元素の定性や定量分析を行う方法。

分析対象：漆器No.16・19・20の赤色顔料(第28・29図)

使用機器：PHILIPS/PW4025、エネルギー分散型蛍光X線分析装置。

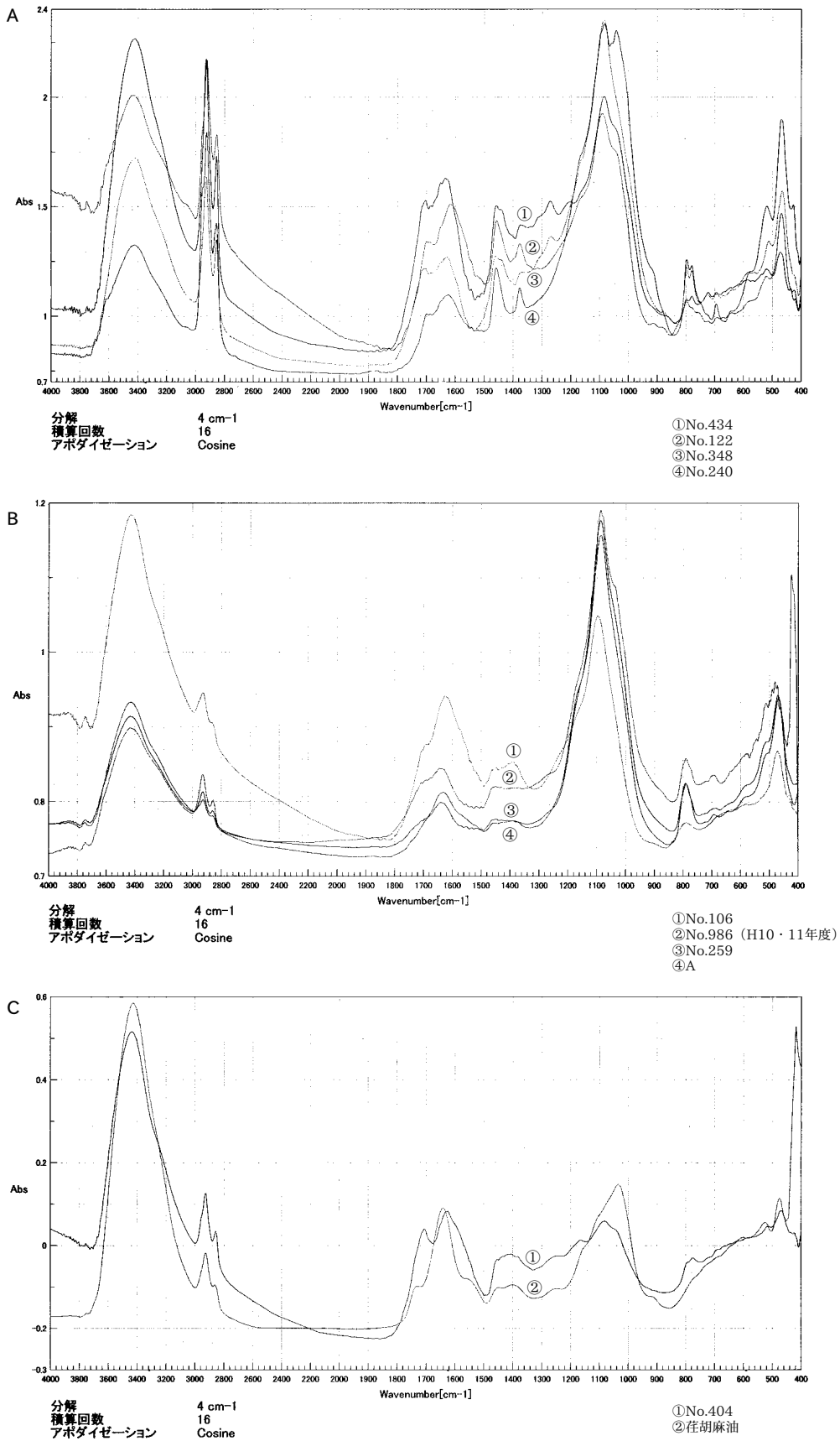
使用管球：RHターゲット9W。

検出器：高分解能電子冷却Si半導体検出器。

測定条件：30kV、 $20\mu\text{A}$ 、フィルター Kapton、100sec。

測定室雰囲気：大気。測定部径は1mm。

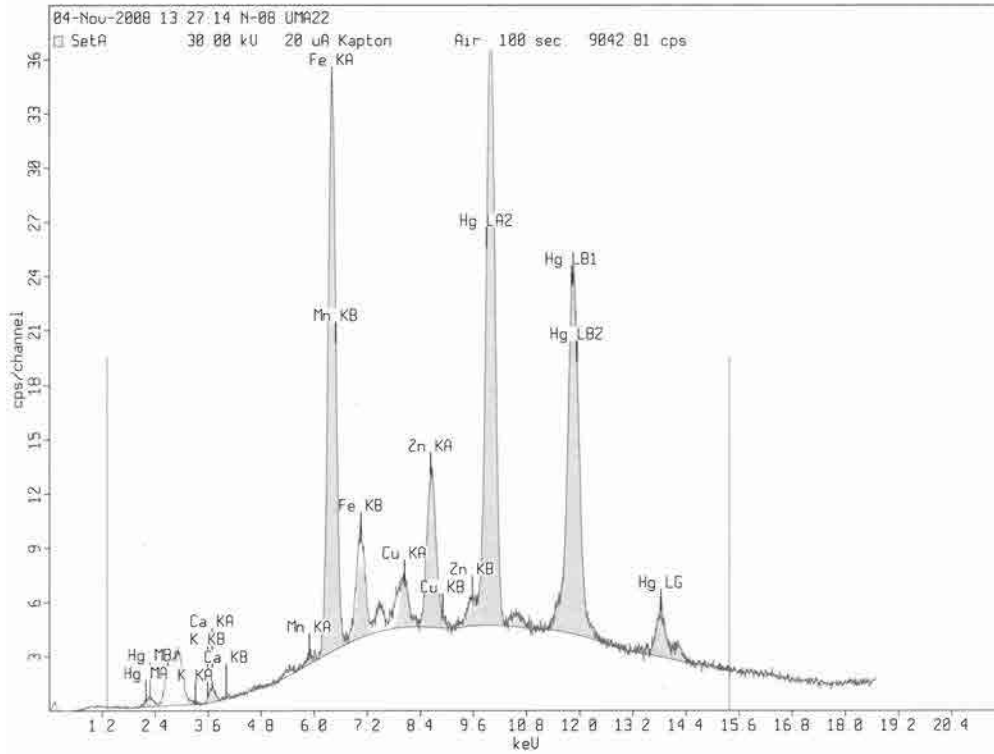
3点とも赤色顔料は朱(HgS)。励起条件を幅広く設定しているためエネルギーの弱い軽元素の感度は低く、全体に重元素であるFeの漆からのピークが強く出ている。



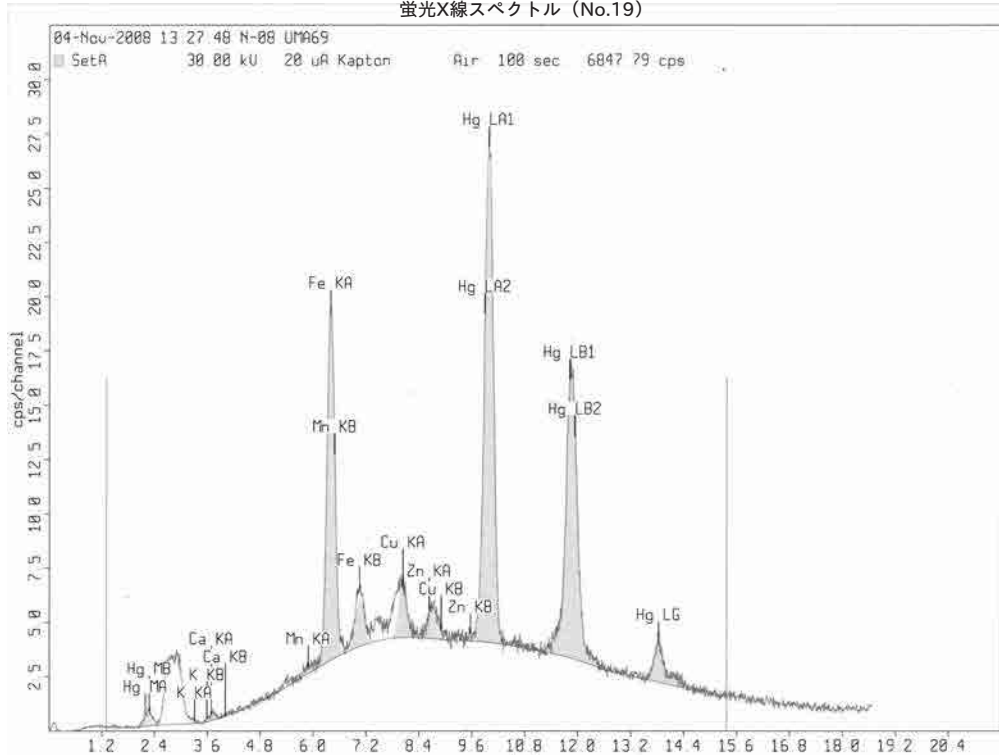
第 27 図 赤外線吸収スペクトル

2 分析結果

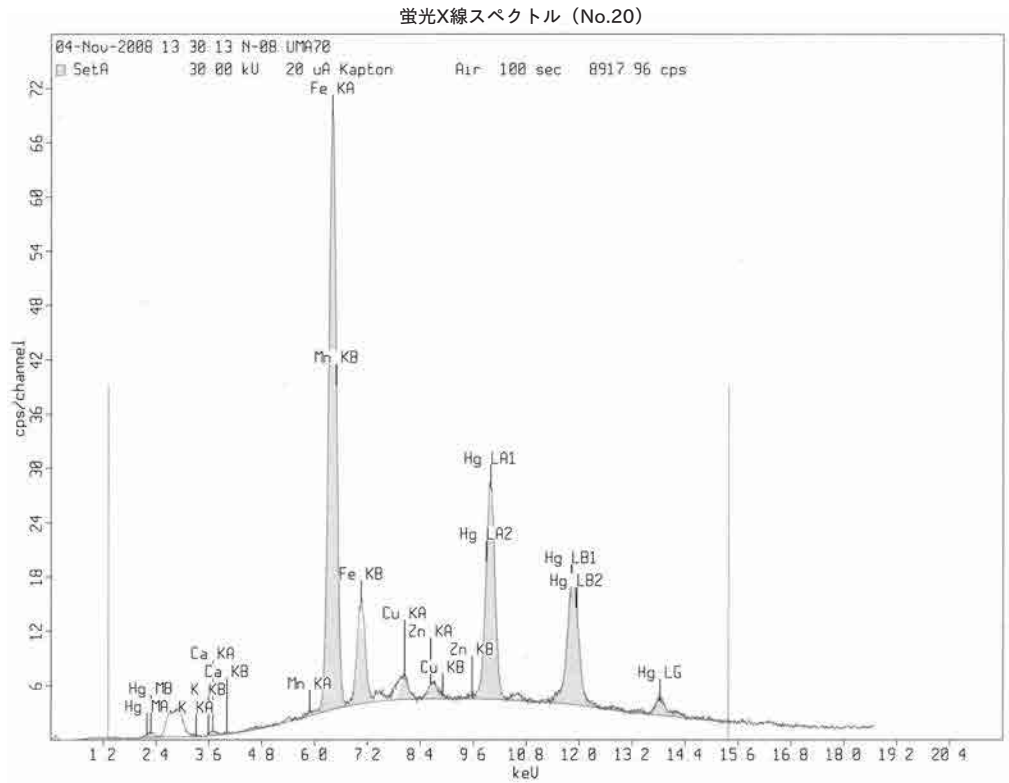
蛍光X線スペクトル (No.16)



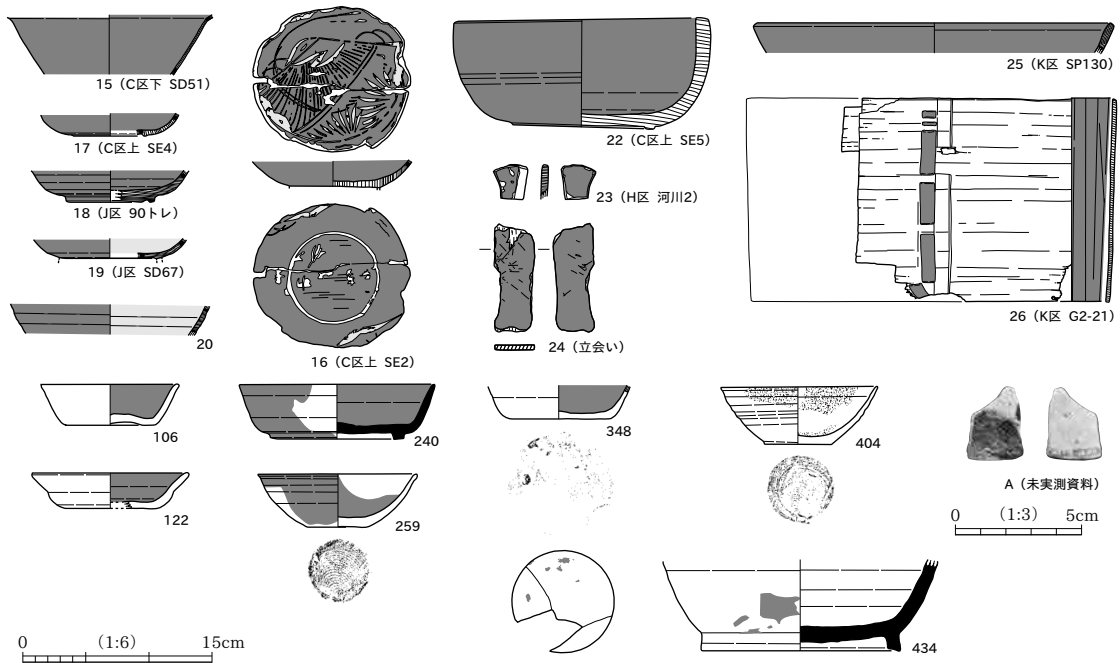
蛍光X線スペクトル (No.19)



第 28 図 蛍光 X 線スペクトル (1)



第 29 図 蛍光 X 線スペクトル (2)



第 30 図 分析漆器実測図

2 分析結果

3) 小 結

新潟県加茂市馬越遺跡出土の漆器および関連遺物の分析結果を紹介してきたが、漆器の塗装工程について要点を整理し、若干の漆器考古学的考察を加えてまとめたい。

a 古代漆器（平安期）

No.24 折敷（総黒色系）

①漆層②漆層

No.15 椀ないし皿（総黒色）

①布着せ層②地の粉（鉍物粒子）漆下地層③黒色漆層④地の粉（鉍物粒子）漆下地層⑤黒色漆層⑥黒色漆層

No.25 鉢ないし大盤（総黒色系）

①地の粉（鉍物粒子）漆下地層②漆層

No.26 曲物（総黒色系）

①漆層

No.15（椀ないし皿、総黒色漆）は、中国製陶磁器ないし佐波理写しと考えられるもので、布着せ+地の粉（鉍物）漆下地2層（二辺地）に、黒色顔料（油煙）を含む黒色漆2層を塗り重ねた上品である。地方出土例としては極めて重要な資料といえる。No.23（器形不明、総黒色漆）は黒色漆を下地から上塗り漆まで塗り重ねる珍しい例。

No.25（鉢ないし大盤、総黒色系漆）は、下地の上は上塗り漆1層の簡素なものだが、下地の地の粉（鉍物粒子）に炭粉粒子が含まれる特徴的なもので、類例は極めて限られている。地の粉+炭粉漆下地の類例は、いまのところ長岡京左京四条二坊出土（8世紀末）の大鉢、官衙関連遺跡と推定される新潟県胎内市船戸川崎遺跡（8世紀後半～9世紀前半）の盤ないし高杯、石川県かほく市指江B遺跡の鉢、中世では広島県福山市草戸千軒町遺跡の什器といった程度である。これは中尊寺金色堂左右の須弥壇の螺鈿の隙間を埋めるため使用された「黒色漆地の粉」と呼ばれたものと同ーと考えている。11世紀の平等院（京都府宇治市）では確実に使用されており、伝世品では鳳凰円文螺鈿唐櫃（東京国立博物館）、蒔絵箏（奈良県春日大社）、沃懸地螺鈿毛抜形太刀（奈良県春日大社）といった、平安時代第一級の漆器にも用いられている⁴⁾。

b 中世漆器（13～14世紀か）

No.22 椀（総黒色系）

①漆層②漆層③漆層④漆層⑤漆層

No.16 椀（総黒色系）

①炭粉漆下地層②漆層。

No.17 皿（総黒色系）

①炭粉漆層

No.19・20 椀（内面赤色）

内面①炭粉漆下地層②漆層③朱漆層

外面①炭粉漆下地層②漆層③漆層

No.18 椀（総黒色系）

①炭粉漆下地層②漆層

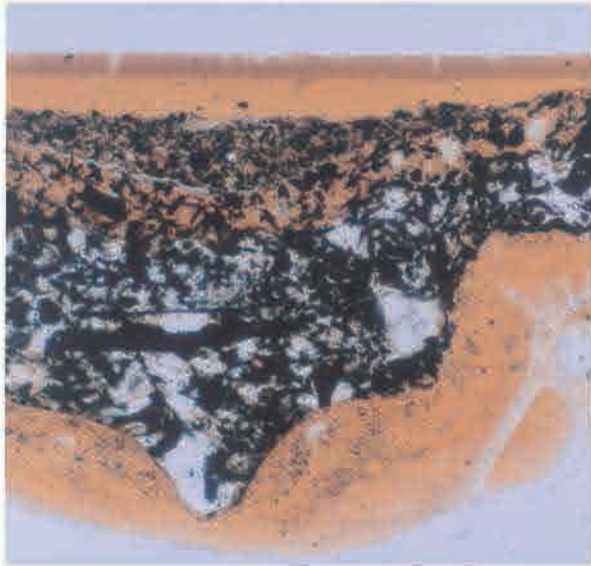
No.22 (椀、総黒色系) は在地的な器形で、塗りも下地粉がなく漆5層となっている。No.17 (皿、総黒色系) は通有炭粉漆下地となるものだが、これだけで完了している珍しい例。渋下地漆器はNo.16 (椀、総黒色系) と18 (椀、総黒色系)。No.16の朱漆絵による内面の扇文の意匠は左右の親骨の先に土坡を描いて天・山・谷の弧線をつなぎ、扇面を片身替わりとする。左面は土坡に笹竹、右面は中骨の細線を引くが、要の部分も土坡にして、ここから中骨が四方に生え出る様に描いている。こうした加飾は優れた意匠性を有する事例として高く評価できる。No.19・20は内面朱漆塗りの漆下地漆器。碁笥底であるところからみて14世紀代の可能性がある。

以上、要点を整理して紹介してきたが、馬越遺跡の平成18年度調査では、平安時代の掘立柱建物跡、河川跡などが検出され、遺物では古代地方官人が所持する銚帯金具や「三宅」銘の墨書土器などが出土している⁵⁾。加えて中国製陶磁器ないし佐波理写しの漆器、漆パレット、燈明油付着土器の出土は官衙関連遺跡としての性格が濃厚といえよう。漆器の年代については平安期といっても時期差があると思われるので、伝世品を含むものとみるのか、今後の検討を待ちたい。なお、古代出土漆器と遺跡の性格については、先の報告書で取り上げたので参照いただければ幸いである⁶⁾。

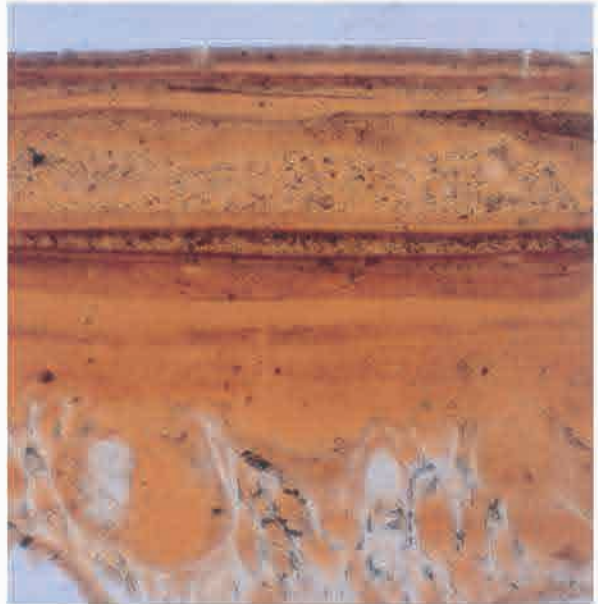
末筆ながら本稿作成に当たっては、加茂市教育委員会伊藤秀和氏からなにかと便宜をはかっていただいた。厚く御礼申し上げます。

註

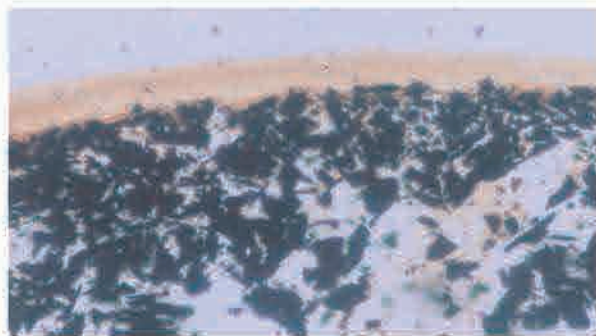
- 1) 尾崎幸洋 『分光学への招待』 産業図書 1997
- 2) 山田富貴子 「赤外線吸収スペクトル法」『機器分析のてびき』 化学同人 1988
- 3) SILVERSTEIN・WEBSTER、荒木峻・益子洋一郎ほか訳 『有機化合物のスペクトルによる同定法—MS、IR、NMRの併用 第6版』 東京化学同人 1999
- 4) 四柳嘉章 『漆I』 法政大学出版局 2006
- 5) 伊藤秀和 「馬越遺跡の発掘調査速報」『加茂郷土誌』 第29号 2007 ほか
- 6) 四柳嘉章 「新潟県加茂市馬越遺跡出土漆器の科学分析」『馬越遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告—』 加茂市教育委員会 2005
 四柳嘉章 「新潟県加茂市馬越遺跡・太田遺跡出土漆器の科学分析」『加茂市文化財調査報告(15) 加茂市内遺跡確認調査報告書』 加茂市教育委員会 2005



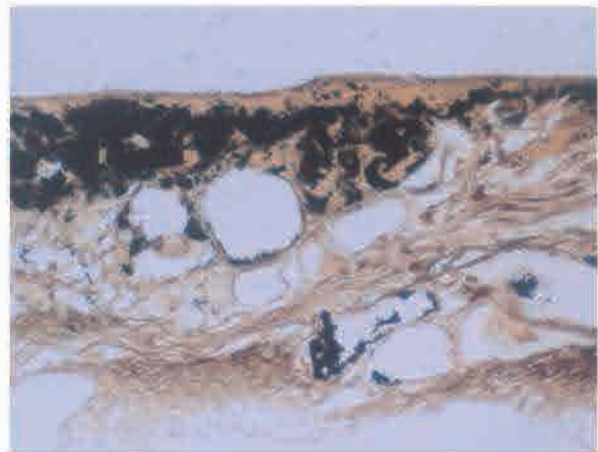
No.24 内面 ×260



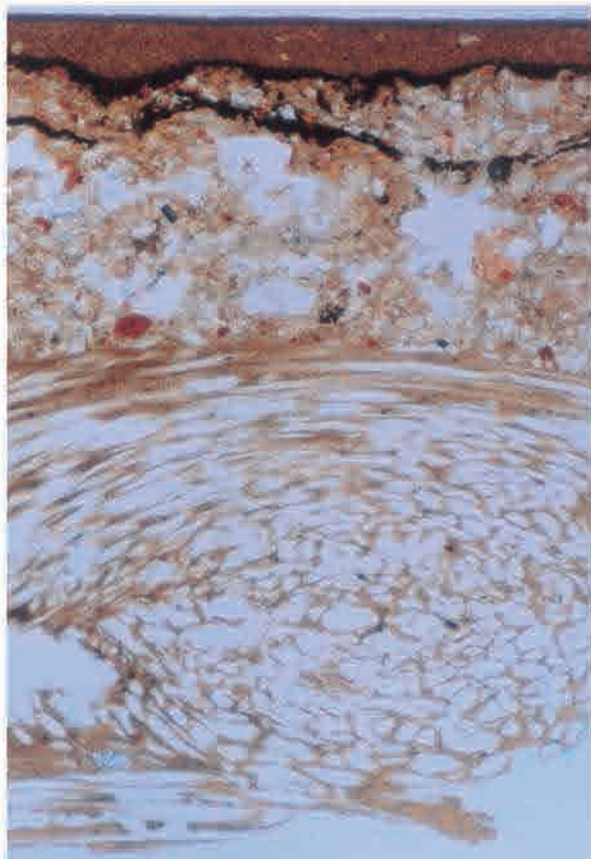
No.22 内面 ×260



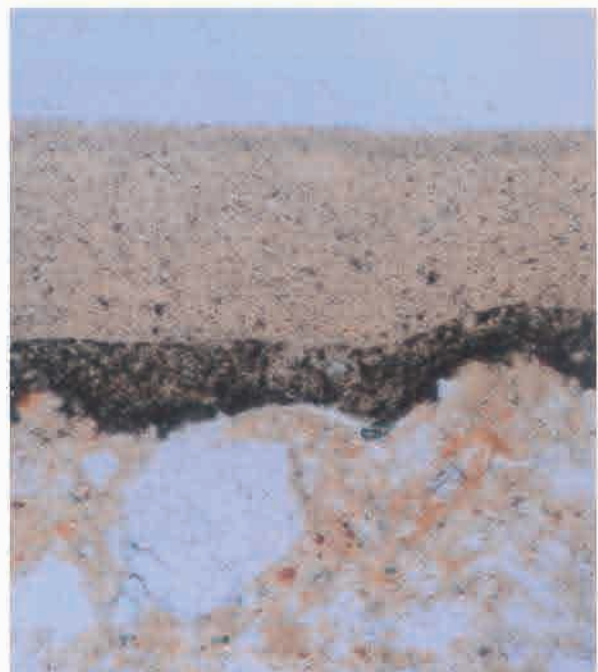
No.16 外面 ×520



No.17 内面 ×260

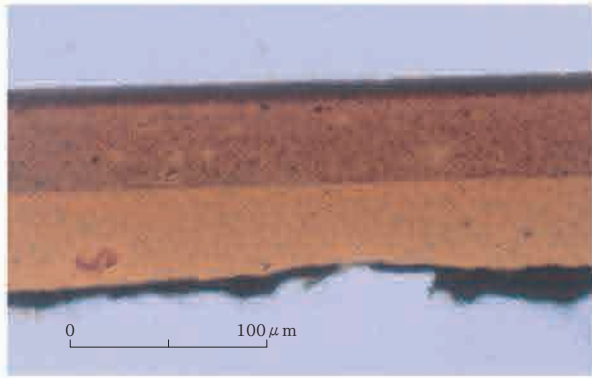


No.15 内面 (布着せ) ×130

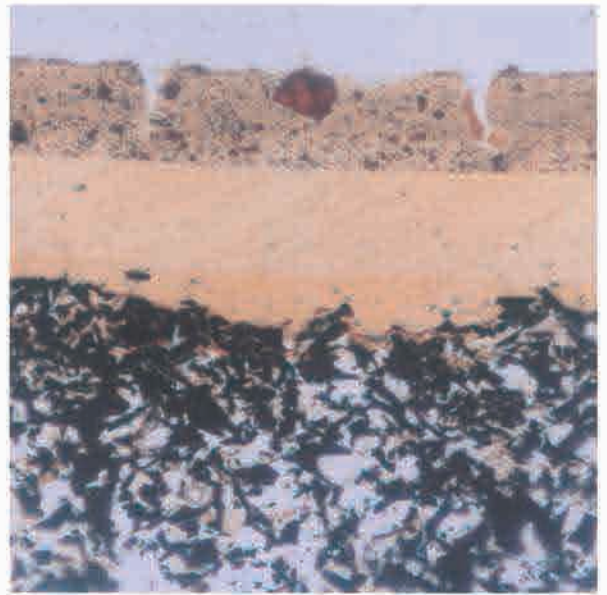


No.15 内面 黒色漆層拡大 ×520

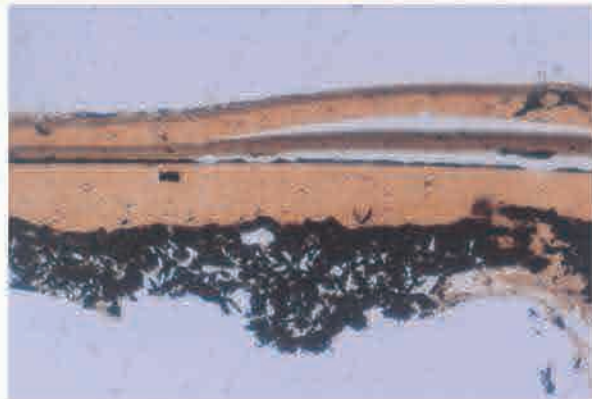
第 31 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (1)



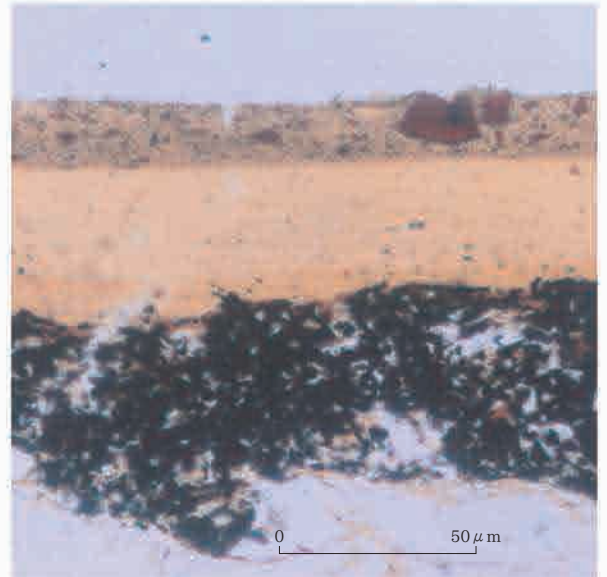
No.23 内面 ×260



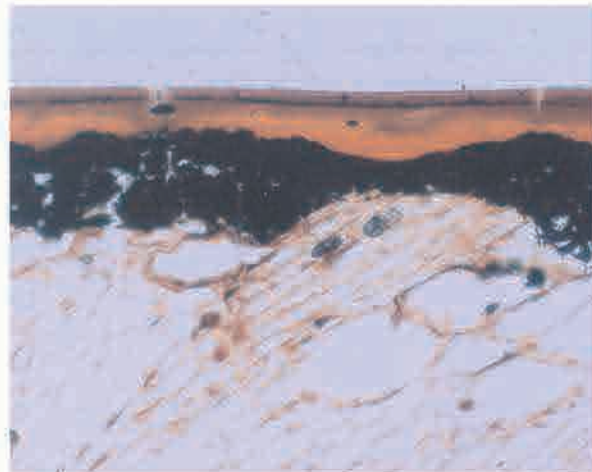
No.19 内面 ×520



No.19 外面 ×260



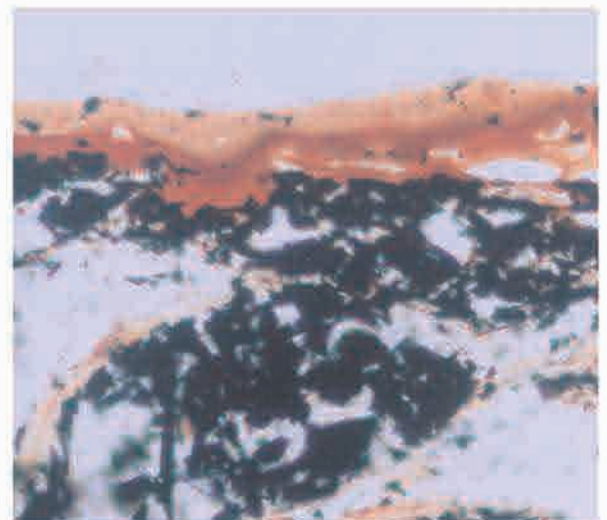
No.20 内面 ×520



No.20 外面 ×260

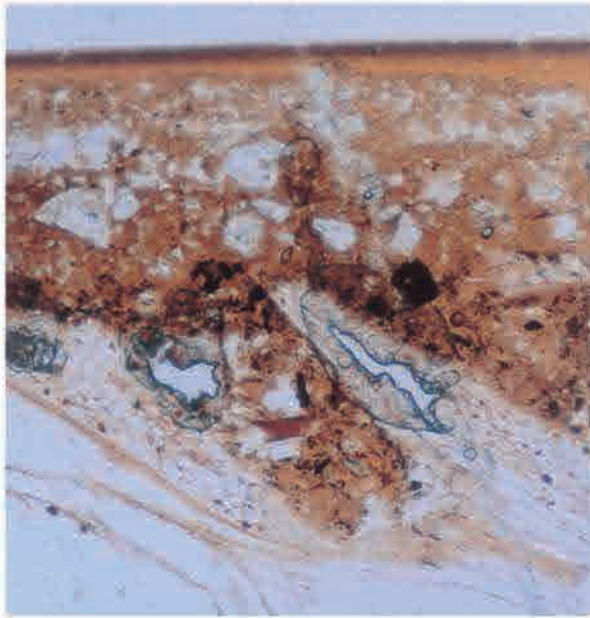


No.26 内面 ×130



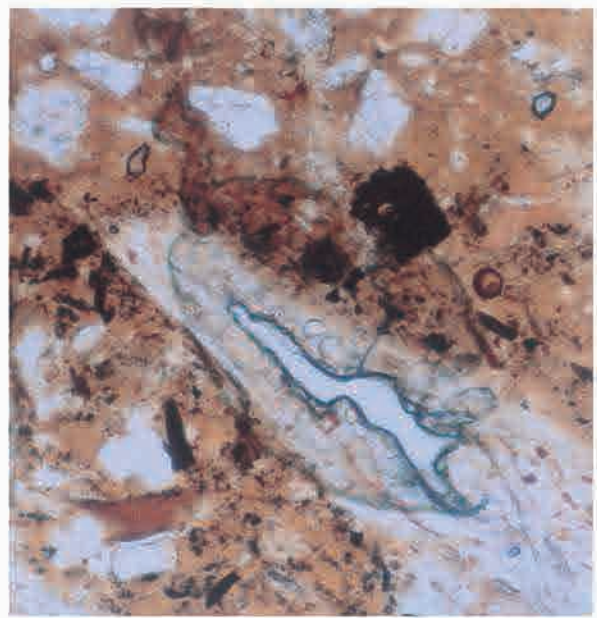
No.18 内面 ×520

第 32 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (2)



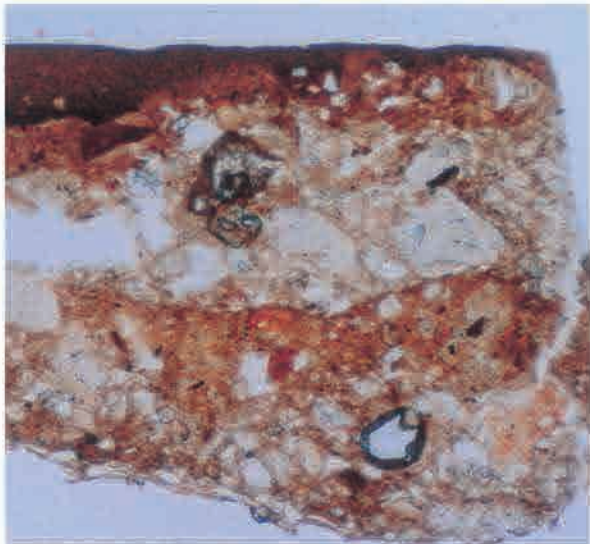
No.25 外面

×260



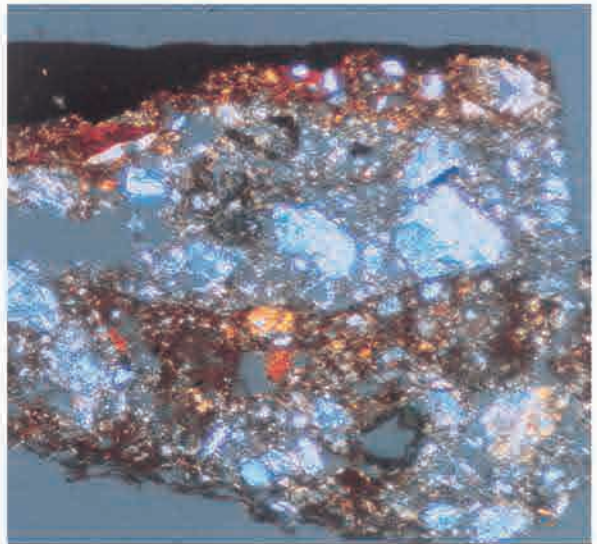
No.25 外面 (地の粉漆層に炭粉)

×520



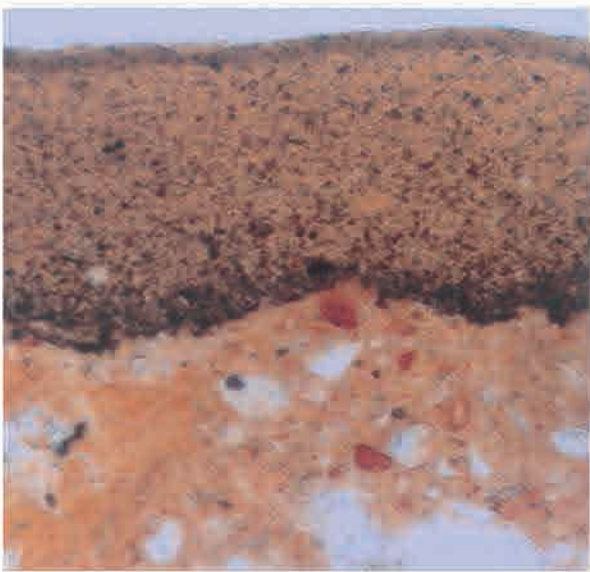
No.25 内面 (二辺地)

×130



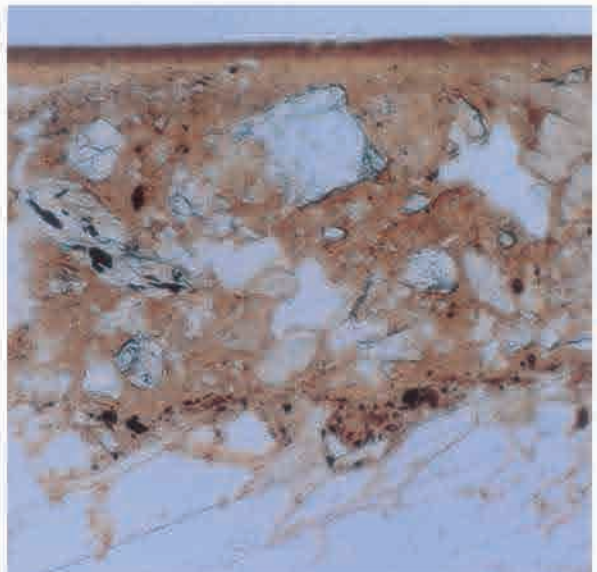
No.25 内面

(+ニコル) ×130



No.25 内面黒色漆層拡大

×520



No.25 内面 (下層に炭粉)

×260

第 33 図 漆器塗膜層断面の顕微鏡写真 (3)

第Ⅶ章 ま と め

1 井戸跡について (第34～37図)

今回の調査では、古代はC区2基、J区1基の合計3基、中世はC区7基、E区1基の合計8基の井戸跡を確認している。国道バイパス本線の調査区域から古代の井戸跡が14基確認されており、馬越遺跡全体で、古代に限れば合計で17基、古代、中世の合計では25基となる。時期の不明瞭なもの、完掘していないもの、底面の調査について不十分であるなど多くの課題を含んでいるが、今後の比較検討のために総括的に再検討しておきたい。

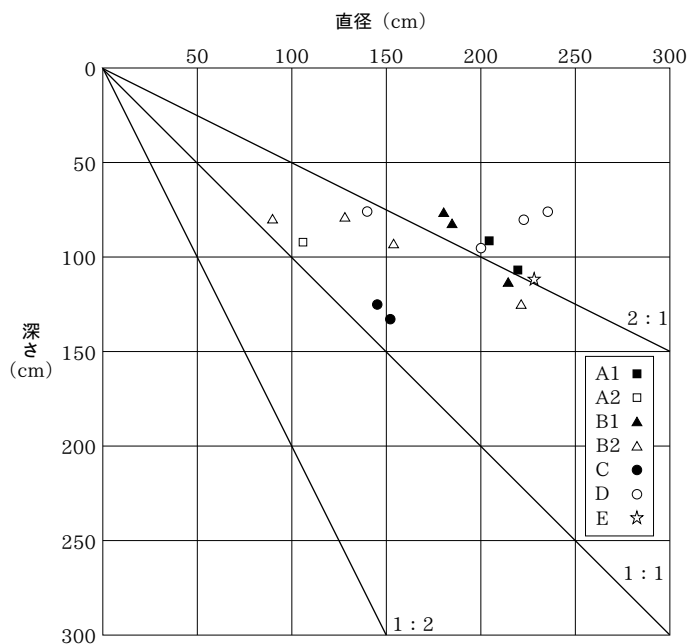
ところで、井戸をめぐってはさまざまな時点での祭具や祭祀行為が注目されている。駒見和夫氏は新潟県内の地域的事例の検討から、3つの画期を指摘している[駒見1992]。それに従えば、第1の画期は完形の杯が祭祀に用いられるようになる律令体制に移行する7世紀前半頃、第2の画期は完形の杯を埋納する律令的祭祀形態が放棄され、陰陽道による呪術的な祭祀が井戸をめぐる祭祀で行なわれるようになる平安時代前期と後期の間、第3の画期は民衆生活への陰陽道の浸透によって行なわれた呪術的祭祀が急速に衰退する段階で、戦国時代の15世紀後半に求められるとしている。分析の視点は、出土遺物(祭具)の構成や位置(層位)、覆土(埋土)中で炭化物を含む層や黒色土系の土層の堆積状況などである。今回もその視点を継承しながら、各時期別に平面形と断面形からの分類を行い、各々の出土遺物と出土層位に留意しながら検討を加える。時期的に古代から中世へは連続していないが、一遺跡内でその推移を検討できる点は重要である。検討する25基はすべて駒見氏の示された、第1～第2と第2～第3の画期の中に位置付けられることになる。

古代の井戸 すべて素掘りの井戸である。平面・断面形及び第34図の直径と深さの計測から、第16表のとおり、A～Eの5類に大別した。

A類は断面形が箱状またはU字状のものとした。直径と深さの比率が2:1に近いA1類と1:1に近いA2類に分類した。B類は断面形が台形状のもの。直径が1.8～2.2m前後のB1類と0.9～1.5m前後のB2類に分類した。C類は断面形が漏斗状のもの。D類は断面形が半円状のもので、直径と深さの比率が2:1ないしはそれ以下に集中する。確認面

| 分類 | 平面形 | 断面形 |
|----|--------|--------|
| A | 円形・楕円形 | 箱状・U字状 |
| B | 楕円形 | 台形状 |
| C | 楕円形 | 漏斗状 |
| D | 円形・不整形 | 半円状 |
| E | 楕円形 | V字状 |

第16表 井戸(古代)の分類



第34図 井戸(古代)の計測値

1 井戸跡について

からの深さが1m以下となる。E類は断面形がV字状になるもので、1基のみ確認された。直径と深さの比率は1:1に近い。

以下、覆土(埋土)中から出土した土器の年代観から見た時期(大半が井戸の機能を停止した頃と見られる)別の変遷と個々の井戸の特徴を第35図と第17表から見てゆく。

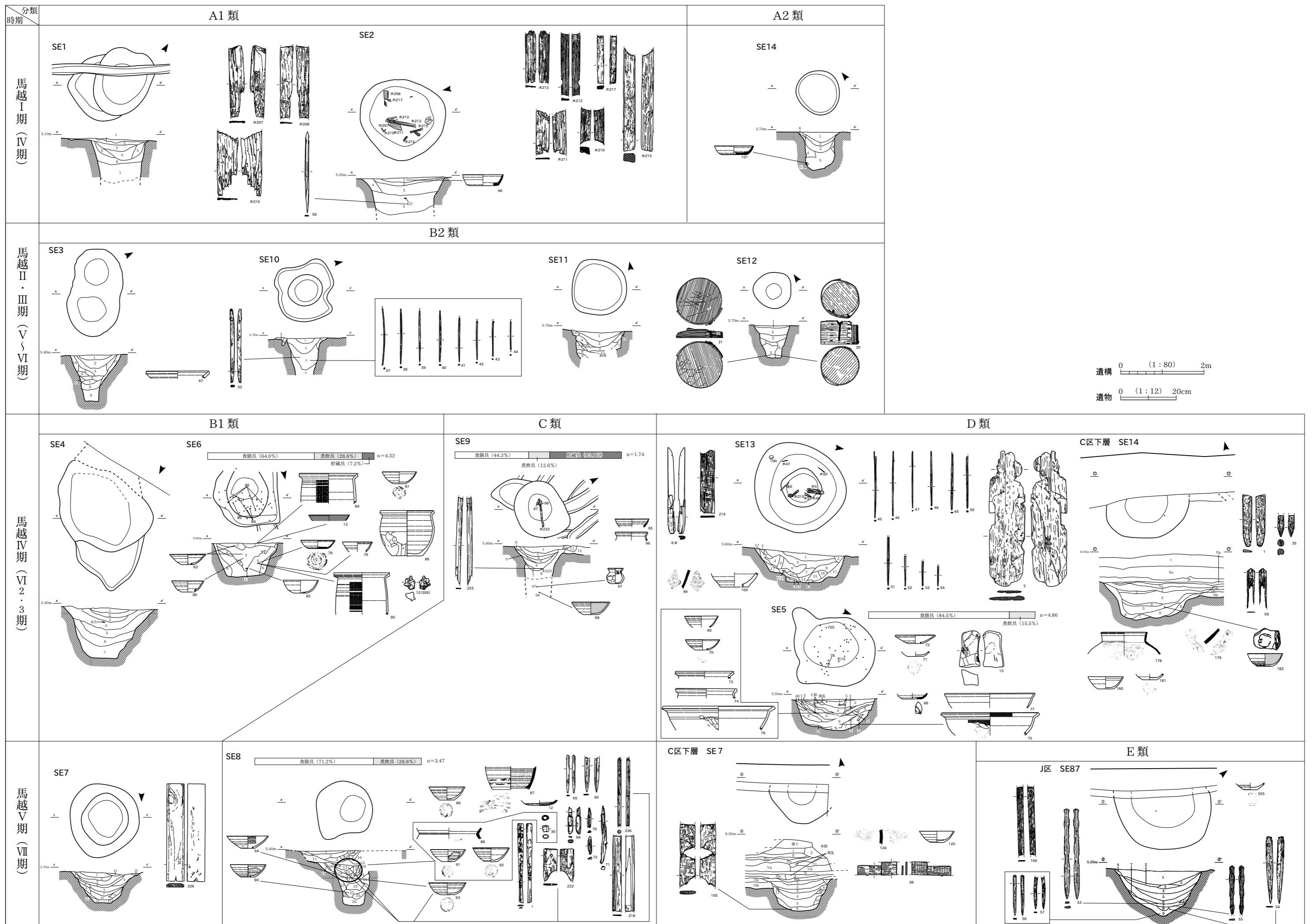
馬越Ⅰ期(Ⅳ期:8世紀中~後半頃) 馬越遺跡で集落が開始され、帯金具や墨書土器から有力者の存在が推測される時期である。井戸はA類のみが確認される。SE1では覆土上部に炭化物を含む土層、下部では腐植物層が見られる。土器は食膳具、煮沸具の破片が少量出土している。SE2では覆土は水平に堆積し、下部に腐植物層が顕著で、完形の斎串や桃核、ヒョウタンなどの種子が出土しており、祭祀行為を強く推測させる。土器は多くはないが、食膳具、煮沸具、貯蔵具の破片が見られ、覆土1層から須恵器無台杯が出土している。SE14は覆土の大半が腐植物層で、炭化物も含まれる。底面近くから須恵器無台杯が出土している。

馬越Ⅱ・Ⅲ期(Ⅴ~Ⅵ期:9世紀前半~後半頃) 墨書土器などに荘園関連遺跡と推測される遺物を含む時期である。井戸はB2類のみが確認される。SE3では覆土最下部は砂層で、腐植物層は見られない。遺物は少ない。桃核が出土している。SE10では覆土上部で、炭化物を多量に含む土層が見られる。出土遺物に土器は見られず、3層下部から把手1点、箸状8点の木製品が出土した。SE11は覆土上部に腐植物層が顕著である。土器も含め出土遺物は極めて少ない。SE12は水平に堆積した覆土上部に腐植物が少量含まれる。出土遺物は底面から曲物が2点出土したのみで、土器は見られない。

馬越Ⅳ期(Ⅵ₂₋₃期:9世紀後半頃) 前期の集団を基に、「王朝国家型村落」として新たに集落が再編・成立したと見られる時期である。B1・C・D類が初めて確認され、最も多様で構築数も多い。B1類のSE4では覆土上部に炭化物を含む土層、覆土下部に腐植物層が見られる。土器は器種不明の破片が少量出土している。他は木片と桃核が見られた。SE6は覆土がブロック状に堆積し、上~中部に炭化物を多量に含んだ黒色層が見られ、土器が多量に出土している。ただし、完形に近い大型破片は少ない。この他、漆器碗が覆土上部から、他に鉄滓、桃核が出土している。C類のSE9では覆土上部に腐植物層が見られる。覆土中位に先端部が焦げた板状の木片が1点と底部近くから完形の小型壺と黒色土器無台碗が出土している。D類のSE13は底面中央部に段を持つ。覆土の堆積は上部がレンズ状、下部はブロック状となり、

| 時期 | 調査区 | 遺構名 | 分類 | 平面形 | 断面形 | 覆土 | 出土遺物 | | | | | | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|--------------------------------|------|------|-----|-----|------|---------|------|-----|------|------|----|-----|-----|---|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | | 土器 | | | 金属製品 | | 石製品 | 木製品 | | | | | | | | | | 種子 | | | |
| | | | | | | | 食膳具 | 煮沸具 | 貯蔵具 | 小刀 | 鉄滓 | 砥石 | 斎串 | 箸 | 櫛? | 漆器 | 木筒 | 栓? | 刀子形 | 付け木 | 曲物 | | 把手 | 木片 | 桃核 | 胡桃 |
| 馬越Ⅰ期 (春日Ⅳ期) | I区 | SE1 | A1 | 楕円形 | 箱状 | レンズ状・水平 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | I区 | SE2 | A1 | 円形 | 箱状 | 水平 | ○ | ○ | ○ | | | | 1 | | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| | Ⅳ区 | SE14 | A2 | 円形 | U字状 | レンズ状 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 馬越Ⅱ・Ⅲ期 (春日Ⅴ~Ⅵ期) | I区 | SE3 | B2 | 楕円形 | 漏斗状 | レンズ状 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| | Ⅲ区 | SE10 | B2 | 不整形 | 台形状 | レンズ状 | | | | | | | 8 | | | | | | | | 1 | | | | | |
| | Ⅲ区 | SE11 | B2 | 円形 | 台形状 | レンズ状 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 馬越Ⅳ期 (春日Ⅵ ₂₋₃ 期) | Ⅲ区 | SE12 | B2 | 円形 | 台形状 | 水平 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | I区 | SE4 | B1 | 楕円形 | 台形状 | レンズ状 | ○ | ○ | 器種不明 | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| | Ⅱ区 | SE6 | B1 | 不整形 | 台形状 | ブロック状 | ○ | ○ | ○ | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | ○ | ○ | | |
| | Ⅲ区 | SE9 | C | 楕円形 | 漏斗状 | レンズ状 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| | Ⅳ区 | SE13 | D | 円形 | 半円状 | レンズ状 | ○ | ○ | ○ | 1 | | | | | | 10 | 1 | | | | | | 1 | | | |
| | Ⅱ区 | SE5 | D | 不整形 | 半円状 | レンズ状 | ○ | ○ | ○ | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 馬越Ⅴ期 (春日Ⅶ ₁ 期) | C区下 | SE14 | D | 楕円形 | 半円状 | レンズ状 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | |
| | Ⅲ区 | SE7 | B1 | 楕円形 | 台形状 | レンズ状 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | Ⅲ区 | SE8 | C | 楕円形 | 漏斗状 | ブロック状 | ○ | ○ | ○ | | | | 2 | | | | | 1 | 1 | | 1 | 3 | | 4 | | |
| | C区下 | SE7 | D | 楕円形 | 半円状 | レンズ状 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | |
| J区 | SE87 | E | 楕円形 | V字状 | レンズ状 | ○ | | ○ | | | | | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | |

第17表 馬越遺跡の井戸(古代)



第 35 図 馬越遺跡の井戸と出土遺物 (古代)

腐植物を含んだ土層が多い。出土遺物は中央部の中層に集中する。箸状 10 本、櫛などの木製品が中心で、他に小刀がある。土器は少ない。SE5 は覆土中部に炭化物を多量に含んだ黒色土が堆積し、土器を多く出土した。墨書土器が 1 点見られる。大型破片は少ない。他に砥石、鉄滓、桃核、胡桃などが出土している。C 区下層 SE14 は覆土のほとんどが黒色腐植物層で占められる。出土遺物も土器、木簡、栓、斎串、棒状などの木製品が多く出土した。

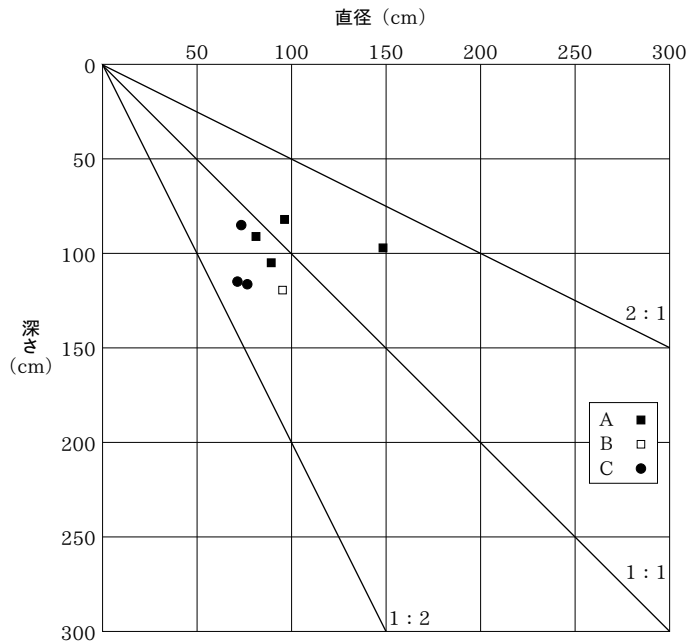
馬越 V 期（VII 期：10 世紀前半頃）L 字状に配置された建物跡や特殊遺物などから富豪層の屋敷跡と推測される時期である。やはり多様な類型の井戸が確認される。B1 類の SE7 は覆土上部に腐植物層が見られる。出土遺物は土器が数点と用途不明の木製品が 1 点と少ない。C 類の SE8 は、覆土がブロック状に堆積し、上～中部にかけて腐植物層や黒色土層が顕著に見られる。出土遺物も多く、土器器無台椀内面にタールが付着したものや木簡、斎串、刀子形、付け木など祭祀に関係したと見られるものが多い。D 類の C 区下層 SE7 は C 区下層 SE14 と同じく覆土のほとんどが黒色腐植物層で占められる。出土遺物も比較的多く、大型破片は少ないが土器、曲物、底面からは板状木製品が出土している。E 類の J 区 SE87 は炭化物を多量に含んだ黒色土層が覆土中～下部にかけて堆積する。土器の出土は少なく、下部から大～小の斎串が 5 点出土した。

以上の状況を整理すると、馬越 I 期の井戸は、覆土上部に炭化物を混入し、下部に腐植物層が堆積する傾向があり、出土遺物は少ないながら、杯形土器や斎串、邪気を払うとされる桃核やヒョウタンなどから律令祭祀の一端を示す。馬越 II・III 期では覆土の堆積状況は I 期と共通する面も多いが、出土遺物に全く大型の土器片が見られず、SE10 から出土した箸状木製品や桃核などによりのみ祭祀行為の残影を留める。馬越 IV 期になると形態も多様な井戸が出現し、腐植物層、黒色土層がより厚く顕著に堆積するようになる。出土遺物も多彩となり、土器を中心とする SE5・6 や木製品が中心となる SE13、土器、木製品ともに多い SE14 がある。木製祭祀具は馬越 II 期と箸状木製品が共通する。斎串の代用であろうか。他は統一的な感じは見せない。馬越 V 期では形態などは馬越 IV 期とほぼ同じであるが、新たに E 類が出現し、土器は食膳具がやや多くなる傾向にあり、木製祭祀具も斎串の出土が目立つようになる。

このことから、古代の井戸は形態及び祭祀具について、各時期を通して一律ではないことが、まず確認される。駒見氏が指摘された第 1～第 2 の画期間において、同一遺跡内においても様々な変化がある。大まかには、A1・2 類→B2 類→B1・C・D・E 類と変遷し、一部を除き馬越 IV・V 期の B1・C・D 類に土器が多く出土する傾向がある。それは、杯・椀の食膳具が主体ではあるが限定されず、煮炊具、貯蔵具なども一定量を占めることが注意される。木製祭祀具においても、馬越 I 期で見られた斎串は、馬越 II・III 期には出土がなく、箸状木製品が取って代わる。馬越 IV 期では C 区下層 SE14 に 1 点斎串状の木製品があるが、非常に薄手で斎串がどうかやや疑問が残る。そして、井戸祭祀に限れば、馬越 V 期に再度、斎串が出現するという流れが想定できる。この変化を指標とすれば、I 期と II・III 期の間、箸状木製品は共通するが、II・III 期と IV 期の間にそれぞれ画期が指摘できそうである。IV 期と V 期は E 類と斎串の再登場を除けば、大きな変化はないものと考えたい。県内の木製祭祀具を時期別の変遷を概観した長沼吉嗣氏によれば、9 世紀前半頃、斎串以外の出土数が減少する傾向にあることから、律令体制の弛緩と王朝国家体制への移行、集落再編との関連性を指摘されている [長沼 2008]。馬越遺跡の井戸から垣間見えた変遷の背景には、そうした社会体制の変質が影響を与えたことは間違いないであろう。しかし、当然のことながら、越後国全域で、齊一的に同様の変遷が見られるわけではなく、様々なバリエーションの中で、当遺跡の内容を理解し、他遺跡との比較、検討を進める必要がある。

1 井戸跡について

中世の井戸 すべて素掘りの井戸である。主に平面形から、第18表のとおり、A～Cの3類に大別した。A類は平面形が方形、B類は楕円形、C類は円形とした。断面形はほとんどが箱状となる。直径1m未満のものが主体となり、古代の井戸より一回り小さくなる。第36図のとおり直径と深さの比率は1:1付近に集中する。深さも1m前後にまとまる。深さは古代の井戸と大差はないようである。覆土(埋土)は水平やブロック状に堆積するものが多く、人為的な埋め戻しが強く想定される。また、ほとんどが覆土中～下部に腐植物層が見られる。



第36図 井戸(中世)の計測値

第37図・第19表から各類の特徴を

記す。A類は4基確認された。SE1の出土遺物は珠洲焼播鉢が底面付近から出土したのみである。SE2では中央付近で覆土中程からほぼ完形の漆器椀が出土した。他に箸状木製品が少量見られる。SE3は6・7層から多様な木製品が集中して出土した。SE7は覆土上部から珠洲焼、砥石などが出土した。木製品の出土はない。B類は1基のみである。SE6からは覆土中程から大きな板状の木製品がまとまって出土した。さらに下層から漆器片も出土している。C類は3基確認された。SE4は覆土下部から漆器、箸状などの木製品がまとまって出土した。SE5は覆土中程から曲物と板状、箸状木製品が、最下層からは漆器が出土した。SE15は覆土上部から砥石、中程から柱根、最下部からは礫、炭化・灰化した植物遺体が出土している。

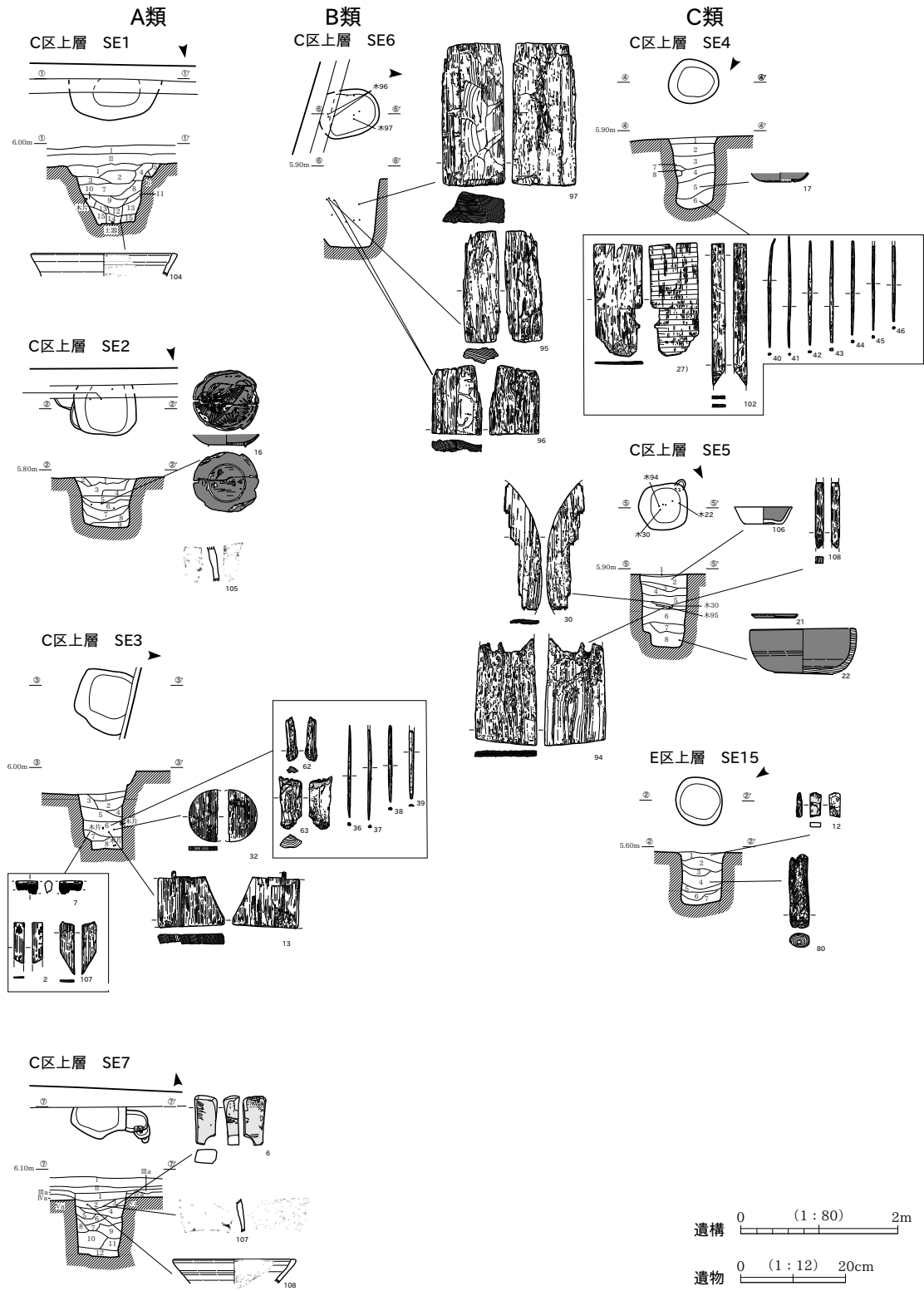
| 分類 | 平面形 | 断面形 |
|----|-----|--------|
| A | 方形 | 台形状・箱状 |
| B | 楕円形 | 箱状 |
| C | 円形 | 箱状 |

第18表 井戸(中世)の分類

以上のとおり、遺物の出土状況、内容からは決まったパターンは見出しがたいが、強いて言えば、土器類や石器の埋納は少ないが覆土上層から出土する例が見られること、漆器、箸状を主体とした木製品が覆土中程から下部にかけて見られることなどが指摘される。古代の井戸と比較すると、規模や形態のバリエーションが少なくなり、ある程度の規格性も窺える。覆土も水平堆積が顕著となり、出土遺物も土器類が極めて少なく、漆器や箸状木製品が中心となるなど、大きく様相を異にする。検討した中世の8基の井戸

| 時期 | 調査区 | 遺構名 | 分類 | 平面形 | 断面形 | 覆土 | 出土遺物 | | | | | | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|----|-----|------|----|-----|-----|-------|------|----|-------|-----|----|----|----|---|----|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-------|--|
| | | | | | | | 珠洲焼 | | 中世土師器 | 石製品 | | | | | | | | 木製品 | | | | | 種子 | | | |
| | | | | | | | 壺・甕 | 播鉢 | | 砥石 | 箸状 | 漆器 | 木筒 | 櫛 | 下駄 | 付け木 | 曲物 | 棒状 | 柱根 | 木片 | 桃核 | | | 胡桃 | ヒヨウタン | |
| 中世 | C区 | SE1 | A | 方形 | 台形状 | ブロック状 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | C区 | SE2 | A | 方形 | 箱状 | レンズ状 | ○ | | | | | 2 | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| | C区 | SE3 | A | 方形 | 箱状 | 水平 | | | ○ | | | 21 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | C区 | SE7 | A | 方形 | 箱状 | ブロック状 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | C区 | SE6 | B | 楕円形 | 箱状 | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| | C区 | SE4 | C | 円形 | 箱状 | 水平 | | | | | | 26 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | C区 | SE5 | C | 円形 | 箱状 | 水平 | | | ○ | | | 27 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | E区 | SE15 | C | 円形 | 箱状 | レンズ状 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |

第19表 馬越遺跡の井戸(中世)



第 37 図 馬越遺跡の井戸と出土遺物 (中世)

はほぼ 13～14 世紀頃の同時期のものであることから、細かな変遷は不明であるが、先の駒見氏の指摘された第 2 の画期以降の一例として逸脱しない内容であろう。なお、集落形態の変化に伴う、井戸の所有形態については調査面積の制約もあり、今後の課題としておきたい。

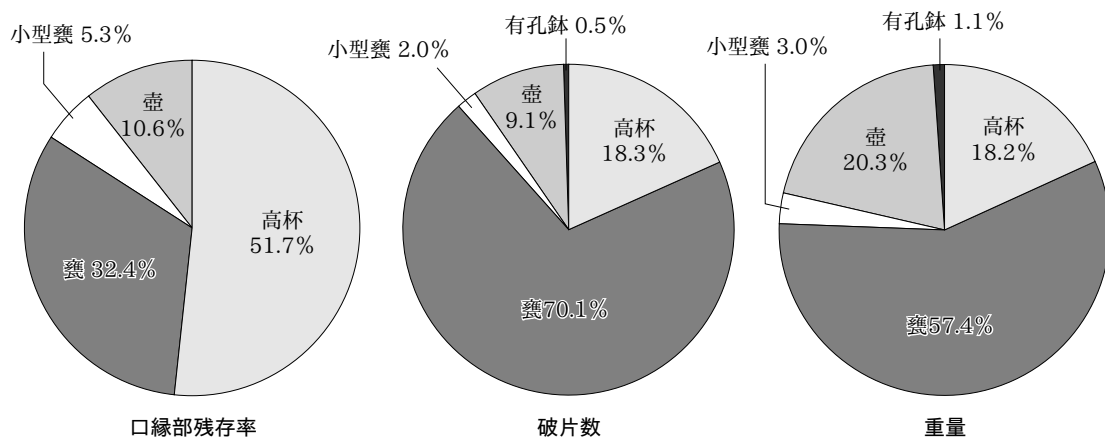
2 土 器

A 古墳時代中期の土器について

ここでは、A 区河川 1・2 から出土した土器を一括資料と考え、その編年的位置について比較検討したい。確認された器種は、高杯・壺・甕・小型甕・有孔鉢がある。第 38 図は口縁部残存率計測法 [宇野 1992] を用いた口残値・破片数・重量から見た器種別構成比率である。口残値から見た組成比は高杯が 51.7% と半数以上を占め、次いで甕が 32.4%、壺が 10.6%、小型甕が 5.3% となる。破片数、重量から見た組成比率は甕が多くを占める。高杯では段を持つ杯部や中膨らみの畿内系の屈折脚が指標となる。壺は退化した二重口縁で、甕などもつくりが雑なものが多い。壺、甕、小型甕にヘラケズリが多用される特徴がある。

近年の古墳時代土器編年のベースになっている代表的な研究は、川村浩司氏により上越市の関川下流右岸域を中心に組み立てられた 1～16 段階の編年案 [川村 2000] (以下、川村編年とする) がある。それに従えば、本遺構出土土器は器種組成や形態から「各種小型埴類が多数出現する段階」である 9 段階と資料が豊富ではないが「受部が内湾する小型器台の存在」する 5～7 段階の間、すなわち 8 段階に比定できる可能性が高い。ただし、器種組成から小型壺が欠けている点は相違する。これまでの新潟県での編年に対比すれば、川村編年 8 段階は聖籠町山三賀Ⅱ遺跡での坂井編年の古墳Ⅲ期 [坂井 1989a]、品田編年Ⅲ期 1 段階 [品田 1992]、上越市一之口遺跡での春日編年Ⅳ期 [春日 1994] に相当する。また、それぞれの編年の基軸とも言える石川県の漆町遺跡での漆町編年 12 群 [田嶋 1986] に対比される。

県内の該時期の資料は、これまで多くはない状況であったが、近年増加傾向にある。近いところでは、新潟市沖ノ羽遺跡Ⅱ [星野ほか 1996]、沖ノ羽遺跡Ⅳ [立木ほか 2008]、舟戸遺跡 [川上 1995] と旧新潟市域でまとまった資料がある。8～9 段階を中心とした土器と見られる。また、阿賀北地域ではあるが、胎内市反貫目遺跡土器集中区Ⅰ～Ⅲ [寺崎・佐藤ほか 2004]、同じく胎内市六斗蔦遺跡 [岡安・大谷ほか 2005] にも同時期の土器が出土している。とくに、反貫目遺跡と六斗蔦遺跡では編年的位置について考察がなされ、両遺跡で屈折脚高杯 A 類が存在し、調整不良な点は共通するが他の高杯の器種や形態差、杯・



第 38 図 A 区河川 1・2 出土土器組成図

碗類の有無を相違点とし、反貫目遺跡を 8 段階、六斗蒔遺跡を 9 段階としている。

このように各地で良好な資料が蓄積されつつある現状において、A 区河川 1・2 出土土器は、蒲原地域、特に南部における古墳時代中期の一括性の高い土器群として位置付けておきたい。

B 平安時代の土器について

馬越遺跡からは既往の調査により、奈良～平安時代の長期に渡る時期の土器が出土し、口縁部残存率計測法 [宇野 1992] を用いて、主要遺構の構成比率の検討や器形、須恵器の産地などを考慮し、『新潟県の考古学』で春日真実氏によって整備された編年のⅣ～Ⅶ期 [春日 1999] を基に、馬越Ⅰ～Ⅵ期を設定した [伊藤 2005a・2009]。今回の調査区から出土した土器は、遺構から一括性の高い状態で出土した土器群が少なく、法量を求められる資料も少ない。土器はこれまでと同様にⅣ～Ⅶ期にかけて出土しているが、比較的資料がまとまっているⅥ～Ⅶ期の土器群について検討を加えたい。

器種別構成比率 B 区 SD4 (Ⅵ₁期)・C 区下 SE14・D 区 SK80・K 区 SK74 (Ⅵ_{2・3}期)・C 区下 SE7・J 区 SK15・J 区 SD71 (Ⅶ₁期) の器種別、全体の種類別、機能別、食膳具の種類別構成比率を口縁部残存率 (口残値)・破片点数・重量から求めた構成比率図を示す (第 39～42 図)。

B 区 SD4 の器種別では口残値から土師器無台碗(33.8%)・須恵器無台杯(30.1%)が全体の半数以上を占め、破片数からは土師器無台碗のみで半数近くを占める。機能別構成比率の口残値からは食膳具が 73.5%、煮炊具が 6.0%、貯蔵具が 20.5%となる。破片数及び重量からも食膳具の占める割合はほぼ変わらない。全体の種類別で、口残値からは須恵器と土師器がそれぞれ約 50%と拮抗するが、破片数、重量からはともに黒色土器が一定量を占める。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器 59.0%、須恵器 41.0%と土師器が優位となる。破片数、重量からも土師器が優位を占めるが、黒色土器が定量を占めている。

C 区下 SE14 の器種別では口残値から土師器無台碗 (57.9%)・黒色土器無台碗 (21.0%) が大半を占め、破片数からは土師器甕類が多く、重量からは須恵器甕の割合が多い。機能別構成比率の口残値からは食膳具が 88.7%、煮炊具が 7.5%、貯蔵具が 3.8%となる。破片数からは煮炊具、重量からは貯蔵具の割合が増加する。全体の種類別で、口残値からは土師器と黒色土器で 80%以上を占め、須恵器は 15%以下となる。破片数からは土師器、重量からは須恵器の割合が増加する。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器 65.3%、黒色土器 23.7%、須恵器 11.0%と土師器、黒色土器が優位となる。破片数、重量からもほぼ同様の傾向を示す。

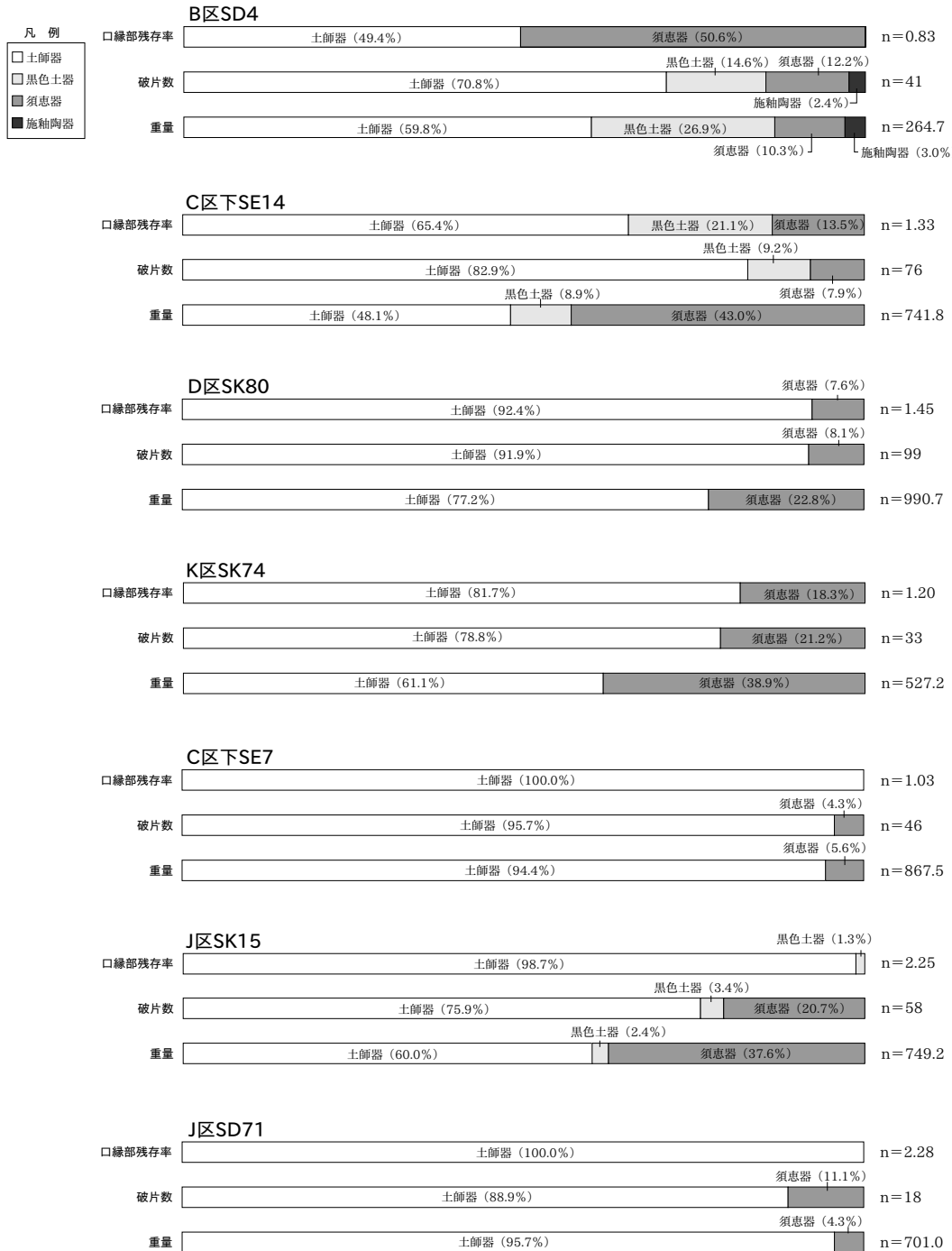
D 区 SK80 の器種別では口残値から土師器無台碗 (74.5%) が多数を占め、破片数・重量からは土師器甕類が多くなる。機能別構成比率の口残値からは食膳具が 82.1%、煮炊具が 17.9%となる。破片数・重量からは煮炊具の割合が増加する。全体の種類別で、口残値からは土師器が 90%以上を占め、須恵器は 10%以下となる。破片数もほぼ同じ割合である。重量からは須恵器が増加する。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器 90.8%、須恵器 9.2%と土師器が大半となる。破片数からもほぼ同じで、重量では須恵器が増加している。

K 区 SK74 の器種別では口残値から土師器無台皿 (60.0%)、須恵器無台杯 (18.3%) で全体の 80%近くを占める。破片数からは土師器甕類が多く、重量からは須恵器甕の割合が多い。機能別構成比率は D 区 SK80 とほぼ同様である。全体の種類別で、口残値からは土師器が 81.7%、須恵器が 18.3%となる。破片数もほぼ同じ割合である。重量からは須恵器が増加する。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器 77.8%、須恵器 22.2%となる。破片数では両者が逆転し、重量からは土師器が増加する。

C区下SE7の器種別では口残値から土師器無台碗(75.7%)、土師器長甕(24.3%)で全体を占める。破片数・重量からは土師器甕類が多くなる。機能別構成比率の口残値・重量からは食膳具が70%前後、煮炊具が25%前後となるが、破片数は両者が拮抗する。全体の種類別で、口残値からは土師器が100%で、破片数、重量からも土師器が90%以上を占める。食膳具の種類別構成比率は、口残値・破片数・重量ともに土師器が100%となる。

J区SK15の器種別では口残値から土師器無台碗(82.7%)、土師器小甕(14.7%)が大半を占める。破片数、

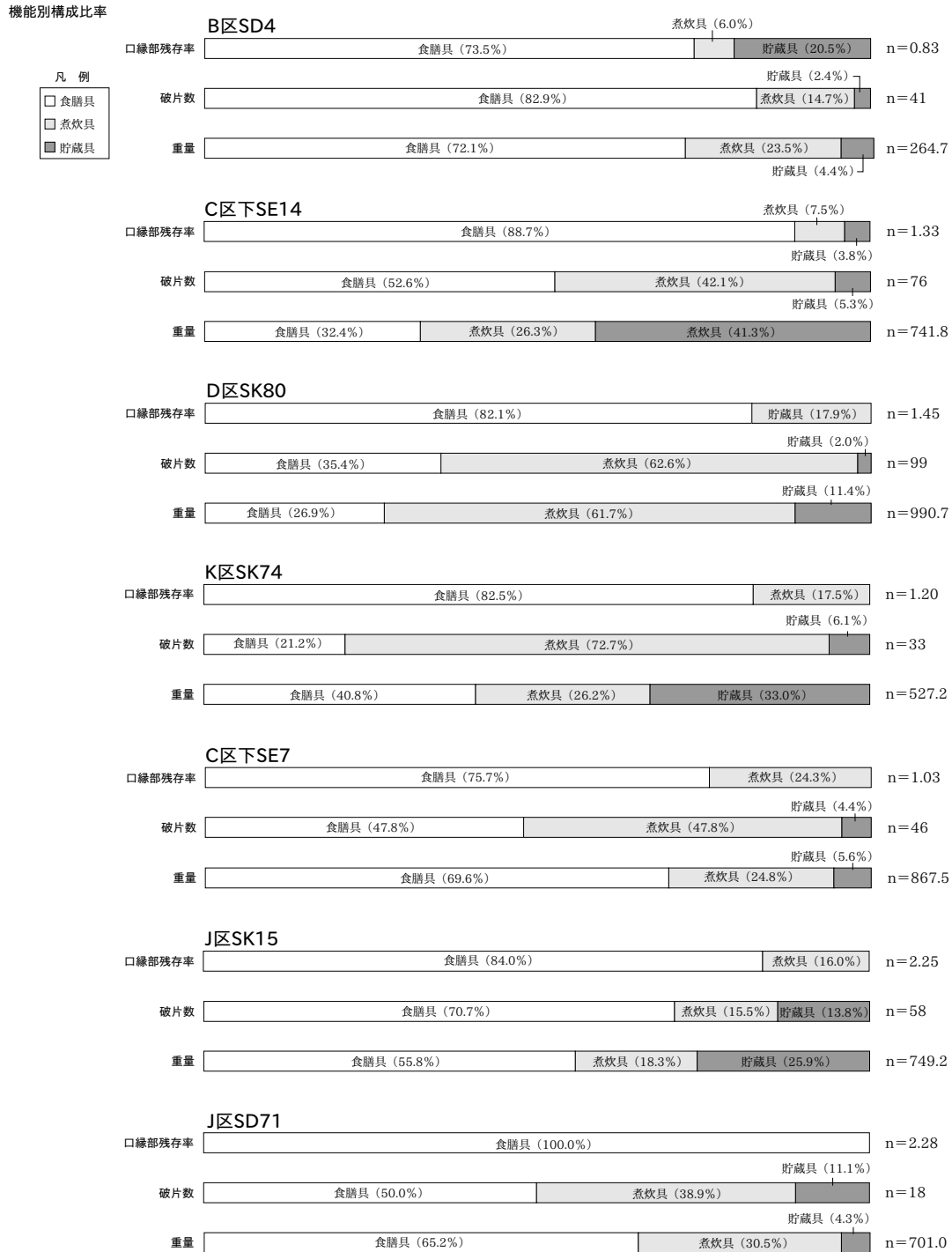
全体の種類別構成比率



第40図 主要遺構毎の全体の種類別構成比率図

重量からは須恵器甕が多くなる。機能別構成比率の口残値からは食膳具が84.0%、煮炊具が16.0%となる。破片数、重量からは煮炊具、貯蔵具の割合が増加する。全体の種類別で、口残値からは土師器が98.7%、黒色土器1.3%となる。破片数・重量では須恵器が増加する。食膳具の種類別構成比率は、口残値からは土師器が98.4%と大半を占め、破片数・重量からは須恵器が定量を占める。

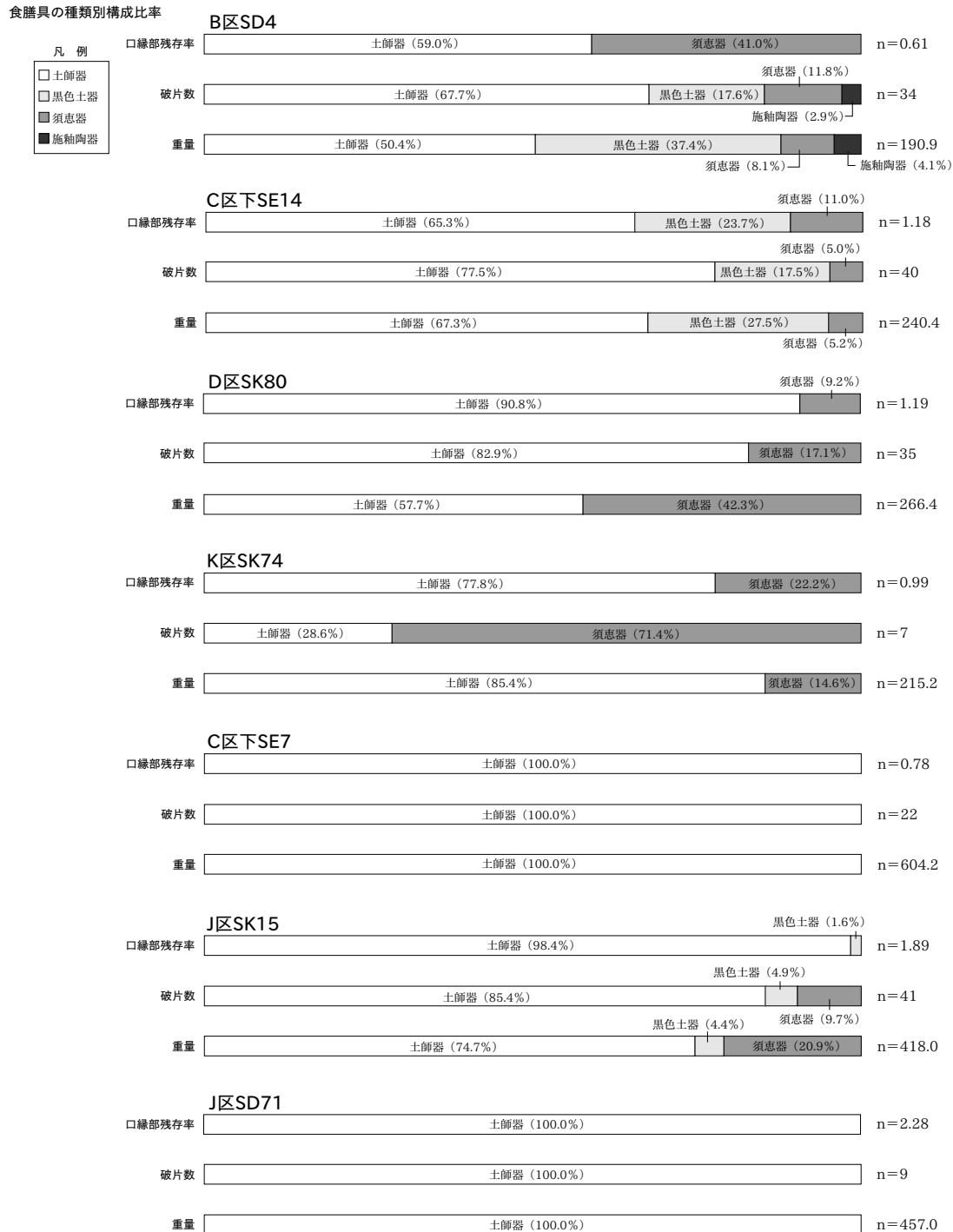
J区SD71の器種別では口残値から土師器無台碗が100%を占める。破片数・重量からは土師器長甕が多くなる。機能別構成比率の口残値からは食膳具が100%、破片数、重量からは煮炊具の割合が増加する。



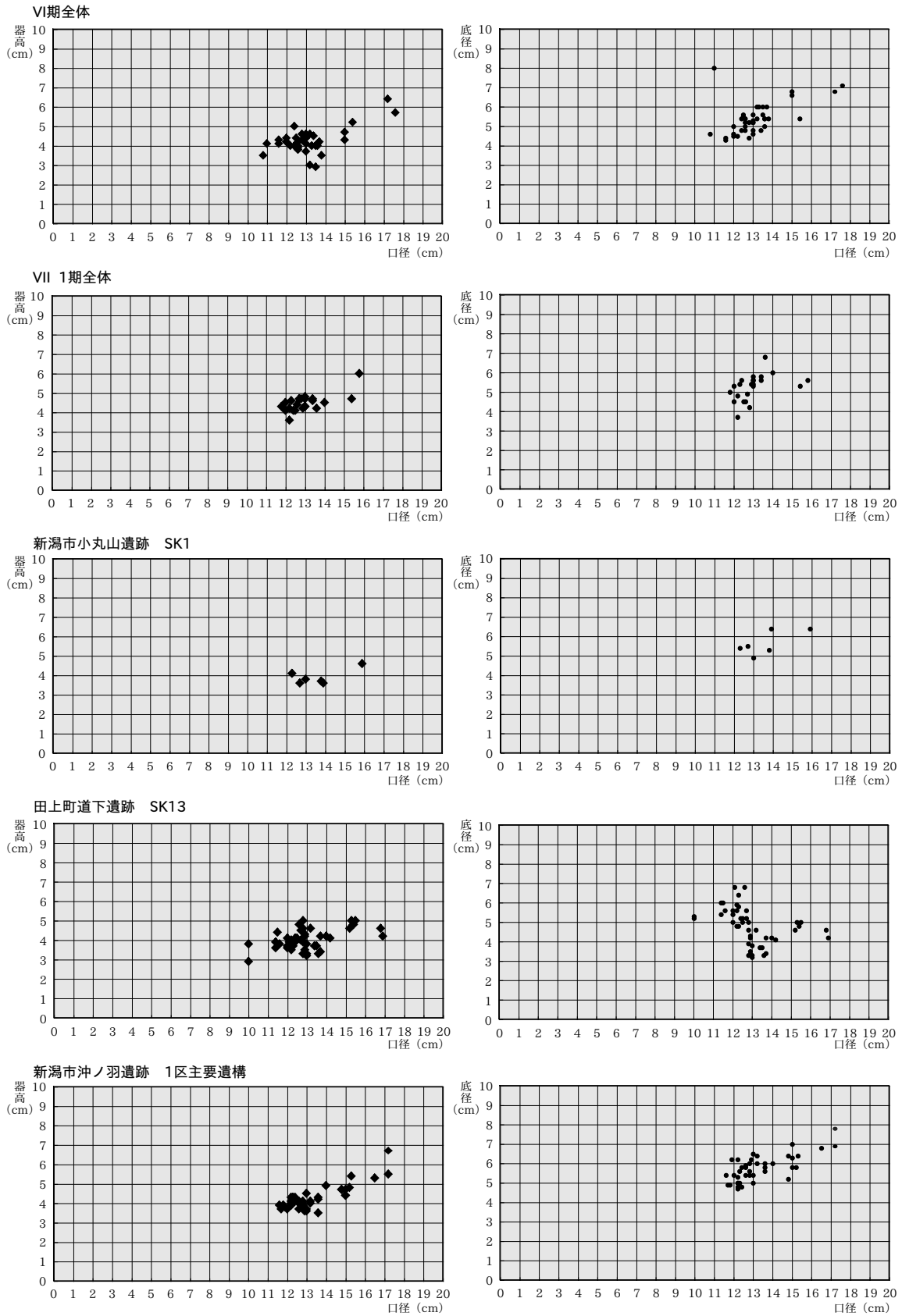
第 41 図 主要遺構毎の機能別構成比率図

全体の種類別で、口残値からは土師器が100%、破片数・重量では須恵器10%前後を占める。食膳具の種類別構成比率は、口残値・破片数・重量ともに土師器が100%を占める。

口残値からの比率を中心に概観すれば、器種別では須恵器無台杯が一定量を占め、全体の種類別では須恵器と土師器がそれぞれ拮抗し、食膳具の種類別構成比率からは土師器が6割、須恵器4割となるB区SD4のVI₁期、各遺構によって黑色土器の組成に相違を見せるが、器種別では土師器無台碗、無台皿が増加し、須恵器無台杯が少なくなり、全体の種類別、食膳具の種類別構成比率では土師器、黑色土器が増加し、須恵器が減少するC区下SE14、D区SK80、K区SK74のVI₂₋₃期、器種別で土師器無台碗が



第 42 図 主要遺構毎の食膳具の種類別構成比率図



第43図 土師器食膳具の量分布図

大半となり、須恵器無台杯などが見られなくなり、全体の種別、食膳具の種別構成比率ともにほぼ土師器で占められる C 区下 SE7、J 区 SK15、J 区 SD71 のⅦ₁ 期へと変遷が窺える。これは、馬越遺跡でのこれまでの検討結果と矛盾しない比率を示している。

器形・法量の検討 ここでは、上記した各遺構出土の土師器無台碗と合わせ、包含層出土資料も加えてⅥ期とⅦ期全体の法量分布図（第 43 図）を示す。

Ⅵ期では、器高指数 21 の無台皿（441）を除き、器高指数は 23 ～ 40 のものがあり、30・32・35 の 3 種のまとまりを見せる。口径は 11 ～ 17cm 前後が見られるが、12 ～ 14cm のものが多い。器高は一部を除き、3 ～ 5cm の間にまとまる。底径指数は 73 の片口付無台碗（139）を除き、34 ～ 45 のものがあり、37・38、40・41、44・45 にまとまりを見せる。底径は一部を除き、4 ～ 6cm 前後にまとまる。

Ⅶ₁ 期では、器高指数は 30 ～ 42 のものがあり、33・37 前後が多い。30 以下のものは見られなくなる。口径は 12 ～ 16cm 前後が見られるが、Ⅵ期と同じく 12 ～ 14cm のものが多い。器高は一部を除き、4 ～ 5cm の間にまとまる。Ⅵ期に比べ、一定の枠の中に収斂する傾向にある。底径指数は、30 ～ 50 のものがあり、42 ～ 45 にまとまりを見せる。底径は一部を除き、4 ～ 6cm 前後にまとまる。

これらの指数などからすれば、Ⅵ期はⅦ期に比べ、法量分化が顕著であり、いくつかのタイプが見られるが、Ⅶ期にはまとまる傾向にある。また、Ⅵ期はⅦ期に比べ、器高指数の低いものが定量含まれ、Ⅶ期には器高がやや高くなる傾向がある。参考までに、Ⅶ₁ 期の基準資料とされる新潟市小丸山遺跡 SK1 [小池・本間 1995] と田上町道下遺跡 SK13 [田畑 1994]、新潟市沖ノ羽遺跡 1 区主要遺構出土土器 [立木ほか 2008] についてそれぞれ法量分布図を作成した。馬越遺跡出土土器は、道下遺跡 SK13 に見える口径 10cm と小型のものが見られないことや他遺跡よりも器高がやや高い点が相違する。

また、Ⅶ期になると土師器・黒色土器食膳具の作りが著しく粗雑になることが指摘 [春日 1999] され、新発田市の坂ノ沢 C 遺跡 3 期 [渡邊・田中 2001]、桑ノ口遺跡 2 期 [鶴巻・若林ほか 2003]、新潟市沖ノ羽遺跡 [立木ほか 2008]、長岡市下ノ西遺跡 10 期 [田中 2003] などでも同様の傾向が確認されている。馬越遺跡の資料についても、一部の資料については、器壁が厚いもの、ロクロナデによる凹凸や器形が歪むものなどが目立つようになることからすれば、同様の傾向にあることが首肯されよう。

C 胎土 E 群須恵器について（第 44 図）

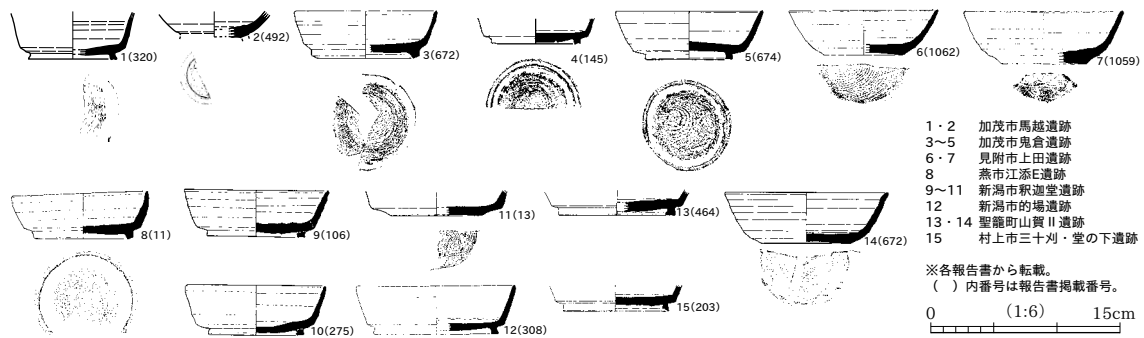
胎土 E 群の須恵器については、器形の特徴を考慮し、頸城郡の高田平野西部丘陵窯跡群と総称される地域に産地を求めたものである。加茂市内では馬越遺跡から 2 点 [本書]、鬼倉遺跡から 3 点 [伊藤 2001b] の合計 5 点が頸城産の可能性が高いことを報告した。5 点とも有台杯で、2 ～ 5 は底部外面に糸切り痕を留める。1、4 は底部から体部が鋭角に立ち上がる特徴を持つ。極めて少数ではあるが、他と異質な胎土や器形などから峻別されるものである。

第 44 図の 6 ～ 15 については、頸城郡以外の遺跡で、報告書で頸城産の可能性のあるものとして報告されたものや報告書の実測図から判断したものを含んでいる。かなり大雑把な提示であり、これ以外の遺跡からも出土している可能性が高い。6、7 は見附市上田遺跡出土土器 [安藤 2005] である。ともに無台杯で底部外面に糸切り痕を留める。7 は底部と体部の境が凹み、「二段底」[小田ほか 2006] 状となる。8 は燕市江添 E 遺跡出土土器 [布施・平岡 2000] である。有台杯で、底部外面に糸切り痕を留める。9 ～ 11 は新潟市釈迦堂遺跡出土土器 [江口ほか 2000] である。春日氏の論文で、胎土 C3 群で頸城（関川左岸）産とされた [春日 2003b・2006]。9、10 は有台杯、11 は無台杯である。11 は底部外面に糸

切り痕を留め、底部と体部の境が凹み、7より明確な「二段底」となる。12は新潟市的場遺跡出土土器〔小池・藤塚 1993〕である。有台杯で、底部から体部が鋭角に立ち上がり、底部外面には糸切り痕を留める。13・14は聖籠町山三賀Ⅱ遺跡出土土器〔坂井ほか 1989〕である。13は有台杯で、底部から体部が鋭角に立ち上がり、底部外面には糸切りの可能性が示されている。14は無台杯で、底部外面に糸切り痕を留める。報告書では頸城末野窯の可能性も示されている。15は村上市三十刈・堂の下遺跡出土土器〔廣野 1994〕である。有台杯で底部から体部が鋭角に立ち上がる器形である。

以上から、古志・蒲原・沼垂・岩船郡域の遺跡から頸城郡産須恵器に類似した土器が出土する状況が窺える。器種は有台杯と無台杯に限定され、特に有台杯が多い。これは、特徴的かつ異質感を持ち、推測可能な器種が有台杯に多いことに起因するものであろう。時期はV期を中心としている。なお、14は末野窯跡かとされる以外は、器形の特徴などから滝寺・大貫古窯跡群〔小田ほか 2006・笹澤 2003〕などを含む高田平野西部丘陵窯跡群産に類似するようである。この状況は、8世紀末に西部丘陵窯跡群での生産が活発となり、これ以降、頸城郡内の消費遺跡でも西部丘陵窯跡群産須恵器の流通が多くなる現象〔笹澤 2002〕と関係する可能性がある。

これまで、頸城郡産須恵器の流通については、糸切りなどの技法が他郡の諸窯跡でも採用されていることや胎土からの分類も難しいことなどから、上記した資料が本当に頸城郡窯跡の資料かどうか確認がもてないこともあり、あまり積極的に取上げられることが少ない状況であった。しかし、馬越遺跡から見れば、特にV期に食膳具に多量に流通した佐渡小泊窯跡産を別とすれば、他に新津丘陵窯跡、五頭山麓窯跡、西古志窯跡がほぼ同じような比率で組成に加わり、郡域を越えた須恵器の流入が確認される状況がある。ただ単に遺跡からの距離感で、頸城郡窯跡産の流入の可能性を無視してしまうことは、人・物の移動、交流について視野を狭めることになるのではないだろうか。まして、窯跡の基数から窺える生産体制の規模や膝下に推測される国府の所在を合わせ考えると、流通の実態やその背景にある問題を考えることは越後古代社会を検討する上で、重要と思われる。



第 44 図 頸城郡産と推測される須恵器

3 主要墨書土器などから見た馬越遺跡について (第45・46図)

馬越遺跡から出土した古代の文字資料の合計点数は、木簡3点、墨書土器81点、刻書・ヘラ書き33点である。ここでは、遺跡の性格を推測させるような主要墨書土器について時期別に見てゆく。

馬越Ⅰ期では、「三宅」墨書土器が注目される。『続日本紀』延暦3年(784)に記された人物「三宅連笠雄麻呂」との関連も考慮されるが、多くは荘園関連の施設名を表すと考えられる。馬越遺跡は、成立当初から、荘園に関係した遺跡であったことが推測される。帯金具や石製分銅なども関連した遺物と見られる。他に「秋人」などの人名、物部氏の氏族名を表すと見られる「物」のヘラ書きが出土している。

馬越Ⅱ・Ⅲ期になると、墨書土器が多く出土するようになるが、とりわけ「妙越庄」墨書土器が重要である。文献に記載された官大寺に施入された荘園とは異なる、初期荘園が存在した可能性を示唆する。「是人」の人名は、同時期の鬼倉遺跡からも出土しており、密接な関連が推測される。底部外面にその産地を示す「参河」とヘラ書きされた灰釉陶器も出土している。

馬越Ⅳ期では、「中家」墨書土器が注目される。「家」は官衙関連遺跡や荘園などで、「東・西・南・北」の方位文字が記され、ある特定の建物を指す文字と考えられている。新潟県内では、これまで、施設名を記載したと見られる方位+「家」墨書土器としては、「東家」が上越市下新町遺跡、「西家」が新潟市小丸山遺跡、五泉市中田遺跡、「南家」・「北家」が長岡市八幡林遺跡で出土している〔相沢2004・新潟墨書土器検討会2005〕。「中家」は新潟県では初例となる。北陸地方では石川県寺家遺跡、戸水大西遺跡などから出土している〔出越1998〕。出越氏は石川県金沢市上荒屋遺跡の「東中家」、「東庄」墨書土器の検討から、「上荒屋遺跡から「庄」は一定の建物・土地を含んだ施設墨書であり、「中家」はそれに含まれる中心的な建物を指すと考えられる。〕〔出越2006〕としている。馬越Ⅱ・Ⅲ期の「妙越庄」と関わり、本遺跡の「中家」も中心的な建物を指す可能性が高いものと考えられる。出土地点から1番近い建物跡はSB11であるが、墨書土器の時期より古く、規模も小さい。調査区域外に存在する可能性もあるが、時期が同じで規模も大きなSB4(4間×2間、47.7m²)が候補のひとつとなる。「中家」墨書土器出土地点から約80mの距離があるが、建物西側に近接した土坑から「家」墨書土器が出土していることは注目される。

馬越Ⅴ期では、ほとんど墨書土器が見られなくなる。「丈部□家」、「丈部」と氏族名が記された木簡2点が注目される。また、権衡関連と見られる石製品や石製の丸鞆などが出土しており、有力者の存在を推測させる。

このように、時期別に墨書土器を見ると、「三宅」→「妙越庄」→「中家」と遺跡の性格を推測させる文字が連綿と出土している。石川県内の墨書土器の集成された成果によれば、横江庄遺跡、上荒屋遺跡、吉崎・次場遺跡と「家」と「宅」墨書が共伴する点で共通する〔中森・布尾・宮川・春田1998〕。しかし、「三宅」、「庄」墨書が盛行する時期はほぼ同じながら、「家」墨書は石川県では馬越Ⅰ～Ⅱ期頃に多く、馬越遺跡よりも早い時期のものが主体となる点は異なる。

それにしても、石川県の荘園・官衙複合遺跡と類似した墨書土器の構成が見られることは、馬越遺跡が越後国蒲原郡を代表する荘園関連遺跡としての資質を埋蔵しているという評価・位置付けも許されるであろう。今後は共通の墨書土器を有する馬越Ⅱ期の鬼倉遺跡、馬越Ⅰ期の大型掘立柱建物跡が確認されている中沢遺跡、ガラス玉や炭化米などが出土した太田遺跡などの調査成果を検討し、馬越遺跡を核とした古代青海郷域の地域社会の動態を把握する必要がある。

| | 墨書・ヘラ書き土器 | 帯金具・分銅 | 木簡 |
|-------------------|-----------|--------|----|
| 馬越Ⅰ期 (Ⅳ期) | | | |
| 馬越Ⅱ・Ⅲ期 (Ⅳ～Ⅵ1期) | | | |
| 馬越Ⅳ期 (Ⅵ2・3期) | | | |
| 馬越Ⅴ期 (Ⅶ1期) | | | |

第45図 時期毎の主要墨書・ヘラ書き土器と帯金具・分銅・木簡

要 約

- 1 馬越遺跡は新潟県加茂市大字下条字馬越甲 1763 ほかに所在する。
- 2 馬越遺跡は東山丘陵から約 2km 程離れた下条川左岸、標高約 6m の沖積低地に立地する。遺跡推定範囲は約 18 万 m² である。
- 3 馬越遺跡は平成 7 年の分布調査により発見され、これまでに国道 403 号線道路改良工事、交通連携事業に係わり、14,617m² の本調査が平成 10 年、平成 11 年、平成 18 年に行われている。今回の調査は県営吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係わり、A～K 区の 11 調査区にまたがり、合計調査面積 3,615m² を対象に平成 17 年 9 月 29 日～11 月 14 日と平成 18 年 8 月 7 日～11 月 17 日に実施した緊急発掘調査である。
- 4 遺跡の現況は水田で、ところにより現地表面下約 30cm 程で中世の遺構・遺物が検出される。また、現地表面下約 1m 程で古墳時代中期～奈良・平安時代の遺構・遺物が検出された。
- 5 調査の結果、A 区の河川跡から古墳時代中期の土器が一括して出土した。C 区、E 区では 2 枚の生活面が確認され、上層面から鎌倉時代の集落跡が検出された。また、各区からは河川沿いに営まれた奈良・平安時代の大規模な集落跡の一部が検出された。土器の年代観から 8 世紀中頃～10 世紀前半頃までの約 200 年間営まれたと考えられる。
- 6 検出された遺構は、全体で掘立柱建物跡 1 棟、井戸 11 基、土坑 183 基、不明遺構 1 基、溝 410 条、ピット 516 基、河川・自然流路 13 条である。
- 7 井戸は古代が 3 基、中世が 8 基検出された。古代の井戸からは木簡や齋串など、中世の井戸からは漆器や箸状などの多彩な木製品が出土しており、埋井の祭祀が推測される。
- 8 古墳時代中期の土器は、一括性が高く、加茂市周辺では希薄な時期の資料であり、貴重である。
- 9 古代の文字資料として、木簡 1 点、墨書土器 19 点、ヘラ書き土器 4 点が出土した。墨書では荘園の中心的施設との関連を示唆する「中家」が注目される。
- 10 中国製陶磁器又は佐波理写しの漆器や銚帯金具など、官衙の様相を示す稀少な遺物が出土している。
- 11 馬越遺跡は古墳時代中期頃には集落が営まれ、奈良時代の 8 世紀中頃以降に荘園・官衙関連遺跡として開発が進み、10 世紀前半頃までは古代蒲原郡青海郷における地域経営の拠点的な遺跡であった可能性が高い。その後、やや空白期をはさみ、鎌倉時代に再び開発立村される。

引用・参考文献

- ア 相沢 央 2004 「新潟県内出土墨書土器の基礎的考察」『第9回新潟墨書土器検討会資料』新潟墨書土器検討会
- 甘粕 健・荒木勇次^{ほか} 1989 『保内三王山古墳群 測量・発掘調査報告書』三条市教育委員会
- 荒川隆史^{ほか} 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史^{ほか} 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第153集 一般国道49号安田バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 大坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 安藤正美 2005 『見附市埋蔵文化財調査報告第20 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 上田遺跡』見附市教育委員会
- イ 飯坂盛泰^{ほか} 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- (社)石川県埋蔵文化財保存協会 1997 『石川県出土文字資料集成』
- 伊藤秀和 1996 「加茂市石川遺跡出土の線刻付き土師器について」『越佐補遺些』創刊号 越佐補遺些の会
- 伊藤秀和 1997 『加茂市文化財調査報告(7)平成8年度加茂市内遺跡確認調査報告書—丸瀧遺跡 鬼倉遺跡 馬越遺跡 蚊口太遺跡 寺屋敷跡 馬寄遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 1998 『加茂市文化財調査報告(8)平成9年度加茂市内遺跡確認調査報告書—丸瀧遺跡 新通遺跡 馬越遺跡 上條館跡 中沢遺跡 石川遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 1999 『加茂市文化財調査報告(9)平成10年度加茂市内遺跡確認調査報告書—たて屋敷遺跡 蚊口太遺跡 草生津遺跡 伝涌泉寺跡遺跡 大塚遺跡 馬越遺跡 鬼倉遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2000a 「加茂川下流右岸域における奈良・平安時代の遺跡について—表探遺物の紹介から—」『加茂郷土誌』第22号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2000b 『加茂市文化財調査報告(11)平成11年度加茂市内遺跡確認調査報告書—たて屋敷遺跡 古見道遺跡 中沢遺跡 岩野原A遺跡 馬寄遺跡周辺地 山伏塚遺跡 舞台遺跡 横土居遺跡 稲荷浦遺跡 西吉津川遺跡 天神林地内—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2001a 『加茂市文化財調査報告(12)平成12年度加茂市内遺跡確認調査報告書—新田川遺跡周辺地 山通遺跡 中谷内遺跡周辺地 安曲遺跡周辺地 吉津川遺跡周辺地 新堀遺跡 馬越遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2001b 『加茂市文化財調査報告(13)鬼倉遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2001c 「加茂市下条中沢遺跡発掘調査速報」『加茂郷土誌』第23号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2001d 「加茂市青海神社遺跡出土の柱状高台皿について」『越佐補遺些』第5号 越佐補遺些の会
- 伊藤秀和 2002 「鬼倉遺跡について(一)—沖積地に出現した古代の村—」『加茂郷土誌』第24号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2003 「加茂市における古墳時代の遺跡について宮ノ浦古墳・福島古墳群の歴史的環境を考える—」『加茂郷土誌』第25号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2005a 『加茂市文化財調査報告(14)馬越遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005b 『加茂市文化財調査報告(15)平成15年度加茂市内遺跡確認調査報告書—西吉津川遺跡 馬越遺跡 太田遺跡 寺下遺跡 城下遺跡 伝下屋敷館跡 割沢遺跡 中沢遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2008a 「荒又遺跡・太田遺跡発掘調査速報」『加茂郷土誌』第30号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2008b 『加茂市文化財調査報告(17)平成17年度 平成18年度 加茂市内遺跡確認調査報告書—丸瀧遺跡 五反田地区 中沢遺跡 草生津遺跡—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2009 『加茂市文化財調査報告(18)馬越遺跡Ⅱ—一般国道403号交通連携事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和・平岡和夫^{ほか} 2000 『加茂市文化財調査報告(10)丸瀧遺跡・新通遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』加茂市教育委員会・山武考古学研究所
- 伊藤秀和・立木宏明^{ほか} 2006 『加茂市文化財調査報告(16)平成16年度加茂市内遺跡確認調査報告書—馬越遺跡 山王原遺跡—』加茂市教育委員会
- ウ 宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』桂書房
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- 宇野隆夫 2001 『荘園の考古学』シリーズ 日本史のなかの考古学 青木書店
- エ 江口友子^{ほか} 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集 北陸自動車道黒埼パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 釈迦堂遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- オ 岡安光彦・大谷祐司^{ほか} 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第143集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅷ 六斗蒔遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子^{ほか} 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第149集 上信越自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅥ 滝寺古窯跡群 大貫古窯跡群』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 小山正忠・竹原秀雄 1997 『新版標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局監修
- カ 春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1994 「第VI章まとめ 3. 古墳時代前期の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1995 「古代集落の展開—越後を事例として—」『研究紀要』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999 「第4章—第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2000 「第5章まとめ」『吉田町史』資料編1 考古・古代・中世 吉田町
- 春日真実 2001 「第VI章まとめ 2. 和島・出雲崎地域における7世紀末から10世紀の土器の変遷」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003a 「新潟県における古墳時代中・後期の土器様相—川村浩司氏の編年案の検討と資料の集を中心に—」『第169回新潟県考古学談話会発表資料』
- 春日真実 2003b 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第123集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003c 「消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向—越後出土の資料を中心に—」『研究紀要』第4号 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に—」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日真実 2006 「新潟市釈迦堂遺跡出土土器について—越後における平安時代土器編年に関する予察—」『吉岡康暢先生古希記念論集 陶磁器の社会史』桂書房
- 春日真実 2007 「越越における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 春日真実 2008 「越越における古墳時代～中世の柱材について」『新潟考古』第19号 新潟県考古学会
- 春日真実ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第202集 一般国道8号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 六反田南遺跡 前波南遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学ほか 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第128集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅱ 仲田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鐘方正樹 2003 『ものが語る歴史シリーズ⑧ 井戸の考古学』同成社
- 金子拓男 1983 「蒲原郡の古代」『三条市史』上巻 三条市
- 金子正典 1998 『三条市文化財調査報告書第9号 来迎寺遺跡Ⅱ 農道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』三条市教育委員会
- 金子正典・田村浩司 1997 『三条市文化財調査報告書第8号 来迎寺遺跡 布施谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』三条市教育委員会
- 金子正典・田村浩司ほか 2000 『遺跡発掘調査速報展 発掘された三条の遺跡』三条市歴史民俗産業資料館
- 加茂市 2009 『加茂市のすがた 平成20年版』
- 川上貞雄 1995 『新津市文化財調査報告 舟戸遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川村浩司 2000 「上越市の古墳時代の土器様相—関川右岸を中心に—」『上越市史研究』第5号 上越市
- 川村 尚ほか 2005 『小泊窯跡群Ⅰ』佐渡市教育委員会
- 栢森秀之 1997 『田上町文化財調査報告書第9集 向田遺跡 県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』田上町教育委員会
- キ 北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『須恵器貯蔵具を考えるⅠ つぼとかめ 北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 鬼頭清明 1985 『古代の村』古代日本を発掘する6 岩波書店
- 木村宗文 1986 「越後国延喜式内社の所存をめぐって」『政治社会史論叢』近藤出版社
- 木村宗文 1988 「古代蒲原郡の郷と式内社」『研究年報』No.35 新潟県立新潟中央高等学校
- 木村宗文 1991 「日本史教材としての八幡林遺跡出土木簡と高志君大虫の居住地に関して」『研究年報』No.38 新潟県立新潟中央高等学校
- ク 桑原正史 1985 「蒲原郡人三宅連笠雄麻呂の困窮者救済と北陸地方におけるミヤケ史料の分布」『巻町史研究』第1号 巻町
- 桑原正史 2005 「第1章 青海郷から青海荘へ」『加茂市史』資料編1 古代・中世 加茂市
- コ 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地地区画整理事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間桂吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 駒見和夫 1992 「井戸をめぐる祭祀—地域的事例の検討から—」『考古学雑誌』第77巻 第4号 日本考古学会
- 小西昌志 2003 「北陸荘園と墨書土器—横江庄の調査成果から—」『古代官衙・集落と墨書土器—墨書土器

- の機能と性格をめぐる一』 独立行政法人 奈良文化財研究所
- 小西昌志・出越茂和^{ほか} 1993 『金沢市文化財紀要 106 東大寺領横江荘推定地 上荒屋遺跡(二) 奈良・平安時代(1)』 金沢市教育委員会
- サ 坂井秀弥 1984 「第VI章考察 1 今池遺跡群における奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥 1989a 「第VII章まとめ 1 古墳時代の土器と遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1989b 「第VII章まとめ 2 奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1993 「古代越後の環境・生産力・特性」『新潟考古学談話会会報』第12号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1994 「加茂市青海神社遺跡の土器」『新潟考古学談話会会報』第14号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衙遺跡—越後平野の内水面・舟運・漁業—」『越と古代の北陸 古代王権と交流3』 名著出版
- 坂井秀弥 1999 「第4章—第1節 総論」『新潟県の考古学』 高志書院
- 坂井秀弥^{ほか} 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥^{ほか} 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤正史 1998 「Ⅷ. 付編 高田平野における平安時代前半期の食膳具について」『保坂遺跡発掘調査報告書』 上越市教育委員会
- 笹澤正史 2002 「3. 上越地方最大の須恵器窯跡群—末野・日向窯跡群—」『三和村史 自然・考古編』 三和村
- 笹澤正史 2003 「29 滝寺・大貫古窯跡群」『上越市史 資料編2 考古』 上越市
- 三条市教育委員会 2003 『藤ノ木遺跡発掘調査現地説明会資料』
- 三条市歴史民俗産業資料館 2004 『遺跡発掘調査速報展 2004』
- 三条市歴史民俗産業資料館 2005 『遺跡発掘調査速報展 2005』
- 三条市歴史民俗産業資料館 2007 『遺跡発掘調査速報展 2007—大地に刻まれた三条の歴史—』
- シ 品田高志 1992 「越後における古墳時代土器の変遷Ⅱ—前期土器編年の現状と編年試案—」『柏崎市立博物館報』No.6 柏崎市立博物館
- ス 鈴木郁夫 1984 「I 地形分類図」『新潟県中越地域土地分類基本調査 加茂』 新潟県
- 鈴木俊成・春日真実^{ほか} 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 正平 1986 「福島の小古墳群について」『加茂郷土誌』第11号 加茂郷土調査研究会
- 夕 高橋 保^{ほか} 1993 『和島村埋蔵文化財調査報告書第2集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会
- 高橋保雄^{ほか} 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第182集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅵ 岩ノ原遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋明人 1986 「Ⅳ 考察—漆町遺跡出土土器の編年の考察—」『漆町遺跡』Ⅰ 石川県立埋蔵文化財センター
- 田中恵津子^{ほか} 2006 『三条市文化財調査報告書第15号 西吉津川遺跡・白山B遺跡・府敬遺跡—県営ほ場整備事業吉津川地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 三条市教育委員会
- 田中広明 2003 『地方の豪族と古代の官人—考古学が解く古代社会の権力構造—』 KASHIWA 学術ライブラリー 01 柏書房
- 田中 靖 2003 『和島村埋蔵文化財調査報告書第14集 下ノ西遺跡Ⅳ—県営圃場整備事業(桐島桐原地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』 和島村教育委員会
- 田中 靖 2005 『和島村埋蔵文化財調査報告書第16集 八幡林遺跡Ⅳ—一般国道116号和島バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』 和島村教育委員会
- 田中 靖・桑原陽一 1992 『和島村埋蔵文化財調査報告書第1集 遺跡発掘事前総合調査に係る埋蔵文化財調査報告書 八幡林遺跡』 和島村教育委員会
- 田中 靖・桑原陽一^{ほか} 1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 八幡林遺跡』 和島村教育委員会
- 田畑 弘 1994 『田上町埋蔵文化財調査報告書第4集 大正川筋小規模河川改修事業及び道路新設事業埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 道下・白地遺跡』 田上町教育委員会
- 田畑 弘 1997 『田上町文化財調査報告書第10集 新潟県営高生産性大区画事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 大坪遺跡』 田上町教育委員会
- 田村 裕 1993 「第三章 荘・保と武士の世」『新津市史 通史編・上巻』 新津市

- 田村浩司 2004 「三条市古津川遺跡・藤ノ木遺跡の調査概要」『新潟県考古学会第16回大会研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- ツ 立木宏明^{ほか} 1999 『新津市埋蔵文化財発掘調査報告書 中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
立木宏明^{ほか} 2003 『新津市埋蔵文化財発掘調査報告書 結七島遺跡発掘調査報告書Ⅰ』新津市教育委員会
立木宏明^{ほか} 2008 『新津市埋蔵文化財発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査—県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8時発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 立木（土橋）由理子^{ほか} 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第91集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鶴巻康志・若林知美^{ほか} 2003 『新発田市埋蔵文化財調査報告第27 桑ノ口遺跡 県営ほ場整備事業（新発田北部地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- テ 寺崎裕助・佐藤優一^{ほか} 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第135集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ 反貫目遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 出越茂和 1993 「第7章考察 第2節北陸初期荘園の考古学的分析」『金沢市文化財紀要106 東大寺領横江荘推定地上荒屋遺跡（二）奈良・平安時代（1）』金沢市教育委員会
- 出越茂和 1998 「古代墨書土器の諸問題」『古代北陸と出土文字資料』（社）石川県埋蔵文化財保存協会
- 出越茂和 2006 「古代における方位墨書土器—北陸を中心に—」『吉岡康暢先生古希記念論集 陶磁器の社会史』桂書房
- ナ 永井久美男^編 1994 『中世の出土銭—出土銭の調査と分類—』兵庫埋蔵銭調査会
長澤展生^{ほか} 2004 『五泉市文化財報告（13）能代川関係発掘調査報告書Ⅵ 中田遺跡』五泉市教育委員会・株式会社社みくに考古学研究所
- 中島栄一 1981a 「7 石川遺跡」『三条市史 資料編第1巻 考古・文化』三条市
中島栄一 1981b 「Ⅳ その他の主要遺跡」『三条市史 資料編第1巻 考古・文化』三条市
- 中島栄一・駒形敏朗・八百枝茂 1973 『加茂市文化財調査報告（1）千刈遺跡調査略報』加茂市教育委員会
中森茂明・布尾幸恵・宮川彩子・春田幸恵 1998 「石川県出土墨書土器の基礎的検討」『古代北陸と出土文字資料』（社）石川県埋蔵文化財保存協会
- 長沼吉嗣 2008 「第Ⅶ章5 木製祭祀具について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅵ 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 奈良国立文化財研究所 1985 『奈良国立文化財研究所史料第27冊 木器集成図録 近畿古代編』奈良国立文化財研究所
- ニ 新潟古代土器研究会 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』
新潟墨書土器検討会 2005 『第10回 新潟墨書土器検討会資料』
- ヒ 平川 南 2000 『墨書土器の研究』吉川弘文館
廣野耕造 1994 『三十刈・堂の下遺跡—県営ほ場整備事業（神林地第4地区）に伴う発掘調査報告書—』村上市教育委員会
- フ 布施智也・平岡和夫 2000 『吉田町文化財調査報告書第7集 江添E遺跡—吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- ホ 星野信明^{ほか} 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第80集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ（B地区）』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細野高伯^{ほか} 2002 『新津市埋蔵文化財発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- ミ 水澤幸一 2005 「渦街道の遺跡群」『環日本海歴史民俗学叢書12 古代の越後と佐渡』高志書院
水澤幸一 2008 「越後国の律令祭祀—木製祭祀具を中心にして—」『石川県埋蔵文化財情報』第19号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 水澤幸一^{ほか} 2001 『中条町埋蔵文化財調査報告第22集 船戸桜田遺跡2次—主要地方道中条紫雲寺線改築工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ—』中条町教育委員会
- 水澤幸一^{ほか} 2002 『中条町埋蔵文化財調査報告第24集 船戸川崎遺跡4次—主要地方道中条紫雲寺線改築工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ—』中条町教育委員会
- 水澤幸一^{ほか} 2003 『中条町埋蔵文化財調査報告第25集 船戸桜田遺跡4・5次 船戸川崎遺跡6次—県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅳ—』中条町教育委員会
- 水澤幸一・吉村光彦 2004 『中条町埋蔵文化財調査報告第31集 屋敷遺跡2次—県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅷ—』中条町教育委員会
- モ 望月精司 1998 「古代の硯と墨書土器—石川県内の消費地資料における硯と墨書土器の出土傾向—」『古代北陸と出土文字資料』（社）石川県埋蔵文化財保存協会
- ヤ 山崎忠良^{ほか} 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅵ 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヨ 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
吉岡康暢^{ほか} 1983 『東大寺領横江庄遺跡』石川県松任市教育委員会・石川考古学研究会
吉岡康暢^{ほか} 1996 『東大寺領横江庄遺跡Ⅱ』石川県松任市教育委員会
- 四柳嘉章 2006 『ものとの人間の文化史131-1 漆Ⅰ』法政大学出版局
- ワ 渡邊美穂子・田中耕作 2001 『新発田市埋蔵文化財調査報告第23-2 坂ノ沢C遺跡Ⅱ（平安時代編）県営広域営農団地農道整備事業（北蒲原東部地区）関係発掘調査報告書』新発田市教育委員会
渡邊忠雄 2006 「三条市水戸川遺跡採集の器台」『越佐補遺些』第11号 越佐補遺些の会

別表 1 遺構観察表

| A 区 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|------|-----|----------|---|---------|---------------|-----------|---------------|---------|-----|-----|------|---------|---|--|----|
| 報告 遺構名 | 現場 遺構名 | 種別 | 図版 | 写真 図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD1 | | 溝 | 2・3 | 3 | A3-5・10、 B3-1 | (186) | (28～ 44) | 10 | 5.18 | N-43°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器長頸瓶・土師 器無台碗・長甕 | |
| SD2 | | 溝 | 2・3 | 3 | A3-10・15、 B3-6・11 | (164) | (90～ 126) | 49 | 4.80～ 5.07 | N-56°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | 古式土師器高杯・甕、 須恵器無台碗・甕 | |
| SD3 | | 溝 | 2・3 | 3 | B7-5・10・ 14・15・19・ 20 | (274) | (116～ 132) | 11 | 4.97～ 5.06 | N-22°-W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD4 | | 溝 | 2 | | B7-25、B8- 5、C7-21 | (206) | (22～ 32) | 9 | 5.10 | N-36°-W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD5 | | 溝 | 2・3 | 3 | B8-10、C8-6・ 11 | (172) | (20～ 28) | 8 | 5.11 | N-66°-E | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD6 | | 溝 | 2・3 | 3 | B5-13・17・ 18・23 | (154) | (158) | 9 | 4.89 | N-53°-W | | 弧状 | 単層 | | | 古式土師器甕 | |
| SP1 | | ピット | 2 | | B7-9 | (18) | (10) | 8 | 5.07 | | | | 単層 | | | 古式土師器甕 | |
| SP2 | | ピット | 2 | | B7-9・10 | 22 | 17 | 6 | 5.08 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP3 | | ピット | 2 | | B7-4 | 22 | 18 | 15 | 4.98 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP4 | | ピット | 2 | | B7-4 | 26 | 16 | 6 | 5.00 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP5 | | ピット | 2 | | B7-4・5 | 20 | 14 | 13 | 5.01 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP6 | | ピット | 2 | | B7-4 | 23 | 18 | 8 | 5.05 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP7 | | ピット | 2 | | B7-9 | 17 | 16 | 8 | 5.04 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP8 | | ピット | 2 | | B7-9 | 26 | 20 | 7 | 5.01 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP9 | | ピット | 2 | | B7-25 | 17 | 16 | 3 | 5.17 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP10 | | ピット | 2 | | B4-22 | 22 | 16 | 10 | 4.76 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP11 | | ピット | 2 | | B5-2 | (18) | (12) | 8 | 4.81 | | | | | | | | |
| SP12 | | ピット | 2 | | B5-2 | 28 | 22 | 8 | 4.84 | | 楕円形 | | | | | | |
| 河川 1 | SX1 | 自然流路 | 2・4 | 3・4 | B3-21・22、 B4-1・2・6・7・ 11・12・16・ 17 | (166) | (184) | 28 | 4.65～ 4.80 | N-56°-W | | 弧状 | 斜位 | | | 古式土師器高杯・壺・ 甕・小型甕・有孔鉢、 木製品(板状・棒状) | |
| 河川 2 | SX2 | | | | | (124) | (474) | 30～ 42 | 4.34～ 4.60 | N-68°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| 河川 3 | SX3 | 自然流路 | 2・3 | 4 | B5-23・ 24、B6-3・4・8・ 9・13・14・ 18・19 | (168) | (556) | 10～ 18 | 4.81～ 4.87 | N-53°-W | | 弧状 | 単層 | | | | |

| B 区 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|----|-----|----------|------------------------------------|---------|---------------|----|---------------|---------|-------|-----|------|---------|---|--|----|
| 報告 遺構名 | 現場 遺構名 | 種別 | 図版 | 写真 図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SK1 | | 土坑 | 5 | | E3-7・8 | (137) | (18) | 23 | 5.20 | | | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器長頸瓶 | |
| SK2 | | 土坑 | 5 | | G2-20・ 25、H2-16・21 | (211) | (70) | 12 | 5.06 | N-79°-W | (不整形) | | | | | 須恵器無台碗・土師器 無台碗・長甕・小甕 | |
| SK3 | | 土坑 | 5 | | E3-5 | (55) | (28) | 15 | 5.14 | N-75°-E | (方形) | 弧状 | 水平 | | | 須恵器甕・土師器無 台碗・小甕 | |
| SK4 | | 土坑 | 5 | | D3-14・15 | (55) | (24) | 7 | 4.93 | | (円形) | 弧状 | 単層 | | | 須恵器無台碗・土師 器長甕 | |
| SK5 | | 土坑 | 5 | | F3-2 | (48) | (50) | 14 | 5.08 | N-15°-E | (楕円形) | | | | | 土師器無台碗・長甕・ 小甕、黒色土器無台 碗 | |
| SD1 | | 溝 | 5・6 | 6 | G2-22 | (116) | (50～ 65) | 10 | 5.20 | N-3°-E | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD2 | | 溝 | 5・6 | 6 | G2-21・22 | (114) | (110～ 130) | 16 | 5.10 | N-11°-E | | 台形状 | 単層 | | | 須恵器無台碗・甕、 土師器無台碗・長甕・ 小甕・鉢、黒色土器 無台碗 | |
| SD3 | | 溝 | 5・6 | 6 | J2-7・8 | (113) | (93～ 100) | 19 | 5.00 | N-9°-E | | 台形状 | 単層 | | | 須恵器有台杯・無台 杯・甕、土師器無台 碗・長甕、黒色土器 無台碗 | |
| SD4 | | 溝 | 5・6 | 6 | J2-3・4・8・9 | (113) | (126～ 135) | 14 | 4.72 | N-2°-W | | 台形状 | 単層 | | | 緑釉陶器無台碗、須 恵器無台杯・小型瓶、 土師器無台杯・無台 碗・長甕・小甕・鉢、 黒色土器有台碗・無 台碗、石製品(砥石)、 木製品(板状)、獸 骨(ウマ) | |
| SD5 | | 溝 | 5 | 6 | J2-4・5・9・ 10 | (114) | (98～ 124) | 25 | 4.66 | N-22°-E | | 台形状 | 単層 | | | 須恵器無台杯・甕、 土師器無台碗・長甕・ 小甕、黒色土器無台 碗 | |
| SD6 | | 溝 | 5 | | H2-13・14・ 18・19 | (100) | (120～ 136) | 26 | 4.80 | N-14°-E | | | 単層 | | | 須恵器無台杯、土師 器無台碗・長甕・小 甕、木製品(棒状) | |
| SD7 | | 溝 | 5 | | G2-23・24 | (211) | (20～ 46) | 13 | 5.12 | N-88°-W | | | 単層 | | | 須恵器無台杯、土師 器小甕、黒色土器無 台碗 | |
| SD8 | | 溝 | 5 | | G2-18・23・ 24 | (66) | (23) | 6 | 5.14 | N-15°-E | | | 単層 | | | 土師器小甕 | |
| SD9 | | 溝 | 5 | | F2-23・24・ 25、F3-2・3・ 4、G2-21 | (788) | (25) | 17 | 5.09～ 5.15 | N-77°-W | | | 単層 | | | 須恵器甕、土師器無 台碗・長甕・小甕、 黒色土器無台碗 | |
| SD10 | | 溝 | 5 | | F2-25、F3-4・ 5、G3-1 | (270) | (18～ 32) | 9 | 5.10～ 5.14 | N-84°-W | | | 単層 | | | 土師器無台碗・長甕、 黒色土器無台碗 | |
| SD11 | | 溝 | 5 | | F3-3 | (96) | (18) | | | N-7°-E | | | 単層 | | | 須恵器無台杯、土師 器無台碗・小甕 | |
| SD12 | | 溝 | 5・6 | 6 | E3-4・5・9・ 10 | (198) | (70～ 100) | 17 | 4.95～ 5.21 | N-65°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・甕、 土師器無台碗・長甕・ 小甕、黒色土器無台 碗、木製品(櫛・板状) | |
| SD13 | | 溝 | 5 | | G2-20、H2-16・ 17 | (485) | (26～ 70) | 8 | 5.10 | N-87°-W | | | | | | 須恵器有台杯、土師 器長甕 | |
| SD14 | | 溝 | 5 | | F2-25 G2-21 G3-1 | (260) | (20～ 40) | 16 | 5.11 | N-89°-W | | | 単層 | | | 須恵器無台杯、土師 器無台碗・長甕・小 甕、黒色土器無台碗 | |

| 報告遺構名 | 現場遺構名 | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------|------|-----|------|--|---------|---------|----|-----------|---------|------|-----|----|---------|----|---|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD15 | | 溝 | 5 | | E3-5,F3-1・2 | (253) | (19~28) | 12 | 5.10~5.20 | N-85°-W | | | 単層 | | | 土師器長甕 | |
| SD16 | | 溝 | 5 | | F3-1・6 | (116) | (15) | 6 | 5.18 | N-7°-E | | | 単層 | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD17 | | 溝 | 5 | | D3-10・15, E3-6・11 | (146) | (32) | 14 | 4.89 | N-87°-E | | | 単層 | | | 土師器無台碗 | |
| SD18 | | 溝 | 5・7 | 6 | C3-14・15・19・20 | (120) | (226) | 20 | 5.18 | N-4°-E | | 弧状 | 単層 | | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕、中世土師器 | |
| SD19 | | 溝 | 5 | | F3-2 | (51) | (14) | 10 | 5.12 | N-43°-W | | | 単層 | | | 須恵器無台杯 | |
| SD20 | | 溝 | 5 | | G2-22 | (84) | (53) | 8 | 5.16 | N-81°-W | | | 単層 | | | 須恵器無台杯、土師器長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗 | |
| SD21 | | 溝 | 5 | | C3-15・20,D3-11・16 | (105) | (29~44) | 12 | 5.15 | N-9°-E | | | 単層 | | | | |
| SD22 | | 溝 | 5 | | J2-7 | (113) | (32) | 19 | 4.89 | N-2°-W | | 半円状 | 単層 | | | | |
| SD23 | | 溝 | 5 | | E3-7・8 | (98) | (136) | 8 | 5.10 | N-21°-E | | | 単層 | | | | |
| SD24 | | 溝 | 5 | | F3-2・3 | 226 | 15~20 | 7 | 5.19 | N-83°-W | | | 単層 | | | | |
| SD25 | | 溝 | 5 | | F3-4・5 | (50) | (60) | 13 | 5.08 | N-9°-E | | | 単層 | | | | |
| SD26 | | 溝 | 5 | | G2-24・25,H2-16・17・18 | (708) | (14~26) | 15 | 5.03 | N-79°-W | | | 単層 | | | | |
| SD27 | | 溝 | 5 | | H2-17・18 | (288) | (18~30) | 12 | 5.04 | N-82°-W | | | 単層 | | | | |
| SD28 | | 溝 | 5 | | H2-18 | (25) | (66) | 9 | 5.00 | N-13°-E | | | 単層 | | | | |
| SP1 | | ピット | 5 | | G2-22 | 38 | 33 | 12 | 5.12 | | 円形 | | 単層 | | | 土師器小甕 | |
| SP2 | | ピット | 5 | | G2-21 | (37) | (28) | 22 | 5.05 | | (円形) | | 単層 | | | 土師器小甕 | |
| SP3 | | ピット | 5 | | G2-23 | (17) | (22) | 9 | 5.14 | | | | 単層 | | | 土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SP4 | | ピット | 5・7 | 7 | F3-3 | (25) | (24) | 20 | 4.97 | | 楕円形 | U字状 | 柱根 | 24 | 12 | 柱根(クリ)、礎板(クリ) | |
| SP5 | | ピット | 5 | | D3-10・15 | 50 | 44 | 18 | 4.82 | | 円形 | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SP6 | | ピット | 5 | 7 | D3-13・14 | 30 | 30 | 47 | 4.59 | | 方形 | U字状 | | 30 | 10 | 柱根(ヤナギ属) | |
| SP7 | | ピット | 5 | | D3-12 | 42 | 32 | 33 | 4.90 | | 長方形 | | | | | 土師器無台碗、黒色土器無台碗 | |
| SP8 | | ピット | 5 | | D3-11・16 | 40 | 23 | 43 | 4.84 | | 長方形 | | | | | | |
| SP9 | | ピット | 5 | | D3-11 | 27 | 22 | 11 | 5.16 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP10 | | ピット | 5 | | D3-11 | 27 | 22 | 33 | 4.90 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP11 | | ピット | 5 | | D3-12 | 35 | 22 | 21 | 4.99 | | 長方形 | | | | | | |
| SP12 | | ピット | 5 | | D3-10 | 21 | 16 | 11 | 4.87 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP13 | | ピット | 5 | | E3-5 | (33) | (26) | 6 | 5.22 | | | | | | | | |
| SP14 | | ピット | 5 | | E3-5・10 | (47) | (20) | 22 | 5.06 | | | | | | | | |
| SP15 | | ピット | 5 | | E3-5 | (38) | (10) | | | | | | | | | | |
| SP16 | | ピット | 5 | | E3-10,F3-1・6 | (35) | (19) | 8 | 5.20 | | (方形) | | | | | | |
| SP17 | | ピット | 5 | | F3-2 | 34 | 30 | 14 | 5.08 | | 円形 | | | | | | |
| SP18 | | ピット | 5 | | F3-3 | 23 | 18 | 5 | 5.18 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP19 | | ピット | 5 | | F2-25 | 32 | 22 | | | | 楕円形 | | | | | | |
| SP20 | | ピット | 5 | | G2-24 | 14 | 12 | 12 | 5.06 | | 方形 | | | | | | |
| SP21 | | ピット | 5 | | G2-19 | 19 | 18 | 21 | 4.97 | | 円形 | | | | | | |
| SP22 | | ピット | 5 | | J2-6 | 29 | 28 | 12 | 4.92 | | 円形 | | | | | | |
| SP23 | | ピット | 5 | | J2-7 | (18) | (21) | 8 | 4.96 | | | | | | | | |
| SP24 | | ピット | 5 | | J2-7 | 22 | 14 | 6 | 4.96 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP25 | | ピット | 5 | | G2-24 | (24) | (24) | 4 | 5.15 | | | | | | | | |
| SP26 | | ピット | 5 | | H2-16 | (46) | (20) | 12 | 5.04 | | | | | | | | |
| 河川1 | SG1 | 自然流路 | 5・7 | 7 | H2-14・15・19・20,I2-8・9・10・11・12・13・14・15・16,J2-6・11 | (110) | (1174) | 20 | 4.63~4.76 | N-17°-E | | 弧状 | 単層 | | | 須恵器有台杯・無台杯、長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器有台皿・無台碗、木製品(工具・用途不明)、獣骨(ウマ) | |

C区(2005年)上層面

| 報告遺構名 | 現場遺構名 | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------|----|------|-------|-----------------|---------|-------|-----|-----------|---------|-------|-----|-------|---------|---|----------------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SE1 | SK9 | 井戸 | 8・9 | 10 | B3-23,24 B4-3,4 | (149) | (66) | 97 | 4.58 | N-78°-W | (方形) | 台形状 | ブロック状 | | | 珠洲焼鉢 | |
| SE2 | SK3 | 井戸 | 8・9 | 10 | C3-21 | (97) | (81) | 82 | 4.78 | N-73°-W | 方形 | 箱状 | レンズ状 | | | 珠洲焼甕、木製品(漆器) | |
| SE3 | SK13 | 井戸 | 8・9 | 10・11 | C3-17 | (82) | (82) | 91 | 4.52 | N-20°-E | 方形 | 箱状 | 水平 | | | 中世土師器、木製品(木筒・櫛・下駄・曲物・箸状・付け木状・板状) | |
| SE4 | SK4 | 井戸 | 8・9 | 11 | C3-19 | 72 | 72 | 115 | 4.56 | | 円形 | 箱状 | 水平 | | | 木製品(漆器・曲物・箸状・板状) | |
| SE5 | SK5 | 井戸 | 8・10 | 11・12 | C3-19 | 77 | 74 | 116 | 4.80 | | 円形 | 箱状 | 水平 | | | 須恵器甕、中世土師器、木製品(漆器・曲物・板状・棒状) | |
| SE6 | SK6 | 井戸 | 8・10 | 12 | D3-16,17 | (96) | (74) | 119 | 4.62 | N-17°-W | (楕円形) | 箱状 | | | | 土師器無台碗・長甕、木製品(漆器・板状) | |
| SE7 | SK8 | 井戸 | 8・10 | 12 | E3-7 | (88) | (51) | 105 | 4.59 | N-81°-W | (方形) | 箱状 | ブロック状 | | | 土師器無台碗・長甕、珠洲焼鉢・甕、石製品(砥石) | |
| SK1 | | 土坑 | 8 | | B3-23,24 | (101) | (60) | 10 | 5.48 | N-77°-E | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SK2 | SK2 | 土坑 | 8 | | B3-24,25 | (115) | (80) | 19 | 4.77 | N-23°-E | (楕円形) | 弧状 | レンズ状 | | | 珠洲焼鉢 | |
| SK3 | SK7 | 土坑 | 8・11 | 12 | C3-20 D3-16 | (220) | (103) | 19 | 5.72~5.77 | N-79°-W | (不整形) | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SK4 | SK12 | 土坑 | 8・11 | | D3-9,10 | (94) | (49) | 37 | 5.40 | N-78°-E | (楕円形) | 半円状 | レンズ状 | | | 珠洲焼甕 | |
| SK5 | SK10 | 土坑 | 8 | | D3-12,13 | 116 | 104 | 21 | 5.60 | | 円形 | | 単層 | | | 青白磁合子、石製品(砥石) | |
| SK6 | | 土坑 | 8 | | E3-6 | 74 | 41 | 11 | 5.48 | N-55°-E | 楕円形 | | 単層 | | | | |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名 | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------|----------|------|-------|-------------------|---------|------------|---------|-------------|----------|-------|-----|-------|---------|---|-------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SX1 | | 土坑 (竪穴状) | 8・11 | 12・13 | C3-17,18, 22,23 | (220) | (170) | 15 | 5.58 ~ 5.60 | N-8° -W | (長方形) | 台形状 | 斜位 | | | 須志器有台杯・甕、土師器無台碗・小甕、珠洲焼甕 | |
| SD1 | | 溝 | 8 | 13 | B3-20,25 C3-16,21 | (204) | (36 ~ 50) | 11 | 5.56 ~ 5.60 | N-40° -W | | 台形状 | 単層 | | | | |
| SD2 | SD6 | 溝 | 8・11 | | D3-11,12,13 | 307 | 52 ~ 64 | 12 | 5.70 | N-80° -E | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD3 | SD2 | 溝 | 8・11 | 13 | D3-8,9,13,14, 15 | (268) | (40 ~ 50) | 36 | 5.53 | N-44° -E | | 半円状 | 水平 | | | | |
| SD4 | SD3 | 溝 | 8・11 | 13 | D3-9,14,15 | (282) | (40 ~ 50) | 24 | 5.49 ~ 5.57 | N-50° -E | | 弧状 | レンズ状 | | | 土師器長甕、珠洲焼 搦鉢 | |
| SD5 | | 溝 | 8 | | E3-10 | 141 | 45 | 12 ~ 15 | 5.41 ~ 5.46 | N-88° -E | 長方形 | | 単層 | | | | |
| SD6 | SD4 | 溝 | 8・12 | 13 | F3-1,2,6,7 | (214) | (93 ~ 150) | 25 | 5.35 ~ 5.36 | N-68° -E | | 半円状 | レンズ状 | | | 珠洲焼甕、石製品 (砥石) | |
| SD7 | | 溝 | 8 | | D3-16 | (66) | (38 ~ 48) | 27 | 5.50 | N-10° -E | | | | | | | |
| SP1 | | ビット | 8・12 | | C3-18 | 42 | 38 | 39 | 5.38 | | 円形 | U字状 | ブロック状 | | | | |
| SP2 | | ビット | 8 | | C3-18 | (38) | (32) | 19 | 5.55 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP3 | | ビット | 8・12 | | C3-18 | 37 | 30 | 30 | 5.14 | | 楕円形 | V字状 | 斜位 | | | | |
| SP4 | | ビット | 8 | | C3-14,19 | 26 | 26 | 11 | 5.69 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP5 | | ビット | 8 | | C3-15 | 33 | 32 | 39 | 5.43 | | 円形 | | | | | | |
| SP6 | | ビット | 8 | | D3-11,16 | 22 | 16 | 10 | 5.72 | | 円形 | | | | | | |
| SP7 | | ビット | 8 | | C3-20 D3-16 | 55 | 48 | 19 | 5.40 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP8 | | ビット | 8 | | C3-15,20 | (23) | (10) | 8 | 5.74 | | | | 単層 | | | | |
| SP9 | | ビット | 8 | | C3-15,20 | (53) | (40) | 18 | 5.64 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP10 | | ビット | 8 | | C3-14,15,19 | (40) | (22) | 27 | 5.55 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP11 | | ビット | 8 | | C3-14,15,19, 20 | 30 | 18 | 50 | 5.32 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP12 | | ビット | 8 | | C3-20 | 68 | 50 | 44 | 5.37 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP13 | | ビット | 8 | | B3-19 | 14 | 13 | 8 | 5.54 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP14 | | ビット | 8 | | B3-23 | (38) | (26) | 10 | 5.46 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP15 | | ビット | 8 | | B3-19 | (37) | (17) | 27 | 5.35 | | (円形) | | 単層 | | | | |
| SP16 | | ビット | 8 | | B3-19 | (22) | (12) | 7 | 5.55 | | (円形) | | 単層 | | | | |
| SP17 | | ビット | 8 | | C3-18 | (30) | (22) | 41 | 5.31 | | (楕円形) | U字状 | | | | | |
| SP18 | | ビット | 8 | | C3-20 | 25 | 23 | 64 | 5.19 | | 方形 | | 単層 | | | | |
| SP19 | | ビット | 8・12 | 13 | D3-10 | 35 | 34 | 7 | 5.45 ~ 5.55 | | 円形 | 弧状 | 単層 | | | 古銭 (照寧元寶) | |
| SP20 | | ビット | 8 | | D3-11 | (27) | (22) | 15 | 5.66 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP21 | | ビット | 8 | | D3-10 | 27 | 21 | 23 | 5.35 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP22 | | ビット | 8 | | D3-10 | 30 | 21 | 9 | 5.49 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP23 | | ビット | 8 | | D3-10,15 | 30 | 22 | 22 | 5.35 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP24 | | ビット | 8 | | D3-15 | 39 | 28 | 24 | 5.33 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP25 | | ビット | 8 | | E3-11 | 26 | 18 | 22 | 5.35 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP26 | | ビット | 8 | | E3-6 | 32 | 26 | 33 | 5.25 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP27 | | ビット | 8 | | D3-10 | 26 | 18 | 7 | 5.50 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP28 | | ビット | 8 | | E3-11 | (32) | (28) | 14 | 5.44 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP29 | | ビット | 8 | | E3-11 | (25) | (25) | 10 | 5.48 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP30 | | ビット | 8 | | E3-6,11 | 31 | 24 | 10 | 5.48 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP31 | | ビット | 8 | | E3-6 | 34 | 28 | 34 | 5.24 | | 長方形 | | 単層 | | | | |
| SP32 | | ビット | 8 | | E3-9,10 | 33 | 26 | 45 | 5.13 | | 長方形 | | 単層 | | | | |
| SP33 | | ビット | 8 | | F3-6 | 50 | 38 | 21 | 5.35 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP34 | | ビット | 8 | | E3-5 | 31 | 26 | 27 | 5.31 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP35 | | ビット | 8 | | F3-1 | 23 | 22 | 18 | 5.39 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP36 | | ビット | 8 | | C3-17,22 | 26 | 25 | 46 | 5.24 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP37 | | ビット | 8 | | C3-17 | (22) | (20) | 41 | 5.29 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP38 | | ビット | 8 | | C3-16,17,21 | (38) | (37) | 39 | 5.31 | | | | 単層 | | | | |
| SP39 | | ビット | 8 | | F3-6 | 21 | 19 | 15 | 5.41 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP40 | | ビット | 8 | | E3-5,10 | 22 | 20 | 10 | 5.46 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP41 | | ビット | 8 | | E3-5 F3-1 | 23 | 11 | 12 | 5.46 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP42 | | ビット | 8 | | C3-20 | 26 | 21 | 22 | 5.59 | | 長方形 | | 単層 | | | | |
| SP43 | | ビット | 8 | | C3-14,19 | 28 | 24 | 25 | 5.57 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP44 | | ビット | 8 | | C3-14 | 19 | 16 | 25 | 5.57 | | 方形 | | 単層 | | | | |
| SP45 | | ビット | 8 | | C3-19 | 26 | 24 | 22 | 5.58 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP46 | | ビット | 8 | | C3-18 | 34 | 31 | 20 | 5.51 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP47 | | ビット | 8 | | C3-18,23 | (28) | (28) | 21 | 5.50 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP48 | | ビット | 8 | | C3-13,18 | 26 | 25 | 21 | 5.54 | | 方形 | | 単層 | | | | |
| SP49 | | ビット | 8 | | C3-18 | 26 | 24 | 20 | 5.55 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP50 | | ビット | 8 | | E3-6 | (22) | (14) | 14 | 5.45 | | (方形) | | 単層 | | | | |
| SP51 | | ビット | 8 | | D3-12 | 20 | 20 | 16 | 5.65 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP52 | | ビット | 8 | | E3-6 | 22 | 17 | 10 | 5.49 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP53 | | ビット | 8 | | D3-15 | 18 | 18 | 19 | 5.39 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP54 | | ビット | 8 | | D3-15 | 32 | 26 | 15 | 5.40 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP55 | | ビット | 8 | | C3-23 | (37) | (32) | 36 | 5.36 | | (円形) | | 単層 | | | | |
| SP56 | | ビット | 8 | | D3-8,13 | 26 | 24 | 27 | 5.51 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP57 | | ビット | 8 | | C3-21,22 | 26 | 24 | 26 | 5.42 | | 方形 | | 単層 | | | | |
| SP58 | | ビット | 8 | | C3-21 | 29 | 20 | 21 | 5.45 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |
| SP59 | | ビット | 8 | | C3-21 | (28) | (22) | 14 | 5.52 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP60 | | ビット | 8 | | C3-21 | (24) | (20) | 30 | 5.36 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP61 | | ビット | 8 | | C3-16,21 | 22 | 20 | 10 | 5.57 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP62 | | ビット | 8 | | C3-21 | 24 | 22 | 19 | 5.49 | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP63 | | ビット | 8 | | C3-21 | (30) | (19) | 20 | 5.46 | | | | 単層 | | | | |
| SP64 | | ビット | 8 | | C3-22 | (34) | (12) | 8 | 5.60 | | (楕円形) | | 単層 | | | | |
| SP65 | | ビット | 8 | | C3-22 | 26 | 22 | | | | 円形 | | 単層 | | | | |
| SP66 | | ビット | 8 | | C3-20 | 33 | 20 | 4 | 5.79 | | 楕円形 | | 単層 | | | | |

| 報告遺構名 | 現場遺構名 | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------|-----|----|------|-------------|---------|------|----|----------|-------|-----|-----|----|---------|---------------|------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SP67 | | ビット | 8 | | D3-11 | 14 | 12 | | | 円形 | | 単層 | | | | | |
| SP68 | | ビット | 8 | | D3-11 | 15 | 10 | | | 楕円形 | | 単層 | | | | | |
| SP69 | | ビット | 8 | | D3-11 | 18 | 14 | | | 楕円形 | | 単層 | | | | | |
| SP70 | | ビット | 8 | | D3-11 | 32 | 26 | 36 | 5.47 | 楕円形 | | 単層 | | | | | |
| SP71 | | ビット | 8 | 13 | D3-11 | 24 | 24 | 17 | 5.64 | 円形 | | 単層 | | | 石製品 (磁石) | | |
| SP72 | | ビット | 8 | | D3-11 | 28 | 22 | 8 | 5.73 | 楕円形 | | 単層 | | | | | |
| SP73 | | ビット | 8 | | D3-13 | 30 | 20 | 11 | 5.70 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP74 | | ビット | 8 | | D3-16 | 26 | 18 | 14 | 5.67 | 円形 | | 単層 | | | 須恵器甕 | | |
| SP75 | | ビット | 8 | | D3-16 | 27 | 25 | 39 | 5.42 | 円形 | | 単層 | | | | | |
| SP76 | | ビット | 8 | | D3-14 | (43) | (24) | 30 | 5.48 | (楕円形) | | 単層 | | | | | |
| SP77 | | ビット | 8 | | C3-15 | 20 | 17 | 9 | 5.73 | 円形 | | 単層 | | | | | |
| SP78 | | ビット | 8 | | D3-14 | 34 | 30 | 6 | 5.64 | 円形 | | 単層 | | | | | |
| SP79 | | ビット | 8 | | D3-9,14 | 32 | 28 | 1 | 5.63 | 円形 | | 単層 | | | | | |
| SP80 | | ビット | 8 | | C3-20 | 33 | 24 | | | 楕円形 | | 単層 | | | | | |
| SP81 | | ビット | 8 | | C3-17 | (32) | (26) | 15 | 5.57 | (楕円形) | | 単層 | | | | | |
| SP82 | | ビット | 8 | | E3-6 | (12) | (8) | | | (楕円形) | | 単層 | | | | | |
| SP83 | | ビット | 8 | | E3-6,7 | (34) | (34) | 24 | 5.35 | (楕円形) | | | 17 | 14 | 柱根 (トネリコ属・スギ) | | |
| SP84 | | ビット | 8 | | D3-11,12 | (42) | (34) | 23 | 5.59 | (長方形) | | 単層 | 26 | 8 | 柱根 (ヤナギ属) | | |
| SP85 | | ビット | 8 | | B3-25 | (22) | (12) | | | | | | | | | | |
| SP86 | | ビット | 8 | | C3-21 | (42) | (10) | | | | | | | | | | |
| SP87 | | ビット | 8 | | C3-17,22 | (30) | (6) | | | | | | | | | | |
| SP88 | | ビット | 8 | | C3-18 | 16 | 12 | 6 | 5.55 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP89 | | ビット | 8 | | C3-18 | 14 | 14 | 12 | 5.48 | 円形 | | | | | | | |
| SP90 | | ビット | 8 | | C3-18 | 20 | 14 | 8 | 5.53 | 長方形 | | | | | | | |
| SP91 | | ビット | 8 | | C3-18,23 | 20 | 14 | | | 楕円形 | | | | | | | |
| SP92 | | ビット | 8 | | C3-18 | 28 | 26 | | | 円形 | | | | | | | |
| SP93 | | ビット | 8 | | C3-19 | (22) | (18) | | | (楕円形) | | | | | | | |
| SP94 | | ビット | 8 | | C3-19 | 16 | 14 | 4 | 5.77 | 円形 | | | | | | | |
| SP95 | | ビット | 8 | | C3-19,20 | (46) | (26) | | | (楕円形) | | | | | | | |
| SP96 | | ビット | 8 | | C3-19 | 24 | 24 | 14 | 5.69 | 円形 | | | | | | | |
| SP97 | | ビット | 8 | | C3-19 | 18 | 16 | 13 | 5.68 | 円形 | | | | | | | |
| SP98 | | ビット | 8 | | C3-19 | (20) | (16) | | | (楕円形) | | | | | | | |
| SP99 | | ビット | 8 | | C3-19,20 | 22 | 12 | | | 楕円形 | | | | | | | |
| SP100 | | ビット | 8 | | C3-19,20 | (26) | (12) | 25 | 5.56 | (円形) | | | | | | | |
| SP101 | | ビット | 8 | | C3-15 | 26 | 14 | 4 | 5.78 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP102 | | ビット | 8 | | C3-15 | 14 | 14 | 3 | 5.79 | 円形 | | | | | | | |
| SP103 | | ビット | 8 | | C3-15 | 10 | 10 | 4 | 5.78 | 円形 | | | | | | | |
| SP104 | | ビット | 8 | | C3-15 | (24) | (20) | | | (楕円形) | | | | | | | |
| SP105 | | ビット | 8 | | C3-15 | (38) | (28) | 6 | 5.76 | (楕円形) | | | | | | | |
| SP106 | | ビット | 8 | | C3-15 | 18 | 14 | 15 | 5.67 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP107 | | ビット | 8 | | C3-20 | (16) | (14) | | | (楕円形) | | | | | | | |
| SP108 | | ビット | 8 | | C3-20 | 14 | 12 | 4 | 5.79 | 円形 | | | | | | | |
| SP109 | | ビット | 8 | | C3-20 | 18 | 12 | 11 | 5.72 | 楕円形 | | | | | 珠洲系陶器甕 | | |
| SP110 | | ビット | 8 | | C3-20 | 18 | 14 | 14 | 5.69 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP111 | | ビット | 8 | | C3-20 | 20 | 14 | 10 | 5.73 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP112 | | ビット | 8 | | C3-20 | 16 | 14 | | | 円形 | | | | | | | |
| SP113 | | ビット | 8 | | C3-20 | (20) | (14) | 11 | 5.72 | (円形) | | | | | | | |
| SP114 | | ビット | 8 | | C3-20 | 12 | 12 | | | 円形 | | | | | | | |
| SP115 | | ビット | 8 | | C3-20 | 14 | 12 | 8 | 5.75 | 円形 | | | | | | | |
| SP116 | | ビット | 8 | | C3-15,20 | 14 | 10 | | | 楕円形 | | | | | | | |
| SP117 | | ビット | 8 | | C3-15 | 16 | 14 | 6 | 5.76 | 円形 | | | | | | | |
| SP118 | | ビット | 8 | | C3-15 | 12 | 12 | 4 | 5.78 | 円形 | | | | | | | |
| SP119 | | ビット | 8 | | C3-15 | 18 | 16 | 6 | 5.76 | 円形 | | | | | | | |
| SP120 | | ビット | 8 | | C3-15 D3-11 | 18 | 16 | 9 | 5.73 | 円形 | | | | | | | |
| SP121 | | ビット | 8 | | C3-15 D3-11 | (12) | (10) | | | (楕円形) | | | | | | | |
| SP122 | | ビット | 8 | | C3-15 D3-11 | 12 | 10 | 6 | 5.76 | 円形 | | | | | | | |
| SP123 | | ビット | 8 | | C3-15 | 12 | 10 | 9 | 5.73 | 円形 | | | | | | | |
| SP124 | | ビット | 8 | | D3-11 | 18 | 14 | | | 楕円形 | | | | | | | |
| SP125 | | ビット | 8 | | D3-11 | (42) | (22) | 12 | 5.69 | (楕円形) | | | | | | | |
| SP126 | | ビット | 8 | | D3-11 | 32 | 24 | 20 | 5.62 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP127 | | ビット | 8 | | D3-11,16 | (20) | (20) | 8 | 5.74 | (円形) | | | | | | | |
| SP128 | | ビット | 8 | | D3-16 | (30) | (20) | 33 | 5.44 | (楕円形) | | | | | | | |
| SP129 | | ビット | 8 | | D3-11 | 16 | 12 | 10 | 5.72 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP130 | | ビット | 8 | | D3-11 | 14 | 14 | 12 | 5.70 | 円形 | | | | | | | |
| SP131 | | ビット | 8 | | D3-11 | 16 | 14 | 15 | 5.67 | 円形 | | | | | | | |
| SP132 | | ビット | 8 | | D3-11 | 16 | 14 | 16 | 5.66 | 方形 | | | | | | | |
| SP133 | | ビット | 8 | | D3-11 | 16 | 16 | 9 | 5.73 | 方形 | | | | | | | |
| SP134 | | ビット | 8 | | D3-11,16 | 22 | 14 | 10 | 5.71 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP135 | | ビット | 8 | | D3-11 | (14) | (12) | 6 | 5.75 | (楕円形) | | | | | | | |
| SP136 | | ビット | 8 | | D3-11,16 | 16 | 16 | 6 | 5.75 | 円形 | | | | | | | |
| SP137 | | ビット | 8 | | D3-16 | 30 | 28 | 14 | 5.67 | 円形 | | | | | | | |
| SP138 | | ビット | 8 | | D3-16 | (32) | (28) | 25 | 5.56 | (楕円形) | | | | | | | |
| SP139 | | ビット | 8 | | D3-12 | (26) | (20) | 26 | 5.56 | (楕円形) | | | | | | | |
| SP140 | | ビット | 8 | | D3-11,12 | 8 | 8 | | | 円形 | | | | | | | |
| SP141 | | ビット | 8 | | D3-11 | 10 | 10 | | | 円形 | | | | | | | |
| SP142 | | ビット | 8 | | D3-12 | (14) | (12) | | | (楕円形) | | | | | | | |
| SP143 | | ビット | 8 | | D3-12 | (14) | (12) | | | (楕円形) | | | | | | | |
| SP144 | | ビット | 8 | | D3-13 | 12 | 12 | 20 | 5.60 | 円形 | | | | | | | |
| SP145 | | ビット | 8 | | D3-13 | 14 | 12 | 21 | 5.59 | 円形 | | | | | | | |
| SP146 | | ビット | 8 | | D3-13 | 22 | 18 | 19 | 5.64 | 楕円形 | | | | | | | |
| SP147 | | ビット | 8 | | D3-13 | 32 | 28 | 10 | 5.70 | 方形 | | | | | | | |
| SP148 | | ビット | 8 | | D3-13 | 18 | 14 | 17 | 5.64 | 楕円形 | | | | | | | |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名 | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------|-----|------|------|--------------------|---------|-------|----|-------------------|----------|-------|-----|------|---------|---|------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SP149 | | ビット | 8 | | D3-13 | 12 | 12 | 17 | 5.64 | | 円形 | | | | | | |
| SP150 | | ビット | 8 | | D3-13 | 24 | 24 | 18 | 5.63 | | 円形 | | | | | | |
| SP151 | | ビット | 8 | | D3-8,13 | (8) | (8) | | | | (楕円形) | | | | | | |
| SP152 | | ビット | 8 | | D3-8,13 | (10) | (8) | | | | (円形) | | | | | | |
| SP153 | | ビット | 8 | | D3-13 | 10 | 8 | 14 | 5.66 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP154 | | ビット | 8 | | D3-13 | 18 | 14 | 21 | 5.59 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP155 | | ビット | 8 | | D3-13 | 16 | 14 | 12 | 5.68 | | 円形 | | | | | | |
| SP156 | | ビット | 8 | | D3-13 | 12 | 12 | 13 | 5.67 | | 円形 | | | | | | |
| SP157 | | ビット | 8 | | D3-13 | 14 | 14 | 12 | 5.66 | | 方形 | | | | | | |
| SP158 | | ビット | 8 | | D3-13 | 18 | 12 | 10 | 5.68 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP159 | | ビット | 8 | | D3-13 | 12 | 12 | 10 | 5.68 | | 円形 | | | | | | |
| SP160 | | ビット | 8 | | D3-14 | 18 | 14 | 12 | 5.66 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP161 | | ビット | 8 | | D3-8 | 22 | 18 | 12 | 5.66 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP162 | | ビット | 8 | | D3-14 | (14) | (8) | | | | (楕円形) | | | | | | |
| SP163 | | ビット | 8 | | D3-13,14 | (14) | (10) | 9 | 5.69 | | (円形) | | | | | | |
| SP164 | | ビット | 8 | | D3-13,14 | 16 | 14 | 9 | 5.69 | | 円形 | | | | | | |
| SP165 | | ビット | 8 | | D3-13 | 16 | 12 | 18 | 5.62 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP166 | | ビット | 8 | | D3-13 | 18 | 12 | 14 | 5.66 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP167 | | ビット | 8 | | D3-14 | 20 | 14 | | | | 楕円形 | | | | | | |
| SP168 | | ビット | 8 | | D3-14 | (14) | (10) | 8 | 5.70 | | (円形) | | | | | | |
| SP169 | | ビット | 8 | | D3-14 | (26) | (18) | 8 | 5.70 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP170 | | ビット | 8 | | D3-14 | (22) | (18) | 8 | 5.70 | | (円形) | | | | | | |
| SP171 | | ビット | 8 | | D3-14 | 18 | 18 | 9 | 5.69 | | 円形 | | | | | | |
| SP172 | | ビット | 8 | | D3-14 | (10) | (8) | 9 | 5.69 | | 円形 | | | | | | |
| SP173 | | ビット | 8 | | D3-14 | (12) | (10) | 8 | 5.70 | | (円形) | | | | | | |
| SP174 | | ビット | 8 | | D3-14 | 16 | 12 | 8 | 5.70 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP175 | | ビット | 8 | | E3-6 | (14) | (14) | | | | (楕円形) | | | | | | |
| SP176 | | ビット | 8 | | E3-6 | (16) | (12) | | | | (円形) | | | | | | |
| SP177 | | ビット | 8 | | E3-6 | 18 | 14 | | | | 楕円形 | | | | | | |
| SP178 | | ビット | 8 | | E3-6 | 12 | 12 | | | | 円形 | | | | | | |
| SP179 | | ビット | 8 | | D3-10 E3-6 | (38) | (18) | 9 | 5.48 | | (円形) | | | | | | |
| SP180 | | ビット | 8 | | E3-6 | (30) | (30) | 16 | 5.43 | | (円形) | | | | | | |
| SP181 | | ビット | 8 | | E3-6 | (26) | (24) | | | | (楕円形) | | | | | | |
| SP182 | | ビット | | | D3-10 | 14 | 12 | 7 | 5.51 | | 円形 | | | | | | |
| SP183 | | ビット | 8 | | D3-14 | 50 | 30 | 32 | 5.41 | | 長方形 | | | | | | |
| 河川1 | SG1 | 河川 | 8・12 | 13 | B3-21,22 B4-1,2 | (218) | (332) | 89 | 4.73 ~ 5.01 | N-14° -W | | 台形状 | レンズ状 | | | 須恵器甕、珠洲焼播鉢 | |

C区(2005年)下層面

| 報告遺構名 | 現場遺構名 | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------|----|----------|------|----------------|---------|----------|------|-------------|----------|-------|-----|------|---------|---|-------------------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SK1 | | 土坑 | 13・14 | 15 | I2-8,13 | (92) | (64) | 100 | 4.30 | N-81° -W | (楕円形) | | | | | 須恵器甕、土師器無台碗、黒色土器無台碗 | |
| SK2 | | 土坑 | 13・14 | 15 | I2-11,12,16,17 | 70 | 56 | 18 | 5.12 | N-84° -W | 楕円形 | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕 | |
| SK3 | | 土坑 | 13・14・15 | 15 | I2-16 | (70) | (70) | 14 | 5.17 | N-3° -W | (楕円形) | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鉢、黒色土器無台碗、石製品(砥石) | |
| SK4 | | 土坑 | 13・14 | 15 | I2-12,13 | 78 | 60 | 25 | 5.12 | N-82° -W | 楕円形 | 半円状 | レンズ状 | | | 土師器長甕 | |
| SK5 | | 土坑 | 13 | | H2-21,22 | (104) | (48) | | 5.27 | N-81° -W | (楕円形) | | | | | 土師器長甕 | |
| SK6 | | 土坑 | 13・14 | 15 | H2-15 I2-11 | (70) | (50) | 36 | | N-85° -W | | 半円状 | レンズ状 | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SE7 | SK7 | 井戸 | 13・14 | 15 | F3-3,4 | (140) | (70) | 76 | 4.44 | N-38° -W | (楕円形) | 半円状 | レンズ状 | | | 須恵器長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、木製品(曲物・板状) | |
| SK8 | | 土坑 | 13・16 | 15 | G2-23 G3-3 | (92) | (76) | 22 | 4.86 | N-5° -E | (楕円形) | 台形状 | レンズ状 | | | 土師器無台碗・長甕・小甕、両面黒色土器無台碗、木製品(陶物形) | |
| SK9 | | 土坑 | 13 | | H2-16 | (36) | (22) | | | | (楕円形) | | | | | 須恵器長頸瓶、土師器無台碗 | |
| SD1 | | 溝 | 13 | 16 | K2-1,2,6,7 | (204) | (78~134) | 9~15 | 5.07~5.13 | N-1° -W | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SD2 | | 溝 | 13・15 | 16 | J2-5,9,10 | (202) | (28) | 26 | 5.20 | N-18° -W | | 台形状 | レンズ状 | | | | |
| SD3 | | 溝 | 13 | 16 | J2-4,5,8,9,10 | (400) | (20~30) | 5~9 | 5.19~5.24 | N-77° -W | | | | | | | |
| SD4 | | 溝 | 13・15 | 16 | J2-4,9 | (196) | (22~28) | 15 | 5.20 | N-16° -W | | 半円状 | 水平 | | | 土師器無台碗 | |
| SD5 | | 溝 | 13・15 | 16 | J2-4,8,9 | (198) | (30~34) | 17 | 5.18 | N-17° -W | | 台形状 | 水平 | | | | |
| SD6 | | 溝 | 13・15 | 16 | J2-3,8 | (184) | (30~42) | 12 | 5.20 | N-6° -W | | 台形状 | 単層 | | | | |
| SD7 | | 溝 | 13・15 | | J2-3,8 | (186) | (30~40) | 13 | 5.18 | N-5° -W | | 弧状 | 水平 | | | | |
| SD8 | | 溝 | 13・15 | | J2-7,8,12 | (146) | (30~36) | 15 | 5.18 | N-10° -W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD9 | | 溝 | 13・15 | | J2-7,12 | (200) | (50~60) | 19 | 5.10 | N-7° -W | | 半円状 | 水平 | | | 土師器無台碗 | |
| SD10 | | 溝 | 13・15 | | J2-6,7,11,12 | (210) | (36~60) | 15 | 5.16 | N-11° -W | | 弧状 | 単層 | | | 土師器無台碗 | |
| SD11 | | 溝 | 13 | | I2-10 J2-6,11 | (204) | (42~58) | 12 | 5.10 | N-1° -W | | | | | | 土師器小甕 | |
| SD12 | | 溝 | 13・15 | | I2-10,15 | (200) | (32~44) | 19 | 5.02 | N-2° -E | | 半円状 | レンズ状 | | | | |
| SD13 | | 溝 | 13・15 | | I2-10,15 | (210) | (24~46) | 12 | 5.11 | N-9° -W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD14 | | 溝 | 13・15 | | I2-10,15 | (194) | (36~50) | 9 | 5.10 | N-4° -E | | 弧状 | 斜位 | | | 土師器小甕 | |
| SD15 | | 溝 | 13・15 | | I2-9,10,14,15 | (194) | (32~60) | 10 | (5.09~5.13) | N-4° -E | | 弧状 | レンズ状 | | | | |

| 報告遺構名 | 現場遺構名 | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------|----|----------|------|----------------------|---------|-----------|-----|-----------|----------|-----|-----|-------|---------|---|---|-----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD16 | | 溝 | 13 | | I2-9,14 | (192) | (28) | 16 | 5.08 | N-1° -E | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD17 | | 溝 | 13・15 | | I2-13,18 | (194) | (20~50) | 10 | 5.09 | N-3° -W | | 半円状 | 単層 | | | 須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD18 | | 溝 | 13・15 | | I2-12,17 | (196) | (44~80) | 15 | 5.20 | N-2° -W | | 弧状 | 単層 | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD19 | | 溝 | 13・14・15 | | H2-15,20 I2-11,16 | (176) | (30~92) | 25 | 4.81~4.86 | N-6° -E | | 台形状 | 単層 | | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・甌、両面黒色土器無台碗 | |
| SD20 | | 溝 | 13・15 | | H2-15,20 | (194) | (34~46) | 24 | 5.05 | N-2° -W | | 台形状 | 単層 | | | 須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕・甌、黒色土器無台碗 | |
| SD21 | | 溝 | 13・15 | | H2-18,19,20 | 418 | (44~70) | 32 | 4.88~5.05 | N-81° -W | | 半円状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕・甌・甌、黒色土器無台碗 | |
| SD22 | | 溝 | 13・15 | 16 | H2-14,19 | (188) | (56~80) | 21 | 4.88~4.94 | N-7° -E | | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・横瓶、土師器無台碗・長甕・小甕・甌、黒色土器無台碗 | |
| SD23 | | 溝 | 13・15 | | H2-13,18,23 | (180) | (80~118) | 47 | 4.74~4.80 | N-10° -E | | 半円状 | レンズ状 | | | 須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕・甌、黒色土器無台碗 | |
| SD24 | | 溝 | 13・15 | 16 | H2-17,22 | (208) | (110~130) | 21 | 4.98~5.09 | N-2° -E | | 弧状 | 単層 | | | 須恵器長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕・甌・甌、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗 | |
| SD25 | | 溝 | 13・16 | | H2-16,21 | (210) | (10~60) | 32 | 5.04~5.19 | N-6° -W | | 弧状 | ブロック状 | | | 土師器無台碗・長甕・小甕・甌、木製品(板状) | |
| SD26 | | 溝 | 13 | | H2-16,21 | (202) | (22~54) | 11 | 4.93 | N-3° -E | | 弧状 | ブロック状 | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD27 | | 溝 | 13 | | G2-20,25 | (204) | (20~40) | 11 | 4.92 | N-2° -E | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD28 | | 溝 | 13 | | G2-20,25 | (192) | (18~32) | 12 | 4.91 | N-8° -E | | | | | | 須恵器甕、土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗 | |
| SD29 | | 溝 | 13・14 | 15 | I2-11,16 | (194) | (16~38) | 11 | 5.20 | N-6° -E | | 弧状 | 単層 | | | 土師器小甕・甌 | |
| SD30 | | 溝 | 13 | | I2-9,14 | (192) | (28~46) | 18 | 5.04 | N-4° -E | | | | | | 土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗 | |
| SD31 | | 溝 | 13 | | J2-6,11 | (166) | (50) | 11 | 5.13 | N-9° -E | | | | | | 土師器長甕・甌 | |
| SD32 | | 溝 | 13 | | G2-19,24 | (186) | (22~40) | 12 | 4.91 | N-7° -E | | | | | | 須恵器無台杯、土師器無台碗 | |
| SD33 | | 溝 | 13 | | G2-24,25 | (112) | (56~90) | (8) | 4.95~5.21 | N-8° -E | | | | | | | |
| SD34 | | 溝 | 13・16 | 16 | G2-18,23,24 | (184) | (44~50) | 23 | 4.85 | N-5° -E | | 半円状 | レンズ状 | | | 土師器無台碗・長甕・甌、黒色土器無台碗 | |
| SD35 | | 溝 | 13・16 | | G2-22 G3-1,2 | (200) | (26~44) | 30 | 4.85 | N-32° -W | | 台形状 | レンズ状 | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD36 | | 溝 | 13・16 | | F2-25 F3-4,5 | (240) | (24~32) | 24 | 4.88 | N-29° -W | | 台形状 | レンズ状 | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD37 | | 溝 | 13・15 | | H2-13,14,18,19,20 | (434) | (26~60) | 14 | 4.97~5.10 | N-80° -E | | 箱状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD38 | | 溝 | 13・16 | | G2-21 F3-5 G3-1 | (224) | (20~24) | 10 | 4.90 | N-24° -W | | 弧状 | 単層 | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SD39 | | 溝 | 13・16 | | G2-21 F3-5 G3-1 | (240) | (14~28) | 15 | 4.81 | N-29° -W | | 台形状 | 単層 | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD40 | | 溝 | 13 | | G2-23 | (122) | (24~52) | 12 | 4.96 | N-23° -E | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD41 | | 溝 | 13・16 | 16 | G2-22,23 G3-2 | (204) | (58~102) | 27 | 4.76~4.79 | N-39° -E | | 台形状 | ブロック状 | | | 須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD42 | | 溝 | 13・16 | | F2-24,25 F3-4,5 | (238) | (24~30) | 19 | 4.91 | N-29° -W | | 台形状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯、土師器長甕・小甕 | |
| SD43 | | 溝 | 13・16 | | F2-24 F3-3,4,8 | (260) | (18~30) | 21 | 4.80 | N-33° -W | | U字状 | 水平 | | | 土師器長甕 | |
| SD44 | | 溝 | 13・16 | | G2-21,22 G3-1 | (224) | (30~38) | 22 | 4.84 | N-26° -W | | 台形状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗 | |
| SD45 | | 溝 | 13 | | G2-19,24 | (184) | (38~56) | 15 | 4.90 | N-12° -E | | | | | | 須恵器甕、土師器無台碗 | |
| SD46 | | 溝 | 13 | | G2-20,25 H2-16,21 | (194) | (14~28) | 14 | 4.89 | N-9° -E | | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SD47 | | 溝 | 13 | | I2-8,9,13,14 | (190) | (26~34) | 13 | 5.09 | N-4° -E | | | | | | | |
| SD48 | | 溝 | 13・16 | | F2-24 F3-4 | (252) | (20~28) | 26 | 4.80 | N-33° -W | | 台形状 | 単層 | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD49 | | 溝 | 13 | | I2-12 | (148) | (30~60) | 38 | 4.93 | N-5° -E | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SD50 | | 溝 | 13 | | H2-18 | (48) | (48) | 23 | 4.99 | N-2° -E | | | | | | | |
| SD51 | | 溝 | 13 | | H2-18 | (46) | (42) | 19 | 5.03 | N-3° -E | | | | | | 須恵器甕、土師器無台碗・小甕、木製品(漆器) | |
| SD52 | | 溝 | 13 | | I2-13 | (124) | (30~38) | 10 | 5.03 | N-3° -E | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD53 | | 溝 | 13・15 | | I2-13 | (190) | (38~52) | 20 | 5.10 | N-4° -E | | 台形状 | 単層 | | | 土師器無台碗 | |
| SD54 | | 溝 | 13・16 | | I2-11,16 | (126) | (60~70) | 23 | 5.00 | N-2° -W | | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SD55 | | 溝 | 13 | | I2-13 | (145) | (24~32) | 5 | 4.99 | N-15° -W | | | 単層 | | | | 最下層 |
| SD56 | | 溝 | 13 | | I2-13,18 | (194) | (20~28) | 6 | 5.00 | N-5° -W | | | 単層 | | | | 最下層 |
| SD57 | | 溝 | 13 | | I2-12,17 | (193) | (35~42) | 10 | 4.98 | N-1° -E | | | 単層 | | | | 最下層 |
| SD58 | | 溝 | 13 | | I2-12,17 | (193) | (47~53) | 18 | 4.95 | N-2° -E | | | 単層 | | | | 最下層 |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名 | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------|-----|-------|------|----------------------|---------|----------|-------|-----------|----------|-------|-----|----|---------|----|------------------|-----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD59 | | 溝 | 13 | | I2-11,16 | (193) | (52~60) | 18 | 4.92 | N-3° -E | | | 単層 | | | | 最下層 |
| SD60 | | 溝 | 13 | | H2-15,20 I2-11,16 | (194) | (70~126) | 18 | 4.85 | N-4° -E | | | 単層 | | | | 最下層 |
| SD61 | | 溝 | 13 | | H2-14,19 | (186) | (59~76) | 19 | 4.79 | N-9° -E | | | 単層 | | | | 最下層 |
| SD62 | | 溝 | 13 | | H2-13,18 | (195) | (22~37) | 14 | 4.84 | N-2° -E | | | 単層 | | | | 最下層 |
| SD63 | | 溝 | 13 | | H2-17,18,22 | (203) | (26~39) | 13 | 4.91 | N-1° -E | | | 単層 | | | 須恵器甕 | 最下層 |
| SD64 | | 溝 | 13 | | H2-16,17,21, 22 | (207) | (27~36) | 12 | 4.94 | N-1° -E | | | 単層 | | | 土師器小甕 | 最下層 |
| SD65 | | 溝 | 13 | | G2-22,23 | (186) | (36~42) | 20 | 4.88 | N-13° -E | | | 単層 | | | | |
| SD66 | | 溝 | 13 | | G2-20 | (65) | (52) | | | N-19° -E | | | 単層 | | | | |
| SD67 | | 溝 | 13 | | G2-25 H2-21 | (230) | (44~52) | 9~10 | 4.93~4.94 | N-80° -W | | | 単層 | | | | |
| SD68 | | 溝 | 13・15 | | I2-12,13,17 | (206) | (16~42) | 18 | 5.16~5.18 | N-79° -W | | 台形状 | 単層 | | | | |
| SD69 | | 溝 | 13 | | I2-13,14 | (286) | (12~24) | 13~15 | 5.09~5.16 | N-77° -W | | | 単層 | | | | |
| SD70 | | 溝 | 13 | | I2-14,15 | (62) | (31) | 12 | 5.01 | N-9° -E | | | 単層 | | | | |
| SD71 | | 溝 | 13・16 | | G2-22 G3-2 | (110) | (22~32) | 26 | 4.88 | N-14° -W | | 半円状 | 単層 | | | | |
| SP1 | | ビット | 13 | | J2-4,9 | 34 | 24 | 15 | 5.14 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP2 | | ビット | 13 | | I2-13 | 22 | 16 | 14 | 5.14 | | 楕円形 | | | | | 土師器無台碗 | |
| SP3 | | ビット | 13・16 | 16 | G2-20 | (30) | (28) | 64 | 4.45 | | 円形 | U字状 | | 60 | 16 | 柱根 (ハンノキ属ハンノキ亜属) | |
| SP4 | | ビット | 13 | | H2-20 | (32) | (26) | 9 | 5.17 | | (楕円形) | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SP5 | | ビット | 13 | | H2-15,20 | 12 | 10 | 30 | 5.02 | | 円形 | U字状 | | 15 | 10 | 柱根 (ヤナギ属) | |
| SP6 | | ビット | 13 | | J2-5 | (30) | (30) | 12 | 5.09 | | (円形) | | | | | | |
| SP7 | | ビット | 13 | | I2-12,13 | 28 | 34 | 6 | 5.24 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP8 | | ビット | 13 | | I2-16 | (30) | (22) | 7~18 | 5.12~5.23 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP9 | | ビット | 13 | | H2-17 | 20 | 20 | 22 | 4.81 | | 円形 | | | | | | |
| SP10 | | ビット | 13 | | H2-16 | (32) | (26) | 18 | 5.01 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP11 | | ビット | 13 | | H2-19 | 46 | 18~22 | | 4.68~4.85 | | 楕円形 | 単層 | | | | | 最下層 |
| SP12 | | ビット | 13 | | G2-23,24 | 10 | 10 | 4 | 5.02 | | 円形 | | | | | | |

C区 (2006年) 下層面

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|--|---------|---------|------|-------------|----------|-------|-----|-------|---------|----|---|---------|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD1 | 1 | 溝 | 13 | | E3-5,9,10 | (154) | (32~48) | 13 | 4.82 | N-40° -W | | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD2 | 2 | 溝 | 13 | | E3-4,5,9,10 | (150) | (38~56) | 9 | 4.88 | N-11° -W | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SD3 | 3 | 溝 | 13 | | E3-4,9 | (160) | (30~36) | 12 | 4.87 | N-14° -W | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD4 | 4 | 溝 | 13 | | E3-3,4,8 | (170) | (42~54) | 17 | 4.78 | N-15° -W | | | | | | 土師器無台碗・長甕・黒色土器無台碗 | |
| SD5 | 5 | 溝 | 13・17 | 19 | E3-7,12 | (190) | (30~36) | 26 | 4.76 | N-13° -W | | 半円状 | 単層 | | | 須恵器長頸瓶・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD6 | 6 | 溝 | 13 | | E3-7,12 | (194) | (28~58) | 8 | 4.82 | N-14° -W | | | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕・鍋 | |
| SD7 | 7 | 溝 | 13 | | E3-7,12 | (190) | (16~22) | 8 | 4.82 | N-12° -W | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD8 | 8 | 溝 | 13 | | E3-6,7,11,12 | (198) | (18~48) | 9 | 4.81 | N-16° -W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD9 | 9 | 溝 | 13・17 | 19 | E3-6,11 | (194) | (14~30) | 16 | 4.82 | N-15° -W | | 弧状 | 単層 | | | 土師器長甕 | |
| SD10 | 10 | 溝 | 13・17 | 19 | E3-6,11 | (198) | (24~34) | 17 | 4.83 | N-14° -W | | 半円状 | 単層 | | | 土師器無台碗 | |
| SD11 | 11 | 溝 | 13・17 | 19 | D3-15 E3-6,11 | (202) | (18~26) | 16 | 4.84 | N-15° -W | | 半円状 | 単層 | | | 須恵器無台杯・土師器長甕・小甕 | |
| SD12 | 12 | 溝 | 13 | | D3-10,15 | (202) | (20~46) | 12 | 4.75 | N-16° -W | | | | | | 須恵器横瓶・土師器長甕 | |
| SD13 | 13 | 溝 | 13 | | F3-2 | (98) | (26) | 6 | 4.64 | N-36° -W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SE14 | 14 | 井戸 | 13・17 | 19 | E3-5 F3-1,6 | (200) | (98) | 95 | 4.40 | N-85° -W | (楕円形) | 半円状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・甕・土師器無台碗・長甕・小甕・黒色土器無台碗・木製品 (木簡・杵? 斎申・棒状) | |
| SD15 | 15 | 溝 | 13 | | E3-8 | (174) | (30~52) | 15 | 4.78 | N-11° -W | | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SD16 | 16 | 溝 | 13 | | D3-9,10,14,15 | (188) | (12~28) | 11 | 4.69 | N-7° -W | | | | | | | |
| SD17 | 17 | 溝 | 13 | | C3-15,20 | (152) | (14) | 13 | 4.72 | N-25° -E | | | | | | | |
| SK18 | 18 | 土坑 | 13・17 | | D3-12 | 76 | 62 | 38 | 4.54 | N-43° -E | 楕円形 | 半円状 | 水平 | | | | |
| SD19 | 19 | 溝 | 13 | 19 | D3-12,17 | (204) | (26~38) | 34 | 4.70~4.78 | N-17° -W | | 半円状 | 単層 | | | | |
| SD20 | 20 | 溝 | 13 | | C3-15,20 | (192) | (26~34) | 17 | 4.68 | N-2° -W | | | | | | | |
| SK21 | 21 | 土坑 | 13・17 | | D3-8,9,13,14 | (52) | (40) | 28 | 4.64 | N-80° -E | (楕円形) | 半円状 | ブロック状 | | | | |
| SP22 | 22 | ビット | 13・17 | 19 | F3-6 | (34) | (32) | 51 | 4.32 | | (円形) | U字状 | | 64 | 19 | 土師器無台碗・長甕・柱根 (ヒノキ) | |
| 河川23 | 23 | 河川 | 13 | | A3-24,25 B3-18,19,20, 21,22,23,24 A4-4,5 B4-1,2,6,7,11, 12,17,18,23 | (1128) | (818) | (52) | (4.33~4.75) | N-19° -W | | | | | | 須恵器有台杯・無台杯・土師器無台碗・小甕・木製品 (下駄・曲物・箸状) | E区下層と同一 |
| SP24 | 24 | ビット | 13 | | C3-17 | 22 | 16 | 18 | 4.66 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP25 | 25 | ビット | 13 | | C3-17 | 28 | 24 | 19 | 4.64 | | 円形 | | | | | | |
| SP26 | 26 | ビット | 13 | | E3-9 | (28) | (14) | 8 | 4.90 | | (円形) | | | | | | |
| SP27 | 27 | ビット | 13 | | E3-8 | 34 | 26 | 11 | 4.84 | | 楕円形 | | | | | | |

D 区

| 報告遺構名 | 規模遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|-------------------|---------|-----------|-------|-----------|----------|-------|------|------|---------|----|---------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD1 | 1 | 溝 | 18・19 | 23 | M1-4,5,9,10 | (150) | (130~160) | 32 | 4.76 | N-10° -W | | 台形状 | レンズ状 | | | 須恵器壺、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD2 | 2 | 溝 | 18・19 | | M1-9 | (138) | (12~18) | 19 | 4.93 | N-3° -E | | 半円状 | レンズ状 | | | | |
| SK3 | 3 | 土坑 | 18・19 | | M1-8,9 | (54) | (36) | 31 | 4.83 | | (楕円形) | 半円状 | レンズ状 | | | | |
| SP4 | 4 | ビット | 18・19 | | M1-8 | (40) | (12) | 23 | 4.89 | | | 半円状 | レンズ状 | | | 土師器長甕 | |
| SD5 | 5 | 溝 | 18 | | M1-7,8 | (284) | (20~28) | 4~14 | 4.84~4.91 | N-76° -E | | | | | | 須恵器横瓶、土師器長甕 | |
| SD6 | 6 | 溝 | 18 | | M1-7,12 | (150) | (34~42) | 13 | 4.85 | N-22° -W | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SK7 | 7 | 土坑 | 18 | | L1-10 M1-6 | (190) | (48) | 25 | 4.70~4.78 | N-78° -W | (長方形) | | | | | | |
| SD8 | 8 | 溝 | 18 | | M1-6,7 | (130) | (20~30) | 11~17 | 4.80~4.86 | N-49° -E | | | | | | | |
| SD9 | 9 | 溝 | 18 | | L1-10,15 M1-11 | (130) | (34~54) | 7 | 4.89 | N-47° -E | | | | | | | |
| SD10 | 10 | 溝 | 18 | | M1-6,11 | (138) | (22~30) | 8 | 4.87 | N-24° -W | | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SK11 | 11 | 土坑 | 18 | | M1-6,7,11,12 | (164) | (30) | 6 | 4.84 | N-76° -W | (長方形) | | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕 | |
| SD12 | 12 | 溝 | 18 | | L1-10,14,15 | (140) | (20~30) | 8 | 4.83 | N-23° -W | | | | | | | |
| SD13 | 13 | 溝 | 18 | | L1-13,14 | (120) | (20~42) | 13 | 4.72 | N-15° -W | | | | | | | |
| SD14 | 14 | 溝 | 18 | | L1-12 | (78) | (12~44) | 5~9 | 4.77 | N-11° -E | | | | | | | |
| SK15 | 15 | 土坑 | 18 | | L1-11,16 | 54 | 26 | 4 | 4.77 | N-12° -E | 楕円形 | | | | | | |
| SP16 | 16 | ビット | 18 | | L1-11,16 | 30 | 26 | 7 | 4.77 | | 円形 | | | | | | |
| SP17 | 17 | ビット | 18 | | K1-15,20 L1-11,16 | (42) | (20) | 6 | 4.78 | | (方形) | | | | | | |
| SP18 | 18 | ビット | 18 | | L1-16 | (28) | (20) | 12 | 4.72 | | (楕円形) | | | | | | |
| SD19 | 19 | 溝 | 18 | | K1-20 L1-16 | (60) | (14~16) | 5 | 4.79 | N-6° -E | | | | | | | |
| SD20 | 20 | 溝 | 18 | | K1-20 | (100) | (20) | 5 | 4.80 | N-60° -E | | | | | | | |
| SP21 | 21 | ビット | 18 | | K1-20 | (14) | (14) | 4 | 4.81 | | | | | | | | |
| SP22 | 22 | ビット | 18 | | K1-19 | 20 | 16 | 5 | 4.77 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP23 | 23 | ビット | 18 | | K1-18 | 20 | 20 | 7 | 4.78 | | 円形 | | | | | | |
| SP24 | 24 | ビット | 18 | | K1-18 | 20 | 16 | 5 | 4.81 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP25 | 25 | ビット | 18 | | K1-18 | 18 | 12 | 6 | 4.80 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP26 | 26 | ビット | 18 | | K1-17 | 28 | 20 | 8 | 4.75 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD27 | 27 | 溝 | 18・19 | | K1-16,21 | (110) | (60~94) | 13 | 4.65~4.66 | N-6° -E | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD28 | 28 | 溝 | 18 | | M1-5,10 | (140) | (26~30) | 6 | 4.84 | N-10° -W | | | | | | | |
| SP29 | 29 | ビット | 18・20 | | N1-1 | (20) | (12) | 17 | 4.79 | | (楕円形) | 半円状 | 単層 | 14 | 12 | 柱根(ヤナギ属) | |
| SP30 | 30 | ビット | 18 | | N1-6 | (34) | (26) | 15 | 4.80 | | (楕円形) | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SP31 | 31 | ビット | 18 | | L1-13 | 22 | 20 | 5 | 4.80 | | 円形 | | | | | | |
| SP32 | 32 | ビット | 18 | | L1-13 | 38 | 30 | 10 | 4.77 | | 楕円形 | | | | | | |
| SK33 | 33 | 土坑 | 18 | | L1-13 | (58) | (50) | 9 | 4.78 | N-81° -W | (楕円形) | | | | | | |
| SD35 | 35 | 溝 | 18 | | I2-5 J2-1 | (136) | (12~20) | 4~9 | 4.89~4.94 | N-77° -W | | | | | | | |
| SP36 | 36 | ビット | 18 | | I2-5 | 28 | 12 | 4 | 4.94 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP37 | 37 | ビット | 18 | | I2-5 | 24 | 22 | 12 | 4.86 | | 方形 | | | | | | |
| SD38 | 38 | 溝 | 18 | | I2-5 | (122) | (24~30) | 6 | 4.97 | N-7° -E | | | | | | | |
| SD39 | 39 | 溝 | 18 | | I2-4 | (122) | (12~16) | 11 | 4.98 | N-13° -E | | | | | | | |
| SD40 | 40 | 溝 | 18 | | I2-1,2,6,7 | (112) | (44~46) | 11 | 4.95 | N-10° -E | | | | | | | |
| SK41 | 41 | 土坑 | 18・19 | | J1-25 | (94) | (40) | 18 | 4.66 | N-78° -W | (方形) | 台形状 | レンズ状 | | | | |
| SP42 | 42 | ビット | 18 | | J1-23 | 12 | 10 | 12 | 4.65 | | 円形 | | | | | | |
| SP43 | 43 | ビット | 18 | | J1-23 | 14 | 10 | 8 | 4.69 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP44 | 44 | ビット | 18 | | J1-23 | 12 | 12 | 13 | 4.65 | | 円形 | | | | | | |
| SD45 | 45 | 溝 | 18 | | H2-9 | (126) | (26~40) | 15 | 5.00 | N-4° -E | | | | | | | |
| SD46 | 46 | 溝 | 18 | | H2-8,13 | (122) | (26~38) | 11 | 5.01 | N-3° -E | | | | | | | |
| SD47 | 47 | 溝 | 18 | | H2-7,12 | (116) | (40~44) | 15 | 4.94 | N-2° -W | | | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕・小甕 | |
| SP48 | 48 | ビット | 18 | | L1-15 | 40 | 32 | 7 | 4.89 | | 長方形 | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD49 | 49 | 溝 | 18 | | H2-6,7,11,12 | (116) | (34~46) | 27 | 4.79 | N-4° -E | | | | | | | |
| SD50 | 50 | 溝 | 18 | | H2-6,11 | (120) | (24~30) | 10 | 4.95 | N-1° -E | | | | | | | |
| SD51 | 51 | 溝 | 18 | | H2-6,11 | (108) | (10~18) | 9 | 4.97 | N-2° -E | | | | | | | |
| SD52 | 52 | 溝 | 18 | | H2-11 | (130) | (20~22) | 11 | 4.97 | N-4° -W | | | | | | | |
| SD53 | 53 | 溝 | 18・19 | 23 | G2-15 | (140) | (32~36) | 23 | 4.79 | N-8° -W | 半円状 | レンズ状 | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕・小甕 | |
| SD54 | 54 | 溝 | 18・19 | 23 | G2-14 | (130) | (28~34) | 12 | 5.02 | N-3° -W | 弧状 | 単層 | | | | 須恵器杯蓋 | |
| SD55 | 55 | 溝 | 18 | | G2-14 | (128) | (22~26) | 4 | 5.03 | N-9° -W | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD56 | 56 | 溝 | 18 | | H2-9 | (120) | (22~24) | 10 | 5.06 | N-5° -W | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SD57 | 57 | 溝 | 18 | | G2-12,17 | (118) | (28~44) | 14 | 4.87 | N-7° -E | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SP58 | 58 | ビット | 18 | | G2-15 | 36 | 34 | 32 | 4.86 | | 方形 | 半円状 | レンズ状 | | | | |
| SP59 | 59 | ビット | 18 | | G2-14 | 16 | 16 | 14 | 4.93 | | 方形 | | | | | | |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|----------------|---------|----------|-----|-----------|----------|-------|-----|------|---------|----|--|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 高さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD60 | 60 | 溝 | 18・19 | 23 | G2-15 | (130) | (30～50) | 18 | 4.91 | N-4° -E | | 半円状 | 単層 | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD61 | 61 | 溝 | 18 | | F2-19,20 | (64) | (20～32) | 4 | 4.98 | N-70° -E | (楕円形) | | | | | 須恵器無台杯 | |
| SP62 | 62 | ピット | 18 | | F2-19 | 26 | 22 | 9 | 4.93 | | 円形 | | | | | 須恵器無台杯 | |
| SD63 | 63 | 溝 | 18 | | F2-19 | (104) | (20～26) | 7 | 4.92 | N-10° -E | | | | | | | |
| SD64 | 64 | 溝 | 18 | | I2-3,8 | (116) | (18～26) | 7 | 5.02 | N-15° -E | | | | | | | |
| SP65 | 65 | ピット | 18 | | I2-3,8 | 12 | 12 | 7 | 5.01 | | 円形 | | | | | | |
| SD69 | 69 | 溝 | 18 | | L1-14 | (134) | (32～38) | 9 | 4.76 | N-15° -W | | | | | | | |
| SD70 | 70 | 溝 | 18 | | L1-14 | (140) | (20～26) | 12 | 4.73 | N-22° -W | | | | | | | |
| SP71 | 71 | ピット | 18 | | L1-13 | 20 | 18 | 5 | 4.80 | | 円形 | | | | | | |
| SP72 | 72 | ピット | 18 | | L1-13 | 20 | 12 | 9 | 4.76 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP73 | 73 | ピット | 18 | | L1-13 | 18 | 14 | 16 | 4.69 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP74 | 74 | ピット | 18 | | L1-13 | 18 | 18 | 6 | 4.81 | | 円形 | | | | | | |
| SP75 | 75 | ピット | 18 | | L1-13 | (20) | (14～18) | 10 | 4.77 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP76 | 76 | ピット | 18 | | L1-13 | 12 | 10 | 7 | 4.79 | | 円形 | | | | | | |
| SD77 | 77 | 溝 | 18・19 | 23 | M1-4,5,9,10 | (150) | (48～86) | 47 | 4.56 | N-14° -W | | 台形状 | レンズ状 | 25 | 14 | 土師器無台碗・長甕、柱根 (スギ)、棒状木製品 | |
| SD78 | 78 | 溝 | 18 | | G2-12,17 | (120) | (24～42) | 11 | 4.91 | N-19° -W | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD79 | 79 | 溝 | 18 | | F2-20 | (110) | (36～42) | 12 | 4.89 | N-8° -W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SK80 | 80 | 土坑 | 18・19 | 23 | C3-10 D3-6 | (164) | (124) | 56 | 4.75 | N-69° -W | (楕円形) | 半円状 | レンズ状 | | | 須恵器有台杯・無台杯・長頸瓶、土師器無台碗・長甕・小甕、土製品 (羽口)、金属製品 (鈴帯) | |
| SD81 | 81 | 溝 | 18 | | C3-8,13 | (128) | (28～34) | 12 | 4.95 | N-11° -W | | | | | | | |
| SD82 | 82 | 溝 | 18 | | C3-7,11,12 | (138) | (46～56) | 14 | 4.87 | N-17° -W | | | | | | | |
| SD83 | 83 | 溝 | 18 | | B3-14,15 | (84) | (28～38) | 15 | 4.98 | N-12° -W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD84 | 84 | 溝 | 18 | | B3-13,18 | (134) | (56～64) | 28 | 4.86 | N-6° -W | | | | | | | |
| SD85 | 85 | 溝 | 18・20 | 23 | B3-11,12,16,17 | (134) | (50～150) | 24 | 4.95 | N-9° -E | | 台形状 | レンズ状 | | | 土師器小甕 | |
| SD86 | 86 | 溝 | 18・20 | 23 | A3-20 B3-16 | (132) | (64～124) | 20 | 4.98 | N-4° -E | | 台形状 | レンズ状 | | | | |
| SP87 | 87 | ピット | 18 | | E2-24 | 36 | 28 | 19 | 4.78 | | 長方形 | | | | | | |
| SD88 | 88 | 溝 | 18 | | E2-22,23,24 | (386) | (24～40) | 6～7 | 4.85～4.86 | N-78° -W | | | | | | | |
| SD89 | 89 | 溝 | 18・20 | | E2-23 E3-3 | (94) | (20～34) | 10 | 4.85 | N-3° -W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SP90 | 90 | ピット | 18 | | C3-8 | 20 | 16 | 5 | 5.03 | | 楕円形 | | | | | | |
| SK91 | 91 | 土坑 | 18 | | C3-7,8 | (90) | (24～30) | 8 | 5.01 | N-78° -E | | | | | | | |
| SP92 | 92 | ピット | 18 | | C3-12 | 22 | 20 | 7 | 5.03 | | 円形 | | | | | | |
| SP93 | 93 | ピット | 18 | | C3-11 | 26 | 24 | 14 | 4.95 | | 円形 | | | | | | |
| SP94 | 94 | ピット | 18 | | C3-11 | 24 | 20 | 17 | 4.93 | | 円形 | | | | | | |
| SP95 | 95 | ピット | 18 | | B3-14 | 30 | 28 | 6 | 5.09 | | 方形 | | | | | | |
| SP96 | 96 | ピット | 18 | | B3-14 | 34 | 28 | 12 | 5.03 | | 長方形 | | | | | | |
| SD97 | 97 | 溝 | 18 | | B3-14,19 | (80) | (24～40) | 6 | 5.09 | N-3° -W | | | | | | | |
| SD98 | 98 | 溝 | 18・20 | | E2-23 E3-3 | (100) | (28～30) | 10 | 4.91 | N-1° -W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SP99 | 99 | ピット | 18 | | D3-3 | 36 | 16 | 6 | 4.88 | | 長方形 | | | | | | |
| SK100 | 100 | 土坑 | 18 | | D3-2,3,7,8 | 80 | 32 | 6 | 4.91 | N-45° -W | 楕円形 | | | | | | |
| SD101 | 101 | 溝 | 18 | | B3-13 | (94) | (20～30) | 3 | 5.08 | N-89° -W | | | | | | | |
| SD103 | 103 | 溝 | 18 | | D3-3,8 | (114) | (20～34) | 10 | 4.86 | N-12° -E | | | | | | | |
| SD104 | 104 | 溝 | 18 | | F2-20 G2-16 | (110) | (16～28) | 16 | 4.88 | N-15° -W | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD105 | 105 | 溝 | 18 | | G2-11,16 | (104) | (22～36) | 15 | 4.88 | N-3° -W | | | | | | 須恵器甕 | |
| SD106 | 106 | 溝 | 18・20 | | E2-22,23 E3-2 | (122) | (20～36) | 9 | 4.80 | N-25° -W | | 弧状 | 単層 | | | 須恵器有台杯・甕 | |
| SP107 | 107 | ピット | 18 | | L1-15 | (48) | (40) | 28 | 4.67 | | (方形) | | | | | | |
| SP108 | 108 | ピット | 18 | | L1-15 | (30) | (26) | 21 | 4.74 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP109 | 109 | ピット | 18 | | L1-15 | 30 | 28 | 26 | 4.69 | | 円形 | | | | | | |
| SD110 | 110 | 溝 | 18 | | H2-7,12 | (118) | (22～32) | 25 | 4.84 | N-4° -W | | | | | | | |
| SP111 | 111 | ピット | 18 | | H2-12 | (40) | (28) | 22 | 4.84 | | (方形) | | | | | | |
| SP112 | 112 | ピット | 18・19 | 23 | N1-2 | (70) | (42～60) | 56 | 4.31 | | (不整形) | U字状 | 単層 | 54 | 12 | 須恵器甕、柱根 (コナラ属コナラ亜属コナラ属) | |
| SP113 | 113 | ピット | 18 | | N1-1,2 | 34 | 22 | 14 | 4.73 | | 楕円形 | | | | | | |

※ 34、66、67、68、102 は欠番

E 区上層面

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|----|------|-------------|---------|---------|-----|-----------|---------|-------|------|------|---------|---|---------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD1 | 1 | 溝 | 21 | 24 | E8-11,12 | (136) | (50~68) | 17 | 5.59 | N-88°-E | 弧状 | レンズ状 | | | | | |
| SP2 | 2 | ピット | 21 | | E8-6 | 26 | 26 | 42 | 5.27 | | 方形 | | | | | | |
| SP3 | 3 | ピット | 21 | | E8-6 | 28 | 26 | 49 | 5.16 | | 方形 | | | | | | |
| SP4 | 4 | ピット | 21 | | E8-6 | 28 | 26 | 27 | 5.38 | | 方形 | U字状 | レンズ状 | | | | |
| SP5 | 5 | ピット | 21 | | E8-6 | 30 | 24 | 26 | 5.40 | | 長方形 | | | | | | |
| SP6 | 6 | ピット | 21 | | D8-10 E8-6 | (30) | (18) | 24 | 5.41 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP7 | 7 | ピット | 21 | | E8-1 | 34 | 24 | 40 | 5.27 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP8 | 8 | ピット | 21 | | D8-5 | 40 | 18 | 28 | 5.37 | | 長方形 | | | | | | |
| SP9 | 9 | ピット | 21 | 25 | D8-5 | (36) | (22) | 39 | 5.14 | | (長方形) | U字状 | 単層 | | | | |
| SP10 | 10 | ピット | 21 | | D7-25 | 28 | 28 | 33 | 5.35 | | 方形 | | | | | | |
| SD11 | 11 | 溝 | 21 | | D7-19,20,24 | (204) | (14~26) | 5 | 5.61 | N-81°-W | | | | | | | |
| SD12 | 12 | 溝 | 21 | | D7-18,19 | (110) | (22~40) | 4~7 | 5.61~5.64 | N-84°-W | | | | | | | |
| SP13 | 13 | ピット | 21 | | D7-7 | (32~58) | 32 | 53 | 5.10 | | 円形 | U字状 | | | | 礎板? | |
| SP14 | 14 | ピット | 21 | | D6-21 | 36 | 34 | 44 | 5.09 | | 方形 | | | | | | |
| SE15 | 15 | 井戸 | 21 | 24 | C6-20 D6-16 | 74 | 74 | 85 | 4.57 | | 円形 | 箱状 | レンズ状 | 28 | 8 | 石製品 (砥石)、柱根、礎 | |
| SP16 | 16 | ピット | 21 | | C6-20 | 36 | 28 | 50 | 5.00 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP17 | 17 | ピット | 21 | | C6-20 | 30 | 28 | 31 | 5.18 | | 方形 | | | | | | |
| SP18 | 18 | ピット | 21 | | C6-14 | 30 | 26 | 20 | 5.31 | | 方形 | | | | | | |
| SP19 | 19 | ピット | 21 | | D6-16,21 | 22 | 20 | 24 | 5.25 | | 円形 | | | | | | |
| SP20 | 20 | ピット | 21 | | C6-25 | 34 | 30 | 22 | 5.28 | | 円形 | | | | | | |
| SP21 | 21 | ピット | 21 | | D7-1 | 20 | 18 | 20 | 5.35 | | 円形 | | | | | | |
| SP22 | 22 | ピット | 21 | | D7-19 | (40) | (30) | 9 | 5.60 | | | | | | | | |
| SP23 | 23 | ピット | 21 | | D7-25 D8-5 | 48 | 40 | 8 | 5.58 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP24 | 24 | ピット | 21 | | D8-5 E8-1 | 18 | 14 | 22 | 5.46 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP25 | 25 | ピット | 21 | | D8-5 | 44 | 30 | 18 | 5.48 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP26 | 26 | ピット | 21 | | E8-1 | 26 | 20 | 32 | 5.34 | | 長方形 | | | | | | |
| SP27 | 27 | ピット | 21 | | C6-20 | 22 | 18 | 32 | 5.19 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP28 | 28 | ピット | 21 | | D7-19 | (34) | (20) | 31 | 5.39 | | | | | | | | |
| SP29 | 29 | ピット | 21 | | D7-19 | (28) | (16) | 22 | 5.48 | | | | | | | | |
| SP30 | 30 | ピット | 21 | | D7-18 | 34 | 34 | 5 | 5.63 | | 方形 | | | | | | |
| SP31 | 31 | ピット | 21 | | D6-21 | 16 | 12 | 11 | 5.36 | | 楕円形 | | | | | | |

E 区下層面

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|-------------------|---------|-----------|-------|-----------|---------|-------|------|------|---------|---|-----------------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD1 | 1 | 溝 | 22 | | E8-18 | (92) | (20~24) | 11 | 4.86 | N-66°-W | | | | | | 須恵器無台杯、土師器無台碗 | |
| SD2 | 2 | 溝 | 22・23 | 25 | E8-23,24 | (80) | (44~62) | 19 | 4.97 | N-55°-W | 台形状 | 単層 | | | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台碗、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗 | |
| SK3 | 3 | 土坑 | 22 | | E8-24 | (70) | (68) | 4 | 4.99 | N-29°-W | | | | | | 須恵器有台杯、土師器無台碗、黒色土器無台碗 | |
| SK4 | 4 | 土坑 | 22・23 | 25 | E8-24 E9-4 | (112) | (84) | 30 | 4.79 | N-41°-E | 弧状 | レンズ状 | | | | 須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕 | |
| SK5 | 5 | 土坑 | 22 | | E9-10 | (86) | (26) | 9 | 4.77 | N-38°-E | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SK6 | 6 | 土坑 | 22 | | E9-10 | 62 | 44 | 79 | 4.12 | N-42°-E | 長方形 | | | | | | |
| SD7 | 7 | 溝 | 22・23 | | C6-20,25 D6-16,21 | (116) | (92~150) | 26 | 4.69~4.70 | N-41°-W | 弧状 | 単層 | | | | 須恵器甕 | |
| SK8 | 8 | 土坑 | 22 | | E8-7 | (60) | (30) | 5 | 4.89 | N-33°-E | (楕円形) | | | | | | |
| SD9 | 9 | 溝 | 22 | | E8-1,6 | (70) | (28) | 46 | 4.51 | N-3°-E | | | | | | | |
| SP10 | 10 | ピット | 22 | | E8-1 | 40 | 30 | 7 | 4.90 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD11 | 11 | 溝 | 22 | | D7-25 D8-5 | (200) | (24~46) | 6~11 | 4.84~4.89 | N-2°-W | | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SD12 | 12 | 溝 | 22 | | D6-21 | (110) | (18~30) | 11~12 | 4.82~4.83 | N-80°-W | | | | | | | |
| SK13 | 13 | 土坑 | 22 | | D7-1,2,7 | (172) | (50) | 7~9 | 4.85~4.87 | N-37°-E | (楕円形) | | | | | | |
| SK14 | 14 | 土坑 | 22 | | D8-5 | (58) | (30) | 5 | 4.88 | N-39°-E | (楕円形) | | | | | 土師器無台碗 | |
| SD15 | 15 | 溝 | 22 | | D7-19 | (106) | (20) | 45 | 4.51 | N-28°-W | | | | | | | |
| SP16 | 16 | ピット | 22・24 | 25 | D7-2,7 | 28 | 22 | 16 | 4.84 | | 楕円形 | 半円状 | レンズ状 | | | | |
| SD17 | 17 | 溝 | 22 | | D7-1,2,7 | (150) | (48~72) | 11~12 | 4.82~4.82 | N-21°-W | | | | | | | |
| SD18 | 18 | 溝 | 22・24 | 25 | D7-7,8,12,13 | (178) | (150~200) | 15 | 4.85~4.90 | N-38°-E | 弧状 | 単層 | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD19 | 19 | 溝 | 22 | | D7-19,20,24,25 | (170) | (66~72) | 4~7 | 4.93~4.96 | N-83°-E | | | | | | 土師器無台碗、黒色土器無台碗 | |
| SD20 | 20 | 溝 | 22 | | D7-19,24 | (144) | (28~38) | 4~9 | 4.89~4.96 | N-22°-W | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SP21 | 21 | ピット | 22 | | D6-21 | 30 | 26 | 23 | 4.71 | | 円形 | | | | | | |
| 河川 23 | 23 | 河川 | 13 | | | | | | | | | | | | | C 区下層と同一 | |

F 区

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|----|-------|------|-------------------------|---------|----------|------|-----------|---------|-------|-----|----|---------|---|--|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD1 | 1 | 溝 | 25 | | V6-19,20 | (124) | (28) | 3~4 | 5.40 | N-86°-E | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SK2 | 2 | 土坑 | 25 | | V6-19 | (88) | (74) | 8 | 5.45 | | (楕円形) | | | | | | |
| SD3 | 3 | 溝 | 25 | | V6-18,19,20 | (326) | (32~50) | 5~25 | 5.25~5.45 | N-87°-E | | | | | | 土師器無台碗・長甕・珠洲焼甕 | |
| SD4 | 4 | 溝 | 25 | | V6-18,19 | (250) | (40) | 4~26 | 5.27~5.49 | N-82°-E | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SD5 | 5 | 溝 | 25・27 | 27 | U6-15,20 V6-11,16,17,18 | (480) | (70~114) | 20 | 5.43 | N-65°-E | 半円状 | 単層 | | | | 須恵器杯蓋・小型壺・甕、土師器無台碗・長甕、古銭 (元祐通寶)、木製品 (棒状) | |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名(No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|------------|-----|----------|------|--|---------|-----------|-------|-------------|---------|-------|-------|------|---------|----|------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 高さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SP6 | 6 | ピット | 25 | | V6-16 | 18 | 14 | 9 | 5.50 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD7 | 7 | 溝 | 25 | | U6-15,20 V6-16 | (152) | (60~82) | 11~12 | 5.46~5.47 | N-56°-E | | | | | | 土師器長甕 | |
| SK8 | 8 | 土坑 | 25 | | V6-11,12,16, 17 | (124) | (46~82) | 10 | 5.47 | N-83°-E | | | | | | | |
| SD9 | 9 | 溝 | 25・27 | 27 | X6-22,23 X7-1,2,3 | (198) | (118~148) | 44 | 5.20~5.22 | N-65°-W | 弧状 | レンズ状 | | | | 須恵器長頸瓶・甕、 土師器無台碗・長甕 | |
| SD10 | 10 | 溝 | 25・27 | 27 | W6-18,19,20, 23,24,25 X6-16,21 | (164) | (440) | 40 | 5.24~5.30 | N-4°-W | 台形状 | レンズ状 | | | | 木製品 (榿・棒状) | |
| SK11 | 11 | 土坑 | 25・27 | 27 | X6-21 | (128) | (88) | 80 | 4.48 | N-52°-E | (楕円形) | U字状 | レンズ状 | | | | |
| SD12 | 12 | 溝 | 25 | | V6-20 | (56) | (38) | 13 | 5.20 | N-5°-E | | | | | | | |
| SD14 | 14 | 溝 | 25・27 | 26 | U6-12,13,18, 19 | (380) | (20~38) | 27 | 5.00~5.08 | N-60°-E | 半円状 | ブロック状 | | | | 珠洲焼甕 | |
| SP15 | 15 | ピット | 25 | | U6-14 | 28 | 20 | 11 | 5.11 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP16 | 16 | ピット | 25 | | U6-13 | 22 | 20 | 8 | 5.13 | | 円形 | | | | | | |
| SP17 | 17 | ピット | 25 | | R5-1 | 36 | 30 | 17 | 4.70 | | 方形 | | | | | | |
| SP18 | 18 | ピット | 25 | | R5-1 | 18 | 14 | 11 | 4.78 | | 長方形 | | | | | | |
| 河川 20 | 20 | 河川 | 25・26・29 | 28 | M3-12,13,14, 15,18,19,20 N3-11,16,17, 18,19,20,23, 24,25 O3-16,17,21, 22,23, 24,25 P3-21 Q4-4,5 P4-1,2,3,7,8,9, 10,14,15 Q4-11,12,16, 17,18,19,23, 24,25 Q5-5 | (1910) | | (75) | (4.26~4.56) | N-71°-E | | | | | | 土師器長甕、木製品 (箸状) | |
| SD23 | 23 | 溝 | 25 | | T6-10,15 U6-11 | (308) | (26~96) | 6~11 | 4.98~5.03 | N-46°-E | | | | | | | |
| SK24 | 24 | 土坑 | 25 | | T6-15 U6-11 | (82) | (44) | 13 | 4.95 | N-74°-E | (楕円形) | | | | | | |
| SK25 | 25 | 土坑 | 26 | | L3-3 | 62 | 18 | 6 | 5.27 | N-63°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SD26 | 26 | 溝 | 26 | | L2-23 L3-2,3 | (170) | (20~24) | 4~13 | 5.19~5.28 | N-50°-W | | | | | | | |
| SP27 | 27 | ピット | 26 | | K3-1 | 22 | 18 | 15 | 5.24 | | 長方形 | | | | | | |
| SP28 | 28 | ピット | 26 | | K3-1 | 38 | 30 | 16 | 5.24 | | 長方形 | | | | | | |
| SP29 | 29 | ピット | 26 | | K3-1 | 22 | 18 | 14 | 5.27 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD30 | 30 | 溝 | 26 | | J2-25 K2-21 J3-5 K3-1 | (42) | (24) | 14 | 5.33 | N-82°-W | 弧状 | 単層 | | | | 須恵器無台杯・小型 壺 | |
| SD31 | 31 | 溝 | 26・28 | 28 | J2-25 J3-5 | (164) | (79~84) | 23 | 5.23~5.25 | N-4°-E | 弧状 | レンズ状 | | | | 須恵器無台杯、土師 器無台碗 | |
| SP32 | 32 | ピット | 26・29 | | J3-5 | 24 | 22 | 11 | 5.25 | | 円形 | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SD33 | 33 | 溝 | 26 | | J3-5 | (34) | (30) | 20 | 5.27 | N-7°-E | (長方形) | 弧状 | 単層 | | | | |
| SP34 | 34 | ピット | 26・29 | | J3-4 | 40 | 34 | 18 | 5.11 | | 円形 | 半円状 | 柱痕 | | | | |
| SP35 | 35 | ピット | 26 | | J3-4 | 28 | 28 | 8 | 5.30 | | 円形 | | | | | | |
| SP36 | 36 | ピット | 26 | | J3-3 | 32 | 24 | 17 | 5.12 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD37 | 37 | 溝 | 26 | | J3-1,6 | (148) | (30~32) | 8~11 | 5.13~5.16 | N-9°-E | | | | | | | |
| SD38 | 38 | 溝 | 26 | | I3-5,9,10 | (150) | (28~30) | 9~11 | 5.29~5.31 | N-11°-E | | | | | | | |
| SD39 | 39 | 溝 | 26・28 | | I3-6,11 | (146) | (30~40) | 26 | 5.17~5.18 | N-14°-E | 半円状 | 単層 | | | | | |
| SP40 | 40 | ピット | 26 | | J3-5 | 28 | 28 | 14 | 5.23 | | 円形 | | | | | | |
| SD41 | 41 | 溝 | 25 | | U6-18 | (70) | (22) | 10 | 5.04 | N-57°-E | | | | | | | |
| SP42 | 42 | ピット | 25 | | U6-13 | (24) | (16) | 14 | 5.02 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP43 | 43 | ピット | 25 | | U6-13,18 | 18 | 18 | 6 | 5.08 | | 円形 | | | | | | |
| SK44 | 44 | 土坑 | 25 | | U6-12,13,17, 18 | (148) | (26~54) | 5~6 | 5.06~5.07 | N-87°-E | (不整形) | | | | | | |
| SD45 | 45 | 溝 | 26 | | K2-24,25 K3-4,5 | (204) | (42~48) | 7~8 | 5.29~5.30 | N-42°-W | | | | | | 須恵器無台杯、土師 器小甕 | |
| SD46 | 46 | 溝 | 26 | | I3-8,13 | (54) | (24) | 8 | 5.30 | N-45°-E | | | | | | | |
| SP47 | 47 | ピット | 26 | | I3-7 | 28 | 22 | 11 | 5.25 | | 長方形 | | | | | | |
| SP48 | 48 | ピット | 26・29 | 28 | I3-6,7 | 30 | 16 | 39 | 4.99 | | 楕円形 | U字状 | 柱痕 | 19 | 11 | 柱根 (カッラ) | |
| SP49 | 49 | ピット | 26 | | I3-7,12 | 28 | 24 | 10 | 5.22 | | 円形 | | | | | | |
| SP50 | 50 | ピット | 26 | | H3-15 I3-11 | 38 | 28 | 14 | 5.19 | | 長方形 | | | | | 土師器無台碗 | |
| SK51 | 51 | 土坑 | 26・28 | | H3-15 I3-11 | (44) | (32) | 16 | 5.14 | N-77°-W | 箱状 | 単層 | | | | | |
| SD52 | 52 | 溝 | 26・28 | | H3-15 | (138) | (20~30) | 18 | 5.23~5.27 | N-4°-E | 半円状 | 単層 | | | | | |
| SP53 | 53 | ピット | 26 | | H3-15 | (30) | (24) | 7 | 5.27 | | (楕円形) | | | | | | |
| SD54 | 54 | 溝 | 26・28 | | H3-15 | (154) | (20~30) | 19 | 5.21~5.23 | N-7°-E | 半円状 | 単層 | | | | | |
| SD55 | 55 | 溝 | 26・28 | | H3-14,15 | (154) | (36~38) | 45 | 5.20~5.22 | N-10°-E | | | | | | | |
| SK56 | 56 | 土坑 | 26 | | H3-13,14 | (234) | (34~62) | 12~20 | 5.14~5.19 | N-71°-W | | | | | | | |
| SD57 | 57 | 溝 | 26 | | H3-14,19 | (90) | (38~42) | 8~12 | 5.23~5.25 | N-11°-E | | | | | | | |
| SD58 | 58 | 溝 | 26 | | H3-14,19 | (96) | (32~34) | 11 | 5.20 | N-8°-E | | | | | | | |
| SD59 | 59 | 溝 | 25 | | H3-14,19 | (110) | (36~40) | 12~13 | 5.18~5.19 | N-4°-E | | | | | | | |
| SD60 | 60 | 溝 | 26 | | H3-13,18 | (146) | (20~30) | 7~12 | 4.98~5.03 | N-6°-E | | | | | | | |
| SD61 | 61 | 溝 | 26 | | H3-17 | (144) | (18~22) | 16 | 4.94 | N-7°-E | | | | | | | |
| SP62 | 62 | ピット | 25 | | U6-11 | 46 | 26 | 7 | 5.03 | N-78°-E | 不整形 | | | | | | |
| SP63 | 63 | ピット | 25 | | U6-12 | 28 | 22 | 5 | 5.07 | | 長方形 | | | | | | |
| SP64 | 64 | ピット | 26・29 | 28 | J3-3 | 30 | 26 | 13 | 5.15 | | 方形 | 半円状 | 柱痕 | | | | |
| SP65 | 65 | ピット | 26 | | J3-7 | 28 | 18 | 19 | 5.10 | | 楕円形 | | | | | | |
| SK66 | 66 | 土坑 | 26 | | G4-2,6,7 | (200) | (78) | 6~9 | 4.87~4.89 | N-62°-W | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|--------------------------|---------|-------------|---------|-------------|---------|-------|-----|-------|---------|---|------|--------------------|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SP67 | 67 | ビット | 26 | | F4-13 | 44 | 26 | 8 | 4.76 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP68 | 68 | ビット | 26 | | F4-13 | 40 | 28 | 9 | 4.75 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP69 | 69 | ビット | 26・28 | | F4-11 | (26) | (18) | 14 | 4.67 | | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SP70 | 70 | ビット | 26 | | F4-11 | 34 | 26 | 14 | 4.67 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP71 | 71 | ビット | 26 | | F4-11 | 32 | 24 | 15 | 4.64 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP72 | 72 | ビット | 26 | | F4-11 | 26 | 26 | 23 | 4.58 | | 円形 | | | | | | |
| SD74 | 74 | 溝 | 26・28 | 28 | E4-8,9,10,14,15 | (156) | (92) | 32 | 4.59 ~ 4.63 | N-87°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | | 須恵器無台杯 |
| SD76 | 76-1 | 溝 | 26・28 | 28 | F4-9,10,12,13,14,15 G4-6 | (224) | (250) | 10 ~ 17 | 4.74 ~ 4.81 | N-78°-E | | | | | | | 須恵器長頸瓶、土師器長甕 |
| | 76-2 | | | | E4-14,15 F4-11 | (166) | (170 ~ 190) | 12 | 4.68 ~ 4.71 | N-54°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SP77 | 77 | ビット | 26 | | G3-24 | 26 | 24 | 5 | 4.85 | | 円形 | | | | | | 土師器無台碗 |
| SD78 | 78 | 溝 | 26・28 | | G3-24 | (48) | (36) | 20 | 4.76 | N-29°-E | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD79 | 79 | 溝 | 26・28 | 28 | G3-23,24, G4-3,4 | (122) | (150 ~ 168) | 49 | 4.34 ~ 4.44 | N-22°-E | | 台形状 | ブロック状 | | | | 土師器長甕 |
| SP80 | 80 | ビット | 25 | | U6-19 | 30 | 20 | 13 | 5.06 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP81 | 81 | ビット | 25 | | U6-19 | 18 | 16 | 14 | 5.07 | | 方形 | | | | | | |
| SP82 | 82 | ビット | 25 | | U6-13,18 | 20 | 20 | 12 | 5.08 | | 円形 | | | | | | |
| SD83 | 83 | 溝 | 25 | | T6-6,7 | (142) | (34) | 11 | 5.01 | N-71°-E | | | | | | | |
| SP84 | 84 | ビット | 26 | | K2-23 | (30) | (28) | 31 | 5.03 | | (方形) | | | | | | |
| SP85 | 85 | ビット | 25 | | T6-8,13 | 26 | 26 | 14 | 4.96 | | 円形 | | | | | | 土師器無台碗 |
| SD86 | 86 | 溝 | 25 | | T6-8,13 | (120) | (64) | 9 ~ 17 | 4.93 ~ 5.01 | N-65°-W | | | | | | | |
| SK87 | 87 | 土坑 | 25 | | T6-7,8 | 50 | 44 | 8 | 5.02 | N-27°-E | 円形 | | | | | | |
| SP88 | 88 | ビット | 25 | | T6-7 | 24 | 22 | 27 | 4.86 | | 方形 | | | | | | |
| SP89 | 89 | ビット | 26 | | I3-10 | 30 | 16 | 10 | 5.25 | | 楕円形 | | | | | | 土師器無台碗 |
| SD90 | 90 | 溝 | 25・28 | 28 | S5-23,24 S6-3,4 | (140) | (250 ~ 310) | 23 | 4.84 ~ 4.90 | N-25°-W | | 台形状 | 単層 | | | | 土師器無台碗・小甕 |
| SP91 | 91 | ビット | 26 | | H3-16 | 24 | 22 | 13 | 4.91 | | 円形 | | | | | | |
| SD92 | 92 | 溝 | 26 | | G3-20,25 H3-16,21,22 | (340) | (32 ~ 44) | 11 ~ 14 | 4.89 ~ 4.92 | N-88°-E | | | | | | | |
| SP93 | 93 | ビット | 26 | | G3-25 | 44 | 32 | 32 | 4.70 | | 楕円形 | | | | | | |
| SK94 | 94 | 土坑 | 26 | | I3-8 | (52) | (20) | 10 | 5.31 | N-77°-W | (長方形) | | | | | | |
| SK95 | 95 | 土坑 | 26 | | G3-24,25 | (198) | (84) | 7 ~ 10 | 4.87 ~ 4.90 | N-62°-W | | | | | | | |
| SD96 | 96 | 溝 | 26・28 | | G4-2,3 | (70) | (52) | 23 | 4.73 | N-64°-W | | 半円状 | 単層 | | | | |
| SP97 | 97 | ビット | 26 | | G4-6 | (32) | (24) | 6 | 4.89 | | (楕円形) | | | | | | |
| SK98 | 98 | 土坑 | 26 | | G4-6 | (42) | (36) | 10 | 4.86 | N-67°-W | (長方形) | | | | | | |
| SP99 | 99 | ビット | 26 | | G4-6 | 24 | 18 | 12 | 4.84 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP100 | 100 | ビット | 26 | | G4-6 | 24 | 14 | 8 | 4.86 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP101 | 101 | ビット | 26 | | G4-2,7 | (28) | (20) | 7 | 4.80 | | (長方形) | | | | | | |
| SP102 | 102 | ビット | 26 | | G4-7 | 24 | 18 | 8 | 4.81 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP103 | 103 | ビット | 26 | | G4-6,7 | 34 | 22 | 10 | 4.79 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP104 | 104 | ビット | 25 | | T6-10,15 | 44 | 30 | 21 | 4.88 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD105 | 105 | 溝 | 25 | | V6-19 | (150) | (50 ~ 60) | 23 ~ 28 | 5.25 ~ 5.27 | N-26°-W | | | | | | | |
| SK106 | 106 | 土坑 | 26 | | I3-5,10 | (64) | (26) | 5 | 5.03 | N-67°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SP107 | 107 | ビット | 26 | | I3-4,5 | 18 | 16 | 11 | 5.00 | | 円形 | | | | | | |
| SP108 | 108 | ビット | 25 | | T6-10,15 | (42) | (24) | 5 | 4.94 | | (円形) | | | | | | |
| SD109 | 109 | 溝 | 25 | | X7-2,3,4,8 | (190) | (74 ~ 170) | 3 ~ 10 | 5.22 ~ 5.30 | N-55°-W | | | | | | | 須恵器杯蓋・甕、土師器長甕、珠洲焼甕 |

※ 13、19、21、22、73、75 は欠番

G 区

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|-------|--|---------|-------------|---------|-------------|---------|-------|-----|------|---------|---|------|--|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SD1 | 1 | 溝 | 30 | | I2-6,7 | (120) | (72) | 4 ~ 6 | 4.94 ~ 4.96 | N-11°-E | | | | | | | |
| SP2 | 2 | ビット | 30 | | K2-8,13 | 26 | 14 | 6 | 5.08 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD3 | 3 | 溝 | 30 | | K2-8,12,13 | (58) | (12) | 6 | 5.08 | N-18°-W | | | | | | | |
| SP4 | 4 | ビット | 30 | | K2-12,13 | 16 | 16 | 20 | 4.93 | | 円形 | | | | | | |
| 河川 5 | 5 | 河川 | 30・31 | 29・30 | J2-14,15,19,20 K2-11,12,16 | (150) | (550) | 24 | 4.79 ~ 4.96 | N-4°-W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD6 | 6 | 溝 | 30 | 29 | H2-23,24 H3-3,4 | (152) | (126 ~ 146) | 36 ~ 38 | 4.66 ~ 4.68 | N-25°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SD7 | 7 | 溝 | 30 | | H3-3 | (44) | (40) | 14 | 4.88 | N-18°-E | | | | | | | |
| SD8 | 8 | 溝 | 30 | | H3-2,3 | (54) | (40) | 11 | 4.91 | N-7°-E | | | | | | | |
| 河川 9 | 9 | 河川 | 30・32 | 30 | F3-8,9,10,12,13,14,15 G3-2,3,4,6,7,8,9 | (150) | (1494) | 149 | 4.24 ~ 4.70 | N-29°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | | 古式土師器高杯・甕・甕、須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕 |
| 河川 10 | 10 | 河川 | 30・32 | 30 | G3-4,5,9,10 H3-1,2 | (150) | (446) | 82 | 4.43 ~ 4.53 | N-33°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | | 古式土師器甕、須恵器鉢・横瓶、土師器小甕、木製品 (下駄) |
| SD11 | 11 | 溝 | 30・31 | 29 | E3-14,15,20 | (140) | (80 ~ 142) | 23 | 4.71 ~ 4.96 | N-22°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SD12 | 12 | 溝 | 30 | | J2-13,17,18 | (32) | (30) | 8 | 4.96 | N-79°-W | | | | | | | |
| SD13 | 13 | 溝 | 30 | | J2-16,21 | (104) | (22 ~ 26) | 12 ~ 13 | 4.95 ~ 4.96 | N-6°-W | | | | | | | |
| SD14 | 14 | 溝 | 30 | | I2-20,25 | (92) | (20 ~ 24) | 10 ~ 22 | 4.86 ~ 4.98 | N-4°-E | | | | | | | |
| SP15 | 15 | ビット | 30 | | I2-20 | 20 | 18 | 10 | 4.98 | | 円形 | | | | | | |
| SP16 | 16 | ビット | 30 | | I2-18,19,23 | (36) | (18) | 5 | 5.02 | | (楕円形) | | | | | | 古式土師器甕 |
| SD17 | 17 | 溝 | 30 | | J2-13,18 | (142) | (18 ~ 44) | 14 ~ 15 | 4.95 ~ 4.96 | N-1°-W | | | | | | | |
| SP18 | 18 | ビット | 30 | | I2-22 | (42) | (26) | 4 | 4.97 | | (楕円形) | | | | | | |
| SD19 | 19 | 溝 | 30 | | I2-22 | (150) | (24 ~ 36) | 7 ~ 9 | 4.91 ~ 4.93 | N-12°-W | | | | | | | |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|--|---------|----------|-------|-----------|---------|-----|------|----|---------|---|------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD20 | 20 | 溝 | 30 | | I2-21,22 | (78) | (34) | 8 | 4.94 | N-5°-E | | | | | | | |
| SD21 | 21 | 溝 | 30・32 | 30 | D3-20,25 E3-16,21 | (170) | (42~100) | 27 | 4.56 | N-10°-W | 弧状 | 単層 | | | | | |
| SD22 | 22 | 溝 | 30 | | B4-4,9,10 | (130) | (10~26) | 2~3 | 5.12~5.13 | N-48°-E | | | | | | | |
| SD23 | 23 | 溝 | 30 | | B4-8,9 | (74) | (48) | 12 | 5.11 | N-17°-E | | | | | | | |
| SD24 | 24 | 溝 | 30 | | B4-8 | (78) | (26) | 10~13 | 5.09~5.12 | N-15°-E | | | | | | | |
| SD25 | 25 | 溝 | 30 | | B4-8 | (70) | (28) | 14 | 5.07 | N-18°-E | | | | | | | |
| 河川 26 | 26 | 河川 | 30・32 | 30 | D3-18,19,20, 23,24,25 E3-16,17,18,21 | (146) | (988) | 48 | 4.63~4.84 | N-14°-E | 弧状 | レンズ状 | | | | | |
| SP28 | 28 | ビット | 30 | | B4-9,10 | 20 | 18 | 3 | 5.12 | | 円形 | | | | | | |

※ 27 は欠番

H 区

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|--|---------|---------|-------|-----------|---------|----------|------|------|---------|---|-----------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| 河川 1 | 1 | 河川 | 33・34 | 31 | G3-24,25 H3-21,22 H4-1 | (164) | (280) | 138 | 4.57~4.75 | N-45°-E | 半円状 | レンズ状 | | | | 土師器長甕 | |
| 河川 2 | 2 | 河川 | 33・34 | 31 | E4-10,15 F4-3,4,6,7,8,9 | (116) | (814) | 50~88 | 4.56~4.65 | N-8°-E | (長方形) 弧状 | レンズ状 | | | | 古式土師器高杯、須恵器甕、土師器長甕、木製品 (漆器) | |
| SD3 | 3 | 溝 | 33・34 | 31 | D4-13,14,18, 19 | (106) | (104) | 20 | 4.70 | N-3°-E | 台形状 | 単層 | | | | | |
| SK4 | 4 | 土坑 | 33 | | C4-20 D4-16 | (94) | (46) | 10~12 | 5.03~5.05 | N-86°-W | (長方形) | | | | | | |
| 河川 5 | 5 | 河川 | 33・34 | 31 | A5-13,14,15, 17,18,19,20, 22,23,24 | (262) | (470) | 30 | 4.62~4.78 | N-85°-E | 弧状 | 単層 | | | | | |
| SD6 | 6 | 溝 | 33 | | E4-12 | (140) | (26~38) | 10~14 | 4.89~4.93 | N-1°-W | | | | | | | |
| SK7 | 7 | 土坑 | 33 | | E4-12 | (42) | (34) | 11 | 4.94 | N-77°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SP8 | 8 | ビット | 33 | | E4-12 | 16 | 16 | 9 | 4.94 | | 円形 | | | | | | |
| SK9 | 9 | 土坑 | 33 | | E4-11,12 | 124 | 44 | 6~9 | 4.91~4.94 | N-74°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SK10 | 10 | 土坑 | 33 | | D4-15 E4-11 | 44 | 40 | 14 | 4.76 | | 方形 | | | | | 土師器無台碗 | |
| SK11 | 11 | 土坑 | 33 | | B4-25 | 54 | 34 | 8 | 4.97 | N-89°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SK12 | 12 | 土坑 | 33・34 | 31 | H3-21 | (138) | (108) | 46 | 4.15 | N-85°-E | (楕円形) | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SK14 | 14 | 土坑 | 33 | | E4-11 | (124) | (82) | 13 | 4.87 | N-83°-W | | | | | | | |
| SD15 | 15 | 溝 | 33 | | E4-11 | (54) | (30) | 10 | 4.86 | N-5°-E | | | | | | | |
| SD16 | 16 | 溝 | 33 | | E4-11,12 | (64) | (32) | 4 | 4.92 | N-6°-E | (楕円形) | | | | | | |
| SK17 | 17 | 土坑 | 33・34 | | E4-10 F4-6 | (124) | (94) | 40 | 4.32 | N-77°-W | (長方形) 弧状 | 水平 | | | | | |

I 区

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|--------------|-------------|-----|-------|------|-------------|---------|---------|-------|-----------|---------|----------|-----|----------|----------|---------------|---------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD1 | 1 | 溝 | 35 | | P7-6,7,11 | (188) | (34~80) | 11~17 | 4.83~4.89 | N-28°-W | | | | | | 須恵器甕 | |
| SK2 | 2 | 土坑 | 35 | | O7-10 | 56 | 48 | 15 | 4.87 | | 方形 | | | | | 土師器無台碗 | |
| SP3 | 3 | ビット | 35・37 | | O7-4 | 46 | 42 | 36 | 4.54~4.74 | | 方形 | 階段状 | ブロック状 | | | | |
| SP4 | 4 | ビット | 35 | | O7-3 | 34 | 32 | 8 | 4.87 | | 円形 | | | | | 須恵器甕 | |
| SK5 | 5 | 土坑 | 35 | | O6-23 O7-3 | 64 | 50 | 13 | 4.81 | N-66°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SP6 | 6 | ビット | 35 | | O7-2 | 24 | 20 | 6 | 4.87 | | 円形 | | | | | | |
| SP7 | 7 | ビット | 35 | | O7-9 | 22 | 18 | 14 | 4.80 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD8 | 8 | 溝 | 35 | | P7-6,11 | (90) | (38) | 9 | 4.91 | N-12°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SK9 | 9 | 土坑 | 35 | | P7-6 | 66 | 36 | 17 | 4.83 | N-56°-E | 楕円形 | | | | | 土師器小甕 | |
| SD10 | 10 | 溝 | 35 | | P7-6 | (70) | (32) | 16 | 4.84 | N-8°-E | | | | | | 土師器無台杯 | |
| SD11 | 11 | 溝 | 35 | | N6-18,23 | (76) | (30~38) | 25 | 4.45~4.67 | N-14°-W | 台形状 | 単層 | | | | | |
| SD12 | 12 | 溝 | 35 | | M6-15,20 | (208) | (22~30) | 9~12 | 4.88~4.91 | N-19°-W | | | | | | | |
| SP13 | 13 | ビット | 35 | | M6-20 | 20 | 16 | 5 | 4.95 | | 楕円形 | | | | | | |
| SK14 | 14 | 土坑 | 35・37 | | M6-19,20 | 70 | 54 | 27 | 4.78 | N-89°-W | 楕円形 | 台形状 | レンズ状 | | | | |
| SP15 | 15 | ビット | 35 | | L6-20 | 42 | 30 | 9 | 4.96 | | 楕円形 | | | | | | |
| SK16 | 16 | 土坑 | 35 | | L6-14,15,19 | (122) | (118) | 21~24 | 4.82~4.85 | N-10°-W | | | | | | 須恵器無台杯 | |
| SD17 | 17 | 溝 | 35 | | L6-13,14,19 | (152) | (48~60) | 8~13 | 4.93~4.98 | N-3°-E | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SP18 | 18 | ビット | 35 | | L6-17 | 34 | 32 | 2 | 4.95 | | 方形 | | | | | | |
| SK19 | 19 | 土坑 | 35 | | L6-17 | 60 | 34 | 5 | 4.92 | N-3°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SK20 | 20 | 土坑 | 35 | | P7-7 | (78) | (46) | 3~13 | 4.87~4.97 | N-62°-E | (楕円形) | | | | | | |
| SP21 | 21 | ビット | 35 | | P7-7 | (32) | (14) | 9 | 4.92 | | (円形) | | | | | | |
| SD22 | 22 | 溝 | 35 | | P7-7,12 | (104) | (30~44) | 4~10 | 4.91~4.97 | N-56°-W | | | | | | | |
| SK23 | 23 | 土坑 | 35 | | P7-6 | (50) | (36) | 12 | 4.88 | | (楕円形) | | | | | 土師器長甕 | |
| SK24 | 24 | 土坑 | 35 | | O7-10 | (60) | (36) | 13 | 4.89 | N-68°-E | (長方形) | | | | | | |
| SK25 | 25 | 土坑 | 35 | | P7-6 | (44) | (36) | 9 | 4.91 | N-4°-E | (楕円形) | | | | | 土師器無台杯・無台碗・小甕 | |
| SP26 | 26 | ビット | 35 | | P7-6 | 42 | 36 | 23 | 4.77 | | 方形 | | | | | | |
| SK27 | 27 | 土坑 | 35 | | P7-6 | (44) | (38) | 21 | 4.79 | N-21°-W | (楕円形) | | | | | 土師器小甕 | |
| SP28 | 28 | ビット | 35 | | O7-10 | 34 | 30 | 31 | 4.70 | | 円形 | | | | | | |
| SP29 (SB1-1) | 29 | ビット | 35・36 | 33 | J6-24 J7-4 | 70 | | 102 | 3.88 | N-86°-W | (円形) U字状 | 柱痕 | 99 55 | 22 20 | 土師器小甕・柱根 (くり) | SB1 | |

| 報告遺構名 | 現場遺構名(No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高(m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|--------------|------------|-----|-------|------|-----------------|---------|-----------|-------|-----------|---------|-------|-----|------|---------|----|------------------------------|-----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SP30 (SB1-2) | 30 | ピット | 35・36 | 33 | J6-23 | 80 | | 75 | 4.10 | | (円形) | U字状 | 柱痕 | 145 | 21 | 柱根(クリ) | SB1 |
| SK31 | 31 | 土坑 | 35 | | J6-25 K6-21 | 78 | 76 | 31 | 4.64 | | 円形 | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD32 | 32 | 溝 | 36 | | I7-8,9,13,14 | (140) | (74~78) | 17 | 4.84 | N-4°-E | | | | | | 土師器小甕 | |
| SP33 | 33 | ピット | 36 | | I7-22 | (30) | (16) | 11 | 4.95 | | (楕円形) | | | | | | |
| SK34 | 34 | 土坑 | 36・37 | 33 | I8-11,12 | (128) | (64) | 24 | 4.94 | N-1°-W | (楕円形) | 台形状 | 単層 | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SK35 | 35 | 土坑 | 36 | | I8-16,17 | (34) | (20) | 8 | 5.04 | N-3°-W | (円形) | | | | | 土師器小甕 | |
| SK36 | 36 | 土坑 | 35 | | L6-18,19 | (112) | (56) | 8 | 4.90 | N-87°-W | (楕円形) | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗 | |
| SD37 | 37 | 溝 | 35 | | L6-17 | (78) | (24~30) | 16 | 4.85 | N-44°-E | | | | | | | |
| SD38 | 38 | 溝 | 36 | | I7-13 | (56) | (28) | 5 | 4.94 | N-44°-W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SK39 | 39 | 土坑 | 36 | | I7-12,13,17,18 | 86 | 60 | 19~51 | 4.48~4.78 | N-57°-W | 楕円形 | | | | | 土師器小甕 | |
| SK40 | 40 | 土坑 | 36 | | I7-13,18 | (36) | (20) | 10 | 4.86 | N-56°-W | (円形) | 弧状 | 単層 | | | | |
| SP41 | 41 | ピット | 36 | | I7-12,13 | 38 | 28 | 18 | 4.79 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP42 | 42 | ピット | 36 | | I7-12 | 34 | 24 | 15 | 4.85 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP43 | 43 | ピット | 36 | | I7-16,17 | 26 | 22 | 12 | 4.89 | | 円形 | | | | | | |
| SP44 | 44 | ピット | 36 | | I7-21 | 20 | 20 | 13 | 4.82 | | 円形 | | | | | | |
| SP45 | 45 | 土坑 | 36 | | I7-17,22 | (48) | (28) | 16 | 4.82 | N-9°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SP46 | 46 | ピット | 36 | | I7-22 | (34) | (18) | 11 | 4.85 | | (楕円形) | | | | | | |
| SK47 | 47 | 土坑 | 36・37 | 33 | I8-6,7,11,12 | (66) | (50) | 18 | 4.88 | N-4°-W | (楕円形) | 台形状 | レンズ状 | | | 石製品(砥石) | |
| SP48 | 48 | ピット | 35 | | K6-20 | 22 | 22 | 11 | 4.82 | | 円形 | | | | | | |
| SD49 | 49 | 溝 | 36 | | I7-8,13 | (94) | (26~32) | 8 | 4.92 | N-63°-W | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SP50 (SB1-3) | 50 | ピット | 35・36 | | J6-22 | 73 | | (54) | 3.78 | N-86°-W | (円形) | U字状 | 柱痕 | 142 | 23 | 土師器小甕・柱根(クリ) | SB1 |
| SP51 | 51 | ピット | 36 | | I7-17 | 28 | 18 | 17 | 4.78 | | 長方形 | | | | | | |
| SD52 | 52 | 溝 | 36 | | I7-13 | (28) | (18) | 13 | 4.83 | N-27°-E | | | | | | | |
| SK53 | 53 | 土坑 | 36 | | I7-13 | 98 | 82 | 24 | 4.74 | N-52°-E | 円形 | | | | | | |
| SP54 | 54 | ピット | 36 | | I7-13,14 | 20 | 18 | 14 | 4.83 | | 円形 | | | | | | |
| SP55 | 55 | ピット | 36 | | I7-13,14 | 20 | 18 | 15 | 4.83 | | 円形 | | | | | | |
| SK56 | 56 | 土坑 | 36 | | I7-13 | (48) | (28) | 15 | 4.84 | N-54°-E | (円形) | | | | | | |
| SP57 | 57 | ピット | 35 | | K6-22 | 20 | 18 | 15 | 4.79 | | 円形 | | | | | | |
| SD58 | 58・59 | 溝 | 35・37 | | N6-20,25 O6-21 | (190) | (194~216) | 12 | 4.72~4.76 | N-24°-W | | 弧状 | 単層 | | | 須恵器無台杯・長頸瓶・甕・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SX60 | 60・61 | 不明 | 35・37 | | O6-21,22 O7-1,2 | (210) | (112) | 18 | 4.71~4.73 | N-81°-W | (不整形) | 弧状 | 単層 | | | 須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・長頸瓶・甕・土師器長甕・小甕 | |
| SP62 | 62 | ピット | 35 | | O6-21 | 32 | 30 | 27 | 4.59 | | 円形 | | | | | 土師器小甕 | |
| SD63 | 63 | 溝 | 35・37 | | O6-21 | (128) | (50~68) | 20 | 4.75~4.76 | N-22°-W | | 弧状 | 単層 | | | 須恵器無台杯 | |
| SP64 | 64 | ピット | 35・37 | 33 | M6-13,18 | (52) | (52) | 46 | 4.53 | | (楕円形) | 漏斗状 | レンズ状 | | | | |
| SK65 | 65 | 土坑 | 35 | | M6-18,19 | (80) | (24) | 16 | 4.90 | N-80°-W | (長方形) | | | | | | |
| SP66 | 66 | ピット | 35 | | M6-17 | 34 | 28 | 19 | 4.83 | | 楕円形 | | | | | | |
| SK67 | 67 | 土坑 | 35 | | L6-19 | 66 | 54 | 32 | 4.72 | N-1°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SK68 | 68 | 土坑 | 35 | | J7-1 | (92) | (60) | 15 | 4.83 | N-80°-E | | | | | | | |
| SP70 | 70 | ピット | 35 | | P7-6,7 | 38 | 38 | 26 | 4.57 | | 円形 | | | | | | |
| SP71 | 71 | ピット | 35 | | P7-6,11 | 30 | 30 | 21 | 4.68 | | 円形 | | | | | | |
| SD72 | 72 | 溝 | 36 | | I7-12,18 | (148) | (26~40) | 14 | 4.71~4.84 | N-34°-E | | 半円状 | 単層 | | | | |
| SP73 | 73 | ピット | 35 | | L6-14,19 | 30 | 26 | 33 | 4.57 | | 円形 | | | | | | |

※69は欠番

J 区

| 報告遺構名 | 現場遺構名(No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高(m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|------------|-----|----------|------|----------------|---------|-----------|-------|-----------|---------|-------|-----|------|---------|---|---|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD1 | 1 | 溝 | 38・39 | | S7-8,9,13,14 | (230) | (38~48) | 43 | 4.33 | N-70°-W | | | | | | 須恵器無台杯・甕・土師器小甕 | |
| SD2 | 2 | 溝 | 38・39 | | S6-17,22 S7-2 | (272) | (28~40) | 5~6 | 4.74~4.75 | N-2°-W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SP3 | 3 | ピット | 38・39 | | S7-8 | 30 | 30 | 34 | 4.42 | | 円形 | | | | | | |
| SK4 | 4 | 土坑 | 38・39 | | S7-3 | 54 | 54 | 54 | 4.25 | | 方形 | | | | | | |
| SP5 | 5 | ピット | 38・39 | | S7-3 | 26 | 22 | 28 | 4.50 | | 円形 | | | | | | |
| SP6 | 6 | ピット | 38・39 | | S7-2 | 28 | 22 | 9 | 4.70 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP7 | 7 | ピット | 38・39 | | S7-2,3 | 24 | 22 | 25 | 4.56 | | 円形 | | | | | | |
| SP8 | 8 | ピット | 38・39 | | S7-2 | 30 | 28 | 15 | 4.65 | | 方形 | | | | | | |
| SP9 | 9 | ピット | 38・39 | | S6-22 | (34) | (26) | 28 | 4.54 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP10 | 10 | ピット | 38・39 | | S6-22 S7-2 | 26 | 22 | 31 | 4.49 | | 円形 | | | | | | |
| SD11 | 11 | 溝 | 38・39 | | S6-23 | (40) | (20) | 12 | 4.68 | N-27°-W | | | | | | | |
| SD12 | 12 | 溝 | 38・39 | | R6-15 S6-11 | (268) | (24~44) | 12 | 4.91 | N-82°-W | | | | | | 土師器小甕 | |
| SD13 | 13 | 溝 | 38・39 | | R6-14,15 S6-11 | (270) | (32~60) | 13 | 4.87 | N-74°-E | | | | | | | |
| SP14 | 14 | ピット | 38・39 | | R6-10 | 26 | 22 | 16 | 4.90 | | 円形 | | | | | | |
| SK15 | 15 | 土坑 | 38・39・40 | 36 | R6-3,4,5,9 | (270) | (100~116) | 36~38 | 4.69~4.84 | N-65°-E | 不整形 | 半円状 | レンズ状 | | | 須恵器有台碗・無台杯・甕・土師器無台碗・長甕・小甕・黒色土器無台碗・両面黒色土器無台碗・木製品(斎申) | |
| SP16 | 16 | ピット | 38・39 | | R6-9 | 40 | 36 | 66 | 4.41 | | 円形 | | | | | | |
| SD17 | 17 | 溝 | 38・39 | | R5-17,18,23 | (242) | (26~40) | 15 | 4.92 | N-61°-E | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD18 | 18 | 溝 | 38・39 | | R5-23 R6-3 | (78) | (40) | 20 | 4.81 | N-44°-W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD19 | 19 | 溝 | 38・39 | | R6-5,9,10 | (136) | (36) | 46 | 4.62 | N-51°-W | | | | | | | |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 | |
|-------|-------------|-----|----------|------|-------------------------------|---------|-----------|-------|-----------|---------|-------|-----|------|---------|---|-----------------------------------|---|--|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SD20 | 20 | 溝 | 38・39・41 | 37 | Q5-4.5,10 R5-6,11,12,17,18 | (842) | (52~64) | 22 | 4.83~4.87 | N-52°-E | | 半円状 | レンズ状 | | | 土師器無台杯・無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗・土製品(かざり) | | |
| SD21 | 21 | 溝 | 38・39 | | R6-9,10 | (130) | (22~40) | 6 | 5.01 | N-43°-W | | | | | | | | |
| SD22 | 22 | 溝 | 38・39 | | Q5-10,15 R5-6,11 | (78) | (46) | 22 | 4.92 | N-50°-W | | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SK23 | 23 | 土坑 | 38・39 | | R5-6 | (70) | (32) | 29 | 4.83 | N-47°-E | | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD24 | 24 | 溝 | 38・39 | | Q5-10 | (64) | (48) | 23 | 4.91 | N-52°-W | | | | | | | 土師器無台杯・長甕・小甕 | |
| SD25 | 25 | 溝 | 38・39 | | Q5-5,9,10 R5-6 | (250) | (18~28) | 7 | 5.08 | N-81°-E | | | | | | | 土師器無台杯・無台碗・長甕・小甕 | |
| SP26 | 26 | ピット | 38・39 | | Q5-5 | 32 | 30 | 29 | 4.88 | | | 円形 | | | | | 土師器長甕 | |
| SD27 | 27 | 溝 | 38・39 | | Q5-4.5 | (142) | (20~46) | 19~32 | 4.88~5.00 | N-85°-E | | | | | | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台杯・無台碗・長甕・小甕 | |
| SP28 | 28 | ピット | 38・39 | | Q5-5 | 30 | 28 | 23 | 4.97 | | | 円形 | | | | | 土師器無台碗・無台杯・長甕 | |
| SK29 | 29 | 土坑 | 38・39・40 | 37 | Q4-24 Q5-4.5 | 82 | 72 | 15 | 4.97 | N-76°-E | 円形 | 弧状 | レンズ状 | | | | 須恵器有台碗・無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、両面黒色土器無台碗 | |
| SD30 | 30 | 溝 | 38・39 | | Q4-24 Q5-4 | (228) | (20~38) | 24 | 4.90 | N-10°-W | | | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・無台杯・長甕・小甕、鉢 | |
| SD31 | 31 | 溝 | 38・39 | | Q4-19,24,25 Q5-5 R5-1,6 | (720) | (14~36) | 8~13 | 5.00~5.06 | N-36°-E | | | | | | | 須恵器有台碗・無台杯・甕、土師器蓋・無台碗・長甕・小甕・壺、黒色土器無台碗 | |
| SD32 | 32 | 溝 | 38・39 | | Q4-18,23,24 | (318) | (16~36) | 5 | 5.00~5.08 | N-63°-E | | | | | | | 須恵器杯蓋・有台碗、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD33 | 33 | 溝 | 38・39 | | Q4-18,19,23,24 | (286) | (26~40) | 37 | 4.79~4.96 | N-2°-W | | | | | | | 須恵器小型瓶、土師器無台碗・長甕 | |
| SD34 | 34 | 溝 | 38・39・41 | 37 | Q4-13,18,23 | (296) | (40~52) | 26 | 4.83 | N-2°-W | | 半円状 | レンズ状 | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SD35 | 35 | 溝 | 38・39 | | Q4-13,18 | (310) | (30~42) | 15 | 5.01 | N-2°-W | | | | | | | 須恵器甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD36 | 36 | 溝 | 38・39 | | Q4-7,12,13 | (220) | (32~46) | 7~8 | 5.07~5.10 | N-47°-E | | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD37 | 37 | 溝 | 38・39 | | S6-17,21,22 | (212) | (42~54) | 15 | 4.58 | N-64°-W | | | | | | | | |
| SD38 | 38 | 溝 | 38・39 | | Q4-12,13 | (94) | (30) | 11 | 5.04 | N-82°-E | | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SK39 | 39 | 土坑 | 38・39 | | Q4-12,17 | (144) | (46) | 15 | 4.99 | N-40°-E | (楕円形) | | | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP41 | 41 | ピット | 38・39 | | Q4-7 | 42 | 42 | 7 | 5.08 | | | 円形 | | | | | | |
| SD42 | 42 | 溝 | 38・39 | | Q4-7,12 | (270) | (42~56) | 22 | 4.93 | N-2°-W | | | | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD43 | 43 | 溝 | 38・39 | | Q4-7,12 | (228) | (12~26) | 7 | 5.05 | N-2°-E | | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD44 | 44 | 溝 | 38・39 | | Q4-2,7 | (68) | (18) | 10 | 5.05 | N-2°-E | | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SP45 | 45 | ピット | 38・39 | | Q4-6,7 | 26 | 26 | 21 | 4.92 | | | 円形 | | | | | | |
| SD46 | 46 | 溝 | 38・39 | | Q4-1,6,7 | (364) | (26~42) | 15~20 | 4.96~5.00 | N-62°-E | | | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SK47 | 47 | 土坑 | 38・39 | | Q4-1,2 | (56) | (20) | 15 | 4.99 | N-37°-E | (楕円形) | | | | | | | |
| SD48 | 48 | 溝 | 38・39 | | Q4-1,6 | (328) | (40~80) | 18~28 | 4.88~4.93 | N-1°-W | | | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD50 | 50 | 溝 | 38・39 | | Q4-6 | (60) | (56) | 16 | 4.95 | N-60°-W | | | | | | | | |
| SK51 | 51 | 土坑 | 38・39 | | Q4-1 | (52) | (44) | 14 | 5.02 | N-21°-E | (円形) | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD52 | 52 | 溝 | 38・39 | | Q3-21 Q4-1 | (132) | (38) | 9 | 5.06 | N-24°-W | | | | | | | | |
| SP53 | 53 | ピット | 38・39 | | Q4-1 | (24) | (18) | 20 | 4.96 | N-42°-E | | | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗 | |
| SD55 | 55 | 溝 | 38・39 | | P3-25 Q3-21 P4-5 Q4-1,6 | (246) | (12~32) | 6 | 5.00 | N-2°-E | | | | | | | | |
| SD56 | 56 | 溝 | 38・39 | | P3-20,25 P4-5 | (350) | (30~48) | 16~19 | 4.94~4.97 | N-3°-E | | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD57 | 57 | 溝 | 38・39 | | P3-15,20,25 | (296) | (32~72) | 10~18 | 4.89~4.99 | N-9°-W | | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SK58 | 58 | 土坑 | 38・39 | | P3-20 | (72) | (38) | 11 | 5.00 | N-48°-E | (楕円形) | | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SP59 | 59 | ピット | 38・39 | | P3-19 | 22 | 33 | 9 | 4.97 | | | 円形 | | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP60 | 60 | ピット | 38・39 | | P3-19 | 22 | 20 | 8 | 4.98 | | | 円形 | | | | | | |
| SP61 | 61 | ピット | 38・39 | | P3-19 | 22 | 22 | 7 | 5.01 | | | 円形 | | | | | | |
| SD62 | 62 | 溝 | 38・39 | | P3-14,19 | (74) | (24) | 6 | 5.03 | N-23°-W | | | | | | | | |
| SD63 | 63 | 溝 | 38・39 | | P3-14,19 | (258) | (36~48) | 14 | 4.94 | N-19°-W | | | | | | | 土師器無台碗・長甕、土製品 | |
| SD65 | 65 | 溝 | 38・39 | | P3-14,18,19 | (198) | (34~50) | 11 | 4.93 | N-15°-W | | | | | | | | |
| SD66 | 66 | 溝 | 38・39 | | P3-13,14,18 | (166) | (34~46) | 9 | 4.91 | N-17°-W | | | | | | | | |
| SD67 | 67 | 溝 | 38・39・41 | 37 | P3-1,2,3,7,8, 9,12,13,14 | (218) | (458~585) | 57~62 | 4.35~4.84 | N-74°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | | 須恵器無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、金属製品(刀子)、木製品(漆器・弓・曲物) | |
| SD68 | 68 | 溝 | 38・39 | | P2-16,21 P3-1 | (324) | (12~68) | 9 | 4.97 | N-11°-W | | | | | | | | |
| SK69 | 69 | 土坑 | 38・39 | | P2-21 P3-1 | (68) | (34) | 25 | 4.77 | N-36°-E | | | | | | | | |
| SK70 | 70 | 土坑 | 38・39 | | P2-21 | (34) | (30) | 11 | 4.91 | N-58°-W | (楕円形) | | | | | | | |
| SD71 | 71 | 溝 | 38・39・42 | 37 | O2-9,10,14 | (242) | (74~126) | 26 | 4.75~4.81 | N-21°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | | 須恵器長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・鉢、木製品(曲物) | |
| SD72 | 72 | 溝 | 38・39 | | R5-6,7,11 | (230) | (28~50) | 21 | 4.92 | N-51°-W | | | | | | | 土師器小甕 | |

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|----------|------|--------------------------|---------|---------|-------|-----------|---------|-------|------|------|---------|----|------------------------------|------------------------|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SD73 | 73 | 溝 | 38・39 | | R5-11,16 | (100) | (40) | 15 | 4.94 | N-49°-W | | | | | | | |
| SK74 | 74 | 土坑 | 38・39 | | O2-3,4 | (66) | (32) | 13 | 4.94 | N-38°-E | (長方形) | | | | | | |
| SD75 | 75 | 溝 | 38・39 | | Q5-5,10 | (276) | (20~30) | 8~20 | 5.00~5.06 | N-1°-E | | | | | | 須恵器横瓶・土師器無台碗・長甕・小甕・黒色土器無台碗 | |
| SD76 | 76 | 溝 | 38・39 | | P3-14,15,19,20 | (110) | (42) | 11 | 4.98 | N-3°-W | | | | | | | |
| SK77 | 77 | 土坑 | 38・39 | | P3-13 | (70) | (50) | 16 | 4.73 | N-43°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SK78 | 78 | 土坑 | 38・39 | | P3-1,2 | (98) | (56) | | | N-56°-W | | | | | | | |
| SK79 | 79 | 土坑 | 38・39 | | P2-21 | 60 | 40 | 10 | 4.87 | N-81°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SD80 | 80 | 溝 | 38・39 | | O2-10,15 | (178) | (16~30) | 11 | 4.92 | N-19°-E | | | | | | | |
| SD81 | 81 | 溝 | 38・39 | | S6-16,17 | (210) | (32~40) | 17 | 4.88 | N-50°-W | | | | | | | |
| SP82 | 82 | ピット | 38・39・42 | | O1-22,23 O2-2,3 | 50 | 40 | 27 | 4.78 | N-9°-W | 楕円形 | V字状 | 単層 | | | | |
| SD83 | 83 | 溝 | 38・39 | | O1-17,22 | (98) | (56) | 8 | 4.95 | N-15°-W | | | | | | | |
| SP84 | 84 | ピット | 38・39・42 | | O1-22 | 46 | 34 | 20 | 4.84 | N-62°-E | 長方形 | 半円状 | 単層 | | | | |
| SP85 | 85 | ピット | 38・39・42 | 38 | O1-17,22 | 58 | 36 | 27 | 4.78 | N-82°-E | 楕円形 | 箱状 | 柱痕 | | | | |
| SD86 | 86 | 溝 | 38・39・42 | 38 | O1-11,12,16,17, 21,22 | (326) | (26~58) | 27 | 4.86~4.90 | N-8°-W | 半円状 | レンズ状 | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕・黒色土器無台碗 | |
| SE87 | 87 | 井戸 | 38・39・40 | 36 | N1-4,5,9,10 | (228) | (144) | 111 | 3.91 | N-37°-E | (楕円形) | V字状 | レンズ状 | | | | 須恵器甕・土師器無台碗・木製品(倉申・板状) |
| SK88 | 88 | 土坑 | 38・39 | | O1-16 | (68) | (54) | 18 | 4.84 | N-84°-E | 長方形 | | | | | | |
| SK89 | 89 | 土坑 | 38・39・41 | 37 | N1-20,25 O1-16 | (220) | (190) | 9 | 4.83 | N-39°-E | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SK90 | 90 | 土坑 | 38・39・41 | 37 | N1-15,20 | 108 | 68 | 14 | 4.87 | N-52°-W | 楕円形 | 弧状 | レンズ状 | | | | 土師器無台碗 |
| SD91 | 91 | 溝 | 38・39 | | N1-4,8,9,13,14 | (440) | (24~48) | 6~15 | 4.77~4.86 | N-22°-W | | | | | | | |
| SD92 | 92 | 溝 | 38・39・42 | | O1-11 | (144) | (80) | 12 | 4.88 | N-53°-W | 長方形 | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SP93 | 93 | ピット | 38・39 | | N1-15 O1-11 | (38) | (24) | 8 | 4.93 | N-45°-W | 長方形 | | | | | | |
| SP94 | 94 | ピット | 38・39 | | R6-9 | 18 | 18 | 14 | 4.95 | | 円形 | | | | | | |
| SK95 | 95 | 土坑 | 38・39 | | R6-9 | (48) | (44) | 11 | 4.98 | | 方形 | | | | | | |
| SP96 | 96 | ピット | 38・39 | | S7-15 | 40 | 30 | 21 | 4.61 | N-61°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SD97 | 97 | 溝 | 38・39 | | S7-20 | (96) | (24) | 11~29 | 4.54~4.72 | N-4°-E | | | | | | | |
| SD98 | 98 | 溝 | 38・39 | | S7-19 | (60) | (50) | 6~12 | 4.76~4.82 | N-42°-E | | | | | | | |
| SP99 | 99-1 | ピット | 38・39 | | S6-23 | 22 | 18 | 13 | 4.65 | N-35°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SD99 | 99-2 | 溝 | 38・39 | | R6-4,5 | (42) | (18) | 12 | 4.96 | N-86°-W | | | | | | | |
| SP100 | 100 | ピット | 38・39・42 | 38 | O2-3 | (28) | (28) | 53 | 5.22 | | (円形) | | | 71 | 9 | 柱根(クリ) | |
| SP101 | 101 | ピット | 38・39・42 | 38 | O1-22 | (30) | (22) | 68 | 5.38 | N-52°-E | (楕円形) | | | 100 | 12 | 須恵器林蓋・甕・土師器小甕・黒色土器無台碗・柱根(クリ) | |
| SP102 | 102 | ピット | 38・39・42 | | O2-2 | (32) | (22) | 35 | 4.83 | N-37°-E | (不整形) | U字状 | 単層 | | | 土師器長甕・柱根 | |
| SP103 | 103 | ピット | 38・39・42 | 38 | O1-17 | (20) | (14) | 41 | 4.64 | N-24°-W | (楕円形) | U字状 | 単層 | 62 | 11 | 柱根(クリ) | |
| SD104 | 104 | 溝 | 38・39 | | R6-15,20 S6-11,16 | (130) | (46) | 15 | 4.90 | N-48°-W | | | | | | | |
| SD105 | 105 | 溝 | 38・39 | | R6-10,15 | (120) | (38~58) | 17 | 4.91 | N-21°-W | | | | | | | |
| SD106 | 106 | 溝 | 38・39・41 | | N1-14,19 | (126) | (36) | 29 | 4.90 | N-21°-W | | 半円状 | レンズ状 | | | | |
| SK107 | 107 | 土坑 | 38・39・41 | | N1-14,19 | (156) | (120) | 50 | 4.43 | N-34°-E | 台形状 | レンズ状 | | | | 土師器長甕 | |
| SP108 | 108 | ピット | 38・39 | | O2-20 | 12 | 12 | | | | 円形 | | | | | | |
| SD109 | 109 | 溝 | 38・39 | | N1-4,5,9,14 | (434) | (24~36) | 7~21 | 4.76~4.90 | N-23°-W | | | | | | | |
| SK110 | 110 | 土坑 | 38・39 | | N1-4,5 | (80) | (48) | 8~11 | 4.81~4.85 | N-35°-E | (楕円形) | | | | | | |
| SP111 | 111 | ピット | 38・39 | | S7-2,3 | 14 | 14 | 13 | 4.61 | | 円形 | | | | | | |
| SP112 | 112 | ピット | 38・39 | | S7-2 | 18 | 18 | 14 | 4.60 | | 円形 | | | | | | |
| SK113 | 113 | 土坑 | 38・39 | | P3-13 | (80) | (60) | 30 | 4.60 | N-78°-W | (楕円形) | 半円状 | 斜位 | | | | |
| SD114 | 114 | 溝 | 38・39・42 | | O1-11,16,21 | (350) | (10~20) | 22 | 4.83 | N-8°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SP115 | 115 | ピット | 38・39 | | P3-19 | 28 | 22 | 31 | 4.63 | N-29°-W | 楕円形 | | | | | | |

※ 40、49、54、64 は欠番

K 区

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|---------------------|---------|---------|-------|-----------|---------|-------|-----|------|---------|---|---------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SK1 | 1 | 土坑 | 43・44 | 42 | M11-9 | (56) | (42) | 12 | 4.92 | N-47°-E | (楕円形) | 台形状 | | | | 須恵器長頸瓶・甕・土師器無台碗・長甕 | |
| SK2 | 2 | 土坑 | 43・44 | | L10-5,10 M10-1,6 | 148 | 132 | 16 | 4.58 | | 円形 | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SD3 | 3 | 溝 | 43 | | N11-24 N1-3,4,8 | (448) | (30~50) | 11 | 4.73~4.81 | N-19°-W | | 弧状 | 単層 | | | 須恵器有台杯・甕・土師器長甕・小甕・黒色土器無台碗 | |
| SK4 | 4 | 土坑 | 43 | | N11-22 | 62 | 54 | 12 | 4.80 | | 円形 | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・小甕 | |
| SD5 | 5 | 溝 | 43 | | N11-17,18,22 | (394) | (18~38) | 12~16 | 4.75~4.78 | N-28°-W | | | | | | 須恵器無台杯 | |
| SP6 | 6 | ピット | 43 | | N11-16 | 40 | 32 | 15 | 4.77 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD7 | 7 | 溝 | 43 | | N11-16,17,18 | (416) | (36~72) | 17~23 | 4.69~4.75 | N-79°-E | | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP8 | 8 | ピット | 43 | | N11-11 | 24 | 24 | 16 | 4.80 | | 方形 | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|--------------------------------------|---------|-----------|------|-----------|---------|-------|-----|------|---------|----|-----------------------------|---------|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 高さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SP9 | 9 | ビット | 43 | | N11-11 | 28 | 20 | 11 | 4.85 | | 楕円形 | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SP10 | 10 | ビット | 43 | | N11-11 | 38 | 28 | 32 | 4.66 | | 楕円形 | | | | | 須恵器長頸瓶・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP11 | 11 | ビット | 43 | | N11-6,11 | 40 | 36 | 38 | 4.60 | | 円形 | | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SK12 | 12 | 土坑 | 43 | | M11-15 | (90) | (46) | 15 | 4.81 | N-45°-E | | | | | | | |
| SD13 | 13 | 溝 | 43 | | M11-9,10,15 N11-6,11 | (228) | (30~44) | 22 | 4.78~4.79 | N-88°-W | | 台形状 | | | | 土師器長甕 | |
| SD14 | 14 | 溝 | 43 | | N11-12,17 | (160) | (52~96) | | | N-11°-W | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD15 | 15 | 溝 | 43 | | M11-5,10,15 | (326) | (42~78) | 22 | 4.72~4.74 | N-9°-W | | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SP16 | 16 | ビット | 43 | | M11-5,10 | 20 | 18 | 18 | 4.80 | | 円形 | | | | | 土師器長甕 | |
| SP17 | 17 | ビット | 43 | | M11-10,15 | (22) | (12) | 6 | 4.72 | | (楕円形) | | | | | 土師器無台碗 | |
| SD18 | 18 | 溝 | 43 | | M11-5,10 | (262) | (22~48) | 11 | 4.75~4.85 | N-6°-W | | | | | | | |
| SK19 | 19 | 土坑 | 43・44 | 42 | M10-23 | 90 | 86 | 13 | 4.83 | | 円形 | 台形状 | | | | 須恵器長頸瓶・土師器無台碗・長甕・小甕・木製品(板状) | |
| SP20 | 20 | ビット | 43・47 | | M10-24 | 44 | 32 | 34 | 4.90 | | 楕円形 | 半円状 | 単層 | 36 | 9 | 柱根(カツラ) | |
| SD21 | 21 | 溝 | 43 | | M10-23 M11-3 | (116) | (38~52) | 6~10 | 4.83~4.87 | N-10°-E | | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD22 | 22 | 溝 | 43 | | M10-18,23 | (128) | (48) | 11 | 4.77 | N-9°-W | | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD23 | 23 | 溝 | 43 | | M10-17,18,22 | (166) | (24~36) | 12 | 4.70 | N-19°-W | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SK25 | 25 | 土坑 | 43・44 | | M10-17 | (84) | (72) | 19 | 4.65 | N-34°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | | |
| SD26 | 26 | 溝 | 43 | | M10-12,17 | 122 | 32 | 7 | 4.73 | N-72°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SK27 | 27 | 土坑 | 43 | | M10-11 | 82 | 44 | 16 | 4.67 | N-34°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SD28 | 28 | 溝 | 43 | | M10-12,13,18,23 M11-3,4 | (518) | (160) | 26 | 4.62~4.66 | N-13°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SK29 | 29 | 土坑 | 43 | | L10-10 M10-6,11 | (142) | (52) | 8 | 4.73 | N-39°-E | | | | | | | |
| SP30 | 30 | ビット | 43 | | M10-1 | 30 | 26 | 4 | 4.77 | | 円形 | | | | | | |
| SD31 | 31 | 溝 | 43 | | L9-13,14,18,19 | (166) | (22~40) | 14 | 4.69 | N-7°-W | | | | | | | |
| SP32 | 32 | ビット | 47 | 43 | M10-24 M11-4 | (48) | (34) | 64 | 4.39 | N-60°-W | (楕円形) | U字状 | 単層 | 119 | 19 | 柱根(クリ) | |
| SD33 | 33 | 溝 | 43・46 | | L9-20,25 L10-4,5 | (348) | (86~150) | 19 | 4.57~4.63 | N-13°-W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SK34 | 34 | 土坑 | 43 | | D.N1-2,3 | (86) | (32) | 17 | 4.72 | N-22°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SD35 | 35 | 溝 | 43 | | N11-17 | (26) | (26) | 6 | 4.85 | N-32°-W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SK36 | 36 | 土坑 | 43 | | D.N11-6,7,11,12 | (206) | (22~82) | 23 | 4.71~4.76 | N-35°-E | (不整形) | | | | | 須恵器長頸瓶・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SK37 | 37 | 土坑 | 43 | | N11-16 | (68) | (38) | 17 | 4.79 | N-55°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SK38 | 38 | 土坑 | 43 | | N11-11 | 56 | 46 | 21 | 4.75 | N-19°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SP39 | 39 | ビット | 43 | | N11-11 | 28 | 24 | 8 | 4.81 | | 円形 | | | | | | |
| SP40 | 40 | ビット | 43 | | N11-16 | 22 | 16 | 13 | 4.83 | N-50°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SD41 | 41 | 溝 | 43 | | N11-6,11,16 | (374) | (20~78) | 1 | 4.72~4.98 | N-1°-E | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD42 | 42 | 溝 | 43 | | N11-6,11,16 | (346) | (28~70) | 20 | 4.73~4.76 | N-6°-W | | | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP43 | 43 | ビット | 43・47 | | M11-10 | (18) | (12) | 25 | 4.72 | | (楕円形) | U字状 | 単層 | 23 | 11 | 柱根 | |
| SD44 | 44 | 溝 | 43 | | N11-16,17 | (244) | (34~48) | 7~13 | 4.78~4.89 | N-87°-E | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD45 | 45 | 溝 | 43 | | D.N1-3 | (190) | (56) | 11 | 4.81 | N-17°-W | | 弧状 | 単層 | | | | |
| SD46 | 46 | 溝 | 43・46 | | N11-18,23,24 D.N1-3,8 | (436) | (50~70) | 27 | 4.64~4.68 | N-22°-W | | 半円状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・甕・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD47 | 47 | 溝 | 43・46 | | N11-18,23 D.N1-2,3 | (456) | (38~92) | 29 | 4.73~4.75 | N-20°-W | | 半円状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・長頸瓶・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP49 | 49 | ビット | 43 | | J7-2,7 | 46 | 42 | 28 | 4.75 | | 方形 | | | | | | |
| SP50 | 50 | ビット | 43 | | J7-2 | 48 | 48 | 11 | 4.91 | | 円形 | | | | | | |
| SD51 | 51 | 溝 | 43・46 | 43 | J6-6,11,12,16, 17,21,22 J7-1,2 | (614) | (156~220) | 21 | 4.78~4.89 | N-7°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・長頸瓶・土師器長甕 | |
| SP52 | 52 | ビット | 43 | | M11-9,10 | 26 | 26 | 23 | 4.76 | | 円形 | | | | | | |
| SP53 | 53 | ビット | 43 | | M11-5 | 28 | 26 | 22 | 4.77 | | 円形 | | | | | | |
| SP54 | 54 | ビット | 43 | | N11-18 | 36 | 28 | 37 | 4.56 | | 楕円形 | | | | | 須恵器無台杯・土師器長甕 | |
| SP56 | 56 | ビット | 43 | | I6-10,15 | 28 | 26 | 9 | 4.97 | | 方形 | | | | | | |
| SP57 | 57 | ビット | 43・47 | | N11-6,11 | (36) | (12) | 36 | 4.56 | | (楕円形) | 半円状 | 単層 | 34 | 12 | 柱根 | |
| SP58 | 58 | ビット | 43 | | M11-10 | 40 | 38 | 20 | 4.75 | | 円形 | | | | | | |
| SP59 | 59 | ビット | 43 | | M11-10 | 28 | 18 | 15 | 4.80 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD60 | 60 | 溝 | 43・46 | | | | | | | | | | | | | | SD28と同一 |
| SP61 | 61 | ビット | 43・47 | 43 | M11-4 | (36) | (16) | 50 | 4.22 | | | U字状 | 単層 | 77 | 12 | 柱根(クリ) | |
| SP62 | 62 | ビット | 43・47 | | M11-4 | 60 | 32 | 64 | 4.40 | N-84°-W | | | | | | 柱根(ヤナギ属) | |
| SD63 | 63 | 溝 | 43 | | M11-4,5 | (130) | (40) | 22 | 4.77 | N-74°-E | | | | | | 土師器無台碗 | |
| SD64 | 64 | 溝 | 43 | | M11-4,5,9 | (318) | (28~42) | 14 | 4.78~4.85 | N-11°-W | | | | | | | |
| SD65 | 65 | 溝 | 43 | | M10-11,12,16, 17 | (50) | (42) | 9 | 4.72 | N-42°-W | | | | | | | |
| SK66 | 66 | 土坑 | 43 | | J6-17,18,22,23 | 62 | 44 | 17 | 4.79 | N-4°-W | 楕円形 | | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SD67 | 67 | 溝 | 43 | | K8-10,15,20 | (336) | (64~74) | | | N-5°-E | | | | | | | |
| SP68 | 68 | ビット | 43 | | M11-4 | 14 | 12 | 23 | 4.78 | | 円形 | | | | | | |
| SP69 | 69 | ビット | 43 | | J7-5,10 | 44 | 34 | 16 | 4.77 | N-23°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SK70 | 70 | 土坑 | 43 | | I5-18 | 76 | 58 | 21 | 4.70 | N-82°-W | 楕円形 | | | | | 須恵器無台杯・甕・土師器無台碗・長甕・小甕 | |

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|-------------------------|---------|-----------|----------|-----------|---------|-------|-----|---------|---|--|-----------|
| | | | | | | 長さ | 幅 | | | 長さ | 幅 | | 長さ | 幅 | | |
| SD71 | 71 | 溝 | 43 | | I5-18,22,23 | (176) | (20~28) | 9~11 | 4.79~4.81 | N-33°-W | | | | | | |
| SK72 | 72 | 土坑 | 43 | | I5-17,18,22,23 | 76 | 72 | 15 | 4.75 | | 方形 | | | | | |
| SD73 | 73 | 溝 | 43 | | I5-17,18,23 | (174) | (8~42) | 8~13 | 4.76~4.81 | N-37°-W | | | | | | |
| SK74 | 74 | 土坑 | 43・44 | 42 | H6-20 I6-16,17,21,22 | (202) | (70) | 64 | 4.22 | N-72°-E | (楕円形) | 半円状 | レンズ状 | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・無白皿・長甕・小甕、木製品 (有台皿・曲物) | |
| SK75 | 75 | 土坑 | 43・44 | | H4-17,18,22,23 | (254) | (102) | 19 | 4.73~4.79 | N-87°-E | | 弧状 | 単層 | | 須恵器無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD76 | 76 | 溝 | 44・46 | | H4-2,7,12,16,17 | (712) | (50~86) | 45 | 4.32~4.49 | N-9°-W | | 半円状 | レンズ状 | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、土製品 (土器片円盤)、石製品 (磨石) | |
| SK77 | 77 | 土坑 | 44・45 | 43 | G4-5 | 152 | 144 | 25 | 4.51~4.56 | N-55°-W | 円形 | 弧状 | レンズ状 | | 須恵器杯蓋・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP78 | 78 | ピット | 44 | | G3-25 | 18 | 18 | 20 | 4.56 | | 円形 | | | | | |
| SK79 | 79 | 土坑 | 43・45 | | H4-13 | 86 | 80 | 53 | 4.35 | | 円形 | 半円状 | レンズ状 | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、土製品 | |
| SP80 | 80 | ピット | 44 | | G3-25 | 44 | 22 | 15 | 4.58 | | 不整形 | | | | | |
| SK81 | 81 | 土坑 | 44 | | G3-24,25 | 88 | 60 | 23 | 4.52 | N-10°-W | 楕円形 | | | | 須恵器杯蓋・土師器小甕、鉄滓 | |
| SK82 | 82 | 土坑 | 44 | | G3-8 | 62 | 40 | 12 | 4.47 | N-2°-E | 楕円形 | | | | 須恵器杯蓋・無台杯 | |
| SK83 | 83 | 土坑 | 44 | | G3-7,12 | (82) | (46) | 12 | 4.49 | N-40°-W | (楕円形) | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SK84 | 84 | 土坑 | 43 | | I5-18,19,23,24 | (126) | (36~44) | 7~11 | 4.75~4.79 | N-34°-E | | | | | 土師器長甕 | SK232と同一か |
| SK85 | 85 | 土坑 | 43 | | I5-1,2,6,7 | (312) | (130~148) | 14~15 | 4.75~4.76 | N-44°-E | | | | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD86 | 86 | 溝 | 44 | | H4-1,6 | 232 | 42~50 | 15~18 | 4.54~4.62 | N-16°-W | 楕円形 | | | | 須恵器無台杯・土師器長甕・小甕 | |
| SD87 | 87 | 溝 | 43・44 | | H4-22,23,24 | (428) | (32~48) | 27 | 4.57~4.73 | N-82°-E | | 半円状 | レンズ状 | | 須恵器甕、土師器長甕・小甕、石製品 (砥石) | |
| SK88 | 88 | 土坑 | 44・45 | | G3-23,24 | (138) | (118) | 15 | 4.64 | N-36°-E | (楕円形) | 弧状 | レンズ状 | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・小甕 | |
| SK89 | 89 | 土坑 | 44 | | G3-12,13,17,18 | (164) | (74) | 4~11 | 4.56~4.60 | N-37°-E | (楕円形) | | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SD90 | 90 | 溝 | 44・46 | | G3-8,13,18 | (362) | (30~60) | 17 | 4.45~4.53 | N-12°-W | | 半円状 | レンズ状 | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕・鏡 | |
| SD91 | 91 | 溝 | 43 | | H4-22,23,24,25 | (504) | (26~54) | 14 | 4.76~4.81 | N-84°-W | | 弧状 | 単層 | | 須恵器無台杯・土師器長甕・小甕 | |
| SD92 | 92 | 溝 | 43・46 | | H4-25 14-21 | (126) | (84) | 15 | 4.59 | N-44°-E | (不整形) | 弧状 | レンズ状 | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD93 | 93 | 溝 | 44 | | G3-13,14,18,19 | (194) | (40~46) | 10~14 | 4.56~4.66 | N-23°-E | (長方形) | | | | 須恵器無台杯・甕、土師器無台碗・小甕、木製品 (芦串) | |
| SK94 | 94 | 土坑 | 44 | | G3-13,14,19 | (130) | (30~54) | 13~17 | 4.57~4.58 | N-34°-E | (楕円形) | | | | 土師器長甕 | |
| SD95 | 95 | 溝 | 44 | | G4-10,15 H4-6,11 | (224) | (64~70) | 18~21 | 4.59~4.62 | N-25°-W | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SP96 | 96 | ピット | 44 | | G4-10 H4-6 | 32 | 32 | 1 | 4.59 | | 円形 | | | | | |
| SP97 | 97 | ピット | 44 | | G3-24 | 20 | 18 | 8 | 4.70 | | 円形 | | | | 須恵器無台杯 | |
| SD98 | 98 | 溝 | 44・46 | 43 | G3-20,25 G4-5,10 | (706) | (22~44) | 11 | 4.52~4.70 | N-2°-W | | 台形状 | 水平 | | 土師器長甕、石製品 (砥石) | |
| SD99 | 99 | 溝 | 44 | | | | | | | | | | | | 須恵器甕、土師器無台碗 | SD98と同一 |
| SK100 | 100 | 土坑 | 44 | | G3-14 | 52 | 52 | 11 | 4.56 | | 円形 | | | | 土師器無台碗 | |
| SK101 | 101 | 土坑 | 43 | | I5-6,7 | 78 | 68 | 11 | 4.81 | | 円形 | | | | 須恵器無台杯 | |
| SD102 | 102 | 溝 | 44 | | G3-15,20 | (72) | (26) | 9~15 | 4.59~4.65 | N-15°-W | | | | | 須恵器無台杯 | |
| SD103 | 103 | 溝 | 44 | | G3-20 | (126) | (22~28) | 12 | 4.55~4.60 | N-70°-W | | | | | 須恵器無台杯・土師器小甕 | |
| SD104 | 104 | 溝 | 43 | | H4-23,24,25 | (306) | (40~58) | 13~19 | 4.74~4.77 | N-82°-E | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD105 | 105 | 溝 | 43 | | H4-19,20,24,25 | (322) | (48~90) | 10~17 | 4.74~4.81 | N-88°-W | | | | | 須恵器無台杯・土師器長甕 | |
| SP106 | 106 | ピット | 43 | | H4-25 | (38) | (34) | 8 | 4.80 | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SK107 | 107 | 土坑 | 43 | | I5-11 | 74 | 74 | 11 | 4.78 | | 円形 | | | | | |
| SD108 | 108 | 溝 | 44 | | H4-7,8,12,13 | (90) | (26~32) | 7~10 | 4.68~4.72 | N-83°-E | | | | | | |
| SP109 | 109 | ピット | 44 | | H4-8,13 | 14 | 14 | 9 | 4.72 | | 円形 | | | | | |
| SK110 | 110 | 土坑 | 44 | | H4-8 | (92) | (58) | 17 | 4.55 | N-75°-E | (長方形) | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD111 | 111 | 溝 | 43 | | H4-14,19,20 | (206) | (40~48) | 15~19 | 4.74~4.78 | N-56°-W | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD112 | 112 | 溝 | 43 | | H4-13,18,19 | (232) | (36~54) | 10 | 4.79~4.87 | N-14°-E | | 弧状 | 単層 | | | |
| SK113 | 113 | 土坑 | 44・45 | | G3-15,20 H3-16 | (150) | (46) | 14 | 4.56 | N-37°-E | (楕円形) | 弧状 | レンズ状 | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SD114 | 114 | 溝 | 44・46 | | G2-23 G3-2,3,7,8,12 | (548) | (22~46) | 60 | 4.35~4.52 | N-13°-W | | 半円状 | レンズ状 | | 須恵器杯蓋・短頸壺、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD115 | 115 | 溝 | 44・46 | | H4-7,8 | (157) | (40~46) | 21 | 4.56~4.64 | N-74°-E | | 台形状 | レンズ状 | | 須恵器無台杯・土師器無台碗・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SK116 | 116 | 土坑 | 44・45 | | G3-3,4,8,9 | (206) | (154) | 18 | 4.33~4.36 | N-39°-E | | 弧状 | レンズ状 | | 須恵器杯蓋・無台杯・長頸瓶・甕、土師器長甕・小甕 | |
| SK117 | 117 | 土坑 | 44 | | G3-20,25 H3-16,21 | 102 | 24~42 | 6~14 | 4.55~4.63 | N-62°-E | 不整形 | | | | | |
| SK118 | 118 | 土坑 | 43 | | H5-10 I5-1,6 | (80) | (58) | 36 | 4.56 | N-71°-W | (楕円形) | | | | 土師器長甕 | |

別 表

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|-------------------|---------|---------|-------|-----------|---------|-------|-----|------|---------|---|----------------------------------|----|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SK119 | 119 | 土坑 | 44 | | H3-16,21 | (116) | (36) | 6 | 4.57 | N-40°-E | (楕円形) | | | | | 須恵器長頸瓶、土師器小甕 | |
| SK120 | 120 | 土坑 | 44 | | G2-21,22 | 50 | 32 | 11 | 4.41 | N-87°-E | 楕円形 | | | | | 須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・長頸瓶・甕、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SK121 | 121 | 土坑 | 44 | | G3-7 | 72 | 26 | 10 | 4.51 | N-6°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SK122 | 122 | 土坑 | 44 | | H3-21 H4-1 | 150 | 120 | 8~13 | 4.58~4.63 | N-24°-E | 楕円形 | | | | | 須恵器杯蓋・無台杯・長頸瓶、土師器無台碗・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SD123 | 123 | 溝 | 43 | | H4-12,13,14,17,18 | (390) | (22~44) | 7~15 | 4.66~4.73 | N-60°-W | | | | | | 須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD124 | 124 | 溝 | 43 | | H4-9,12,13,14 | (358) | (16~38) | 3~9 | 4.68~4.74 | N-60°-W | | | | | | | |
| SK125 | 125 | 土坑 | 44 | | H4-1.2 | 64 | 28 | 12 | 4.58 | N-80°-W | 長方形 | | | | | 須恵器長頸瓶 | |
| SK126 | 126 | 土坑 | 43・45 | | H4-19,20 | (120) | (96) | 40 | 4.35 | N-58°-W | (楕円形) | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・甕、土師器長甕 | |
| SK127 | 127 | 土坑 | 44 | | F2-15 G2-11 | 80 | 32 | 7 | 4.22 | N-43°-E | 楕円形 | | | | | 須恵器短頸壺、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP128 | 128 | ピット | 44 | | G3-20 | (36) | (22) | 4 | 4.66 | N-78°-W | (方形) | | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕 | |
| SK129 | 129 | 土坑 | 44 | | G3-8,13 | 64 | 50 | 11 | 4.47 | N-31°-W | 楕円形 | | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SP130 | 130 | ピット | 44 | | G3-7 | 36 | 24 | 3 | 4.52 | N-68°-W | 楕円形 | | | | | 土師器小甕、木製品(漆器) | |
| SK131 | 131 | 土坑 | 44 | | G3-2 | (74) | (52) | 9 | 4.46 | N-82°-E | (楕円形) | | | | | 土師器無台碗 | |
| SP132 | 132 | ピット | 44 | | G3-1 | 40 | 40 | 11 | 4.44 | | 方形 | | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕・小甕 | |
| SP133 | 133 | ピット | 44 | | G2-21,22 | 24 | 24 | 12 | 4.39 | | 円形 | | | | | | |
| SP134 | 134 | ピット | 44 | | G2-16 | 46 | 36 | 9 | 4.32 | N-84°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SP135 | 135 | ピット | 44 | | F2-20 | 40 | 28 | 10 | 4.37 | N-60°-E | 楕円形 | | | | | 須恵器有台杯・杯蓋・無台杯・甕、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SK136 | 136 | 土坑 | 44 | | G2-23 G3-3 | (134) | (72) | 4 | 4.42 | N-39°-E | | | | | | | |
| SP137 | 137 | ピット | 44 | | G3-20 H3-16 | 40 | 36 | 11~21 | 4.46~4.56 | | 方形 | | | | | | |
| SK138 | 138 | 土坑 | 44 | | H3-16 | (42) | (30) | 15 | 4.48 | N-35°-E | (長方形) | | | | | 土師器小甕 | |
| SK139 | 139 | 土坑 | 44 | | G3-15 | (40) | (20) | 21 | 4.51 | N-83°-E | | | | | | 土師器長甕 | |
| SP140 | 140 | ピット | 44 | | H3-16,21 | 26 | 22 | 19 | 4.47 | | 円形 | | | | | | |
| SD141 | 141 | 溝 | 44 | | G3-20 | (54) | (18) | 7 | 4.64 | N-13°-W | | | | | | | |
| SD142 | 142 | 溝 | 44 | | G3-15,20 | (122) | (20~26) | 9~11 | 4.61~4.65 | N-78°-E | | | | | | | |
| SD143 | 143 | 溝 | 44 | | G3-15 | (38) | (14) | 10 | 4.62 | N-43°-W | | | | | | | |
| SP144 | 144 | ピット | 43 | | H4-14,19 | 34 | 26 | 5 | 4.67 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP145 | 145 | ピット | 43 | | H4-12,13 | 32 | 30 | 29 | 4.47 | | 円形 | | | | | | |
| SP146 | 146 | ピット | 43 | | H5-4 | 38 | 26 | 14 | 4.72 | | 楕円形 | | | | | 土師器小甕 | |
| SP147 | 147 | ピット | 43 | | H5-4 | 18 | 18 | 14 | 4.75 | | 円形 | | | | | | |
| SP148 | 148 | ピット | 43 | | H5-3,4 | 34 | 26 | 23 | 4.65 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP149 | 149 | ピット | 43 | | H5-4 | 26 | 26 | 16 | 4.71 | | 円形 | | | | | | |
| SK150 | 150 | 土坑 | 44 | | G3-25 | (58) | (54) | 21 | 4.53 | N-44°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SK151 | 151 | 土坑 | 43 | | H4-24 H5-4 | (82) | (40) | 23 | 4.64 | N-6°-W | (楕円形) | | | | | 土師器無台碗 | |
| SP152 | 152 | ピット | 43 | | H4-24 H5-4 | 20 | 18 | 8 | 4.76 | | 円形 | | | | | | |
| SK155 | 155 | 土坑 | 43 | | H4-18 | (58) | (44) | 22 | 4.63 | N-89°-W | (楕円形) | | | | | 土師器小甕 | |
| SP156 | 156 | ピット | 43 | | H4-18 | 34 | 26 | 24 | 4.66 | | 楕円形 | | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕・小甕 | |
| SP157 | 157 | ピット | 44 | | G3-19 | 20 | 20 | 10 | 4.69 | | 円形 | | | | | | |
| SP158 | 158 | ピット | 44 | | G3-19 | 28 | 24 | 7 | 4.71 | | | | | | | 土師器小甕 | |
| SP159 | 159 | ピット | 44 | | G3-18,19 | 30 | 18 | 8 | 4.69 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP160 | 160 | ピット | 44 | | G3-18,19 | 22 | 18 | 7 | 4.70 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP161 | 161 | ピット | 44 | | G3-18 | 34 | 30 | 8 | 4.66 | | 円形 | | | | | | |
| SK162 | 162 | 土坑 | 44 | | G3-12 | 80 | 50 | 6 | 4.49 | N-19°-W | 楕円形 | | | | | 土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SK163 | 163 | 土坑 | 44 | | G3-12,13 | (56) | (30) | 6 | 4.51 | N-37°-W | (長方形) | | | | | 土師器長甕 | |
| SK164 | 164 | 土坑 | 44 | | G3-12 | (48) | (30) | 6 | 4.52 | N-13°-W | (円形) | | | | | 土師器長甕 | |
| SP165 | 165 | ピット | 44 | | G3-6 | 24 | 22 | 5 | 4.53 | | 円形 | | | | | | |
| SK166 | 166 | 土坑 | 44 | | G3-1,6 | 74 | 68 | 9 | 4.47 | N-75°-W | 方形 | | | | | 須恵器無台杯、土師器小甕 | |
| SK167 | 167 | 土坑 | 44 | | F2-4,5 | (114) | (106) | 6 | 4.20 | N-42°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SK168 | 168 | 土坑 | 44 | | G3-1,2 | 66 | 60 | 12 | 4.39 | | 円形 | | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕・小甕 | |
| SK170 | 170 | 土坑 | 44・45 | | G3-4,9,10 | (190) | (106) | 15 | 4.47 | N-38°-E | | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯 | |
| SP171 | 171 | ピット | 43 | | H4-18 | 20 | 20 | 13 | 4.79 | | 円形 | | | | | | |
| SD172 | 172 | 溝 | 43 | | H4-18,23 | (120) | (22~28) | 21~23 | 4.68~4.70 | N-47°-W | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SK173 | 173 | 土坑 | 44・46 | | H4-6,7,11,12 | (170) | (140) | 27 | 4.50 | N-46°-W | (長方形) | 弧状 | レンズ状 | | | 須恵器無台杯・長頸瓶、土師器無台碗 | |
| SK174 | 174 | 土坑 | 44 | | G3-2 | 60 | 40 | 16 | 4.40 | N-61°-W | 楕円形 | | | | | 須恵器無台杯、土師器小甕 | |
| SP175 | 175 | ピット | 44 | | G3-2 | 38 | 30 | 7 | 4.47 | | 楕円形 | | | | | 須恵器無台杯、土師器小甕 | |
| SP176 | 176 | ピット | 44 | | G3-3 | (36) | (18) | 8 | 4.43 | | (楕円形) | | | | | | |
| SK177 | 177 | 土坑 | 44 | | G2-22 | 174 | 28~50 | 7~11 | 4.35~4.37 | N-28°-E | 不整形 | | | | | 須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD178 | 178 | 溝 | 43 | | H5-4,5 | (202) | (20~30) | 16 | 4.67 | N-76°-E | | | | | | | |
| SK179 | 179 | 土坑 | 44 | | G2-22,23 | (84) | (36) | 14 | 4.31 | N-89°-E | | | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕 | |
| SK180 | 180 | 土坑 | 44 | | G2-17,22 | (94) | (32) | 7 | 4.33 | N-40°-E | | | | | | | |
| SK181 | 181 | 土坑 | 44・46 | | H4-7,11,12,17 | (212) | (66) | 28 | 4.52 | N-18°-W | | 弧状 | レンズ状 | | | 土師器無台碗・長甕 | |
| SP182 | 182 | ピット | 44 | | G3-1 | 28 | 22 | 5 | 4.48 | N-41°-E | 楕円形 | | | | | 須恵器無台杯 | |
| SK183 | 183 | 土坑 | 44 | | G2-22 | (76) | (40) | 14 | 4.35 | N-20°-W | | | | | | 須恵器無台杯、土師器長甕・小甕 | |

| 報告遺構名 | 現場遺構名 (No.) | 種別 | 図版 | 写真図版 | 位置 | 規模 (cm) | | | 底面標高 (m) | 主軸方位 | 形態 | | 覆土 | 柱根 (cm) | | 出土遺物 | 備考 |
|-------|-------------|-----|-------|------|--------------------------|---------|---------|-------|-----------|---------|-------|-----|------|---------|---|---------------------------|----------|
| | | | | | | 長さ | 幅 | 深さ | | | 平面形 | 断面形 | | 長さ | 幅 | | |
| SK185 | 185 | 土坑 | 44 | | G2-16,17 | (62) | (26) | 9 | 4.32 | N-36°-E | | | | | | 須恵器無台杯 | |
| SD186 | 186 | 溝 | 44 | | G2-22,23 | (90) | (70) | 9 | 4.35 | N-3°-W | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SP187 | 187 | ビット | 44 | | G3-1 | 34 | 22 | 9 | 4.46 | | 楕円形 | | | | | 土師器長甕 | |
| SD188 | 188 | 溝 | 43 | | I5-23 | (88) | (32) | 4 | 4.82 | N-26°-W | | | | | | | |
| SD189 | 189 | 溝 | 44 | | G4-5,10 | (110) | (40~52) | 12 | 4.68 | N-41°-W | | | | | | 土師器無台碗・小甕 | |
| SK190 | 190 | 土坑 | 44・46 | 43 | G3-1 | 86 | 70 | 6 | 4.43 | N-24°-E | 不整形 | | | | | 土師器小甕・金属製品(鈎帯) | |
| SD191 | 191 | 溝 | 44 | | F2-25,F3-5 G2-21 G3-1 | (350) | (34~42) | 7~10 | 4.38~4.45 | N-45°-W | | | | | | | |
| SP192 | 192 | ビット | 44 | | G3-24 | (28) | (22) | 13 | 4.62 | N-23°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SD193 | 193 | 溝 | 44・47 | 43 | G3-9,14,15 | (218) | (32~52) | 12~15 | 4.50~4.53 | N-4°-W | | | | | | 須恵器無台杯・長頸瓶 | |
| SK194 | 194 | 土坑 | 44 | | G3-1 | 60 | 36 | 11 | 4.41 | N-52°-W | 楕円形 | | | | | | |
| SP195 | 195 | ビット | 43 | | H4-18 | 26 | 26 | 10 | 4.79 | | 方形 | | | | | | |
| SD196 | 196 | 溝 | 44 | | G3-7 | (70) | (30) | 6 | 4.49 | N-31°-E | (不整形) | | | | | | |
| SK197 | 197 | 土坑 | 44 | | G3-2,3 | (70) | (28) | 5 | 4.47 | N-14°-W | | | | | | | |
| SK198 | 198 | 土坑 | 44 | | F2-15,20 G2-11 | 62 | 58 | 8 | 4.26 | | 円形 | | | | | 須恵器無台杯・土師器無台碗 | |
| SK199 | 199 | 土坑 | 44 | | G3-7,12 | 62 | 38 | 12 | 4.49 | N-20°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SK200 | 200 | 土坑 | 44・46 | | H4-11,12 | 90 | 72 | 38 | 4.16 | N-89°-E | 楕円形 | 半円状 | レンズ状 | | | | |
| SK201 | 201 | 土坑 | 44 | | H4-2,7 | (64) | (40) | 22 | 4.43 | N-3°-E | (楕円形) | | | | | | |
| SD202 | 202 | 溝 | 44 | | G3-3 | (60) | (36) | 14 | 4.43 | N-56°-E | | | | | | | |
| SD203 | 203 | 溝 | 44 | | G4-10 | (58) | (26) | 18 | 4.64 | N-7°-W | | | | | | 須恵器無台杯 | |
| SK204 | 204 | 土坑 | 44 | | F2-15 | 54 | 44 | 12 | 4.20 | N-57°-E | 楕円形 | | | | | 土師器長甕 | |
| SP205 | 205 | ビット | 44 | | H3-16,21 | (48) | (38) | 4 | 4.62 | | (楕円形) | | | | | | |
| SP206 | 206 | ビット | 43 | | H5-5,10 | 26 | 26 | 15 | 4.74 | | 円形 | | | | | | |
| SP207 | 207 | ビット | 43 | | H5-5 | 24 | 24 | 10 | 4.74 | | 円形 | | | | | | |
| SP208 | 208 | ビット | 43 | | H4-24,25 H5-4,5 | 20 | 20 | 14 | 4.72 | | 円形 | | | | | | |
| SP209 | 209 | ビット | 43 | | H4-13,14 | (46) | (30) | 25 | 4.43 | N-32°-W | (楕円形) | | | | | | |
| SP210 | 210 | ビット | 44 | | G3-20 | 22 | 22 | 3 | 4.66 | | 円形 | | | | | | |
| SP211 | 211 | ビット | 44 | | G3-9 | 42 | 28 | 12 | 4.50 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP212 | 212 | ビット | 44 | | G3-9 | 30 | 30 | 13 | 4.50 | | 円形 | | | | | | |
| SP213 | 213 | ビット | 44 | | G3-8,9 | 48 | 28 | 11 | 4.52 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD214 | 214 | 溝 | 43 | | I5-24,25 I6-3,4,8,13 | (666) | (18~30) | 9 | 4.82~4.96 | N-25°-W | | | | | | 土師器長甕 | |
| SD215 | 215 | 溝 | 43 | | I5-23,24 I6-3,7 | (430) | (20~34) | 5~6 | 4.88~4.92 | N-33°-W | | | | | | 須恵器杯蓋・土師器長甕・小甕 | |
| SD216 | 216 | 溝 | 43 | | | | | | | | | | | | | 土師器小甕 | SD214と同一 |
| SP217 | 217 | ビット | 43 | | I5-24 | 48 | 48 | 6 | 4.88 | | 円形 | | | | | | |
| SP218 | 218 | ビット | 43 | | I6-14 | 26 | 26 | 17 | 4.89 | | 円形 | | | | | | |
| SP219 | 219 | ビット | 43 | | I6-15 | 20 | 18 | 28 | 4.75 | | 円形 | | | | | | |
| SP220 | 220 | ビット | 43 | | I6-15 | 22 | 18 | 12 | 4.87 | | 楕円形 | | | | | | |
| SD222 | 222 | 溝 | 43 | | I6-10,15 | (196) | (20~30) | 7~10 | 4.83~4.90 | N-21°-W | | | | | | 須恵器甕・土師器長甕・小甕 | |
| SD223 | 223 | 溝 | 43 | | I6-10,15,20 | (328) | (20~30) | 7~8 | 4.89~5.01 | N-13°-W | | | | | | 須恵器甕・土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗 | |
| SP224 | 224 | ビット | 43 | | I6-10,15 | 28 | 22 | 14 | 4.79 | | 楕円形 | | | | | | |
| SP225 | 225 | ビット | 43 | | I6-10 | 24 | 18 | 14 | 4.79 | | 長方形 | | | | | | |
| SP226 | 226 | ビット | 43 | | I6-10 | 18 | 18 | 17 | 4.79 | | 円形 | | | | | | |
| SD227 | 227 | 溝 | 43 | | I5-22 I6-2 | (88) | (38~48) | 8~10 | 4.92~4.94 | N-33°-W | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD228 | 228 | 溝 | 43 | | I5-22,23 I6-3 | (132) | (18~22) | 8~9 | 4.91~4.95 | N-58°-E | | | | | | 土師器長甕・小甕 | |
| SD229 | 229 | 溝 | 43 | | I5-22 I6-2 | (152) | (22) | 7~8 | 4.97~4.98 | N-38°-W | | | | | | 土師器小甕 | |
| SD230 | 230 | 溝 | 43 | | I5-23 I6-3 | (200) | (18~26) | 7~13 | 4.83~4.92 | N-24°-W | | | | | | | |
| SP231 | 231 | ビット | 43 | | I5-24 | 20 | 20 | 20 | 4.77 | | 円形 | | | | | 土師器長甕 | |
| SK232 | 232 | 土坑 | 43 | | I5-24 | (100) | (40) | 9 | 4.82 | N-75°-W | (楕円形) | | | | | 土師器長甕 | SK84と同一か |
| SD233 | 233 | 溝 | 43 | | I5-19,20,24,25 | (144) | (22~64) | 9~10 | 4.80~4.81 | N-79°-E | | | | | | 須恵器無台杯・短頸壺・土師器無台碗・長甕・小甕 | |
| SD234 | 234 | 溝 | 43 | | I5-24,25 I6-4 | (178) | (18~30) | 7~10 | 4.81~4.84 | N-26°-W | (楕円形) | | | | | 土師器長甕 | |
| SP235 | 235 | ビット | 43 | | I6-14 | 20 | 18 | 8 | 4.99 | | 方形 | | | | | | |
| SD236 | 236 | 溝 | 43 | | I6-8,13 | (38) | (20) | 5 | 5.00 | N-42°-W | | | | | | | |
| SP237 | 237 | ビット | 43 | | I6-9 | 40 | 34 | 16 | 4.79 | | 円形 | | | | | 土師器長甕 | |
| SK238 | 238 | 土坑 | 43 | | I5-24 | (50) | (28) | 7 | 4.90 | N-66°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SD239 | 239 | 溝 | 43 | | I5-24,25 I6-4 | 184 | 20~32 | 7~11 | 4.79~4.82 | N-33°-W | (楕円形) | | | | | 土師器長甕 | |
| SP240 | 240 | ビット | 43 | | I5-25 I6-5 | 40 | 26 | 16 | 4.72 | N-2°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SK241 | 241 | 土坑 | 43 | | I5-18 | 72 | 34 | 25 | 4.58 | N-36°-W | 楕円形 | | | | | 須恵器有台杯・甕 | |
| SP242 | 242 | ビット | 43 | | H5-5 | 20 | 20 | 12 | 4.72 | | 円形 | | | | | | |
| SK243 | 243 | 土坑 | 44 | | H4-6 | (82) | (32) | 6~7 | 4.70~4.71 | N-21°-E | (不整形) | | | | | | |
| SK244 | 244 | 土坑 | 44 | | G3-7 | 50 | 34 | 6 | 4.51 | N-16°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SP245 | 245 | ビット | 43 | | H4-23 H5-3 | 22 | 22 | 25 | 4.54 | | 円形 | | | | | | |
| SD246 | 246 | 溝 | 43 | | H4-23,24 H5-3,4 | (202) | (30~42) | 10~14 | 4.79~4.83 | N-68°-W | | | | | | | |
| SP247 | 247 | ビット | 44 | | H4-8 | 44 | 44 | 45 | 4.32 | | 円形 | | | | | | |
| SP248 | 248 | ビット | 43 | | I5-1 | 32 | 30 | 21 | 4.54 | | 円形 | | | | | | |
| SP249 | 249 | ビット | 44 | | G2-21 | 46 | 24 | 13 | 4.39 | N-87°-E | 楕円形 | | | | | | |
| SD250 | 250 | 溝 | 43 | | D.N1-3,8 | (150) | (56~72) | 29 | 4.54 | N-24°-W | | | | | | | |

※ 24, 48, 55, 153, 154, 169, 184, 221 は欠番

別表2 主要遺構出土土器器種構成率

| 遺構番号 | 器種 | 新石器 | | 旧石器 | | 土器 | | 石器 | | 骨器 | | 貝類 | | 植物遺存 | | 動物遺存 | | 土器 | | 石器 | | 骨器 | | 貝類 | | 植物遺存 | | 動物遺存 | | 合計 | |
|------|----|-----|------|-----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|------|-----|------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|------|-----|------|-----|------|------|
| | | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | 数量 | 構成率 | | |
| A K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% | |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| B K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| C K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| D K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| E K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| F K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| G K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| H K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| I K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| J K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| K K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| L K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| M K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| N K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| O K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| P K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| Q K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| R K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| S K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| T K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| U K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| V K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| W K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| X K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| Y K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| Z K | 土器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |
| | 陶器 | 1 | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100% |

別表3 土器観察表

凡例

- 1 出土位置 調査区・報告遺構名・グリッドを記した。
- 2 種別・器種 第V章に記した。
- 3 法 口径・底径・器高を示す。括弧付きの数値は遺存率が低く、推定値を含む。須恵器杯蓋の底径値はつまみ径の値である。
- 4 器高指数 器高/口径×100
- 5 底径指数 底径/口径×100
- 6 残存率 ※/36で残存割合を示した。須恵器杯蓋の底径値は、つまみの値である。
- 7 胎土 須恵器について第V章に記した。
- 8 含有物 土層の胎土中に含まれる動物等について記した。「石」は石炭粒、「長」は長石粒、「砂」は砂粒、「白」は白色粒、「薄」は薄層状、「赤」は赤色粒、「炭」は金雲母あるいは黒雲母を表す。
- 9 焼成 観察者の主観的診断で「良好」、「並」、「不良」に分類した。
- 10 手調 「新版 標準土色帳」【小山・竹原 1997】を使用した。
- 11 色法 特徴的な手法のみ記した。底面の「糸切り」、「ヘラ切り」は回転台を用いたものである。回転方向は回転台の回転方向を示す。主に底部調整から判断した。
- 12 備考 主に胎土やヘラ書きなどの文字情報、タール、スス、漆などの付着物を記した。

| 図版No. | 報告番号 | 出土位置 | | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | 手法 | | 回転方向 | 備考 |
|-------|------|------|-------|-------|---------|------|------|--------|-------|-----------|------------|-----------|---------|---------|---------|--------|------|-----------------|
| | | 区 | 遺構 | | 口径 | 底径 | | | | 口径 | 底径 | | 分類 | 含有物 | 外面 | 内面 | | |
| 48 | 1 | A | SD1 | 土師器 | 長甕 | | | | | 石・砂 | 並 | 10YR6/4 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 平行当て具 | | |
| 48 | 2 | A | SD2 | 須恵器 | 無台杯 | 11.3 | | 2/36 | | B群 石・長 | 不良 N4/Y1 | | 5Y7/1 | 灰白 | ロクロナデ | | | |
| 48 | 3 | A | SD2 | 須恵器 | 甕 | | | | | C群 石・長 | 並 N4/灰 | | N5/灰 | 灰白 | 同心当て具 | | | |
| 48 | 4 | A | SD6 | 古式土師器 | 甕 | 19.0 | | 34/36 | | 石・砂 | 並 10YR8/3 | 淺黄緑 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | ナデ | | |
| 48 | 5 | A | 河川2 | 古式土師器 | 高杯 | 17.1 | 10.8 | 13.7 | 33/36 | 30/36 | 石・砂・雲・海 | 並 10YR6/3 | 淺黄緑 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | ナデ、ミガキ | | 外黒斑 |
| 48 | 6 | A | 河川2 | 古式土師器 | 高杯 | 18.0 | | 14/36 | | 石・砂・雲 | 並 10YR8/3 | 淺黄緑 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | ハケム、ナデ | | | 内外黒斑 |
| 48 | 7 | A | 河川2 | 古式土師器 | 高杯 | 18.2 | | | | 石・長・砂・海 | 並 7.5YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | ナデ、ミガキ | | | 内外黒斑 |
| 48 | 8 | A | 河川2 | 古式土師器 | 高杯 | 20.0 | | 7/36 | | 石・砂 | 並 5YR6/6 | 暗 | 5YR6/6 | 暗 | ナデ | | | 内外黒斑 |
| 48 | 9 | A | 河川2 | 古式土師器 | 高杯 | 17.0 | | 5/36 | | 石・砂・赤 | 並 10YR6/3 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | ナデ | | | 外黒斑 |
| 48 | 10 | A | 河川2 | 古式土師器 | 高杯 | 19.0 | | 12/36 | | 石・長 | 並 10YR6/6 | 明黄緑 | 10YR7/6 | 明黄緑 | ナデ | | | |
| 48 | 11 | A | 河川2 | 古式土師器 | 高杯 | 20.0 | | 6/36 | | 石・砂 | 並 10YR7/6 | 明黄緑 | 10YR7/6 | 明黄緑 | ナデ | | | |
| 48 | 12 | A | 河川1・2 | 古式土師器 | 高杯 | 18.2 | | 3/36 | | 石・砂・海 | 良 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | ハケム | | | 内粘上細斑、紋り痕 |
| 48 | 13 | A | 河川2 | 古式土師器 | 高杯 | | | | 30/36 | | 石・砂・海・雲 | 並 10YR6/2 | 灰黄緑 | 10YR6/2 | 灰黄緑 | ハケム、ナデ | | |
| 48 | 14 | A | 河川1 | 古式土師器 | 高杯 | 11.6 | | | | 石・砂・海・雲 | 並 10YR6/2 | 灰黄緑 | 10YR6/2 | 灰黄緑 | ハケム | | | |
| 48 | 15 | A | 河川1 | 古式土師器 | 高杯 | 15.0 | | 6/36 | | 石・長・海・雲 | 並 10YR5/2 | 灰黄緑 | 10YR5/3 | 10YR5/3 | ハケム、ナデ | | | |
| 48 | 16 | A | 河川1・2 | 古式土師器 | 高杯 | 12.0 | | 20/36 | | 石・長・赤 | 並 7.5YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | ナデ | | | 外スス |
| 48 | 17 | A | 河川2 | 古式土師器 | 壺 | 19.0 | 7.0 | (32.0) | 8/36 | | 石・雲・角 | 並 10YR8/2 | 灰白 | 10YR8/2 | 灰白 | ナデ | | |
| 49 | 18 | A | 河川2 | 古式土師器 | 壺 | 19.4 | | 3/36 | | 石・長 | 並 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | ナデ | | | 内黒斑 |
| 49 | 19 | A | 河川2 | 古式土師器 | 壺 | 16.0 | | 12/36 | | 石・砂 | 並 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | ナデ | | | 内指頭正痕 |
| 49 | 20 | A | 河川1・2 | 古式土師器 | 壺 | 24.0 | | 5/36 | | 石・長・砂・雲 | 並 2.5Y3/2 | 黒 | 10YR5/4 | 10YR5/4 | ナデ | | | 外スス |
| 49 | 21 | A | 河川1 | 古式土師器 | 甕 | 24.2 | | 6/36 | | 石・長・砂 | 並 10YR5/3 | 10YR5/3 | 10YR6/2 | 灰黄緑 | ナデ | | | 内指頭正痕 |
| 49 | 22 | A | 河川1・2 | 古式土師器 | 甕 | 21.4 | | 7/36 | | 石・長・砂・雲・赤 | 並 10YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | ハケム | | | 外スス |
| 49 | 23 | A | 河川2 | 古式土師器 | 甕 | 18.0 | | 3/36 | | 石・砂・海 | 並 10YR8/4 | 淺黄緑 | 10YR8/4 | 淺黄緑 | ハケム | | | 内指頭正痕、粘上細斑 |
| 49 | 24 | A | 河川2 | 古式土師器 | 甕 | 20.0 | | 4/36 | | 石・長・砂・雲 | 並 7.5YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | ナデ | | | |
| 49 | 25 | A | 河川2 | 古式土師器 | 甕 | 18.0 | | 3/36 | | 石・砂 | 並 2.5Y3/2 | 黒 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | ナデ | | | 内外スス |
| 49 | 26 | A | 河川2 | 古式土師器 | 甕 | 14.8 | | 3/36 | | 石・砂 | 並 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR4/1 | 褐灰 | ナデ | | | 内外スス |
| 49 | 27 | A | 河川2 | 古式土師器 | 甕 | 16.0 | | 4/36 | | 石・砂 | 並 2.5Y2/1 | 黒 | 10YR5/4 | 10YR5/4 | ナデ | | | 内外スス |
| 49 | 28 | A | 河川1・2 | 古式土師器 | 甕 | 6.4 | | 30/36 | | 石・長・砂・雲 | 並 10YR7/2 | 10YR7/2 | 10YR7/2 | 10YR7/2 | ナデ | | | 外スス |
| 49 | 29 | A | 河川2 | 古式土師器 | 甕 | 3.2 | | 36/36 | | 石・長・砂 | 良 7.5YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/2 | 灰黄緑 | ハケム、ナデ | | | 外タール |
| 49 | 30 | A | 河川1 | 古式土師器 | 壺・甕 | 5.6 | | 36/36 | | 石・長 | 並 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR3/2 | 黒 | ナデ | | | |
| 49 | 31 | A | 河川2 | 古式土師器 | 壺・甕 | 6.1 | | 36/36 | | 石・砂 | 並 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR3/1 | 黒 | ナデ | | | 底外黒斑 |
| 49 | 32 | A | 河川2 | 古式土師器 | 壺・甕 | 6.1 | | 35/36 | | 石・砂 | 並 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | ナデ | | | 外スス |
| 49 | 33 | A | 河川2 | 古式土師器 | 壺・甕 | 4.4 | | 36/36 | | 石・砂 | 並 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | ナデ | | | 底外黒斑 |
| 49 | 34 | A | 河川1 | 古式土師器 | 甕 | 2.9 | | 36/36 | | 石・砂 | 並 10YR6/3 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | ナデ | | | 内外スス |
| 49 | 35 | A | 河川2 | 古式土師器 | 小町甕 | 12.2 | | 2/36 | | 石・砂・雲・海 | 並 10YR3/2 | 黒 | 10YR5/3 | 10YR5/3 | ハケム、ナデ | | | 外スス |
| 49 | 36 | A | 河川1 | 古式土師器 | 小町甕 | 13.5 | | 6/36 | | 石・長・砂 | 並 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | ナデ | | | 外スス |
| 49 | 37 | A | 河川2 | 古式土師器 | 有孔鉢 | 3.8 | | 20/36 | | 石・長・砂 | 並 7.5YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | ハケム、ナデ | | | 内外スス、底 1.0cm の孔 |

別 表

| 図版 No. | 報告 番号 | 区 | 遺構 | 出土位置 グリッド | 層位 | 種別 | 器種 | 質量 (cm) | | 器高 指数 | 底径 指数 | 口縁 指数 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | 手法 | | 回転 方向 | 備考 |
|-----------|----------|---|-------|--------------|-------|-------|-----|---------|-----|----------|----------|----------|-------|---------|---------|---------------|----------------|----------------|-----------|-----------|----------|------------|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | | | | | 底層 | 分層 | | 含有物 | 外面 | 内面 | 外面 | | |
| 50 | 38 | B | SK2 | | | 須臾器 | 無台椀 | 12.0 | | | 4/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | N5/灰 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 39 | B | SK3 | | | 土師器 | 無台椀 | 16.0 | | | 4/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | 10YR6/3 におい黄緑 | 10YR6/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内・ス |
| 50 | 40 | B | SK4 | D3-10 | | 須臾器 | 無台椀 | 12.6 | 8.4 | 3.4 | 27 | 67 | 36/36 | B群 | 石・白 | 並 | 7.5Y6/1 灰 | 10Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ削り | |
| 50 | 41 | B | SD2 | | | 須臾器 | 無台椀 | 13.0 | | | 4/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | N6/灰 | N6/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内外黒斑 |
| 50 | 42 | B | SD2 | | | 土師器 | 無台椀 | 14.2 | | | 2/36 | | | 石・赤 | 石・赤 | 並 | 10YR6/4 におい黄緑 | 7.5YR7/4 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内外漆付着 |
| 50 | 43 | B | SD3 | | | 土師器 | 無台椀 | 13.0 | 5.2 | 4.4 | 34 | 40 | 8/36 | 石・赤 | 石・赤 | 並 | 10YR6/4 におい黄緑 | 10YR6/4 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 内・ス |
| 50 | 44 | B | SD3 | | | 土師器 | 無台椀 | 13.6 | 5.0 | 4.1 | 30 | 37 | 9/36 | 石・砂 | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 におい黄緑 | 10YR6/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 内・ス |
| 50 | 45 | B | SD4 | D2-10 | | 緑釉陶器 | 椀 | | | | | | | 石・砂 | 石・砂 | 並 | 2.5Y6/3 におい黄 | 2.5Y6/3 におい黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 京都産 |
| 50 | 46 | B | SD4 | | | 須臾器 | 無台椀 | 14.0 | | | 3/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | 5Y5/1 オリーフ灰 | 10Y5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 47 | B | SD4 | | | 須臾器 | 無台椀 | 12.8 | | | 4/36 | | | B群 | 石・白 | 不良 | 5Y6/1 灰 | 5Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 48 | B | SD4 | | | 須臾器 | 小皿 | 11.5 | | | 6/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | 7.5GY2/1 暗緑灰 | 10Y4/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内外自然釉 |
| 50 | 49 | B | SD4 | | | 土師器 | 無台椀 | 12.8 | | | 2/36 | | | 石・白 | 石・白 | 良好 | 10YR6/4 浅黄緑 | 5YR7/4 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 50 | B | SD4 | | | 土師器 | 鍋 | 36.8 | | | 2/36 | | | 石・砂・海 | 石・砂・海 | 並 | 10YR5/2 灰黄緑 | 10YR5/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 51 | B | SD4 | | | 黒色土器 | 有台椀 | | 6.0 | | 5/36 | | 5/36 | 石・砂・海 | 石・砂・海 | 並 | 10YR7/4 におい黄緑 | N2/黒 | 黒色処理 | ヘラ削り | | 右 |
| 50 | 52 | B | SD5 | | | 土師器 | 無台椀 | | 4.0 | | 15/36 | | | 石・砂 | 石・砂 | 並 | 2.5Y8/2 灰白 | 2.5Y8/2 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 右 |
| 50 | 53 | B | SD9 | F3-3 | | 土師器 | 小壺 | 15.2 | | | 4/36 | | | 石・砂 | 石・砂 | 並 | 10YR4/1 黄灰 | 2.5Y8/2 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内・ター |
| 50 | 54 | B | SD19 | | | 須臾器 | 無台椀 | 12.8 | | | 2/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | N5/灰 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 55 | B | SD20 | | | 須臾器 | 無台椀 | 13.0 | | | 5/36 | | | B群 | 石・白 | 不良 | 7.5Y6/1 灰 | 7.5Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 56 | B | SP7 | | | 土師器 | 無台椀 | 14.0 | 5.0 | 5.0 | 36 | 36 | 20/36 | 石・砂 | 石・砂 | 並 | 10YR7/3 におい黄緑 | 10YR7/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 右 |
| 50 | 57 | B | SP7 | | | 土師器 | 無台椀 | 12.0 | | | 3/36 | | | 石・砂・海・赤 | 石・砂・海・赤 | 並 | 10YR7/3 におい黄緑 | 10YR7/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 58 | B | 河川1 | H2-20 | | 須臾器 | 有台椀 | | 8.4 | | | | 5/36 | B群 | 石・長 | 並 | 7.5Y5/2 灰オリーフ | N7/灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 外自然釉 |
| 50 | 59 | B | 河川1 | H2-11 | | 須臾器 | 無台椀 | | 8.0 | | 12/36 | | | B群 | 石・長 | 並 | 2.5GY6/1 オリーフ灰 | 7.5Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ削り | 左 |
| 50 | 60 | B | 河川1 | | | 須臾器 | 長頸瓶 | 16.0 | | | 4/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | N4/灰 | N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内自然釉 |
| 50 | 61 | B | 河川1 | H2-11 | | 須臾器 | 羹 | 33.0 | | | 2/36 | | | C群 | 石・長 | 並 | N6/灰 | N6/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 50 | 62 | B | 河川1 | H2-11 | | 須臾器 | 羹 | | | | | | | C群 | 石・長 | 並 | 7.5Y4/1 灰 | 10Y5/1 灰 | 平行当て具、カキメ | 平行当て具、カキメ | | |
| 50 | 63 | B | 河川1 | H2-11 | | 須臾器 | 羹 | | | | | | | B群 | 石・長 | 並 | N4/灰 | N3/暗灰 | 同心得当て具 | 同心得当て具 | | |
| 51 | 64 | B | 河川1 | H2-11 | H2-15 | 土師器 | 無台椀 | 11.8 | 5.0 | 3.1 | 26 | 42 | 13/36 | B群 | 石・砂・海 | 並 | 10YR7/4 におい黄緑 | 10YR6/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 右 |
| 51 | 65 | B | 河川1 | H2-15 | H2-11 | 土師器 | 無台椀 | 13.0 | 5.8 | 4.3 | 33 | 45 | 11/36 | 石・砂・海 | 並 | 7.5YR6/6 黄 | 10YR5/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 内外黒斑 | |
| 51 | 66 | B | 河川1 | H2-11 | | 土師器 | 無台椀 | 12.9 | 5.4 | 4.2 | 33 | 42 | 12/36 | 石・砂 | 不良 | 10YR7/3 におい黄緑 | 10YR7/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 底外縁状黒斑 | |
| 51 | 67 | B | 河川1 | H2-11 | | 土師器 | 無台椀 | 12.7 | 4.9 | 4.7 | 37 | 39 | 31/36 | 石・砂 | 並 | 10YR7/3 におい黄緑 | 10YR7/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 右 | |
| 51 | 68 | B | 河川1 | H2-20 | | 土師器 | 無台椀 | 12.0 | 4.5 | 4.1 | 34 | 38 | 2/36 | 石・砂・海 | 並 | 10YR7/3 におい黄緑 | 10YR7/4 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 右 | |
| 51 | 69 | B | 河川1 | H2-15 | | 土師器 | 無台椀 | 13.6 | | | 9/36 | | | 石・砂・海 | 不良 | 5YR6/4 におい黄 | 5YR6/6 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内・ス | |
| 51 | 70 | B | 河川1 | H2-15 | H2-11 | 黒色土器 | 無台椀 | 13.0 | 4.6 | 4.5 | 35 | 35 | 3/36 | 石・長・海 | 並 | 10YR6/3 におい黄緑 | N3/暗灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ削り | 外黒斑 | |
| 51 | 71 | B | F3-4 | | 上層 | 古式土師器 | 杯 | 14.8 | | | 5/36 | | | 石・砂・海 | 並 | 2.5Y7/3 黄 | N3/暗灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 古墳後期 | |
| 51 | 72 | B | D3-9 | | | 灰釉陶器 | 小瓶 | | | | | | | 石 | 並 | 7.5Y6/1 灰 | 5Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 縁状産、内外ス | |
| 51 | 73 | B | K2-4 | | | 須臾器 | 有台椀 | 13.0 | 8.8 | 6.0 | 46 | 68 | 5/36 | B群 | 石・白 | 並 | N5/灰 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 51 | 74 | B | K2-10 | | | 須臾器 | 無台椀 | 12.3 | 8.4 | 3.3 | 27 | 68 | 19/36 | B群 | 石・白 | 並 | 7.5Y6/1 灰 | 10Y6/2 オリーフ灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ削り | 左 |
| 51 | 75 | B | G2-21 | | 上層 | 須臾器 | 無台椀 | 12.2 | | | 3/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | 5G5/1 緑灰 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内外黒斑 |
| 51 | 76 | B | G2-23 | | 上層 | 須臾器 | 無台椀 | 12.4 | | | 5/36 | | | B群 | 石・白 | 並 | 5G6/1 緑灰 | 10G6/1 緑灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内外黒斑 |
| 51 | 77 | B | H2-15 | | | 須臾器 | 無台椀 | | 8.4 | | 10/36 | | | C群 | 石・長・海 | 並 | 10Y6/1 灰 | 2.5GY6/1 オリーフ灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ削り | 底内黒斑、底内靫 |
| 51 | 78 | B | G2-23 | | 上層 | 須臾器 | 無台椀 | | 8.0 | | 6/36 | | | C群 | 石・白 | 不良 | 10YR7/2 におい黄緑 | 2.5Y7/2 灰黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ削り | 外・ター、酸化炭酸産 |
| 51 | 79 | B | G2-23 | | | 須臾器 | 無台椀 | | 8.0 | | 6/36 | | | A群 | 石・長 | 並 | 2.5Y8/2 灰白 | 2.5Y8/2 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ削り | 体外漆付着 |
| 51 | 80 | B | D3-8 | | | 須臾器 | 羹 | 44.0 | | | 1/36 | | | A群 | 石・長 | 並 | N6/灰 | 7.5Y6/1 灰 | 液状文 | 液状文 | | |
| 51 | 81 | B | D2-11 | | | 須臾器 | 羹 | 29.4 | | | 4/36 | | | B群 | 石・長 | 並 | 7.5Y4/1 灰 | 10Y6/1 灰 | 梅子タタキ | 梅子タタキ | | 内漆線の付着物 |
| 51 | 82 | B | K2-2 | | | 須臾器 | 羹 | 26.0 | | | 1/36 | | | C群 | 石・長 | 不良 | 5Y6/1 灰 | 10Y6/1 灰 | 平行タタキ、カキメ | 同心得当て具 | | 内・ス |
| 52 | 83 | B | D2-5 | | | 須臾器 | 羹 | | | | | | | C群 | 石・長 | 並 | 5Y5/1 オリーフ灰 | 2.5Y6/1 灰 | 梅子タタキ | 同心得当て具 | | 内・ス |
| 52 | 84 | B | D2-5 | | | 須臾器 | 羹 | | | | | | | B群 | 石・長 | 並 | N5/灰 | N5/灰 | 平行タタキ | 同心得当て具 | | 内・ス |
| 52 | 85 | B | D3-9 | | | 須臾器 | 羹 | | | | | | | A群 | 石・長 | 並 | 5Y7/1 灰白 | 7.5Y4/1 灰 | 平行タタキ | 同心得当て具 | | 外自然釉・内・ス |
| 52 | 86 | B | D3-10 | | | 土師器 | 無台皿 | 13.2 | 6.0 | 3.0 | 23 | 45 | 4/36 | B群 | 石・砂・海 | 並 | 10YR7/3 におい黄緑 | 10YR7/3 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 右 |
| 52 | 87 | B | F2-25 | | | 土師器 | 無台椀 | 13.2 | 5.4 | 4.6 | 35 | 41 | 25/36 | 石・砂・海 | 並 | 7.5YR7/6 黄 | 10YR7/4 におい黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸削り | 右 | |

別 表

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 底径指数 | 残存率 | 分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 手法 | | 回転方向 | 備考 |
|--------|------|------|---------------------|----|-----|-----|---------|-----|-------|------|-------|-------|-------|-----|-----------------|-----------------|----------------|-------------|-------|----------|----|
| | | 区 | 遺構 | | | | 口径 | 底径 | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 54 | 135 | C | SD21 | | 土師器 | 小壺 | 16.8 | | 4/36 | | 4/36 | | 石・砂・海 | 並 | 5YR6/4 におい赤褐色 | 5YR6/6 褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 54 | 136 | C | SD21 | | 土師器 | 甌 | 20.0 | | 6/36 | | 6/36 | | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 褐色 | 7.5YR6/4 におい赤褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 54 | 137 | C | SD22 | | 土師器 | 無台榎 | 17.4 | | 5/36 | | 5/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 におい黄褐色 | 5Z2/1 黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内スス | |
| 54 | 138 | C | SD22 | | 土師器 | 無台榎 | 12.6 | 5.4 | 13/36 | 43 | 13/36 | 36/36 | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/4 におい赤褐色 | 7.5YR7/6 褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | |
| 54 | 139 | C | SD24 | | 土師器 | 無台榎 | 11.0 | 8.0 | 4.1 | 37 | 7/36 | 36/36 | 石・砂・海 | 並 | 2.5YR6/3 におい黄褐色 | 10YR6/3 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 片口付、外スス | |
| 54 | 140 | C | SD24 | | 土師器 | 無台榎 | 12.0 | 4.6 | 4.2 | 35 | 38 | 36/36 | 石・砂 | 不良 | 10YR7/3 におい黄褐色 | 2.5Y7/3 黄褐色 | ロクロナデ | 2.5Y7/3 黄褐色 | | | |
| 54 | 141 | C | SD24 | | 土師器 | 無台榎 | 13.8 | | 6/36 | | 6/36 | | 石・砂 | 並 | 5YR7/6 褐色 | 7.5YR8/6 黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 54 | 142 | C | SD24 | | 土師器 | 無台榎 | 12.4 | | 6/36 | | 6/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR7/3 におい黄褐色 | 7.5YR7/4 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 54 | 143 | C | SD24 | | 土師器 | 無台榎 | 15.4 | | 9/36 | | 9/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 におい黄褐色 | N2/黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 内タール、外スス | |
| 54 | 144 | C | SD25 | | 土師器 | 無台榎 | 13.0 | 5.6 | 4.3 | 33 | 43 | 24/36 | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 におい黄褐色 | 10YR6/3 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 55 | 145 | C | SD37 | | 土師器 | 長頸瓶 | 18.0 | | 7/36 | | 7/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 におい黄褐色 | 2.5Y6/1 黄褐色 | ロクロナデ | 平石タタキ、カキメ | | 外スス | |
| 55 | 146 | C | SD41 | | 須臾器 | 甌 | | | | | | | C群 | 石・長 | 並 | 5Y6/1 灰 | 5Y6/1 灰 | 同心円当て具 | | | |
| 55 | 147 | C | SD41 | | 土師器 | 無台榎 | 13.7 | 6.0 | 4.2 | 31 | 44 | 23/36 | 石・砂 | 良好 | 10YR6/2 灰褐色 | 2.5Y4/1 黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 内タール | |
| 55 | 148 | C | SD41 | | 土師器 | 無台榎 | 12.6 | 4.8 | 4.0 | 32 | 38 | 20/36 | 石・砂 | 並 | 5YR7/6 褐色 | 5YR6/3 におい赤褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右 | |
| 55 | 149 | C | SD44 | | 土師器 | 無台榎 | 13.0 | 4.8 | 4.4 | 34 | 37 | 11/36 | 石・砂 | 並 | 10YR6/2 灰褐色 | N2/黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 左? | |
| 55 | 150 | C | SD63 | | 須臾器 | 小壺 | | | | | | | B群 | 石・長 | 並 | N3/暗灰 | 格子タタキ | 同心円当て具 | | 右 | |
| 55 | 151 | C | SD64 | | 土師器 | 無台榎 | 13.5 | 7.5 | 2.8 | 20 | 53 | 10/36 | 石・砂 | 並 | 7.5Y5/1 灰 | 10YR7/4 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 外スス | |
| 55 | 152 | C | SD19・SD37 | | 土師器 | 無台榎 | 13.2 | | 7/36 | | 7/36 | | C群 | 石・白 | 並 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ切り | 内外スス | |
| 55 | 153 | C | SD19・SD22 | | 須臾器 | 長頸瓶 | | | | | | | C群 | 石・長 | 並 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 外スス | |
| 55 | 154 | C | SK9・SD24 | | 須臾器 | 甌 | | | | | | | B群 | 石・長 | 並 | 5B4/1 暗青灰 | 格子タタキ | 同心円当て具 | | 外スス | |
| 55 | 155 | C | SK6・SD19 | | 土師器 | 無台榎 | 13.4 | 5.6 | 4.6 | 34 | 42 | 2/36 | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 褐色 | 10YR6/4 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右 | |
| 55 | 156 | C | SK41・SD51 | | 須臾器 | 甌 | | | | | | | B群 | 石・長 | 並 | 7.5Y5/1 灰 | 2.5YR3/1 黒褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右? |
| 55 | 157 | C | SK9・SD24 | | 土師器 | 無台榎 | 13.0 | 5.3 | 4.6 | 35 | 41 | 13/36 | 石・砂 | 良好 | 7.5YR6/2 灰褐色 | 5YR6/6 褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 底外黒斑 | |
| 55 | 158 | C | SD24・SD44 | | 土師器 | 無台榎 | 12.6 | | 8/36 | | 8/36 | | 石・砂 | 並 | 2.5YR6/6 褐色 | 5YR6/6 褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内スス | |
| 55 | 159 | C | SK3・SD18 | | 土師器 | 無台榎 | 13.7 | | 6/36 | | 6/36 | | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 褐色 | 2.5Y3/2 黒褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 55 | 160 | C | SD24・SD25 | | 土師器 | 長頸瓶 | 24.5 | | 6/36 | | 6/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR7/4 におい黄褐色 | 10YR7/3 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 55 | 161 | C | SD22・SD24 | | 土師器 | 甌 | 20.6 | | 3/36 | | 3/36 | | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 褐色 | 10YR6/3 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 55 | 162 | C | SD19・SD21・SD23・SD29 | | 土師器 | 甌 | 30.6 | | 3/36 | | 3/36 | | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 褐色 | 5YR6/6 褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 外スス | |
| 56 | 163 | C | | | 須臾器 | 有台杯 | | | | | | | A群 | 石・長 | 並 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 56 | 164 | C | | | 須臾器 | 無台榎 | 16.0 | | 7/36 | | 7/36 | | B群 | 石・白 | 並 | N6/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 56 | 165 | C | | | 須臾器 | 甌 | 31.0 | | 15/36 | | 15/36 | | B群 | 石・長 | 並 | 7.5Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 外自然釉 | |
| 56 | 166 | C | | | 須臾器 | 甌 | | | | | | | C群 | 石・赤 | 並 | 7.5Y5/1 灰 | 平石タタキ | 同心円当て具 | | 外自然釉 | |
| 56 | 167 | C | | | 土師器 | 有台榎 | | | | | 7/36 | | 石・砂・赤 | 並 | 10YR7/3 におい黄褐色 | 7.5YR6/4 におい赤褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 右 | |
| 56 | 168 | C | | | 土師器 | 無台榎 | 12.0 | 5.3 | 4.5 | 38 | 44 | 4/36 | 石・砂 | 不良 | 10YR7/3 におい黄褐色 | 10YR7/4 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右 | |
| 56 | 169 | C | | | 土師器 | 無台榎 | 12.6 | 4.5 | 4.4 | 35 | 36 | 6/36 | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 褐色 | 10YR3/1 黒褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右 | |
| 56 | 170 | C | | | 土師器 | 無台榎 | 12.2 | 3.7 | 4.2 | 34 | 30 | 36/36 | 石・砂 | 不良 | 7.5YR5/4 におい黄褐色 | 10YR5/3 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右 | |
| 56 | 171 | C | | | 土師器 | 無台榎 | 13.4 | | 7/36 | | 7/36 | | 石・長・海 | 並 | 7.5YR6/6 褐色 | 7.5YR6/8 褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 内外スス | |
| 56 | 172 | C | | | 土師器 | 長頸瓶 | 19.8 | | 3/36 | | 3/36 | | 石・長 | 不良 | 10YR4/2 灰褐色 | 10YR6/3 におい黄褐色 | ハケメ | ハケメ | | 非ロクロ、外スス | |
| 56 | 173 | C | | | 土師器 | 小壺 | 15.8 | | 7/36 | | 7/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR6/2 灰褐色 | 10YR7/3 におい黄褐色 | カキメ | | 内スス | |
| 56 | 174 | C | | | 土師器 | 有台皿 | 11.2 | 6.0 | 3.4 | 30 | 54 | 2/36 | 石・砂・海 | 並 | 10YR6/4 におい黄褐色 | N2/黒 | ロクロナデ | 黒色地埋 | | | |
| 56 | 175 | C | | | 土師器 | 無台榎 | | | | | | | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 におい黄褐色 | 10YR4/1 暗灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 56 | 176 | C | | | 土師器 | 無台榎 | 14.5 | 5.8 | 36/36 | | 36/36 | | 石・砂・海 | 並 | 5YR6/6 褐色 | 10YR3/1 黒褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右 | |
| 56 | 177 | C | | | 土師器 | 無台榎 | 14.5 | | 3/36 | | 3/36 | | 石 | 並 | | | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 56 | 178 | C | SE14 | | 須臾器 | 甌 | 21.2 | | 2/36 | | 2/36 | | B群 | 石・長 | 並 | N4/灰 | 格子タタキ | 同心円当て具 | | | |
| 56 | 179 | C | SE14 | | 須臾器 | 甌 | | | | | | | B群 | 石・長 | 並 | 10YR6/1 褐色 | 格子タタキ | 同心円当て具 | | 内外スス | |
| 56 | 180 | C | SE14 | | 土師器 | 無台榎 | 12.5 | 5.5 | 4.4 | 35 | 44 | 3/36 | 石・砂・雲 | 良好 | 10YR6/2 灰褐色 | 2.5Y5/2 暗灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右 | |
| 56 | 181 | C | SE14 | | 土師器 | 無台榎 | 4.8 | | 34/36 | | 34/36 | | 石・砂・海 | 並 | 10YR7/3 におい黄褐色 | 10YR6/3 におい黄褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 右 | |
| 56 | 182 | C | SE14 | | 土師器 | 無台榎 | 12.6 | 5.5 | 4.6 | 37 | 44 | 3/36 | 石・砂・海 | 良好 | 10YR7/3 におい黄褐色 | N2/黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 内暗文、底外黒斑 | |
| 56 | 183 | C | SD2 | | 土師器 | 無台榎 | 13.2 | | 6/36 | | 6/36 | | 石・砂 | 並 | 5YR6/4 におい赤褐色 | 5YR6/4 におい赤褐色 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 56 | 184 | C | SD4 | | 土師器 | 無台榎 | 17.6 | | 3/36 | | 3/36 | | 石 | 並 | 10YR6/3 におい黄褐色 | N2/黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | |

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 底径指数 | 残存率 | | 胎土含有物 | 焼成 | 色調 | | | 手法 | | 回転方向 | 備考 |
|--------|------|------|--------|----|------|-----|---------|------|------|------|------|-------|-------|-------|----|-------------|-------------|-----|-----|----|------|----|
| | | 遺構 | グリッド | | | | 口径 | 底径 | | | | 口径 | 底径 | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 外面 | | |
| 56 | 185 | C | SD12 | 下層 | 須臾器 | 罐 | 12.8 | 9.6 | 3.9 | 30 | 75 | 1/36 | 26/36 | 並 | 並 | N7/底白 | N7/底白 | カキメ | ハケメ | 右 | | |
| 57 | 186 | C | SD12 | 下層 | 須臾器 | 無台杯 | 12.8 | 9.6 | 3.9 | 30 | 75 | 1/36 | 26/36 | 並 | 並 | 2.5Y7.5 黄 | 2.5Y7.5 黄 | ハケメ | ハケメ | 右 | | |
| 57 | 187 | C | H2-8 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 12.4 | 4.8 | 4.0 | 32 | 39 | 11/36 | 21/36 | 並 | 並 | 5YR6/4 赤い黄 | 5YR6/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | 右 | 内タール | |
| 57 | 188 | C | E3-7 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 12.2 | 4.5 | 4.0 | 33 | 37 | 3/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10YR8/1 黒 | 10YR8/1 黒 | ハケメ | ハケメ | 右 | 内タール | |
| 57 | 189 | C | E3-8 | 下層 | 土師器 | 長甕 | 20.6 | 20.6 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 並 | 並 | 7.5YR3/1 黒 | 7.5YR3/1 黒 | ハケメ | ハケメ | 右 | 内タール | |
| 57 | 190 | C | C3-12 | 下層 | 土師器 | 長甕 | 20.7 | 20.7 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | カキメ | カキメ | 右 | 内タール | |
| 57 | 191 | C | E3-3.7 | 下層 | 黒色土器 | 無台杯 | 16.2 | 6.0 | 6.2 | 38 | 37 | 6/36 | 7/36 | 並 | 並 | 10YR7/2 赤い黄 | 10YR7/2 赤い黄 | カキメ | カキメ | 右 | 内タール | |
| 57 | 192 | C | | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 13.5 | 5.6 | 4.0 | 30 | 41 | 8/36 | 13/36 | 並 | 並 | 10YR4/2 黄 | 10YR4/2 黄 | ハケメ | ハケメ | 右 | 内タール | |
| 57 | 193 | C | | 下層 | 土師器 | 長甕 | 21.6 | 21.6 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 並 | 並 | 10YR6/4 赤い黄 | 10YR6/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | 右 | 内タール | |

D区

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 底径指数 | 残存率 | | 胎土含有物 | 焼成 | 色調 | | | 手法 | | 回転方向 | 備考 |
|--------|------|------|---------------|-------|-----|-----|---------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|--------------|--------------|-----|-----|----|----------|----|
| | | 遺構 | グリッド | | | | 口径 | 底径 | | | | 口径 | 底径 | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 外面 | | |
| 57 | 194 | D | SK11 | 1層 | 須臾器 | 無台杯 | 7.0 | 7.0 | 9/36 | 9/36 | 9/36 | 9/36 | 9/36 | 並 | 並 | N5/底 | N5/底 | ハケメ | ハケメ | 左 | 内外黒丸、底用靑 | |
| 57 | 195 | D | SK80 | 1層 | 須臾器 | 有台杯 | 7.4 | 7.4 | 36/36 | 36/36 | 36/36 | 36/36 | 36/36 | 並 | 並 | 7.5Y5/1 底 | 7.5Y5/1 底 | ハケメ | ハケメ | 左 | 内外黒丸、底用靑 | |
| 57 | 196 | D | SK80 | 1層 | 須臾器 | 無台杯 | 13.4 | 13.4 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 並 | 並 | 7.5Y5/1 底 | 7.5Y5/1 底 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 197 | D | SK80 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 13.2 | 3/36 | 3/36 | 3/36 | 3/36 | 3/36 | 3/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 198 | D | SK80 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 13.0 | 8/36 | 8/36 | 8/36 | 8/36 | 8/36 | 8/36 | 並 | 並 | 10YR7/6 黄 | 10YR7/6 黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 199 | D | SK80 | 1層・遺構 | 土師器 | 無台杯 | 13.0 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 200 | D | SK80 | 最下層 | 土師器 | 無台杯 | 12.8 | 4.4 | 16/36 | 16/36 | 16/36 | 16/36 | 16/36 | 並 | 並 | 10YR7/3 赤い黄 | 10YR7/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 201 | D | SK80 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 13.2 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 並 | 並 | 7.5YR7/6 黄 | 7.5YR7/6 黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 202 | D | SK80 | 1層 | 土師器 | 小甕 | 12.0 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 2/36 | 並 | 並 | 7.5YR5/2 黄 | 7.5YR5/2 黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 203 | D | SK80 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 12.8 | 5.2 | 4.6 | 36 | 41 | 18/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 204 | D | SK80 | 1層 | 土師器 | 小甕 | 12.6 | 5.4 | 3.8 | 30 | 43 | 6/36 | 22/36 | 並 | 並 | 10YR6/4 赤い黄 | 10YR6/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 206 | D | SD1 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 13.0 | 5.6 | 4.4 | 34 | 43 | 14/36 | 14/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 207 | D | SD1 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 12.8 | 5.2 | 4.6 | 36 | 41 | 18/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 208 | D | SD1 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 12.8 | 5.2 | 4.6 | 36 | 41 | 18/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 209 | D | SD1 | 1層 | 土師器 | 小甕 | 12.8 | 5.2 | 4.6 | 36 | 41 | 18/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 57 | 210 | D | SD1 | 1層 | 土師器 | 小甕 | 11.0 | 8.0 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 4/36 | 並 | 並 | 10YR7/4 赤い黄 | 10YR7/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 211 | D | SD47 | 1層 | 須臾器 | 無台杯 | 12.0 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 並 | 並 | N5/底 | N5/底 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 212 | D | SD63 | 1層 | 須臾器 | 無台杯 | 12.5 | 8.0 | 3.0 | 24 | 64 | 6/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10Y7/1 底白 | 10Y7/1 底白 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 213 | D | SD61 | 1層 | 須臾器 | 無台杯 | 12.5 | 8.0 | 3.0 | 24 | 64 | 6/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10YR6/3 赤い黄 | 10YR6/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 214 | D | SD77 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 5.2 | 5.2 | 36/36 | 36/36 | 36/36 | 36/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10YR6/3 赤い黄 | 10YR6/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 216 | D | SD85 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 14.4 | 14.4 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 並 | 並 | 10YR6/3 赤い黄 | 10YR6/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 217 | D | SD106 | 1層 | 須臾器 | 有台杯 | 13.4 | 8.6 | 6.3 | 47 | 64 | 8/36 | 26/36 | 並 | 並 | 10YR6/3 赤い黄 | 10YR6/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 218 | D | SP30 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 18.5 | 18.5 | 3.7 | 26 | 60 | 6/36 | 12/36 | 並 | 並 | 10YR7/3 赤い黄 | 10YR7/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 219 | D | SP112 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 14.0 | 8.4 | 3.7 | 26 | 60 | 6/36 | 12/36 | 並 | 並 | 10YR6/3 赤い黄 | 10YR6/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 220 | D | SD77・SP30 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 18.5 | 18.5 | 3.7 | 26 | 60 | 6/36 | 12/36 | 並 | 並 | 10YR6/3 赤い黄 | 10YR6/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 221 | D | E2-25、E3-4 | 1層 | 土師器 | 有台杯 | 14.0 | 8.4 | 3.7 | 26 | 60 | 6/36 | 12/36 | 並 | 並 | 10YR6/3 赤い黄 | 10YR6/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 222 | D | E2-22.25、E3-4 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 13.8 | 5.4 | 3.5 | 25 | 39 | 8/36 | 18/36 | 並 | 並 | 10YR6/3 赤い黄 | 10YR6/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 223 | D | M1-9 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 13.3 | 6.0 | 4.0 | 30 | 45 | 7/36 | 10/36 | 並 | 並 | 10YR6/4 赤い黄 | 10YR6/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 224 | D | M1-13 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 12.0 | 4.5 | 4.4 | 37 | 38 | 10/36 | 36/36 | 並 | 並 | 7.5YR6/4 赤い黄 | 7.5YR6/4 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 225 | D | M1-9 | 1層 | 土師器 | 無台杯 | 12.0 | 4.5 | 4.4 | 37 | 38 | 10/36 | 36/36 | 並 | 並 | 10YR7/2 赤い黄 | 10YR7/2 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 226 | D | D3-6 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 23.2 | 4.0 | 3/36 | 3/36 | 3/36 | 3/36 | 3/36 | 並 | 並 | 7.5YR5/6 黄 | 7.5YR5/6 黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 227 | D | C3-15 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 17.8 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 並 | 並 | 10YR7/3 赤い黄 | 10YR7/3 赤い黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 228 | D | M1-9 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 36.2 | 36.2 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 並 | 並 | 7.5YR6/6 黄 | 7.5YR6/6 黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 229 | D | M1-9 | 1層 | 土師器 | 長甕 | 36.2 | 36.2 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 5/36 | 並 | 並 | 7.5YR6/6 黄 | 7.5YR6/6 黄 | ハケメ | ハケメ | | | |
| 58 | 230 | D | 排土 | 1層 | 須臾器 | 無台杯 | 10.0 | 10.0 | 15/36 | 15/36 | 15/36 | 15/36 | 15/36 | 並 | 並 | 10Y5/1 底 | 10Y5/1 底 | ハケメ | ハケメ | | | |

別 表

| 図版 No. | 報告 番号 | 出土位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高 指数 | 底後 指数 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色割 | | 手法 | | 印痕 方向 | 備考 |
|-----------|----------|------|---------------|--------|------|-----|---------|------|----------|----------|-------|-------|-------|-------|----------------|----------------|----------------|----------------|-------------|---------|
| | | 区 | 遺構 | | | | 口径 | 底径 | | | | 分製 | 含有物 | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 59 | 231 E | SD1 | | 下層 | 須臾器 | 無台杯 | 10.8 | 4.6 | 3.5 | 32 | 43 | B群 | 石・白 | 並 | N5/底 | N5/底 | ヘラ削り | | 底外黒書「口」 | |
| 59 | 232 E | SD2 | E8-18 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | | | | | 31/36 | C群 | 石・砂 | 並 | 25Y7/3 濃黄 | 10YR7/4 におい黄緑 | ヘラ削り | | 糸切り | |
| 59 | 233 E | SD7 | | 下層・黒色土 | 須臾器 | 甕 | | | | | 4/36 | C群 | 石・長 | 並 | 5Y5/1 灰 | 7.5Y6/6 灰 | ヘラ削り | | | |
| 59 | 234 E | SD11 | | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 12.2 | | | | | | 石・砂・海 | 並 | 10YR7/3 におい黄緑 | 10YR5/1 濁灰 | ヘラ削り | | | |
| 59 | 235 E | SD18 | D7-8 No.1,2 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 17.2 | 6.8 | 6.4 | 37 | 40 | 17/36 | 石・砂・雲 | 並 | 7.5YR5/4 におい黄 | 7.5YR6/6 黄 | ヘラ削り | | 外外ス | |
| 59 | 236 E | SD18 | D7-8 No.6,7 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 15.4 | 5.4 | 5.2 | 34 | 35 | 27/36 | 石・砂・雲 | 並 | 7.5YR6/6 黄 | 7.5YR5/4 におい黄 | ヘラ削り | | 外外ス | |
| 59 | 237 E | SD18 | No.4 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 14.4 | | | | 3/36 | | 石・砂 | 並 | 7.5YR4/2 灰黄 | 10YR3/1 黒濁 | ヘラ削り | | 内外ター | |
| 59 | 238 E | SD18 | D7-20 No.5 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 7.4 | | | | 21/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR5/3 におい黄濁 | 10YR3/2 黒濁 | ヘラ削り | | 内外ター | |
| 59 | 239 E | SD18 | No.3 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 7.4 | | | | 25/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR5/4 におい黄濁 | 10YR3/1 黒濁 | ヘラ削り | | 内外ター | |
| 59 | 240 E | 河川23 | | 下層 | 須臾器 | 有台杯 | 15.5 | 10.5 | 4.3 | 28 | 68 | 3/36 | C群 | 石・長 | 並 | 5Y7/2 灰白 | 5R3/1 黒濁 | ヘラ削り | | 内外漆片着 |
| 59 | 241 E | 河川23 | | 下層 | 須臾器 | 無台杯 | 9.0 | | | | 16/36 | | 石・長 | 並 | 2.5Y8/3 濃黄 | 2.5Y8/2 灰白 | ヘラ削り | | | |
| 59 | 242 E | | E8-11 | 下層 | 須臾器 | 小瓶 | | | | | | | 石・長 | 並 | 5Y6/2 灰ナリ | 2.5Y6/1 黒灰 | ヘラ削り | | | |
| 59 | 243 E | | E8-17 | 下層 | 須臾器 | 無台杯 | 13.8 | | | | 3/36 | | 石・白 | 並 | N5/底 | N5/底 | ヘラ削り | | | |
| 59 | 244 E | | E8-17 | 下層 | 須臾器 | 無台杯 | 12.8 | | | | 5/36 | | 石・白 | 並 | N6/底 | N6/底 | ヘラ削り | | | |
| 59 | 245 E | | D7-25 | 下層 | 須臾器 | 無台杯 | 11.8 | | | | 4/36 | | 石・白 | 並 | 10Y5/1 灰 | 2.5CY5/1 オリーブ | ヘラ削り | | | |
| 59 | 246 E | | D7-13 | 下層 | 須臾器 | 無台杯 | 13.6 | | | | 3/36 | | 石・長 | 並 | 10Y5/1 灰 | 7.5Y5/1 灰 | ヘラ削り | | | |
| 59 | 247 E | | E8-6,19 E9-5 | 下層 | 須臾器 | 長頸瓶 | 14.0 | | | | 13/36 | | 石・長 | 並 | N7/底白 | N6/底 | ヘラ削り | | 内自然釉 | |
| 59 | 248 E | | E8-6 | 下層 | 須臾器 | 長頸瓶 | 12.4 | | | | 4/36 | | 石・長 | 並 | N5/底 | 10Y6/1 灰 | ヘラ削り | | 内自然釉 | |
| 59 | 249 E | | D7-20,25 E8-6 | 下層 | 須臾器 | 横瓶 | | | | | | | 石・長 | 並 | 7.5Y6/1 灰 | 5Y6/1 灰 | ヘラ削り | | 内ター | |
| 60 | 251 E | | D7-8 | 下層 | 須臾器 | 甕 | | | | | | | 石・長 | 並 | 7.5Y4/1 灰 | N4/底 | ヘラ削り | | | |
| 60 | 252 E | | E8-11,13 | 下層 | 須臾器 | 甕 | | | | | | | 石・長 | 並 | 10Y5/1 灰 | N4/底 | ヘラ削り | | 252 と同一個体か? | |
| 60 | 253 E | | E8-1 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 13.0 | 4.6 | 4.5 | 35 | 35 | 4/36 | B群 | 石・砂 | 並 | 2.5Y3/1 黒濁 | 10YR6/4 におい黄濁 | ヘラ削り | | 内漆片着 |
| 60 | 254 E | | D7-13 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 14.0 | 6.0 | 4.5 | 32 | 43 | 3/36 | B群 | 石・砂・雲 | 並 | 10YR6/4 におい黄濁 | 10YR6/4 におい黄濁 | ヘラ削り | | 内外黒書「一」 |
| 60 | 255 E | | D7-14 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 13.6 | 5.4 | 4.1 | 30 | 40 | 6/36 | C群 | 石・砂 | 並 | 10YR2/1 黒 | 10YR2/1 黒 | ヘラ削り | | 内外ス |
| 60 | 256 E | | E8-6 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 13.0 | 5.2 | 3.7 | 28 | 40 | 4/36 | B群 | 石・砂・雲 | 並 | 10YR6/4 におい黄濁 | 10YR3/2 黒濁 | ヘラ削り | | 内外ス |
| 60 | 257 E | | D7-28 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 12.6 | 5.0 | 4.2 | 33 | 40 | 16/36 | B群 | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 黄 | 7.5YR5/4 におい黄 | ヘラ削り | | 外漆片着、内ス |
| 60 | 258 E | | D7-19,20 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 13.6 | 5.4 | 4.0 | 29 | 40 | 9/36 | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 におい黄濁 | 7.5YR5/4 におい黄 | ヘラ削り | | |
| 60 | 259 E | | D7-20 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 12.4 | 5.6 | 4.1 | 33 | 45 | 7/36 | B群 | 石・砂 | 並 | 2.5Y6/3 におい黄 | 2.5Y6/3 におい黄 | ヘラ削り | | 体外黒書「口」 |
| 60 | 260 E | | D7-8,13 壁 | 下層・黒色土 | 土師器 | 無台杯 | 17.6 | | | | 6/36 | | 石・砂・雲 | 並 | 10YR6/4 におい黄濁 | 10YR5/4 におい黄濁 | ヘラ削り | | 内外赤彩か? | |
| 60 | 261 E | | F9-22 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 15.6 | | | | 5/36 | | 石・砂 | 並 | 7.5YR7/4 におい黄濁 | 10YR7/3 におい黄濁 | ヘラ削り | | | |
| 60 | 262 E | | D7-8,19 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 13.4 | | | | 7/36 | | 石・砂・海 | 並 | 7.5YR6/4 におい黄濁 | 10YR5/3 におい黄濁 | ヘラ削り | | | |
| 60 | 263 E | | D7-8 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 8/36 | | | | 8/36 | | 石・砂・雲 | 並 | 7.5YR6/6 黄 | 7.5YR6/4 におい黄濁 | ヘラ削り | | | |
| 60 | 264 E | | D7-8 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 13.4 | | | | 8/36 | | 石・砂・海 | 並 | 10YR6/4 におい黄濁 | 10YR6/4 におい黄濁 | ヘラ削り | | | |
| 60 | 265 E | | E8-11 E9-5 | 下層 | 土師器 | 長頸 | 25.2 | | | | 4/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR7/3 におい黄濁 | 7.5YR7/3 におい黄濁 | ヘラ削り | | | |
| 60 | 266 E | | D7-25 | 下層 | 土師器 | 長頸 | 17.6 | | | | 5/36 | | 石・砂 | 並 | 7.5YR5/6 明濁 | 7.5YR5/6 明濁 | ヘラ削り | | 内ス | |
| 60 | 267 E | | F10-3 | 下層 | 土師器 | 長頸 | 19.6 | | | | 5/36 | | 石・砂・雲 | 並 | 7.5YR5/6 黄 | 10YR4/2 灰黄濁 | ヘラ削り | | | |
| 60 | 268 E | | D7-14 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 14.5 | | | | 3/36 | | 石・砂 | 並 | 5YR6/6 黄 | 10YR4/2 灰黄濁 | ヘラ削り | | 内ター | |
| 60 | 269 E | | E9-10 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 9.6 | | | | 4/36 | | 石・砂 | 並 | 5YR6/6 黄 | 5YR6/6 黄 | ヘラ削り | | 内外ター | |
| 60 | 270 E | | D7-14 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 12.4 | | | | 6/36 | | 石・砂・雲 | 並 | 7.5YR5/4 におい黄濁 | 10YR6/4 におい黄濁 | ヘラ削り | | 内外ター | |
| 60 | 271 E | | E8-6,11 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 4.0 | | | | 20/36 | | 石・砂・雲 | 並 | 7.5YR3/1 黒濁 | 10YR6/3 におい黄濁 | ヘラ削り | | 内外ター | |
| 60 | 272 E | | D7-14 No.1 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 7.7 | | | | 36/36 | | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 におい黄濁 | 10YR6/3 におい黄濁 | ヘラ削り | | | |
| 60 | 273 E | | D7-25 | 下層 | 土師器 | 小壺 | 35.6 | | | | 3/36 | | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 黄 | 10YR6/4 におい黄濁 | ヘラ削り | | | |
| 61 | 274 E | | E8-17 | 下層 | 黒色土器 | 有台杯 | | | | | | | 石・砂・海 | 並 | 10YR6/3 におい黄濁 | 2.5Y3/1 黒濁 | 黒色遮埋 | | 底外黒書 | |
| 61 | 275 E | | D7-19,20 | 下層 | 黒色土器 | 無台杯 | 17.4 | 6.8 | 5.7 | 33 | 39 | 11/36 | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR5/4 におい黄濁 | 10YR6/3 におい黄濁 | 黒色遮埋、ロクロナリ、ミナキ | | |
| 61 | 276 E | | E8-1,11 | 下層 | 珠洲焼 | 横鉢 | 30.4 | | | | 5/36 | | 石・長 | 並 | 10YR6/3 におい黄濁 | 2.5Y3/1 黒濁 | 黒色遮埋、ロクロナリ、ミナキ | | | |
| 61 | 277 E | | 排土 | 下層 | 須臾器 | 長頸瓶 | 20.4 | | | | 3/36 | | B群 | 石・長 | 並 | 5Y6/1 灰 | 7.5Y5/1 灰 | ヘラ削り | | |
| 61 | 278 E | | 下層 | 須臾器 | 長頸瓶 | | 11.8 | | | | 9/36 | | B群 | 石・長 | 並 | 10YR7/3 におい黄濁 | 2.5Y7/3 濃黄 | ヘラ削り | | 外黒書 |
| 61 | 279 E | | 下層 | 土師器 | 無台杯 | | 12.4 | 5.4 | 5.0 | 40 | 44 | 5/36 | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR7/3 におい黄濁 | 2.5Y7/3 濃黄 | ヘラ削り | | |
| 61 | 280 E | | 排土 | 下層 | 土師器 | 無台杯 | 7.2 | | | | 14/36 | | 石・砂・海 | 並 | 7.5YR5/6 明濁 | 7.5YR5/4 におい黄濁 | 噴文、ミナキ | | 底外黒書 | |

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高 | 器高指数 | 底径指数 | 底径 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | 底径 | 底径 | 底径 | 備考 |
|--------|------|------|--------|----|------|-----|---------|------|-----|------|------|----|----|------|-------|-----|-------------|--------------|-------|-------|------|-----|----|------|----|
| | | 区 | 遺構 | | | | 遺構 | グリット | | | | | | | 分類 | 含有物 | | 外面 | 内面 | 外面 | | | | | |
| 61 | 281 | E | 排土 | 下層 | 土師器 | 長甕 | 18.4 | 3/36 | | | | | | 3/36 | 石・砂 | 並 | 10YR6/4 におい | 7.5YR6/4 におい | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 内スス | |
| 61 | 282 | E | 排土 | 下層 | 土師器 | 小甕 | 13.0 | 4/36 | | | | | | 6/36 | 石・砂 | 並 | 10YR7/4 におい | 2.5Y 7/3 残 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 61 | 283 | E | 排土 (南) | 下層 | 土師器 | 鉢 | 15.0 | 6/36 | | | | | | 1/36 | 石・砂・雲 | 並 | 10YR6/4 におい | 10YR6/4 におい | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | ベタ高台 | |
| 61 | 284 | E | 排土 | 下層 | 黒色土器 | 有台杯 | 13.0 | 1/36 | 4.5 | 35 | 42 | | | 1/36 | 石・砂 | 並 | N2/黒 | N2/黒 | 黒色処理 | ロクロナデ | 黒色処理 | ミガキ | | | |
| 61 | 285 | E | 排土 | 下層 | 黒色土器 | 無台杯 | (12.0) | | | | | | | 5/36 | 石・砂 | 並 | N2/黒 | N2/黒 | 黒色処理 | ロクロナデ | 黒色処理 | ミガキ | | | |
| 61 | 286 | E | 排土 | 下層 | 黒色土器 | 無台杯 | 16.2 | | | | | | | 5/36 | 石・雲 | 並 | 10YR6/3 におい | 10YR6/3 におい | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 61 | 287 | E | 排土 | 下層 | 黒色土器 | 無台杯 | 14.0 | | | | | | | 5/36 | 石・雲 | 並 | 10YR8/3 残 | 2.5Y 3/1 黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |

F区

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高 | 器高指数 | 底径指数 | 底径 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | 底径 | 底径 | 底径 | 備考 |
|--------|------|------|-------------------------------|----|------|-----|---------|------|-----|------|------|----|----|-------|---------|-----|--------------|--------------|-------|-------|----|----|----|-------------|----|
| | | 区 | 遺構 | | | | 遺構 | グリット | | | | | | | 分類 | 含有物 | | 外面 | 内面 | 外面 | | | | | |
| 61 | 288 | F | SD1 | 上層 | 土師器 | 小甕 | 13.0 | 3/36 | | | | | | 3/36 | 石・砂・赤 | 並 | 10YR7/3 におい | 10YR5/2 残 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 内スス | |
| 61 | 289 | F | SD3 | 上層 | 珠洲焼 | 甕 | | | | | | | | 3/36 | 石・長 | 並 | 7.5Y6/1 灰 | | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 61 | 290 | F | SD5 | 上層 | 須臾器 | 杯 | 13.0 | | | | | | | 8/36 | 石・長・白 | 並 | N5/灰 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 高台外板圧痕、内面熱痕 | |
| 61 | 291 | F | SD9 | 上層 | 須臾器 | 長頸瓶 | 18.0 | | | | | | | 2/36 | 石・長 | 並 | N4/灰 | N3/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 内外側削口タール | |
| 61 | 292 | F | SD14 | 上層 | 珠洲焼 | 甕 | (12.0) | | | | | | | 12/36 | 石・長 | 並 | N6/灰 | N6/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 内外スス | |
| 61 | 293 | F | SD30 | 上層 | 須臾器 | 無台杯 | 11.8 | 8.2 | 2.5 | 21 | 69 | | | 5/36 | 石・長 | 並 | 5Y6/1 灰 | 5Y6/2 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 底外板圧痕 | |
| 61 | 294 | F | SD74 | 上層 | 珠洲焼 | 長甕 | 21.6 | | | | | | | 5/36 | 石・砂 | 並 | 10YR6/4 におい | 10YR6/3 におい | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 61 | 296 | F | 河川20 | 上層 | 須臾器 | 小甕 | 4.0 | | | | | | | 3/36 | 石・長 | 並 | 5Y7/2 灰 | 2.5Y7/2 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 盛G | |
| 61 | 297 | F | SD5.SD30 | 上層 | 須臾器 | 有台杯 | 9.0 | | | | | | | 3/36 | 石・長 | 並 | 10YR6/2 残 | 10YR5/4 におい | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 61 | 298 | F | G4-4 | 上層 | 須臾器 | 有台杯 | 6.0 | | | | | | | 9/36 | 石・長 | 並 | N6/灰 | N7/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 底外板熱、底用靄 | |
| 61 | 299 | F | T6-6 | 上層 | 須臾器 | 有台杯 | 11.6 | 6.8 | 2.7 | 23 | 59 | | | 6/36 | 石・白 | 並 | 2.5Y6/1 オリーブ | 7.5Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 底外板熱「口」 | |
| 61 | 300 | F | E4-15 | 上層 | 須臾器 | 無台杯 | 6.4 | | | | | | | 6/36 | 石・長 | 並 | N5/灰 | N5/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 61 | 301 | F | K3-4 | 上層 | 須臾器 | 無台杯 | 9.6 | | | | | | | 6/36 | 石・長 | 並 | 5Y7/1 灰 | 5Y7/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 61 | 302 | F | U6-19 | 上層 | 須臾器 | 長頸瓶 | | | | | | | | 6/36 | 石・長 | 並 | 2.5Y4/1 藍 | 2.5Y4/1 藍 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 61 | 303 | F | T6-1 | 上層 | 須臾器 | 横瓶 | | | | | | | | 6/36 | 石・長 | 並 | N4/灰 | N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 62 | 304 | F | U6-12 No.2, U6-12 No.1, U6-16 | 上層 | 須臾器 | 甕 | | | | | | | | 6/36 | 石・長・白 | 並 | 2.5Y6/1 オリーブ | 2.5Y6/1 オリーブ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 内付着物 | |
| 62 | 305 | F | S5-16 | 上層 | 須臾器 | 甕 | | | | | | | | 6/36 | 石・砂 | 並 | 5YR6/6 灰 | 5YR6/6 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 内タール | |
| 62 | 306 | F | F4-11, 15 | 上層 | 土師器 | 無台杯 | 5.8 | | | | | | | 3/36 | 石・砂・海 | 並 | 10YR7/4 におい | 10YR7/3 におい | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 62 | 307 | F | U6-16, T6-15 | 上層 | 土師器 | 無台杯 | 15.9 | | | | | | | 10/36 | 石・砂 | 並 | 10YR6/4 におい | 10YR6/4 におい | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 底部孔 | |
| 62 | 308 | F | K3-2 | 上層 | 土師器 | 無台杯 | 6.0 | | | | | | | 5/36 | 石・砂・赤・海 | 並 | 10YR6/4 におい | 10YR6/4 におい | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 外タール | |
| 62 | 309 | F | K3-4 | 上層 | 土師器 | 長甕 | 17.4 | | | | | | | 4/36 | 石・砂・赤・海 | 並 | 5YR6/6 灰 | 5YR6/6 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 62 | 310 | F | T6-10 | 上層 | 土師器 | 鉢 | 11.0 | | | | | | | 29/36 | 石・砂・海 | 並 | 10YR7/3 におい | N2/黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 62 | 311 | F | K3-3 | 上層 | 黒色土器 | 無台杯 | 5.8 | | | | | | | 5/36 | 石・長 | 並 | N4/灰 | N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 62 | 312 | F | U6-15 | 上層 | 珠洲焼 | 甕 | | | | | | | | 5/36 | 石・長 | 並 | 10Y5/1 灰 | 10Y5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 62 | 313 | F | U6-20 | 上層 | 珠洲焼 | 甕 | | | | | | | | 5/36 | 石・長 | 並 | 10Y5/1 灰 | 10Y5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |
| 62 | 314 | F | U6-20 | 上層 | 珠洲焼 | 甕 | | | | | | | | 10/36 | 石・長 | 並 | 5Y6/2 オリーブ | 5Y6/2 オリーブ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |

G区

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高 | 器高指数 | 底径指数 | 底径 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | 底径 | 底径 | 底径 | 備考 |
|--------|------|------|-----|----|-------|-----|---------|------|----|------|------|----|----|-------|-------|-----|--------------|--------------|-------|-------|----|----|----|-------|----|
| | | 区 | 遺構 | | | | 遺構 | グリット | | | | | | | 分類 | 含有物 | | 外面 | 内面 | 外面 | | | | | |
| 62 | 315 | G | 河川9 | 上層 | 古式土師器 | 高杯 | | | | | | | | 6/36 | 石・長・砂 | 並 | 10YR6/6 明 | 10YR4/2 残 | ミガキ | 輪削み | | | | | |
| 62 | 316 | G | 河川9 | 上層 | 古式土師器 | 高杯 | 16.2 | | | | | | | 6/36 | 石・砂・海 | 並 | 7.5YR7/3 におい | 7.5YR7/3 におい | ナデ | ナデ | | | | | |
| 62 | 317 | G | 河川9 | 上層 | 古式土師器 | 高杯 | | | | | | | | 5/36 | 石・長・砂 | 並 | 10YR7/4 におい | 10YR6/6 明 | ナデ | ナデ | | | | | |
| 62 | 318 | G | 河川9 | 下層 | 古式土師器 | 高杯 | 13.0 | | | | | | | 2/36 | 石・長・砂 | 並 | 10YR8/2 黒 | 10YR5/4 におい | ナデ | ナデ | | | | | |
| 62 | 319 | G | 河川9 | 下層 | 古式土師器 | 杯 | 14.0 | | | | | | | 2/36 | 石・長 | 並 | 5Y5/1 灰 | 5Y5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 外スス | |
| 62 | 320 | G | 河川9 | 上層 | 須臾器 | 有台杯 | 7.0 | | | | | | | 9/36 | 石・長 | 並 | 10Y6/1 灰 | 10Y6/2 オリーブ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 底外板圧痕 | |
| 62 | 321 | G | 河川9 | 上層 | 須臾器 | 有台杯 | 8.0 | | | | | | | 11/36 | 石・長 | 並 | 10Y5/1 灰 | 10Y5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 底外板圧痕 | |
| 62 | 322 | G | 河川9 | 上層 | 須臾器 | 無台杯 | 8.6 | | | | | | | 10/36 | 石・長 | 並 | 5Y6/2 オリーブ | 5Y6/2 オリーブ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | |

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | 回転方向 | 備考 |
|--------|------|-------|-----|------------|-------|-----|---------|-----|------|------|-------|-----|-------|-----|----------------|----------------|---------------|---------------|-------|------|----|
| | | 区 | 遺構 | | | | 口径 | 底径 | | | | | 分類 | 含有物 | | 外面 | 内面 | 底面 | | | |
| 62 | 323 | G | 河川9 | グリット | 須臾器 | 無台杯 | 8.0 | 8.0 | 3/36 | 8/36 | 8/36 | 並 | C群 | 石・長 | 並 | 10Y7/1底白 | 10YR4/3におい黄褐色 | 10YR4/3におい黄褐色 | ロクロナデ | ヘラ切り | |
| 62 | 324 | G | | I3-1 No.1 | 古式土師器 | 高杯 | 18.2 | | 3/36 | | 4/36 | 不良 | 石・長・砂 | 並 | 10YR6/3におい黄褐色 | 7.5YR8/6黄褐色 | 7.5YR8/6黄褐色 | ナデ | | | |
| 62 | 325 | G | | I3-1 | 古式土師器 | 高杯 | | | | | | 並 | 石・長・砂 | 並 | 7.5YR8/6黄褐色 | 7.5YR8/6黄褐色 | ナデ | | | | |
| 62 | 326 | G | | I2-21 | 古式土師器 | 高杯 | 10.0 | | 5/36 | | 5/36 | 並 | 石・長・砂 | 並 | 7.5YR1/3におい黄褐色 | 7.5YR1/3におい黄褐色 | ナデ | | | 外黒斑 | |
| 62 | 327 | G | | K2-12 No.1 | 須臾器 | 有台杯 | 8.0 | | | | 11/36 | 並 | 石・白 | 並 | 10Y5/1底 | N6/底 | ナデ | ロクロナデ | ヘラ切り | | |
| 62 | 328 | G | | C4-7 | 須臾器 | 横瓶 | | | | | | 並 | 石・長 | 並 | 2.5Y5/1オリーブ底 | N7/底白 | 平打タタキ | 陶心内当て具 | | | |
| 62 | 329 | G | | B4-3 | 土師器 | 罎 | (32.0) | | 1/36 | | 1/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR6/4におい黄褐色 | 10YR6/6黄褐色 | ロクロナデ | | | | |

H区

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | 回転方向 | 備考 |
|--------|------|-------|----|--------------|-------|----|---------|----|------|------|------|-----|-----|-----|----------|-------------|----|----|----|------|----|
| | | 区 | 遺構 | | | | 口径 | 底径 | | | | | 分類 | 含有物 | | 外面 | 内面 | 底面 | | | |
| 63 | 330 | H | | E4-11.1,2,14 | 古式土師器 | 高杯 | 18.0 | | 2/36 | | 2/36 | 並 | 石・長 | 並 | 2.5Y7/4黄 | 2.5Y6/3におい黄 | ナデ | | | | |

I区

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | 回転方向 | 備考 |
|--------|------|-------|----------|------|-----|-----|---------|------------|-------|------|-------|-----|-------|-----|------------------|----------------|-----------|------|----|----------|----|
| | | 区 | 遺構 | | | | 口径 | 底径 | | | | | 分類 | 含有物 | | 外面 | 内面 | 底面 | | | |
| 63 | 331 | I | SK25 | P7-1 | 土師器 | 無台杯 | 13.6 | 10.0 | 3.6 | 26 | 14 | 並 | 石・長・雲 | 並 | 10YR8/3黄褐色 | 10YR8/3黄褐色 | ロクロナデ | ヘラ切り | | 内外赤彩 | |
| 63 | 332 | I | SX61 | | 須臾器 | 杯蓋 | 17.2 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | 石・長 | 並 | 5YR4/1黄 | 7.5Y6/1底 | ロクロナデ | | | | |
| 63 | 333 | I | SX60 | | 須臾器 | 有台杯 | 12.4 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・長 | 並 | 5B5/1黄 | 5B5/1黄 | ロクロナデ | | | | |
| 63 | 334 | I | SX60 | | 須臾器 | 有台杯 | 12.4 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・長 | 並 | 5Y6/2底オリーブ | 5Y6/2底オリーブ | 平打タタキ | | | 339と同一 | |
| 63 | 335 | I | SD59 | | 須臾器 | 無台杯 | 13.0 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・長 | 並 | N4/底 | N4/底 | ロクロナデ | | | | |
| 63 | 336 | I | SD58 | | 須臾器 | 無台杯 | 8.3 | | 35/36 | | 35/36 | 並 | 石・長 | 並 | 7.5Y6/1底 | 10Y7/1底白 | ロクロナデ | ヘラ切り | | 内外赤分付着 | |
| 63 | 337 | I | SD59 | | 須臾器 | 長頸瓶 | | | | | | 並 | 石・長 | 並 | N4/底 | N4/底 | ロクロナデ | | | | |
| 63 | 338 | I | SD58 | | 須臾器 | 罎 | | | | | | 並 | 石・長 | 並 | 7.5Y3/1オリーブ黒 | 10Y5/1底 | 平打タタキ | | | 外須臾器破片付着 | |
| 63 | 339 | I | SD59 | | 須臾器 | 罎 | | | | | | 並 | 石・長 | 並 | 7.5Y7/1底白 | 5Y6/1底 | 平打タタキ | | | | |
| 63 | 340 | I | SP4 | | 須臾器 | 罎 | | | | | | 並 | 石・長 | 並 | 7.5Y6/1底 | 7.5Y6/1底 | ロクロナデ | | | | |
| 63 | 341 | I | I7-5 | | 須臾器 | 杯蓋 | 15.5 | | 5/36 | | 5/36 | 並 | 石・長 | 並 | N6/底 | N6/底 | ロクロナデ | | | | |
| 63 | 342 | I | J6-20,24 | | 須臾器 | 有台杯 | 12.6 | 7.9 | 4.2 | 33 | 63 | 並 | 石・長 | 並 | N5/底 | N5/底 | ロクロナデ | ヘラ切り | | 右 | |
| 63 | 343 | I | M6-15 | | 須臾器 | 無台杯 | 15.4 | 10.8 | 3.2 | 21 | 70 | 並 | 石・長 | 並 | 7.5Y7/1底白 | 7.5Y7/1底白 | ロクロナデ | ヘラ切り | | | |
| 63 | 344 | I | P7-1 | | 須臾器 | 無台杯 | 13.4 | 10.4 | 3.4 | 25 | 78 | 並 | 石・長 | 並 | 5G35/1オリーブ底 | 7.5Y6/1底 | ロクロナデ | | | | |
| 63 | 345 | I | J6-23 | | 須臾器 | 無台杯 | 13.2 | 7.8 | 3.2 | 24 | 59 | 並 | 石・長 | 並 | 7.5Y6/1底 | 10Y6/1底 | ロクロナデ | ヘラ切り | | 右 | |
| 63 | 346 | I | L6-14 | | 須臾器 | 罎 | 23.4 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・長 | 並 | N6/1底 | 5Y7/1底 | ロクロナデ | | | | |
| 63 | 347 | I | J6-24 | | 須臾器 | 罎 | | | | | | 並 | 石・長 | 並 | 5Y8/1底白 | 2.5Y7/2底黄 | 平打タタキ | | | | |
| 63 | 348 | I | J6-23 | | 土師器 | 無台杯 | 8.2 | | 31/36 | | 31/36 | 並 | 石・赤 | 並 | 5Y8/1底白 | 2.5Y7/3底黄 | ロクロナデ | ヘラ切り | | 右 | |
| 63 | 349 | I | | | 土師器 | 長罎 | 16.4 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・雲・砂 | 並 | 2.5Y6/5(4)におい黄褐色 | 2.5YR5/4におい黄褐色 | ハケス、ロクロナデ | | | 内外赤分付着 | |
| 63 | 350 | I | J6-23,24 | | 土師器 | 長罎 | 18.6 | | 15/36 | | 15/36 | 並 | 石・長・砂 | 並 | 10YR7/3におい黄褐色 | 10YR7/4におい黄褐色 | ハケス、ロクロナデ | | | 非ロクロ | |
| 63 | 351 | I | O7-3 | | 土師器 | 小罎 | 14.2 | | 5/36 | | 5/36 | 並 | 石・長・砂 | 並 | 10YR6/3におい黄褐色 | 10YR6/3におい黄褐色 | ハケス | | | 内外赤分付着 | |
| 63 | 352 | I | J6-20 | | 土師器 | 小罎 | 13.7 | 6.6 (13.0) | 2/36 | | 2/36 | 並 | 石・長・砂 | 並 | 7.5YR7/6底 | 7.5YR7/6底 | ロクロナデ | | | 内外赤分付着 | |
| 63 | 353 | I | J6-23 | | 土師器 | 小罎 | 17.2 | | 10/36 | | 10/36 | 並 | 石・長・砂 | 並 | 7.5YR6/6底 | 7.5YR6/6底 | ロクロナデ | | | 内外赤分付着 | |
| 63 | 354 | I | I8-6 | | 土師器 | 罎 | 30.8 | | 2/36 | | 2/36 | 並 | 石・長・砂 | 並 | 7.5YR8/2底白 | 7.5YR8/2底白 | ハケス | | | 内外赤分付着 | |

J区

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | 回転方向 | 備考 |
|--------|------|-------|------|------|-----|-----|---------|-----|-------|------|-------|-----|-------|-----|----------------|---------------|-------|------|----|------|--------|
| | | 区 | 遺構 | | | | 口径 | 底径 | | | | | 分類 | 含有物 | | 外面 | 内面 | 底面 | | | |
| 64 | 355 | J | SE87 | | 土師器 | 無台杯 | 5.0 | | 23/36 | | 23/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 5Y5/8明黄 | 7.5YR6/6底 | ロクロナデ | 糸切り | | 右 | 外赤分付着 |
| 64 | 356 | J | SK15 | | 須臾器 | 有台杯 | 8.4 | | 12/36 | | 12/36 | 並 | 石・長 | 並 | 2.5Y6/2底黄 | 10YR6/2底黄 | ロクロナデ | ヘラ切り | | | 外赤分付着 |
| 64 | 357 | J | SK15 | | 須臾器 | 有台杯 | 8.4 | | 9/36 | | 9/36 | 並 | 石・長 | 並 | 2.5Y7/1底白 | 5Y6/1底 | ロクロナデ | ヘラ切り | | | 外赤分付着 |
| 64 | 358 | J | SK15 | No.5 | 須臾器 | 罎 | | | | | | 並 | 石・長 | 並 | N6/1底 | N6/1底 | 平打タタキ | | | | 外赤分付着 |
| 64 | 359 | J | SK15 | | 土師器 | 無台杯 | 13.0 | 5.4 | 4.8 | 37 | 42 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5YR7/6底 | 5YR6/6底 | ロクロナデ | 糸切り | | 右 | 内外赤分付着 |
| 64 | 360 | J | SK15 | | 土師器 | 無台杯 | 12.8 | | 2/36 | | 2/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 7.5YR6/4におい黄褐色 | 10YR4/2底黄 | ロクロナデ | | | | 内外赤分付着 |
| 64 | 361 | J | SK15 | No.2 | 土師器 | 無台杯 | 14.2 | | 5/36 | | 5/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 10YR6/3におい黄褐色 | 10YR6/3におい黄褐色 | ロクロナデ | | | | 内外赤分付着 |

| 図版 No. | 報告 番号 | 出土位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高 指数 | 底径 指数 | 底径 口径 | 残存率 | 分類 | 胎土 含有物 | 焼成 | 色調 | | 手法 | | 回転 方向 | 備考 | |
|-----------|----------|------|-------|----------|-----|-----|---------|-----|----------|----------|----------|-------|-------|-----------|---------------|---------------|--------------|-------|-------|----------|---------|------|
| | | 区 | 建構 | | | | 口徑 | 底径 | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | 底部 |
| 64 | 362 | J | SK15 | | 土師器 | 無台椀 | 12.7 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・砂・雲 | 並 | 2.5Y6/2 灰黄 | 10YR6/2 灰黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 64 | 363 | J | SK15 | | 土師器 | 無台椀 | 13.7 | | 5/36 | | 5/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR7/4 に近い黄緑 | 10YR6/3 に近い黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 64 | 364 | J | SK15 | | 土師器 | 無台椀 | 13.6 | | 2/36 | | 2/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 10YR6/3 に近い黄緑 | 10YR5/3 に近い黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 64 | 365 | J | SK15 | | 土師器 | 無台椀 | 13.4 | | 7/36 | | 7/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5Y6/6 黄 | 10YR6/3 に近い黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 64 | 366 | J | SK15 | No.1 | 土師器 | 無台椀 | 5.0 | | 36/36 | | 36/36 | 並 | 石・砂・雲 | 並 | 7.5Y6/4 に近い黄 | 7.5Y6/4 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 64 | 367 | J | SK15 | | 土師器 | 小甕 | 15.6 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | 石・砂・雲 | 並 | 2.5Y7/4 黄 | 2.5Y6/3 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 64 | 368 | J | SK15 | | 土師器 | 小甕 | 13.4 | | 8/36 | | 8/36 | 並 | 石・砂・雲 | 並 | 7.5Y7/4 黄 | 2.5Y7/4 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 64 | 369 | J | SK15 | | 土師器 | 無台椀 | (15.6) | | 1/36 | | 1/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5Y7/1 オリーブ黒 | N/ 黒 | 黒色処理 | 黒色処理 | | | | |
| 64 | 370 | J | SK29 | | 土師器 | 長甕 | 26.2 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・砂・雲 | 並 | 10YR7/3 に近い黄緑 | 10YR8/3 黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内外ター | |
| 64 | 371 | J | SK29 | R5-6 | 土師器 | 無台椀 | 16.0 | | 2/36 | | 2/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR7/4 に近い黄緑 | N2/ 暗灰 | 黒色処理 | 黒色処理 | | | 内外ター | |
| 64 | 372 | J | SD17 | | 土師器 | 小甕 | 13.8 | | 2/36 | | 2/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5Y6/3 に近い黄 | 10YR7/4 に近い黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内ス | |
| 64 | 373 | J | SD18 | | 土師器 | 長甕 | 17.0 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・砂・雲 | 並 | 10YR8/4 黄緑 | 10YR8/3 黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 西古志型 | |
| 64 | 374 | J | SD20 | | 土師器 | 長甕 | 11.6 | | 5/36 | | 5/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 2.5Y6/1 黄 | 10YR7/4 に近い黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内外ター | |
| 64 | 375 | J | SD20 | | 土師器 | 長甕 | 7.0 | | 10/36 | | 10/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 に近い黄 | 7.5Y6/4 に近い黄 | ケスリ | ケスリ | | | 平底 | |
| 64 | 376 | J | SD20 | | 土師器 | 小甕 | 11.0 | | 5/36 | | 5/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5Y7/6 黄 | 7.5Y6/6 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 64 | 377 | J | SD20 | | 土師器 | 小甕 | 7.2 | | 36/36 | | 36/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR3/1 黒 | 7.5Y4/3 オリーブ黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 64 | 378 | J | SD20 | | 土師器 | 無台椀 | 6.0 | | 10/36 | | 10/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5Y7/3 黄 | 7.5Y6/4 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 底外黒書「口」 | |
| 64 | 379 | J | SD25 | | 土師器 | 小甕 | 12.5 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5Y7/3 に近い黄 | N2/ 黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内ス | |
| 64 | 380 | J | SD27 | Q5-9 | 土師器 | 無台椀 | 10.0 | | 9/36 | | 9/36 | 並 | C 群 | 石・砂・海 | 並 | 10YR8/4 黄緑 | 10YR8/4 黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | ヘラ切り |
| 64 | 381 | J | SD27 | | 土師器 | 無台椀 | 11.6 | 9.2 | 4/36 | 79 | 4/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5Y7/3 黄 | 7.5Y6/4 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 64 | 382 | J | SD27 | | 土師器 | 長甕 | 23.2 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR7/4 に近い黄緑 | 10YR7/3 に近い黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 65 | 383 | J | SD27 | | 土師器 | 長甕 | 21.6 | | 2/36 | | 2/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR7/3 に近い黄緑 | 10YR8/3 黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 65 | 384 | J | SD27 | | 土師器 | 長甕 | 21.0 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 7.5Y7/3 に近い黄 | 10YR7/3 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 65 | 385 | J | SD27 | | 土師器 | 小甕 | 15.6 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR7/3 に近い黄 | 10YR7/2 に近い黄 | カキメ | カキメ | | | | |
| 65 | 386 | J | SD30 | | 土師器 | 無台椀 | 15.0 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | C 群 | 石・砂・長 | 並 | 7.5Y6/1 灰 | 5Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内外ター |
| 65 | 387 | J | SD30 | | 土師器 | 無台椀 | 8.8 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 2.5Y7/4 黄 | 2.5Y7/4 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | ヘラ切り | |
| 65 | 388 | J | SD31 | | 土師器 | 無台椀 | 12.4 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 2.5Y6/2 灰黄 | 2.5Y4/1 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内外ター | |
| 65 | 389 | J | SD31 | No.1 | 土師器 | 長甕 | 9.6 | | 10/36 | | 10/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 に近い黄 | 10YR8/3 黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 外ス | |
| 65 | 390 | J | SD31 | | 土師器 | 小甕 | 6.0 | | 12/36 | | 12/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR6/3 に近い黄 | 7.5Y6/3 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 外ター | |
| 65 | 391 | J | SD31 | No.2 | 土師器 | 甕 | 16.8 | | 12/36 | | 12/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR6/2 灰黄 | 2.5Y6/3 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 65 | 392 | J | SD32 | | 土師器 | 杯蓋 | 2.8 | | 36/36 | | 36/36 | 並 | C 群 | 石・砂・長 | 並 | 5Y7/1 灰 | 5Y7/2 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 65 | 393 | J | SD32 | | 土師器 | 有台椀 | 15.5 | | 6/36 | | 6/36 | 並 | B 群 | 石・砂・長 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | |
| 65 | 394 | J | SD35 | | 土師器 | 甕 | 4.2 | | 36/36 | | 36/36 | 並 | A 群 | 石・砂・長 | 並 | 2.5Y7/1 黄 | 5Y8/1 灰 | 格子タタキ | 格子タタキ | | | 外自然熱 |
| 65 | 395 | J | SD42 | | 土師器 | 無台椀 | 4.2 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 7.5Y6/4 に近い黄 | 7.5Y4/3 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 65 | 396 | J | SD44 | | 土師器 | 無台椀 | 5.4 | | 36/36 | | 36/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 5Y6/6 黄 | 2.5Y4/1 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内ス | |
| 65 | 397 | J | SD56 | | 土師器 | 無台椀 | 5.5 | | 14/36 | | 14/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 2.5Y8/2 灰 | 10YR4/1 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 65 | 398 | J | SD63 | | 土師器 | 無台椀 | 12.6 | | 7/36 | | 7/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 7.5Y6/4 に近い黄 | 10YR7/4 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内ス | |
| 65 | 399 | J | SD67 | | 土師器 | 甕 | 14.0 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | A 群 | 石・砂・長 | 並 | 5Y5/1 灰 | N6/ 灰 | 平打タタキ | 平打タタキ | | | 外ス |
| 65 | 400 | J | SD67 | | 土師器 | 無台椀 | 14.0 | | 3/36 | | 3/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR7/4 に近い黄 | 7.5Y6/4 黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 65 | 401 | J | SD67 | 2層 | 土師器 | 長甕 | 26.0 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 10YR7/4 に近い黄 | 10YR7/4 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 65 | 402 | J | SD71 | No.1 | 土師器 | 無台椀 | 11.8 | 5.0 | 4.3 | 36 | 42 | 23/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 7.5Y4/3 黄 | 10YR7/3 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 65 | 403 | J | SD71 | No.2,3,5 | 土師器 | 無台椀 | 15.4 | 5.3 | 4.7 | 31 | 34 | 9/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 7.5Y6/4 に近い黄 | 10YR7/3 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 65 | 404 | J | SD71 | No.6 | 土師器 | 無台椀 | 12.3 | 5.4 | 4.6 | 37 | 44 | 36/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 7.5Y6/6 黄 | 10YR5/3 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 65 | 405 | J | SD71 | No.7 | 土師器 | 無台椀 | 13.6 | 6.8 | 4.2 | 31 | 50 | 5/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 2.5Y3/2 黒 | 10YR3/2 黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 65 | 406 | J | SD71 | | 土師器 | 無台椀 | 14.2 | | 8/36 | | 8/36 | 並 | 石・砂・雲 | 並 | 2.5Y6/2 灰 | 10YR7/4 に近い黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内外ター | |
| 65 | 407 | J | SD71 | No.11,12 | 土師器 | 鉢 | 8.0 | | 7/36 | | 7/36 | 並 | 石・砂 | 並 | 5Y6/5 黄 | 7.5Y4/3 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内外ター | |
| 65 | 408 | J | SD86 | | 土師器 | 無台椀 | 14.0 | | 4/36 | | 4/36 | 並 | B 群 | 石・白 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内外ター |
| 65 | 409 | J | SD86 | | 土師器 | 無台椀 | 15.2 | | 7/36 | | 7/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 10YR6/3 に近い黄 | N2/ 黒 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | |
| 65 | 410 | J | SP53 | (11.2) | 土師器 | 無台椀 | (11.2) | | 3/36 | | 3/36 | 並 | B 群 | 石・白 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 外ス |
| 65 | 411 | J | SP53 | | 土師器 | 無台椀 | 5.0 | | 24/36 | | 24/36 | 並 | 石・砂・海 | 並 | 7.5Y6/4 に近い黄 | 7.5Y6/6 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 65 | 412 | J | SP101 | | 土師器 | 杯蓋 | 3.8 | | 10/36 | | 10/36 | 並 | B 群 | 石・砂・長 | 並 | 7.5Y6/1 黄 | 7.5Y6/1 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内外ター |

別 表

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高 | 器高指数 | 底径指数 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | | 回転方向 | 備考 | |
|--------|------|------|--------------|---------------------------------|-------|-----|---------|------|----|------|------|-------|-----|----|-------|----|-----------------------|--------------------|--------------------|-------|---------|------|-------|-------|
| | | 区 | 遺構 | | | | グリット | 口径 | | | | | | 底径 | 分類 | | 含有物 | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | 底面 |
| 65 | 413 | J | SP101 | | 須臾器 | 甕 | | | | | | | | C群 | 石・長 | 並 | N5/灰 | N6/灰 | 平石タタキ | 当て具 | | | | |
| 66 | 414 | J | SP102 | O1.2.1, O2.2.13 No.1,2,3,4,5 | 土師器 | 長甕 | 22.0 | 34.2 | | | | 19/36 | | B群 | 石・砂・海 | 並 | 7.5YR5.3に N4/灰 | 7.5YR7.6 | ロクロナデ・カキメ 平石タタキ | 当て具 | | | 外ターール | |
| 66 | 415 | J | SD31SD32 | Q5-3 | 須臾器 | 有台椀 | 17.0 | | | | | 2/36 | | B群 | 石・長 | 並 | N5/灰 | N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 外ターール | |
| 66 | 416 | J | SD20SD30 | | 土師器 | 無台椀 | 5.0 | | | | | 36/36 | | B群 | 石・砂・海 | 並 | 2.5Y7.2底黄 7.5YR7.4 | 7.5YR7.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 右 | |
| 66 | 417 | J | SK29SD32 | | 土師器 | 無台椀 | 5.0 | | | | | 36/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 2.5Y7.2底黄 7.5YR7.4 | 7.5YR7.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 右 | |
| 66 | 418 | J | SK29SD30 | R5-6 | 土師器 | 長甕 | 20.0 | | | | | 7/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 7.5YR7.3底黄 10YR7.3 | 10YR7.3 | ロクロナデ | ロクロナデ | カキメ | | 外ターール | |
| 66 | 419 | J | SK29SD27SD30 | R5-1 | 土師器 | 長甕 | 18.6 | | | | | 7/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 7.5YR7.3底黄 10YR7.3 | 10YR7.3 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 外ターール | |
| 66 | 420 | J | | R5-12 | 古式土師器 | 高弁 | 8.8 | | | | | 9/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 | 10YR5.2底黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 古墳後期 | |
| 66 | 421 | J | | R5-11 | 灰釉陶器 | 小瓶 | | | | | | 4/36 | | B群 | 石 | 並 | 2.5GY7.1明ア N5/灰 | 10Y7.1底白 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 66 | 422 | J | | O2-25 | 須臾器 | 杯蓋 | 16.2 | | | | | 4/36 | | B群 | 石・長 | 並 | N5/灰 | 2.5GY6.1明ア N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 66 | 423 | J | | Q4-1, Q5-3 | 須臾器 | 広口壺 | | | | | | | | C群 | 石・長 | 並 | 5G5/1緑灰 | 5G5/1緑灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 66 | 424 | J | | R5-1 | 須臾器 | 長頸瓶 | 12.0 | | | | | 7/36 | | C群 | 石・長 | 並 | 2.5Y4/1黄灰 | 7.5Y5/1灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 66 | 425 | J | | O2-20 | 土師器 | 無台椀 | 5.4 | | | | | 36/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 5YR5.8明黄 | 10YR5.4に N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 右 | |
| 66 | 426 | J | | O1-21 | 土師器 | 無台椀 | | | | | | 11/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR7.4に N4/灰 | 7.5YR7.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 右 | |
| 66 | 427 | J | | R5-17 | 土師器 | 長甕 | 23.4 | | | | | 6/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR7.4に N4/灰 | 7.5YR7.3 | ロクロナデ | ロクロナデ | カキメ・ハケメ | | 外ターール | |
| 66 | 428 | J | | Q4-12 | 土師器 | 長甕 | 21.6 | | | | | 3/36 | | B群 | 石・砂・赤 | 並 | 5YR7.6 | 7.5YR7.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 外ターール | |
| 66 | 429 | J | | R5-11 | 土師器 | 長甕 | 19.0 | | | | | 2/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 7.5YR7.6 | 5YR6/6 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 66 | 430 | J | | O1-21 | 土師器 | 長甕 | 20.0 | | | | | 4/36 | | B群 | 石・砂・海 | 並 | 10YR7.4に N4/灰 | 7.5YR7.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 66 | 431 | J | | R5-12.17 | 土師器 | 長甕 | 18.4 | | | | | 3/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR6.3に N3/暗灰 | 10YR5.3 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 | |
| 66 | 432 | J | | Q4-23 | 土師器 | 無台椀 | 4.7 | | | | | 36/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 7.5YR4/1緑灰 | | ロクロナデ | 黒色処理 | 糸切り | | 内ターール | |
| 66 | 433 | J | | | 黒色土器 | 無台椀 | | | | | | 36/36 | | B群 | 石・白 | 並 | 10Y6/1底 | | ロクロナデ | | | | 左 | 内ターール |

K区

| 図版 No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高 | 器高指数 | 底径指数 | 口径 | 残存率 | 胎土 | | 焼成 | 色調 | | | 手法 | | 回転方向 | 備考 |
|--------|------|------|-------|-----------------|-----|-----|---------|----|----|------|------|--------|-----|----|-------|----|----------------------|--------------------|-------|-------|-----|------|-----------------|
| | | 区 | 遺構 | | | | グリット | 口径 | | | | | | 底径 | 分類 | | 含有物 | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | |
| 67 | 434 | K | SK1 | No.1 | 須臾器 | 長頸瓶 | 15.7 | | | | | 19/36 | | B群 | 石・長 | 並 | N4/暗灰 | 2.5GY4.1明ア N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 底外縁付着 底外ターール |
| 67 | 435 | K | SK1 | | 須臾器 | 長頸瓶 | 10.0 | | | | | 9/36 | | B群 | 石・長 | 並 | 10Y4/1底 | 7.5Y5/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内自然釉 |
| 67 | 436 | K | SK19 | No.2 | 須臾器 | 長頸瓶 | 15.8 | | | | | 16/36 | | B群 | 石・砂・海 | 並 | 2.5Y7.3底黄 7.5Y6/3 | 10YR7.4に N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 右 |
| 67 | 437 | K | SK19 | No.3,8,10,11,12 | 土師器 | 無台椀 | 15.4 | | | | | 8/36 | | B群 | 石・砂・赤 | 並 | 2.5Y7.3底黄 | 2.5Y7.3底黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 67 | 438 | K | SK19 | No.11,12 | 土師器 | 無台椀 | 6.0 | | | | | 17/36 | | B群 | 石・砂・海 | 並 | 2.5Y7.3底黄 | 2.5Y7.3底黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 67 | 439 | K | SK19 | No.10,12 | 土師器 | 無台椀 | 12.4 | | | | | 5/36 | | B群 | 石・白 | 並 | 2.5Y7.3底黄 | 10Y6/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 67 | 440 | K | SK174 | | 須臾器 | 無台椀 | 13.5 | | | | | 2.6/36 | | B群 | 石・長 | 並 | 10YR7.3に N5/灰 | 10YR7.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 右 |
| 67 | 441 | K | SK74 | No.1 | 須臾器 | 杯蓋 | 4.0 | | | | | 24/36 | | B群 | 石・白 | 並 | N5/灰 | N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 左 |
| 67 | 442 | K | SK77 | G3-23 | 須臾器 | 杯蓋 | 15.4 | | | | | 11/36 | | B群 | 石・長 | 並 | 10YR5/2底黄 | 8.5Y4/2暗灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内脚灰裏 |
| 67 | 443 | K | SK81 | | 須臾器 | 小甕 | 9.6 | | | | | 7/36 | | B群 | 石・砂・雲 | 並 | 7.5Y7/1底白 | 10Y5/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 内脚灰裏 |
| 67 | 444 | K | SK110 | G3-6 | 須臾器 | 無台椀 | 12.0 | | | | | 4/36 | | B群 | 石・長 | 並 | 10Y5/1底 | 10Y5/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 左 |
| 67 | 445 | K | SK126 | | 須臾器 | 無台椀 | 8.0 | | | | | 10/36 | | B群 | 石・白 | 並 | 2.5Y6/2底黄 | 2.5Y6/3 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 外ターール |
| 67 | 447 | K | SK181 | No.2 | 須臾器 | 長甕 | 22.4 | | | | | 11/36 | | B群 | 石・砂・雲 | 並 | 10Y5/1底 | 10Y6/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 底外縁書「口」 |
| 67 | 448 | K | SK185 | | 須臾器 | 無台椀 | 7.0 | | | | | 8/36 | | B群 | 石・白 | 並 | 10Y6/1底 | 10Y6/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 底外縁書「口」 |
| 67 | 449 | K | SK204 | M10-19 | 須臾器 | 長甕 | 22.4 | | | | | 6/36 | | B群 | 石・白 | 並 | 2.5Y7.3底黄 | 10YR6.3に N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 底外縁書「口」 |
| 67 | 450 | K | SK241 | No.1 | 須臾器 | 有台椀 | 8.0 | | | | | 3/36 | | B群 | 石・白 | 並 | 10YR6/2底黄 | 10YR4/1緑灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 底外縁書「口」 |
| 67 | 451 | K | SK241 | | 須臾器 | 有台椀 | 14.0 | | | | | 2/36 | | B群 | 石・長 | 並 | 7.5Y6/1緑灰 | 10Y6/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 底外縁書「口」 |
| 67 | 452 | K | SK7 | | 土師器 | 小甕 | 5.3 | | | | | 22/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR7.4に N4/灰 | 10YR6.3に N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 67 | 453 | K | SK21 | M10-18 | 土師器 | 無台椀 | 11.6 | | | | | 3/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 2.5Y7.4底黄 | 10YR7.3に N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 右 |
| 67 | 454 | K | SK22 | | 土師器 | 長甕 | 25.2 | | | | | 4/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR6/6明黄 | 10YR5.3に N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 右 |
| 67 | 455 | K | SK23 | M10-12 | 土師器 | 長甕 | 14.4 | | | | | 4/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 7.5YR6/6 | 10YR6.3に N4/灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 外ターール |
| 67 | 456 | K | SK15 | | 土師器 | 長甕 | 19.6 | | | | | 4/36 | | B群 | 石・砂 | 並 | 10YR4/1緑灰 | 10YR4/1緑灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 外ターール |
| 67 | 457 | K | SK47 | | 須臾器 | 無台椀 | 6.6 | | | | | 17/36 | | B群 | 石・白 | 不良 | 5Y6/1底 | 5Y6/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 底外縁書「中家」 |
| 68 | 458 | K | SK51 | J6-1 | 須臾器 | 無台椀 | 11.8 | | | | | 8/36 | | B群 | 石・白 | 並 | 10Y6/1底 | 10Y6/1底 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | | 左 |

| 図版No. | 報告番号 | 出上位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | 器高指数 | 底径指数 | 底径 | 口径 | 残存率 | 胎土 含有物 | 焼成 | 色調 | | | 手法 | 回転方向 | 備考 |
|--------|----------------|----------------|------|----|-----|-----|---------|------|------|------|----|-------|--------|-----------|----------------|----------------|-------|-------|-----|------|------|
| | | 区 | 遺構 | | | | 口径 | 底径 | | | | | | | | 外面 | 内面 | 底部 | | | |
| 68 459 | K SD51 | No.1 | グリット | | 須恵器 | 長頸瓶 | 11.7 | 7.6 | 3.2 | 27 | 65 | 6/36 | B群 石・長 | 並 | 7.5/5/1 灰 | 7.5/4/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ハナ切 | 右 | 外自然釉 |
| 68 460 | K SD76 | G4-4 H4-7 | | | 須恵器 | 無台杯 | 11.8 | 7.8 | 3.0 | 25 | 66 | 20/36 | C群 石・長 | 並 | 5.0/4/1 暗オリーブ | 5.0/4/1 暗オリーブ | ロクロナデ | ロクロナデ | ハナ切 | 右 | 黒漆 |
| 68 461 | K SD76 | No.1 | | | 須恵器 | 無台杯 | 13.0 | 4.8 | 4.1 | 32 | 37 | 36/36 | 石・長 | 並 | 2.5/7/3 浅黄 | 2.5/7/3 浅黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 黒漆 |
| 68 462 | K SD76 | H4-2 | | | 土師器 | 無台杯 | 11.6 | 4.4 | 4.3 | 37 | 38 | 13/36 | 石・砂・赤 | 並 | 5.0/7/4 に赤い | 5.0/7/4 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 黒漆 |
| 68 463 | K SD76 | | | | 土師器 | 無台杯 | 12.8 | 4.4 | 4.3 | 34 | 34 | 24/36 | 石・砂 | 並 | 1.0/7/8.3 黄緑 | 1.0/7/8.3 黄緑 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 黒漆 |
| 68 464 | K SD76 | | | | 土師器 | 無台杯 | 11.0 | | | | | 6/36 | 石・砂・海 | 並 | 1.0/7/8.2 灰白 | 1.0/7/8.2 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 外スス |
| 68 465 | K SD76 | | | | 土師器 | 小甕 | 15.0 | | | | | 5/36 | 石・砂 | 並 | 1.0/7/8.2 灰黄 | 1.0/7/8.2 灰黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 外スス |
| 68 466 | K SD87 | | | | 土師器 | 無台杯 | 13.4 | 5.8 | 4.7 | 35 | 43 | 3/36 | 石・砂 | 並 | 1.0/7/8.4 に赤い | 1.0/7/8.4 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 外自然釉 |
| 68 467 | K SD90 | | | | 土師器 | 長甕 | 23.2 | | | | | 4/36 | 石・長 | 並 | 5.0/7/8.6 明赤 | 5.0/7/8.6 明赤 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 外自然釉 |
| 68 468 | K SD90 | | | | 土師器 | 長甕 | 21.0 | | | | | 4/36 | 石・長 | 並 | 1.0/7/8.3 に赤い | 1.0/7/8.3 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 外自然釉 |
| 68 469 | K SD90 | | | | 土師器 | 小甕 | 10.4 | | | | | 3/36 | 石・砂 | 並 | 1.0/7/8.3 に赤い | 1.0/7/8.3 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 内ター |
| 68 470 | K SD90 | | | | 土師器 | 小甕 | 36.4 | | | | | 6/36 | 石・砂・雲 | 並 | 1.0/7/8.3 に赤い | 1.0/7/8.3 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 内ター |
| 68 471 | K SD90 | M10-19 | | | 土師器 | 無台杯 | | 5.4 | | | | 36/36 | 石・砂・雲 | 並 | 1.0/7/8.3 黄緑 | 1.0/7/8.3 黄緑 | ハナケズリ | ハナケズリ | 糸切 | 右 | 黒漆 |
| 68 472 | K SD99 | | | | 土師器 | 無台杯 | | | | | | 36/36 | 石・砂・雲 | 並 | 1.0/7/8.3 黄緑 | 1.0/7/8.3 黄緑 | ハナケズリ | ハナケズリ | 糸切 | 右 | 黒漆 |
| 68 473 | K SD186 | | | | 須恵器 | 長頸瓶 | 12.4 | 7.5 | 2.8 | 23 | 60 | 11/36 | B群 石・白 | 並 | 2.5/7/6/1 オリーブ | 2.5/7/6/1 オリーブ | ロクロナデ | ロクロナデ | ハナ切 | 右 | 底外黒漆 |
| 68 474 | K SD193 | No.1 | | | 須恵器 | 無台杯 | | 9.8 | | | | 14/36 | B群 石・白 | 並 | 5.0/5/1 灰 | 5.0/5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ハナ切 | 右 | 底外黒漆 |
| 68 475 | K SD193 | No.2 | | | 須恵器 | 長頸瓶 | 17.2 | | | | | 5/36 | 石・砂・雲 | 並 | 1.0/7/8.3 に赤い | 1.0/7/8.3 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 内外スス |
| 68 476 | K SD216 | J6-1 | | | 須恵器 | 長甕 | 28.4 | | | | | 3/36 | 石・砂・雲 | 並 | 1.0/7/8.4 に赤い | 1.0/7/8.4 に赤い | 格子タタキ | 格子タタキ | 糸切 | 右 | 内外スス |
| 68 477 | K SD223 | | | | 土師器 | 長甕 | 21.6 | | | | | 4/36 | 石・砂・雲 | 並 | 1.0/7/8.3 に赤い | 1.0/7/8.3 に赤い | ハナケズリ | ハナケズリ | 糸切 | 右 | 内外スス |
| 68 478 | K SD234 | | | | 土師器 | 長甕 | 15.6 | 3.4 | 2.4 | 15 | 22 | 10/36 | B群 石・長 | 並 | 7.5/5/1 灰 | 7.5/5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 内外スス |
| 69 480 | K SD135 | F3-5, G2-21 | | | 須恵器 | 杯蓋 | | 5.2 | 5.1 | 53 | 54 | 2/36 | B群 石・長 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ハナ切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 481 | K SK120, SP135 | | | | 須恵器 | 有台杯 | 9.6 | 5.2 | 5.1 | 53 | 54 | 2/36 | B群 石・長 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ハナ切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 482 | K SK122, SD76 | No.3 | | | 須恵器 | 無台杯 | 12.2 | 7.2 | 3.4 | 28 | 59 | 34/36 | B群 石・白 | 並 | 1.0/7/1 灰白 | 1.0/7/1 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 黒色斑点 |
| 69 483 | K SK120, SK177 | F2-20, G2-23 | | | 須恵器 | 無台杯 | 13.8 | 8.0 | 3.0 | 22 | 58 | 6/36 | A群 石・長 | 並 | 7.5/7/1 灰白 | 7.5/7/1 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | ハナ切 | 右 | 黒色斑点 |
| 69 484 | K SK168 | SP175 | G3-6 | | 須恵器 | 無台杯 | | 8.0 | | | | 15/36 | B群 石・長 | 並 | 7.5/4/2 暗灰 | 7.5/4/2 暗灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | ハナ切 | 右 | 黒色斑点 |
| 69 485 | K SK119, SK122 | | | | 須恵器 | 長頸瓶 | | | | | | | B群 石・長 | 並 | 5.0/6/1 灰 | 5.0/6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 486 | K SK122, SD76 | H4-7 | | | 土師器 | 無台杯 | 12.6 | 5.2 | 3.9 | 31 | 41 | 2/36 | B群 石・長 | 並 | 1.0/7/8.3 に赤い | 2.5/7/3 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 487 | K SK66, SD51 | | | | 土師器 | 長甕 | 20.0 | | | | | 5/36 | 石・砂 | 並 | 1.0/7/1 灰白 | 1.0/7/1 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 488 | K SD21, SD22 | M10-24 | | | 土師器 | 長甕 | 17.2 | | | | | 6/36 | 石・砂 | 並 | 1.0/7/8.4 に赤い | 1.0/7/8.4 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 489 | K SK120, SD179 | G2-23, G3-13 | | | 土師器 | 長甕 | 18.4 | | | | | 11/36 | 石・砂 | 並 | 1.0/7/8.4 に赤い | 1.0/7/8.4 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 490 | K SK110, SD115 | | | | 土師器 | 無台杯 | 14.4 | 6.0 | 4.8 | 33 | 42 | 9/36 | 石・海 | 並 | 2.5/7/3 黄 | 2.5/7/3 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 491 | K | H4-13 | | | 須恵器 | 有台杯 | | 10.5 | | | | 3/36 | C群 石・長 | 並 | 7.5/5/1 灰 | 7.5/5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 492 | K | H4-8 | | | 須恵器 | 有台杯 | | | | | | | E群 石・長 | 並 | 1.0/4/1 灰 | 1.0/4/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 493 | K SK120, SK198 | F2-14 | | | 須恵器 | 無台杯 | 13.7 | 8.9 | 3.1 | 23 | 65 | 13/36 | C群 石・長 | 並 | 5.0/6/2 暗灰 | 2.5/5/2 暗灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 494 | K | G2-17, 23 | | | 須恵器 | 無台杯 | 13.2 | 7.6 | 3.1 | 23 | 58 | 1/36 | C群 石・長 | 並 | 2.5/7/2 灰黄 | 2.5/7/2 灰黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 495 | K | G2-21, G3-4 | | | 須恵器 | 無台杯 | 14.4 | 9.6 | 3.4 | 24 | 67 | 4/36 | C群 石・砂 | 並 | 2.5/8/1 灰白 | 5/7/1 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 496 | K | F3-5, G2-21 | | | 須恵器 | 無台杯 | 11.8 | 7.8 | 3.0 | 25 | 66 | 15/36 | B群 石・長 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 497 | K | J6-1 | | | 須恵器 | 無台杯 | 11.2 | 7.4 | 3.0 | 27 | 66 | 2/36 | B群 石・白 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 498 | K | G2-21, 23 | | | 須恵器 | 無台杯 | 12.0 | 8.5 | 3.1 | 26 | 71 | 19/36 | B群 石・白 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 499 | K | M10-18, M11-25 | | | 須恵器 | 無台杯 | 13.2 | 7.4 | 3.1 | 23 | 56 | 4/36 | B群 石・白 | 並 | 1.0/7/1 灰白 | 1.0/7/1 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 500 | K | H5-3 | | | 須恵器 | 無台杯 | 12.7 | | | | | 2/36 | B群 石・白 | 並 | 1.0/7/1 灰白 | 1.0/7/1 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 501 | K | F3-5 | | | 須恵器 | 無台杯 | | 8.0 | | | | 5/36 | B群 石・白 | 並 | 2.5/5/5/1 オリーブ | 2.5/5/5/1 オリーブ | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 502 | K | H3-22 | | | 須恵器 | 無台杯 | | | | | | | B群 石・白 | 並 | 1.0/7/1 灰白 | 1.0/7/1 灰白 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 503 | K | N11-22 | | | 須恵器 | 長頸瓶 | 10.8 | | | | | | D群 石・長 | 並 | 7.5/5/1 灰 | 7.5/5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 504 | K | M11-21 | | | 須恵器 | 甕 | 25.0 | | | | | 8/36 | B群 石・長 | 並 | N7/ 灰 | N6/ 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 69 505 | K | M10-19 | | | 須恵器 | 甕 | 23.8 | | | | | 32/36 | C群 石・長 | 並 | N5/ 灰 | N5/ 灰 | 平石タタキ | 平石タタキ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 70 506 | K | M10-19, M11-9 | | | 須恵器 | 甕 | | | | | | | B群 石・長 | 並 | 7.5/5/1 灰 | 7.5/5/1 灰 | 格子タタキ | 格子タタキ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 70 507 | K | M10-19 | | | 土師器 | 無台杯 | 13.4 | 4.8 | 4.5 | 34 | 36 | 9/36 | 石・砂 | 並 | 5.0/7/6 黄 | 5.0/7/6 黄 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 70 508 | K | G2-21 | | | 土師器 | 無台杯 | 15.0 | 6.8 | 4.7 | 31 | 45 | 30/36 | 石・砂・雲 | 並 | 1.0/7/8.3 に赤い | 1.0/7/8.3 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |
| 70 509 | K | N11-21 | | | 土師器 | 長甕 | 20.0 | | | | | 6/36 | 石・砂 | 並 | 1.0/7/8.3 に赤い | 1.0/7/8.3 に赤い | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 | 右 | 底外黒漆 |

| 図版 No. | 報告番号 | 出土位置 | | 種別 | 法量 (cm) | | 底存指数 | 底存指数 | 残存率 | | 胎土 | | 焼成 | | 色調 | | | 手法 | | 回転方向 | 備考 | |
|--------|------|------|----|------|---------|-----|------|------|-------|----|---------------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|------|----|-----|
| | | 区 | 遺構 | | グリッド | 口径 | | | 底径 | 口径 | 底径 | 分類 | 含む物 | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | | | 外面 |
| 72 | 557 | 立会 | | 土師器 | 34.0 | | 3/36 | | 石・長 | 並 | 10YR8/3 浅黄緑 | カキメ | カキメ | | | | | | | | | 外・ス |
| 72 | 558 | 立会 | | 土師器 | 35.6 | | 3/36 | | 石・砂・海 | 並 | 7.5YR7/4 におい | カキメ | カキメ | | | | | | | | | 外・ス |
| 72 | 559 | 立会 | | 土師器 | 35.0 | | 6/36 | | 石・長 | 良 | 10YR8/2 灰黄緑 | カキメ | カキメ | | | | | | | | | 外・ス |
| 72 | 560 | 立会 | | 土師器 | 40.4 | | 2/36 | | 石・砂 | 良 | 2.5YR8/2 灰色 | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |
| 72 | 561 | 立会 | | 黒色土器 | 5.8 | | 5/36 | | 石・長・海 | 並 | 7.5YR6/4 におい | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |
| 72 | 562 | 立会 | | 黒色土器 | 13.4 | 5 | 37 | 42 | 石・砂 | 並 | 10YR7/2 におい | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |
| 72 | 563 | 立会 | | 黒色土器 | 13.4 | 5.0 | 2/36 | 37 | 石・砂 | 並 | 10YR7/2 におい | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |
| 72 | 564 | 立会 | | 黒色土器 | 13.6 | | 2/36 | | 石・海 | 並 | 2.5Y7/2 灰黄 | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |
| 72 | 565 | 立会 | | 青磁 | 6.0 | | 3/36 | | 石 | 並 | 7.5Y5/2 灰オリーブ | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |
| 72 | 566 | 立会 | | 珠洲焼 | | | | | 石・長 | 並 | 5Y5/1 灰 | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |
| 72 | 567 | 立会 | | 珠洲焼 | | | | | 石・長 | 並 | 5Y6/1 灰 | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |
| 72 | 568 | 立会 | | 珠洲焼 | | | | | 石・長 | 並 | 7.5Y6/1 灰 | カキメ | カキメ | | | | | | | | | |

別表 4 土製品観察表

| 図版 No. | 報告番号 | 出土位置 | | 種別 | 法量 (cm) | | | 重量 (g) | 残存率 | 含有物 | 焼成 | 色調 | | 手法 | | 備考 |
|--------|------|------|-------|-----|---------|-----|--------|--------|-------|-----|-------------|-------------|-----|-----|----|----|
| | | 区 | 遺構 | | グリッド | 口径 | 長さ | | | | | 幅 | 口径 | 厚み | 口径 | |
| 73 | 1 | E | | 土製品 | 24.2 | | 244.16 | 4/36 | 石・砂・雲 | 良好 | 7.5YR6/6 黄 | 5YR5/6 明赤褐 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 2 | K | SD76 | 土製品 | 3.6 | 2.3 | 14.07 | | 石・長 | 並 | 7.5Y5/1 灰 | 5Y5/1 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 3 | B | | 土製品 | 2.8 | 3.1 | 13.31 | | 石・長 | 並 | 5G4/1 暗緑灰 | N4/ 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 4 | B | | 土製品 | 1.9 | 1.6 | 5.33 | | 石・長 | 並 | 10Y6/1 灰 | 5Y5/1 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 5 | 立会 | | 土製品 | 2.8 | 2.5 | 12.80 | | 石・長 | 並 | N3/ 暗灰 | N4/ 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 6 | 立会 | | 土製品 | 2.4 | 2.2 | 7.93 | | 石・長 | 並 | 7.5Y5/1 灰 | 7.5Y5/1 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 7 | 立会 | | 土製品 | 2.5 | 2.2 | 8.44 | | 石・長 | 並 | 7.5Y5/1 灰 | 7.5Y5/1 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 8 | 立会 | | 土製品 | 2.6 | 2.3 | 11.47 | | 石・長 | 並 | N3/ 暗灰 | N4/ 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 9 | 立会 | | 土製品 | 2.2 | 2.3 | 10.10 | | 石・長 | 並 | N4/ 灰 | N4/ 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 10 | 立会 | | 土製品 | 2.4 | 2.3 | 9.73 | | 石・長 | 並 | 10Y5/1 灰 | 10Y5/1 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 11 | 立会 | | 土製品 | 2.4 | 2.2 | 8.96 | | 石・長 | 並 | N5/ 灰 | 7.5Y5/1 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 12 | 立会 | | 土製品 | 2.1 | 1.8 | 6.33 | | 石・長 | 並 | N4/ 灰 | N5/ 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 13 | 立会 | | 土製品 | 2.5 | 1.7 | 8.96 | | 石・長 | 並 | N3/ 暗灰 | N4/ 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 14 | 立会 | | 土製品 | 2.4 | 1.7 | 5.39 | | 石・長 | 並 | N6/ 灰 | N5/ 灰 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 15 | D | SK80 | 土製品 | 13.7 | 8.3 | 782.73 | | 石・長 | 並 | 2.5Y5/2 暗灰黄 | 2.5Y5/2 暗灰黄 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 16 | B | G2-21 | 土製品 | 3.3 | 1.3 | 4.43 | | 石・長 | 並 | 2.5Y7/3 浅黄 | 2.5Y7/3 浅黄 | カキメ | カキメ | | |
| 73 | 17 | J | SD20 | 土製品 | 3.4 | 5.0 | 38.85 | | 石・長・砂 | 並 | 10YR8/2 灰白 | 10YR8/2 灰白 | カキメ | カキメ | | |

別 表

別表 5 金属製品観察表

凡例 1 銭貨の判別及び計測については『中世の出土銭』(永井編 1994)を参考にした。

| 図版 No. | 報告番号 | 出土位置 | | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 重量 (g) | 色調 | 備考 | | | | |
|--------|------|------|---------|----------|-----|---------|-------|-----------|-----------|-----------|--------------|----------------------------|-------------|------|------|
| | | 区 | 遺構 | | | グリッド | 長さ | 幅 | | | | 厚み | | | |
| 73 | 1 | D | SK80 | | 銅製品 | 帯金具 | 3.0 | 3.1 | 0.3 | 14.39 | 10YR3/1 黒褐 | 巡方、1.8 × 0.5cm の垂孔、4 カ所の鉋足 | | | |
| 73 | 2 | K | SK190 | | 銅製品 | 帯金具 | (3.6) | 2.6 | 0.5 | 9.62 | 10G4/1 暗緑灰 | 鉋尾、1 カ所の鉋 | | | |
| 73 | 3 | D | | M1-6 | 鉄製品 | 釘 | 7.1 | 1.7 | 0.9 | 13.16 | 7.5YR2/1 黒 | | | | |
| 73 | 4 | E | | 下層 D7-20 | 鉄製品 | 鉄斧 | 6.9 | 3.8 | 0.4 | 41.16 | 2.5YR3/2 暗赤褐 | | | | |
| 73 | 5 | J | SD67 | | 鉄製品 | 小刀 | 27.9 | 2.2 | 0.4 | 62.67 | 5YR3/2 暗赤褐 | 径 3mm の目釘穴 | | | |
| 73 | 6 | K | SK81 | | 鉄滓 | 桃形滓 | 3.6 | 3.5 | 1.3 | 10.72 | 10YR3/3 暗褐 | | | | |
| 図版 No. | 報告番号 | 出土位置 | | 種別 | 銭名 | 字体 | 初鋳 | 銭径 A (mm) | 銭径 B (mm) | 銭径 C (mm) | 銭径 D (mm) | 銭厚 (mm) | 量目 (g) | 備考 | |
| | | 区 | 遺構 | | | | | | | | | | | | グリッド |
| 74 | 7 | C | | 上層 E3-5 | 銭貨 | 開元通寶 | | 621 | | 24.81 | 20.69 | 1.52 ~ 1.76 | 2.02 | | |
| 74 | 8 | E | | 上層 E8-13 | 銭貨 | 祥符通寶 | | 1,009 | 24.58 | 24.27 | 19.45 | 19.34 | 1.26 ~ 1.35 | 2.91 | |
| 74 | 9 | 立会 | | | 銭貨 | 至和元寶 | 真書体 | 1,054 | 23.64 | 24.32 | 19.19 | 18.82 | 1.21 ~ 1.42 | 2.86 | |
| 74 | 10 | C | 上層 SP19 | | 銭貨 | 熙寧元寶 | 真書体 | 1,068 | 23.65 | 23.61 | 18.67 | 18.25 | 1.01 ~ 1.16 | 2.48 | |
| 74 | 11 | F | SD5 | | 銭貨 | 元祐通寶 | 篆書体 | 1,086 | 23.69 | 23.73 | 19.30 | 19.17 | 1.34 ~ 1.49 | 3.70 | |

別表 6 石製品観察表

| 図版 No. | 報告番号 | 出土位置 | | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 重量 (g) | 石材 | 色調 | 備考 | |
|--------|------|------|------------|----------|-----|---------|------|-------|--------|----------|-----|---------------|----------------|
| | | 区 | 遺構 | | | グリッド | 長さ | 幅 | | | | | 厚み |
| 74 | 1 | C | 上層 SD6 | | 石製品 | 砥石 | 17.2 | 10.7 | 6.9 | 1,769.90 | 頁岩? | 5Y7/3 浅黄 | |
| 74 | 2 | K | | M11-9 | 石製品 | 砥石 | 11.2 | 10.85 | 9.5 | 1,140.49 | 安山岩 | 2.5Y6/1 黄灰 | 擦痕・砥面 4 面 |
| 74 | 3 | I | SK47 | | 石製品 | 砥石 | 7.1 | 8.2 | 5.1 | 309.40 | 凝灰岩 | 2.5Y8/2 灰白 | 擦痕・砥面 3 面 |
| 74 | 4 | K | | M11-25 | 石製品 | 砥石 | 6.5 | 6.5 | 3.5 | 133.26 | 凝灰岩 | 10YR7/2 に近い黄橙 | 擦痕・砥面 6 面 |
| 75 | 5 | K | | H4-8 | 石製品 | 砥石 | 11.6 | 6.9 | 5.2 | 502.36 | 凝灰岩 | 7.5Y7/1 灰白 | 擦痕・砥面 4 面、スス付着 |
| 75 | 6 | C | 上層 SE7 | | 石製品 | 砥石 | 9.4 | 4.3 | 3.1 | 140.91 | 凝灰岩 | 10Y8/1 灰白 | 擦痕・砥面 4 面 |
| 75 | 7 | E | | 下層 E8-1 | 石製品 | 砥石 | 8.5 | 5.1 | 3.3 | 109.90 | 凝灰岩 | 5Y8/1 灰白 | 擦痕・砥面 4 面 |
| 75 | 8 | K | SD98 | | 石製品 | 砥石 | 6.7 | 4.9 | 2.3 | 60.75 | 凝灰岩 | 7.5Y7/2 灰白 | 擦痕・砥面 4 面 |
| 75 | 9 | B | | G2-21 | 石製品 | 砥石 | 6.2 | 5.3 | 2.3 | 78.28 | 凝灰岩 | 2.5Y7/2 灰黄 | 擦痕・砥面 4 面、スス付着 |
| 75 | 10 | E | | 下層 D7-13 | 石製品 | 砥石 | 4.3 | 4.1 | 1.9 | 31.11 | 凝灰岩 | 5Y8/1 灰白 | 擦痕・砥面 4 面 |
| 75 | 11 | C | 上層 SK5 | | 石製品 | 砥石 | 4.8 | 2.3 | 1.6 | 23.57 | 凝灰岩 | N8 灰白 | 擦痕・砥面 4 面 |
| 75 | 12 | E | 上層 SE15 1層 | | 石製品 | 砥石 | 4.7 | 2.1 | 1.0 | 13.69 | 凝灰岩 | 5Y8/1 灰白 | 擦痕・砥面 3 面 |
| 75 | 13 | C | 上層 SP71 | | 石製品 | 砥石 | 3.3 | 2.7 | 1.8 | 20.74 | 凝灰岩 | 2.5Y7/1 灰白 | 擦痕・砥面 4 面 |
| 75 | 14 | K | SD87 | | 石製品 | 砥石 | 2.7 | 1.7 | 1.6 | 6.01 | 凝灰岩 | 10YR6/6 明黄褐 | 擦痕・砥面 4 面 |
| 75 | 15 | B | SD4 | | 石製品 | 砥石 | 3.9 | 4.1 | 1.1 | 17.80 | 凝灰岩 | 10YR7/4 に近い黄橙 | 擦痕・砥面 2 面 |
| 75 | 16 | C | 下層 SK3 | | 石製品 | 砥石 | 5.7 | 2.9 | 1.6 | 39.55 | 凝灰岩 | 2.5Y4/1 黄灰 | 擦痕・砥面 3 面、黒色 |
| 75 | 17 | K | SD76 | | 石製品 | 磨石 | 7.6 | 4.4 | 3.1 | 147.83 | 凝灰岩 | 2.5Y5/4 黄褐 | 鉄分付着 |

別表 7 木製品観察表

| 図版 No. | 報告番号 | 出土位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 木取 | 樹種 | 備考 |
|--------|------|------|---------|-------|-----|-------|---------|--------|-----------|--------|-------|------------------------|
| | | 区 | 遺構 | | | | グリッド | 長さ | 幅 | | | |
| 75 | 1 | C | 下層 SE14 | | 木製品 | 木筒 | 12.4 | (2.3) | 0.6 | 板目 | スギ | |
| 75 | 2 | C | 上層 SE3 | | 木製品 | 木筒 | (5.1) | 1.3 | 0.3 | 板目 | | |
| 75 | 3 | B | 河川 1 | | 木製品 | 工具 | (18.8) | 7.3 | 4.4 | 板目 | ヒノキ | 3.5 × 2.5 × 2.0cm の方形孔 |
| 76 | 4 | B | SD12 | | 木製品 | 權 | (93.6) | 13.5 | 9.3 | 板目 | スギ | 被熱痕 |
| 76 | 5 | F | SD10 | | 木製品 | 權 | 128.5 | 20.0 | 2.0 ~ 3.0 | 板目 | モクレン属 | 幅 2 ~ 4cm の溝 2 条、被熱痕 |
| 76 | 6 | J | SD67 | | 木製品 | 弓 | 47.6 | 19.6 | 1.8 | 丸木材 | イヌガヤ | |
| 76 | 7 | C | 上層 SE3 | 7 層 | 木製品 | 櫛 | (2.8) | (1.7) | 0.9 | 板目 | イスノキ | A II 型式、中世 |
| 76 | 8 | C | 河川 23 | | 木製品 | 下駄 | 13.6 | 6.9 | 1.8 | 板目 | スギ | 差歯式、Ca 型式、中世 |
| 77 | 9 | G | 河川 10 | | 木製品 | 下駄 | 19.3 | 10.5 | 3.1 | 板目 | ハリギリ | C II a 型式、被熱痕 |
| 77 | 10 | G | 河川 10 | | 木製品 | 下駄 | 21.0 | 7.5 | 3.6 | 板目 | モクレン属 | A II a 型式 |
| 77 | 11 | G | 河川 10 | | 木製品 | 下駄 | (7.2) | 6.6 | 3.7 | 板目 | モクレン属 | |
| 77 | 12 | G | 河川 10 | | 木製品 | 下駄 | (7.8) | 10.0 | 1.5 | 板目 | モクレン属 | |
| 77 | 13 | C | 上層 SE3 | | 木製品 | 下駄 | 10.8 | (12.7) | 2.0 | 板目 | | 差歯式、中世 |
| 77 | 14 | K | SK74 | | 木製品 | 有台皿 | 15.0 | 9.8 | 2.2 | 板目横木取り | ケヤキ | 白木作り、外炭化、古代 |
| 77 | 15 | C | 下層 SD51 | | 木製品 | 漆器端反碗 | | | | 横木地 | ブナ属 | 内外黒色漆、古代 |
| 77 | 16 | C | 上層 SE2 | 6 層 | 木製品 | 漆器有台碗 | | 7.4 | | 板目横木取り | ブナ属 | 内外黒色漆、内外赤色漆絵、中世 |
| 77 | 17 | C | 上層 SE4 | | 木製品 | 漆器皿 | | 5.0 | | 板目横木取り | ケヤキ | 内外黒色漆、中世 |
| 77 | 18 | J | 90 トレンチ | | 木製品 | 漆器有台碗 | | 7.5 | | 板目横木取り | ブナ属 | 内外黒色漆、中世 |
| 77 | 19 | J | SD67 | 2 層 | 木製品 | 漆器有台碗 | | 7.3 | | 板目横木取り | ケヤキ | 内赤色漆、外黒色漆、中世 |
| 77 | 20 | J | SD67 | | 木製品 | 漆器有台碗 | | | | 板目横木取り | | 19 と同一個体、中世 |
| 77 | 21 | C | 上層 SE5 | | 木製品 | 漆器小皿 | 8.6 | 7.6 | 1.0 | 板目横木取り | ブナ属 | 内外黒色漆、中世 |
| 77 | 22 | C | 上層 SE5 | | 木製品 | 漆器有台碗 | 20.0 | 10.0 | 9.2 | 板目横木取り | トチノキ | 内外黒色漆、鉢?、中世 |
| 77 | 23 | H | 河川 2 | | 木製品 | 漆器 | | | | 板目 | スギ | 内外黒色漆、古代 |
| 77 | 24 | 立会 | | | 木製品 | 漆器折敷 | | | | 板目 | ケヤキ | 内外黒色漆、古代 |
| 78 | 25 | K | SP130 | | 木製品 | 漆器鉢 | 28.0 | | | 板目横木取り | ケヤキ | 内外黒色漆、古代 |
| 78 | 26 | K | | G2-21 | 木製品 | 円形曲物 | (16.0) | (29.3) | 0.3 | 板目 | | 内外漆付着 |
| 78 | 27 | C | 上層 SE4 | | 木製品 | 円形曲物 | (21.7) | (9.3) | 0.5 | 板目 | | 内外炭化 |
| 78 | 28 | C | 下層 SE7 | | 木製品 | 円形曲物 | (14.1) | (5.1) | 0.5 | 板目 | | 径 4mm の孔あり、内炭化 |
| 78 | 29 | C | 河川 23 | | 木製品 | 円形曲物 | (5.2) | (2.1) | 0.3 | 板目 | | 内外炭化 |
| 78 | 30 | C | 上層 SE5 | | 木製品 | 円形曲物 | 24.4 | (49.2) | 0.9 | 板目 | | 外炭化 |
| 78 | 31 | K | SK74 | | 木製品 | 円形曲物 | 10.2 | (19.9) | 0.8 | 板目 | | |
| 78 | 32 | C | 上層 SE3 | | 木製品 | 円形曲物 | 10.0 | (10.0) | 0.7 | 板目 | | 径 4mm の孔あり |
| 78 | 33 | J | SD67 | | 木製品 | 円形曲物 | 10.9 | (16.2) | 0.6 | 板目 | | |
| 78 | 34 | J | SD71 | | 木製品 | 長方形曲物 | (11.1) | 5.9 | 0.7 | 板目 | | 径 3mm の孔あり、内炭化 |
| 78 | 35 | C | 下層 SE14 | | 木製品 | 椀? | (5.1) | 1.5 | 1.4 | 板目 | | |
| 78 | 36 | C | 上層 SE3 | 7 層 | 木製品 | 箸状 | 17.7 | 0.6 | 0.5 | 板目 | | 完形、断面方形、両口式、中世 |
| 78 | 37 | C | 上層 SE3 | 7 層 | 木製品 | 箸状 | (17.3) | 0.7 | 0.5 | 板目 | | 断面多角、中世 |
| 78 | 38 | C | 上層 SE3 | 7 層 | 木製品 | 箸状 | 14.7 | 0.7 | 0.5 | 板目 | | 完形、断面多角、両口式、上端部炭化、中世 |
| 78 | 39 | C | 上層 SE3 | 7 層 | 木製品 | 箸状 | (13.1) | 1.0 | 0.4 | 板目 | | 断面多角、中世 |
| 78 | 40 | C | 上層 SE4 | 5 層 | 木製品 | 箸状 | 21.0 | 0.6 | 0.4 | 板目 | | 完形、断面方形、両口式、中世 |
| 78 | 41 | C | 上層 SE4 | 5 層 | 木製品 | 箸状 | 21.5 | 0.6 | 0.4 | 板目 | | 完形、断面多角、両口式、中世 |

| 図版 No. | 報告番号 | 出土位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 木取 | 樹種 | 備考 | | |
|--------|------|------|---------|---------|-----|------|---------|--------|------|---------|---------------|------------------------------------|----------------|----------|
| | | 区 | 遺構 | | | | グリッド | 長さ | 幅 | | | | 厚み | |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 78 | 42 | C | 上層 SE4 | | 6層 | 木製品 | 箸状 | 19.9 | 0.7 | 0.6 | 板目 | | 完形、断面方形、両口式、中世 | |
| 78 | 43 | C | 上層 SE4 | | 6層 | 木製品 | 箸状 | 19.5 | 0.7 | 0.5 | 板目 | | 完形、断面方形、両口式、中世 | |
| 78 | 44 | C | 上層 SE4 | | 6層 | 木製品 | 箸状 | 18.0 | 0.6 | 0.4 | 板目 | | 完形、断面方形、両口式、中世 | |
| 78 | 45 | C | 上層 SE4 | | 6層 | 木製品 | 箸状 | (16.2) | 0.5 | 0.5 | 板目 | | 断面方形、中世 | |
| 78 | 46 | C | 上層 SE4 | | 5層 | 木製品 | 箸状 | (14.5) | 0.6 | 0.4 | 板目 | | 断面多角、中世 | |
| 78 | 47 | C | 河川 23 | | | 木製品 | 箸状 | (18.8) | 0.8 | 0.5 | 板目 | | 断面多角、中世 | |
| 78 | 48 | C | 河川 23 | | | 木製品 | 箸状 | (13.2) | 0.6 | 0.5 | 板目 | | 断面多角、中世 | |
| 79 | 49 | E | 河川 23 | | | 木製品 | 箸状 | (15.2) | 1.2 | 0.6 | 板目 | | 断面方形、中世 | |
| 79 | 50 | E | 河川 23 | | | 木製品 | 箸状 | (13.3) | 0.7 | 0.4 | 板目 | | 断面方形、中世 | |
| 79 | 51 | E | 河川 23 | | | 木製品 | 箸状 | (8.4) | 0.9 | 0.5 | 板目 | | 断面方形、中世 | |
| 79 | 52 | F | 河川 20 | | | 木製品 | 箸状 | (19.7) | 0.8 | 0.4 | 板目 | | 断面多角 | |
| 79 | 53 | J | SE87 | | | 木製品 | 斎串 | 32.8 | 2.1 | 0.8 | 板目 | | | |
| 79 | 54 | J | SE87 | | | 木製品 | 斎串 | (24.2) | 2.6 | 0.3 | 板目 | | | |
| 79 | 55 | J | SE87 | | 7層 | 木製品 | 斎串 | (17.6) | 2.05 | 0.6 | 板目 | | | |
| 79 | 56 | J | SE87 | | 最下層 | 木製品 | 斎串 | 14.6 | 1.1 | 0.4 | 板目 | | | |
| 79 | 57 | J | SE87 | | 最下層 | 木製品 | 斎串 | (11.6) | 1.4 | 0.3 | 板目 | | | |
| 79 | 58 | J | SK15 | | | 木製品 | 斎串 | 11.0 | 1.3 | 0.4 | 板目 | | | |
| 79 | 59 | C | 下層 SE14 | | | 木製品 | 斎串 | (14.2) | 2.8 | 0.2 | 板目 | | | |
| 79 | 60 | K | SD93 | | | 木製品 | 斎串 | (12.2) | 2.6 | 0.2 | 板目 | | | |
| 79 | 61 | C | 下層 SK8 | | | 木製品 | 陶物形? | (12.3) | 5.3 | 3.6 | 半割 | トネリコ属 | | |
| 79 | 62 | C | 上層 SE3 | | | 木製品 | 付け木 | 8.5 | 2.3 | 1.3 | 芯去削り出し | | | 下端炭化、中世 |
| 79 | 63 | C | 上層 SE3 | | | 木製品 | 付け木 | 10.1 | 4.3 | 2.5 | ミカン割り | | | 上下端炭化、中世 |
| 79 | 64 | B | SP4 | | | 木製品 | 礎板 | 18.4 | 14.2 | 7.5 | 芯去ミカン割り | | | |
| 79 | 65 | B | SP4 | | | 木製品 | 礎板 | 19.4 | 15.1 | 7.9 | 芯去ミカン割り | | | |
| 80 | 66 | B | SP4 | | | 木製品 | 礎板 | 23.4 | 11.7 | 3.8 | 芯去削り出し | クリ | | |
| 図版 No. | 報告番号 | 出土位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 木取 | 樹種 | 備考 | | |
| | | 区 | 遺構 | | | | グリッド | 長さ | 径 | | | | 厚み | |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 80 | 67 | B | SP4 | | 木製品 | 柱根 | 24.0 | 11.9 | | 芯持丸木 | クリ | | | |
| 80 | 68 | B | SP4 | | 木製品 | 柱根 | 10.5 | 10.3 | | 芯去ミカン割り | | | | |
| 80 | 69 | B | SP6 | | 木製品 | 柱根 | 30.1 | 9.7 | | 芯持丸木 | ヤナギ属 | | | |
| 80 | 70 | C | 上層 SP83 | | 木製品 | 柱根 | 17.4 | 13.0 | | 芯去ミカン割り | トネリコ属 | 中世 | | |
| 80 | 71 | C | 上層 SP83 | | 木製品 | 柱根 | 17.0 | 14.2 | | 芯去削り出し | スギ | 中世 | | |
| 80 | 72 | C | 上層 SP84 | | 木製品 | 柱根 | 25.5 | 8.0 | | 芯持丸木 | ヤナギ属 | 樹皮、中世 | | |
| 81 | 73 | C | 下層 SP3 | | 木製品 | 柱根 | 60.2 | 15.6 | | 芯持丸木 | ハンノキ属ハンノキ亜属 | 樹皮 | | |
| 81 | 74 | C | 下層 SP5 | | 木製品 | 柱根 | 14.5 | 9.5 | | 芯持丸木 | ヤナギ属 | | | |
| 81 | 75 | C | 下層 SP22 | | 木製品 | 柱根 | 63.9 | 18.9 | | 芯持丸木 | ヒノキ | 3.4 ~ 4.0 × 4.6 ~ 5.2 × 3.6cmの縄かけ穴 | | |
| 81 | 76 | C | | 下層 F3-2 | 木製品 | 柱根 | 60.9 | 18.0 | | 芯去ミカン割り | スギ | | | |
| 81 | 77 | D | SP29 | | 木製品 | 柱根 | 14.1 | 11.8 | | 芯持偏半割 | ヤナギ属 | | | |
| 81 | 78 | D | SD77 | | 木製品 | 柱根 | 24.7 | 13.7 | | 芯去削り出し | スギ | | | |
| 81 | 79 | D | SP112 | | 木製品 | 柱根 | 53.6 | 11.6 | | 芯持丸木 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 | | | |
| 81 | 80 | E | 上層 SE15 | | 木製品 | 柱根 | 28.2 | 7.8 | | 芯持丸木 | | | | |
| 81 | 81 | F | SP48 | | 木製品 | 柱根 | 19.1 | 10.5 | | 芯持丸木 | カツラ | | | |
| 82 | 82 | I | SP29 | | 木製品 | 柱根 | 98.8 | 22.4 | | 芯去削り出し | クリ | SB1 | | |
| 82 | 83 | I | SP29 | | 木製品 | 柱根 | 55.4 | 19.6 | | 芯去削り出し | | SB1 | | |
| 82 | 84 | I | SP30 | | 木製品 | 柱根 | 144.5 | 21.0 | | 芯持削り出し | クリ | SB1 | | |
| 82 | 85 | I | SP50 | | 木製品 | 柱根 | 141.5 | 22.5 | | 芯持丸木 | クリ | SB1 | | |
| 82 | 86 | J | SP100 | | 木製品 | 柱根 | 71.1 | 9.0 | | 芯去削り出し | クリ | 下端尖る、工具痕、表面一部炭化 | | |
| 82 | 87 | J | SP101 | | 木製品 | 柱根 | 100.4 | 12.4 | | 芯去削り出し | クリ | 下端尖る、工具痕、表面一部炭化 | | |
| 83 | 88 | J | SP103 | | 木製品 | 柱根 | 62.1 | 10.8 | | 芯去削り出し | クリ | 下端尖る、工具痕、表面一部炭化 | | |
| 83 | 89 | K | SP20 | | 木製品 | 柱根 | 35.8 | 8.6 | | 芯持削り出し | カツラ | | | |
| 83 | 90 | K | SP32 | | 木製品 | 柱根 | 119.2 | 18.8 | | 芯去削り出し | クリ | 下端尖る、工具痕 | | |
| 83 | 91 | K | SP61 | | 木製品 | 柱根 | 77.4 | 12.1 | | 芯持削り出し | クリ | | | |
| 83 | 92 | K | SP62 | | 木製品 | 柱根 | 56.6 | 9.0 | | 芯持丸木 | ヤナギ属 | 工具痕、表面一部炭化 | | |
| 83 | 93 | 立会 | | | 木製品 | 柱根 | 48.4 | 16.0 | | 芯去偏半割 | | 表面一部炭化 | | |
| 83 | 94 | C | 上層 SE5 | | 木製品 | 用途不明 | (20.6) | 11.8 | 1.2 | 板目 | スギ | 中世 | | |
| 83 | 95 | C | 上層 SE6 | | 木製品 | 用途不明 | 21.5 | 7.2 | 3.1 | 板目 | | 中世 | | |
| 83 | 96 | C | 上層 SE6 | | 木製品 | 用途不明 | 26.4 | 19.0 | 4.6 | 板目 | スギ | 中世 | | |
| 83 | 97 | C | 上層 SE6 | | 木製品 | 用途不明 | 36.4 | 16.2 | 8.9 | 板目 | スギ | 中世 | | |
| 84 | 98 | B | SD12 | | 木製品 | 用途不明 | 67.2 | 17.8 | 2.5 | 板目 | | | | |
| 84 | 99 | B | SD4 | | 木製品 | 用途不明 | (27.8) | 6.7 | 1.9 | 板目 | | | | |
| 84 | 100 | B | | B4-12 | 木製品 | 用途不明 | (102.4) | 12.4 | 1.0 | 板目 | | | 長方形の孔 | |
| 84 | 101 | C | 下層 SD25 | | 木製品 | 用途不明 | (24.4) | 4.6 | 2.8 | 板目 | スギ | | | |
| 84 | 102 | C | 上層 SE4 | | 木製品 | 用途不明 | (27.2) | 2.6 | 0.5 | 板目 | | 中世 | | |
| 84 | 103 | A | 河川 1、2 | | 木製品 | 用途不明 | 112.4 | 16.8 | 7.5 | 板目 | | 表面一部炭化、古墳中期 | | |
| 85 | 104 | B | 河川 1 | | 木製品 | 用途不明 | (14.8) | 5.5 | 3.5 | 芯去削り出し | | | | |
| 85 | 105 | C | 下層 SE7 | | 木製品 | 用途不明 | (22.5) | 5.8 | 1.2 | 板目 | コナラ属コナラ亜属クスギ節 | | | |
| 85 | 106 | J | SE87 | | 木製品 | 用途不明 | (49.6) | 4.6 | 0.3 | 板目 | | | | |
| 85 | 107 | C | 上層 SE3 | | 木製品 | 用途不明 | 10.1 | 2.8 | 0.4 | 板目 | | 上端部炭化、中世 | | |
| 85 | 108 | C | 上層 SE5 | | 木製品 | 用途不明 | (12.6) | 1.7 | 1.3 | 板目 | | 下端部炭化、中世 | | |
| 85 | 109 | K | SK19 | | 木製品 | 用途不明 | 49.4 | 5.2 | 2.0 | 板目 | | | | |
| 85 | 110 | K | | G2-21 | 木製品 | 用途不明 | 44.6 | 1.8 | 1.6 | 板目 | | | | |
| 85 | 111 | A | 河川 2 | | 木製品 | 用途不明 | 30.1 | 2.0 | 1.7 | 板目 | スギ | 下端尖る、古墳中期 | | |
| 85 | 112 | B | SD6 | | 木製品 | 用途不明 | (21.0) | 2.0 | 1.9 | 板目 | | | | |
| 85 | 113 | F | SD5 | | 木製品 | 用途不明 | 31.3 | 2.0 | 1.9 | 板目 | | 樹皮、表面炭化 | | |
| 85 | 114 | F | SD10 | | 木製品 | 用途不明 | 15.9 | 7.4 | 3.1 | 芯持丸木 | | 樹皮、上下端炭化、中世 | | |
| 85 | 115 | F | SD10 | | 木製品 | 用途不明 | 37.2 | 5.2 | 4.0 | 芯持偏半割 | | 中世 | | |
| 85 | 116 | C | 下層 SE14 | | 木製品 | 用途不明 | (16.8) | 0.8 | 0.75 | 板目 | | | | |
| 85 | 117 | C | 下層 SE14 | | 木製品 | 用途不明 | (12.5) | 1.4 | 1.0 | 板目 | | | | |

図 版

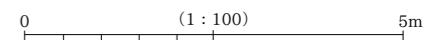
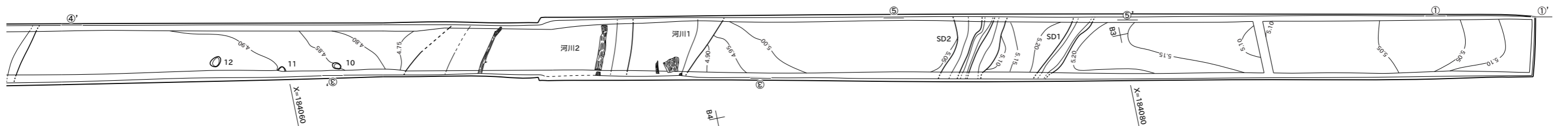
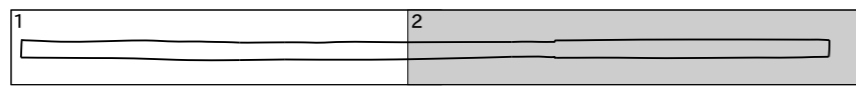
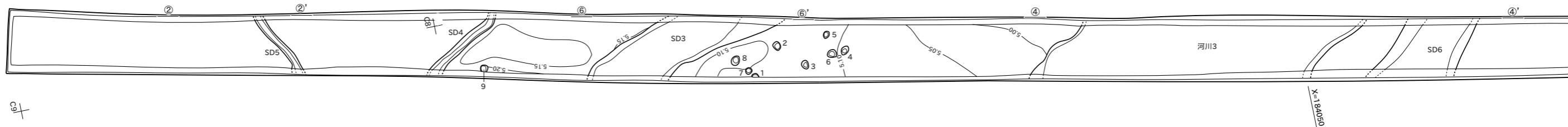
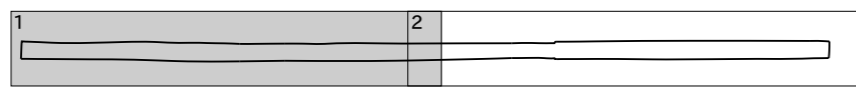
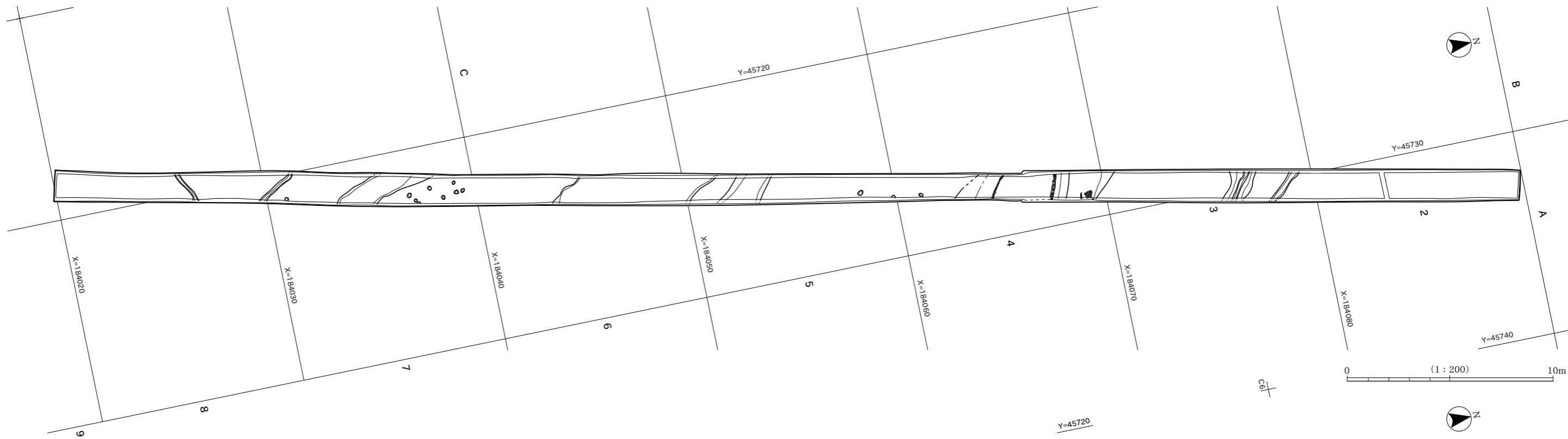
凡 例

- 1 遺構個別図における遺物実測図は、土器が1:10、1:12、土・金属・石製品が1:4、1:6、1:10、木製品が1:6、1:10、1:20、1:30、1:40、1:50である。
- 2 土器の口縁部実線を中心線両端で切っている場合は、残存率が低い破片から、口径を推定復元したものである。
- 3 木製品の木目は木取りを表示したものであり、実際の年輪幅とは異なる。
- 4 遺物の種別等は図面図版中、実測図にトーンで以下のように表示した。

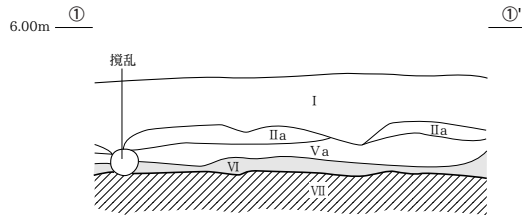
| | | |
|---|-------|---------|
|  | 断面黒塗り | 須恵器 |
|  | 断面網掛け | 灰釉陶器 |
|  | 断面網掛け | 緑釉陶器 |
|  | 内面網掛け | 黒色土器 |
|  | 断面白抜き | 上記以外の土器 |
|  | 煤・タール | |
|  | 墨痕 | |
|  | 黒漆 | |
|  | 赤彩 | |
|  | 磨面 | |
|  | 付着物 | |
|  | 溶解物 | |

- 5 遺物写真図版の番号及び縮尺は、図面図版と同じである。





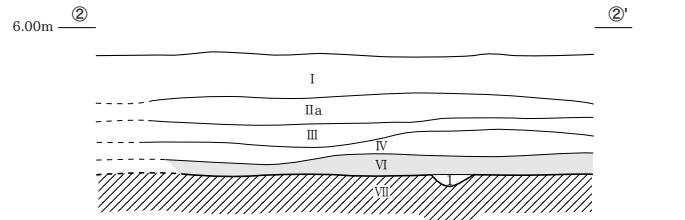
A区 基本土層 1



基本土層 1・2 ※断面①・②共通

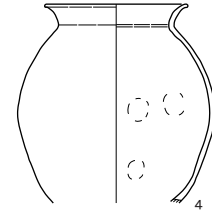
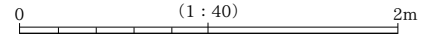
- I. 耕作土
- II a. 7.5Y6/1 灰色粘質土 φ1~3mm大の炭化物粒子多量に含む しまりあり 粘性あり
- III. 7.5Y5/1 灰色粘質土 II層に同じだが、炭化物粒が少ない しまりあり 粘性あり
- IV. 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物粒子少量含む 腐植物少量含む しまりあり 粘性あり
- V a. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 φ1~3mm大の炭化物粒子少量含む 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- VI. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰色粘土ブロック少量含む 腐植物少量含む しまりあり 粘性あり (遺物包含層)
- VII. 10Y5/2 灰オリーブ砂質土 腐植物少量含む 灰色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり (遺構確認面、地山)

A区 基本土層 2・SD 5

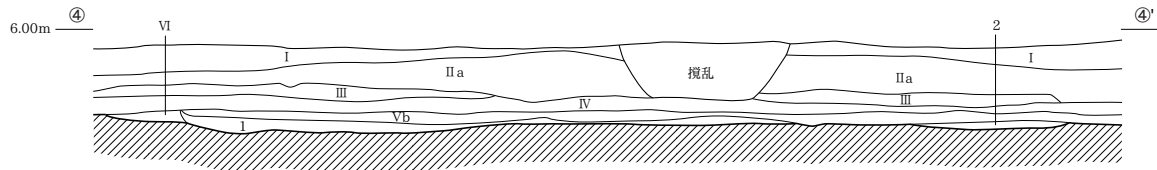
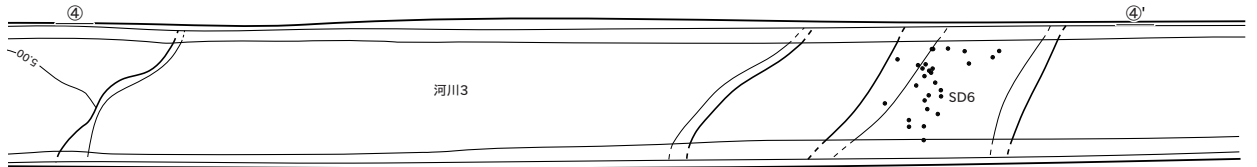


SD5

- 1. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰色砂質土少量含む しまりあり 粘性ややあり

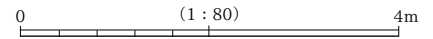


A区 河川3・SD 6

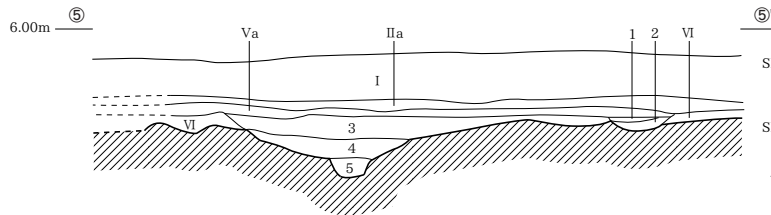


河川3・SD 6

- 河川3
- 1. 7.5Y4/1 灰色粘質土 腐植物、炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
- SD 6
- 2. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰色粘土ブロック少量含む 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり



A区 SD 1・SD 2



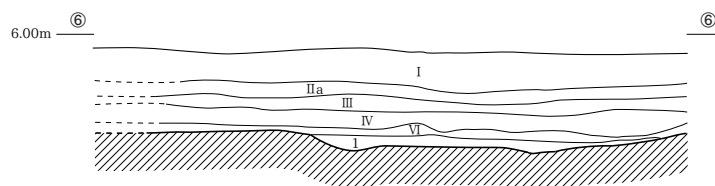
SD 1

- 1. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 腐植物少量含む 砂質土含む しまりややあり 粘性ややあり
- 2. 7.5Y4/1 灰色粘質土 砂質土含む しまりややあり 粘性ややあり

SD 2

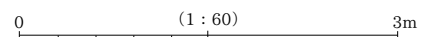
- 3. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 腐植物、炭化物少量含む 黒灰オリーブ色砂質土 波紋状に含む しまりややあり 粘性ややあり
- 4. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 腐植物、炭化物少量含む 黒灰オリーブ色砂質土 波紋状に含む しまりあり 粘性あり
- 5. 4層に同じ 腐植物をやや多く含む しまりあり 粘性あり

A区 SD 3

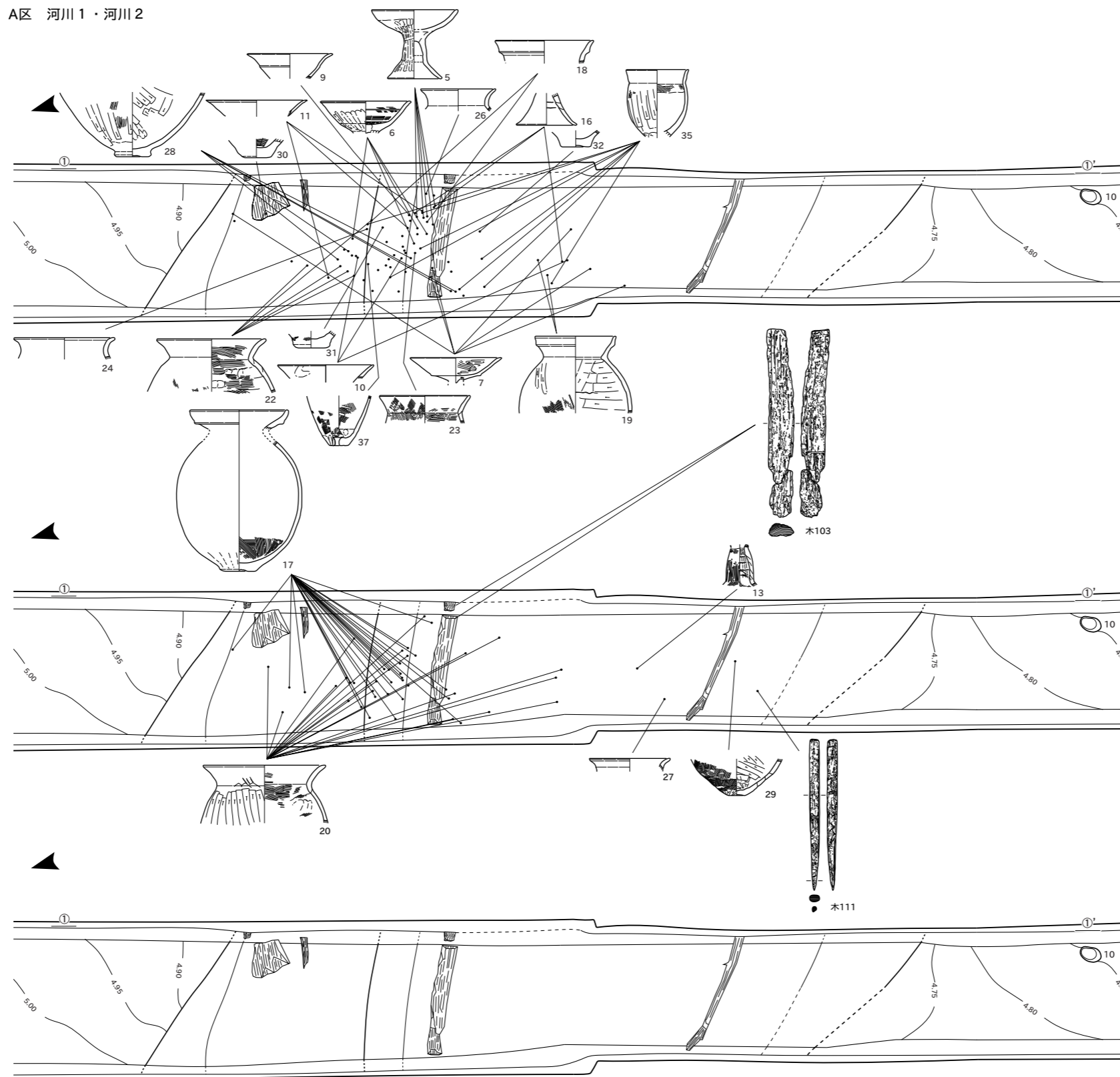


SD 3

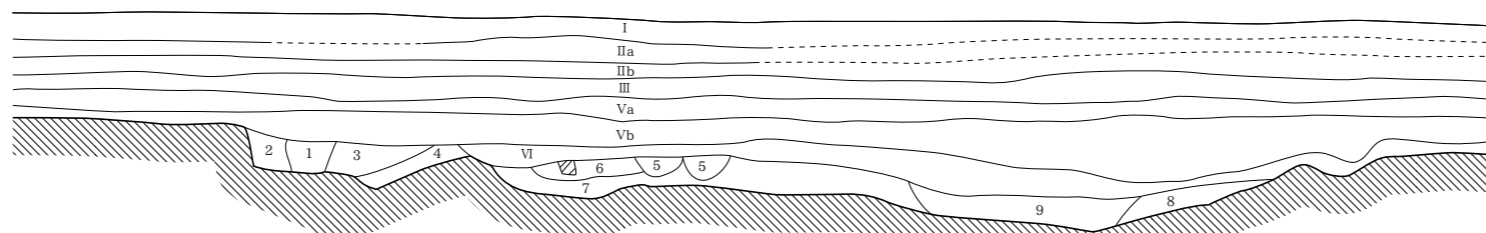
- 1. 10Y5/1 灰オリーブ色粘質土 腐植物少量含む 砂質土含む しまりややあり 粘性ややあり



A区 河川1・河川2



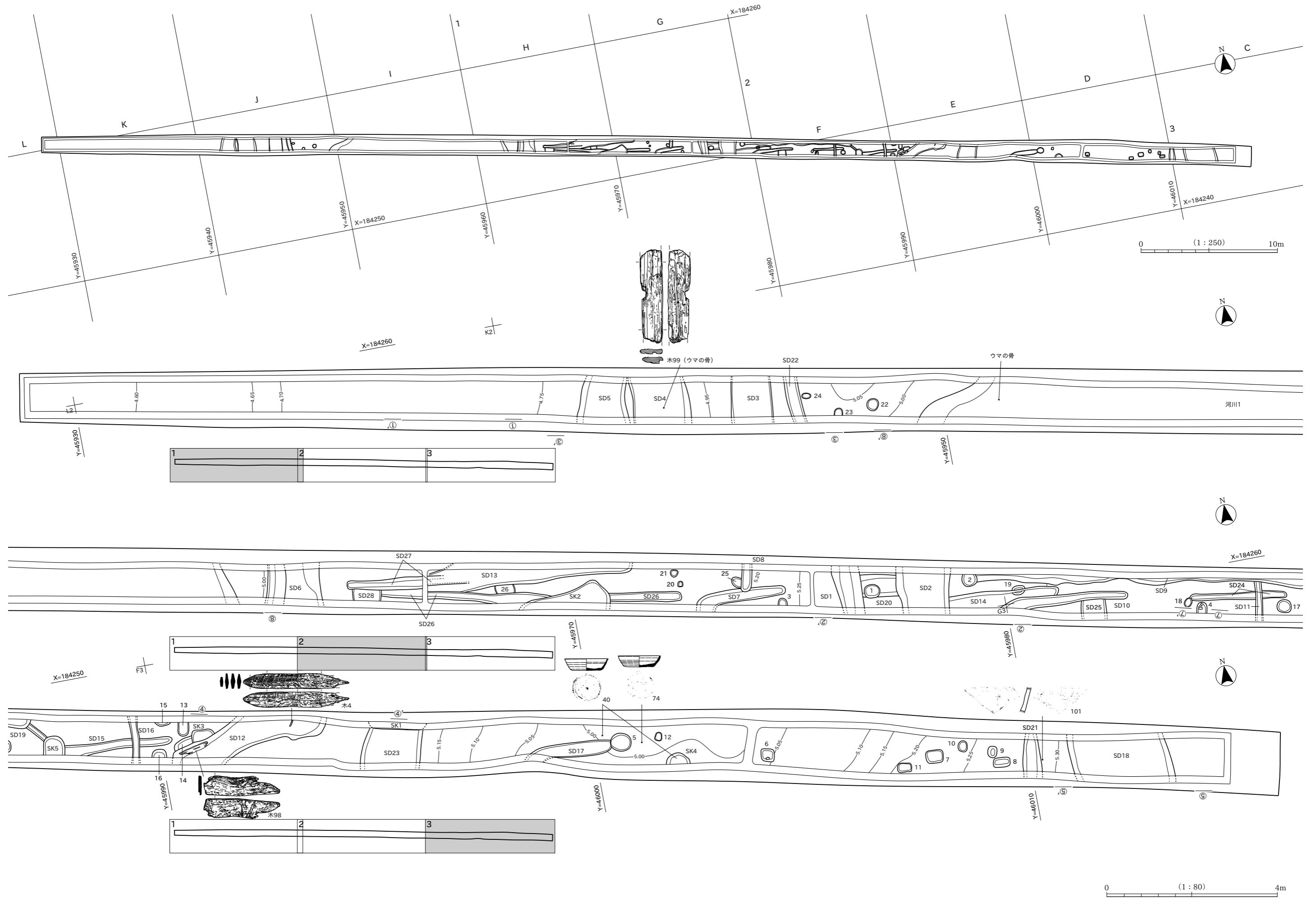
6.00m ③



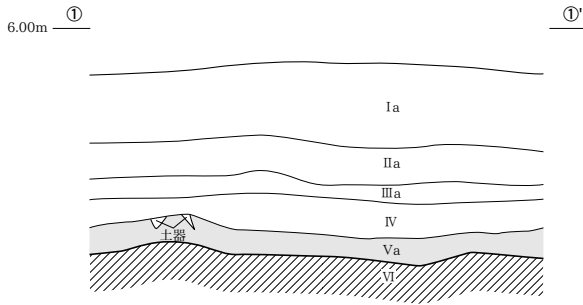
③'

- 河川1・河川2
 IIb. 7.5Y4/1 灰色粘質土 IIa層よりやや明るい しまりあり 粘性あり
 Vb. 7.5Y5/2 灰オリーブ粘質土 炭化物少量含む 砂質土含む しまりややあり 粘性ややあり
- 河川1
 1. 流木
 2. 7.5Y5/1 灰色粘質土 φ1~2mm大の炭化物粒子少量含む しまりあり 粘性あり
 3. 5Y4/3 灰オリーブ粘質土 腐植物多量を含む しまりややあり 粘性あり
 4. 5Y4/3 暗オリーブ粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
- 河川2
 5. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰色粘土ブロック少量含む 腐植物多量を含む しまりあり 粘性あり
 6. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり
 7. 7.5Y6/2 灰オリーブ粘質土 腐植物、炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 8. 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 9. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 腐植物、炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり

0 (1:50) 2m

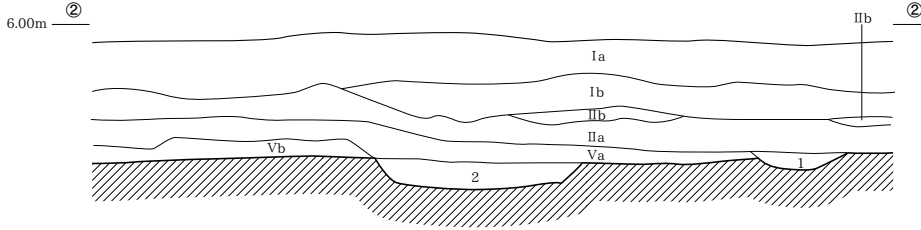


B区 基本土層



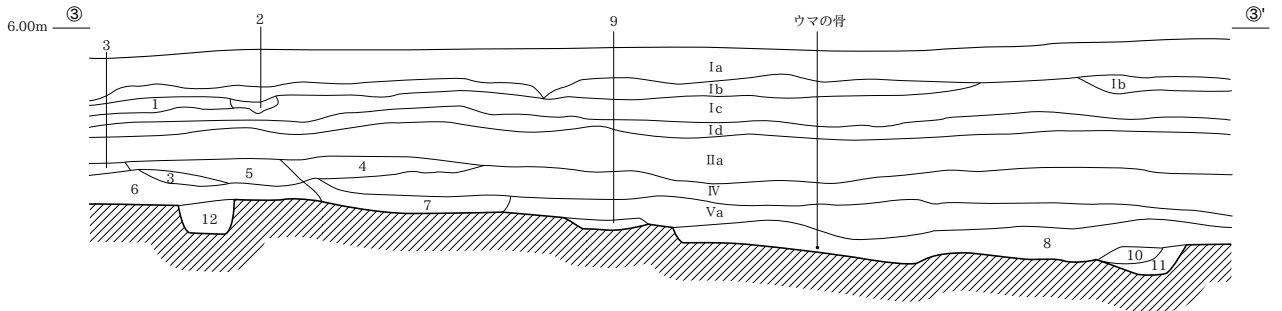
- 基本土層
- I a. 耕作土
 - II a. 2.5Y3/4 暗オリーブ褐色粘質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性あり
 - III a. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 腐植物多量に含む しまりやあり 粘性ややあり
 - IV. 7.5Y3/1 3層に類似するが色調やや暗い しまりやあり 粘性ややあり
 - V a. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土 腐植物、炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり (遺物包含層)
 - VI. 10Y5/2 オリーブ灰色砂質土 しまりやあり 粘性ややあり (遺構確認面、地山)

B区 SD1・SD2



- SD1・SD2
- I b. 5Y3/2 オリーブ黒色シルト質土 鉄分(錆色)含む しまりやあり 粘性ややあり
 - II b. 2.5Y3/4 暗オリーブ褐色粘質土 灰オリーブ粘土ブロック、炭化物含む しまりやあり 粘性あり
 - V b. 5Y2/2 オリーブ黒色粘質土 しまりやあり 粘性ややあり
- SD1
- 1. 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色シルト質土 灰オリーブ粘土ブロック、炭化物含む しまりやあり 粘性あり
- SD2
- 2. 7.5Y2/2 オリーブ黒色シルト質土 細かい炭化物片含む しまりやあり 粘性あり

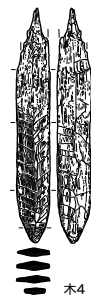
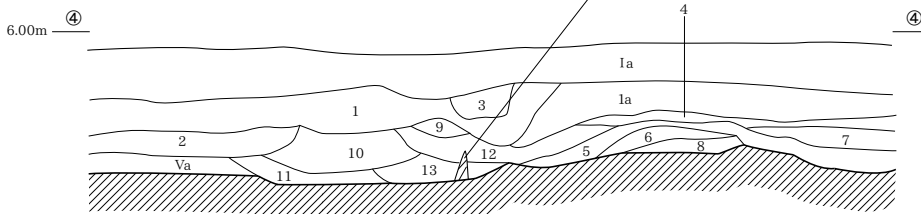
B区 SD3・SD4・SD5・SD22



- SD3・SD4・SD5・SD22
- I c. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 腐植物、炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - I d. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト質土 しまりやあり 粘性あり
 - 1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト質土 腐植物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 2. 5Y4/1 灰色シルト質土 しまりやあり 粘性ややあり
 - 3. 5Y4/2 灰オリーブ色粘質土 しまりやあり 粘性ややあり
 - 4. 10YR3/1 黒褐色シルト質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 5. 7.5Y2/2 オリーブ黒色シルト質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 6. 10Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり

- SD3
- 7. 5Y4/1 灰色シルト質土 しまりやあり 粘性ややあり
- SD4・SD5
- 8. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト質土 腐植物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 9. 5Y2/2 オリーブ黒色粘質土 しまりやあり 粘性ややあり
 - 10. 5Y4/2 灰オリーブ色粘質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 11. 5Y4/2 灰オリーブ粘質土 灰オリーブ粘土ブロック含む しまりやあり 粘性ややあり
- SD22
- 12. 7.5Y2/2 オリーブ黒色粘質土 しまりやあり 粘性ややあり

B区 SD12

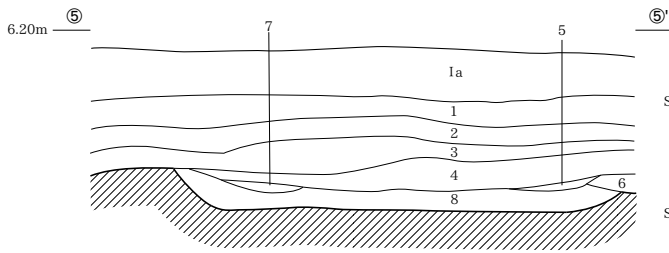


- SD12
- 1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 1a. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 黄灰色粘土ブロック、炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 2. 2.5Y3/2 黒褐色シルト質土 黄灰色粘土ブロック含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 3. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質土 しまりやあり 粘性ややあり
 - 4. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 炭化物多量に含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 5. 2.5Y3/1 炭化物層
 - 6. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 黄灰色粘土ブロック含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 7. 7.5Y2/1 黒色シルト質土 炭化物多量に含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 8. 5Y2/1 黒色土 しまりやあり 粘性ややあり

- SD12
- 9. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりやあり 粘性あり
 - 10. 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性ややあり
 - 11. 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 しまりやあり 粘性あり
 - 12. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性あり
 - 13. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト質土 炭化物少量含む しまりやあり 粘性あり

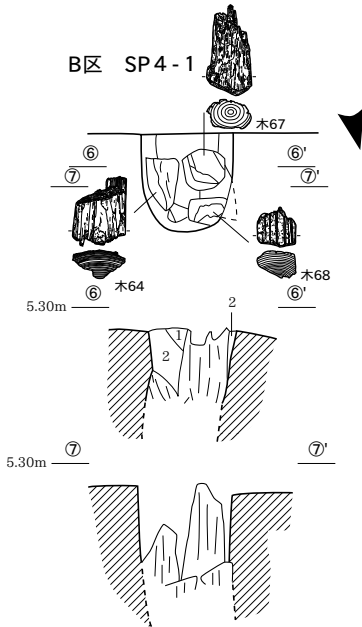
0 (1:40) 2m

B区 SD18

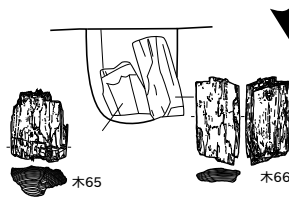


- SD18
1. 5Y4/3 暗オリーブ色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり
 2. 5Y4/2 灰オリーブ色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 3. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 4. 5Y2/2 オリーブ黒色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 5. 2.5Y3/1 炭化物層
 6. 7.5Y2/2 オリーブ黒色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD18
7. 10Y3/1 オリーブ黒色砂質土 しまりややあり 粘性ややあり
 8. 10Y3/1 オリーブ黒色シルト質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり

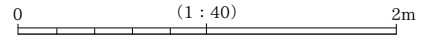
B区 SP4-1



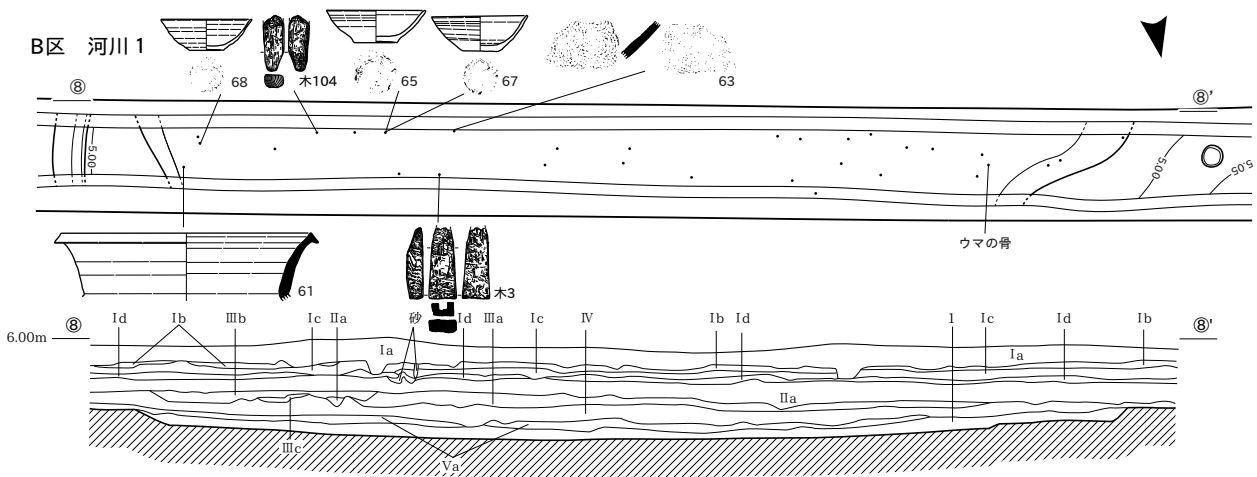
B区 SP4-2



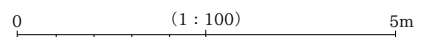
- SP4
1. 10Y3/2 オリーブ黒色シルト質土 灰色シルト質土を多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 2. 10Y4/3 灰色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり

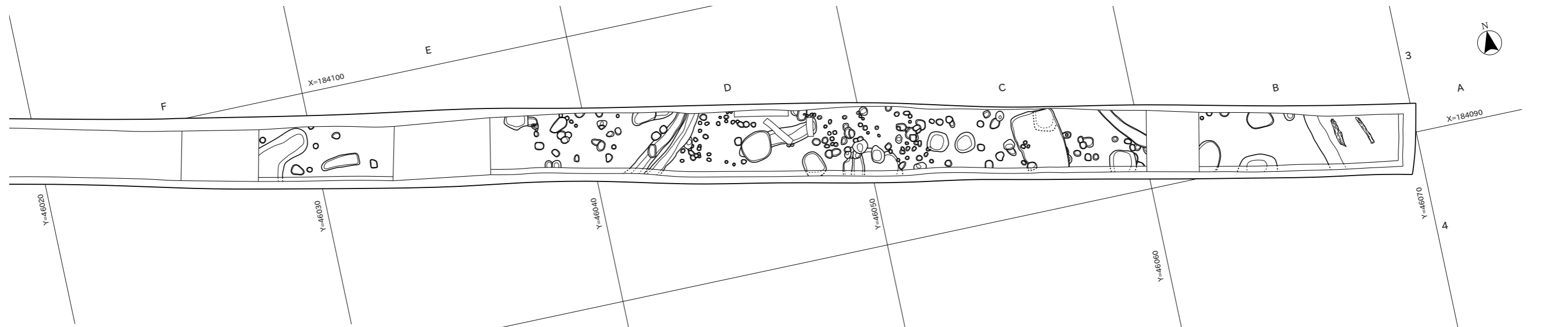


B区 河川1

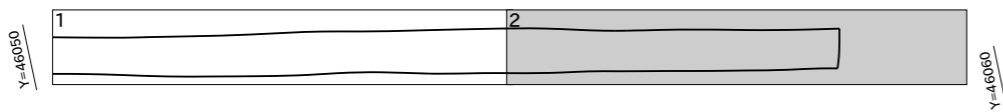
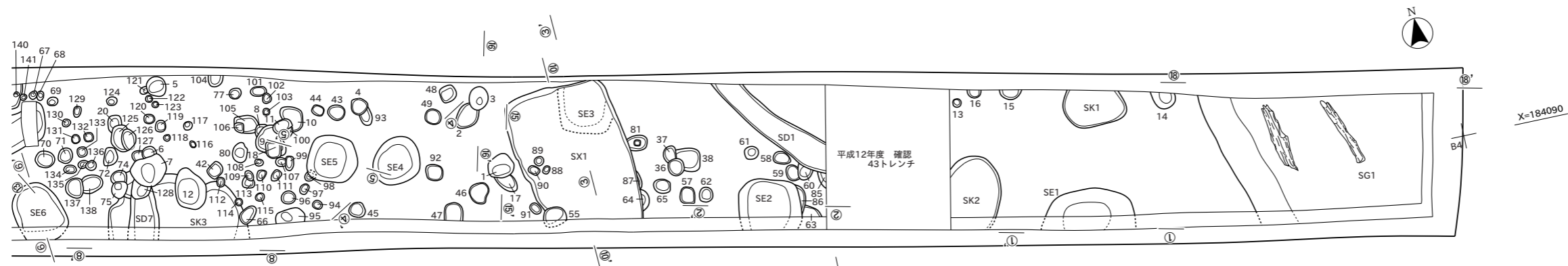
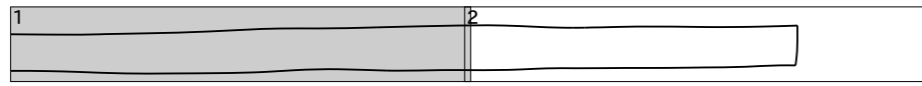
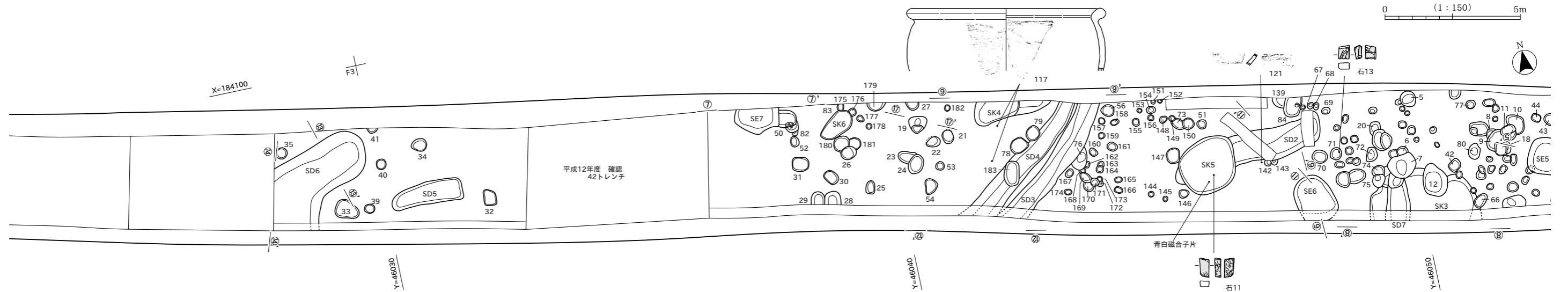


- 河川1
- IIIb. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土層 Ia層に比べ明るい しまりややあり 粘性ややあり
 - IIIc. 2.5Y2/1 黒色シルト質土 腐植物、炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
- 河川1
1. 7.5Y4/1 灰色粘質土 しまりややあり 粘性あり

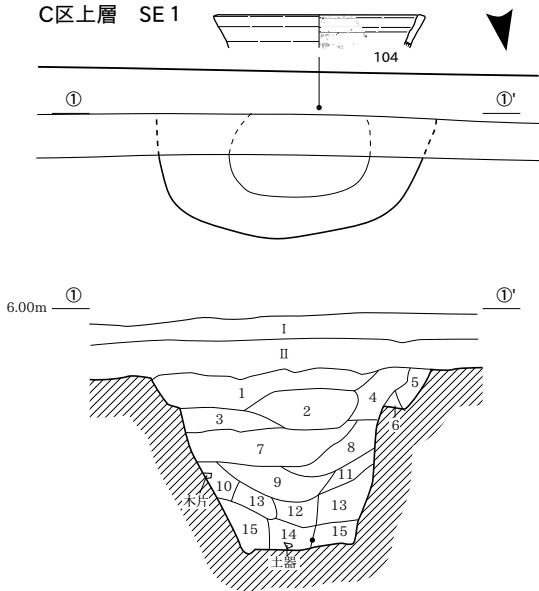




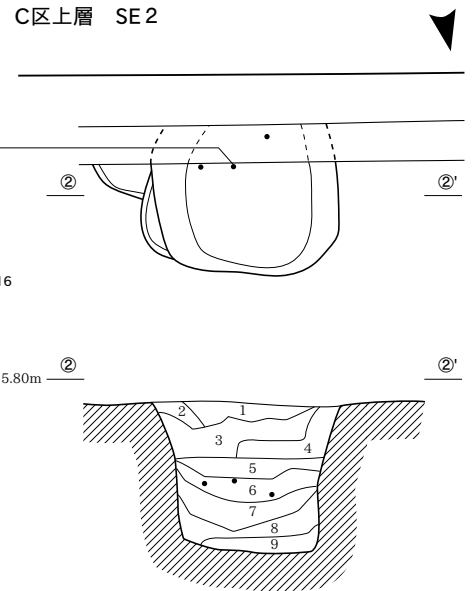
0 (1:150) 5m



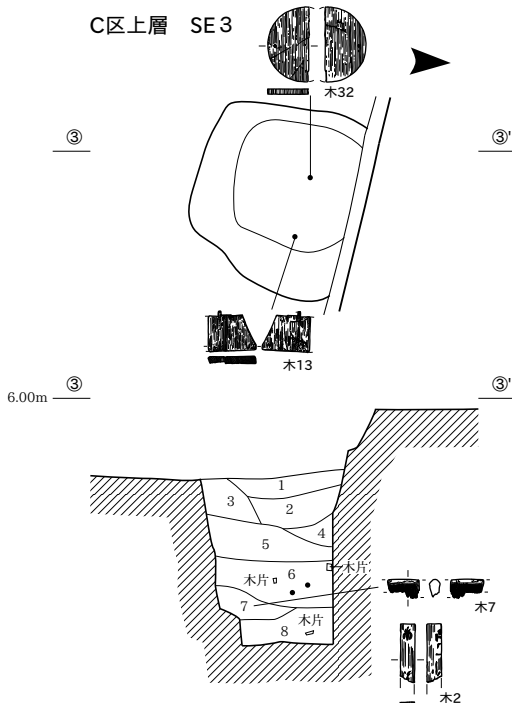
0 (1:80) 4m



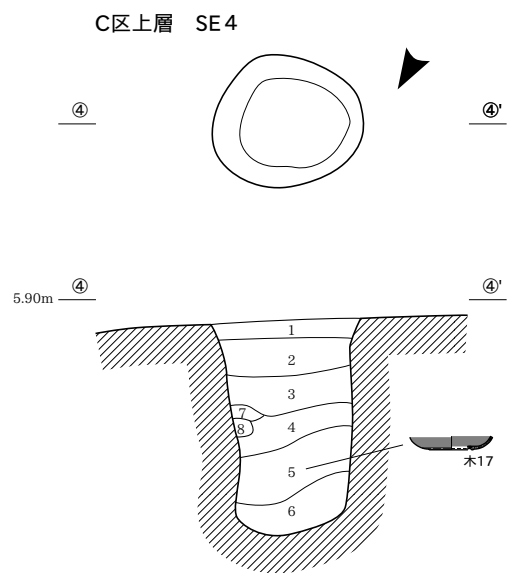
- 基本土層
 I. 耕作土
 II. 7.5Y5/1 灰色粘質土 灰白色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量に含む 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
- SE1
 1. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 φ1~2cm大の粘土ブロック (灰白) 多量に含む 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 1層に類似する しまりややあり 粘性ややあり
 3. 7.5Y4/1 灰色土 しまりあり 粘性あり
 4. 7.5Y4/1 灰色土 灰白色粘土斑紋状に含む φ2mm大の炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
 5. 7.5Y4/1 灰色土 灰白色粘土 (φ2~3mm大) ブロック少量含む しまりあり 粘性あり
 6. 7.5Y4/1 灰色土 灰白色粘土少量含む 5層に類似する しまりあり 粘性あり
 7. 7.5Y4/1 灰色土 灰白色粘土 (φ2~3mm大) ブロック多量に含む しまりややあり 粘性あり
 8. 7.5Y4/1 灰色土 7層に類似する しまりややあり 粘性ややあり
 9. 7.5Y4/1 灰色土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 10. 7.5Y4/1 灰色土 腐植物、炭化物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 11. 7.5Y4/1 灰色土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 12. 7.5Y4/1 灰色土 腐植物、炭化物多量に含む しまりややあり 粘性あり
 13. 7.5Y4/1 灰色土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性あり
 14. 7.5Y4/1 灰色土 腐植物、炭化物多量に含む しまりややあり 粘性あり
 15. 7.5Y4/1 灰色土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性あり



- SE2
 1. 7.5Y5/1 灰色粘質土 灰白色粘土ブロック (φ3cm大) 含む しまりあり 粘性あり
 2. 7.5Y5/1 灰色粘質土 1層に類似するが灰白色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘性あり
 3. 7.5Y4/1 灰色粘質土 灰白色粘土 (φ2~3mm大) ブロック、炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 4. 7.5Y5/1 灰色粘質土 灰白色粘土 (φ2~3mm大) ブロック多量に含む しまりあり 粘性あり
 5. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 多量の炭化物を斑紋状に含む 灰白色粘土ブロック少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 6. 7.5Y4/1 灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 7. 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物層を斑紋状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 8. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 しまりあり 粘性あり
 9. 7.5Y4/1 灰色粘質土 腐植物、炭化物多量に含む 灰白色粘質土を斑紋状に含む しまりややあり 粘性ややあり

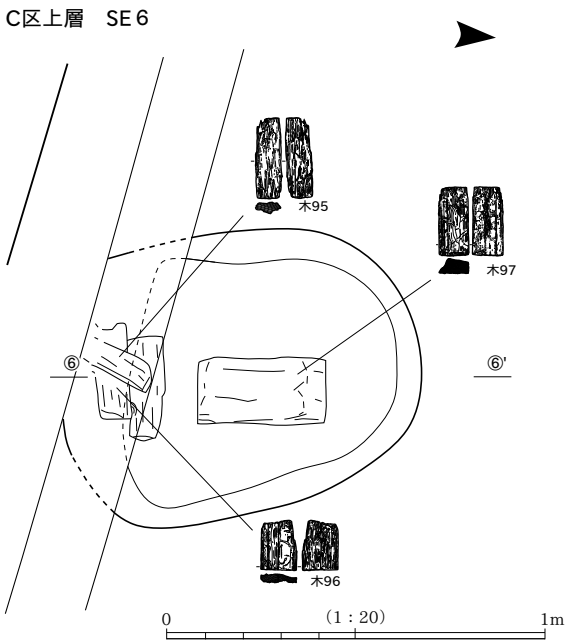
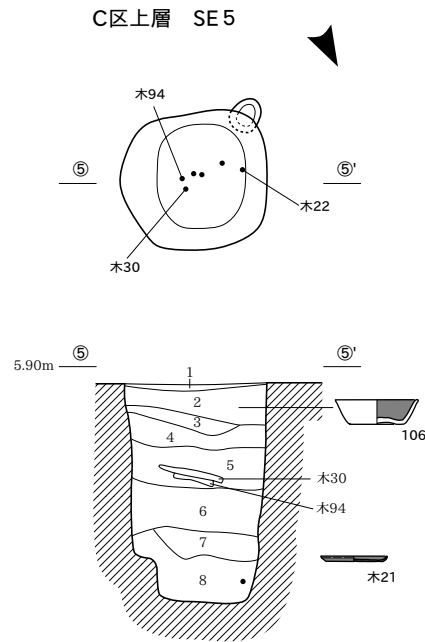
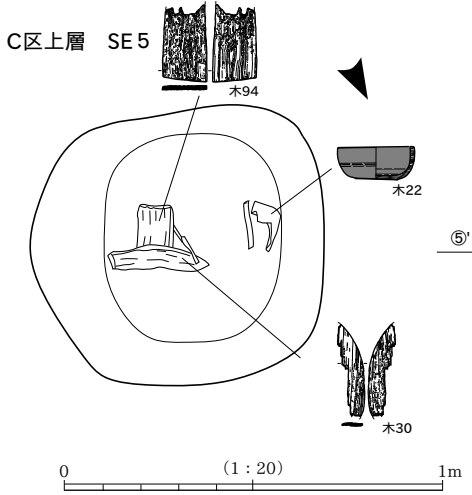


- SE3
 1. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 灰色粘土を斑紋状に含む しまりあり 粘性あり
 2. 7.5Y5/1 灰色粘質土 灰白色粘土 (φ1~3mm大) ブロック多量に含む しまりあり 粘性あり
 3. 7.5Y4/1 灰色粘質土 灰白色粘土 (φ2~3mm大) ブロック、炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 4. 7.5Y4/1 灰色粘質土 灰白色粘土 (φ4~5mm大) ブロック含む しまりあり 粘性あり
 5. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 灰白色粘土 (φ2~3mm大) ブロック、炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 6. 7.5Y2/2 オリーブ黒色土 腐植物多量に含む 灰白色粘土ブロック (φ3cm大) 少量含む 炭化物、木片含む しまりややあり 粘性ややあり
 7. 7.5Y2/2 オリーブ黒色土 6層に類似するが、やや色調暗い しまりややあり 粘性あり
 8. 7.5Y2/2 オリーブ黒色土 腐植物層 しまりなし 粘性あり

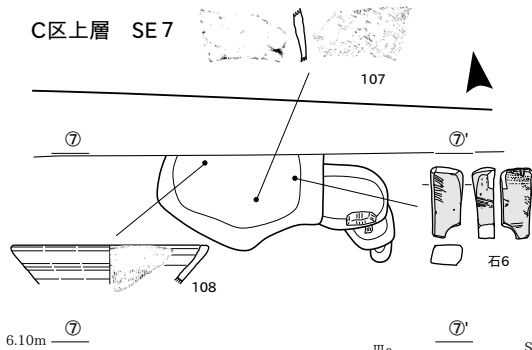
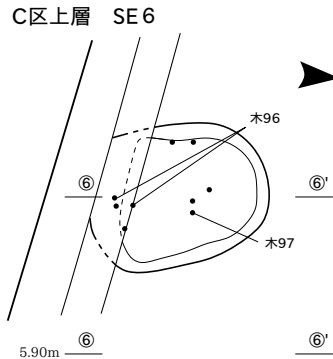


- SE4
 1. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 φ1cm前後の炭化物、オリーブ黒色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘性あり
 2. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 φ1~3mm大の炭化物、オリーブ黒色の粘土ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり
 3. 7.5Y4/1 灰色粘質土 φ5mm前後の炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック (φ2~3cm) 多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 4. 7.5Y5/1 灰色粘質土 φ5mm前後の炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 5. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 6. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 腐植物、オリーブ灰色粘土ブロック多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 7. 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘質土ブロック しまりあり 粘性ややあり
 8. 7.5Y7/2 灰白色粘質土ブロック しまりあり 粘性ややあり

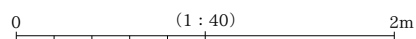
0 (1:40) 2m

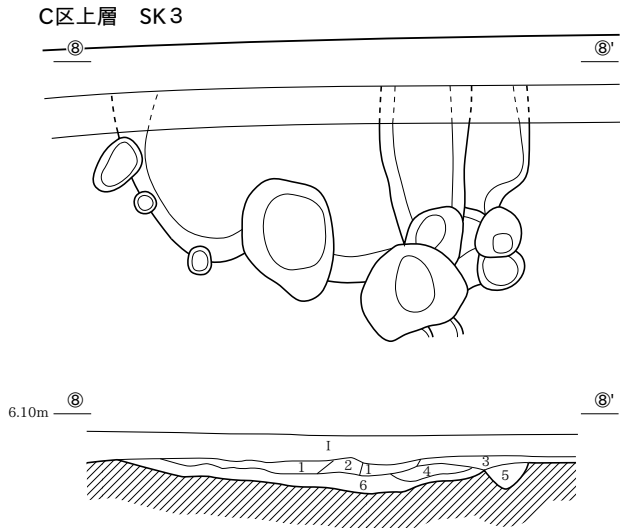


- SE 5
1. 7.5Y4/1 灰白色粘質土 φ2~5mm大の炭化物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 2. N2/ 黒色土 炭化物、灰白色粘土ブロック (φ2~3cm) 多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 3. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 黒色土ブロック少量含む しまりややあり 粘性あり
 4. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 φ3~5mm大の炭化物少量含む 灰オリブ色粘質土斑紋状に含む しまりあり 粘性あり
 5. 7.5Y5/2 灰オリブ色粘質土 φ3~5mm大の炭化物粒子含む 灰白色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量に含む しまりあり 粘性あり
 6. 2.5GY5/1 オリブ灰色粘質土 径5mm大の炭化物、腐植物多量に含む しまりあり 粘性あり
 7. 2.5GY5/1 オリブ灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 8. 2.5Y4/4 オリブ褐色土 腐植物層 しまりなし 粘性あり

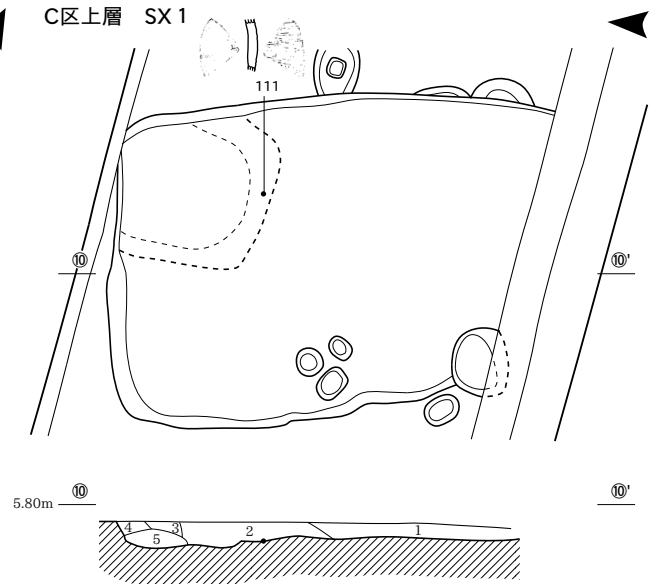


- SE 7
1. 耕作土
 - II. 7.5Y5/1 灰白色粘質土 灰白色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量に含む 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 - IIIa. 7.5Y6/1 灰白色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック (φ1~2cm) 多量に含む しまりあり 粘性あり
 - IVa. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 しまりあり 粘性あり
 - Va. 灰白色土
 - 遺構確認面・地山
 1. 7.5Y4/1 灰白色粘質土 炭化物、灰白色粘質土 (φ5mm前後) 少量含む しまりあり 粘性あり
 2. 7.5Y5/1 灰白色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック (φ1~2cm) 多量に含む しまりあり 粘性あり
 3. 7.5Y4/1 灰白色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 4. 7.5Y5/1 灰白色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘土ブロック (φ3~5cm) 多量に含む しまりあり 粘性あり
 5. 7.5Y5/1 灰白色粘質土 4層に類似するが炭化物減少する しまりあり 粘性あり
 6. 7.5Y2/2 オリブ黒色土 腐植物、灰白色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘性あり
 7. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 しまりあり 粘性あり
 8. 7.5Y2/2 オリブ黒色土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性あり
 9. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 7層に類似するが色調明るい しまりややあり 粘性ややあり
 10. 7.5Y2/2 オリブ黒色土 腐植物層 灰白色粘土ブロック含む しまりなし 粘性ややあり
 11. 7.5Y2/2 オリブ黒色土 10層に類似するが、粘土ブロックやや多く含む しまりなし 粘性ややあり
 12. 7.5Y2/1 オリブ黒色土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり

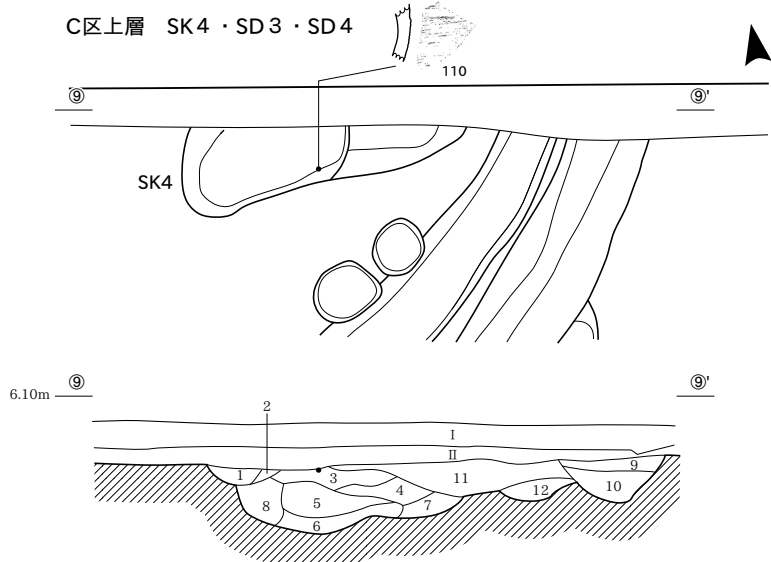




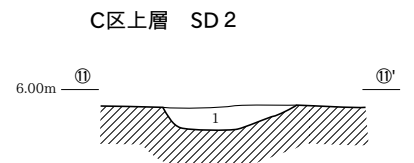
- SK 3
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰白粘土ブロック (φ5mm) 多量に含む
しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y2/2 オリーブ黒色土 しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y4/1 灰色土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む 灰白粘土ブロック (φ2~3cm)
多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 5層に類似するが、炭化物含まない しまりあり
粘性ややあり
 - N2/ 黒色土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり



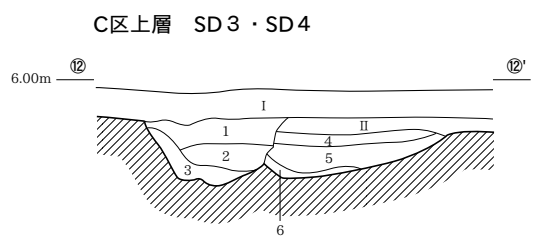
- SX 1
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む 灰白粘土ブロック (φ2~3cm)
少量含む しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y7/2 灰白色粘質土 黒色土を斑紋状に含む しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y7/2 灰白色粘質土 3層に類似するが、黒色土やや多く含む しまりあり
粘性あり
 - 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰白粘土ブロック少量含む しまりあり 粘性あり



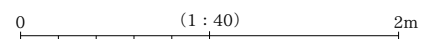
- SK 4
- 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘質土多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7.5Y7/2 灰白色粘質土 しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 炭化物多量に含む しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y6/1 灰色粘質土 オリーブ黒色粘土ブロック多量に含む しまりややあり 粘性あり
 - 7.5Y6/1 灰色粘質土 炭化物多量に含む 灰白粘土ブロック (φ5mm) 多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 炭化物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
- SD 3
- 7.5Y5/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白粘土ブロック (φ1~2cm) 少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7.5Y5/1 灰色粘質土 炭化物多量に含む しまりあり 粘性あり
- SD 4
- 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白粘土ブロック (φ1~2cm) 少量含む しまりあり 粘性あり



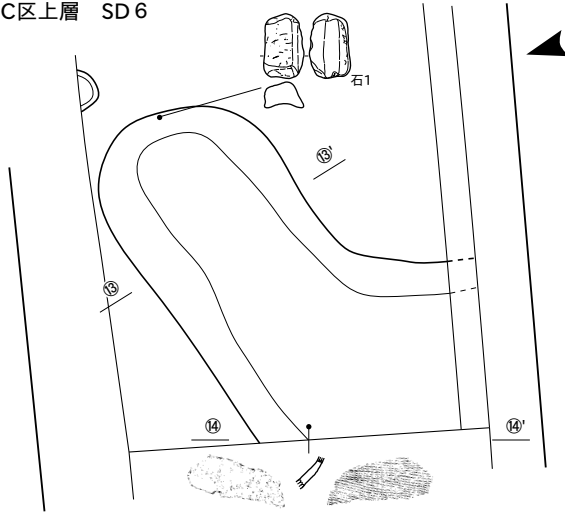
- SD 2
- 7.5Y7/2 灰白色粘質土 オリーブ黒色粘土ブロック
多量に含む しまりあり 粘性ややあり



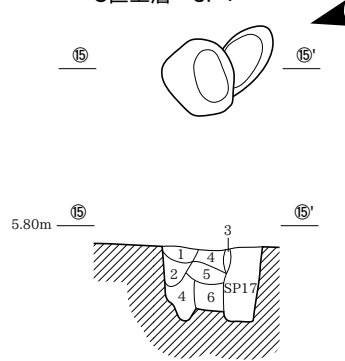
- SD 3
- 7.5Y5/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白粘土ブロック (φ1~2cm) 少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7.5Y5/1 灰色粘質土 1層に類似するが炭化物やや多く含む しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y5/1 灰色粘質土 1層に類似するが混入物やや少ない しまりあり 粘性あり
- SD 4
- 7.5Y5/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 - 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 鉄分の粒子 (φ1mm) 多量に含む しまりややあり 粘性あり
 - 7.5Y4/1 灰色粘質土 5層に類似する しまりややあり 粘性あり



C区上層 SD6



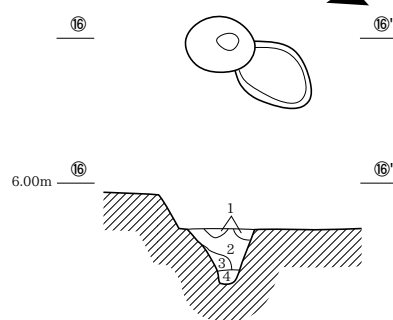
C区上層 SP1



SP1

1. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 炭化物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
2. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 1層に類似する 灰白色粘土ブロック多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
3. 7.5Y4/2 灰オリーブ色土 炭化物、灰白色粘土ブロック少量含む しまりあり 粘性あり
4. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰白色粒子少量含む しまりあり 粘性あり
5. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 4層に類似するが、より混入物少ない しまりあり 粘性あり
6. 7.5Y6/3 オリーブ黄色土 しまりあり 粘性あり

C区上層 SP3



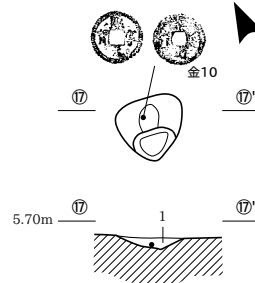
SP3

1. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 灰白色粘土ブロック含む しまりあり 粘性あり
2. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 オリーブ黒色粘土ブロック含む しまりあり 粘性あり
3. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 1層に類似するが色調やや暗い しまりあり 粘性あり
4. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり

SD6

1. 7.5Y5/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
2. 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
3. N2/ 黒色土 炭化物、腐植物少量含む しまりややあり 粘性あり
4. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
5. 7.5Y6/1 灰色粘質土 しまりあり 粘性あり

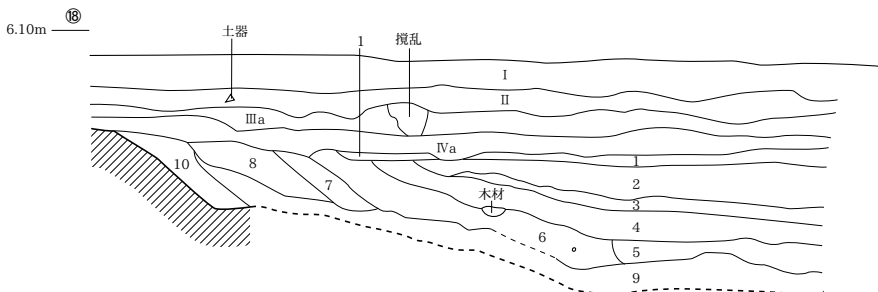
C区上層 SP19



SP19

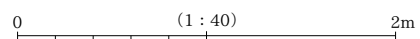
1. 7.5Y4/1 灰色粘質土 しまりあり 粘性あり

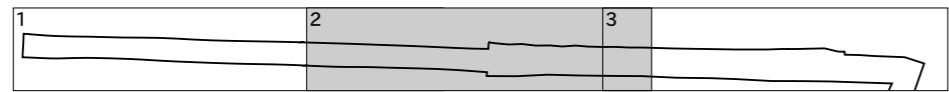
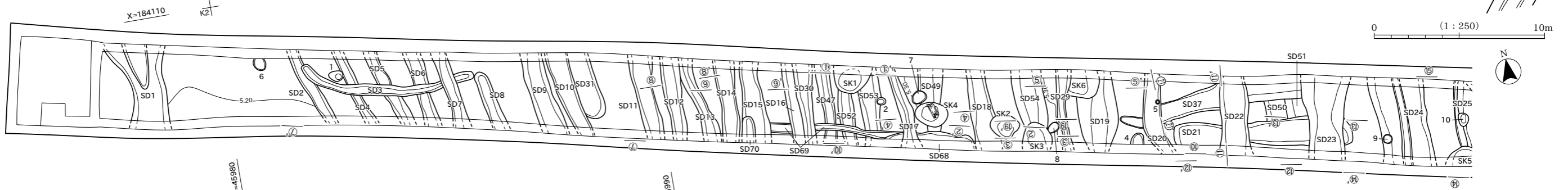
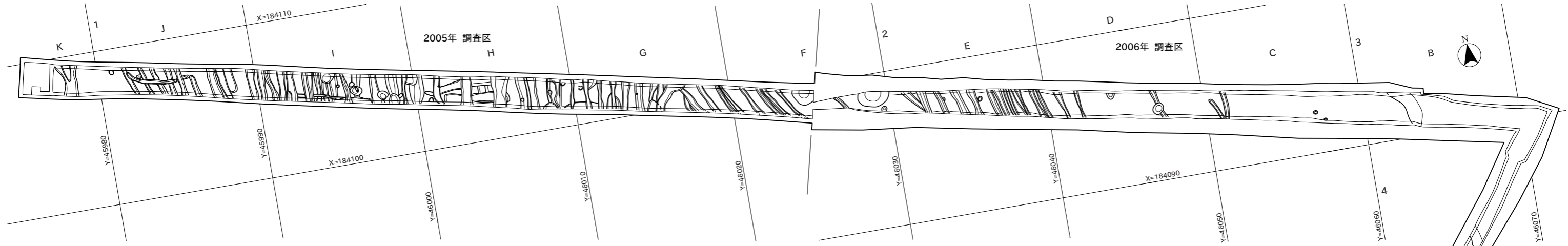
C区上層 河川1



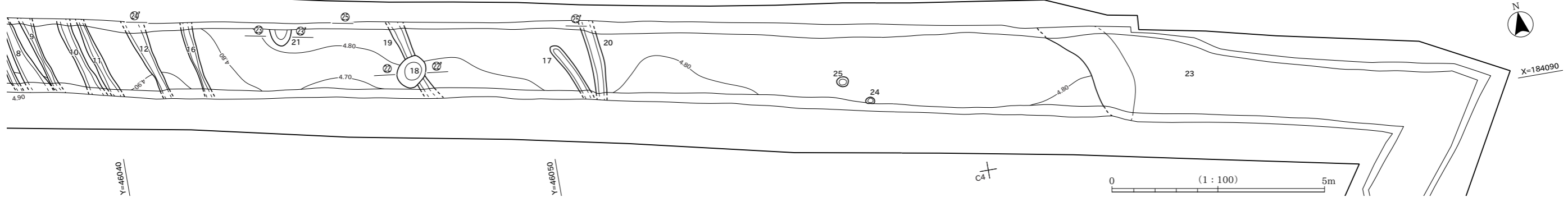
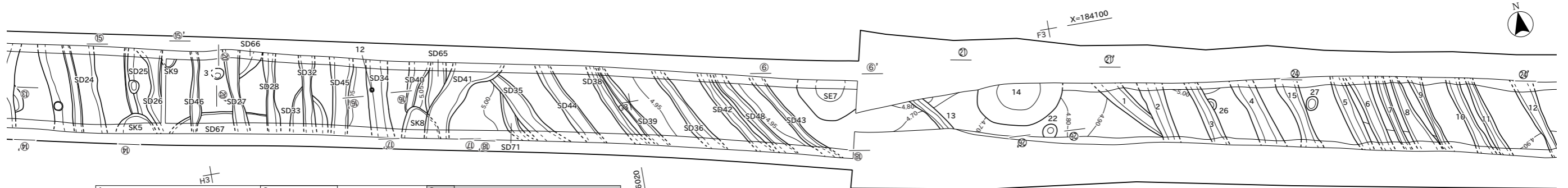
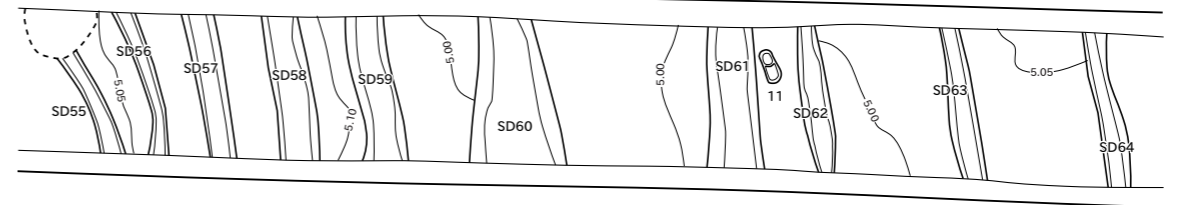
河川1

1. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 炭化物少量含む 灰白色粘質土を斑紋状に含む しまりあり 粘性ややあり
2. 7.5Y4/1 灰色粘質土 φ1cm前後の玉石(砂質でもろい)少量含む しまりややあり 粘性ややあり
3. 5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質土 緑灰色の小石含む しまりややあり 粘性ややあり
4. N2/ 黒色土 炭化物、腐植物含む 明茶褐色粘質土を斑紋状に含む しまりややあり 粘性ややあり
5. 7.5Y4/2 灰オリーブ色土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
6. 7.5GY5/1 緑灰色土 腐植物、木片など多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
7. 7.5GY6/1 緑灰色砂質土 灰色粘質土を斑紋状に含む しまりややあり 粘性ややあり
8. 7.5GY5/1 緑灰色砂質土 粒子の粗い緑灰色の砂を中心に構成され、灰色土を斑紋状に含む しまりややあり 粘性ややあり
9. 7.5GY6/1 緑灰色砂質土 茶褐色粘質土を斑紋状に含む しまりあり 粘性ややあり
10. 7.5GY6/1 緑灰色砂質土 植物遺体少量含む しまりややあり 粘性ややあり
11. 7.5GY6/1 緑灰色砂質土 目の粗い砂層である しまりあり 粘性ややあり

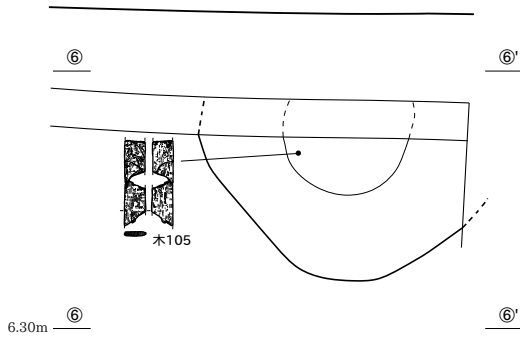




最下層



C区下層 SE7



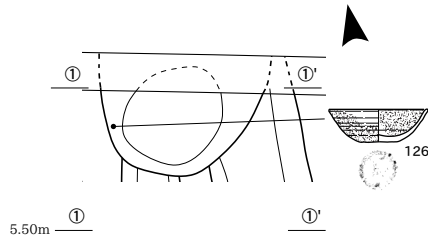
基本土層

- I. 耕作土
- II. 7.5Y5/1 灰色粘質土 灰白色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量に含む 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
- IIIa. 7.5Y6/1 灰色粘質土 炭化物少量含む 灰白色粘質土を斑紋状に含む しまりあり 粘性あり
- IIIb. 7.5Y4/1 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
- IVa. 7.5Y7/2 灰白色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
- IVb. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 しまりあり 粘性あり
- IVc. 10YR4/3 におい黄褐色土 しまりあり 粘性あり
- Va. 5Y5/1 灰色シルト質土 炭化物を少量含む しまりあり 粘性ややあり (中世遺構確認面・地山)
- Vb. 5Y5/1 灰色シルト質土 炭化物を少量含む しまりあり 粘性ややあり
- Vc. 5Y5/1 灰色シルト質土 しまりあり 粘性ややあり
- Vd. 5Y5/1 灰色シルト質土 暗灰色土をマール状に含む しまりあり 粘性ややあり
- Via. 5Y4/1 灰色シルト質土 炭化物、腐植物、暗灰色シルト質土を少量含む しまりあり 粘性ややあり
- Vib. 5/N 灰色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり
- VIIa. 7.5Y5/1 灰色シルト質土 炭化物、腐植物を少量含む しまりあり 粘性ややあり (古代遺物包含層)
- VIIb. 3/N 暗灰色シルト質土 炭化物を少量含む しまりややあり 粘性ややあり (古代遺物包含層)
- VIIIa. 2.5Y5/2 暗黄灰色シルト質土 腐植物を多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
- VIIIb. 2.5Y2/1 黒色土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- IXa. 10YR5/1 褐灰色シルト質土 地山土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
- IXb. 10YR5/1 褐灰色シルト質土 黒色土を少量含む しまりややあり 粘性ややあり

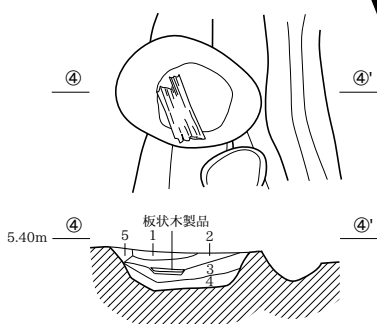
SE7

- 1. 5Y4/1 灰色シルト質土 しまりなし 粘性ややあり
- 2. 10GY3/1 暗緑灰シルト質土 腐植物を多量に含む 炭化物を含む しまりあり 粘性ややあり
- 3. 5G3/1 暗緑灰シルト質土 腐植物を多量に含む 炭化物を含む しまりあり 粘性ややあり
- 4. 10G3/1 暗緑灰シルト質土 腐植物を多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
- 5. 2/N 黒色シルト質土 腐植物を多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
- 6. 2.5Y 黒色シルト質土 しまりなし 粘性ややあり
- 7. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト質土 腐植物を多量に含む しまりなし 粘性ややあり
- 8. 2/N 黒色シルト質土 炭化物を含む しまりなし 粘性ややあり
- 9. 5GY6/1 オリーブ灰色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり
- 10. 10Y3/1 オリーブ黒色シルト質土 炭化物を含む しまりなし 粘性ややあり
- 11. 10YR5/1 褐灰色シルト質土 しまりあり 粘性ややあり

C区下層 SK1



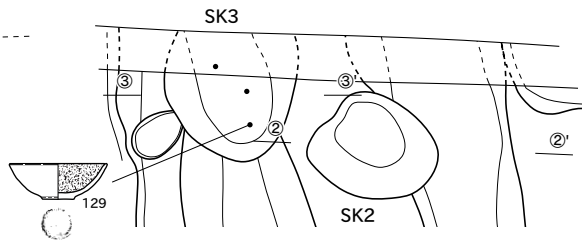
C区下層 SK4



SK4

- 1. 5B4/1 暗青灰シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 2. 7.5Y5/2 灰オリーブ色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 3. 5Y4/1 灰色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 4. 4/N 灰色シルト質土 下部に炭化物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
- 5. 5B4/1 暗青灰シルト質土 1層に同じだが炭化物少ない しまりあり 粘性ややあり

C区下層 SK2・SK3



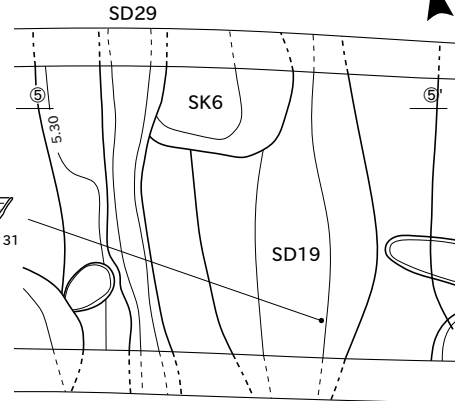
SK2

- 1. 3/N 暗灰色シルト質土 しまりあり 粘性ややあり
- 2. 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり

SK3

- 1. 7.5Y4/1 灰色シルト質土 下部に地山土を多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- 2. 3/N 暗灰色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり

C区下層 SK6・SD29・SD19



SD29

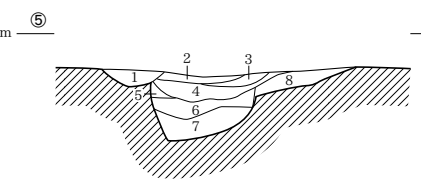
- 1. 7.5Y2/1 黒色土 灰白色粘土ブロック (φ2cm) 含む 灰白色粘土 (φ1mm) を多量に含む しまりあり 粘性ややあり

SK6

- 1. 7.5Y2/1 黒色土 灰白色粘土ブロック (φ1~3mm) 含む しまりあり 粘性ややあり
- 2. 7.5Y2/1 黒色土 2層に類似するが色調暗い しまりあり 粘性ややあり
- 3. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 灰白色粘土ブロック (φ5mm) 含む しまりあり 粘性あり
- 4. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 4層に類似する 灰白色粘土ブロック多量に含む しまりあり 粘性あり
- 5. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 5層よりやや暗い 灰白色粘土ブロック (φ5mm) 含む しまりあり 粘性あり
- 6. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 5層よりやや暗い 灰白色粘土ブロック (φ5mm) 含む しまりあり 粘性あり
- 7. 7.5Y2/1 黒色土 オリーブ黒色土を斑紋状に含む 腐植物、灰白色粘土ブロック (φ5mm) 少量含む しまりあり 粘性ややあり

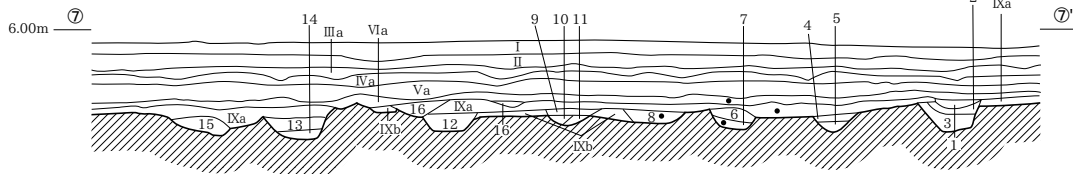
SD19

- 8. 7.5Y2/1 黒色土 灰白色粘土ブロック (φ5mm~1cm) 含む しまりややあり 粘性ややあり



0 (1:40) 2m

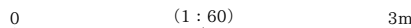
C区下層 SD2・SD4~10



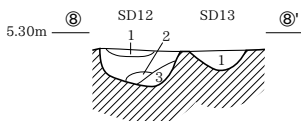
- SD2
- 1. 5B4/1 暗青灰シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 5/N 灰色シルト質土 炭化物少量含む 灰色シルトブロックを含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 3. 4/N 灰色シルト質土 暗灰色粘質土をまだらに含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD4
- 4. 4/N 灰色シルト質土 暗灰色粘質土をまだらに含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 5. 5/N 灰色シルト質土 炭化物少量含む 灰色シルトブロックを含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD5
- 6. 5/N 灰色シルト質土 炭化物少量含む 灰色シルトブロックを含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 7. 4/N 灰色シルト質土 暗灰色粘質土をまだらに含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD6
- 8. 4/N 灰色シルト質土 暗灰色粘質土をまだらに含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD7
- 9. 4/N 灰色シルト質土 地山土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 10. 4/N 灰色シルト質土 暗灰色粘質土をまだらに含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 11. 5BG5/1 青灰色シルト質土 しまりなし 粘性あり

- SD8
- 12. 4/N 灰色シルト質土 暗灰色粘質土をまだらに含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD9
- 13. 4/N 灰色シルト質土 炭化物(φ2~5mm)を含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 14. 3/N 暗灰色粘質土 炭化物(φ3mm)少量含む しまりなし 粘性あり
- SD10
- 15. 4/N 灰色シルト質土 炭化物(φ2~5mm)を含む しまりややあり 粘性ややあり 他遺構
 - 16. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 腐植物を含む しまりあり 粘性ややあり

● 分析用土壌サンプリング地点

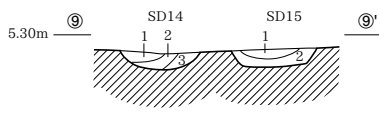


C区下層 SD12・SD13



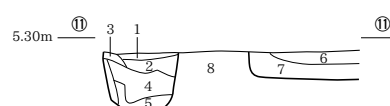
- SD12
- 1. 5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト質土 炭化物を多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 3. 10Y6/1 灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 4. 10Y4/1 灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- SD13
- 1. 5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト質土 炭化物を多量に含む しまりあり 粘性ややあり

C区下層 SD14・SD15

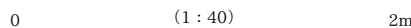


- SD14
- 1. 7.5Y4/1 灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 2. 10Y4/1 灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 3. 10Y4/1 灰色粘質土 しまりなし 粘性ややあり
- SD15
- 1. 4/N 灰色シルト質土 しまりあり
 - 2. 4/N 灰色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり

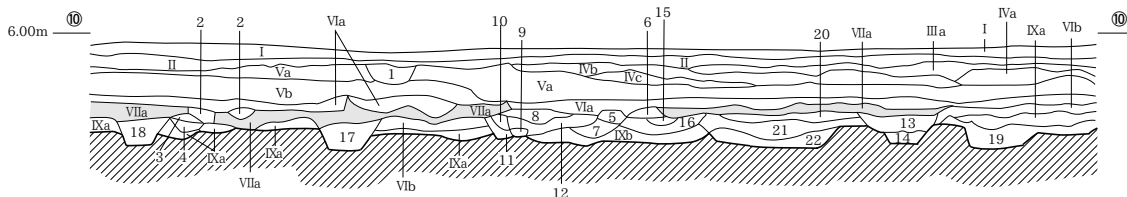
C区下層 SD21・SD37



- SD21
- 1. N2/0 黒色粘質土 灰色粘質土ブロック(φ1.5cm)含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 2. N2/0 黒色シルト質土 灰色粘質土ブロック(φ1.5cm)含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 3. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 4. 7.5Y2/1 黒色土 小礫(φ0.5cm)少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 5. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土 灰色粘質土ブロック含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD37
- 6. 10Y3/1 オリーブ黒色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 7. 5Y2/1 黒色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 8. N3/0 灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり

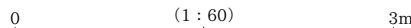


C区下層 SK3・SD17~20・SD53・SD68

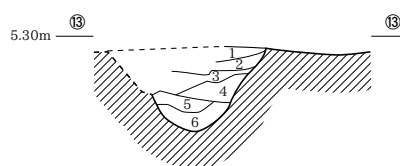


- SK3・SD17~20・SD53・SD68
- 1. 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 2. 2.5Y3/2 黒褐色シルト質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 3. 2.5Y2/1 黒色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 4. 2.5Y2/1 黒色土 灰色シルト質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 5. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 6. 2.5Y3/1 黒褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 7. 2.5Y3/1 黒褐色土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
- SK3
- 8. 2.5Y3/1 黒褐色土 地山土ブロック(φ2cm)まばらに含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 9. 2.5Y3/1 黒褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 10. 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色土 灰色土ブロック(φ3~4cm)含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 11. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 12. 7.5Y2/1 黒色粘質土 焼土、炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり

- SD17
- 13. 7.5Y5/1 灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 14. 5GY5/1 灰色粘質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD18
- 15. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 しまりややあり 粘性あり
 - 16. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 炭化物、鉄分(赤色)含む しまりややあり 粘性あり
- SD19
- 17. N1.5/0 黒色土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘性あり
- SD20
- 18. 7.5Y5/1 灰色シルト質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD53
- 19. 10Y5/1 灰色粘質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
- 他遺構
- 20. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土 炭化物、鉄分(橙)含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 21. 5Y2/2 オリーブ黒色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 22. 5GY5/1 オリーブ灰色粘質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり



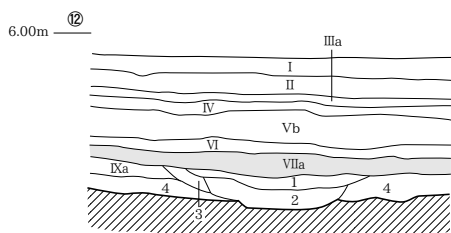
C区下層 SD23



- SD23
- 1. 3/N 暗灰色シルト質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 7.5Y2/1 黒色シルト質土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 3. 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト質土 下層部に4層をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 4. 7.5Y5/1 灰色粘質土 しまりなし 粘性あり
 - 5. 7.5Y4/1 灰色シルト質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 6. 7.5Y4/1 灰色シルト質土 5層に同じだがさらにしまり強い しまりあり 粘性ややあり

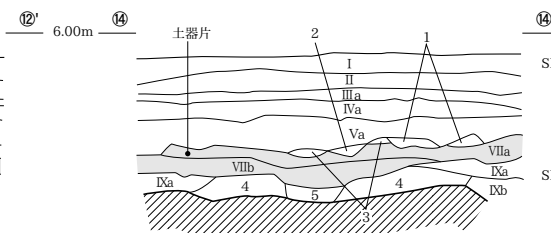


C区下層 SD22

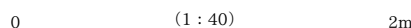


- SD22
- 1. 3/N 暗灰色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 2. 7.5Y4/1 灰色シルト質土 しまりなし 粘性あり
 - 3. 7.5Y5/1 灰色粘質土 しまりなし 粘性あり
 - 4. 4/N 灰色粘質土 しまりややあり 粘性あり

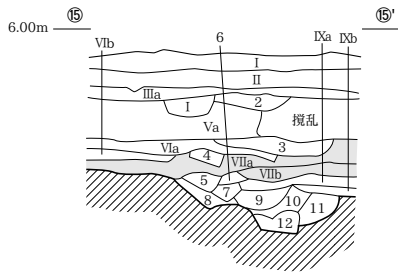
C区下層 SD24



- SD24
- 1. 5Y5/1 灰色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 5Y6/2 灰オリーブ色シルト質土 砂質土含む しまりあり 粘性ややあり
 - 3. 3/N 灰色シルト質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD24覆土
- 4. 7.5Y5/2 灰オリーブ色粘質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 5. 7.5Y4/1 灰色シルト質土 しまりなし 粘性ややあり

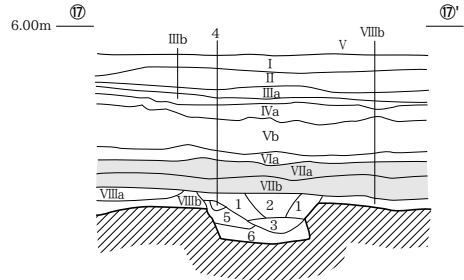
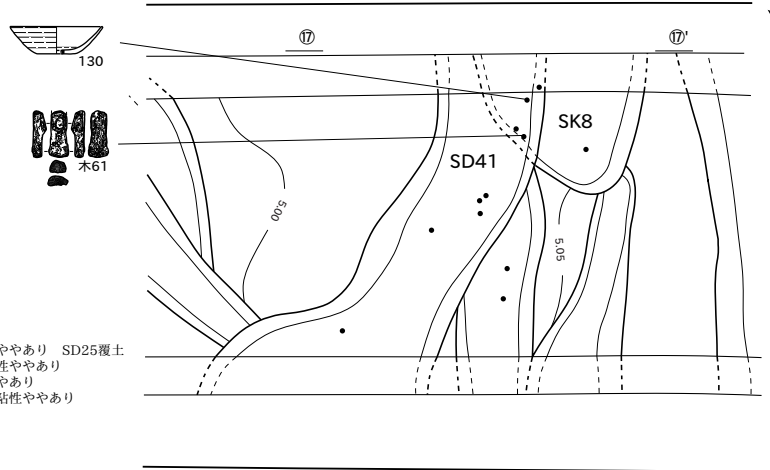


C区下層 SD25



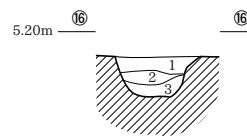
- SD25
- 1. 5Y5/1 灰色シルト質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 7.5Y4/1 灰色シルト質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 3. 5GY6/1 オリーブ灰色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 4. 5GY6/1 オリーブ灰色シルト質土 灰色土含む しまりややあり 粘性ややあり SD25覆土
 - 5. 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 地山土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 6. 10BG5/1 青灰色シルト質土 腐植物を多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7. 10BG5/1 青灰色シルト質土 地山土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 8. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質土 しまりややあり 粘性あり
 - 9. 7.5Y5/1 灰色粘質土 炭化物多量に含む しまりなし 粘性あり
 - 10. 7.5Y5/1 灰色粘質土 炭化物を含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 11. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質土 しまりなし 粘性あり
 - 12. 5GY6/1 オリーブ灰色粘質土 炭化物含む しまりなし 粘性あり

C区下層 SD41・SK8



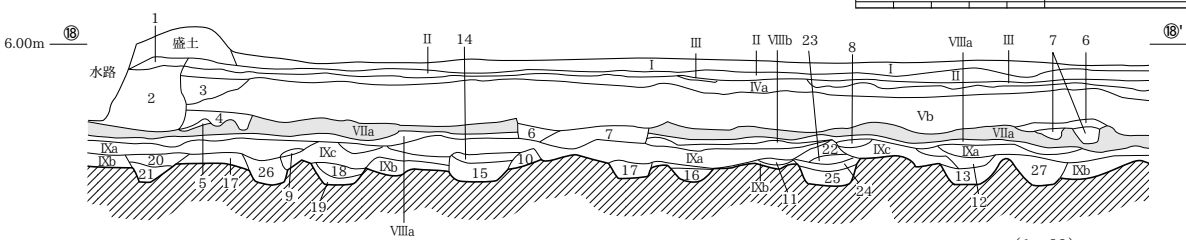
- SD41
- 1. 3/N 暗灰色シルト質土 炭化物含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 3/N 暗灰色シルト質土 地山土を多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 3. 3/N 暗灰色シルト質土 地山土を少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- SK8
- 4. 7.5Y2/1 黒色シルト質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 5. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質土 しまりなし 粘性あり
 - 6. 2/N 黒色シルト質土 地山土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり

C区下層 SD34



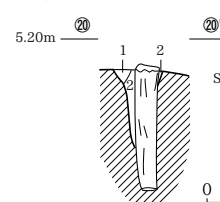
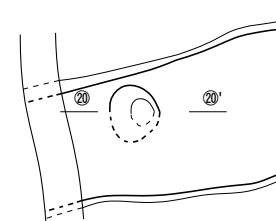
- SD34
- 1. 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 φ1mm以下の炭化物粒子を含む しまりあり 粘性あり
 - 2. 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘質土 灰白色粘土ブロック (φ1~2cm大)、炭化物粒子少量含む しまりあり 粘性あり
 - 3. 7.5Y6/2 灰オリーブ色粘質土 オリーブ黒色粘土斑紋状に含む 炭化物粒子少量含む しまりあり 粘性あり

C区下層 SD35・36・38・39・42~44・48・71



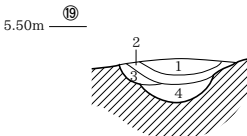
- SD35・36・38・39・42~44・48・71
- 1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 鉄分(橙色)含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 鉄分(橙色)含む しまりあり 粘性ややあり
 - 3. 5Y4/2 灰オリーブ色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 4. 2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 5. 2.5Y4/2 暗灰黄色土 黒褐色土との混合層 しまりややあり 粘性ややあり
 - 6. 10Y5/1 灰色土 黒褐色土ブロック (1~2cm) 含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 7. 10Y5/1 灰色土 黒褐色土ブロック (3cm) 含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 8. 7.5Y5/1 灰色粘質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 9. 5Y2/1 黒色土 しまりややあり 粘性あり
 - 10. 10Y4/1 灰色粘質土 黒褐色土含む しまりややあり 粘性あり
 - 11. 5Y4/1 灰色粘質土 しまりややあり 粘性あり
 - 12. 7.5Y4/2 灰オリーブ粘質土 灰色粘質土、炭化物含む しまりややあり 粘性あり
- SD35・71
- 13. 7.5Y2/1 黒色土 細粒砂、炭化物含む しまりややあり 粘性あり
- SD36
- 14. 7.5Y2/2 オリーブ黒色土 細粒砂含む しまりややあり 粘性あり
 - 15. 10Y4/1 灰色粘質土 細粒砂含む しまりややあり 粘性あり
- SD38
- 16. 10Y4/1 灰色粘質土 細粒砂含む しまりややあり 粘性あり
- SD39
- 17. 10Y4/1 灰色粘質土 細粒砂含む しまりややあり 粘性あり
- SD42
- 18. 7.5Y3/2 オリーブ黒色土 しまりややあり 粘性あり
 - 19. 7.5Y4/1 灰色粘質土 細粒砂含む しまりややあり 粘性あり

C区下層 SP3



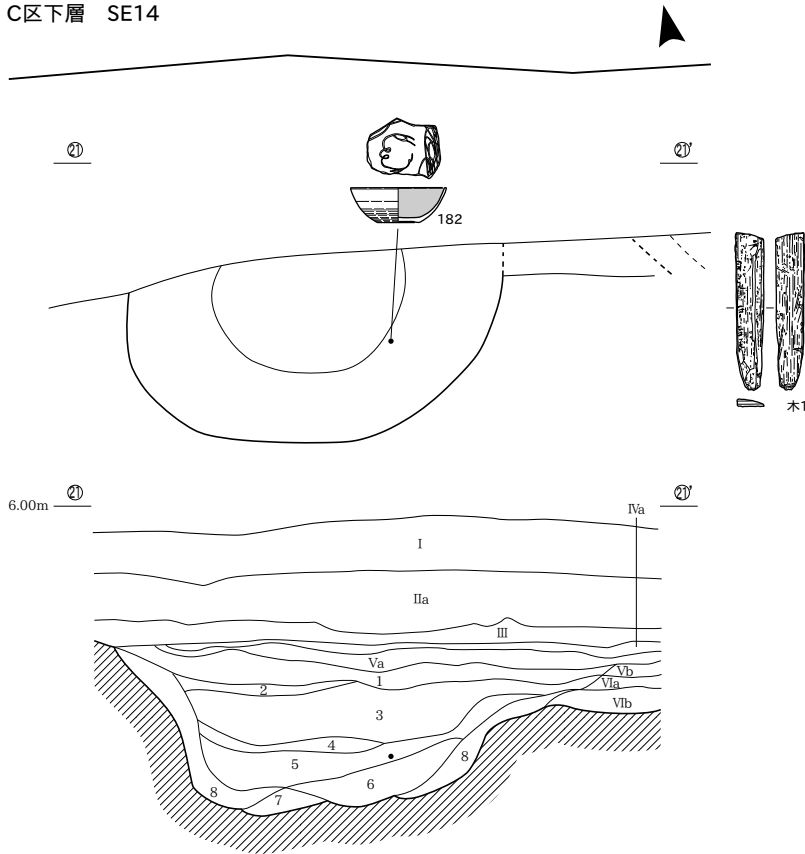
- SP3
- 1. 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト質土 しまりややあり 粘性あり
 - 2. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 腐植物含む しまりややあり 粘性あり

C区下層 SD54



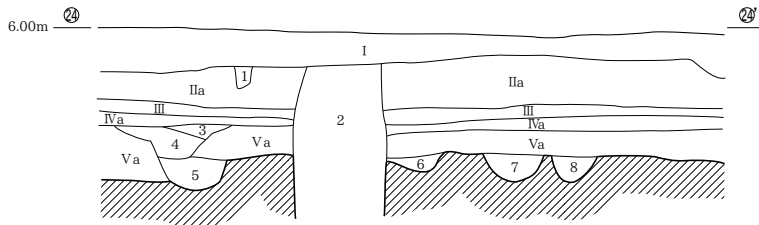
- SD54
- 1. 7.5Y5/1 灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 - 2. 7.5Y5/1 灰色粘質土 黒色土少量含む しまりあり 粘性あり
 - 3. 7.5Y5/1 灰色粘質土 黒色土少量含む しまりあり 粘性あり
 - 4. 7.5Y2/1 黒色土 しまりあり 粘性なし

C区下層 SE14



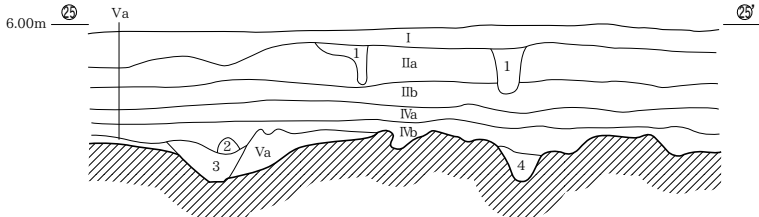
- SE14
1. 7.5YR1.7/1 黒色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 2. 7.5YR1.7/1 黒色粘質土 灰色粘質土との混合層 しまりややあり 粘性あり
 3. 7.5YR1.7/1 黒色粘質土 白色砂粒 (1mm) を少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 4. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 灰色砂質ブロック少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 5. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 灰色砂質ブロック少量含む しまりややあり 粘性あり
 6. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性あり
 7. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 6層に比べややぼそぼそする 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 8. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 黒褐色粘土ブロック含む しまりあり 粘性あり

C区下層 SD5・SD9~11



- SD5・SD9~11
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり 中世ビット
 2. 中世の井戸
 3. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 腐植物含む しまりあり 粘性あり
 4. 2.5Y2/1 黒色粘質土 腐植物、炭化物含む しまりややあり 粘性あり
- SD5
5. 2.5YR6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
- SD9
6. 2.5YR6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
- SD10
7. 2.5GY6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
- SD11
8. 2.5GY6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり

C区下層 SD19



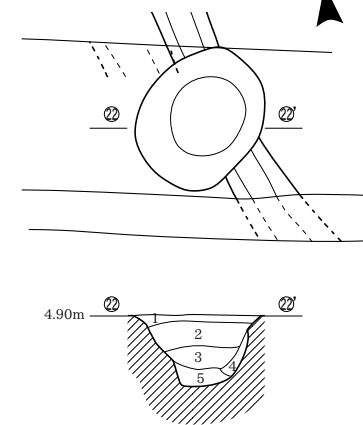
- SD19
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり 中世ビット
 2. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 しまりあり 粘性あり
- SD19覆土
3. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性あり
 4. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性あり

0 SD5・SD9~11・SD19 (1:60) 3m

基本土層

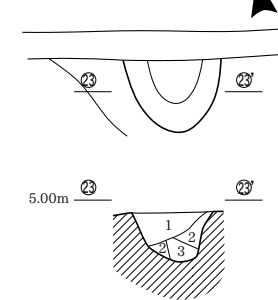
- I. 耕作土
- IIa. 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性あり
- IIb. 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 II a層よりやや暗い しまりあり 粘性あり
- III. 7.5YR2/1 黒褐色粘土 しまりあり 粘性あり
- IVa. 7.5YR3/1 黒色粘質土 しまりややあり 粘性あり
- IVb. 2.5Y2/1 黒色粘質土 腐植物含む しまりややあり 粘性あり
- Va. 7.5YR2/1 黒色粘質土 灰色砂質ブロックを少量含む しまりややあり 粘性あり
- Vb. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
- VIa. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 黒褐色粘質土との混合層 しまりあり 粘性あり
- VIb. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 黒褐色粘土ブロック含む しまりあり 粘性あり

C区下層 SK18



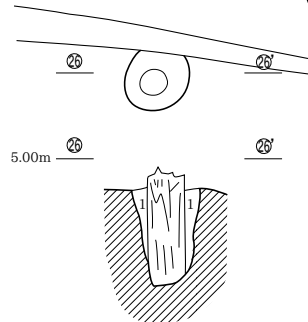
- SK18
1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 2. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 腐植物多量に含む 灰粘土ブロック少量含む しまりややあり 粘性あり
 3. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 灰白色粘質土との混合層 しまりあり 粘性あり
 4. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 灰白色粘質土との混合層 3層に同じだが、しまり、粘性ともに強い しまりあり 粘性あり
 5. 2.5Y2/1 黒色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり

C区下層 SK21



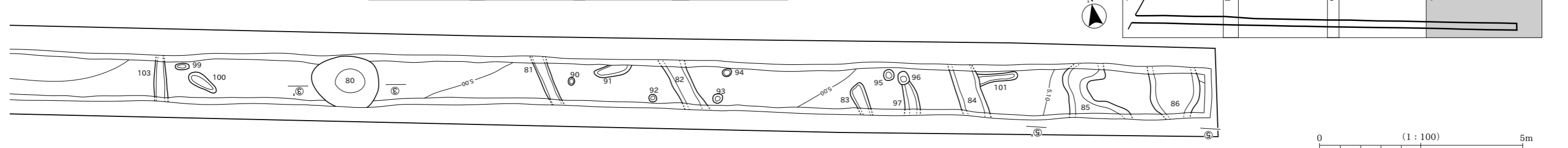
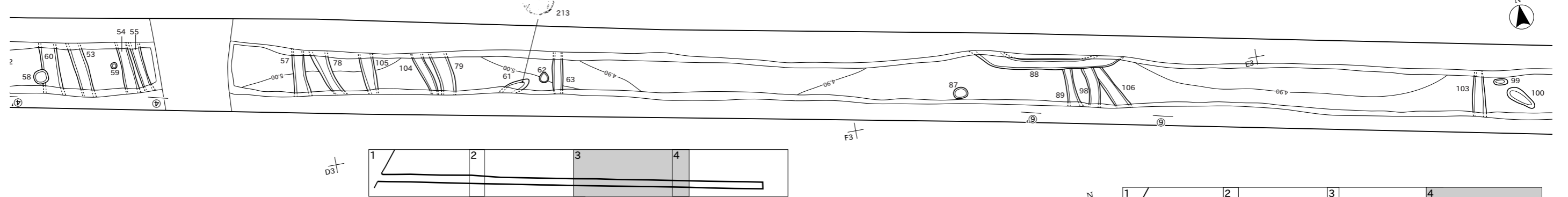
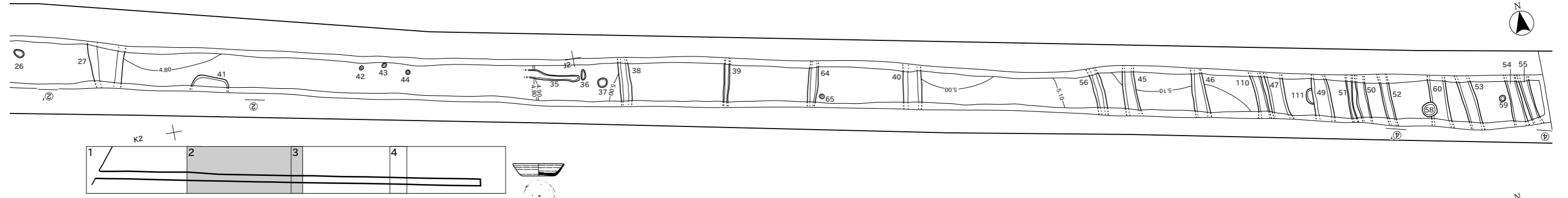
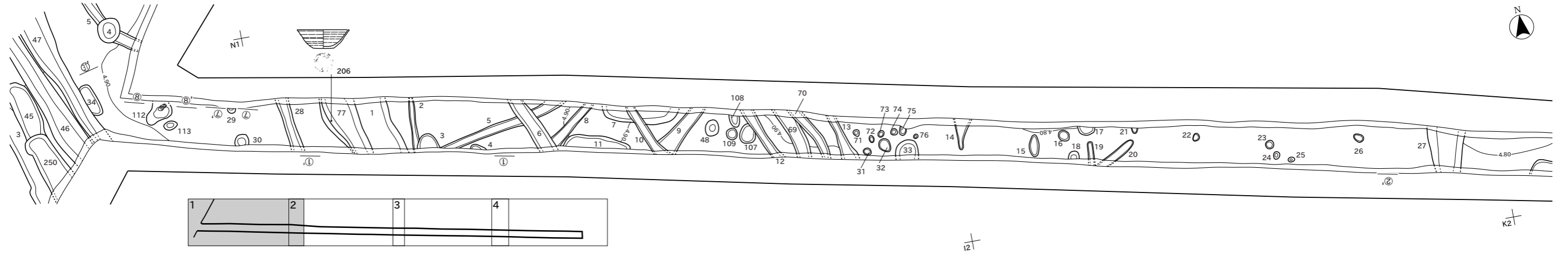
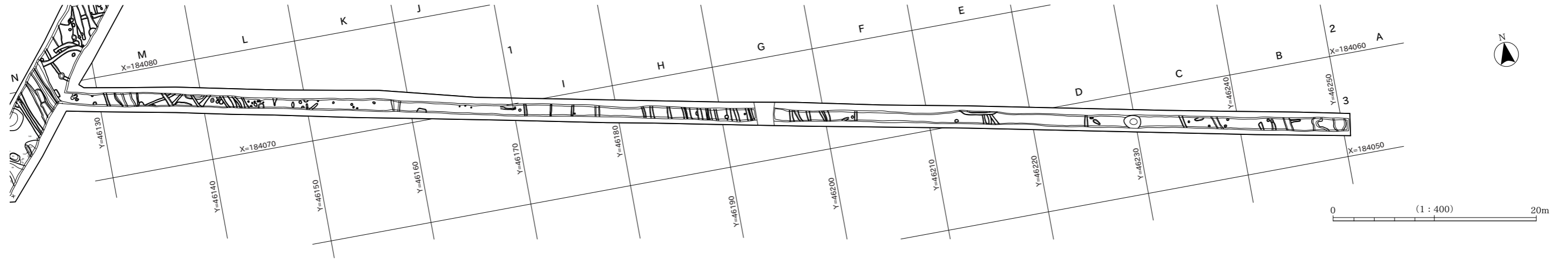
- SK21
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 2. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性あり
 3. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 2層にブロック状に入る しまりあり 粘性あり

C区下層 SP22

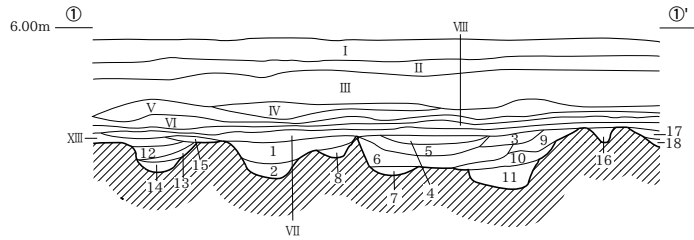


- SP22
1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 砂質強い しまりあり 粘性ややあり

0 (1:40) 2m

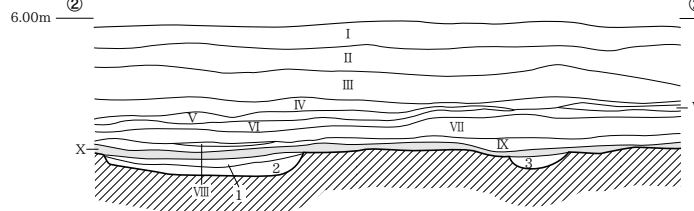


D区 SK3・SD1・SD2・SD77・SP4

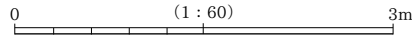


- 基本土層
- I. 耕作土
 - II. 10YR4/1 褐色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - III. 5GY7/1 明オリーブ灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - IV. 5GY7/1 明オリーブ灰色粘質土 暗灰色粘質土を多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - V. 10YR2/1 黒色腐植物層 しまりあり 粘性ややあり
 - VI. 10YR3/2 黒褐色腐植物層 V層より粘性強い しまりややあり 粘性ややあり
 - VII. 2.5Y5/2 暗灰黄色腐植物層 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - VIII. 7.5GY8/1 明緑灰色粘質土 暗灰色粘質土を含む しまりあり 粘性ややあり
 - IX. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - X. 5PB3/1 暗青灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり (遺物包含層)
 - XI. 10YR4/1 褐色粘質土 腐植物、炭化物を多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - XII. N3/0 暗灰色粘質土 地山ブロック、炭化物含む しまりあり 粘性ややあり (遺物包含層)
 - XIII. N6/0 灰色粘質土 炭化物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- SK3
- 1. N6/0 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2. N3/0 暗灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- SD1
- 3. N6/0 灰色粘質土 地山をブロック状に少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 4. N3/0 暗灰色粘質土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 5. N3/0 暗灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 6. N3/0 暗灰色粘質土 地山をブロック状に少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- SD2
- 8. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘性ややあり
- SD77
- 9. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 10. N6/0 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 11. N3/0 暗灰色粘質土 地山ブロック、炭化物含む しまりあり 粘性ややあり
- SP4
- 12. N6/0 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 13. 10YR2/1 黒色炭層 しまりなし 粘性ややあり
 - 14. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘性ややあり
- 他遺構
- 15. N6/0 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 16. N3/0 暗灰色粘質土 地山ブロック含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 17. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック状に少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 18. N3/0 暗灰色粘質土 地山ブロック含む しまりややあり 粘性ややあり

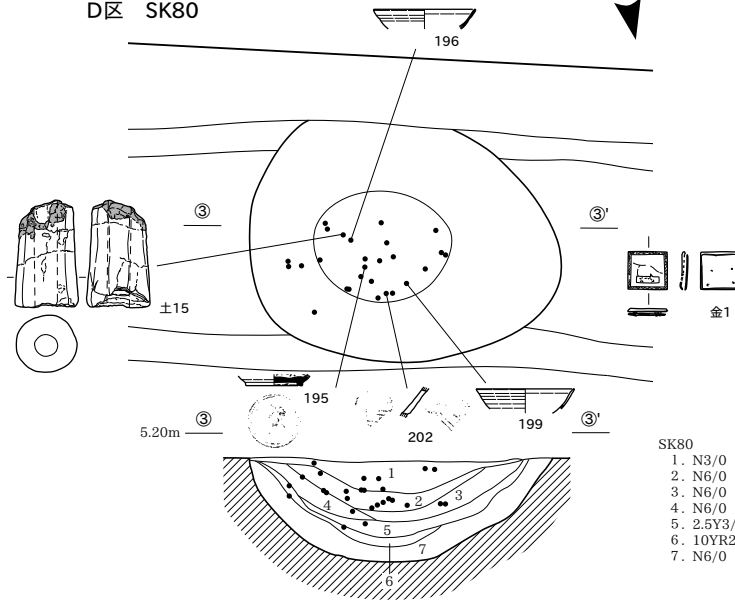
D区 SK41・SD27



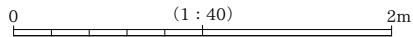
- SK41
- 1. N6/0 灰色粘質土 暗灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 2. N6/0 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD27
- 3. N3/0 暗灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり



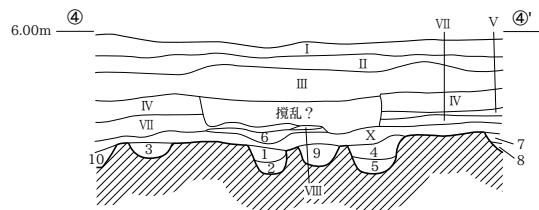
D区 SK80



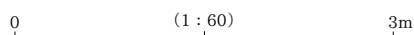
- SK80
- 1. N3/0 暗灰色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 2. N6/0 灰色粘質土と褐色粘質土の混合土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 3. N6/0 灰色粘質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 4. N6/0 灰色粘質土 地山をブロック状に少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 5. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりなし 粘性ややあり
 - 6. 10YR2/1 黒色炭層 しまりなし 粘性あり
 - 7. N6/0 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり



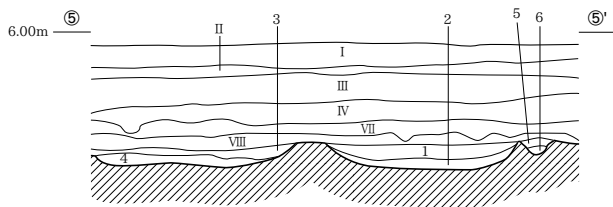
D区 SD53・SD54・SD60



- SD53
- 1. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり
- SD54
- 3. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- SD60
- 4. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 5. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 他遺構
- 6. 7.5Y2/1 黒色粘質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 7. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 8. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 9. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 10. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり

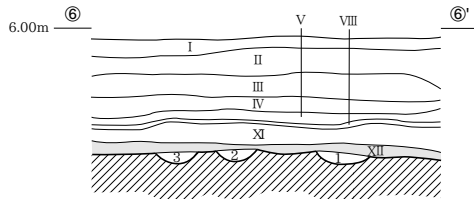


D区 SD85・SD86

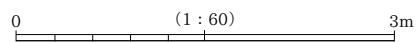


- SD85
 1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘性ややあり
- SD86
 3. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 4. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘性ややあり
- 他遺構
 5. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック状に少量含む しまりあり 粘性ややあり
 6. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘性ややあり

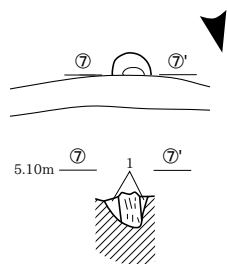
D区 SD89・SD98・SD106



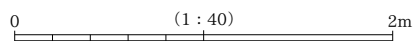
- SD89
 1. N3/0 暗灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘性ややあり
- SD98
 2. N3/0 暗灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘性ややあり
- SD106
 3. N6/0 灰色粘質土と地山の混合土 しまりあり 粘性ややあり



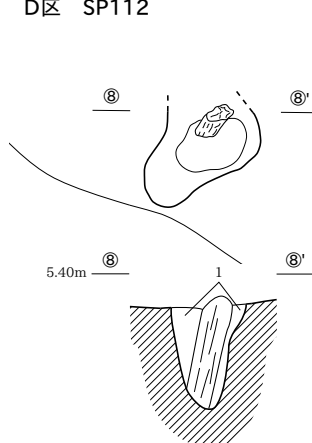
D区 SP29



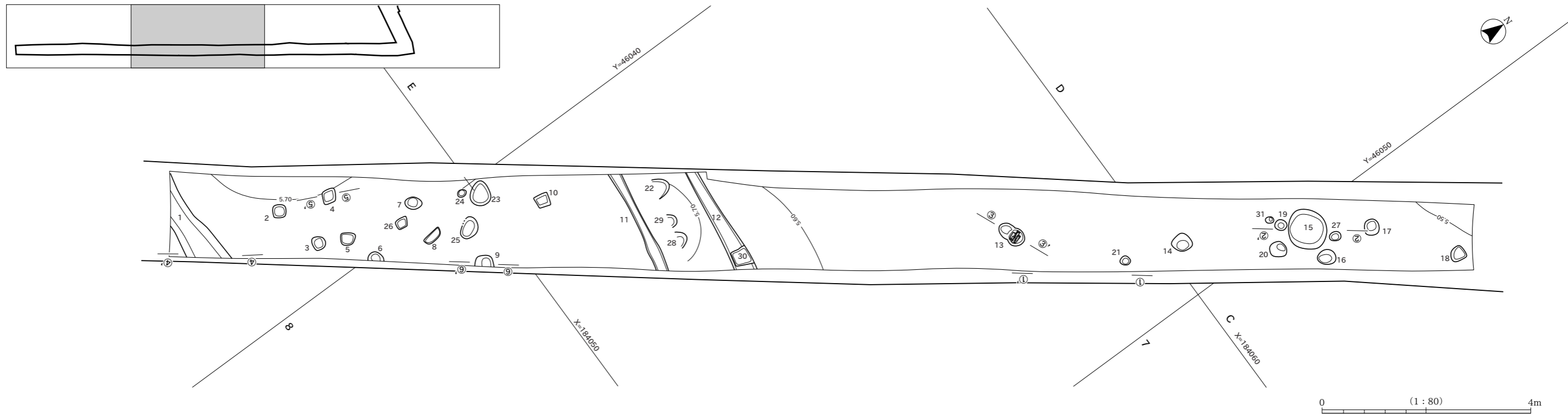
- SP29
 1. N6/0 灰色粘質土 地山ブロック状に少量含む しまりあり 粘性ややあり



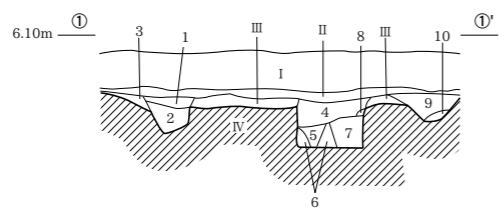
D区 SP112



- SP112
 1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

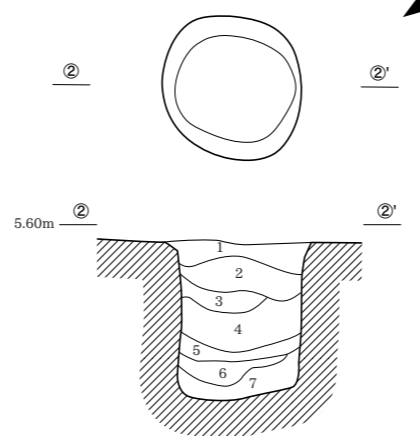


E区上層 基本土層



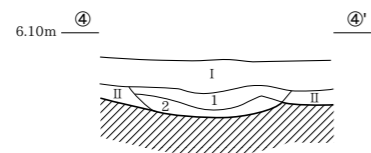
- 基本土層
- I. 耕作土
 - II. 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - III. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - IV. 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (地山、中世の遺構確認面)
- 他遺構
- 1. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 2層より若干砂っぽい しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 2.5Y6/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 3. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 地山ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 4. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 5. 2.5Y2/1 黒褐色砂質土 しまりややあり 粘性なし
 - 6. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 7. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 地山土含む しまりあり 粘性ややあり
 - 8. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 地山土含む しまりあり 粘性ややあり
 - 9. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 10. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 地山土含む しまりあり 粘性ややあり

E区上層 SE15



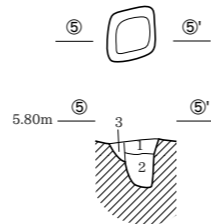
- SE15
- 1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 褐色含む しまりあり 粘性あり
 - 2. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 - 3. N6/0 灰色粘質土 非常に均質 しまりあり 粘性あり
 - 4. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性あり
 - 5. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 しまりややあり 粘性あり
 - 6. N4/0 灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 - 7. 2.5Y3/1 黒褐色砂質土 腐植物多量に含む しまりなし 粘性あり

E区上層 SD1



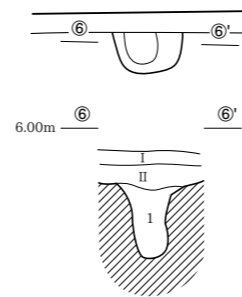
- SD1
- 1. 2.5Y6/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 2.5Y6/1 灰黄色粘質土 地山土含む しまりあり 粘性ややあり

E区上層 SP4



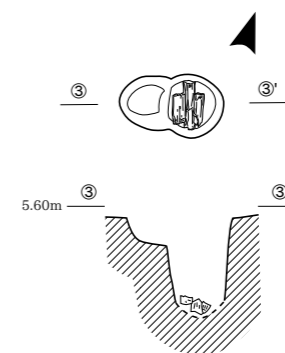
- SP4
- 1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 (1層よりやや暗い) しまりあり 粘性ややあり
 - 3. 2.5Y7/1 灰白色粘質土と1層の混合層 しまりあり 粘性ややあり

E区上層 SP9

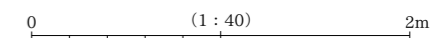
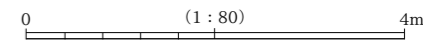


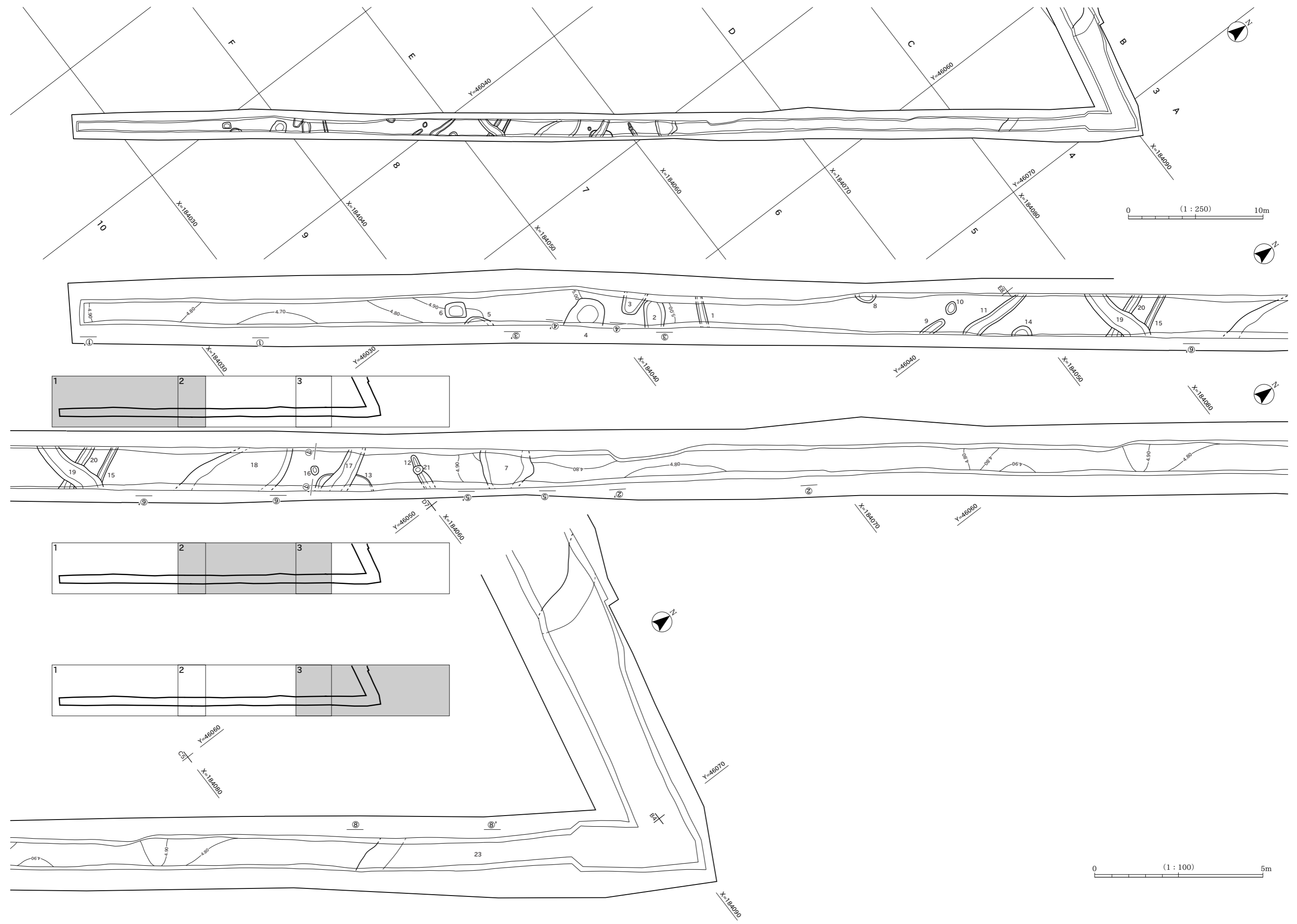
- SP9
- 1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

E区上層 SP13

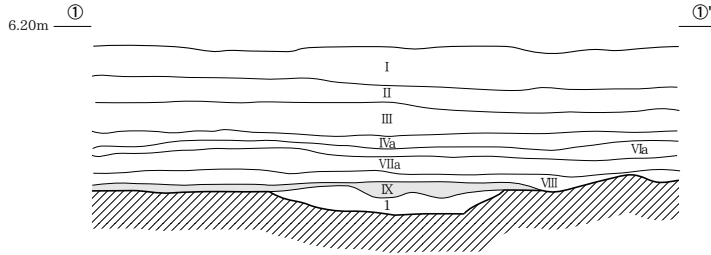


- SP13
- 1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり





E区下層 基本土層1



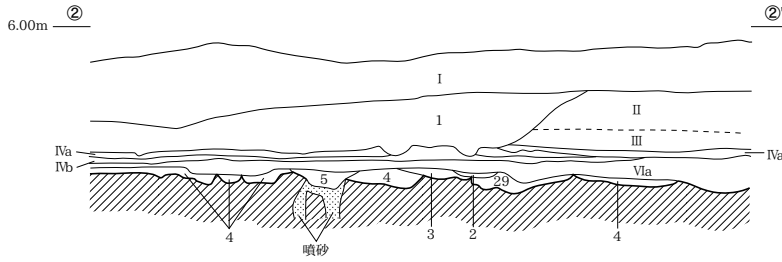
基本土層1

- I. 耕作土
- II. 2.5Y8/4 淡黄色粘質土 しまりあり 粘性あり
- III. 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 II層より粘性が強い しまりあり 粘性あり
- IVa. 7.5Y6/1 灰色粘質土 黒褐色粘質土、腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- IVb. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- V. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- VIa. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- VIb. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- VIIa. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- VIIb. 7.5YR2/2 黒褐色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- VIII. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 腐植物含む しまりややあり 粘性ややあり
- IX. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 灰色粘質土ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり (遺物包含層)

遺構

- I. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性ややあり (溝の覆土)

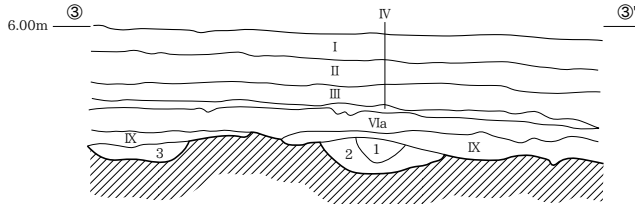
E区下層 基本土層2



基本土層2

- 1. 7.5YR6/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (中世以降の自然流路の覆土か)
- 2. 7.5YR4/3 褐色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり (遺構覆土)
- 3. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 灰色粘質土との混合層 しまりあり 粘性ややあり (遺構覆土)
- 4. 7.5YR6/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (遺構覆土)
- 5. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (遺構覆土)

E区下層 SK4・SD2

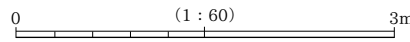


SK4

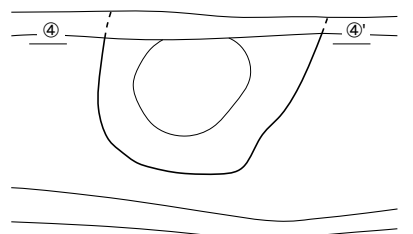
- 1. 7.5YR2/1 黒色粘質土 灰色粘質土ブロック、腐植物含む しまりあり 粘性ややあり
- 2. 7.5YR6/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

SD2

- 3. 7.5YR1.7/1 黒色粘質土 しまりなし 粘性ややあり

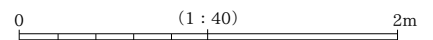


E区下層 SK4

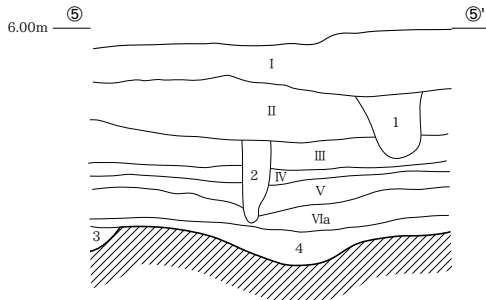


SK4

- 1. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- 2. 2.5Y2/1 黒色粘質土 炭層に近く、やや砂っぽい しまりややあり 粘性ややあり
- 3. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 灰色粘質土ブロック含む しまりあり 粘性ややあり
- 4. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土と灰黄色粘質土ブロックの混合層 しまりあり 粘性ややあり
- 5. 2.5Y2/1 黒色粘質土 炭層に近い 薄く線状に入る しまりややあり 粘性ややあり
- 6. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- 7. 2.5Y2/1 黒色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- 8. 2.5Y2/1 黒色粘質土と灰色粘質土ブロックの混合層 しまりあり 粘性ややあり
- 9. 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり



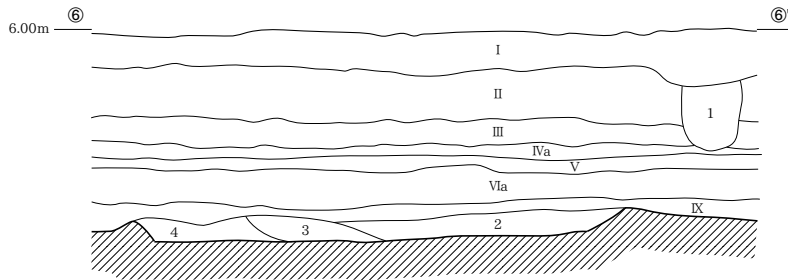
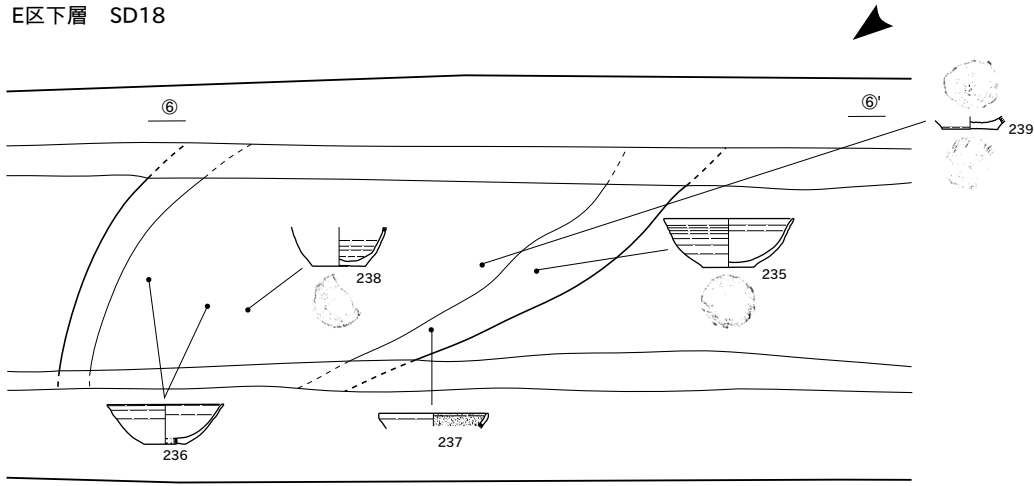
E区下層 SD7



SD7

- 1. 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (中世の遺構覆土)
- 2. 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (中世の遺構覆土)
- 3. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- 4. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 灰色粘質土ブロック含む しまりあり 粘性ややあり (SD7覆土)

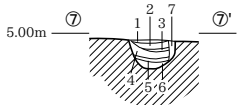
E区下層 SD18



SD18

- 1. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (中世の遺構覆土)
- 2. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 灰色粘土ブロック含む しまりあり 粘性ややあり (SD18覆土)
- 3. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (SD18覆土)
- 4. 7.5Y6/1 灰色粘質土 黒褐色粘土少量含む しまりあり 粘性ややあり (SD18覆土)

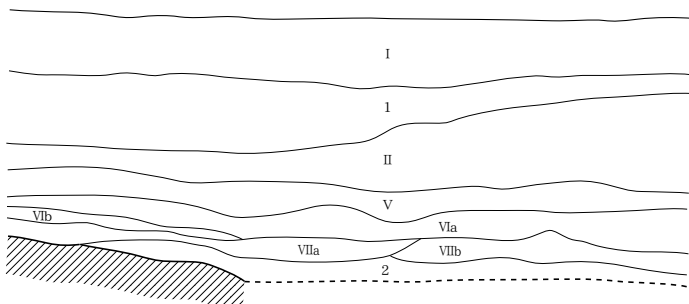
E区下層 SP16



SP16

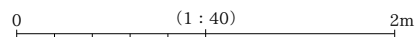
- 1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土と灰色粘土の混合層 しまりあり 粘性ややあり
- 2. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- 3. 2.5Y2/1 黒色粘質土 炭層に近い 薄く線状に入る しまりややあり 粘性ややあり
- 4. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- 5. 2.5Y2/1 黒色粘質土 炭層に近い 薄く線状に入る しまりややあり 粘性ややあり
- 6. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- 7. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

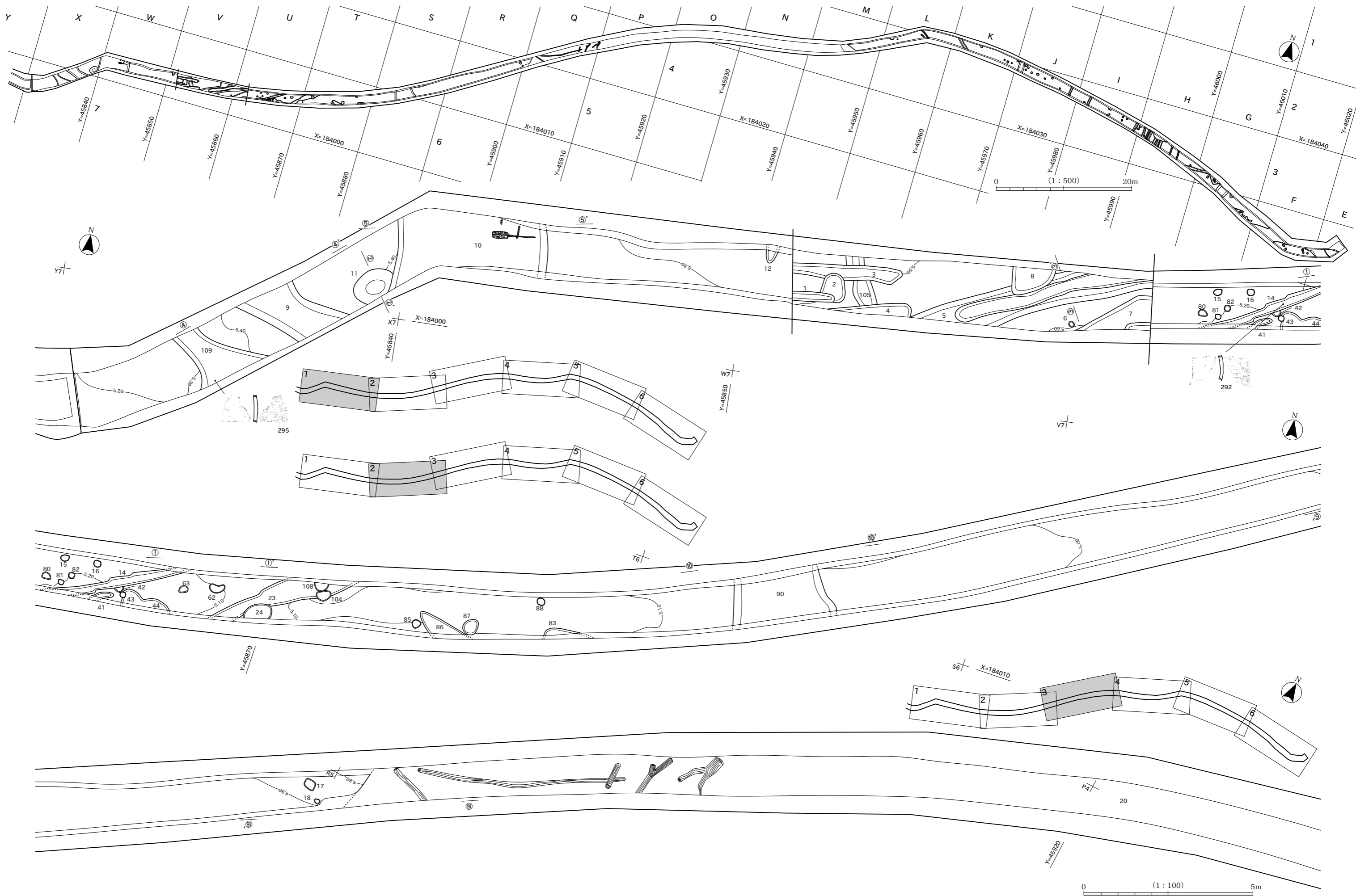
E区下層 河川23

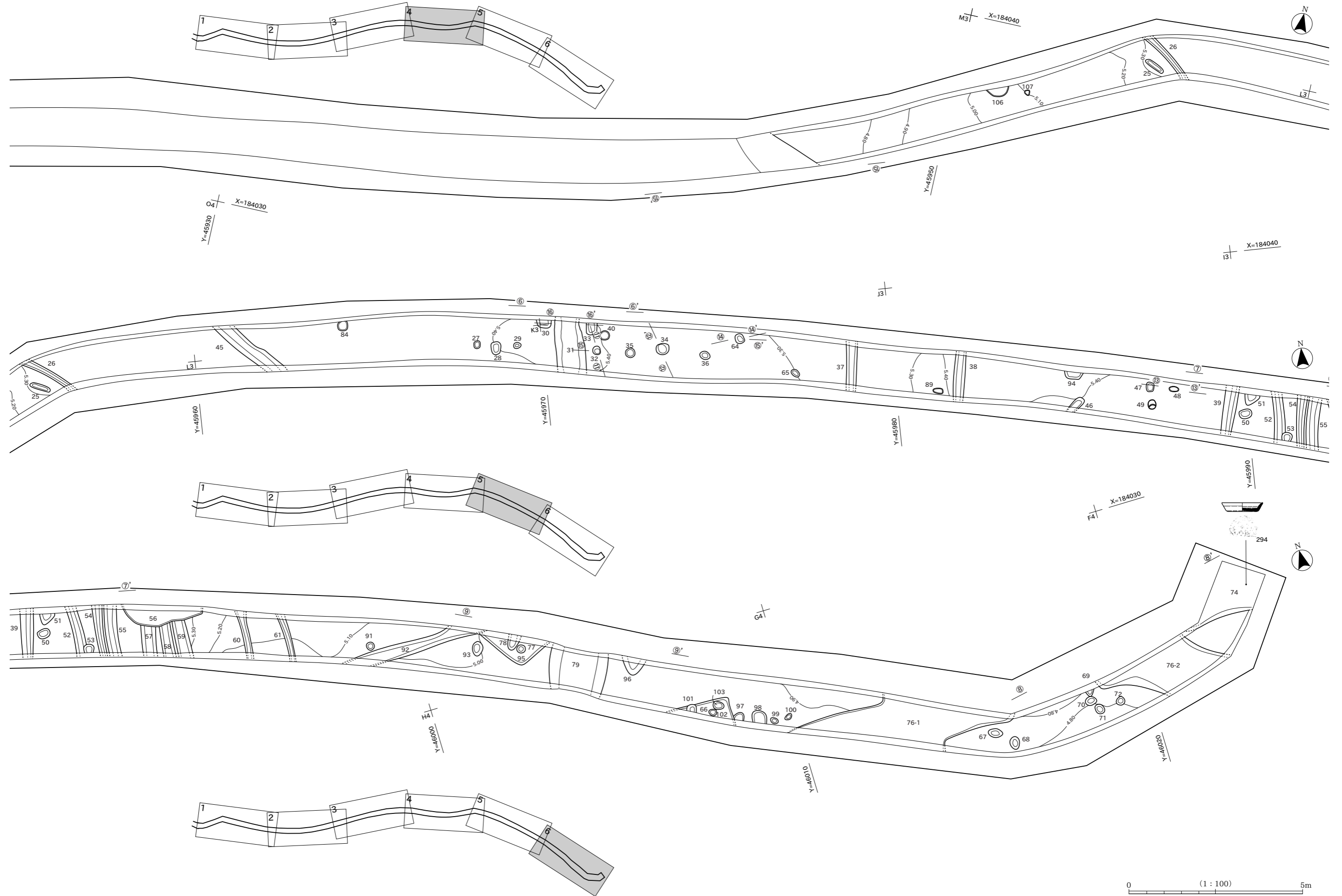


河川23

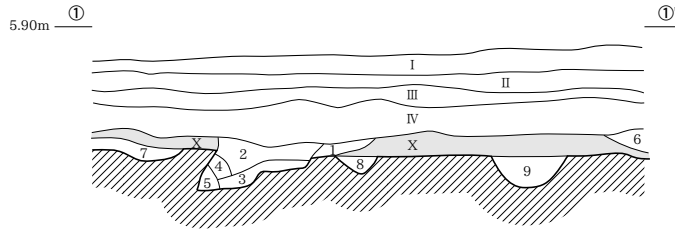
- 1. 7.5YR6/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (中世以降の自然流路の覆土か)
- 2. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 腐植物多量に含む しまりなし 粘性ややあり (河川23覆土)







F区 基本土層・SD14

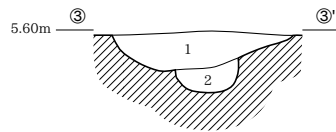


- SD14
- 7.5YR3/1 黒褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 7.5YR3/1 黒褐色土 炭化物、腐植物多量を含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 7.5YR3/1 黒褐色土 炭化物、腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 地山ブロック含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7.5YR3/1 黒褐色土 地山ブロック含む しまりややあり 粘性ややあり
- 他遺構
- 7.5YR5/1 褐灰色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 地山ブロック含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

基本土層

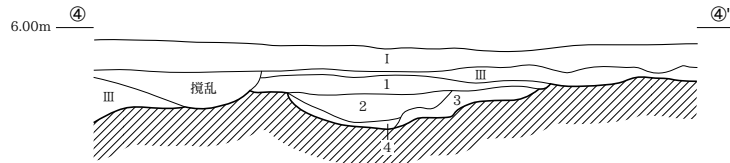
- 耕作土
- 10YR5/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- 7.5YR3/1 黒褐色土 腐植物多量を含む しまりややあり 粘性ややあり
- 2.5GY7/1 明オリーブ灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- 2.5Y5/2 明灰黄色粘質土 炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
- N3/ 暗灰色腐植物層 しまりややあり 粘性ややあり
- 7.5YR3/1 黒褐色腐植物層 しまりややあり 粘性ややあり
- 10YR6/6 明黄褐色粘質土 黒褐色粘質土含む しまりややあり 粘性ややあり
- 10YR6/2 灰黄褐色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 白色粒少量含む しまりあり 粘性ややあり (遺物包含層)
- 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 白色粒、炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり (遺物包含層)
- N6/ 灰色粘質土 白色粒少量含む しまりあり 粘性ややあり
- N6/ 灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

F区 SD5



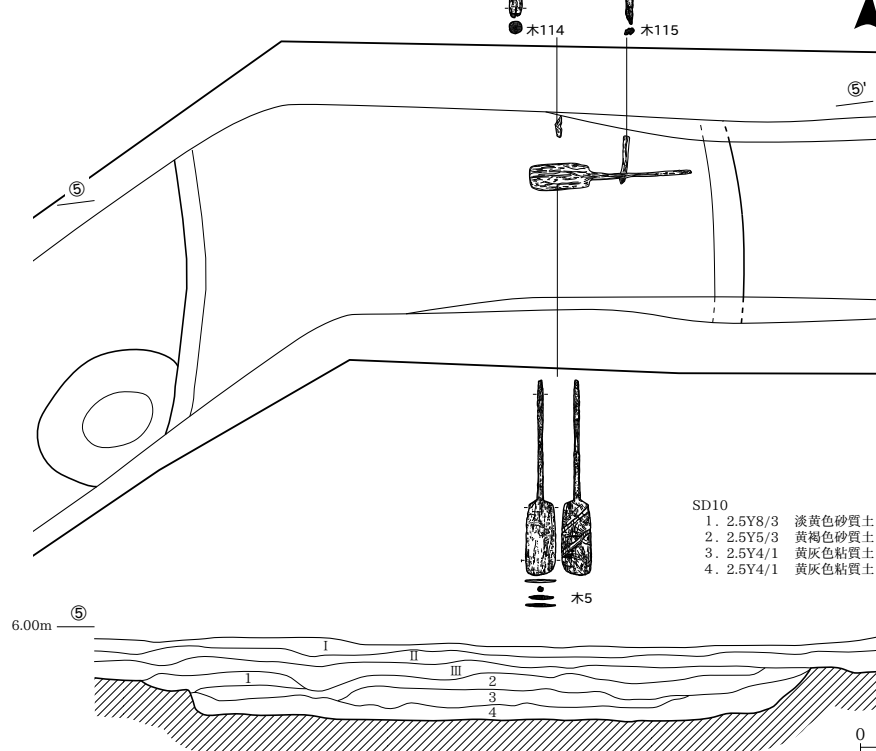
- SD5
- 10YR4/1 褐灰色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 灰白色粘質土をブロック状に少量含む しまりややあり 粘性ややあり

F区 SD9



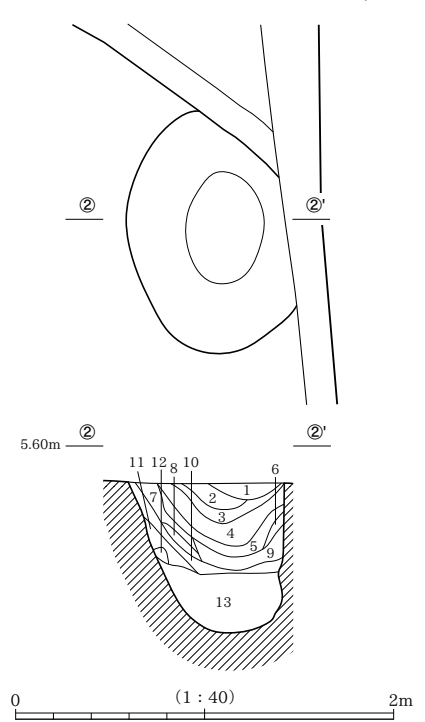
- SD9
- N3/ 暗灰色粘質土、青灰色粘質土、黄褐色砂質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり
 - 10YR3/2 黒褐色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり
 - 10YR3/2 黒褐色粘質土と灰色粘質土の混合層 地山ブロック少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 10YR3/2 黒褐色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり

F区 SD10



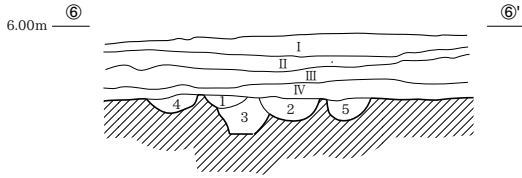
- SD10
- 2.5Y8/3 淡黄色砂質土 暗青灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y5/3 黄褐色砂質土 1層が混じる しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 淡黄色砂質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と2層の混合層 しまりややあり 粘性ややあり

F区 SK11



- SK11
- 2.5Y4/1 黄灰色砂質土 青灰色砂質土少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - N2/ 黒色炭層 地山ブロック含む しまりなし 粘性ややあり
 - 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 炭化物含む しまりなし 粘性ややあり
 - 2.5Y3/1 黒褐色腐植物層 しまりなし 粘性ややあり
 - 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 1層と灰色粘土の混合層 しまりあり 粘性ややあり
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 青灰色砂をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
 - N3/ 暗灰色腐植物層 しまりなし 粘性ややあり
 - 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 炭化物、腐植物少量含む しまりなし 粘性ややあり
 - N6/ 灰色粘質土 青灰色砂をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
 - N6/ 灰色粘質土 腐植物含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 5B6/1 青灰色粘質土と黄灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性ややあり

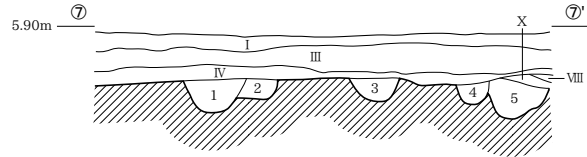
F区 SD31



SD31

1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 2. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロックの混合層 地山ブロック多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 3. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりややあり
- 他遺構
4. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 5. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック多量に含む しまりややあり 粘性ややあり

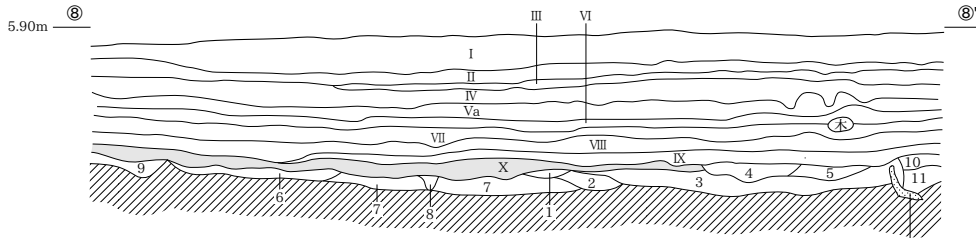
F区 SD39・SK51・SD52・SD54・SD55



SD39

1. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- SK51
2. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
- SD52
3. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD54
4. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- SD55
5. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり

F区 SD74・SD76・SP69



SD74

1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 地山含む しまりあり 粘性ややあり
2. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 炭化物含む しまりあり 粘性ややあり
3. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 地山含む しまりあり 粘性ややあり
4. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 褐灰色粘質土、炭化物、砂質土含む しまりあり 粘性ややあり
5. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 白色粒含む しまりあり 粘性ややあり

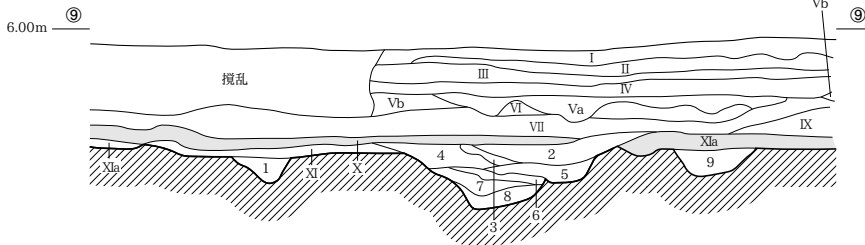
SD76

6. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 白色粒、炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
7. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
8. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック含む しまりあり 粘性ややあり

SP69

9. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 白色粒、炭化物含む しまりややあり 粘性ややあり
- 他遺構
10. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 白色粒少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 11. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 白色粒、地山土多量に含む しまりややあり 粘性ややあり

F区 SD78・SD79・SD96



SD78

1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり

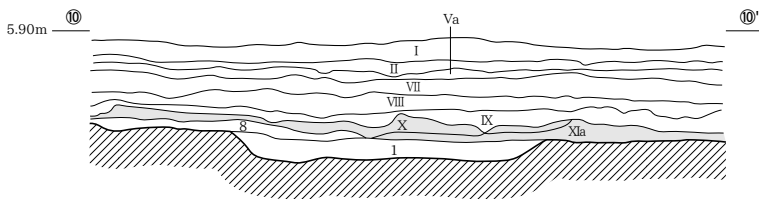
SD79

2. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
3. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
4. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
5. 2.5Y6/2 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
6. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
7. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
8. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

SD96

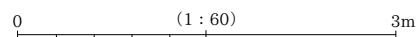
9. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり

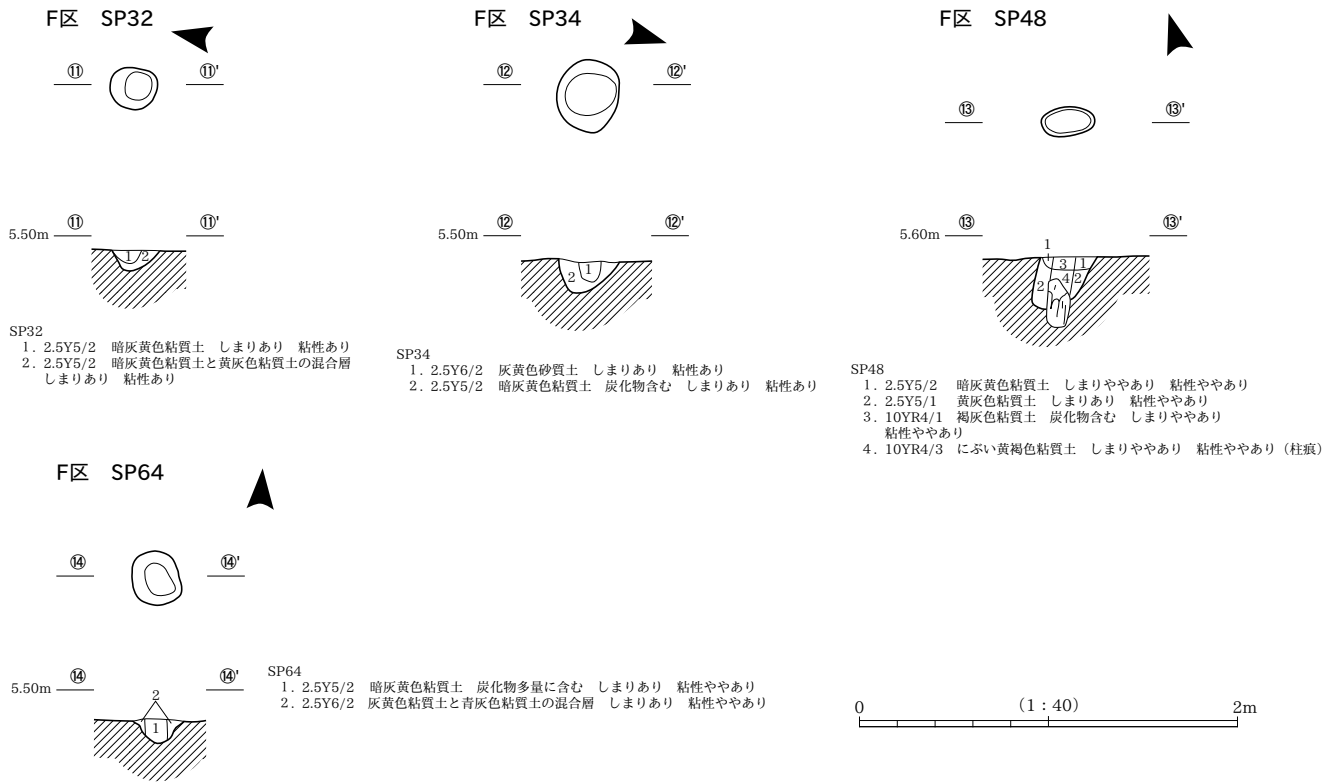
F区 SD90



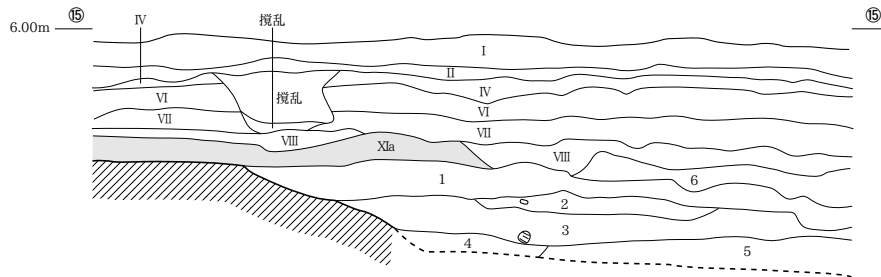
SD90

1. 5GY6/1 オリーブ灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

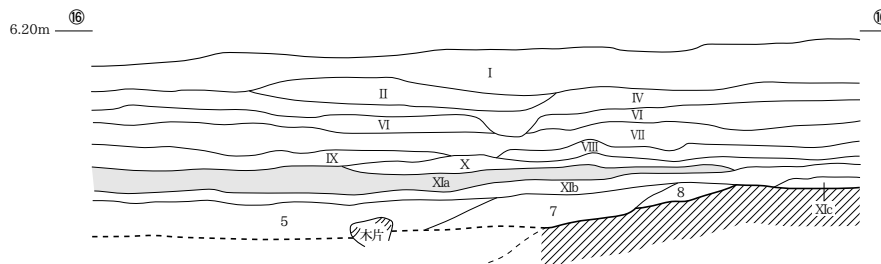




F区 河川20-1



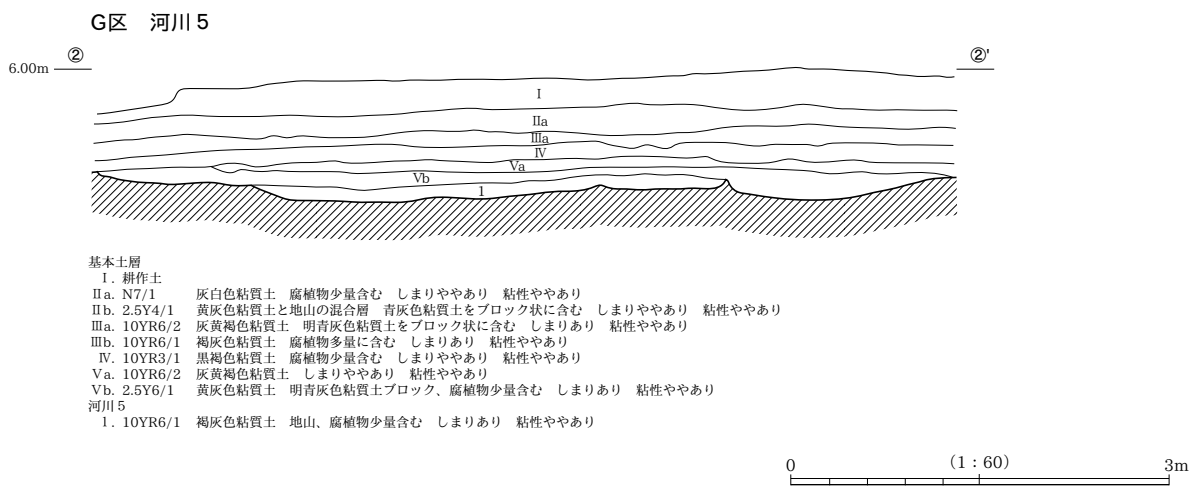
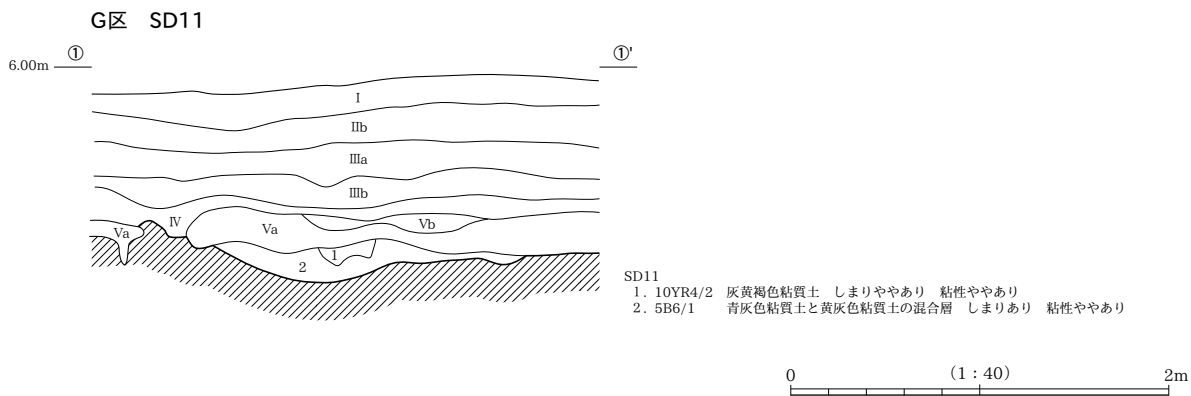
F区 河川20-2

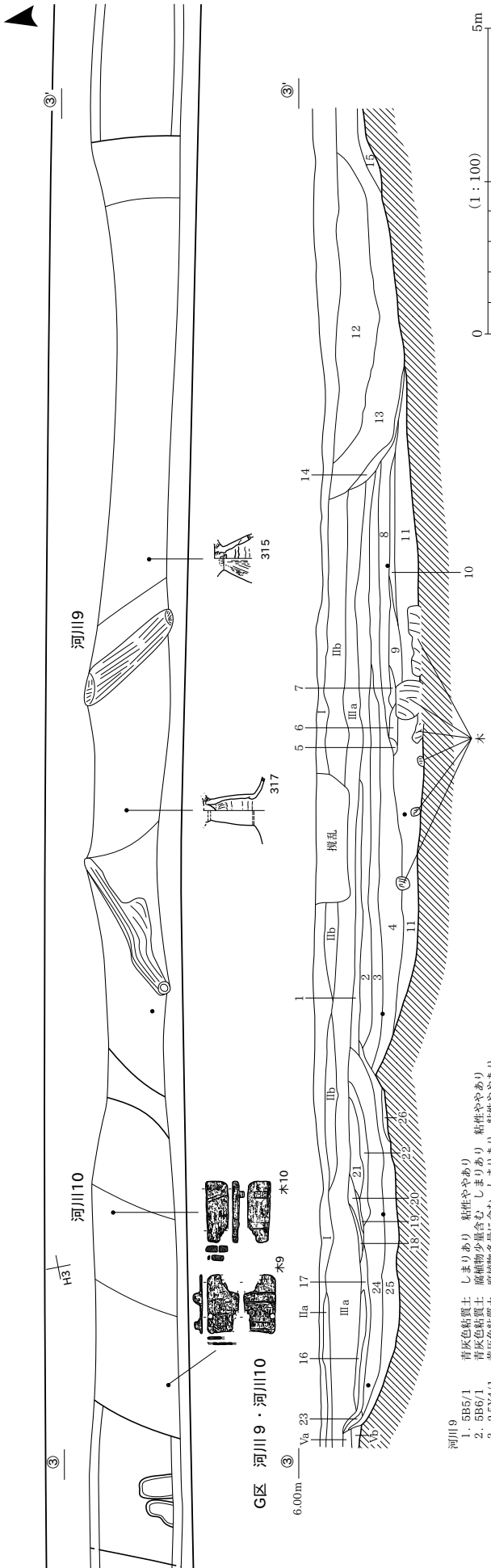


河川20

- 1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
- 2. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
- 3. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
- 4. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
- 5. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- 6. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- 7. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 8. N6/ 灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

0 (1:60) 3m





G区 河川9・河川10

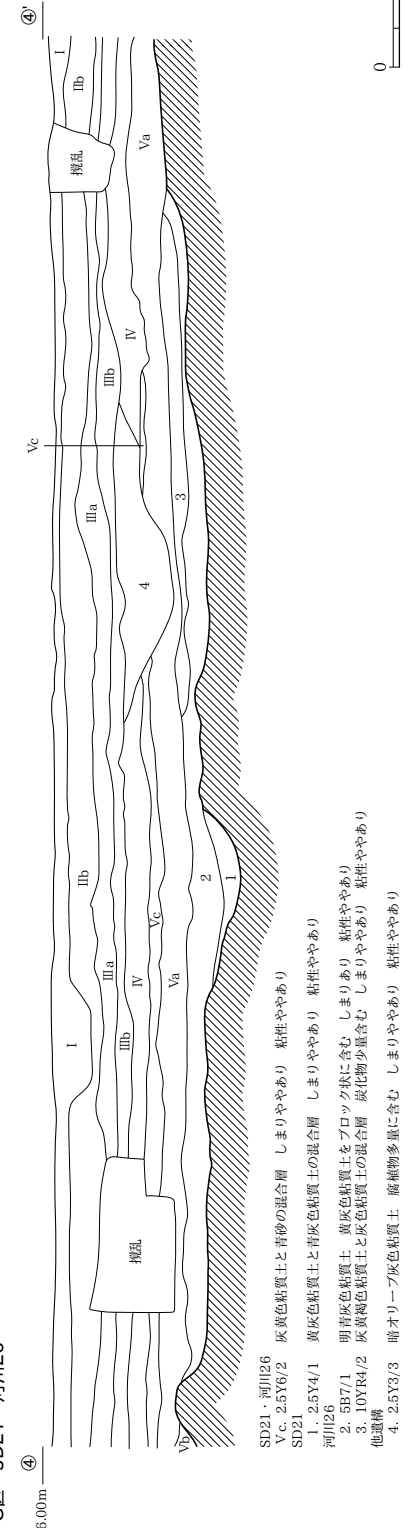
河川9

- 1. 5B5/1 青灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- 2. 5B6/1 青灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 3. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 4. 2.5Y7/2 黄灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 5. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と地山の混合層 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 6. 2.5Y8/3 黄灰色粘質土と地山の混合層 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 7. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり
- 8. 2.5Y4/2 黄灰色粘質土と地山の混合層 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 9. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山を含む しまりあり 粘性ややあり
- 10. 10YR6/1 黄灰色粘質土 地山を含む しまりあり 粘性ややあり
- 11. 5B7/1 明青灰色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
- 12. 5B7/1 灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 13. N5/ 灰色粘質土と地山の混合層 しまりあり 粘性ややあり
- 14. N5/ 黄灰色粘質土と地山の混合層 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- 15. 10YR6/1 黄灰色粘質土と地山の混合層 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり

- 16. 5B6/1 青灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- 17. 10YR3/1 黄灰色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- 18. 10YR3/1 黄灰色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- 19. 5B7/1 明青灰色粘質土 地山を少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 20. 2.5G1/6/1 オリーブ灰色粘質土 炭化物、腐植物少量を含む しまりあり 粘性ややあり
- 21. 2.5G1/6/1 オリーブ灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 22. N6/ 灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 23. N2/1 灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 24. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- 25. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 炭化物、地山を少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 26. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と地山の混合層 しまりややあり 粘性ややあり

0 5m (1:100)

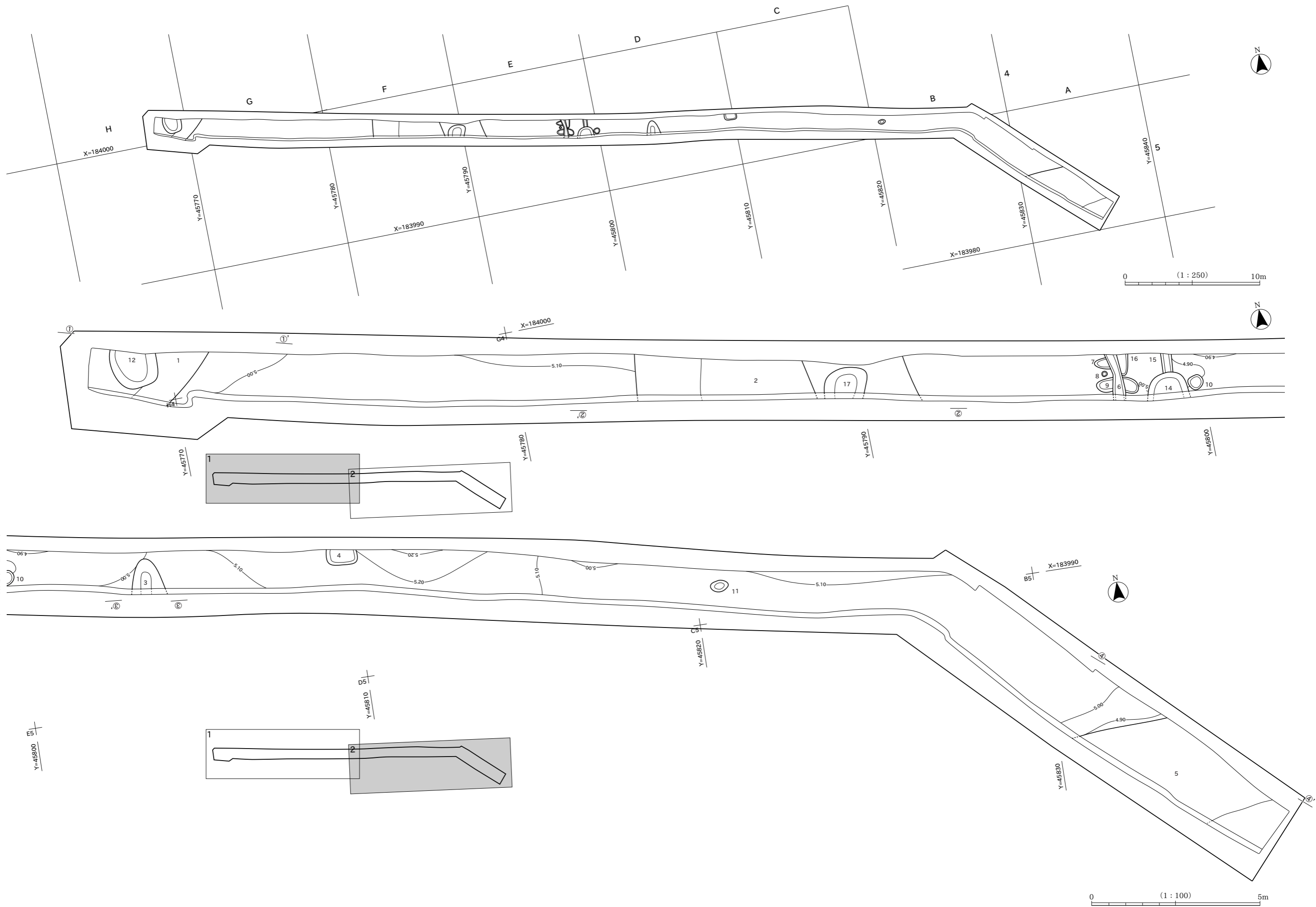
G区 SD21・河川26



SD21・河川26

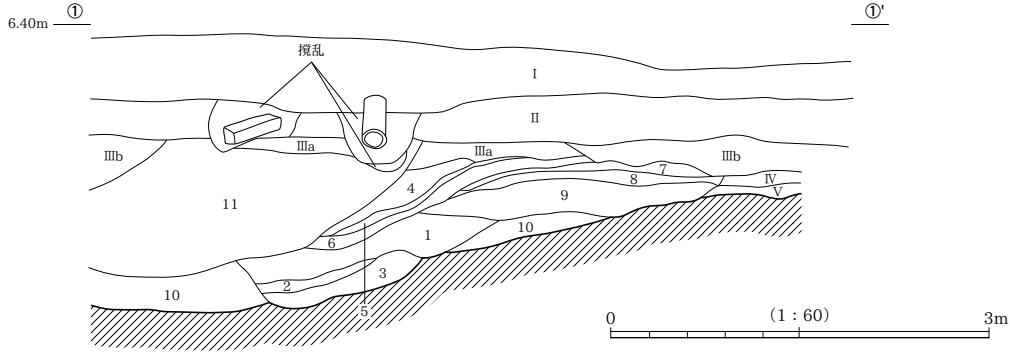
- Vc. 2.5Y6/2 灰黄色粘質土と青砂の混合層 しまりややあり 粘性ややあり
- SD21 1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と青灰色粘質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり
- 河川26 2. 5B7/1 明青灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
- 3. 10YR4/2 灰黄色粘質土と灰色粘質土の混合層 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- 他遺構 4. 2.5Y3/3 暗オリーブ灰色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり

0 3m (1:60)



0 (1:100) 5m

H区 SK12・河川1



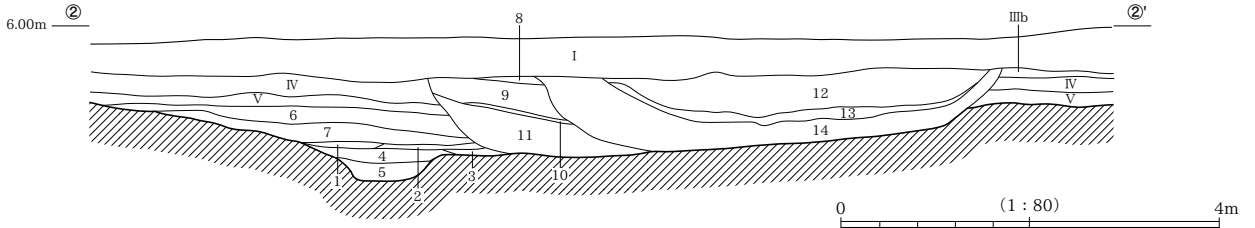
基本土層

- I. 耕作土・攪乱
- II. N7/1 灰白色粘質土 砂利含む しまりあり 粘性ややあり
- IIIa. 5B6/1 青灰色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- IIIb. 5B6/1 青灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
- IV. N5/ 灰粘質土 黄灰色粘質土を少量含む しまりあり 粘性ややあり
- V. 10YR4/4 褐色砂質土 地山をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
- VI. N3/ 暗灰色粘質土と褐灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性ややあり
- VII. 10YR5/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- VIII. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と褐灰色粘質土の混合層 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- IX. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- X. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 白色粒、地山をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり

SK12

- 1. 10YR4/1 褐灰色粘質土 地山土少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 青灰色粘質土を含む しまりあり 粘性ややあり
 - 3. 10YR4/1 褐灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 河川1
- 4. 5B4/1 暗青灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 5. 5B4/1 暗青灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 6. 5B6/1 青灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロック状に含む 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7. 5B4/1 暗青灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 8. N5/ 灰粘質土 黄灰色粘質土少量含む しまりあり 粘性ややあり
 - 9. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 10. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 腐植物少量含む 地山土含む しまりあり 粘性ややあり
 - 11. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり

H区 SK17・河川2



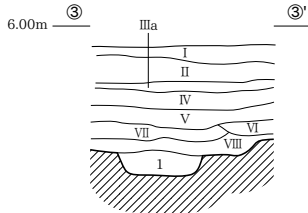
SK17

- 1. 2.5Y4/1 黄灰色砂質土 しまりあり 粘性ややあり
- 2. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 腐植物少量含む 地山土含む しまりあり 粘性ややあり
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 4. 10YR5/1 褐灰色粘質土 黄灰色砂質土を含む しまりあり 粘性ややあり
- 5. 10YR5/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

河川2

- 6. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 7. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 8. 5B6/1 青灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
- 9. N5/ 灰粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- 10. N5/ 灰粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- 11. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 12. 5B7/1 明青灰色粘質土 灰粘質土をブロック状に多量に含む しまりあり 粘性ややあり
- 13. 5B3/1 暗青灰色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- 14. 10YR4/1 褐灰色粘質土 地山土少量含む しまりあり 粘性ややあり

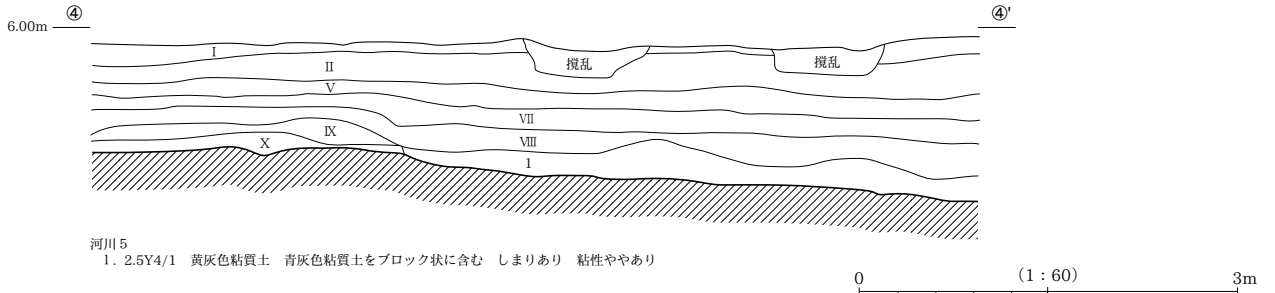
H区 SD3



SD3

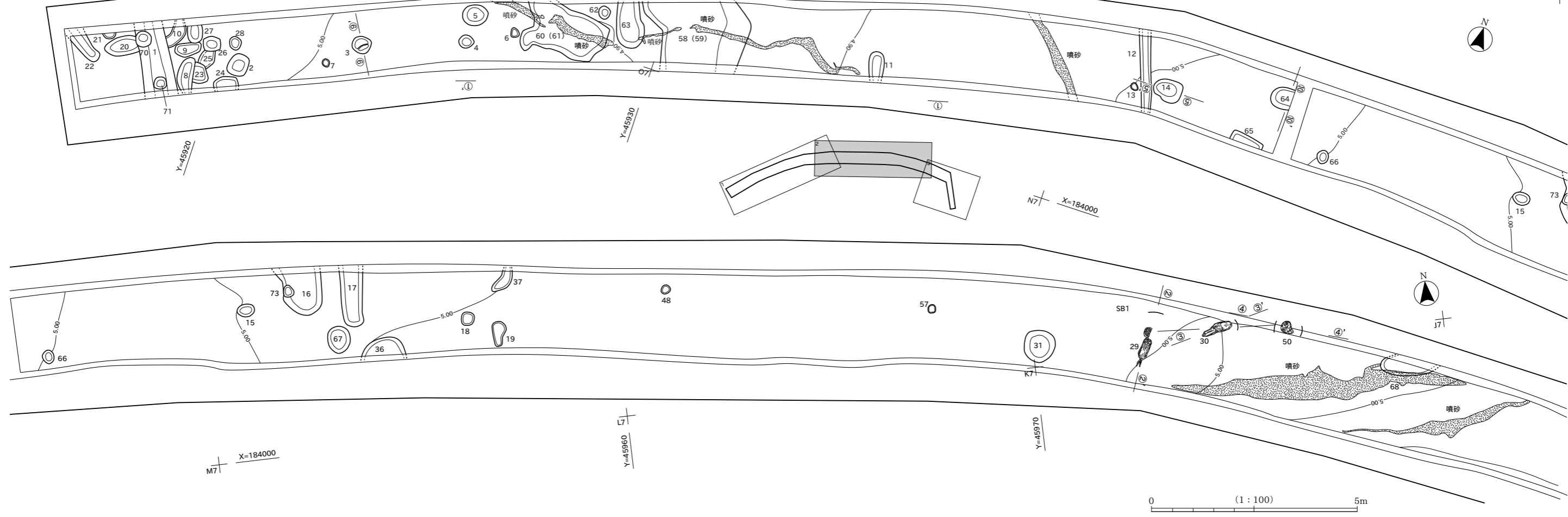
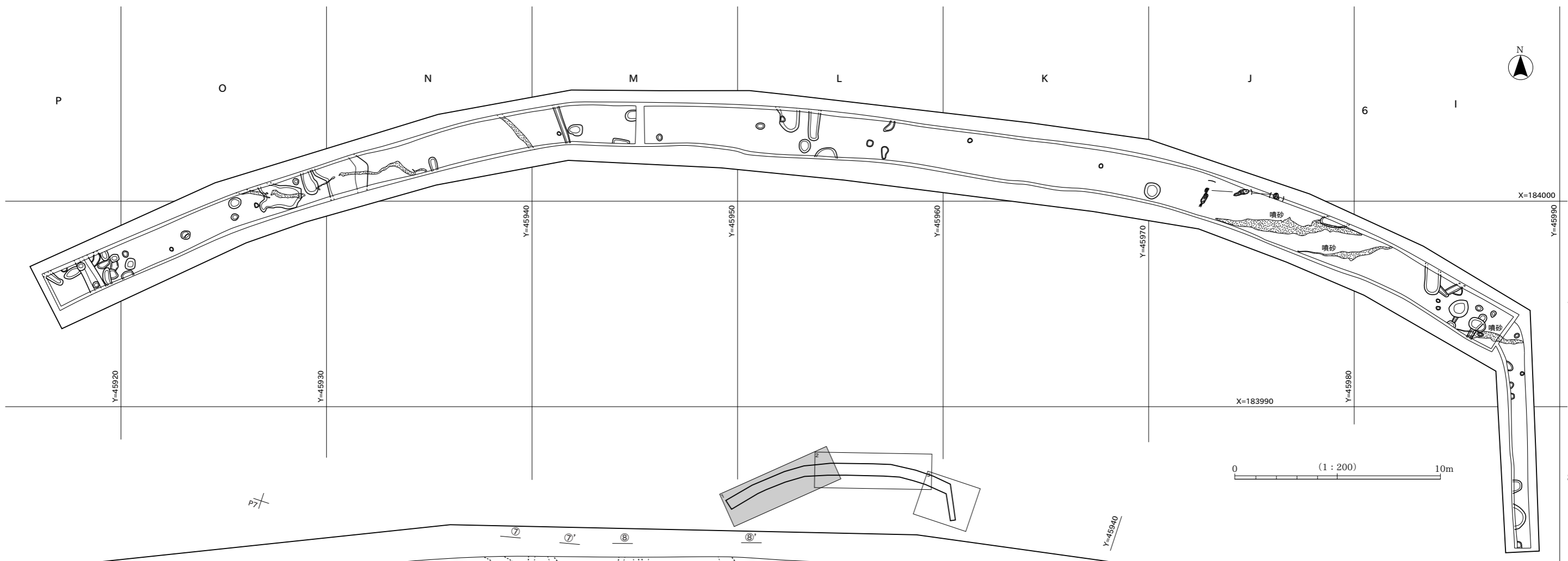
- 1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と褐灰色粘質土の混合層 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり

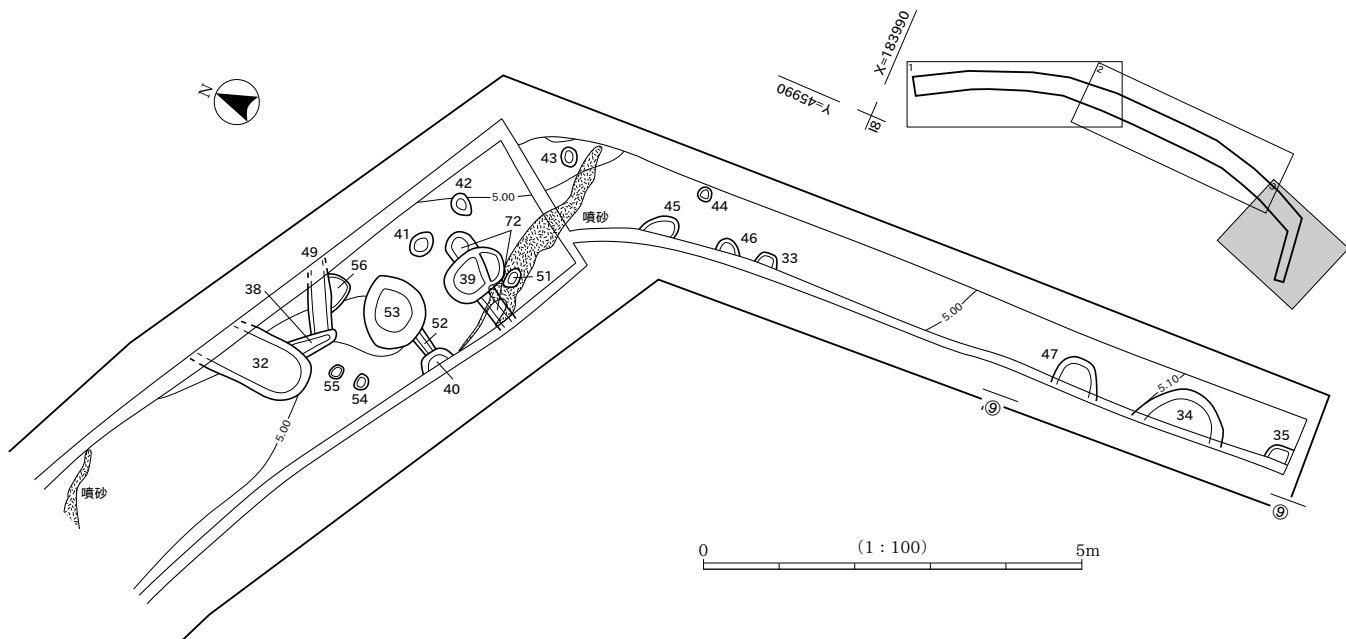
H区 河川5



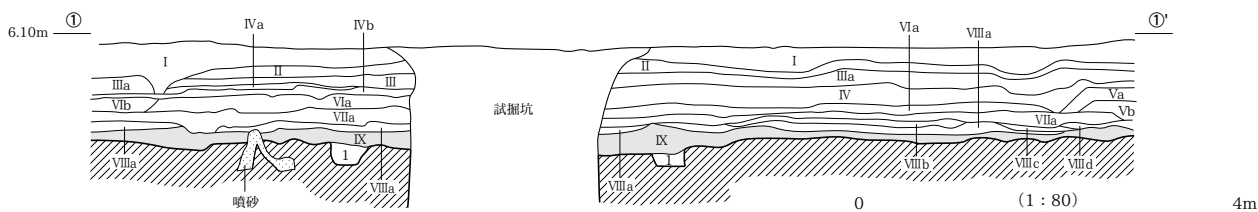
河川5

- 1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 青灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり





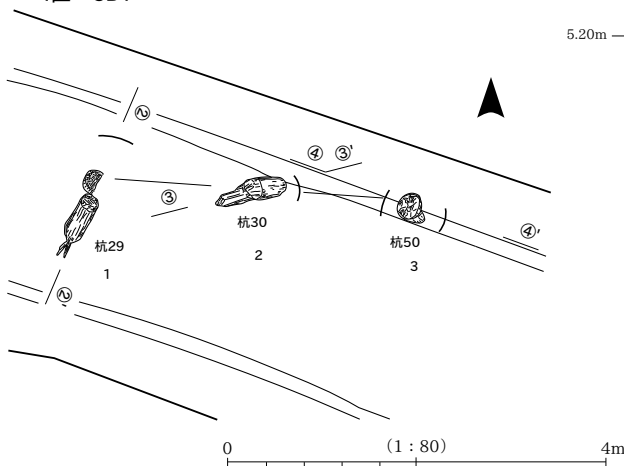
I区 基本土層



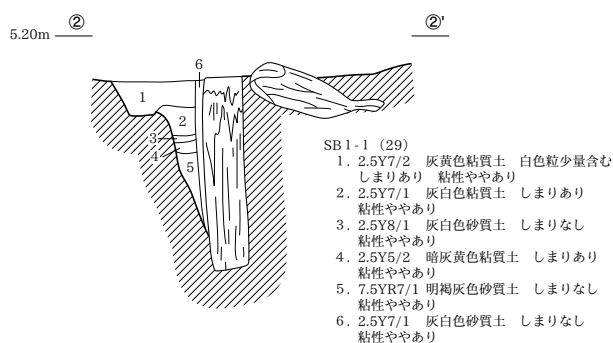
基本土層

- I. 耕作土
- II. 7.5YR/6 橙色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
- IIIa. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- IIIb. N6/0 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- IIIc. 2.5Y5/1 黄灰色砂質土 腐植物多量を含む しまりなし 粘性ややあり
- IVa. 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- IVb. 10YR3/3 暗褐色粘質土 炭化物多量を含む しまりややあり 粘性ややあり
- Va. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 腐植物多量を含む しまりややあり 粘性ややあり
- Vb. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
- VIa. 2.5Y3/1 黒褐色腐植物層 しまりややあり 粘性ややあり
- VIb. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 腐植物多量を含む しまりなし 粘性ややあり
- VIIa. 10YR3/4 暗褐色砂質土 しまりなし 粘性ややあり
- VIIb. 2.5Y7/1 明オリーブ灰色粘質土 灰黄褐色腐植物多量を含む しまりややあり 粘性ややあり
- VIIc. 2.5Y6/2 灰黄色砂質土 しまりややあり 粘性ややあり
- VIIb. 10YR3/4 暗褐色砂質土 黄灰色砂含む しまりややあり 粘性ややあり
- VIIc. 10YR3/4 暗褐色砂質土 黄灰色砂含む しまりややあり 粘性ややあり
- VIIb. 10YR3/4 暗褐色砂質土 径2~3の砂粒多量を含む しまりややあり 粘性ややあり
- IX. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり (遺物包含層)
- 1. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック少量含む しまりややあり 粘性ややあり

I区 SB1

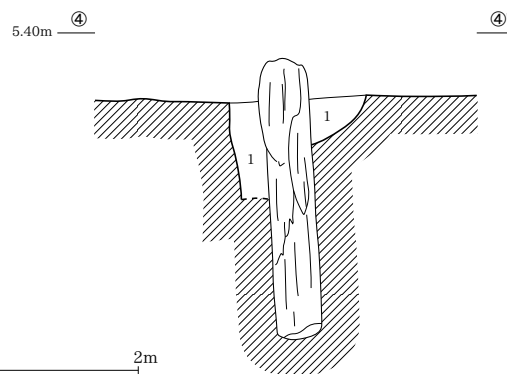


I区 SB1-1 (29)

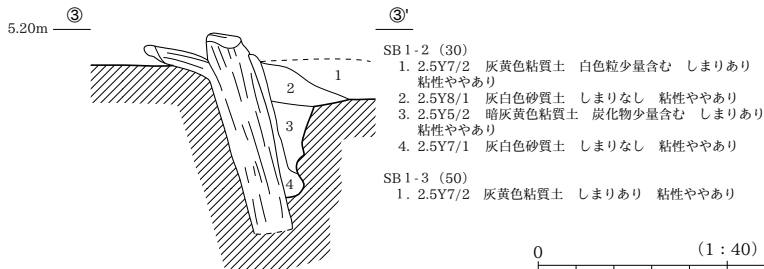


- SB1-1 (29)
1. 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 白色粒少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 3. 2.5Y8/1 灰白色砂質土 しまりなし 粘性ややあり
 4. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 5. 7.5YR7/1 明褐色砂質土 しまりなし 粘性ややあり
 6. 2.5Y7/1 灰白色砂質土 しまりなし 粘性ややあり

I区 SB1-3 (50)

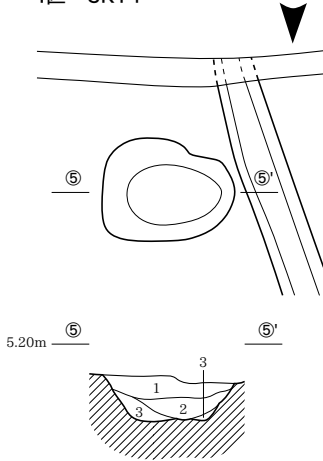


I区 SB1-2 (30)



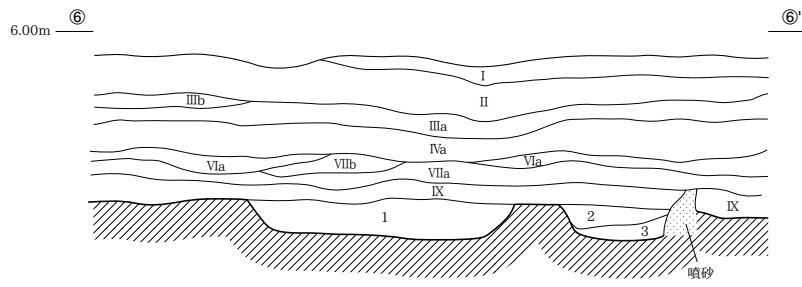
- SB1-2 (30)
1. 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 白色粒少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 2.5Y8/1 灰白色砂質土 しまりなし 粘性ややあり
 3. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 4. 2.5Y7/1 灰白色砂質土 しまりなし 粘性ややあり
- SB1-3 (50)
1. 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

I区 SK14



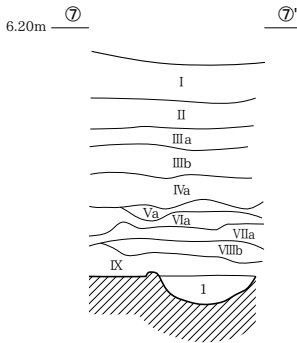
- SK14
1. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 2. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 青灰色粘土ブロック含む しまりややあり 粘性ややあり
 3. 5B6/1 青灰色粘質土 2層少量含む しまりややあり 粘性ややあり

I区 SK34・SK47



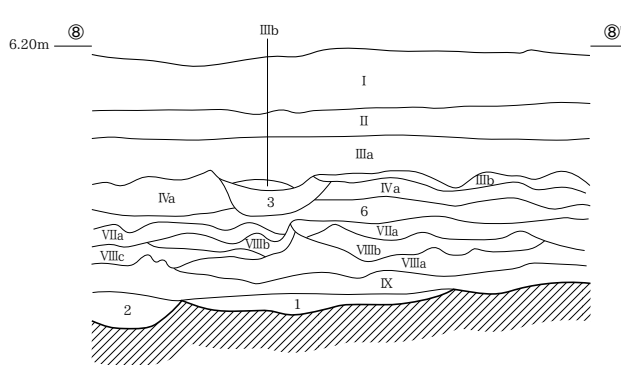
- SK34
1. 5B7/1 明青灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
- SK47
2. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック、炭化物含む しまりあり 粘性ややあり
 3. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山ブロック、炭化物含む (2層より多い) しまりあり 粘性ややあり

I区 SX60



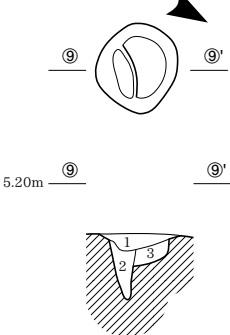
- SX60
1. 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり

I区 SD58・SD63



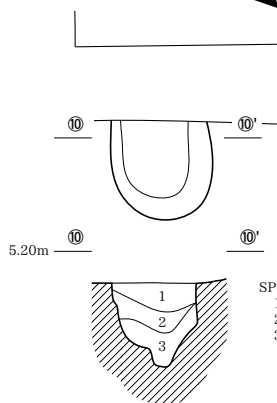
- SD58
1. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 地山土を斑に含む しまりややあり 粘性ややあり
- SD63
2. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
- 他遺構
3. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり

I区 SP3

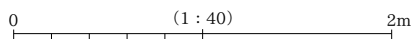


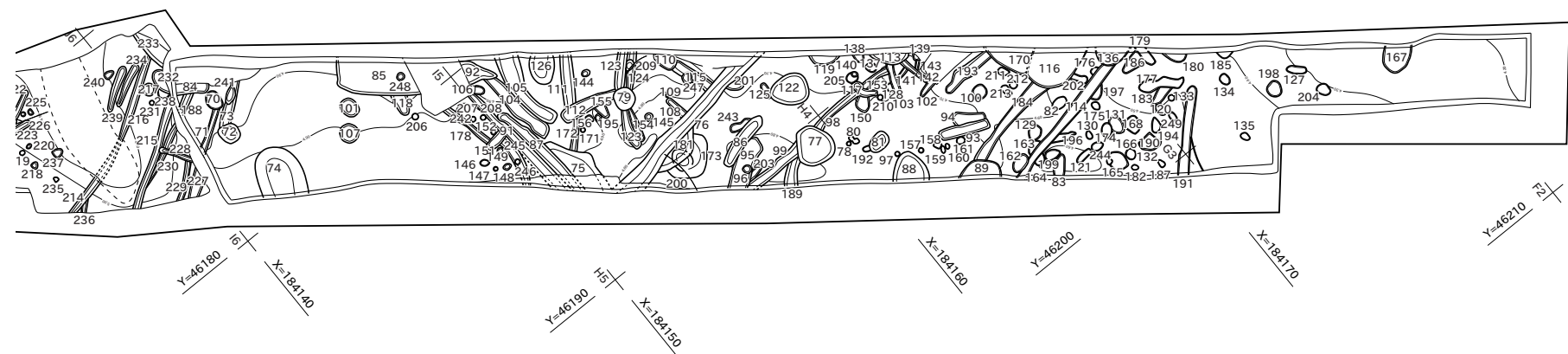
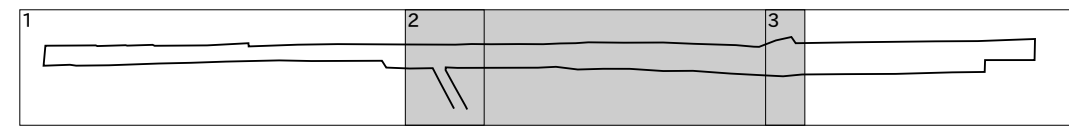
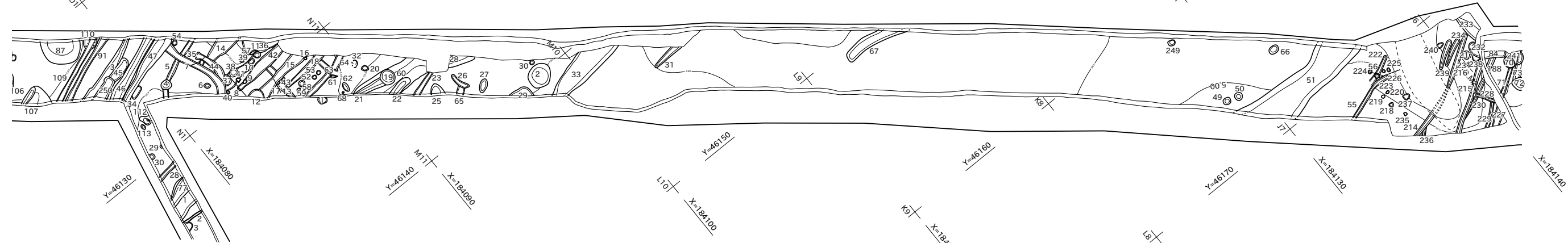
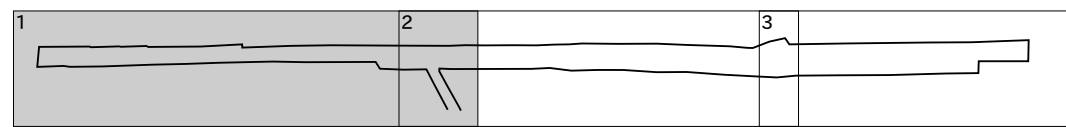
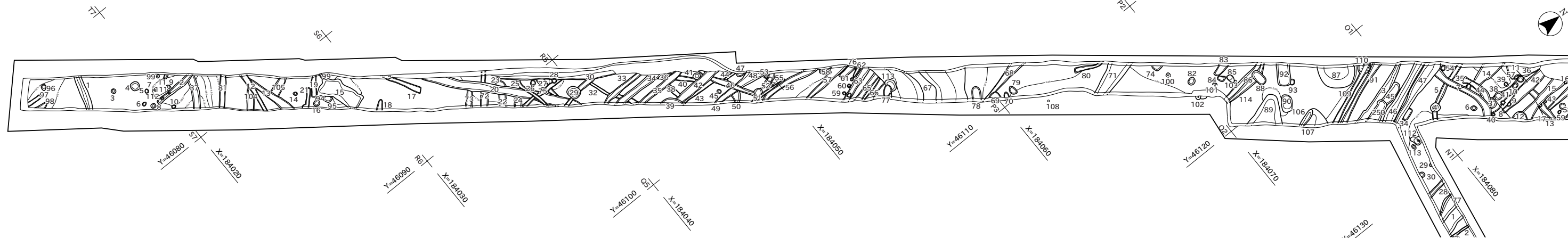
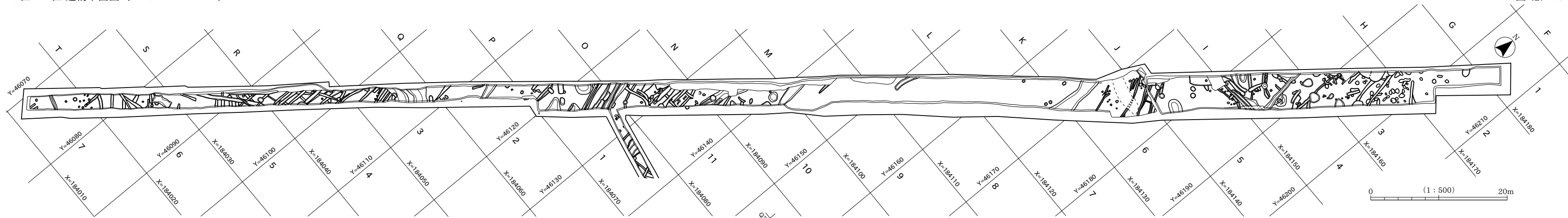
- SP3
1. 5PB6/1 青灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 2.5Y6/1 青灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 3. 5PB6/1 青灰色粘質土と地山の混合層 しまりあり 粘性ややあり

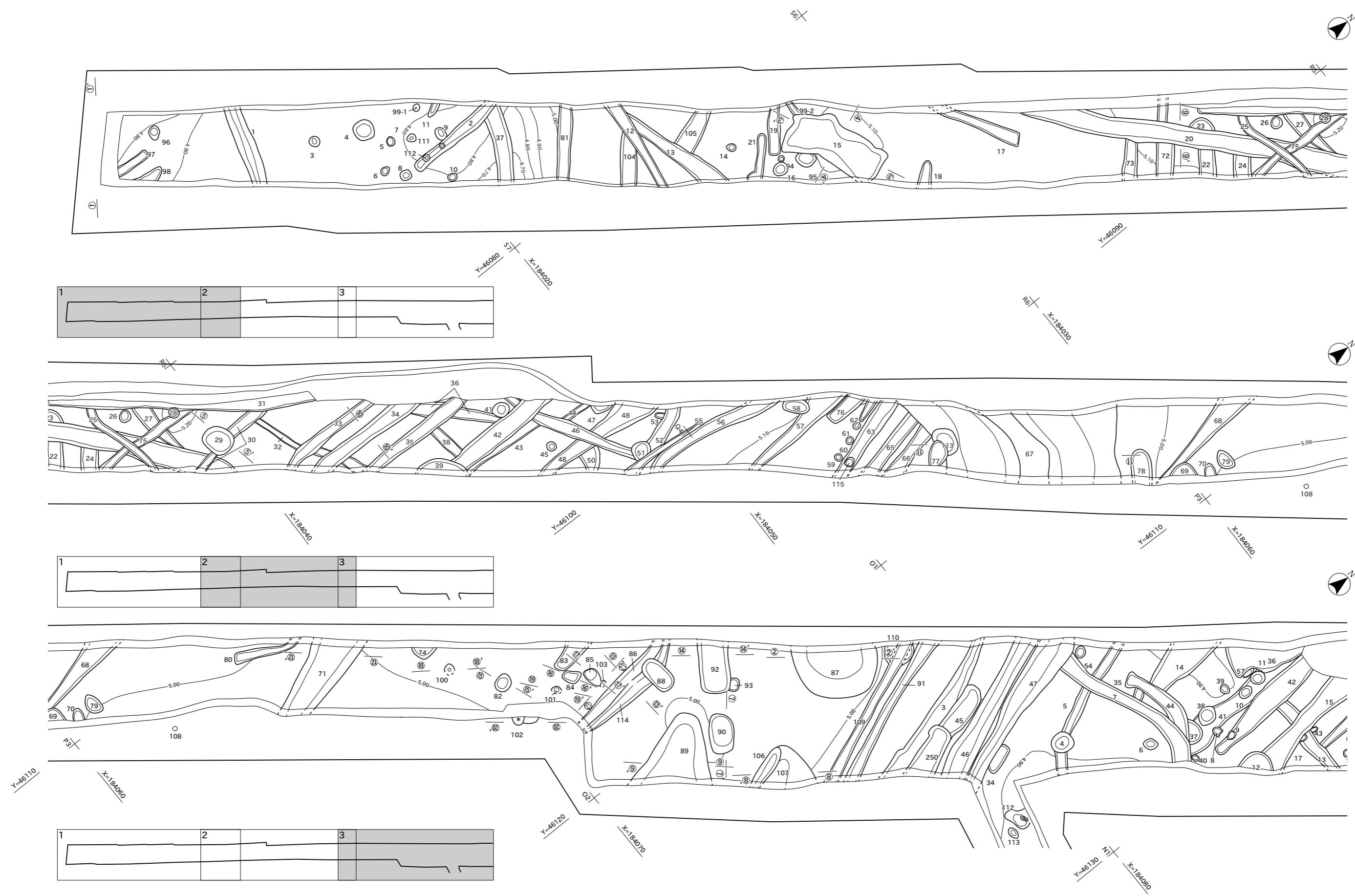
I区 SP64

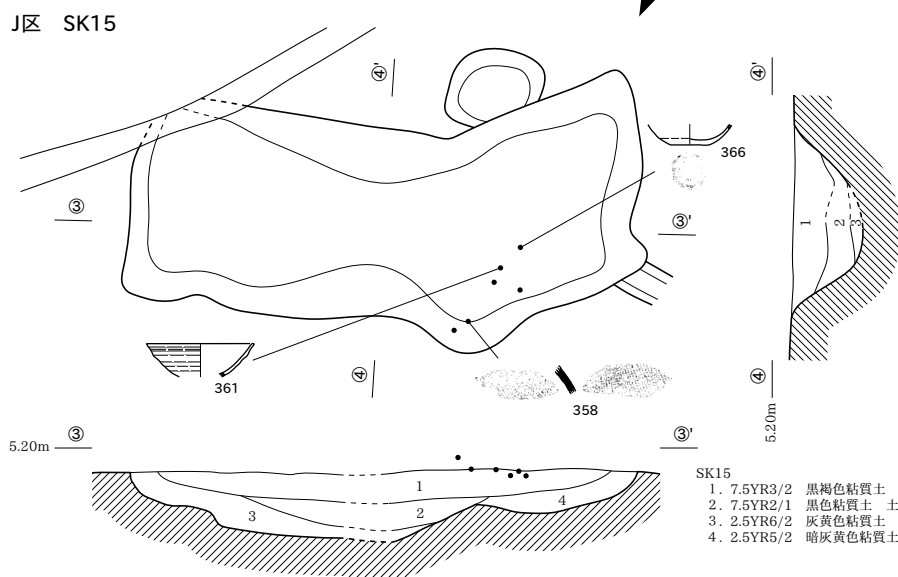
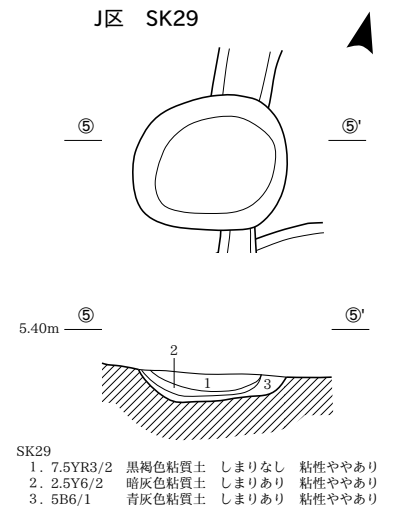
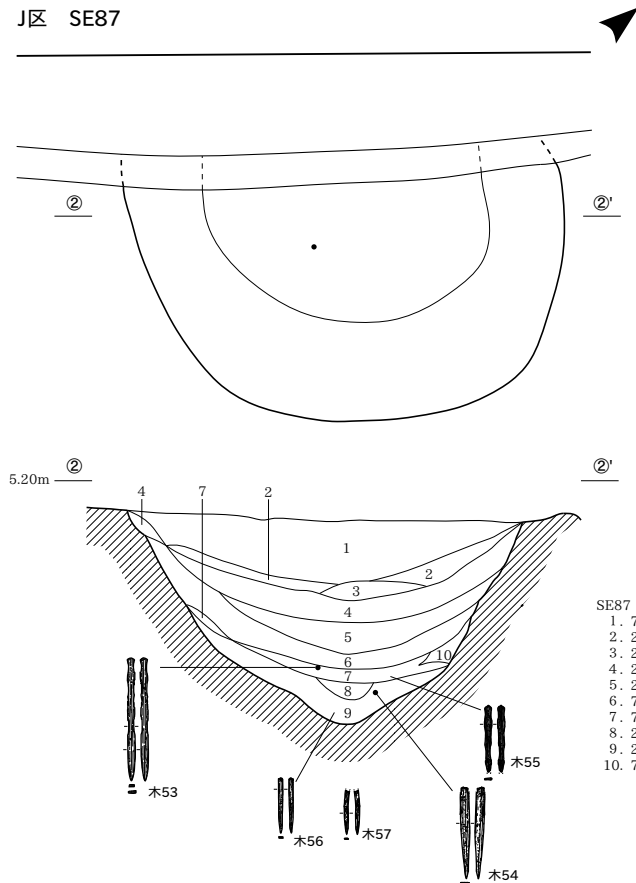
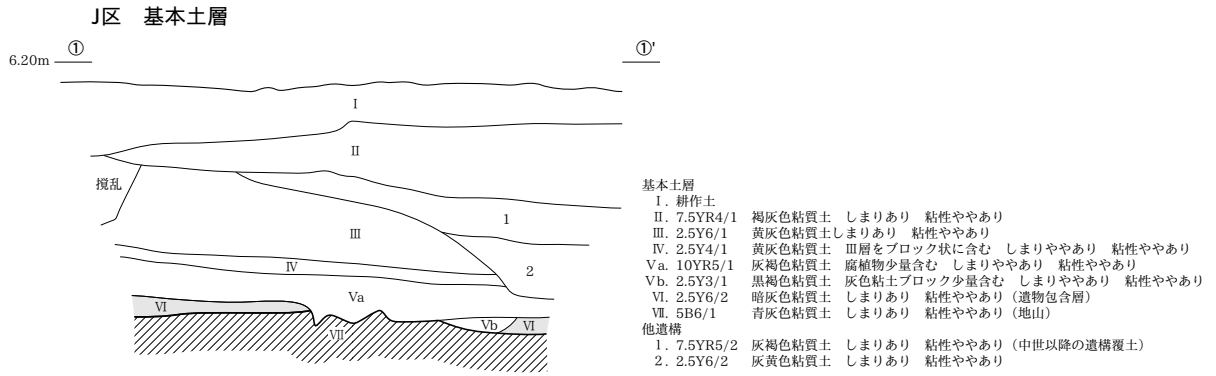


- SP64
1. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 1層より暗い しまりあり 粘性ややあり
 3. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 地山をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり

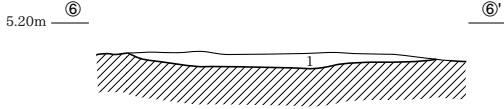
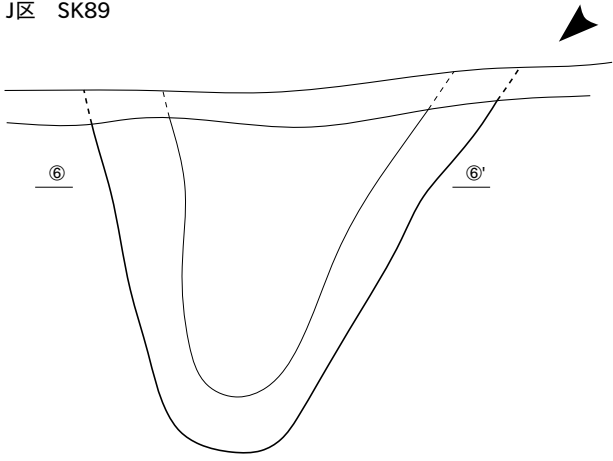






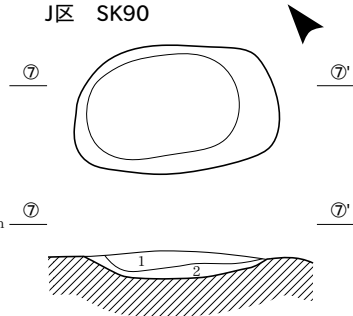


J区 SK89



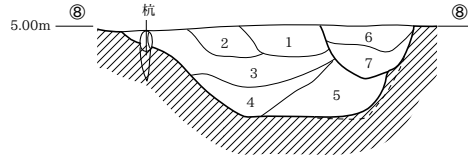
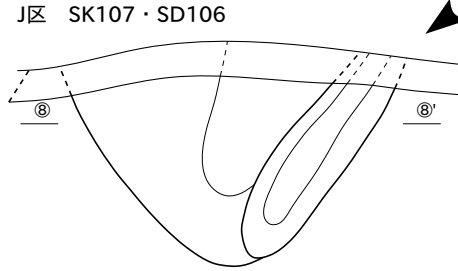
SK89
1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり

J区 SK90



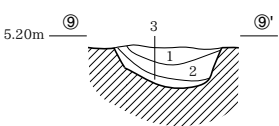
SK90
1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
2. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり

J区 SK107・SD106



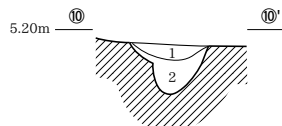
SK107
1. 2.5YR6/1 灰黄色粘質土 腐植物少量含む しまりなし 粘性ややあり
2. 2.5YR7/1 灰白色砂質土 しまりあり 粘性ややあり
3. N5/0 灰色粘質土 砂含む しまりあり 粘性ややあり
4. 5G6/1 緑灰色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり
5. 5G6/1 緑灰色砂質土 灰色粘質土ブロック混入 しまりややあり 粘性ややあり
SD106
6. 2.5YR5/1 灰黄色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
7. 2.5YR5/1 灰黄色粘質土 灰色砂含む しまりあり 粘性ややあり

J区 SD20

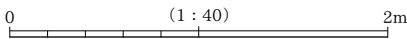


SD20
1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
2. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
3. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と地山の混合層 しまりあり 粘性ややあり

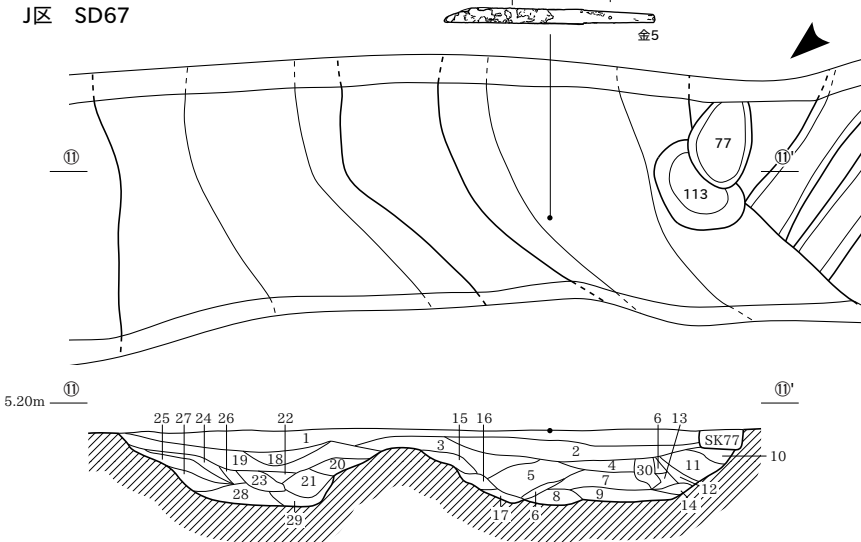
J区 SD34



SD34
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
2. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり

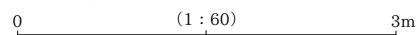


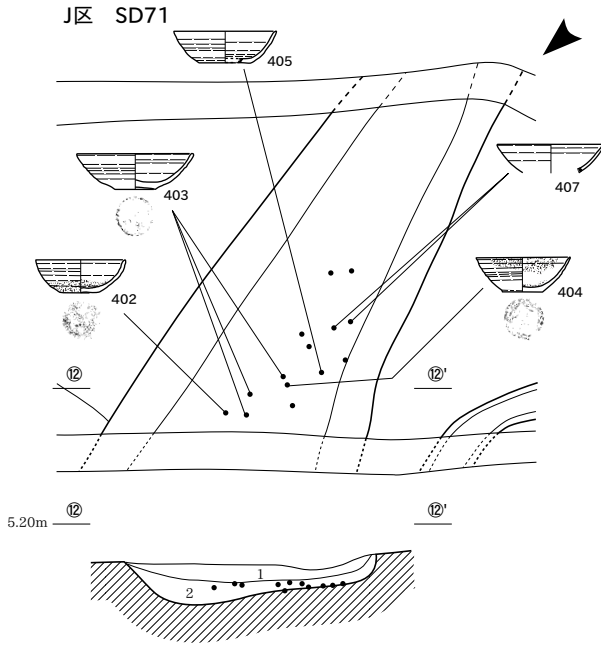
J区 SD67



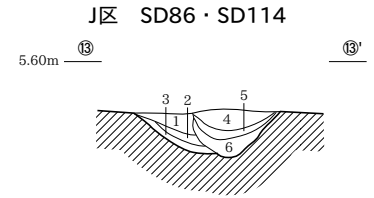
SD67
1. N6/ 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
2. 10YR6/1 灰褐色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
3. 10YR6/1 灰褐色粘質土 木片、炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
4. N3/ 暗灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
5. 10YR6/1 灰褐色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性ややあり
6. N3/ 暗灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
7. N3/ 暗灰色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
8. 10YR5/1 灰褐色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
9. 10YR5/1 灰褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
10. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
11. 10YR4/2 灰黄色褐色粘質土 炭化物少量含む 灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
12. N3/ 暗灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
13. 5BG7/1 明青灰色粘質土 暗灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
14. N6/ 灰色粘質土 青砂含む しまりややあり 粘性ややあり
15. 10YR5/1 灰褐色粘質土 明青灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり

16. 10YR5/2 黒褐色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
17. 10YR5/2 黒褐色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
18. 2.5YR5/2 暗灰黄色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
19. 2.5YR5/2 暗灰黄色粘質土 暗灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
20. N3/ 暗灰色粘質土と暗青灰色粘質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり
21. N6/ 灰色粘質土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
22. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
23. 2.5YR5/2 暗灰黄色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり
24. N3/ 暗灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
25. 5BG7/1 明青灰色粘質土 灰色粘質土を含む しまりややあり 粘性ややあり
26. 22層と同じ しまりややあり 粘性ややあり
27. 28層と同じだが青砂を含む しまりややあり 粘性ややあり
28. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
29. N6/ 灰色粘質土 黒褐色粘質土、青灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
30. 2.5YR5/2 暗灰黄色粘質土と黒褐色粘質土の混合層 しまりややあり 粘性ややあり

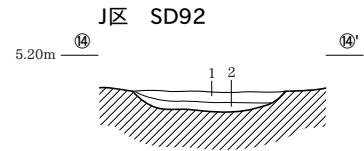




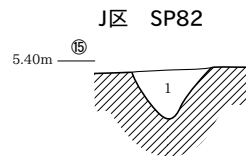
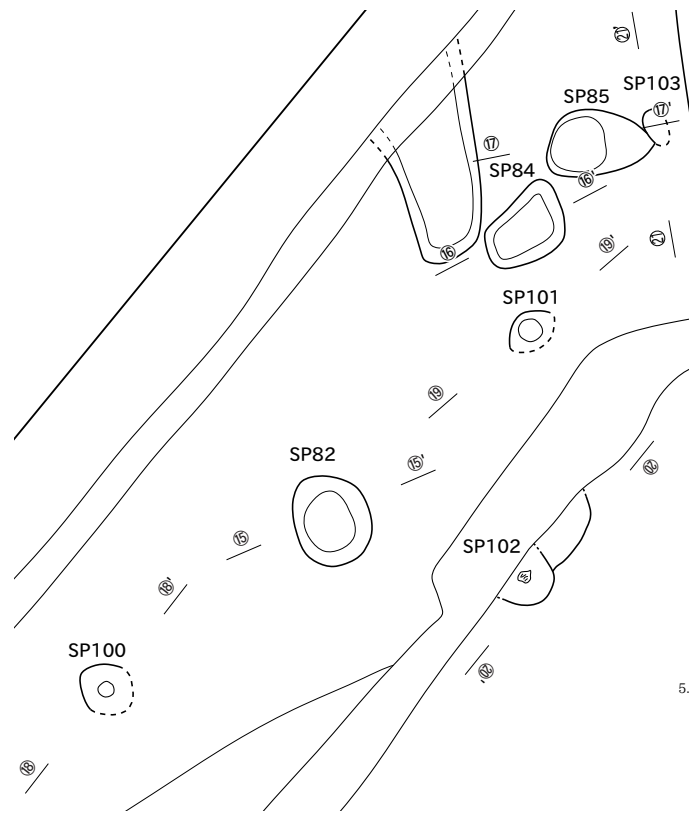
- SD71
- 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 遺物多量に含む しまりあり 粘性ややあり



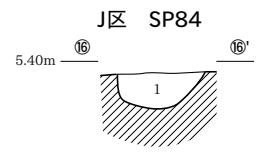
- SD86
- 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりなし 粘性ややあり
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性ややあり
- SD114
- 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりなし 粘性ややあり
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性ややあり



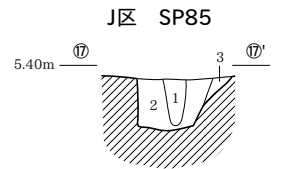
- SD92
- 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 腐植物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y6/1 黄灰色粘質土



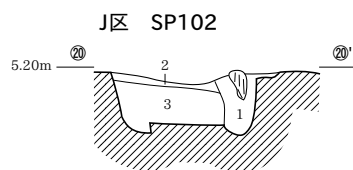
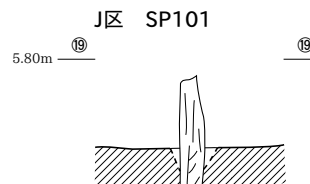
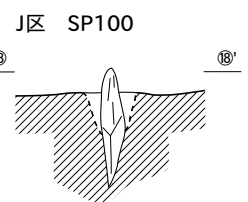
- SP82
- 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり



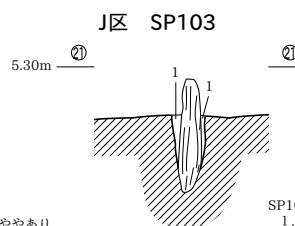
- SP84
- 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり



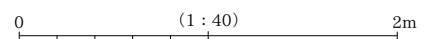
- SP85
- 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘質土と地山土の混合層 しまりあり 粘性あり
 - 2.5Y7/1 灰白色粘質土 黄灰色粘土ブロック含む しまりあり 粘性あり

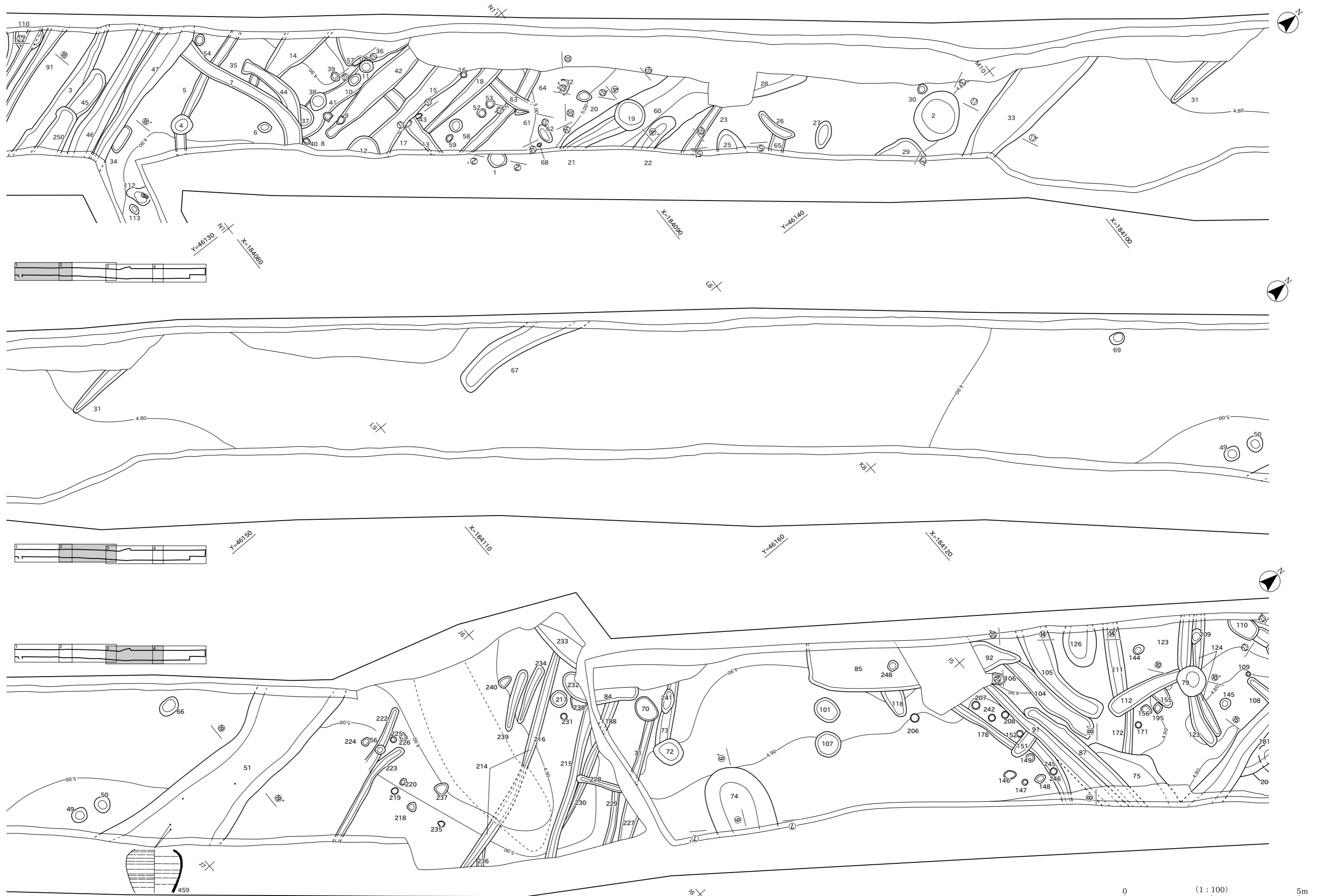


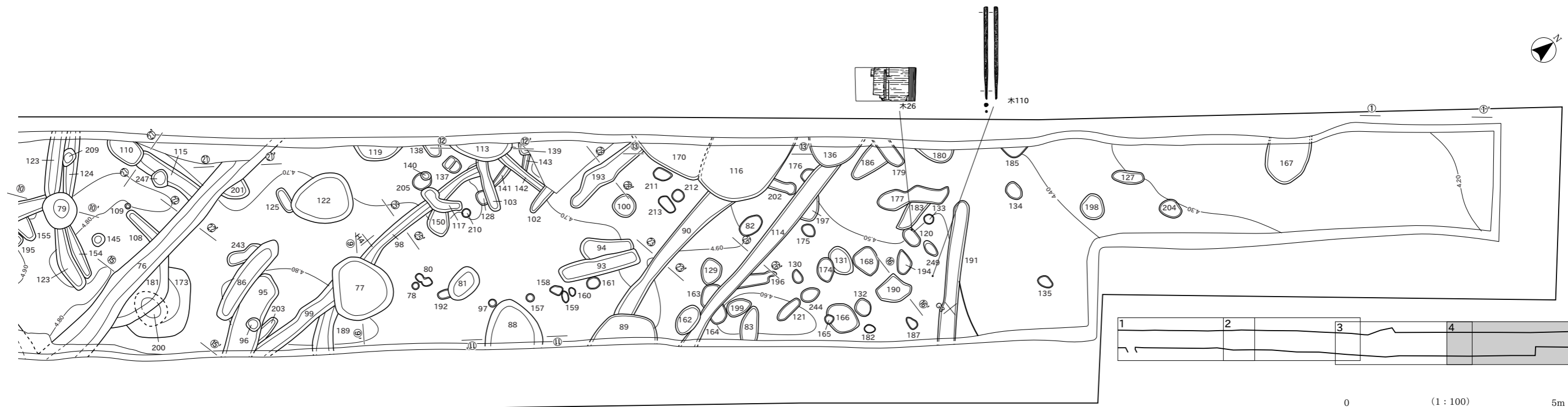
- SP102
- 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 - 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 土器片多量出土 しまりあり 粘性ややあり



- SP103
- 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりあり 粘性あり

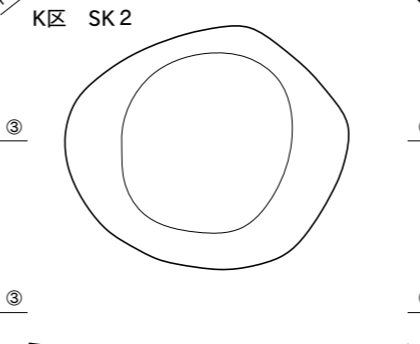
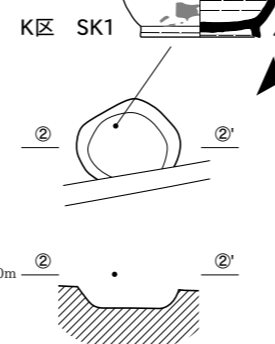
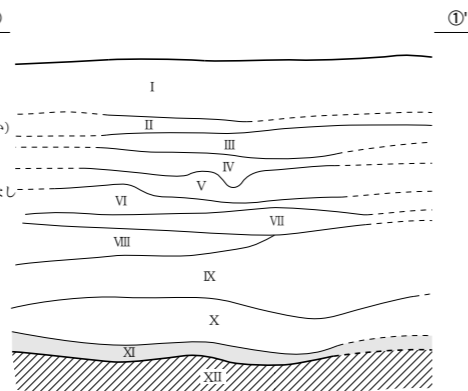




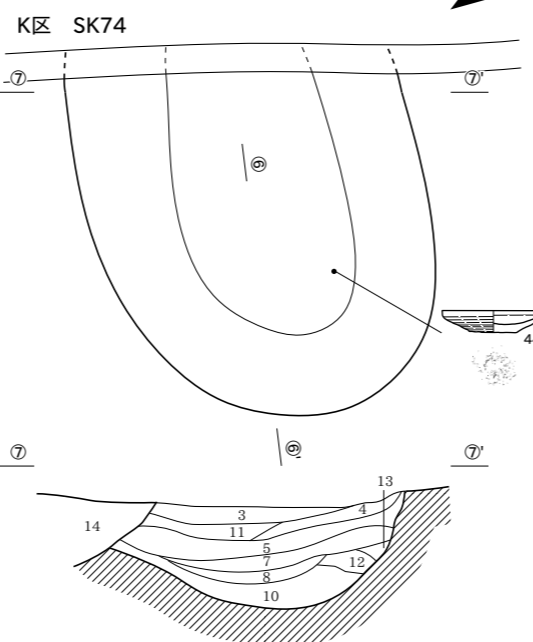


K区 基本土層

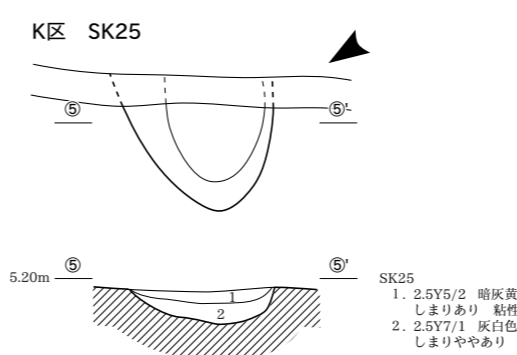
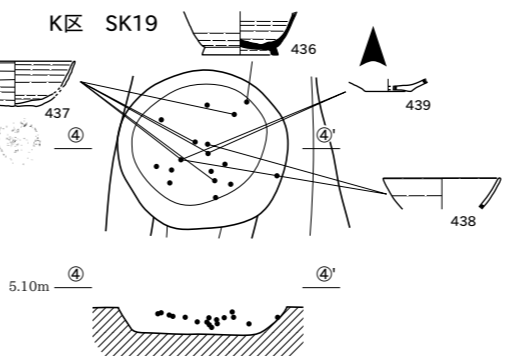
- 基本土層
- I. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 砂利多く含む しまりあり 粘性あり
 - II. 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 - III. 7.5YR5/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 - IV. 7.5YR2/1 黒色粘質土 しまりあり 粘性あり (中世の遺物包含層か)
 - V. 7.5YR8/1 灰白色粘質土 しまりあり 粘性ややあり (中世の遺構確認面か)
 - VI. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 - VII. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりなし 粘性なし
 - VIII. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 腐植物含む しまりなし 粘性なし
 - IX. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 にぶい黄色細砂が層状に混入 しまりなし 粘性なし
 - X. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 炭化物含む しまりなし 粘性なし
 - XI. 5B7/1 明青灰色粘質土と黒褐色粘質土の混合層 しまりあり 粘性あり (古代遺物包含層)
 - XII. 5B7/1 明青灰色粘質土 しまりあり 粘性あり (地山)



- SK2
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 腐植物多量に含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質土 地山をブロック状に含む しまりあり 粘性あり
 3. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 腐植物含む しまりあり 粘性ややあり

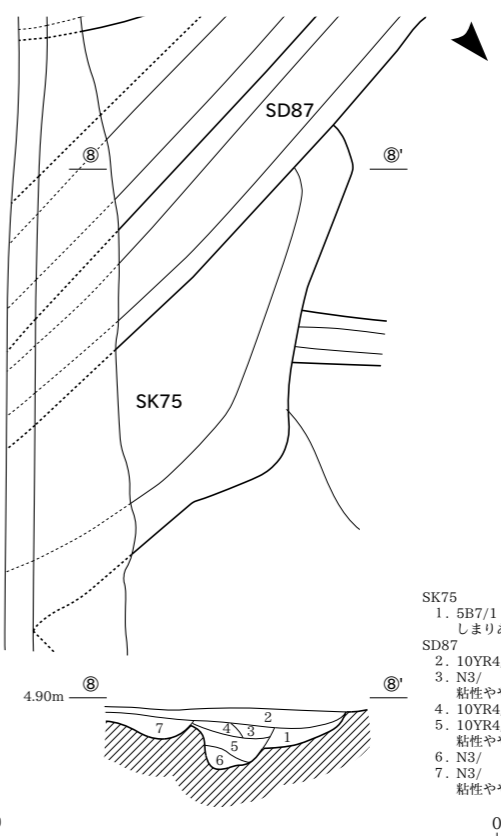


- SK74
1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 腐植物含む しまりあり 粘性あり
 2. 10YR3/1 黒腐植物層
 3. 10YR3/1 黒褐色粘質土 腐植物、炭化物含む しまりあり 粘性あり
 4. N3/ 暗灰色粘質土 炭化物、灰色粘質土ブロック少量含む しまりあり 粘性あり
 5. 10YR4/1 褐灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 6. N6/ 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 7. N3/ 暗灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 8. N6/ 灰色粘質土 暗灰色粘質土をブロック状に少量含む しまりあり 粘性あり
 9. 10YR4/1 褐灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 10. N6/ 灰色粘質土 暗灰色粘質土をブロック状に少量含む しまりあり 粘性あり
 11. N3/ 暗灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 12. N6/ 灰色粘質土 暗灰色粘質土をブロック状に少量含む しまりあり 粘性あり
 13. 5B6/1 青灰色粘質土 腐植物、灰色粘質土ブロック少量含む しまりあり 粘性あり
 14. 5B6/1 青灰色粘質土 しまりあり 粘性あり



- SK25
1. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 しまりあり 粘性あり
 2. 2.5Y7/1 灰白色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり

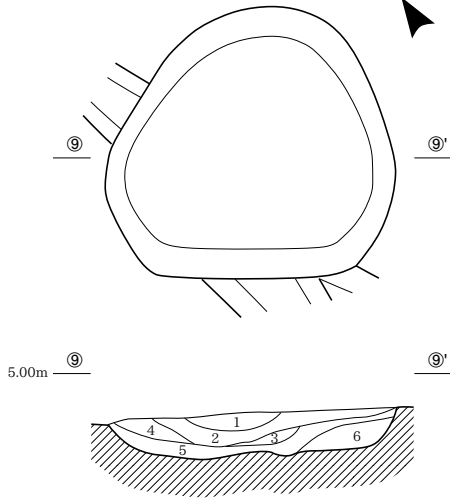
K区 SK75・SD87



- SK75
1. 5B7/1 明青灰色粘質土 暗灰色粘質土をブロック状に少量含む しまりあり 粘性ややあり
- SD87
2. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 腐植物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 3. N3/ 暗灰色粘質土 腐植物、灰色粘質土ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり
 4. 10YR4/1 褐灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 5. 10YR4/1 褐灰色粘質土 炭化物、灰色粘質土ブロック少量含む しまりあり 粘性ややあり
 6. N3/ 暗灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 7. N3/ 暗灰色粘質土 炭化物少量、地山ブロック多量に含む しまりあり 粘性ややあり

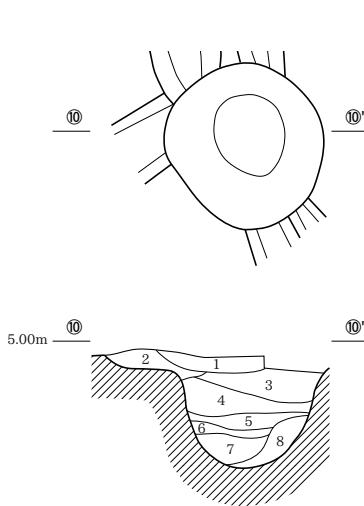
0 (1:40) 2m

K区 SK77



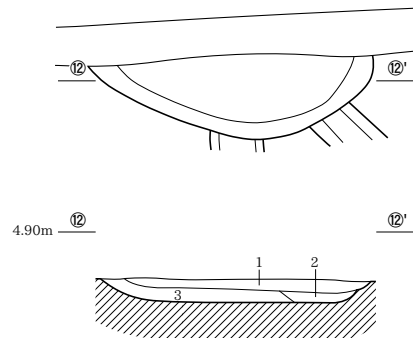
- SK77
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 2. N3/ 暗灰色粘質土 青灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり
 3. N6/ 灰色粘質土 暗灰色粘質土を少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 4. N6/ 灰色粘質土 炭化物少量含む しまりややあり 粘性ややあり
 5. N3/ 暗灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 6. 5BG7/1 明青灰色粘質土 腐植物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり

K区 SK79



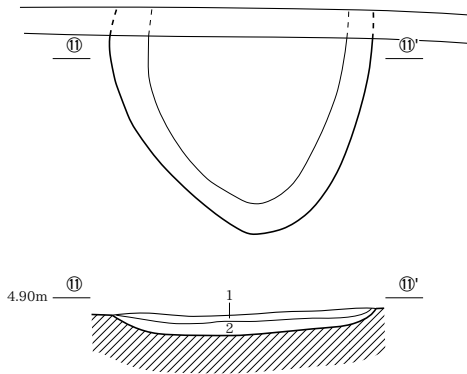
- SK79
1. 10YR4/1 褐灰色粘質土 青灰色粘質土含む しまりややあり 粘性ややあり
 2. 10YR2/1 黒色粘質土 炭化物多量に含む しまりややあり 粘性ややあり
 3. N3/ 暗灰色粘質土 炭化物、地山ブロック含む しまりややあり 粘性ややあり
 4. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 炭化物、地山ブロック含む しまりややあり 粘性ややあり
 5. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 4層に同じだが、地山ブロック大きい しまりややあり 粘性ややあり
 6. 10YR2/1 炭化物層 しまりややあり 粘性ややあり
 7. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 炭化物、地山ブロック含む しまりややあり 粘性ややあり
 8. 5B7/1 明青灰色粘質土 黄灰色粘質土をブロック状に含む しまりややあり 粘性ややあり

K区 SK113



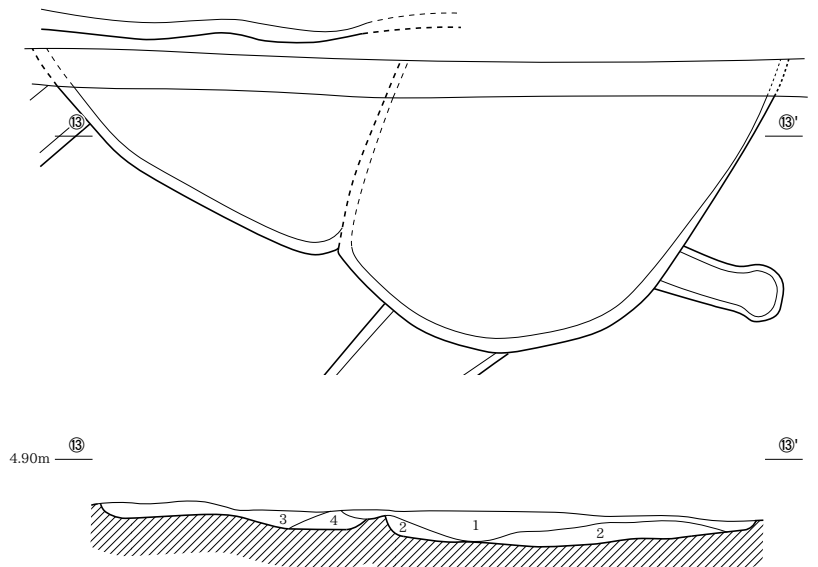
- SK113
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 灰黄褐色粘質土少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
 3. 5BG7/1 明青灰色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり

K区 SK88



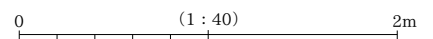
- SK88
1. N3/ 暗灰色粘質土 しまりややあり 粘性ややあり
 2. 5BG7/1 明青灰色粘質土 腐植物、灰色粘質土含む しまりややあり 粘性ややあり

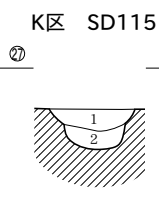
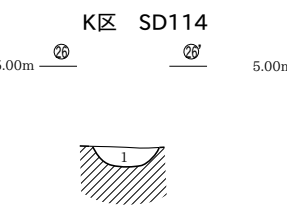
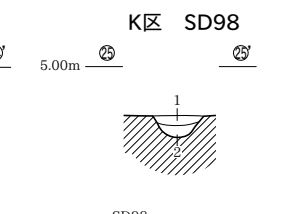
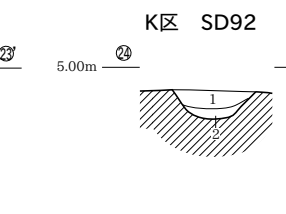
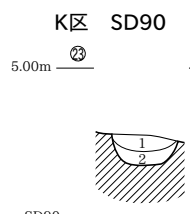
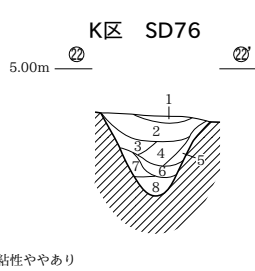
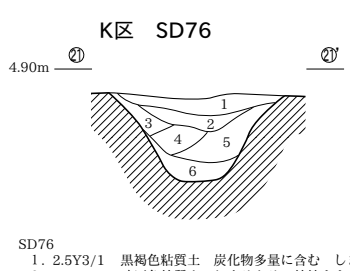
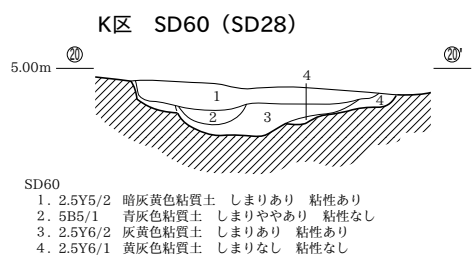
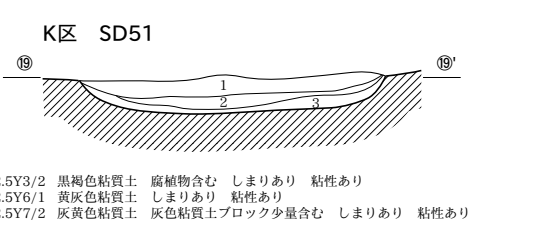
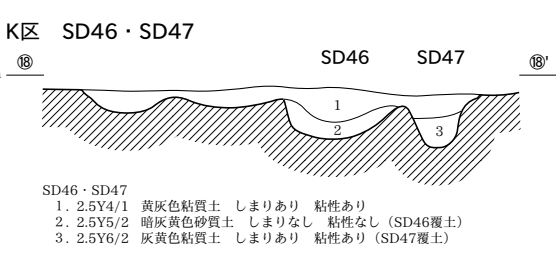
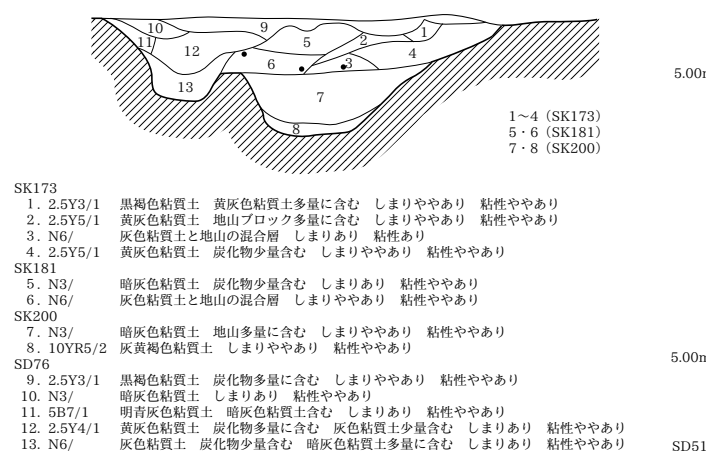
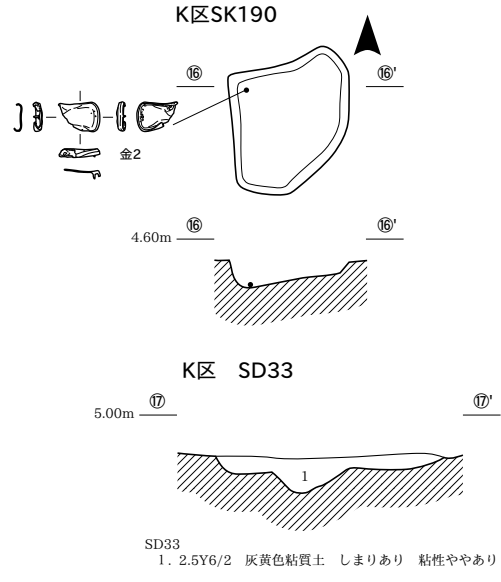
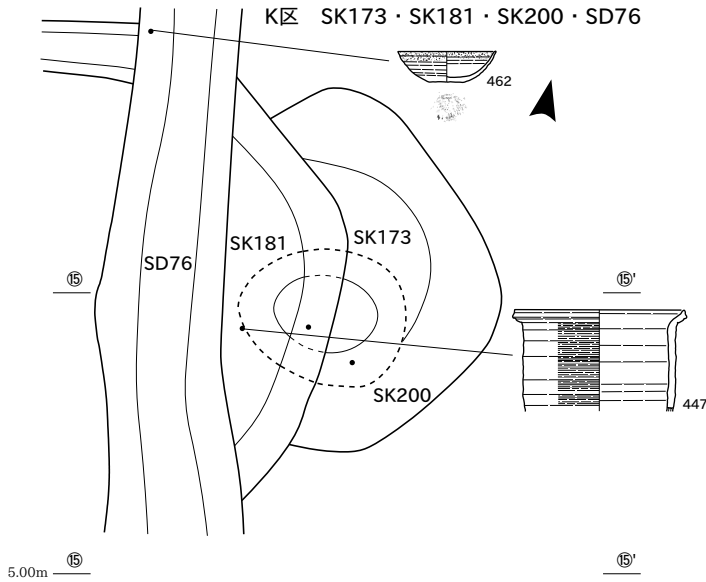
K区 SK116・SK170



- SK116
1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 5BG7/1 明青灰色粘質土と灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性ややあり
- SK170
3. N6/ 灰色粘質土 灰黄褐色粘質土含む しまりあり 粘性ややあり
 4. 5BG7/1 明青灰色粘質土と暗灰色粘質土の混合層 しまりあり 粘性ややあり

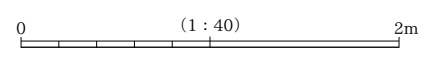
- SK126
1. 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 灰色粘質土、黒色土含む しまりあり 粘性あり
 2. 2.5Y6/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり
 3. 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土 しまりあり 粘性あり
 4. 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 5. 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性あり
 6. 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 しまりあり 粘性あり



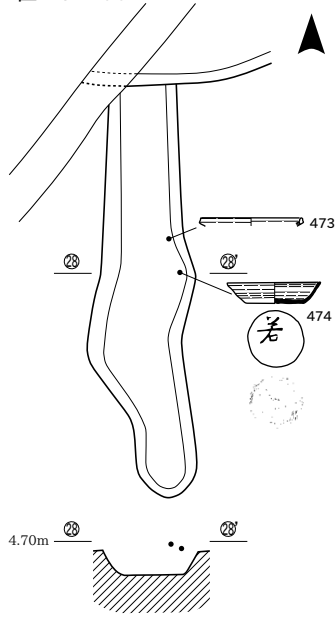


- SD90
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 2. 5B7/1 明青灰色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
- SD92
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 5B7/1 明青灰色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり

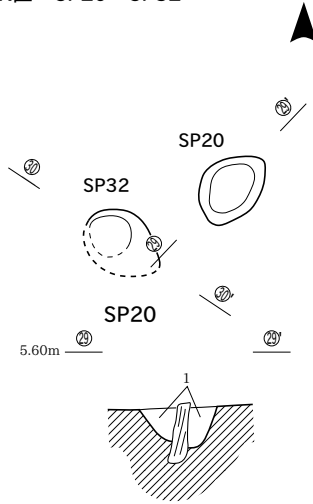
- SD98
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性ややあり
 2. 5B7/1 明青灰色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり
- SD114
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 炭化物少量含む しまりあり 粘性ややあり
- SD115
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック含む しまりあり 粘性ややあり
 2. 5B7/1 明青灰色粘質土 灰色粘質土をブロック状に含む しまりあり 粘性ややあり



K区 SD193

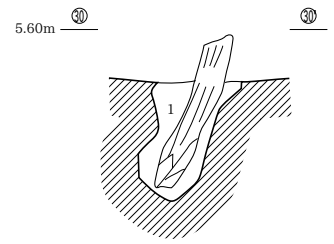


K区 SP20・SP32



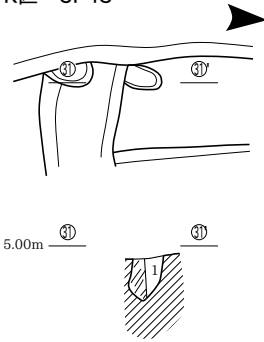
SP20
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりあり 粘性あり

SP32



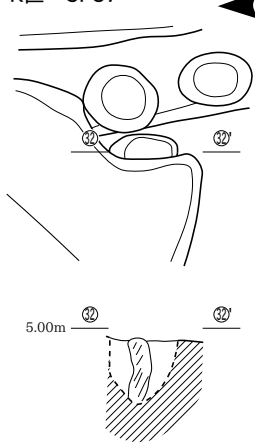
SP32
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりあり 粘性あり

K区 SP43

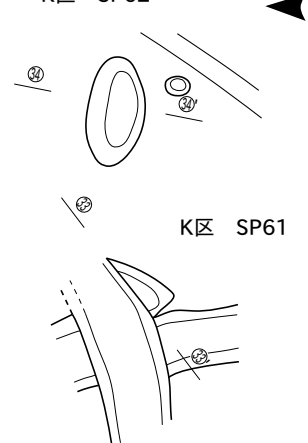


SP43
1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 しまりあり 粘性あり

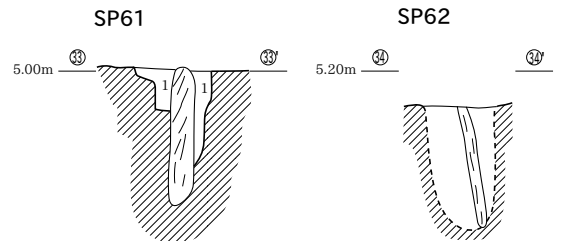
K区 SP57



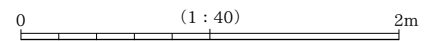
K区 SP62



K区 SP61



SP61
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 しまりあり 粘性あり



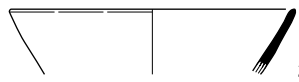
A区

SD1 (1)



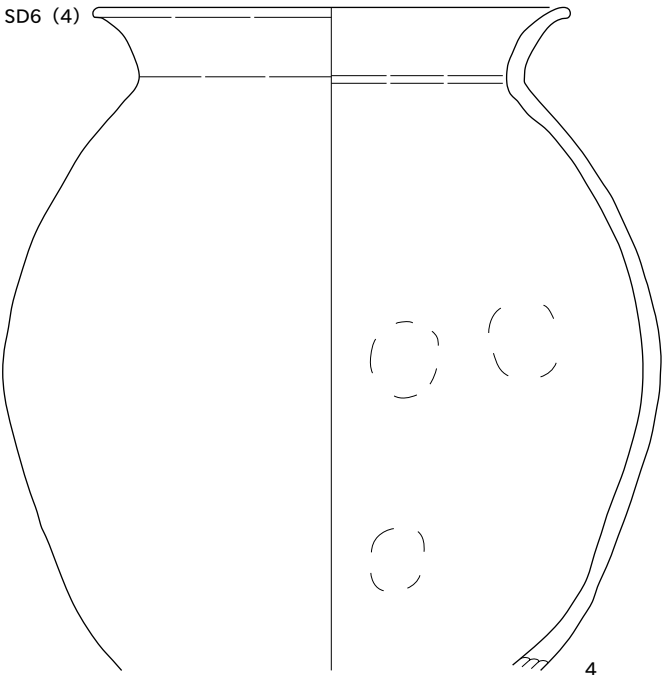
1

SD2 (2·3)



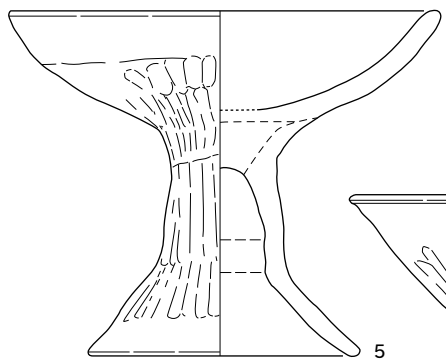
2

SD6 (4)

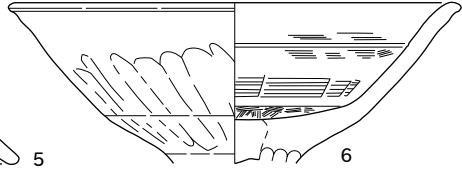


4

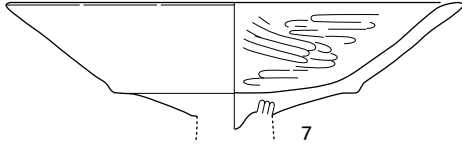
河川1·2 (5~17)



5



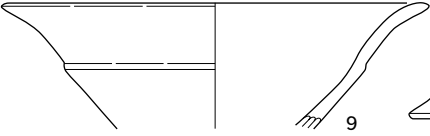
6



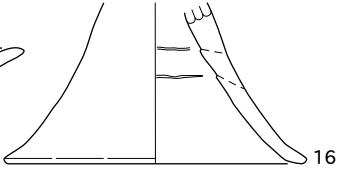
7



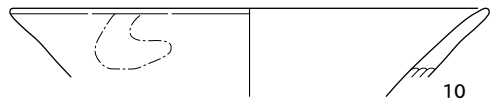
8



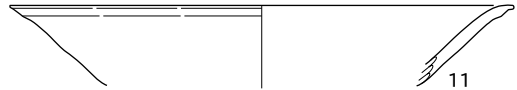
9



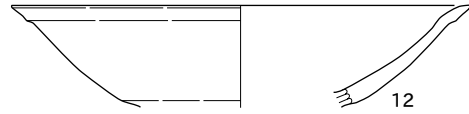
16



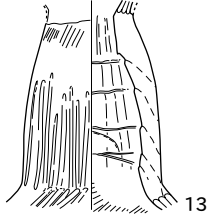
10



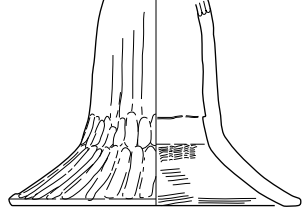
11



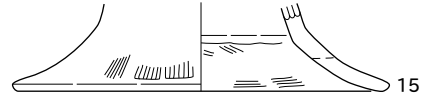
12



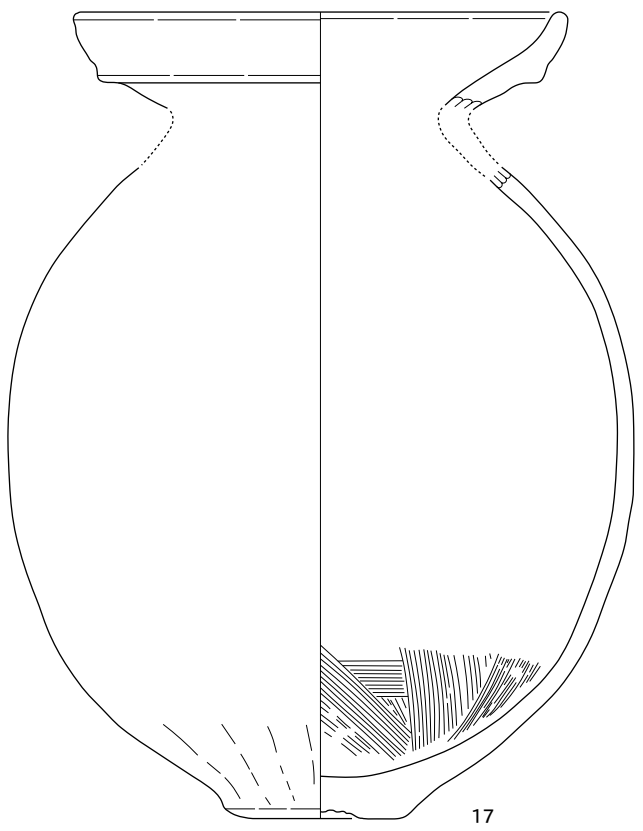
13



14



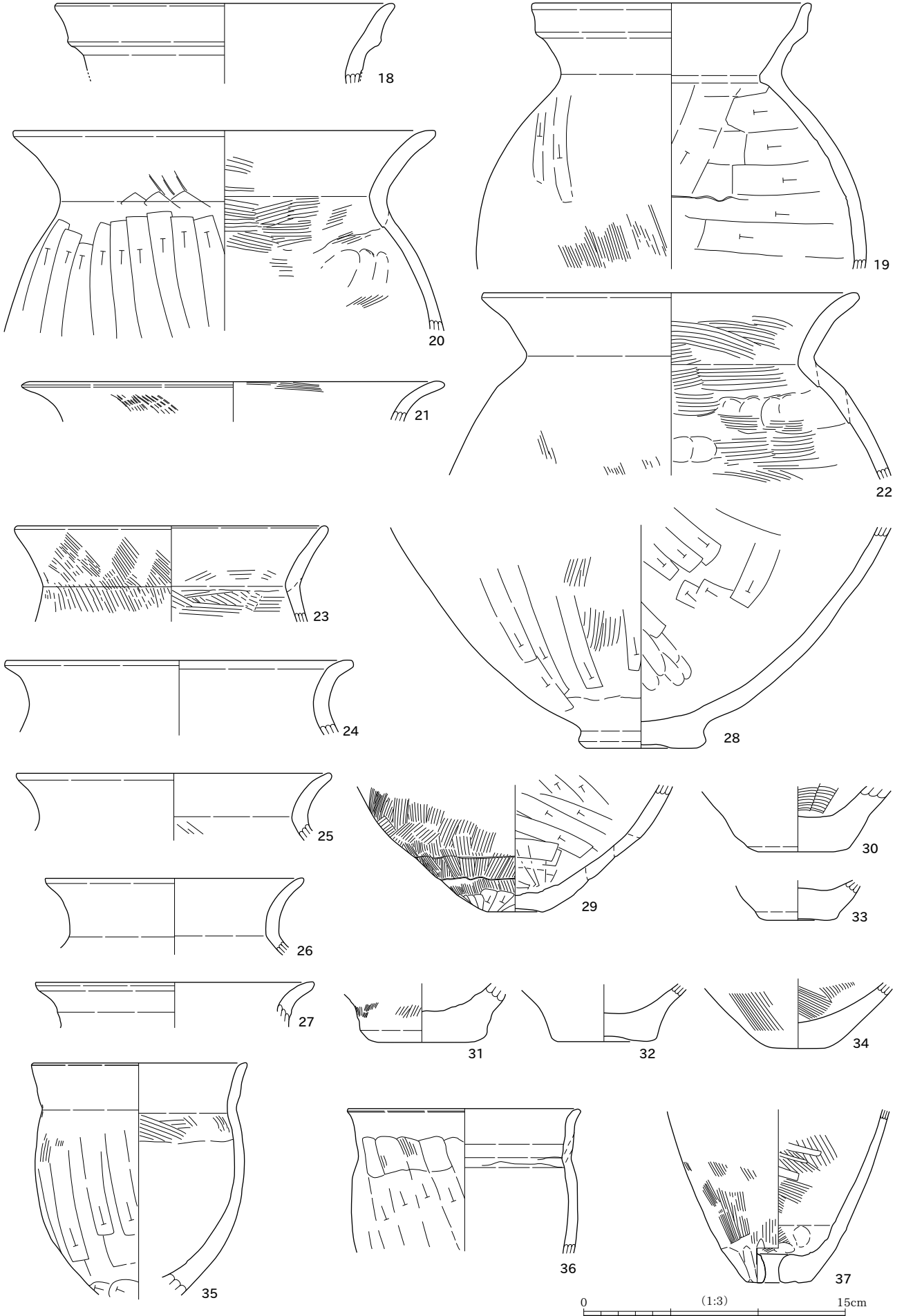
15



17

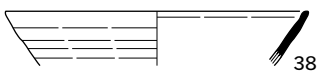
0 (1:3) 15cm

A 区
河川 1 · 2 (18~37)



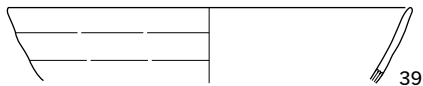
B区

SK2 (38)



38

SK3 (39)



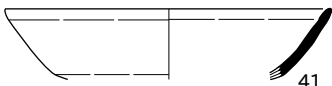
39

SK4 (40)

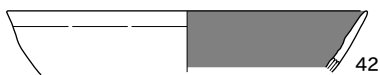


40

SD2 (41·42)



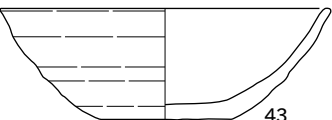
41



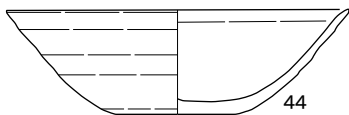
42



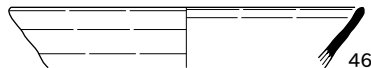
SD3 (43·44)



43



44



46

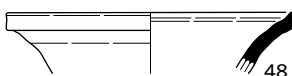


47

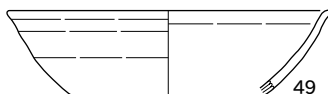
SD4 (45~51)



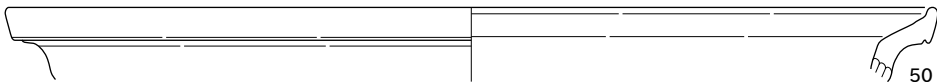
45



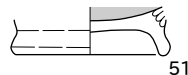
48



49

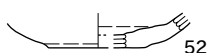


50



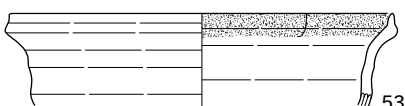
51

SD5 (52)



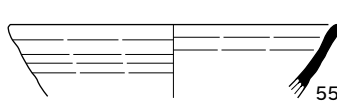
52

SD9 (53)



53

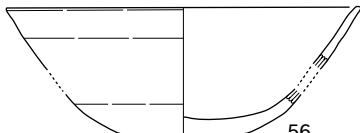
SD20 (55)



55

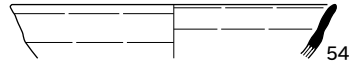


SP7 (56·57)



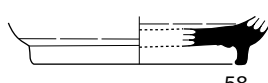
56

SD19 (54)

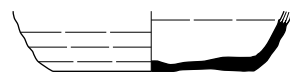


54

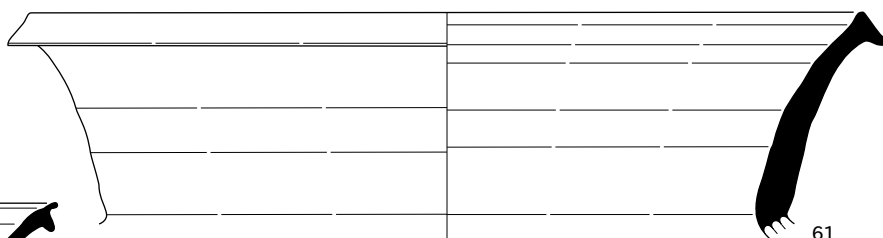
河川1 (58~63)



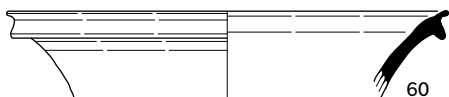
58



59



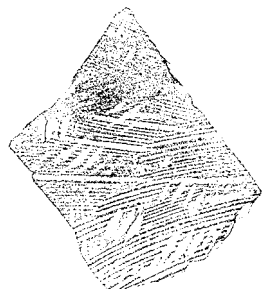
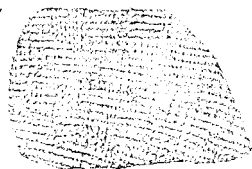
61



60



63

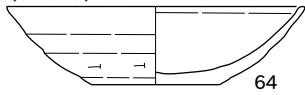


62

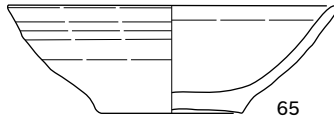


0 (1:3) 15cm

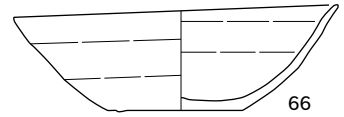
B区
河川 (64~70)



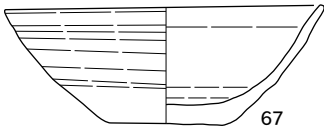
64



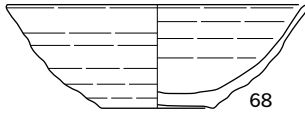
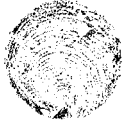
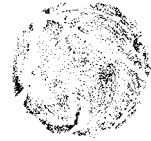
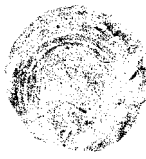
65



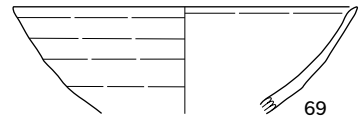
66



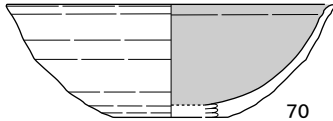
67



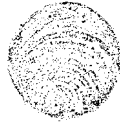
68



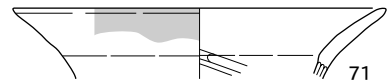
69



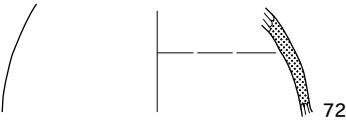
70



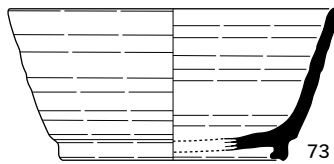
包含層 (71~82)



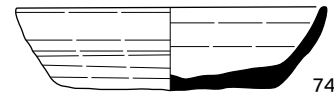
71



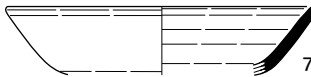
72



73



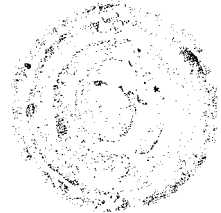
74



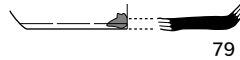
75



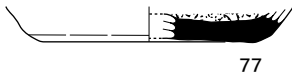
78



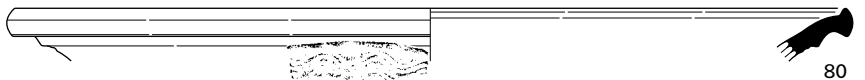
76



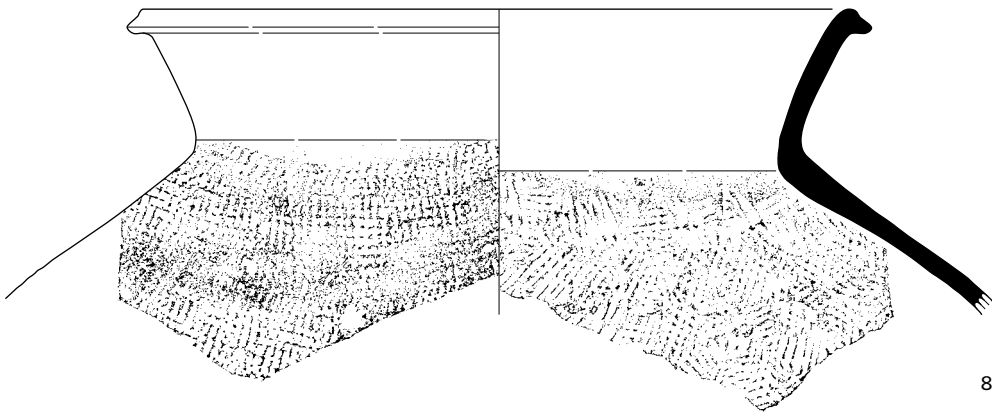
79



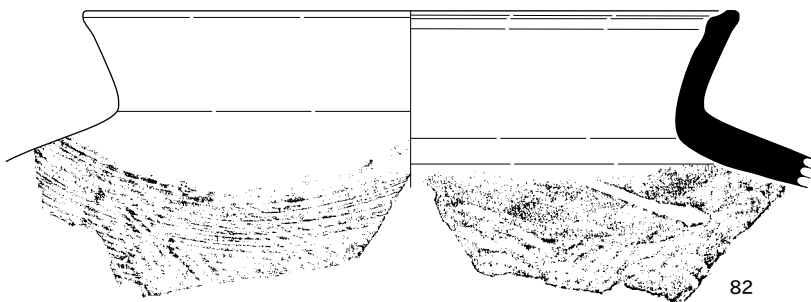
77



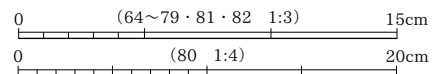
80



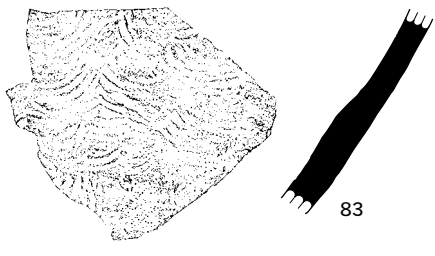
81



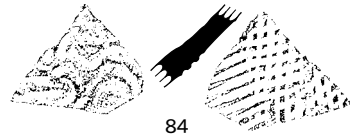
82



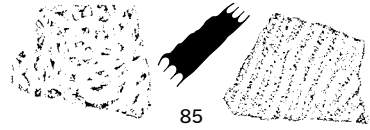
B区
包含層 (83~103)



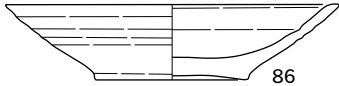
83



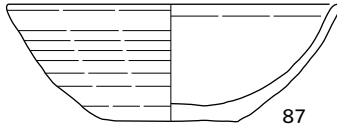
84



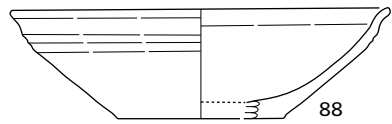
85



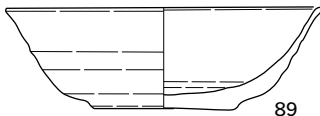
86



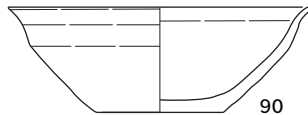
87



88



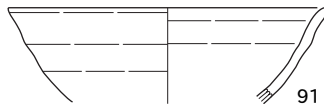
89



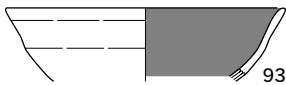
90



92



91



93



94



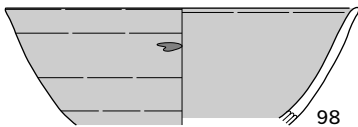
95



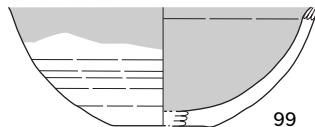
96



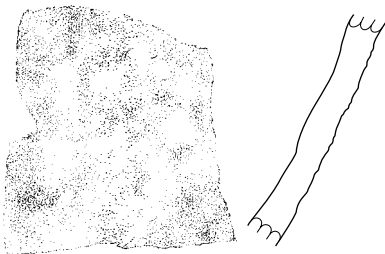
97



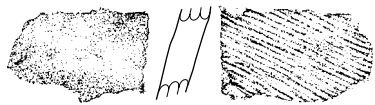
98



99



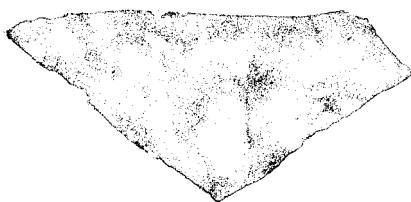
100



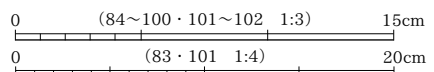
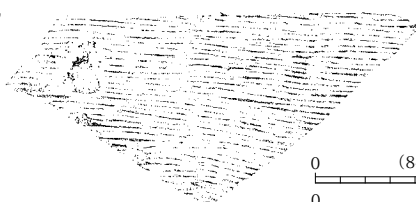
102



103

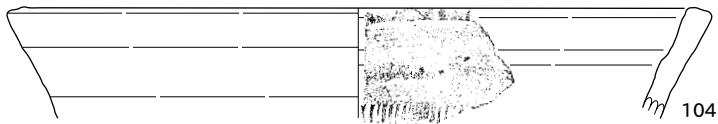


101

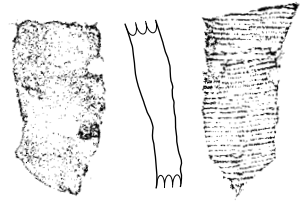


C区 (2005年) 上層

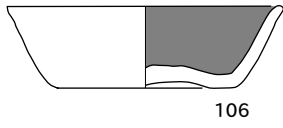
SE1 (104)



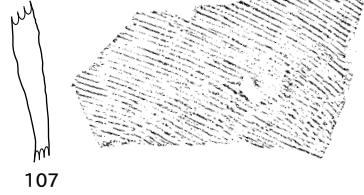
SE2 (105)



SE5 (106)

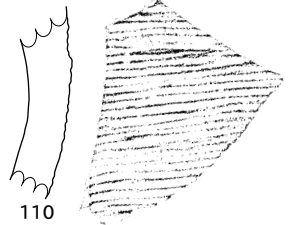


SE7 (107 · 108)



105

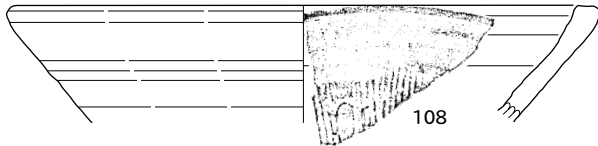
SK4 (110)



106

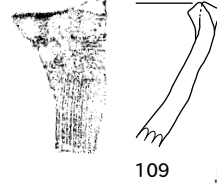
107

110



108

SK2 (109)



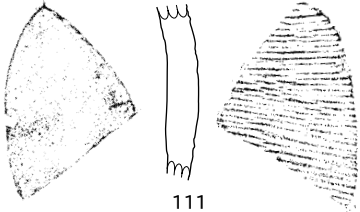
109

河川1 (114 · 115)



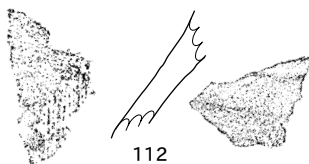
114

SX1 (111)



111

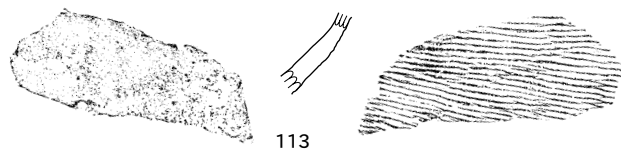
SD4 (112)



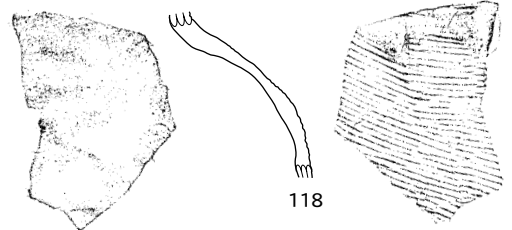
112

115

SD6 (113)

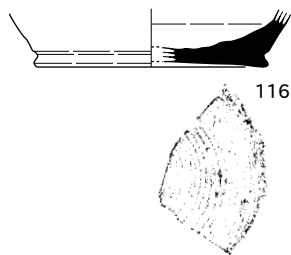


113

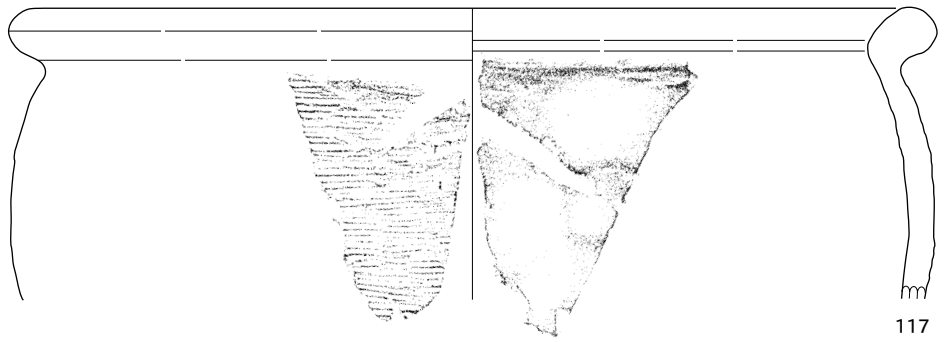


118

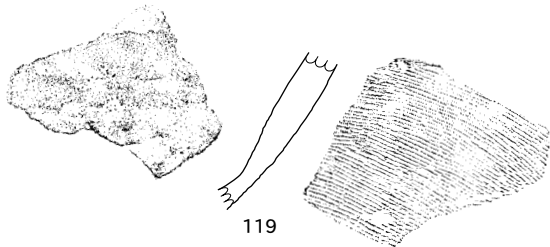
包含層 (116~123)



116



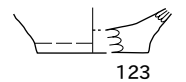
117



119



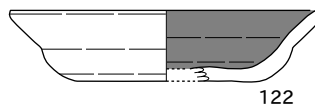
120



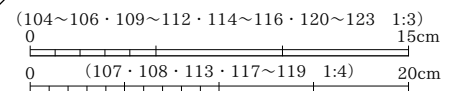
123



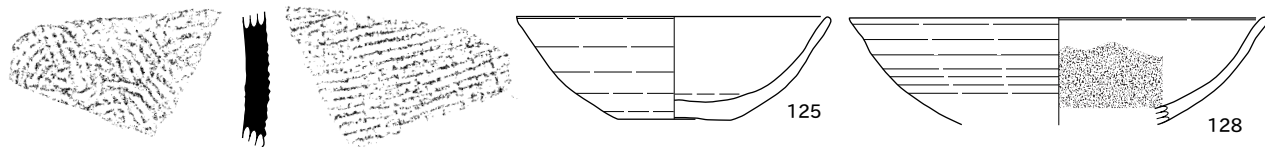
121



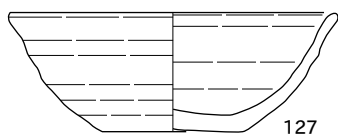
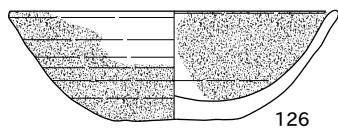
122



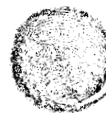
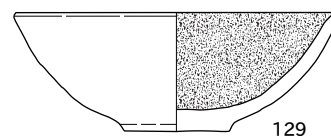
C区(2005年)下層
SE7 (124·125)



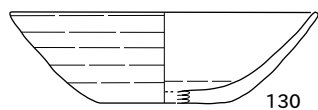
SK1 (126~128)



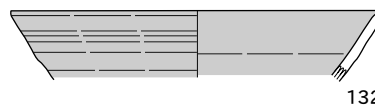
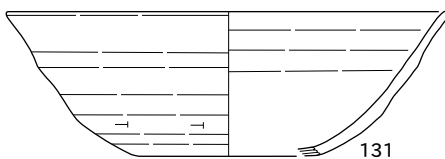
SK3 (129)



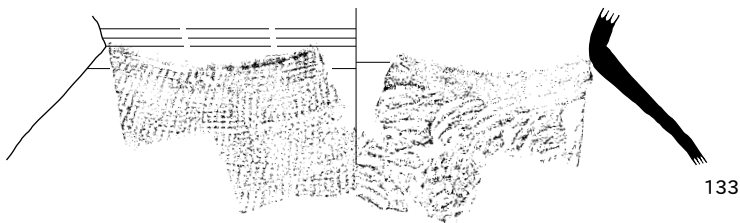
SK8 (130)



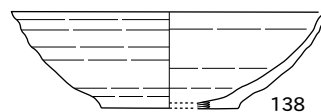
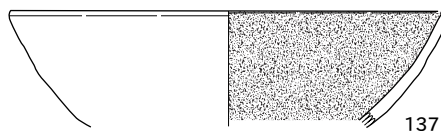
SD19 (131·132)



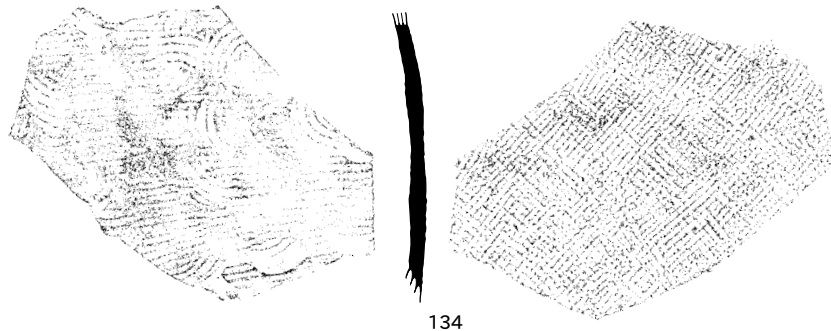
SD20 (133)



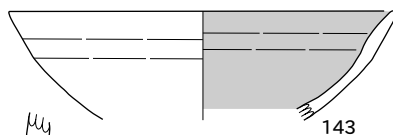
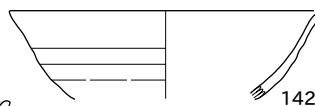
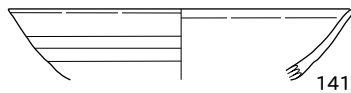
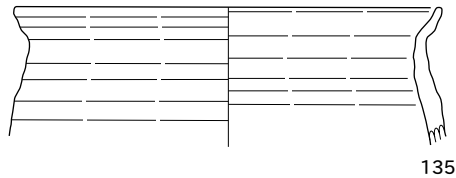
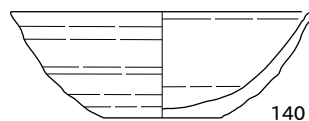
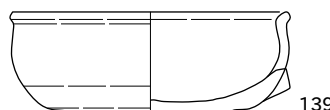
SD22 (137·138)



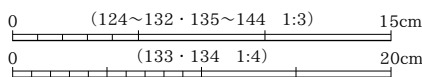
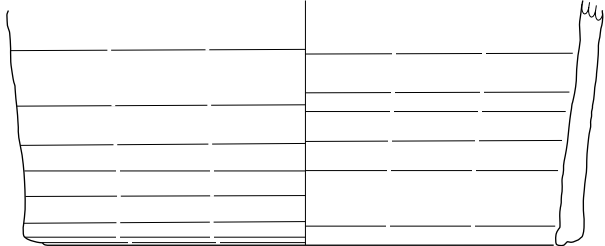
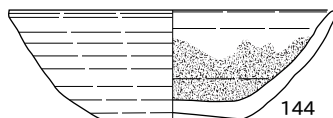
SD21 (134~136)



SD24 (139~143)



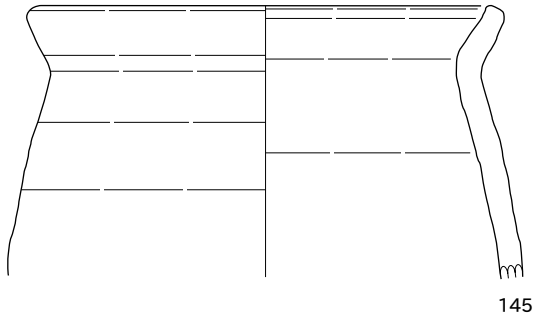
SD25 (144)



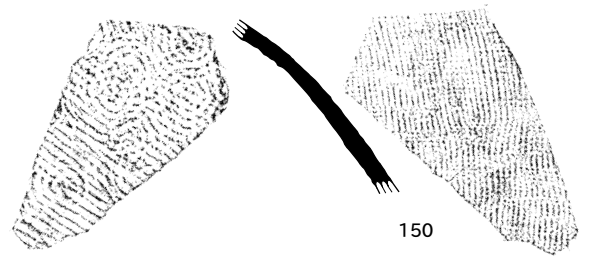
136



C区 (2005年) 下層
SD37 (145)



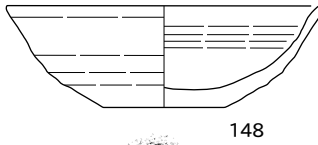
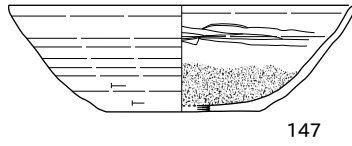
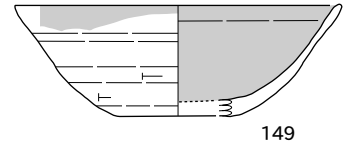
SD63 (150)



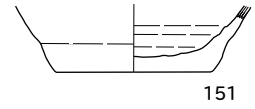
SD41 (146~148)



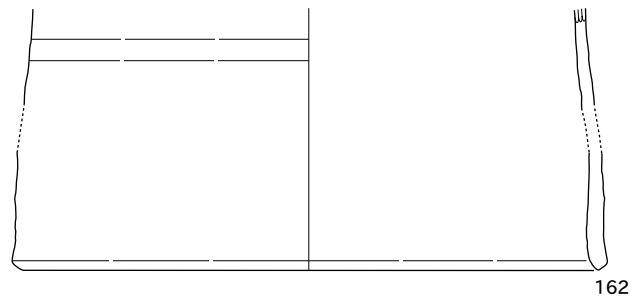
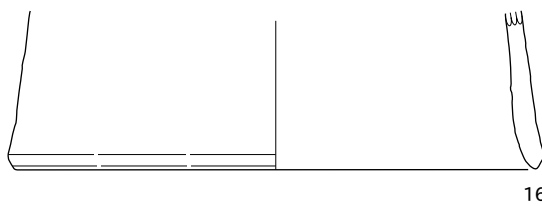
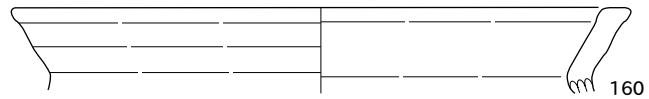
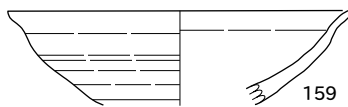
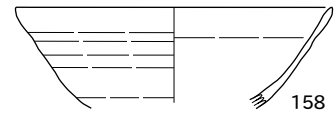
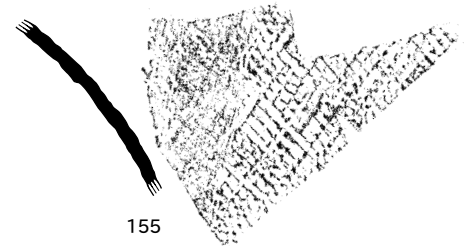
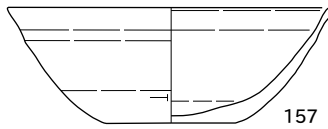
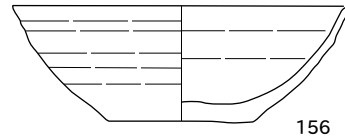
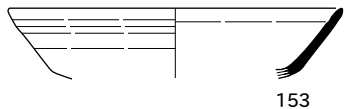
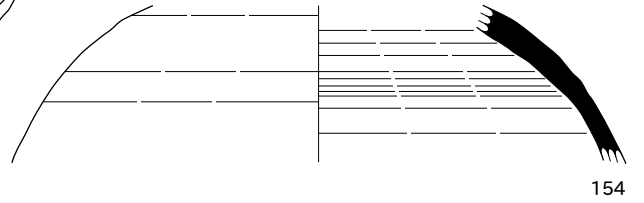
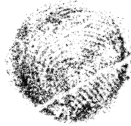
SD44 (149)



SD64 (151)

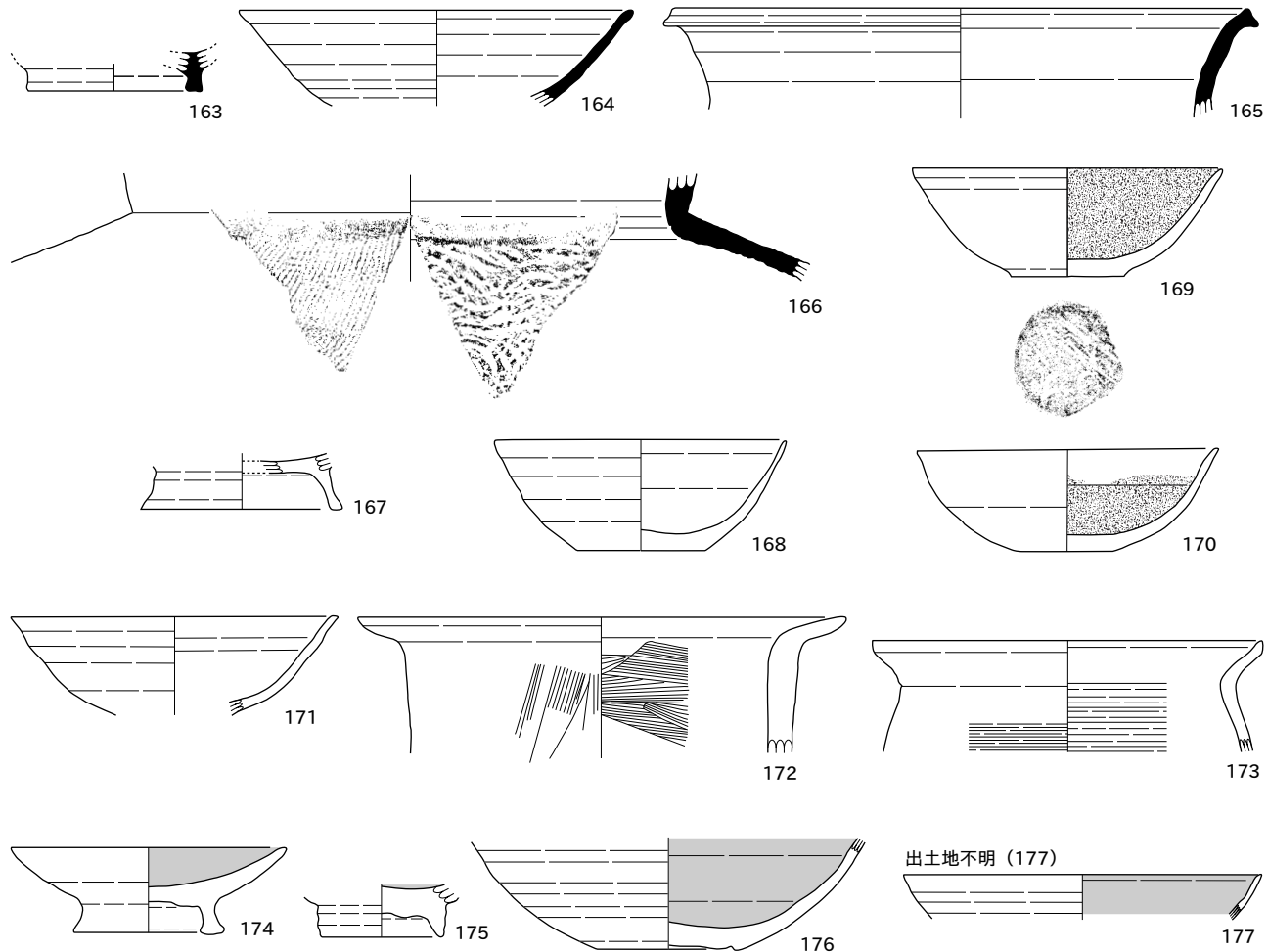


遺構間接合 (152~162)

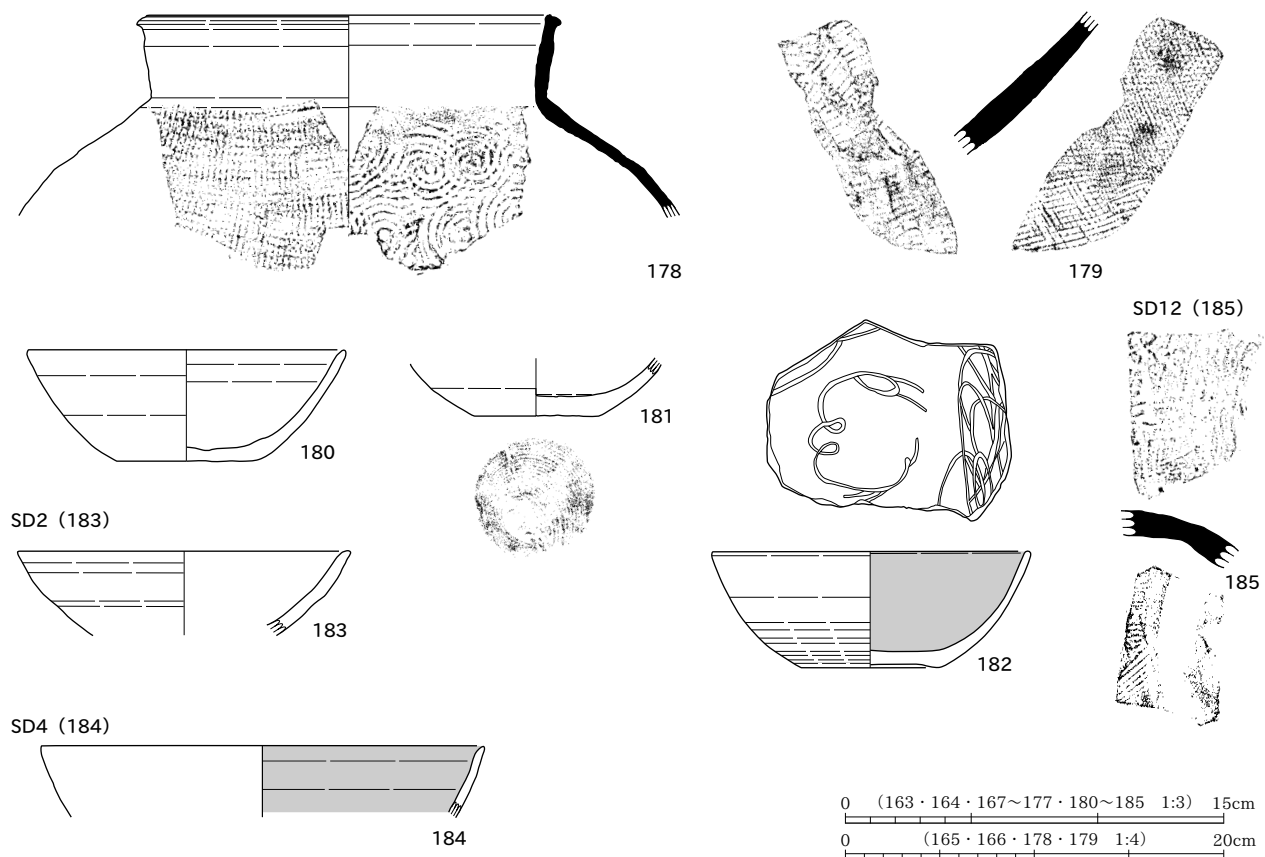


0 (145・147~149・151~162 1:3) 15cm
0 (146・150 1:4) 20cm

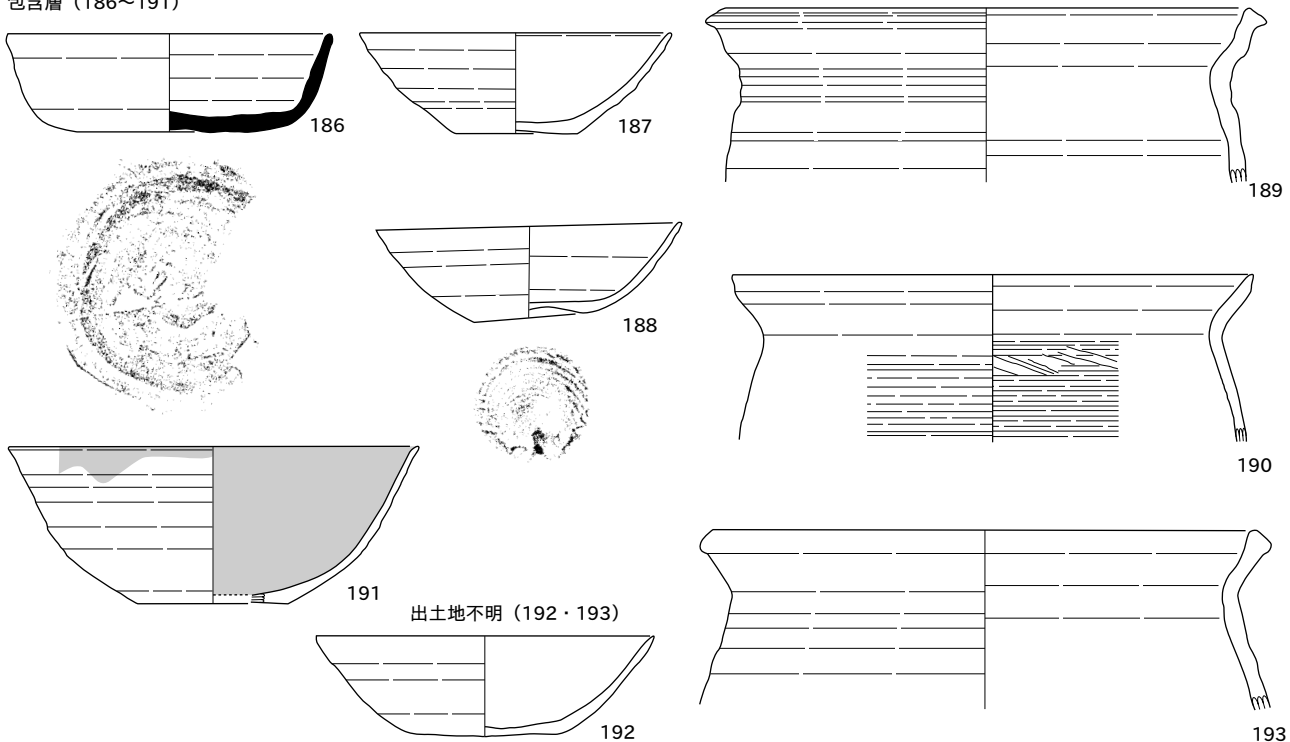
C区(2005年)下層
包含層(163~176)



C区(2006年)下層
SE14(178~182)



C区(2006年)下層
包含層(186~191)

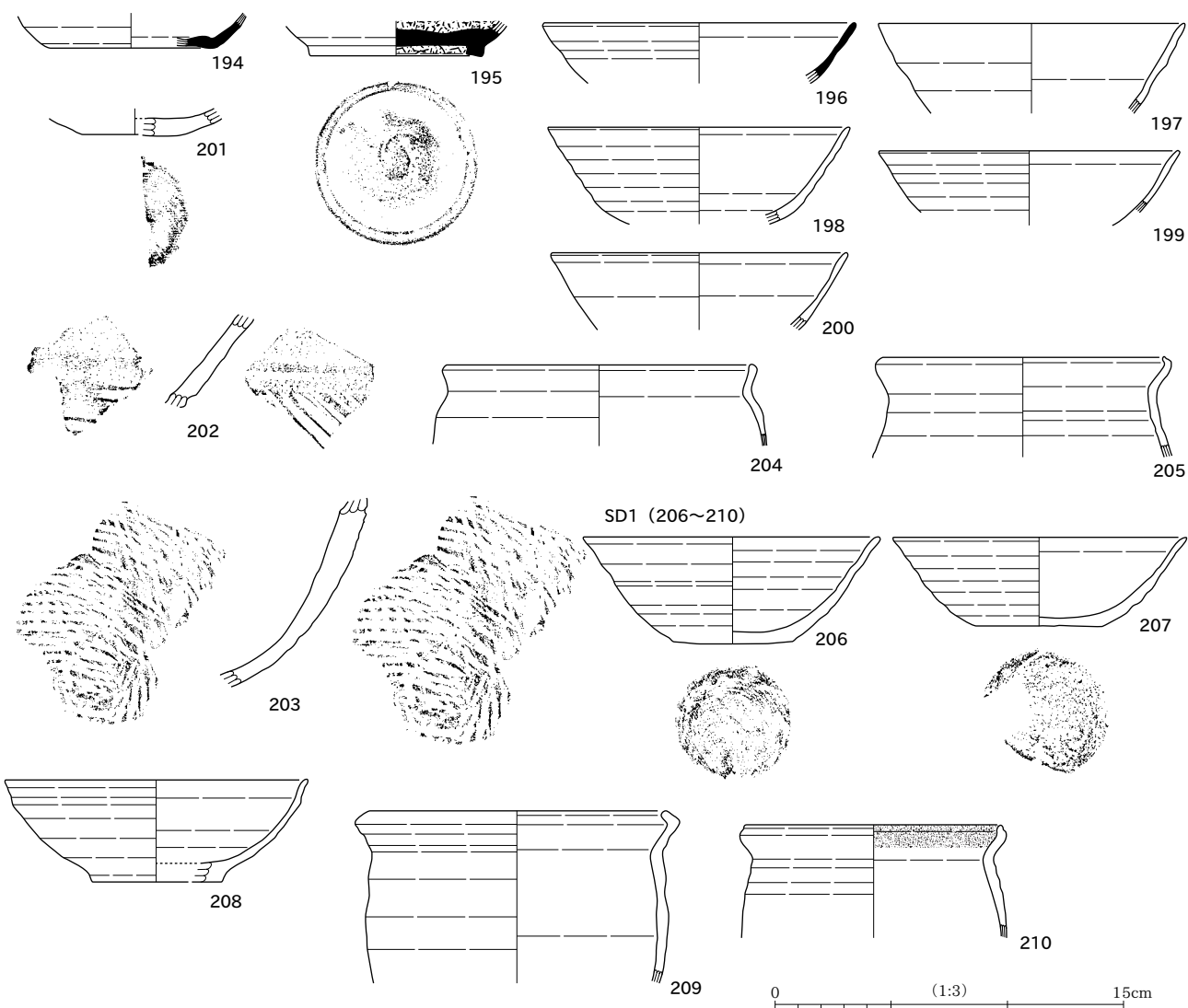


D区

SK11 (194)

SK80 (195~205)

SD1 (206~210)

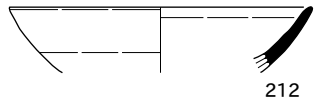


D区

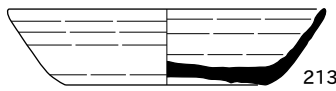
SD47 (211)



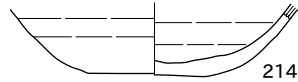
SD53 (212)



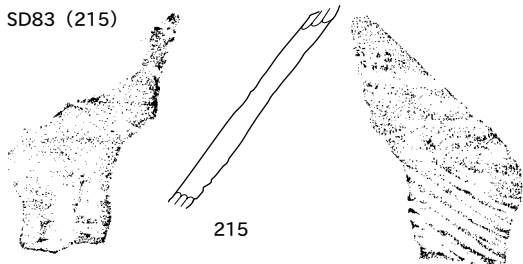
SD61 (213)



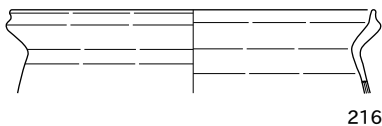
SD77 (214)



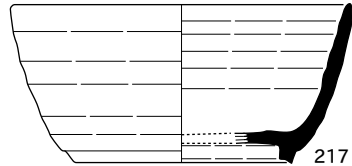
SD83 (215)



SD85 (216)



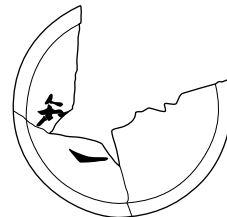
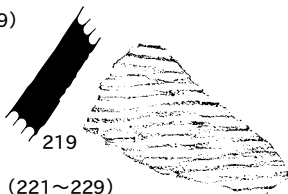
SD106 (217)



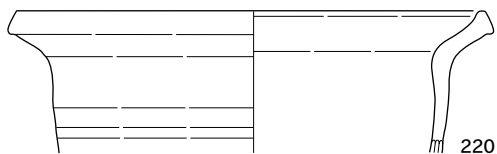
SP30 (218)



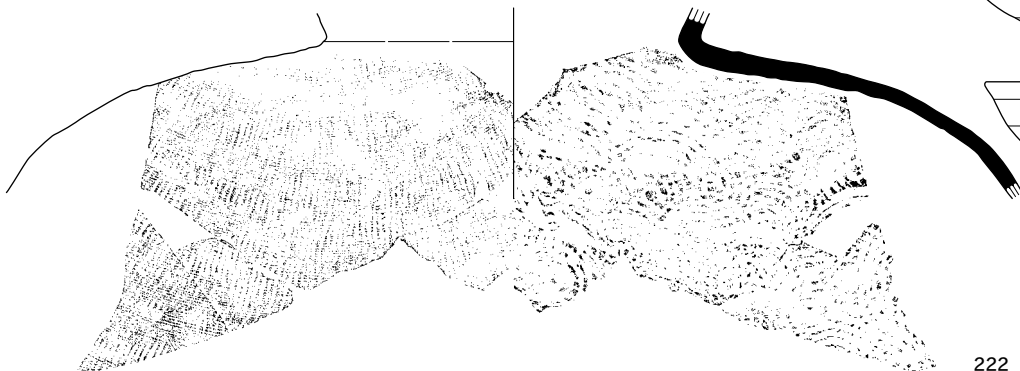
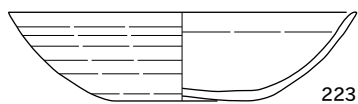
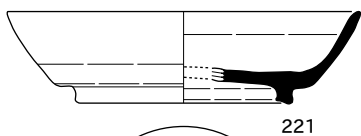
SP112 (219)



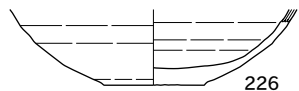
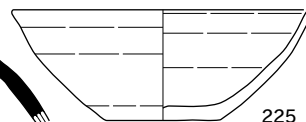
遺構間接合 (220)



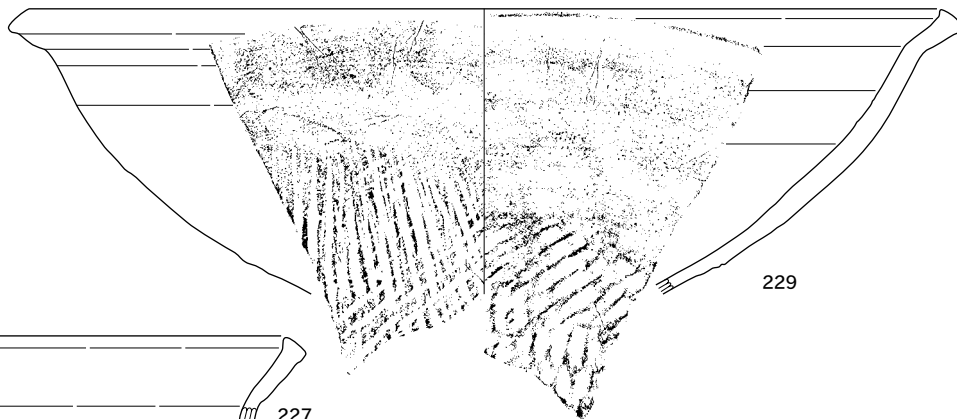
包含層 (221~229)



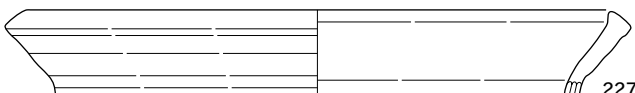
222



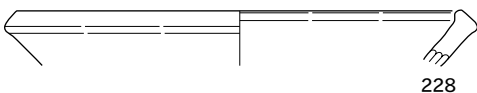
226



229

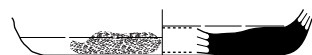


227

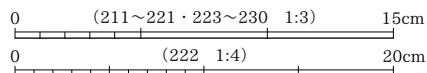


228

出土地不明 (230)



230

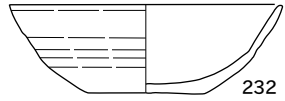


E区下層
SD1 (231)



231

SD2 (232)



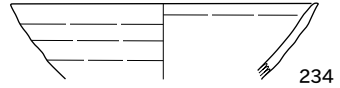
232

SD7 (233)



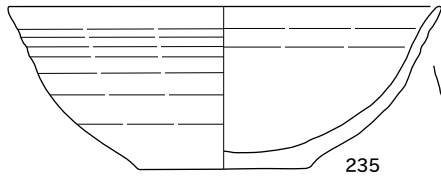
233

SD11 (234)

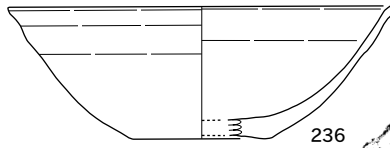


234

SD18 (235~239)



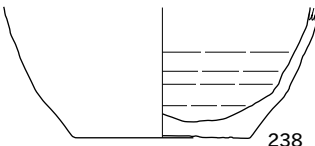
235



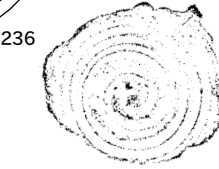
236



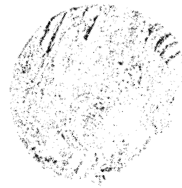
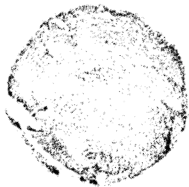
237



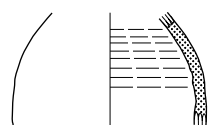
238



239

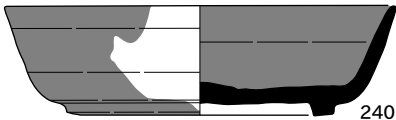


包含層 (242~250)



242

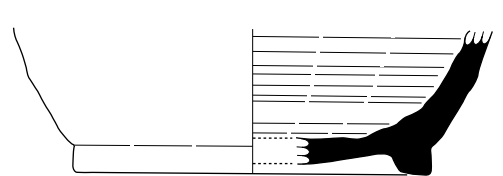
河川23 (240・241)



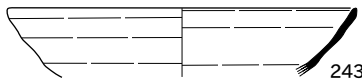
240



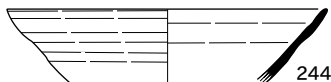
241



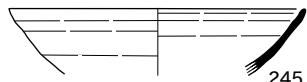
247



243



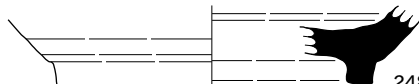
244



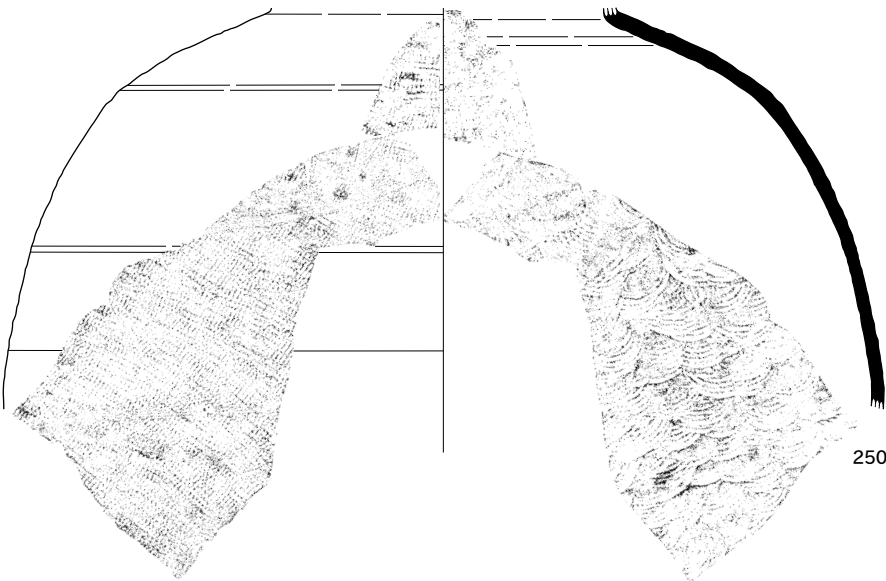
245



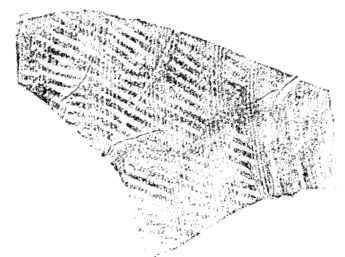
246



248



250



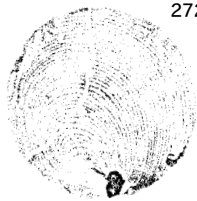
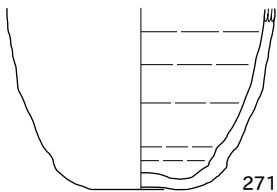
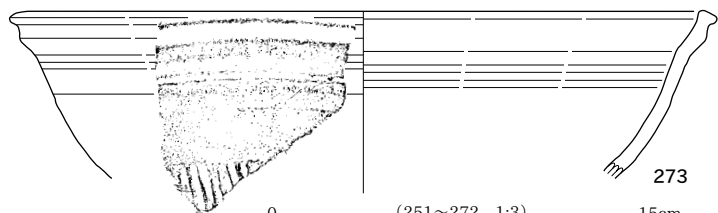
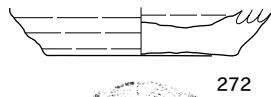
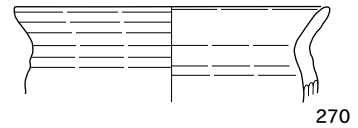
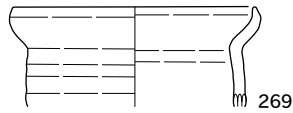
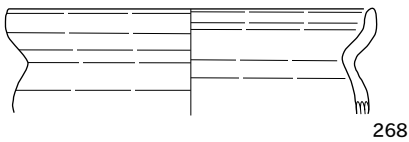
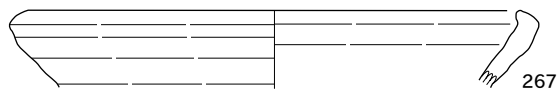
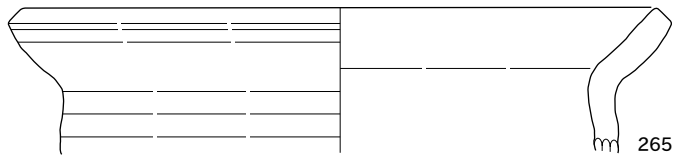
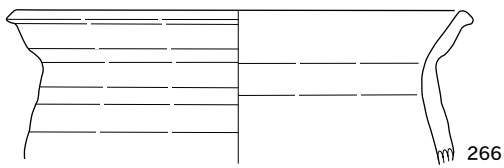
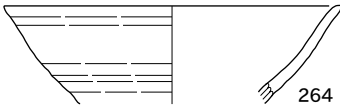
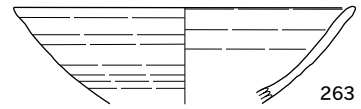
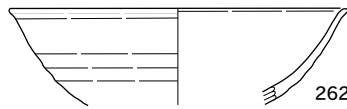
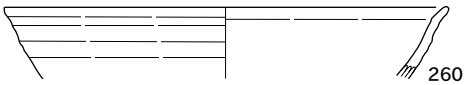
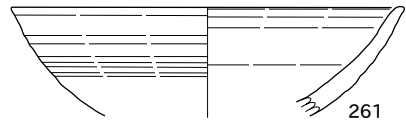
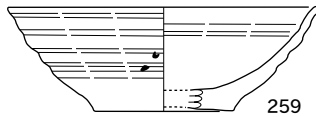
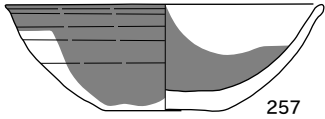
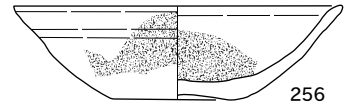
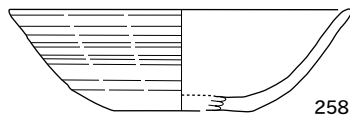
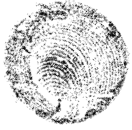
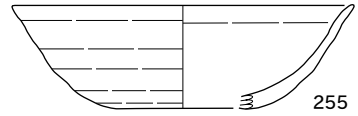
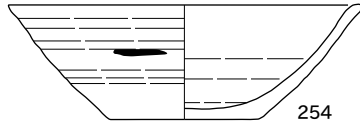
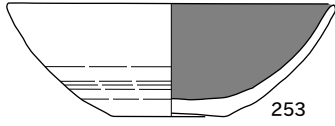
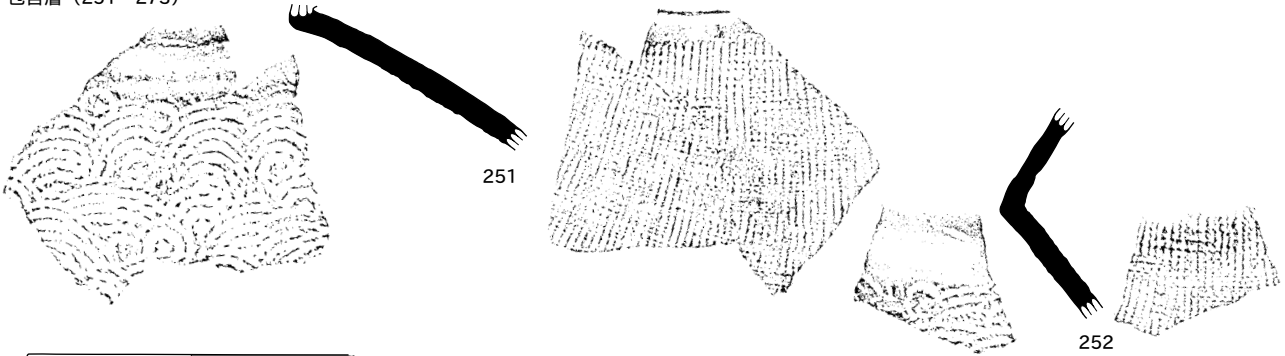
249



0 (231~249 1:3) 15cm

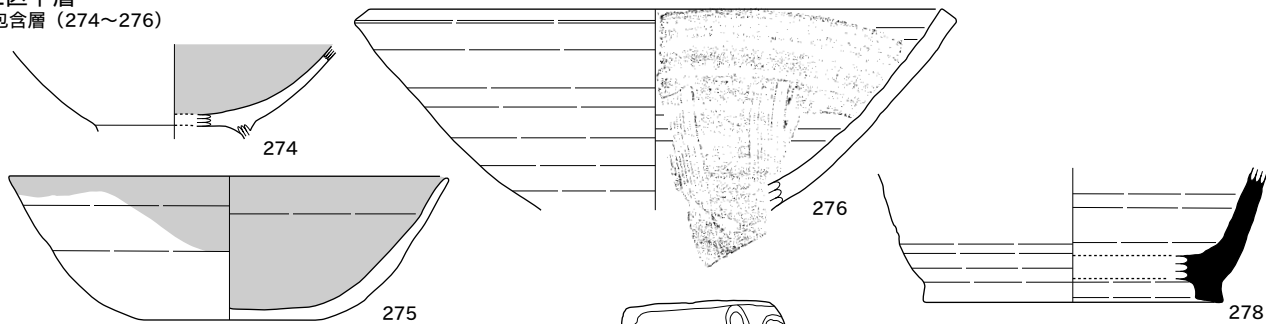
0 (250 1:6) 30cm

E区下層
包含層 (251~273)

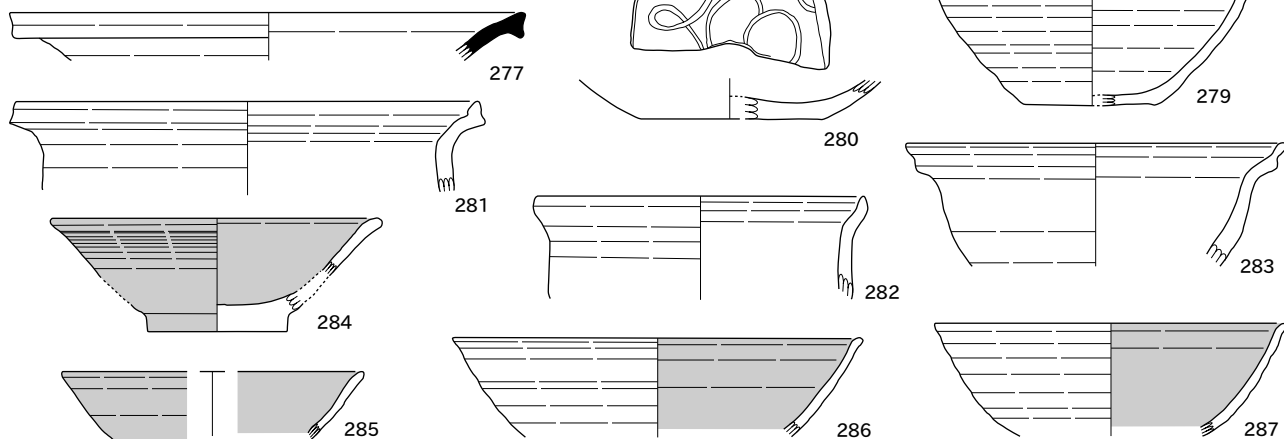


0 (251~272 1:3) 15cm
0 (273 1:4) 20cm

E区下層
包含層 (274~276)

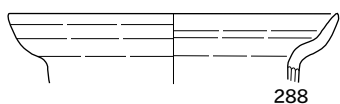


出土地不明 (277~287)

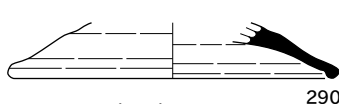


F区

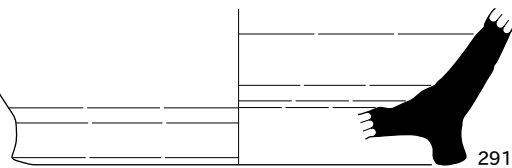
SD1 (288)



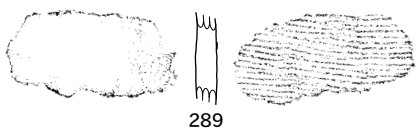
SD5 (290)



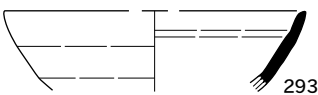
SD9 (291)



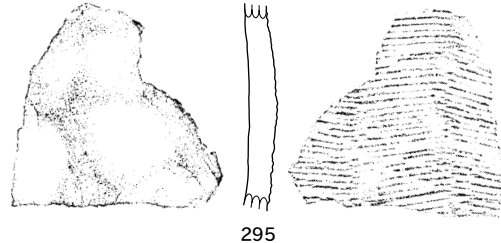
SD3 (289)



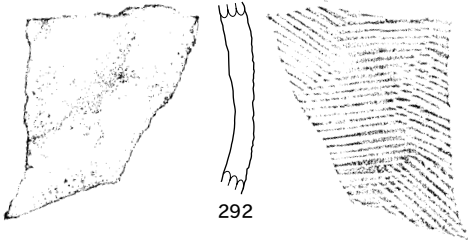
SD30 (293)



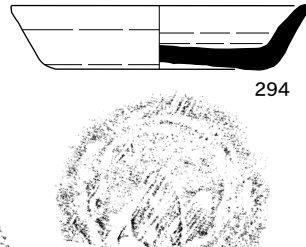
SD109 (295)



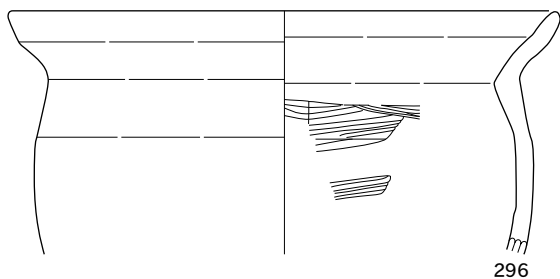
SD14 (292)



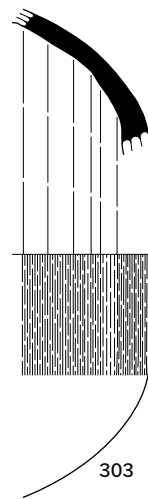
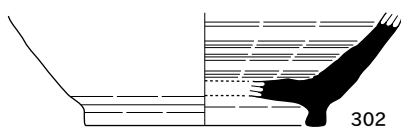
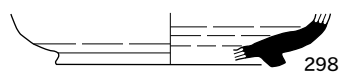
SD74 (294)



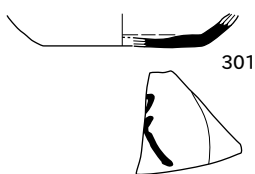
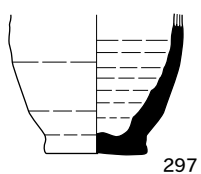
河川20 (296)



包含層 (298~303)



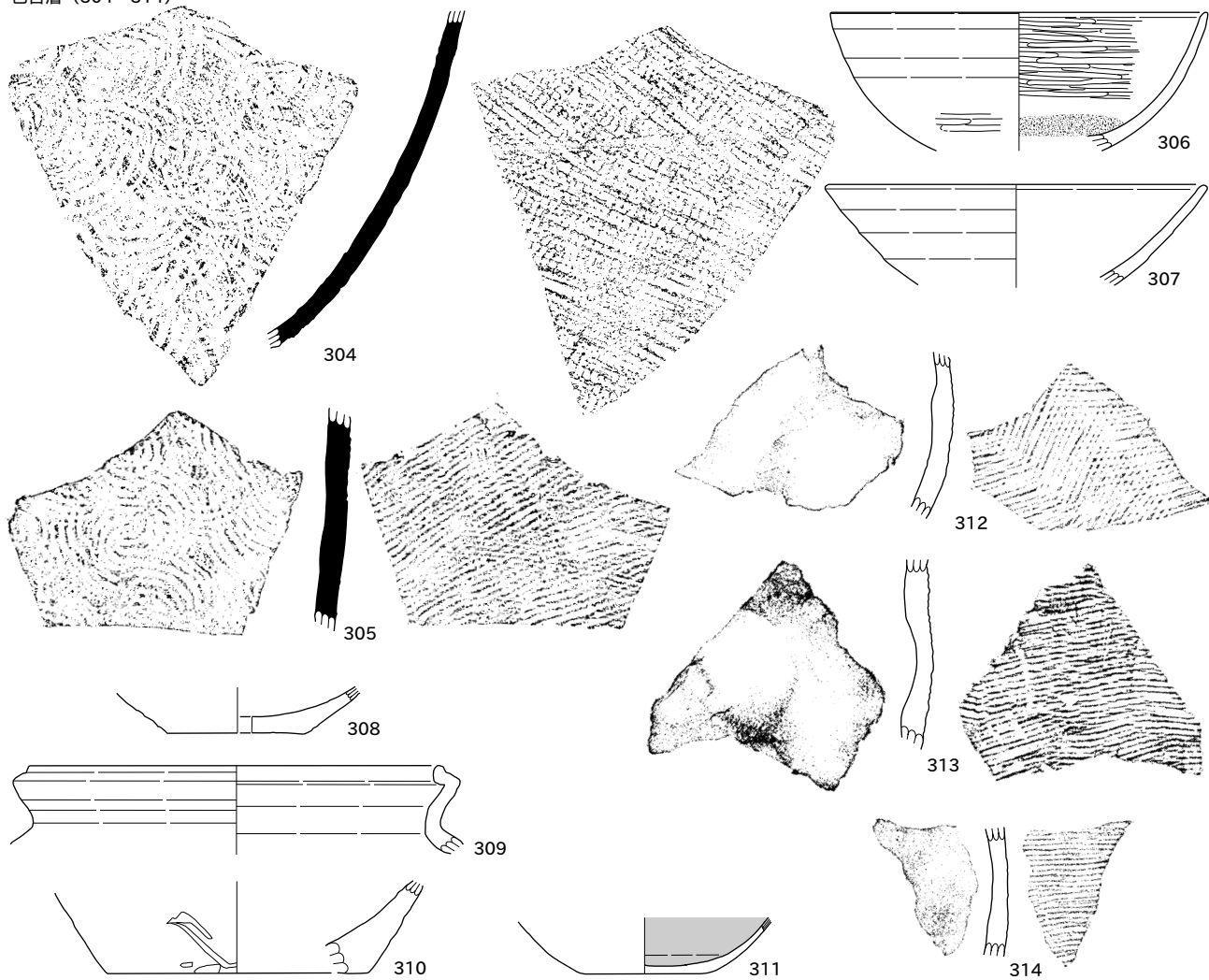
遺構間接合 (297)



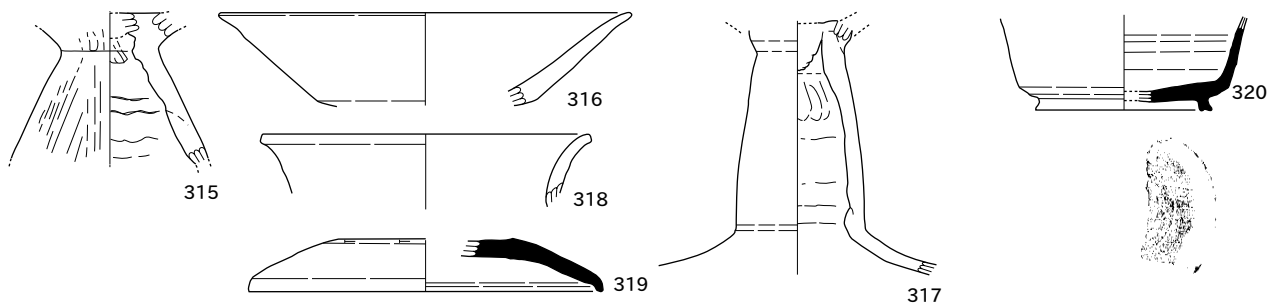
0 (274・275・277~303 1:3) 15cm

0 (276 1:4) 20cm

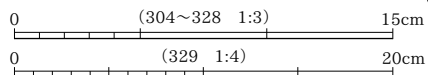
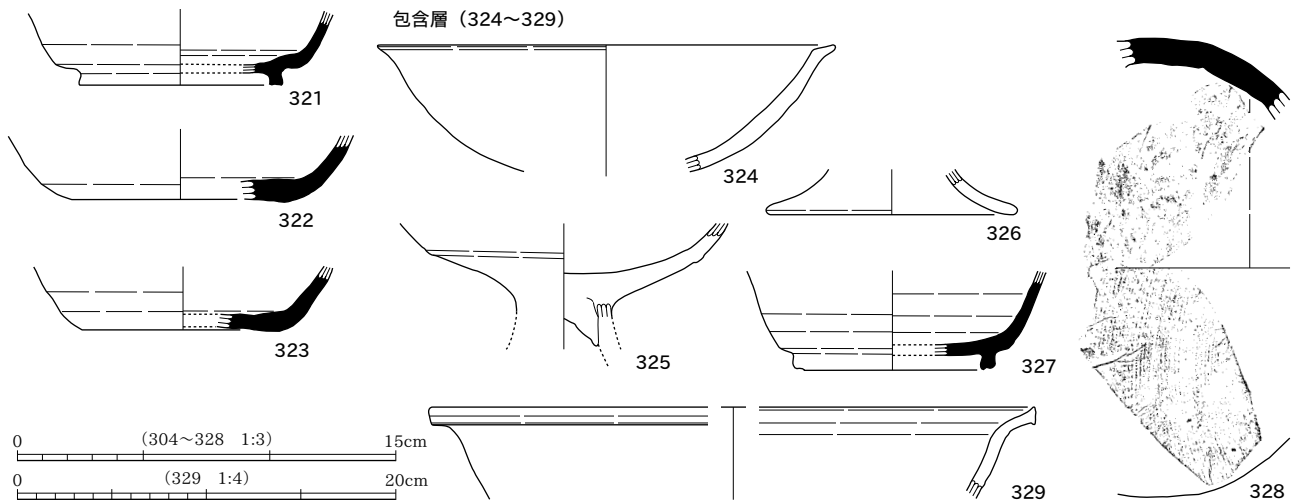
F区
包含層 (304~314)



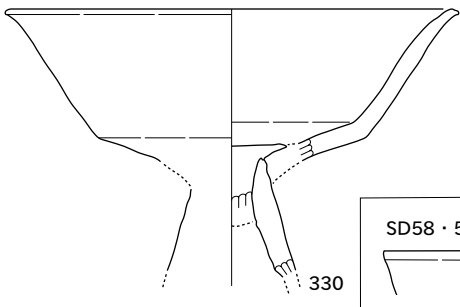
G区
河川9 (315~323)



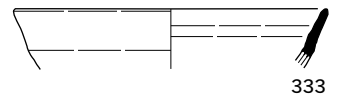
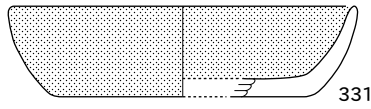
包含層 (324~329)



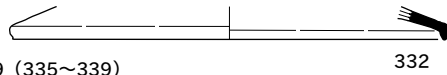
H区
包含層 (330)



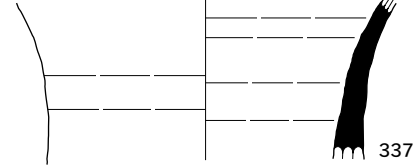
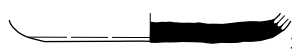
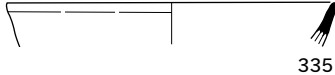
I区
SK25 (331)



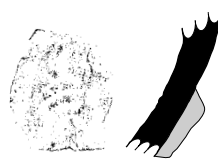
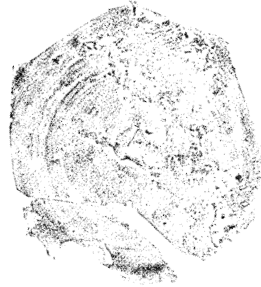
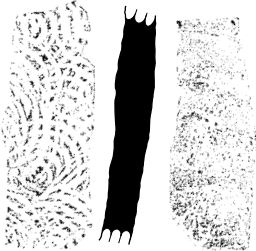
SX60・61 (332~334)



SD58・59 (335~339)



SP4 (340)

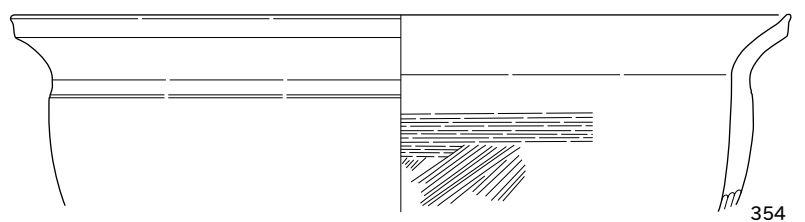
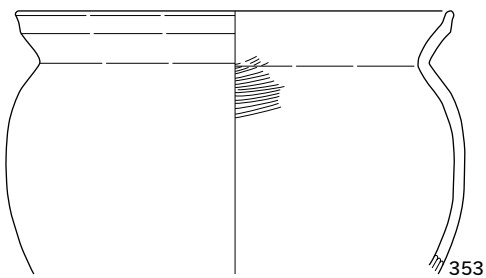
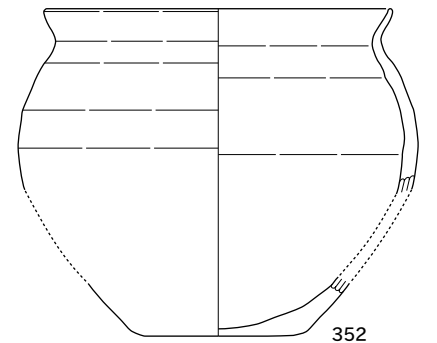
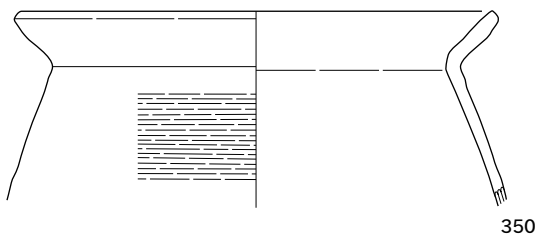
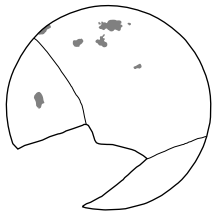
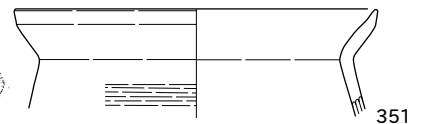
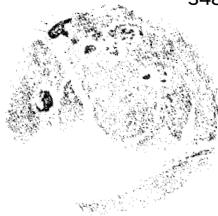
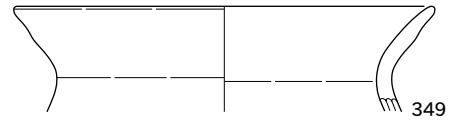
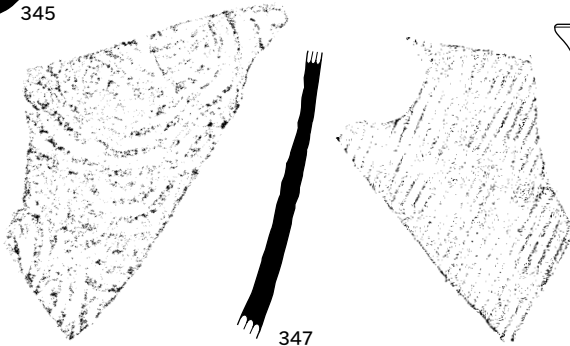
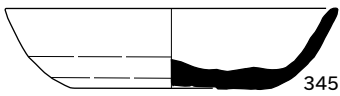
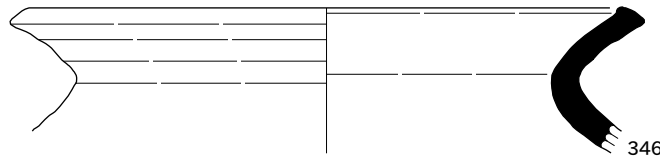
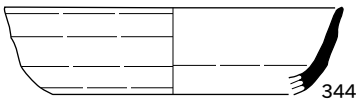
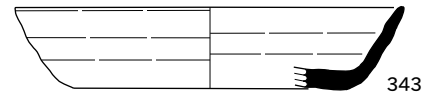
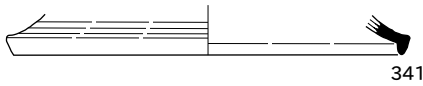


340

338

339

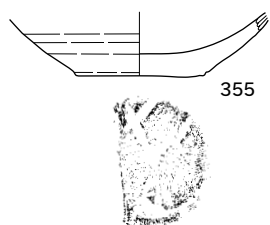
包含層 (341~354)



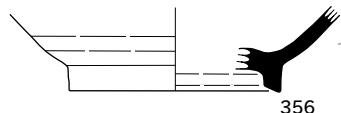
0 (1:3) 15cm

J区
SE87 (355)

SK15 (356~369)



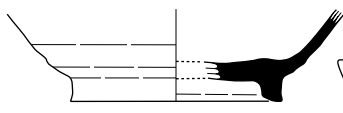
355



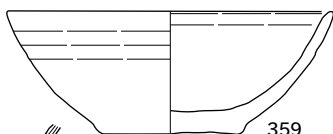
356



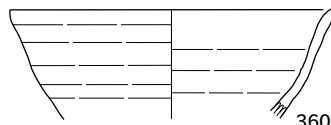
358



357



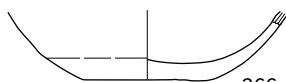
359



360



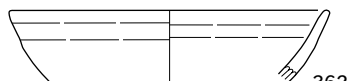
361



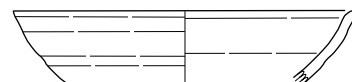
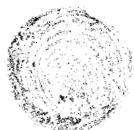
366



363



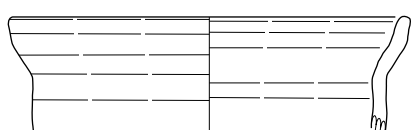
362



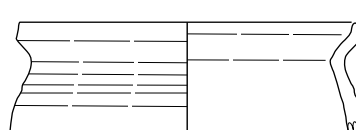
364



365



367

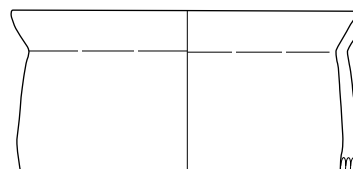


368



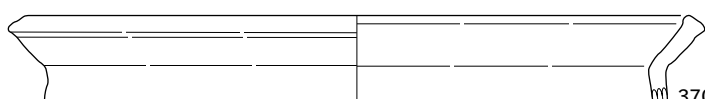
369

SD17 (372)

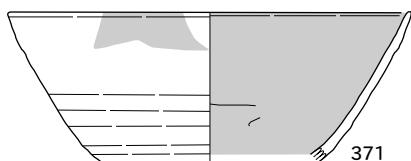


372

SK29 (370·371)

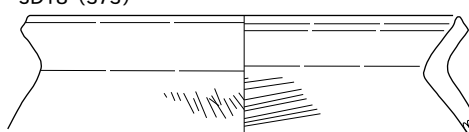


370



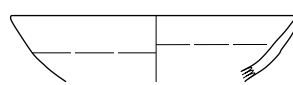
371

SD18 (373)

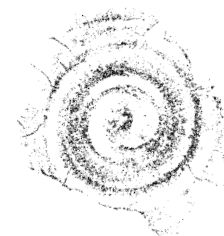


373

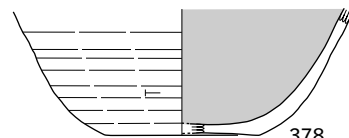
SD20 (374~378)



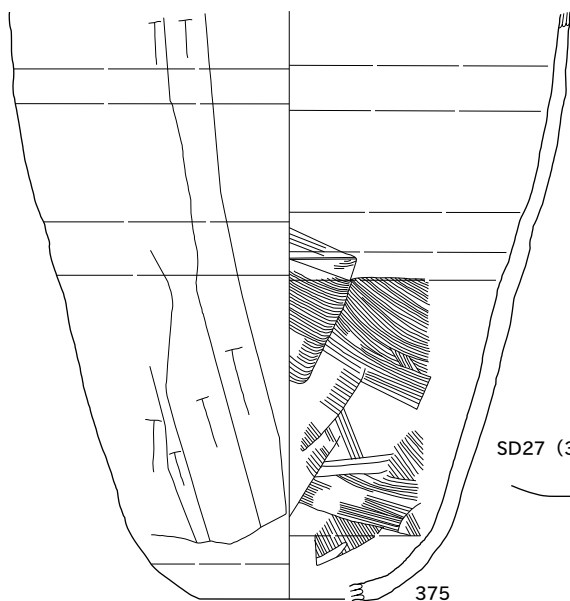
374



377

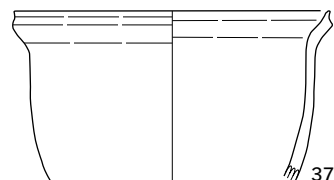


378



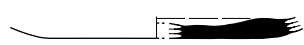
375

SD25 (379)

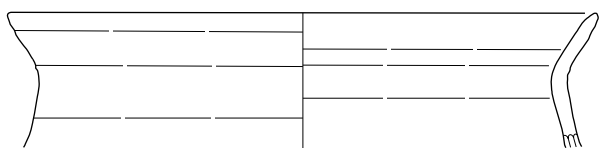


379

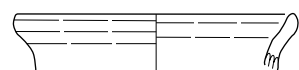
SD27 (380~382)



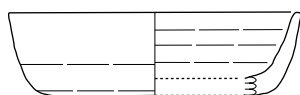
380



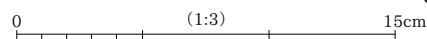
382



376

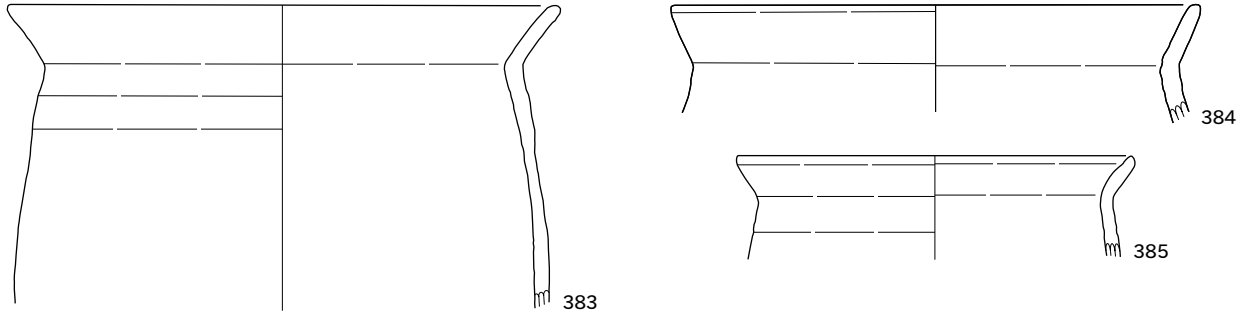


381

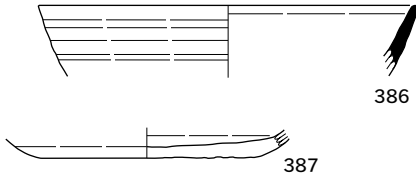


J区

SD27 (383~385)



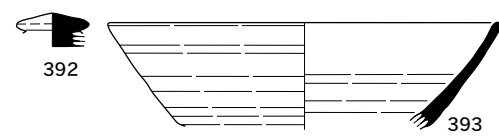
SD30 (386 · 387)



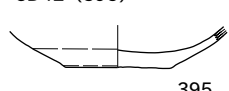
SD31 (388~391)



SD32 (392 · 393)



SD42 (395)



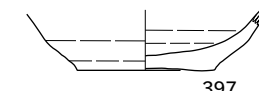
SD44 (396)



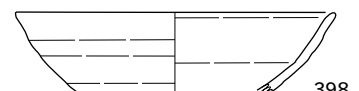
SD35 (394)



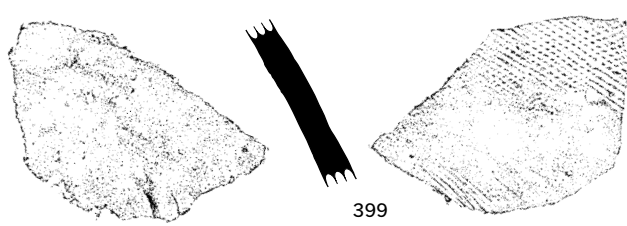
SD56 (397)



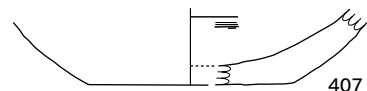
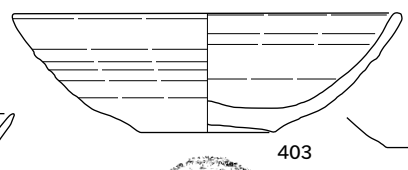
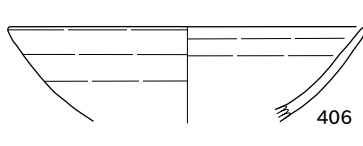
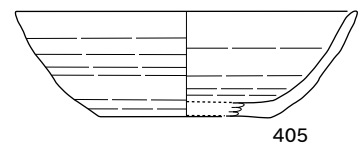
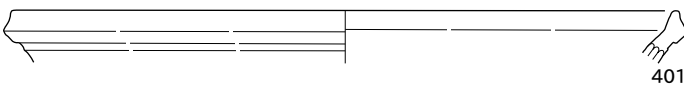
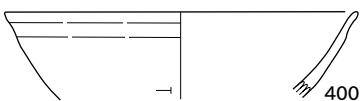
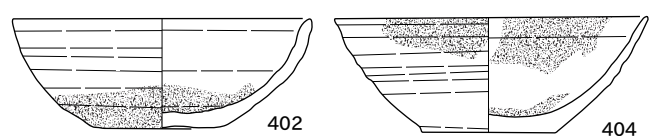
SD63 (398)



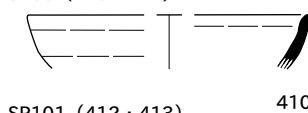
SD67 (399~401)



SD71 (402~407)



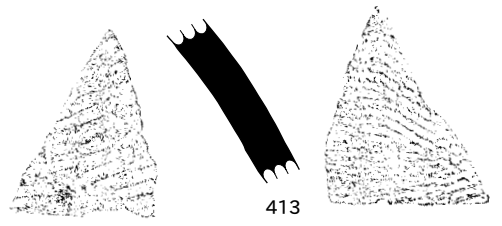
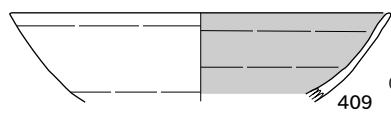
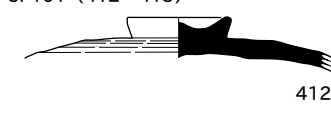
SP53 (410 · 411)



SD86 (408 · 409)



SP101 (412 · 413)



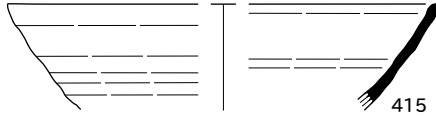
0 (383~398 · 400~413 1:3) 15cm 0 (399 1:4) 20cm

J区
SP102 (414)

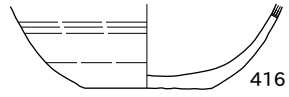
遺構間接合 (415~419)



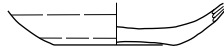
414



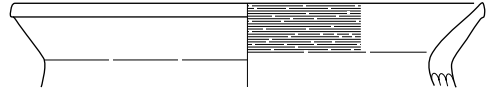
415



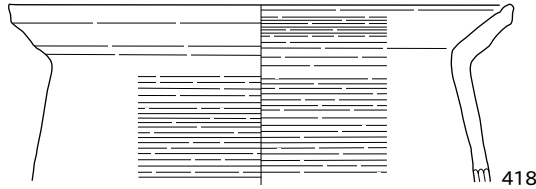
416



417

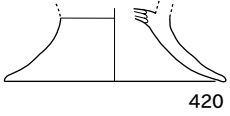


419



418

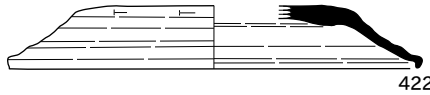
包含層 (420~433)



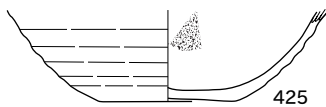
420



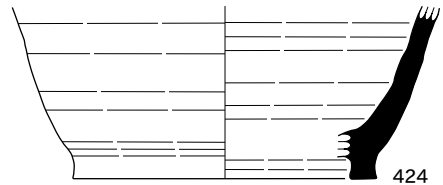
421



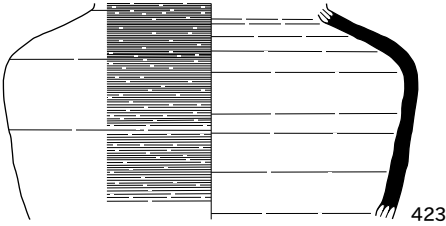
422



425



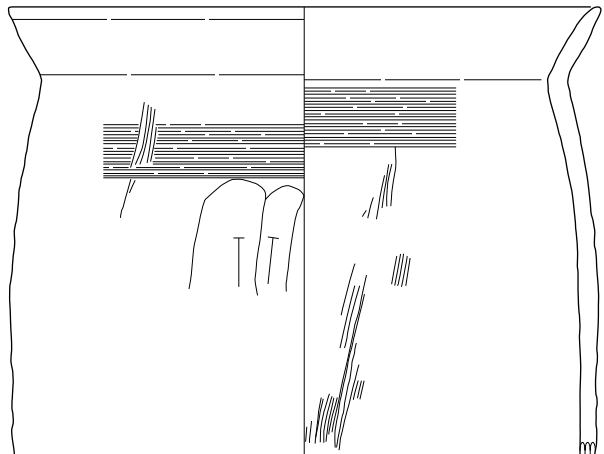
424



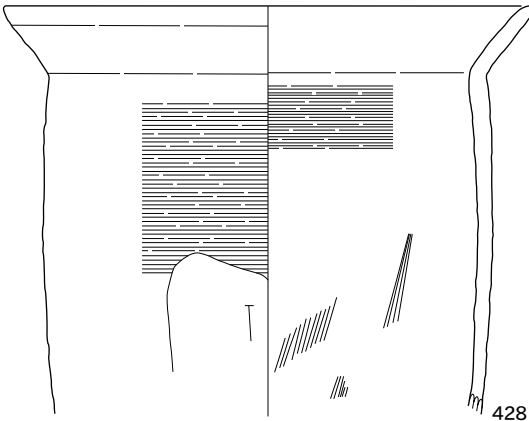
423



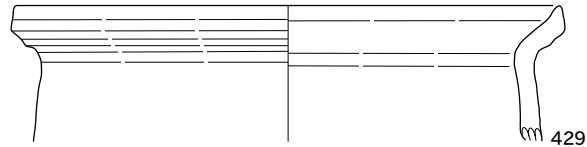
426



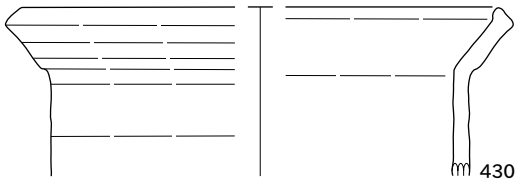
427



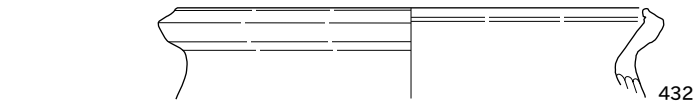
428



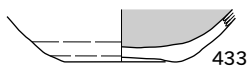
429



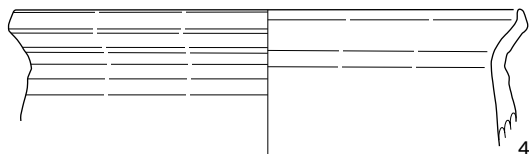
430



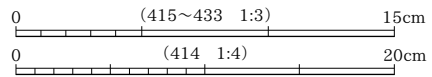
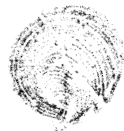
432



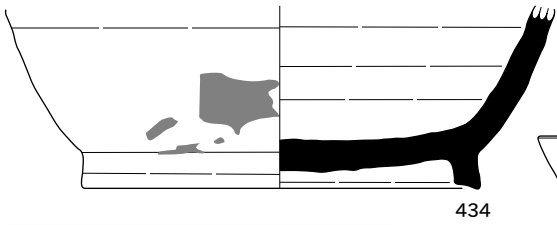
433



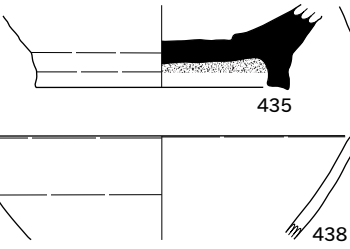
431



K区
SK1 (434·435)

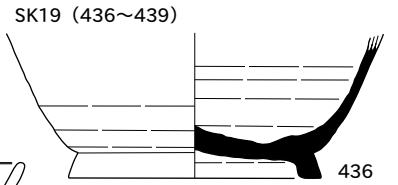


434

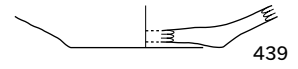


435

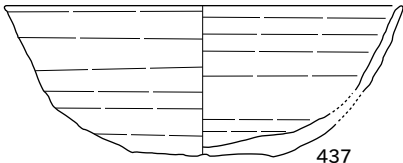
438



436

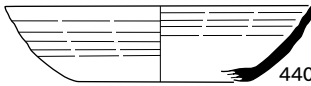


439

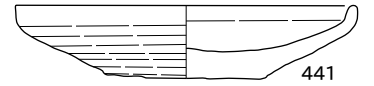


437

SK74 (440·441)



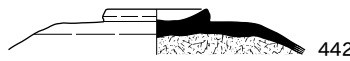
440



441



SK77 (442)



442



SK110 (444)



444

SK116 (445)



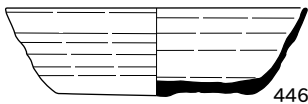
445

SK81 (443)

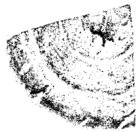


443

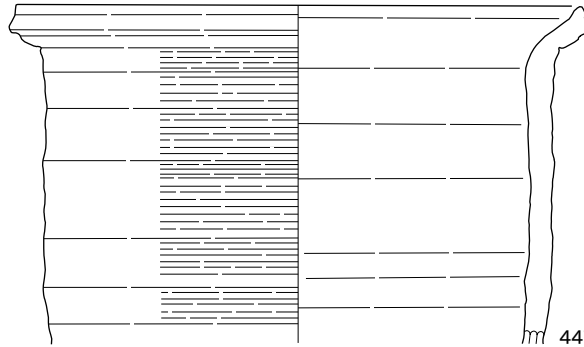
SK126 (446)



446

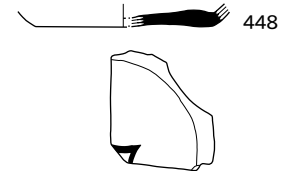


SK181 (447)



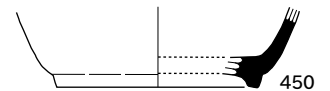
447

SK185 (448)



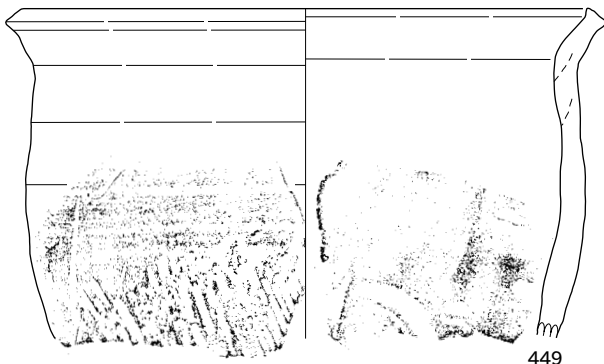
448

SK241 (450)



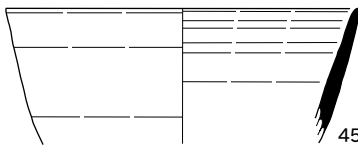
450

SK204 (449)



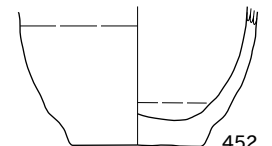
449

SD3 (451)



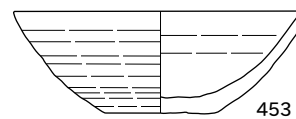
451

SD7 (452)



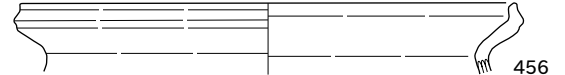
452

SD21 (453)



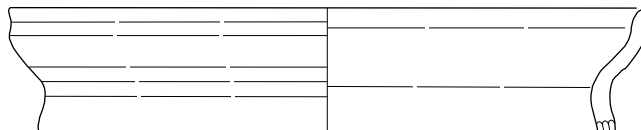
453

SD41 (456)



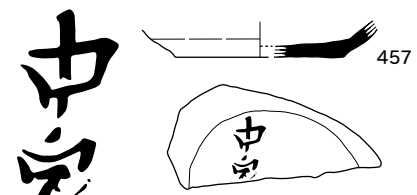
456

SD22 (454)



454

SD47 (457)



457

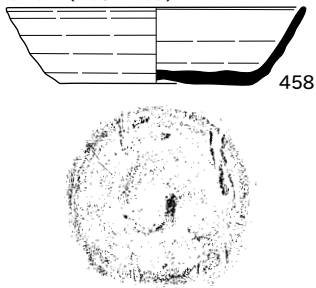
SD23 (455)



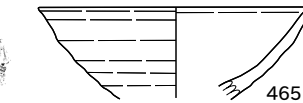
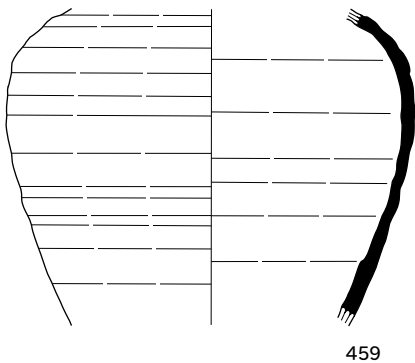
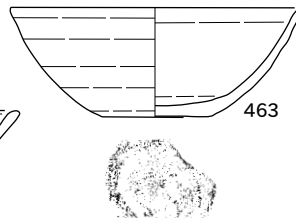
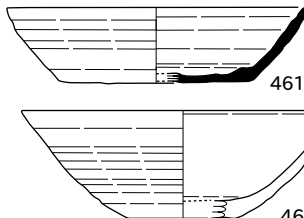
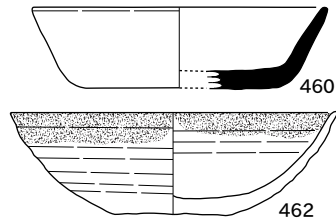
455



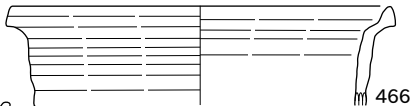
K区
SD51 (458·459)



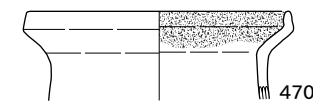
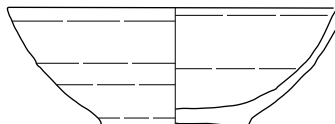
SD76 (460~465)



SD87 (466)



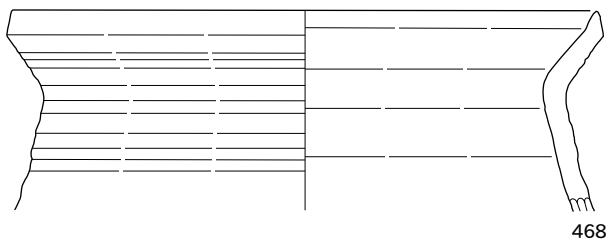
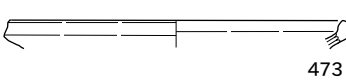
SD90 (467~471)



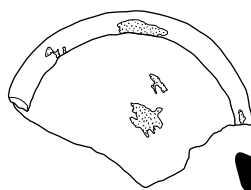
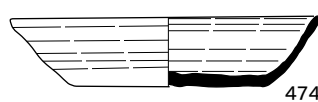
SD99 (472)



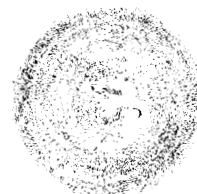
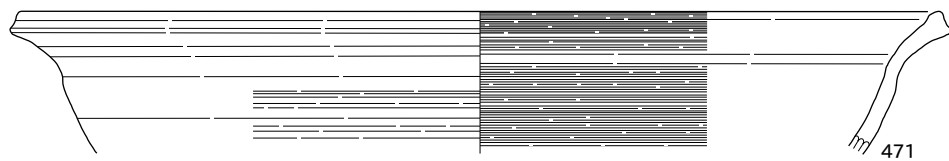
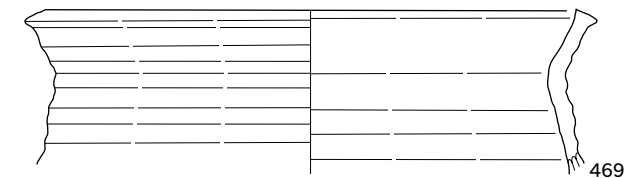
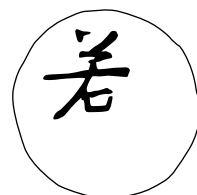
SD186 (473)



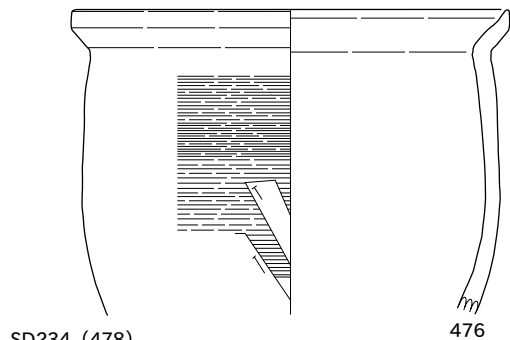
SD193 (474·475)



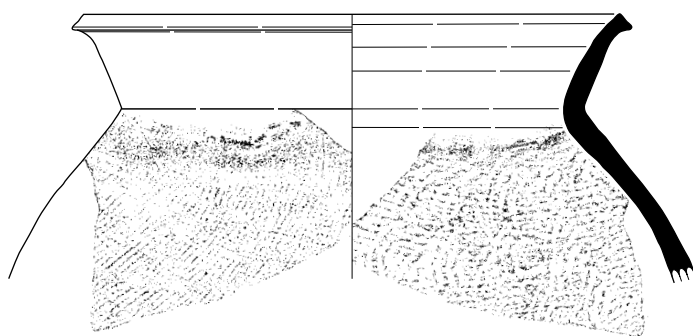
若



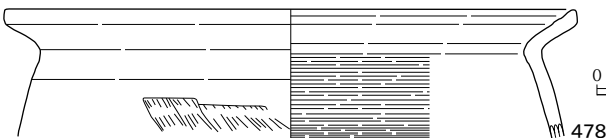
SD216 (476)



SD223 (477)



SD234 (478)



0 (474墨書 1:1) 3cm

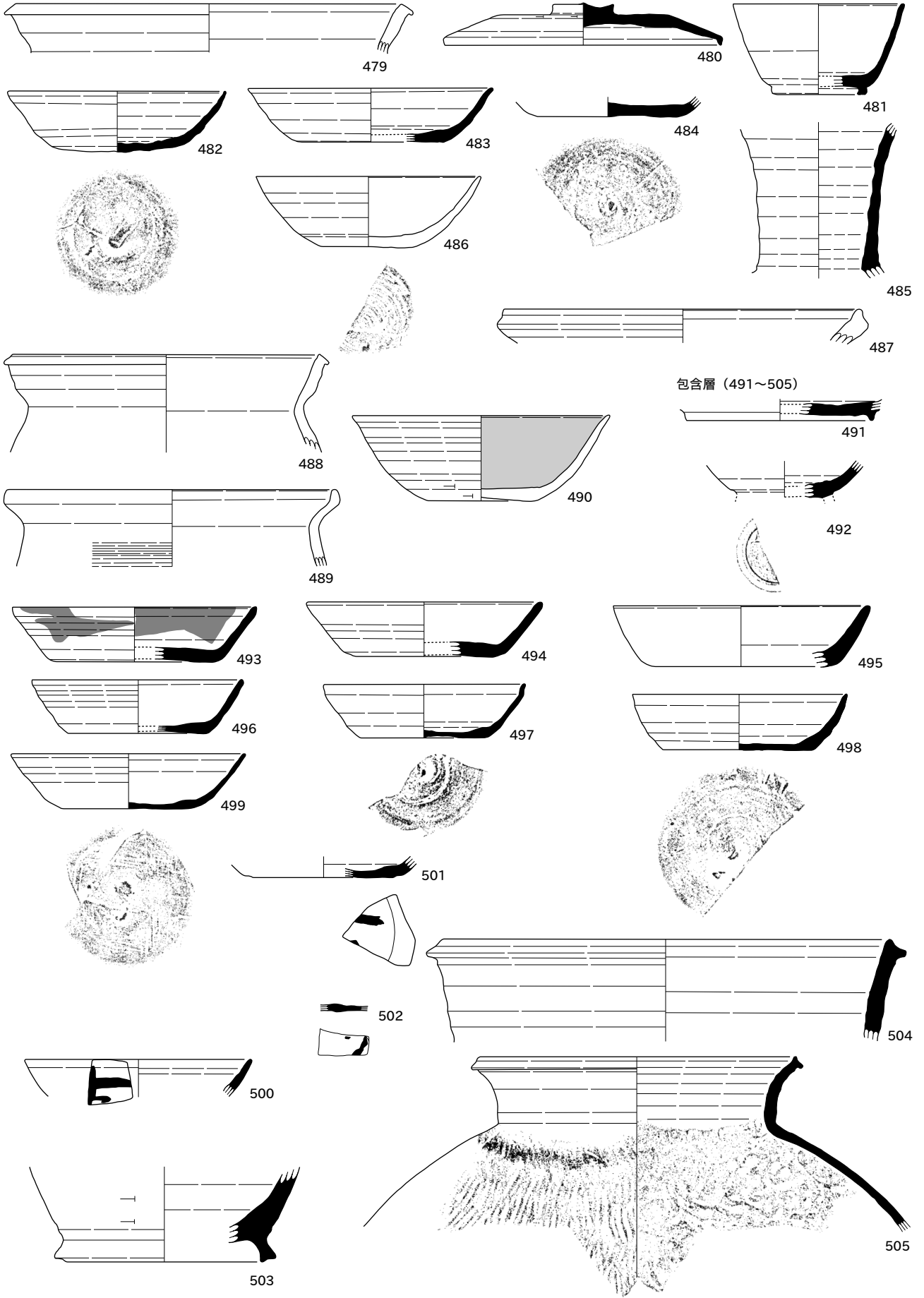
0 (458~476·478 1:3) 15cm

0 (477 1:4) 20cm

K区
SP8 (479)

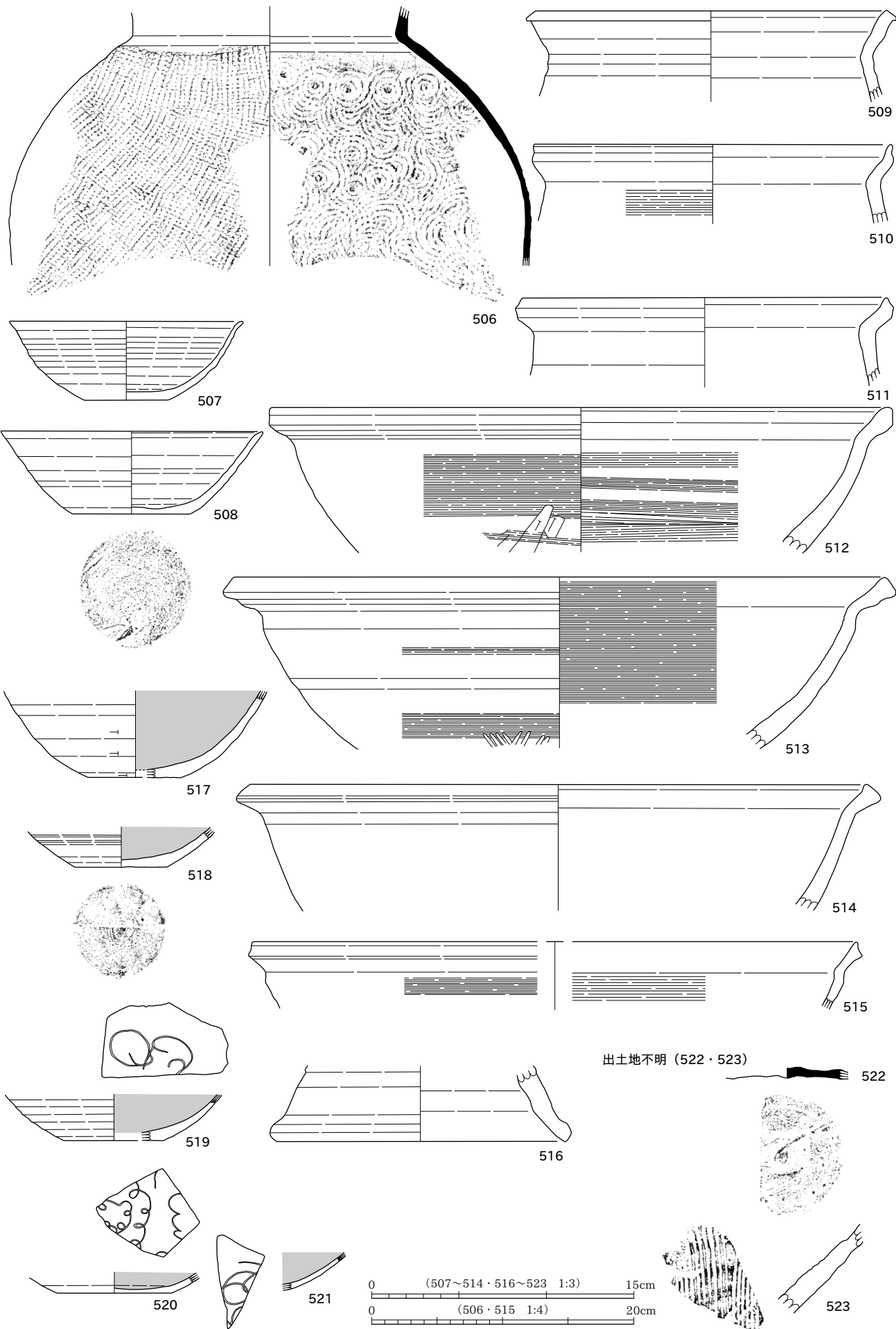
SP135 (480)

遺構間接合 (481~490)

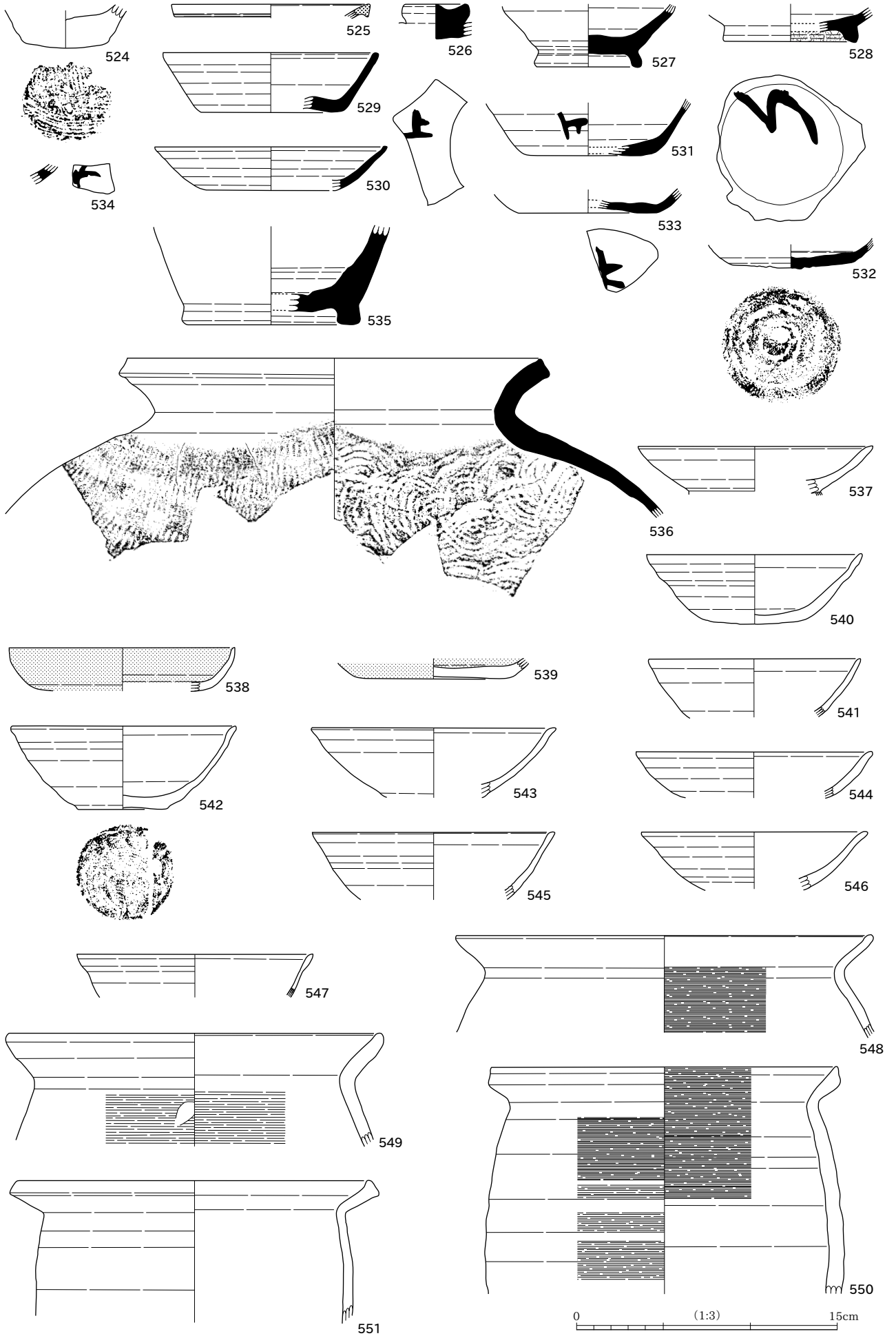


0 (479~504 1:3) 15cm
 0 (505 1:4) 20cm

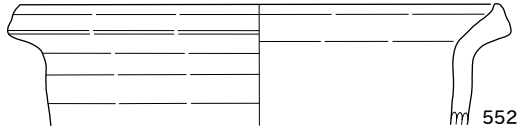
K区
包含層 (506~521)



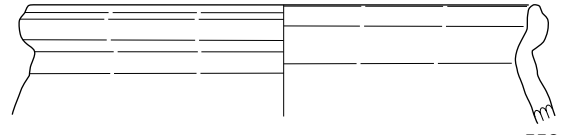
立会い (524~551)



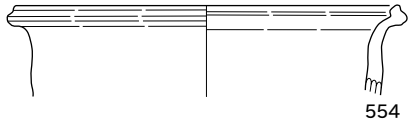
立会い (552~568)



552



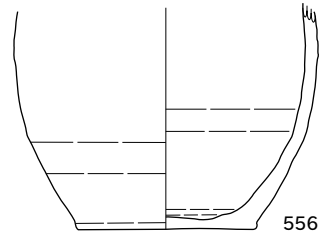
553



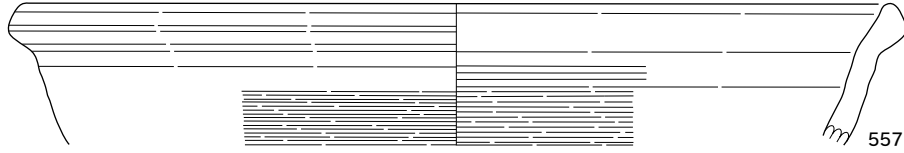
554



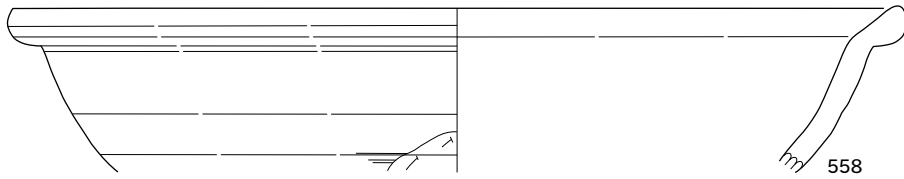
555



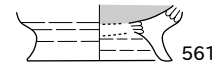
556



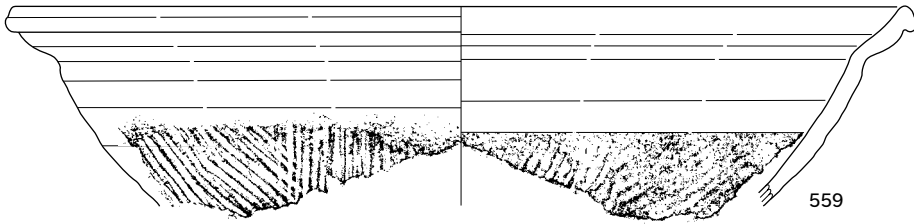
557



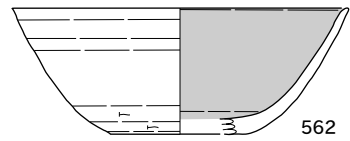
558



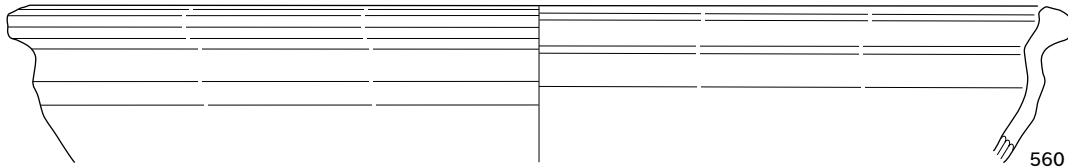
561



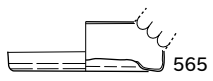
559



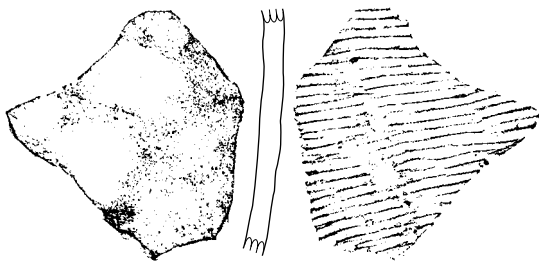
562



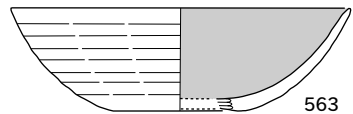
560



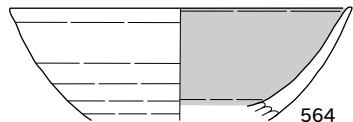
565



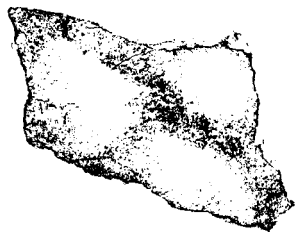
566



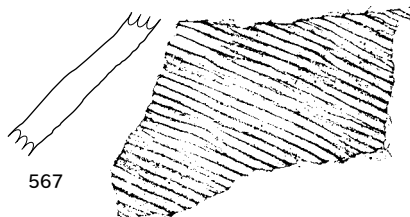
563



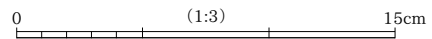
564



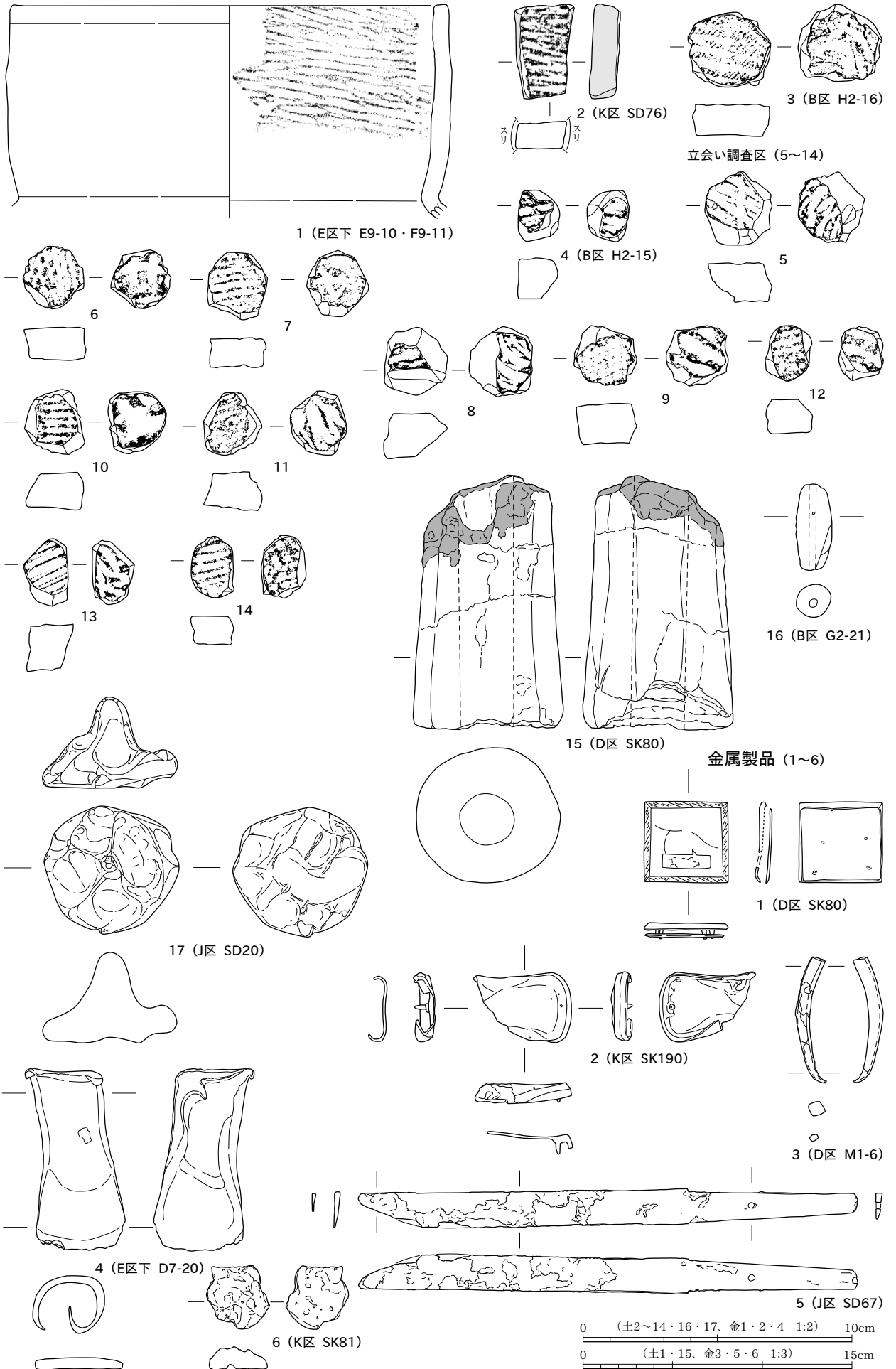
567



568



土製品 (1~17)



金属製品 (7~11)



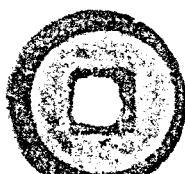
7 (C区上 E3-5)



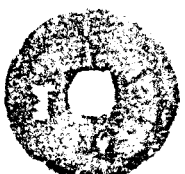
8 (E区上 E8-13)



9 (立会い)

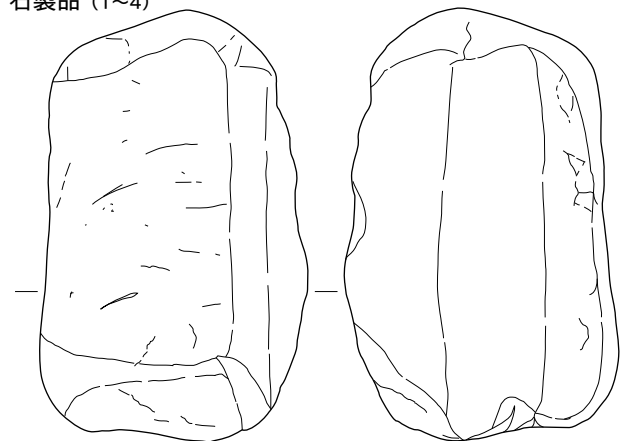


10 (C区上 SP19)

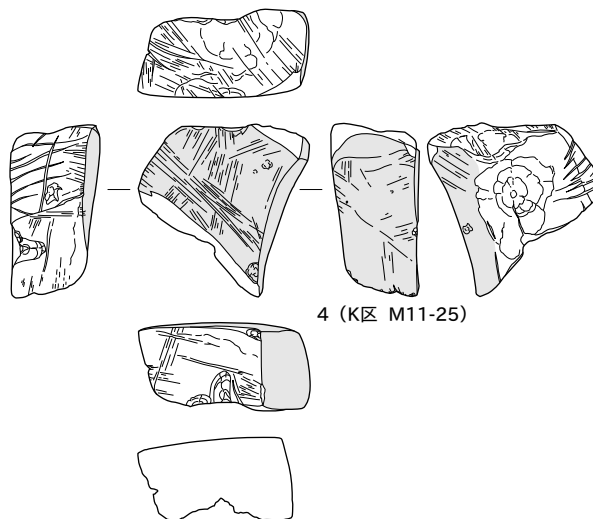


11 (F区 SD5)

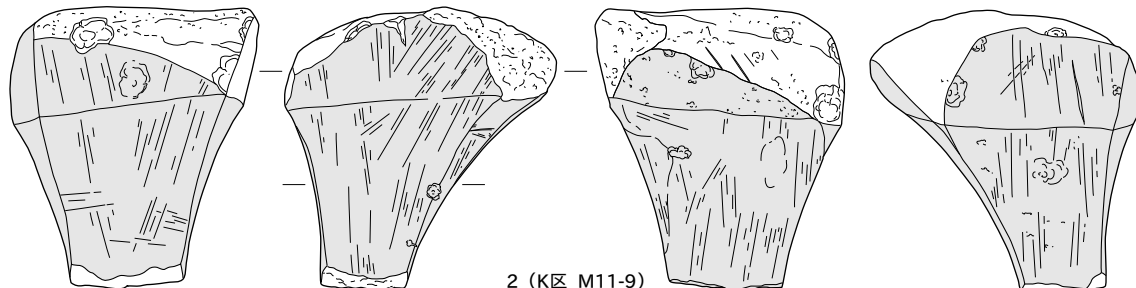
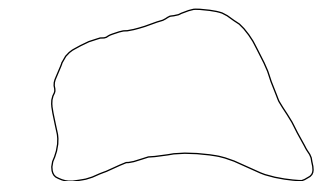
石製品 (1~4)



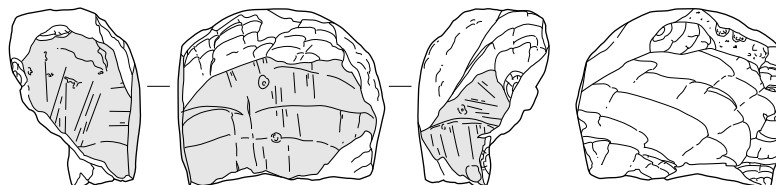
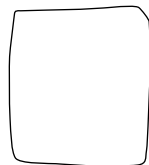
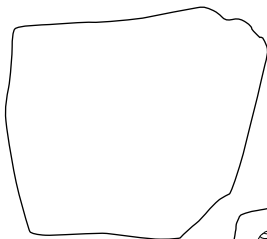
1 (C区上 SD6)



4 (K区 M11-25)



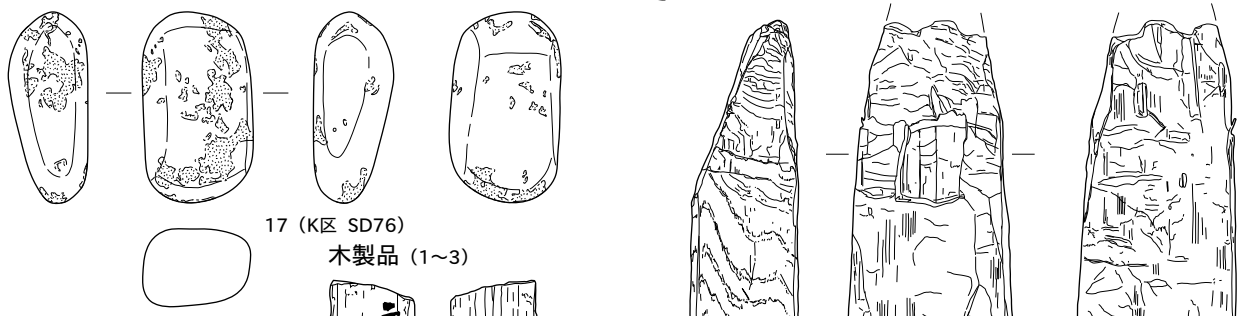
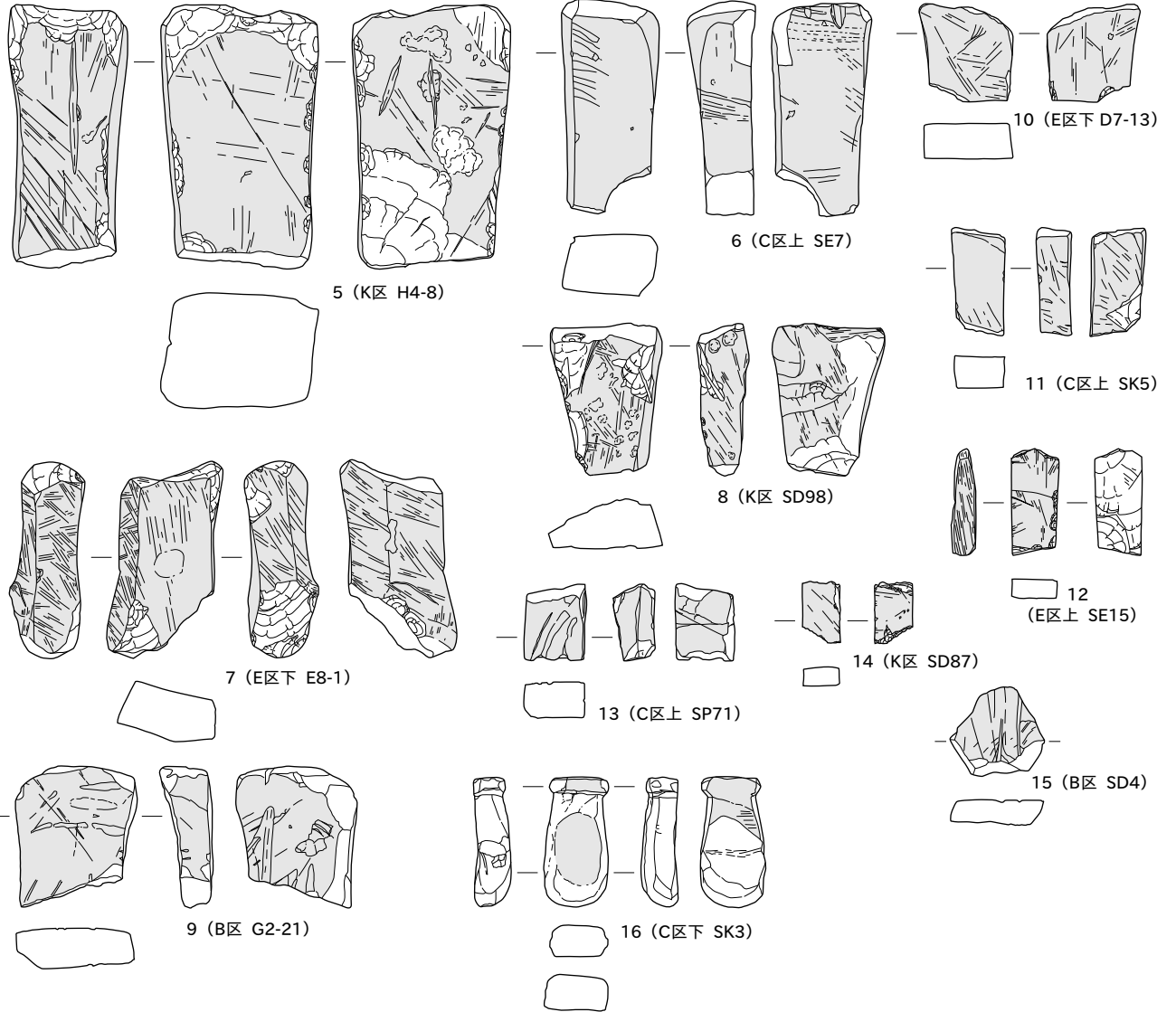
2 (K区 M11-9)



3 (I区 SK47)

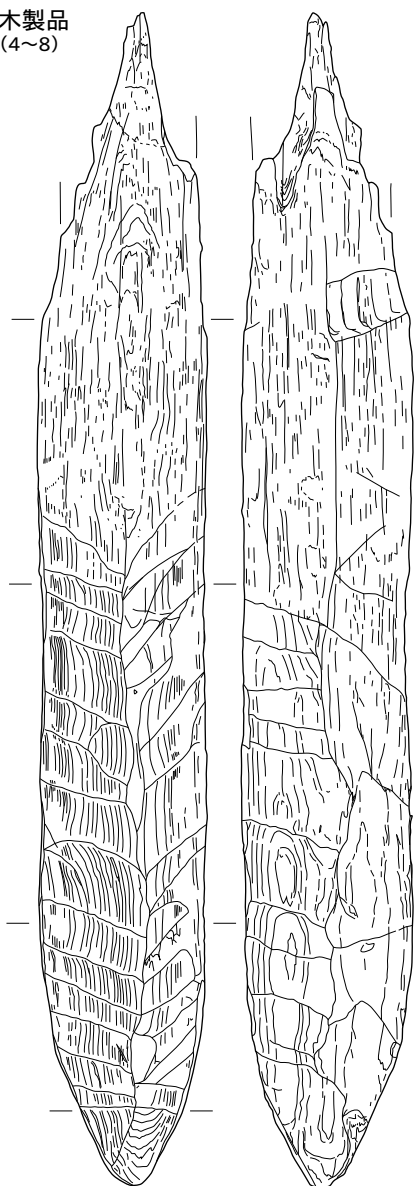
0 (金7~11 1:1) 3cm 0 (石1~4 1:3) 15cm

石製品 (5~17)



0 (木・2 1:2) 10cm
 0 (石5~17, 木3 1:3) 15cm

木製品
(4~8)

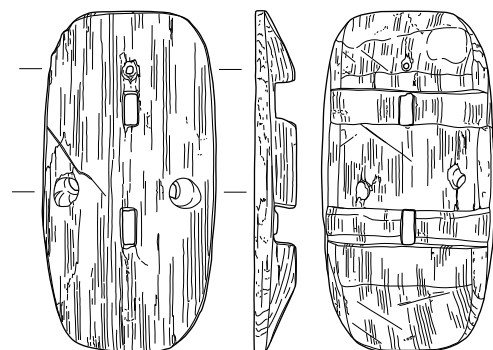
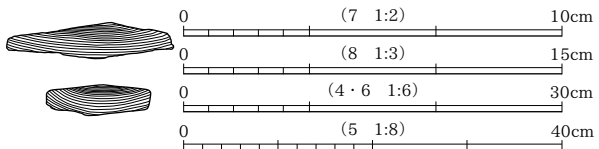


4 (B区 SD12)

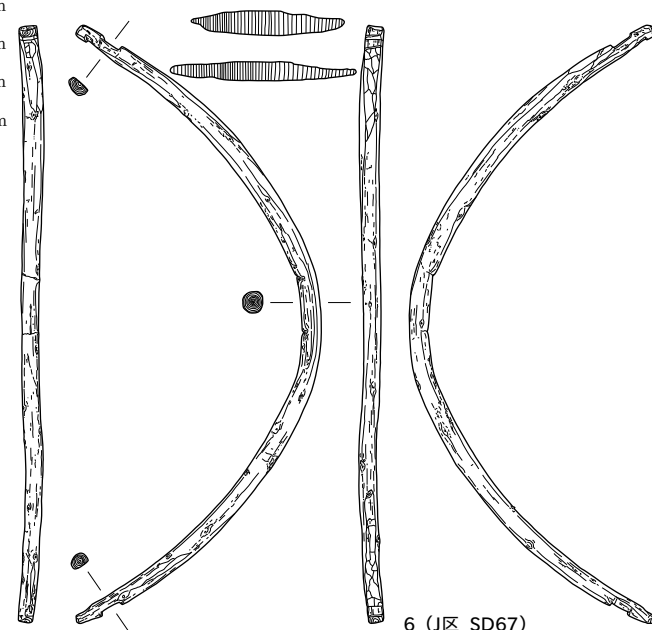
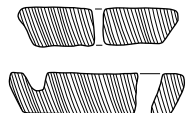
5 (F区 SD10)



7 (C区上 SE3)



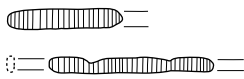
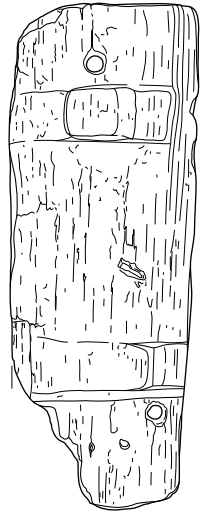
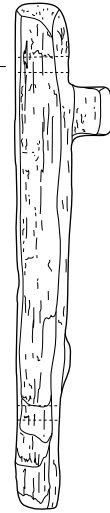
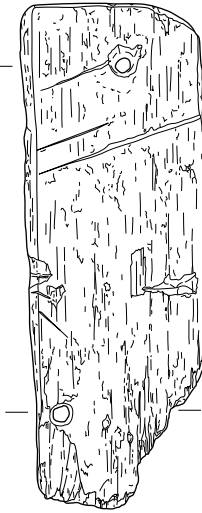
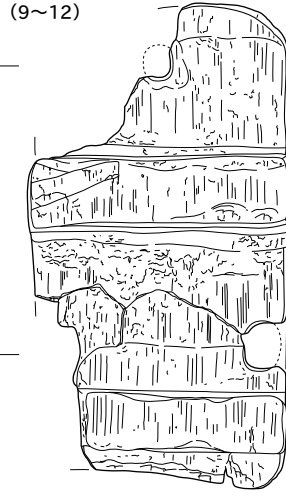
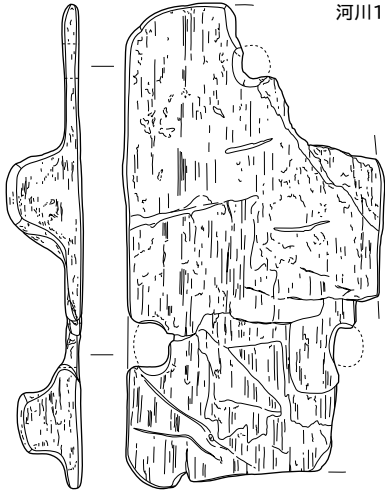
8 (C区下 河川23)



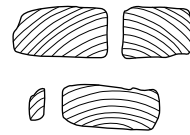
6 (J区 SD67)

木製品 (9~24)

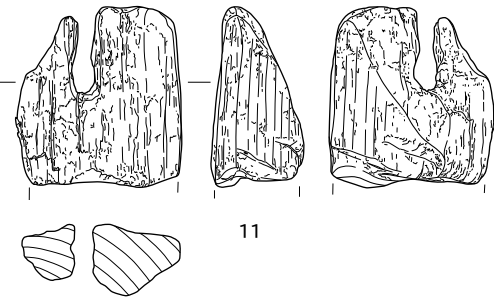
G区
河川10 (9~12)



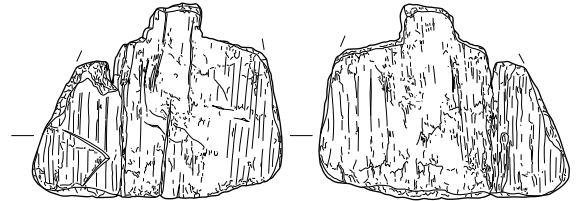
9



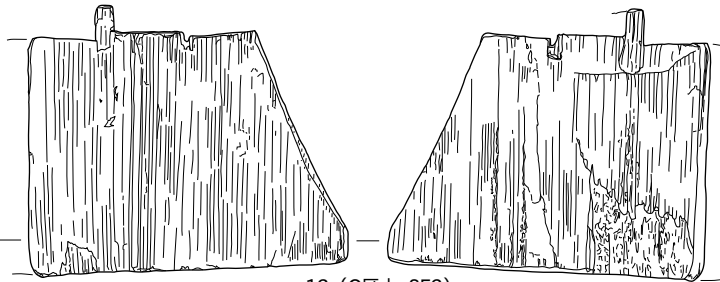
10



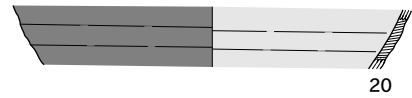
11



12

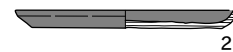


13 (C区上 SE3)

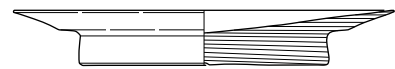


20

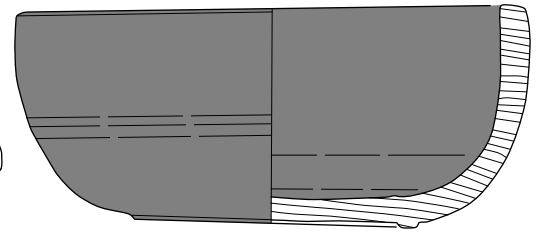
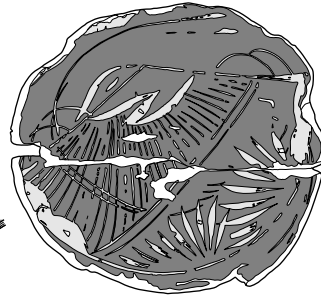
C区上
SE5 (21・22)



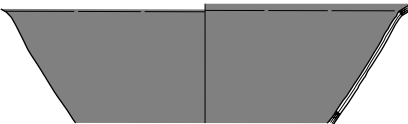
21



14 (K区 SK74)



22



15 (C区下 SD51)



16 (C区上 SE2)



23 (H区 河川12)



17 (C区上 SE4)

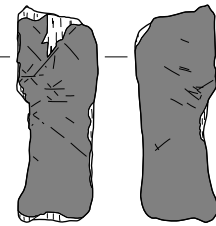
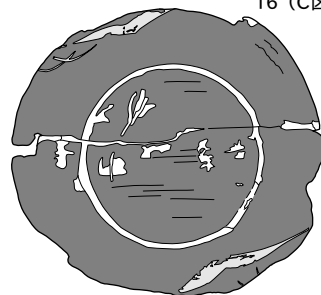


18 (J区 90トレ)

J区
SD67 (19・20)

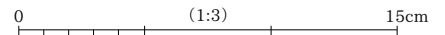


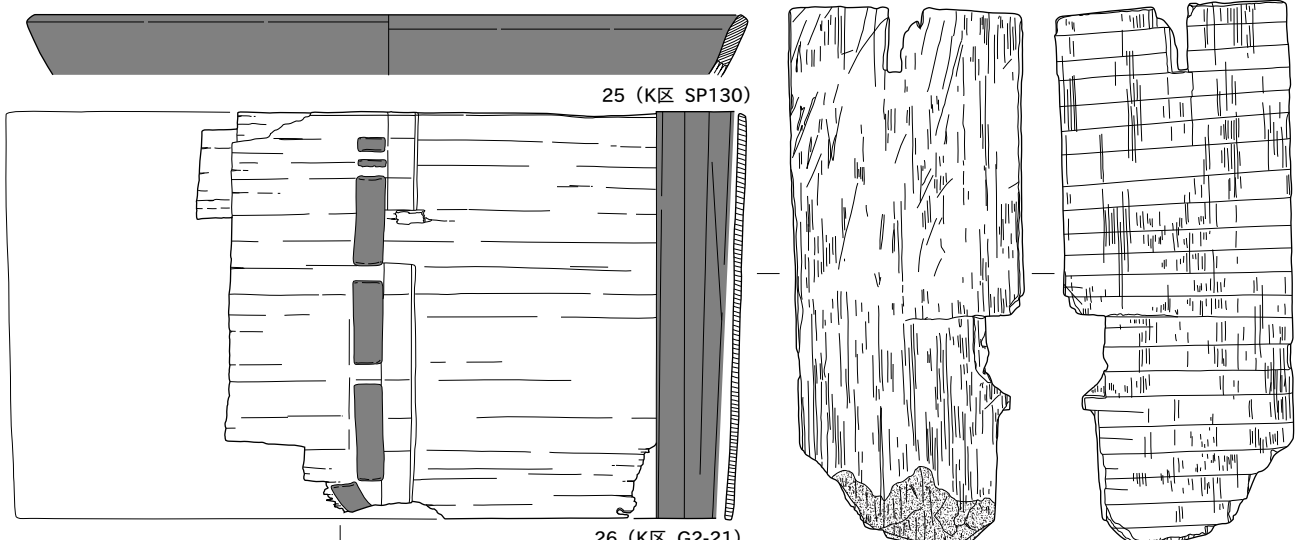
19



24 (立会い)

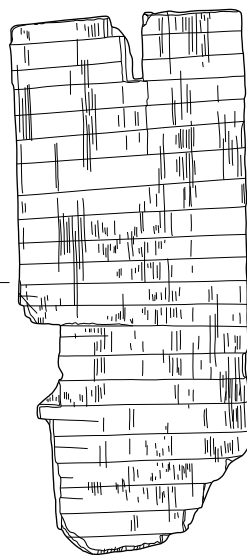
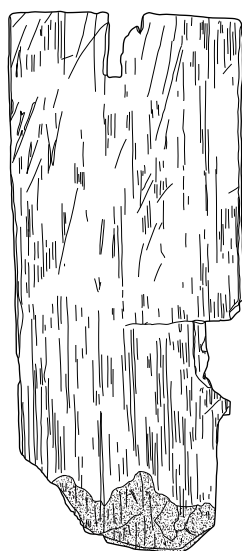
(1:3)





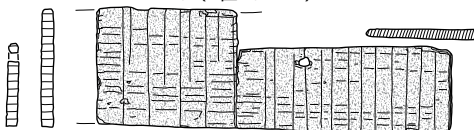
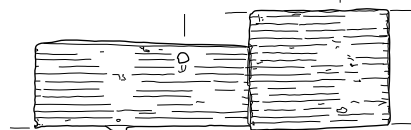
25 (K区 SP130)

26 (K区 G2-21)

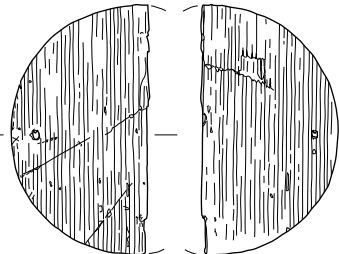
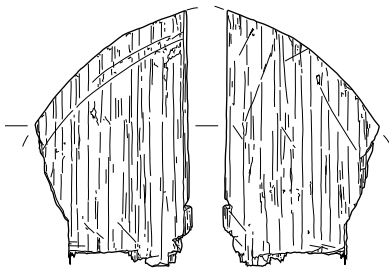
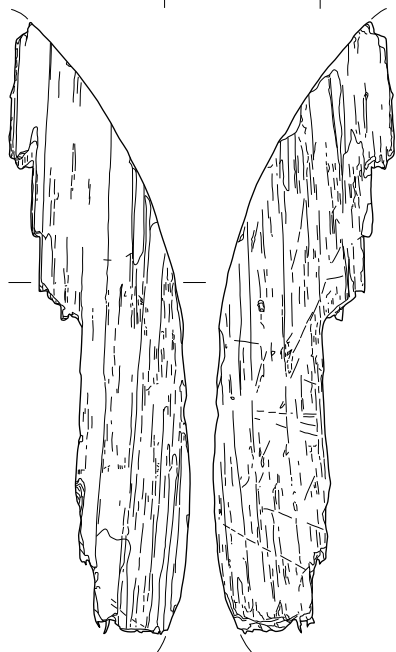


27 (C区上 SE4)

29 (C区下 河川23)

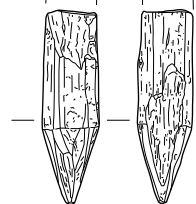
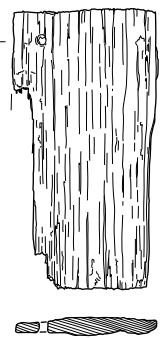
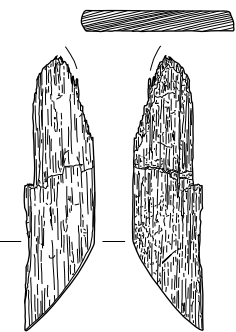


28 (C区下 SE7)



31 (K区 SK74)

32 (C区上 SE3)



33 (J区 SD67)

34 (J区 SD71)

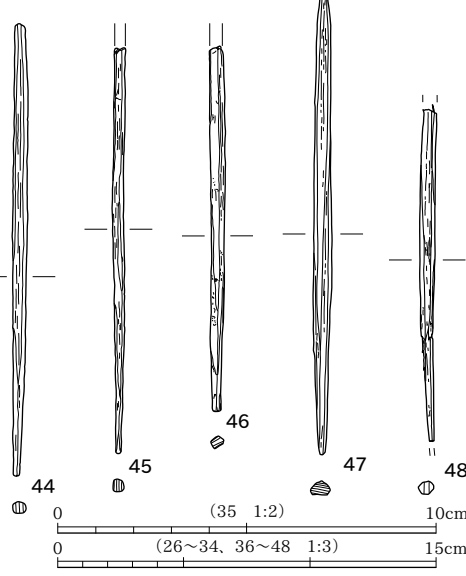
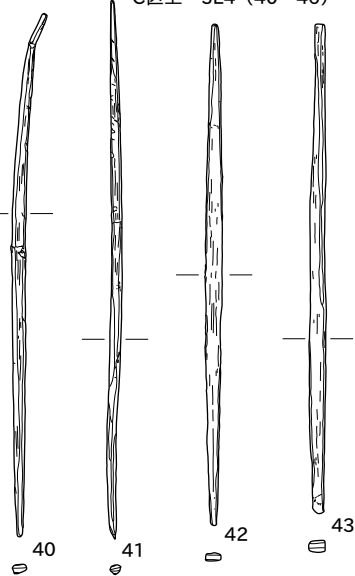
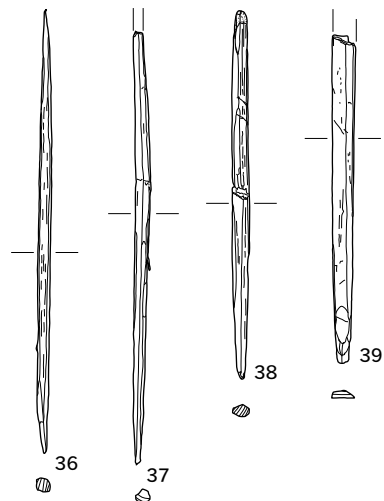
35 (C区下 SE14)

30 (C区上 SE5)

C区上 SE3 (36~39)

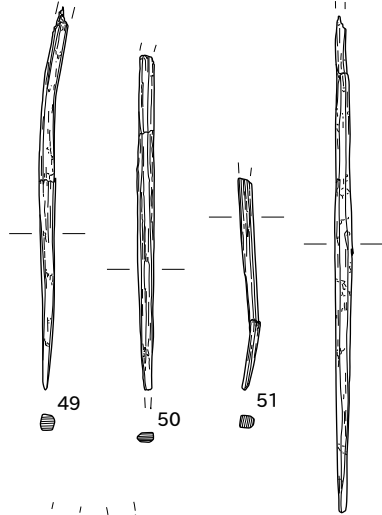
C区上 SE4 (40~46)

C区下 河川23 (47·48)

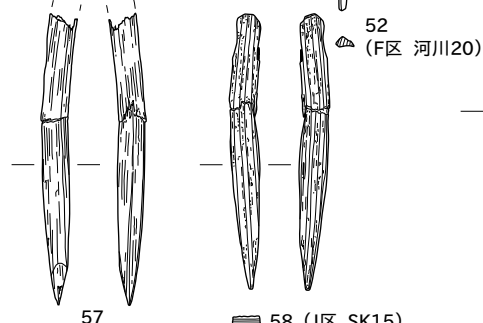
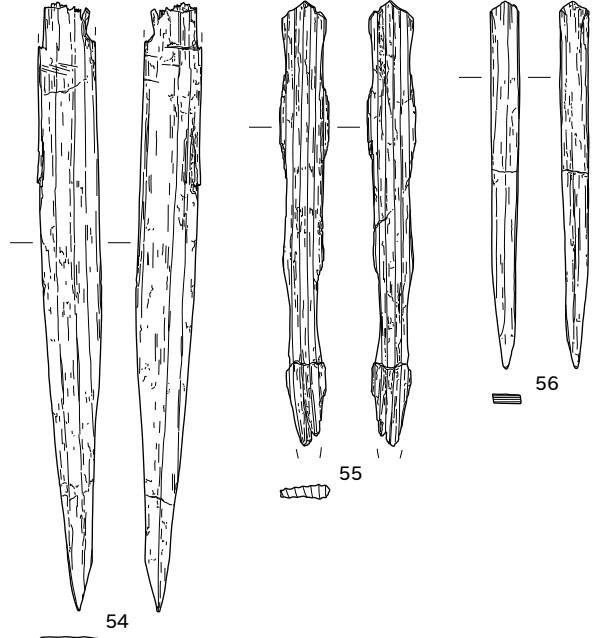


0 (35 1:2) 10cm
 0 (26~34, 36~48 1:3) 15cm

E区下 河川23 (49~51)

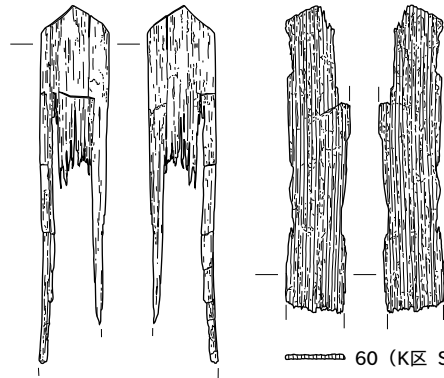


J区 SE87 (53~57)



52 (F区 河川20)

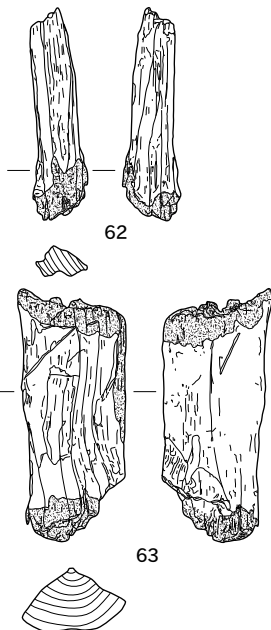
58 (J区 SK15)



59 (C区下 SE14)

60 (K区 SD93)

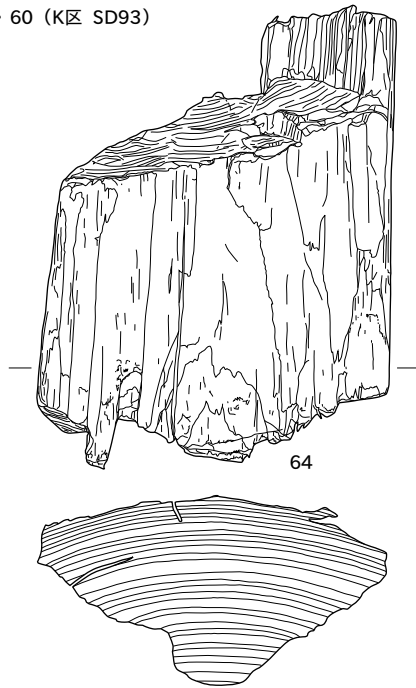
C区上 SE3 (62·63)



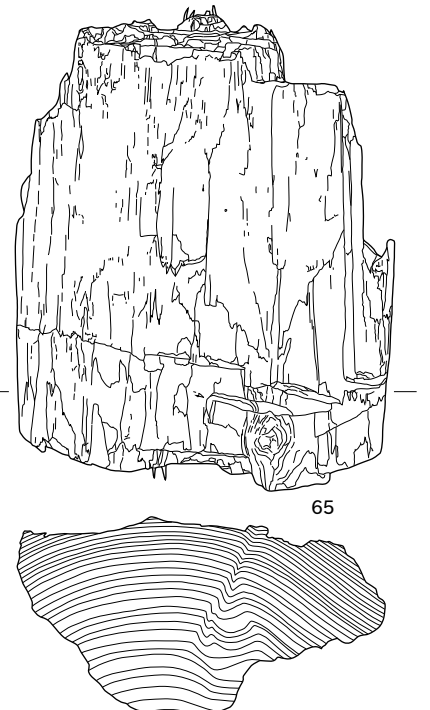
62

63

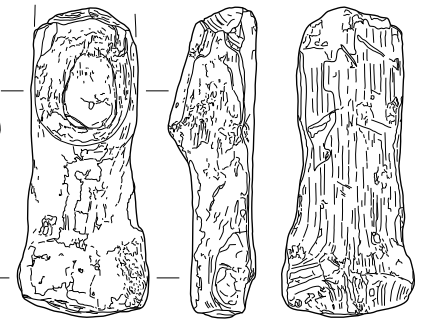
B区 SP4 (64·64)



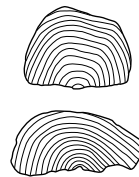
64



65



61 (C区下 SK8)



0 (1:3) 15cm

木製品 (66~72)

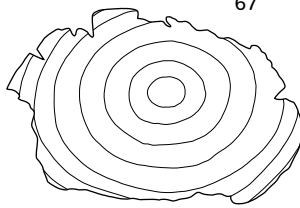
B区 SP4 (66~68)



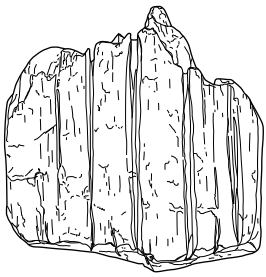
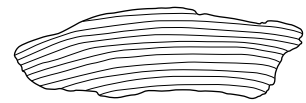
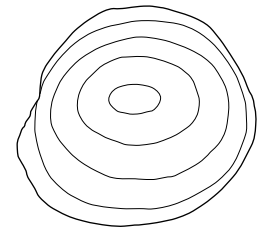
66



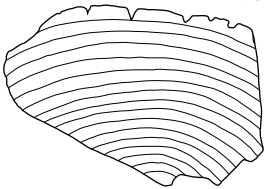
67



69 (B区 SP6)



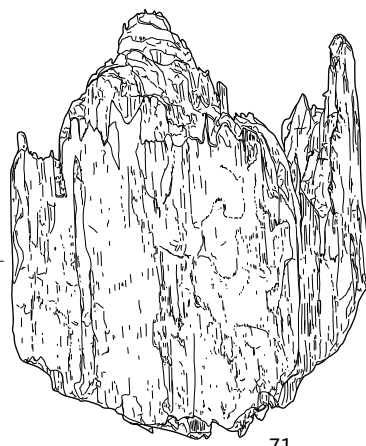
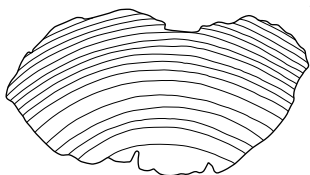
68



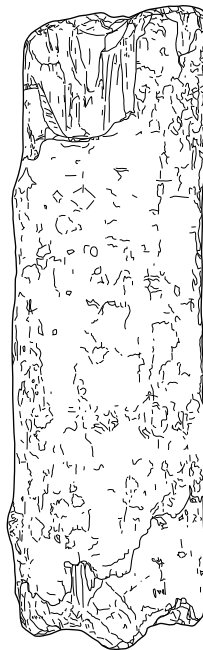
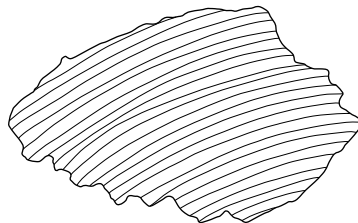
C区上 SP83 (70・71)



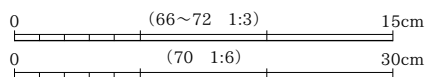
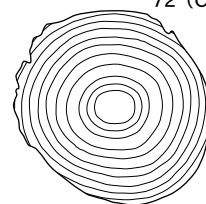
70



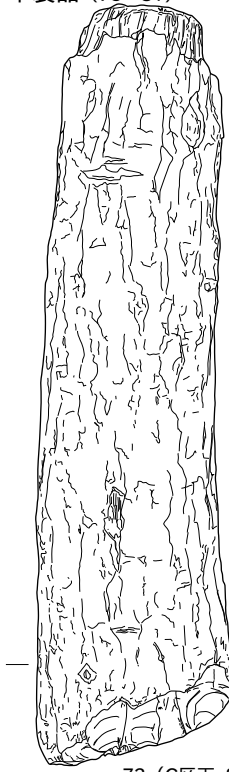
71



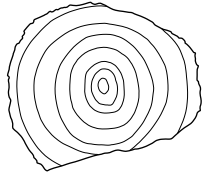
72 (C区上 SP84)



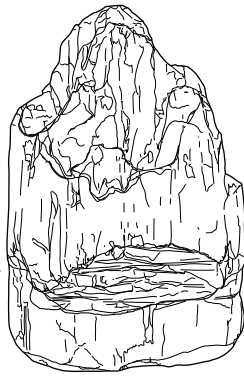
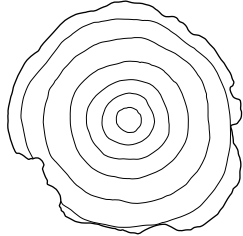
木製品 (73~81)



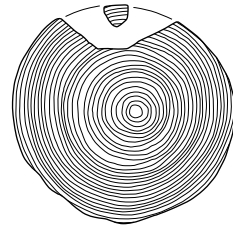
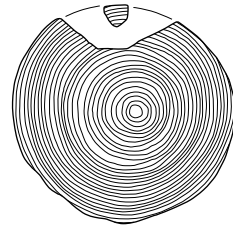
73 (C区下 SP3)



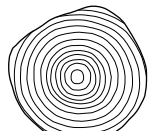
74 (C区下 SP5)



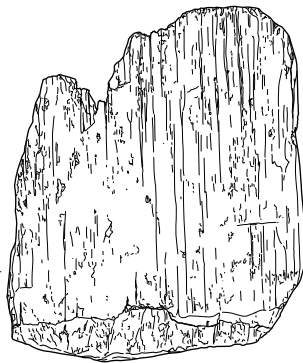
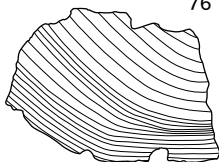
75 (C区下 SP22)



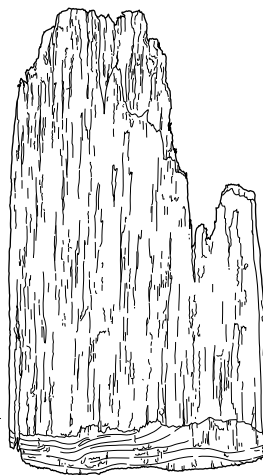
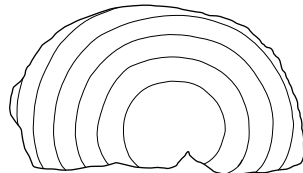
79 (D区 SP112)



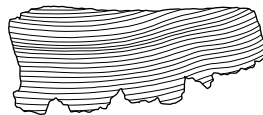
76 (C区下 F3-2)



77 (D区 SP29)



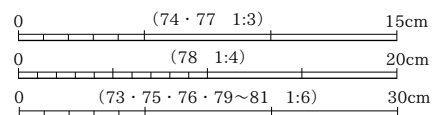
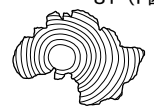
78 (D区 SD77)



80 (E区上 SE15)



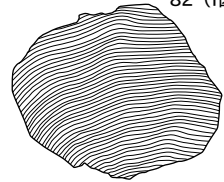
81 (F区 SP48)



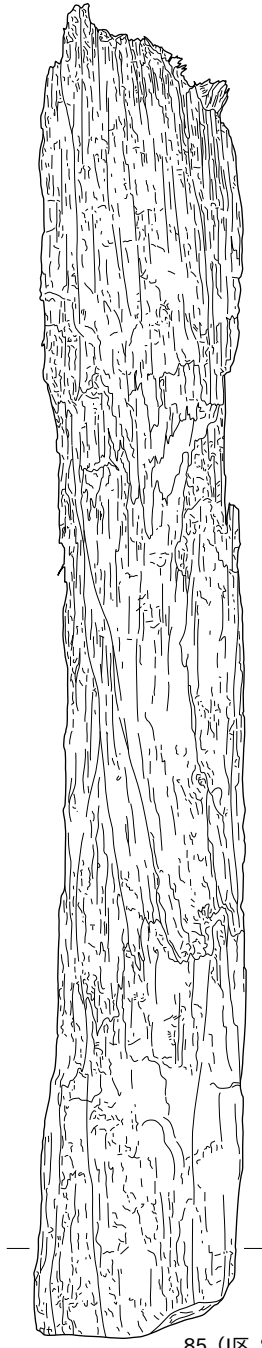
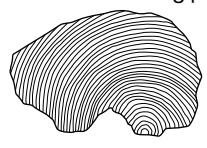
木製品 (82~87) I区 SB1 (82~85)



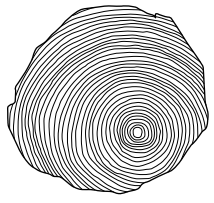
82 (I区 SP29)



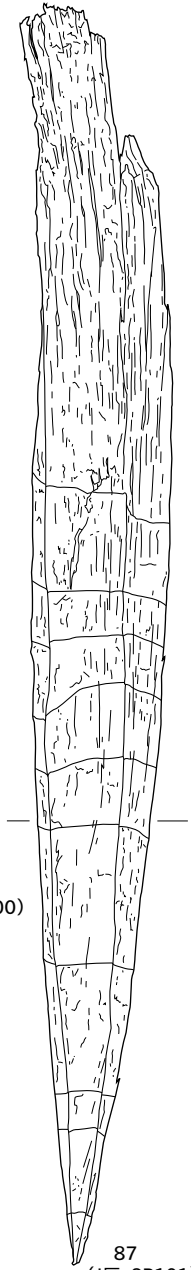
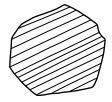
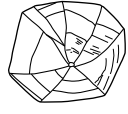
84 (I区 SP30)



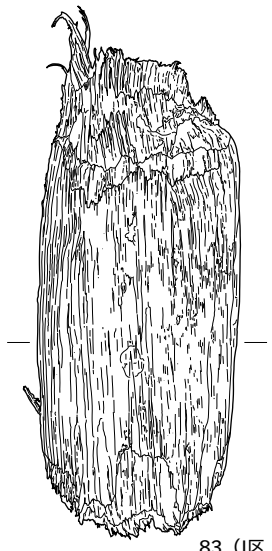
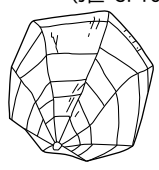
85 (I区 SP50)



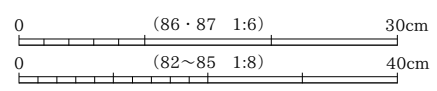
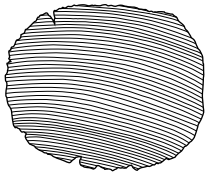
86 (J区 SP100)



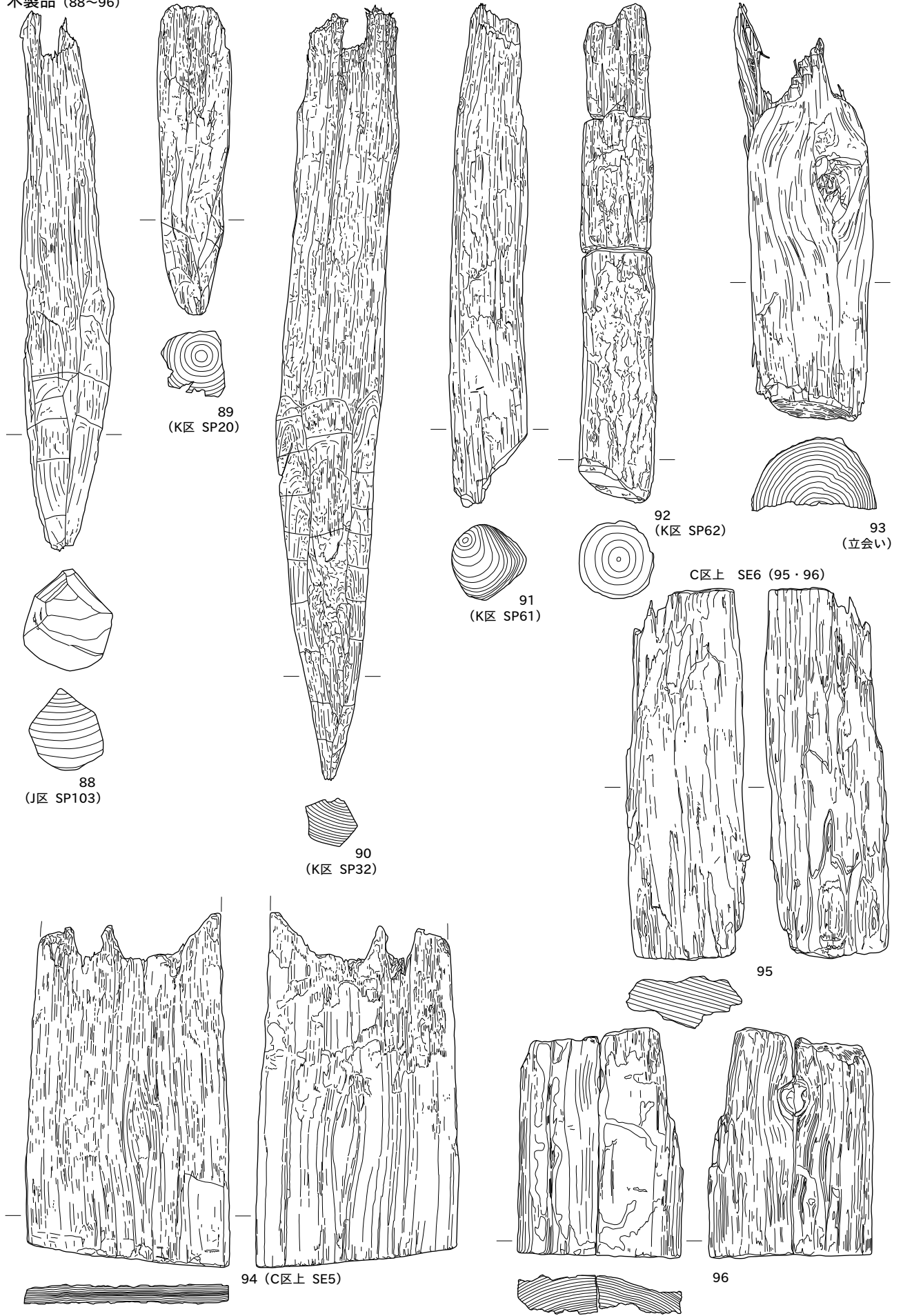
87 (J区 SP101)



83 (I区 SP29)



木製品 (88~96)

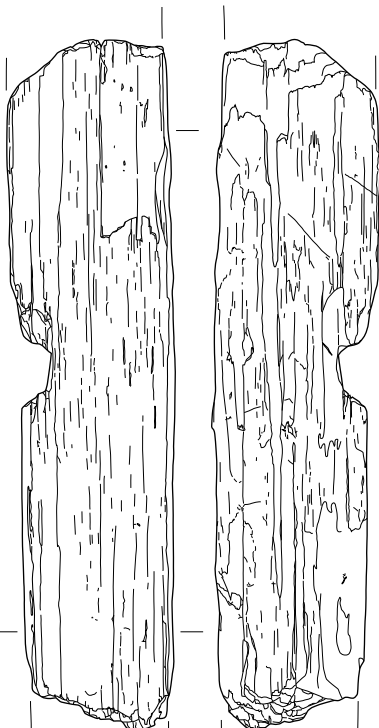
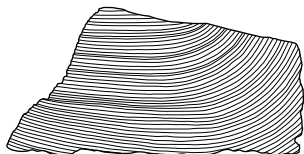


0 (94・95 1:3) 15cm 0 (89・92・93・96 1:6) 30cm 0 (90・91 1:8) 40cm

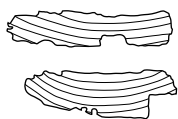
木製品 (97~102)



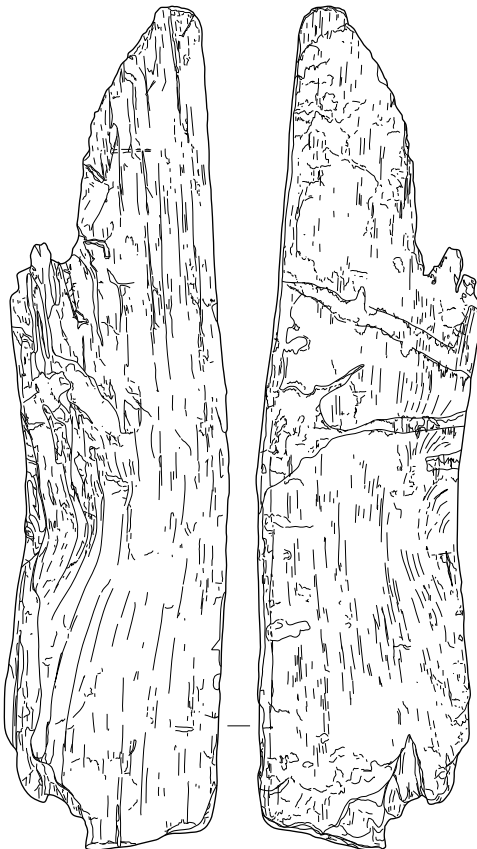
97 (C区上 SE6)



99 (B区 SD4)



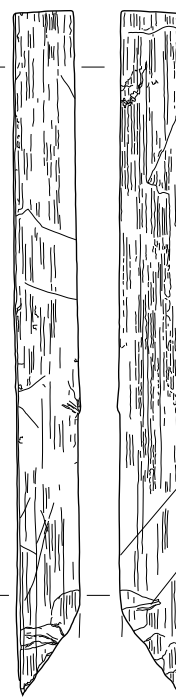
100 (B区 B4-12)



98 (B区 SD12)



101 (C区下 SD25)



102 (C区上 SE4)



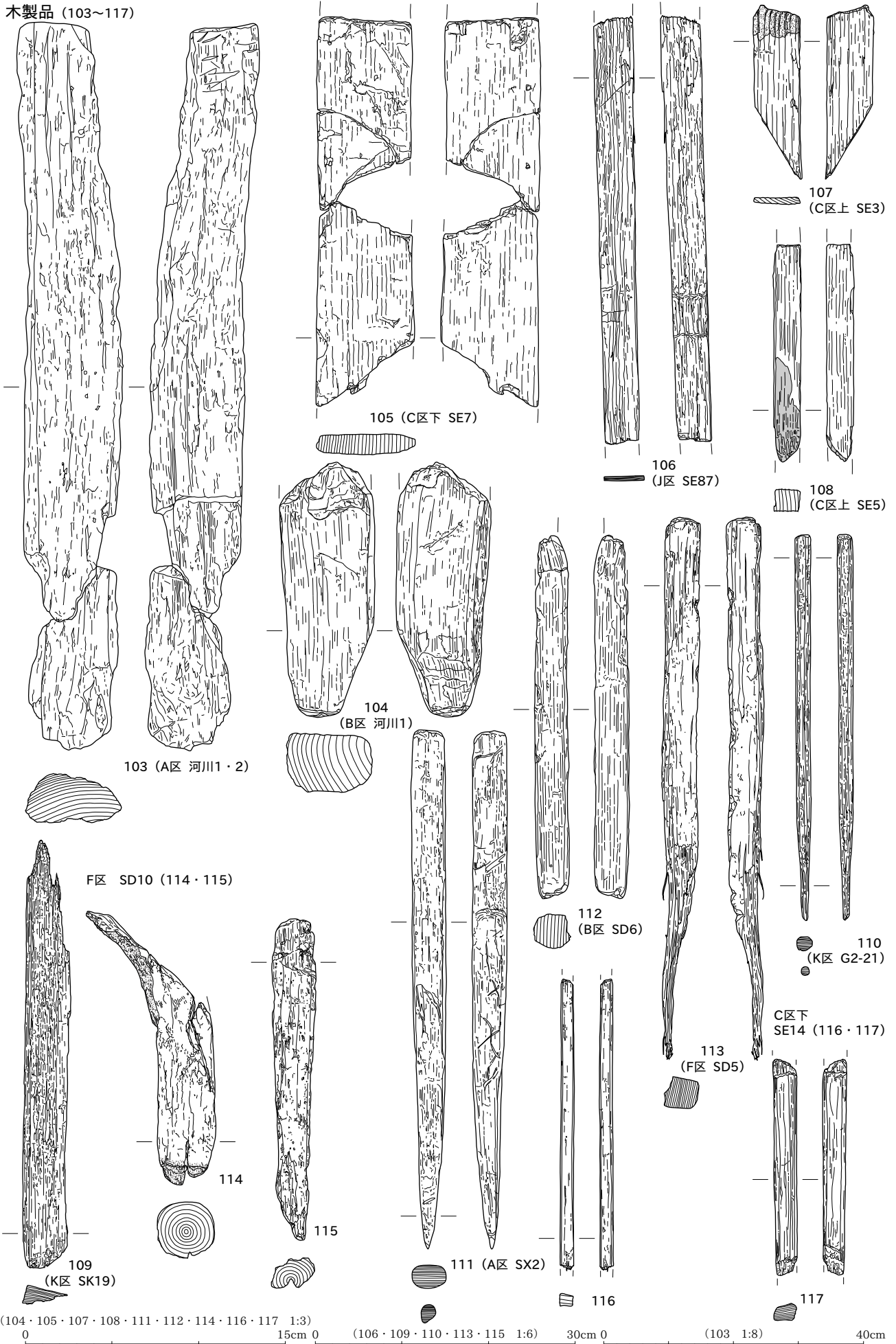
0 (100 1:8) 40cm

0 (99・101・102 1:3) 15cm

0 (97 1:4) 20cm

0 (98 1:6) 30cm

木製品 (103~117)



写真図版



馬越遺跡周辺の空中写真（上が北）



馬越遺跡周辺の空中写真（北西から）



A区 近景 (南から)



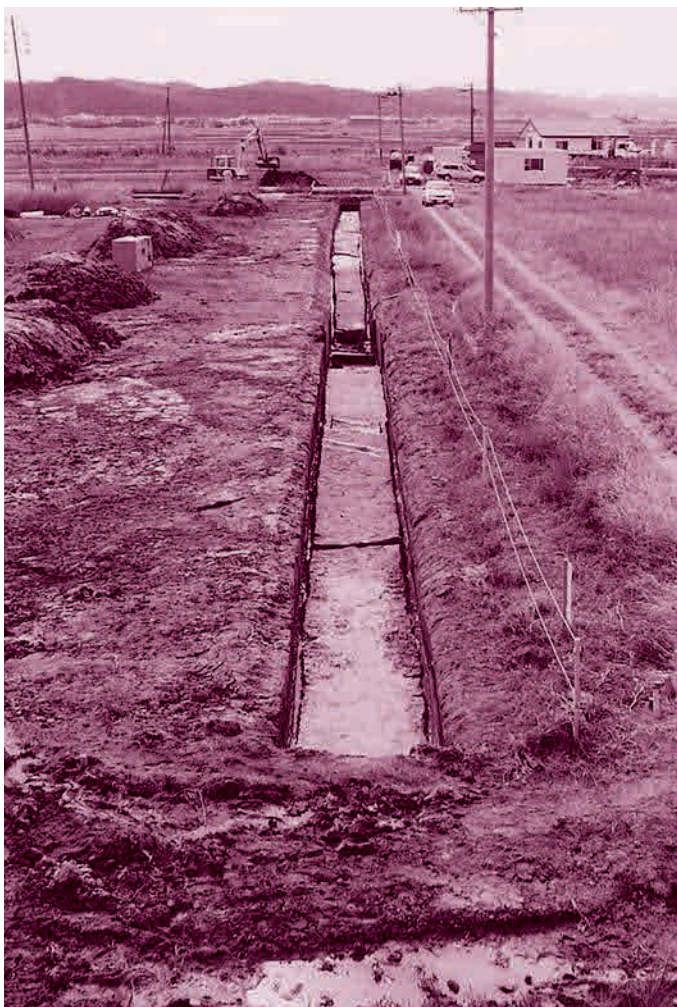
A区 表土掘削作業 (南から)



A区 遺構発掘作業 (南から)



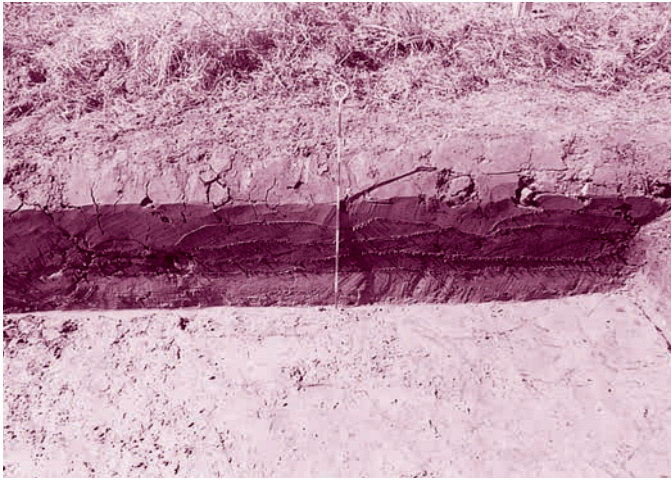
A区 遺構発掘作業 (北から)



A区 全景 (北から)



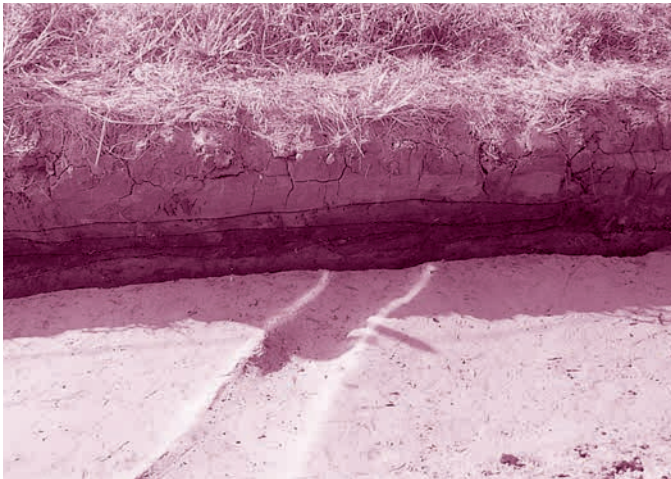
A区 全景 (南から)



A区 基本土層 断面1 (東から)



A区 SD1・SD2 断面 (東から)



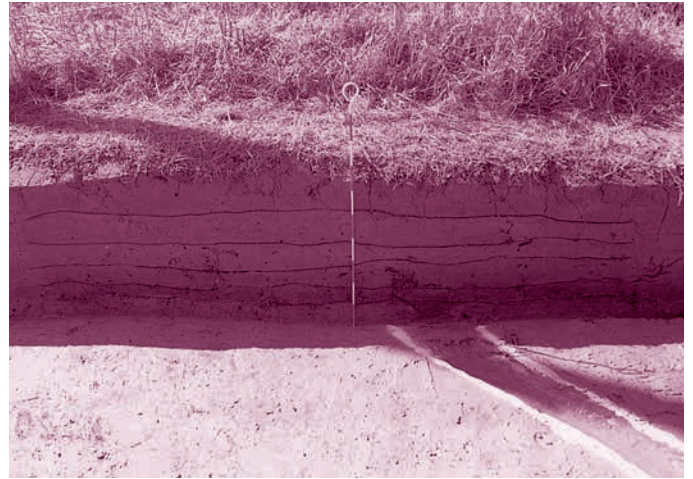
A区 SD1 断面 (東から)



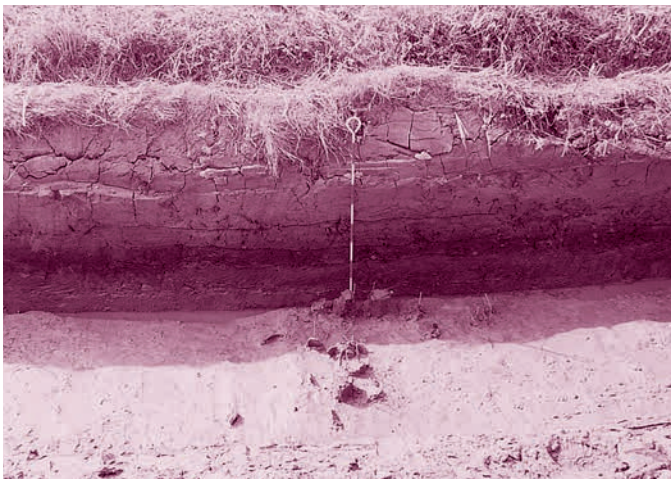
A区 SD2 断面 (東から)



A区 SD3 断面 (東から)



A区 SD5 断面 (東から)



A区 SD6 4出土状況 (東から)



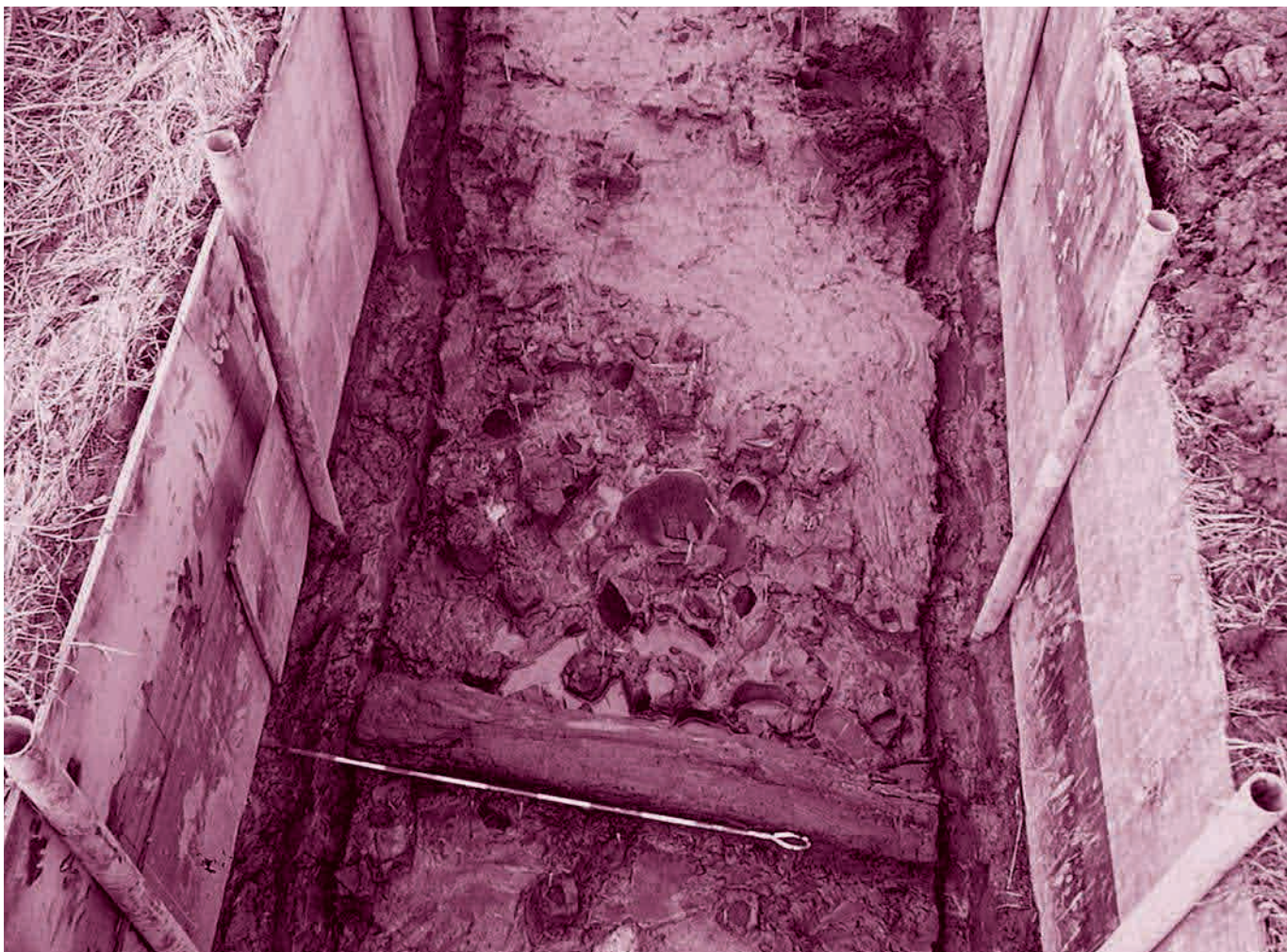
A区 河川1・2 断面 (北から)



A区 河川1・2 断面(東から)



A区 河川1・2 遺物出土状況(東から)



A区 河川1・2 遺物出土状況(南から)



A区 河川1・2 完掘(北から)



A区 河川3 断面(東から)



B区 近景 (西から)



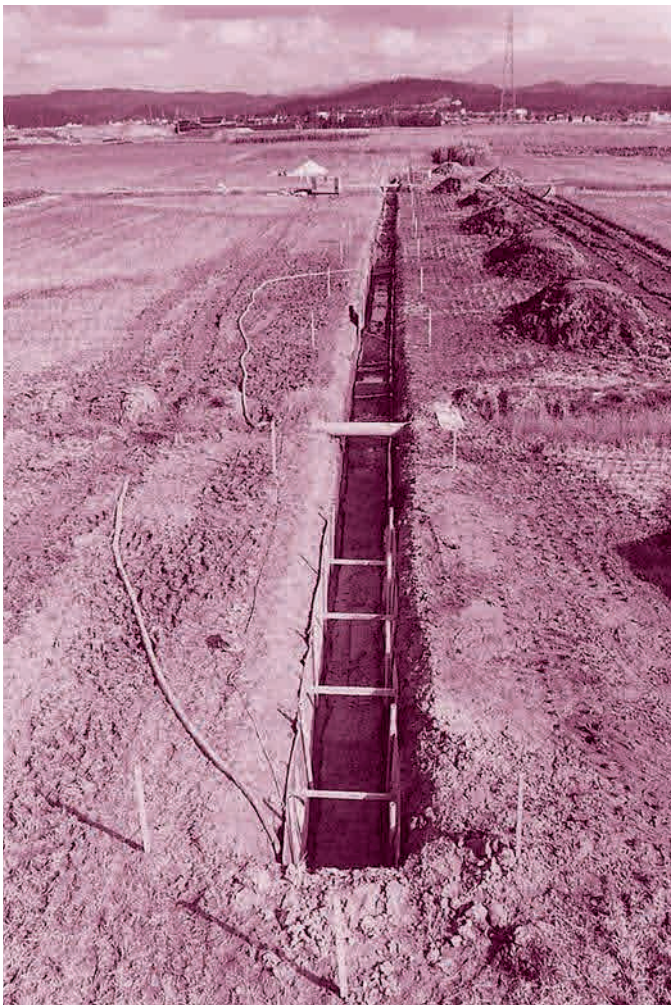
B区 表土掘削作業 (西から)



B区 遺構発掘作業 (西から)



B区 遺構発掘作業 (東から)



B区 全景 (西から)



B区 全景 (東から)



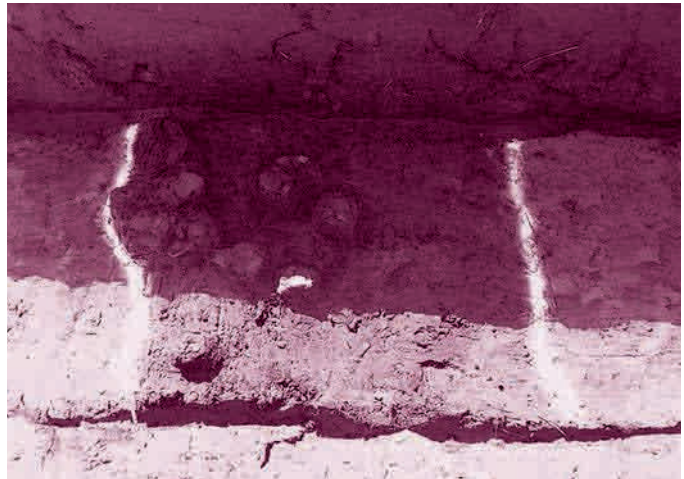
B区 基本土層 断面1 (北から)



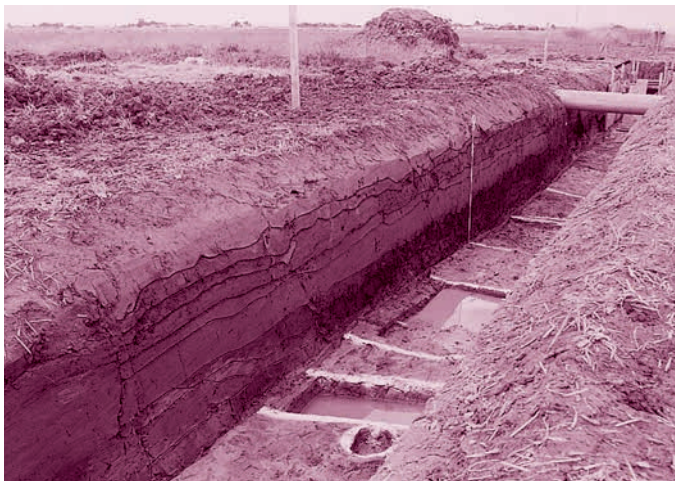
B区 40・74 出土状況 (南から)



B区 SD1・SD2 断面 (北東から)



B区 SD3 遺物出土状況 (北から)



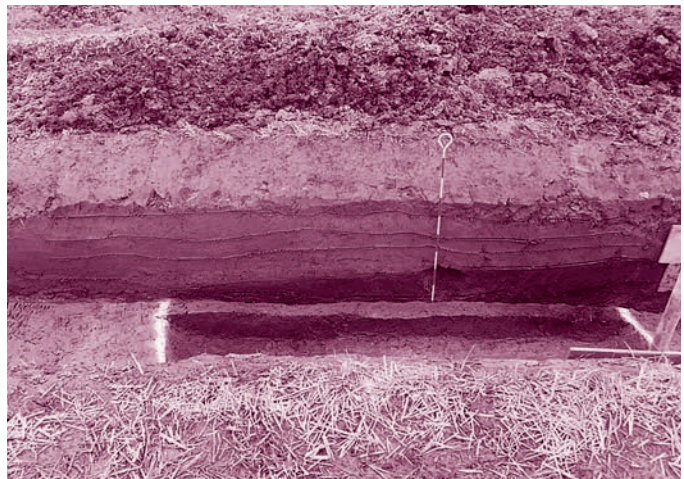
B区 SD4・SD5 断面 (北東から)



B区 SD12 断面 (南西から)



B区 SD12 木98 出土状況 (南から)



B区 SD18 断面 (北から)



B区 SP4 断面（北から）



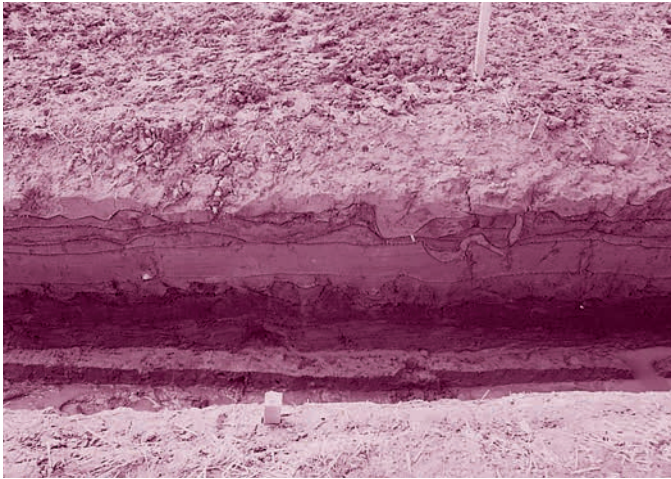
B区 SP4 礎板（南から）



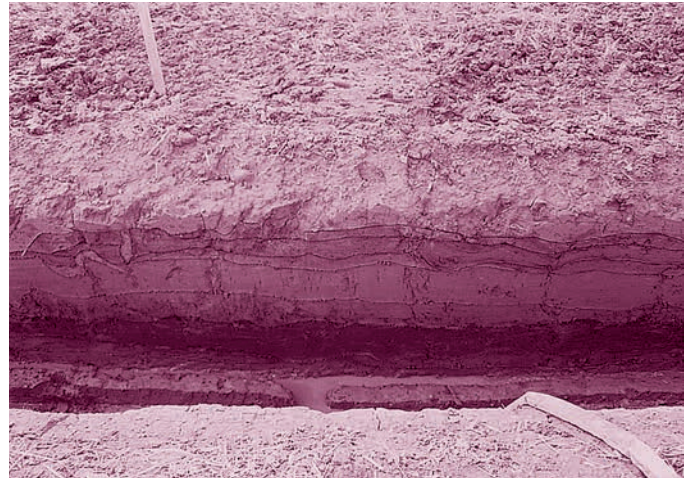
B区 SP6 断面（北から）



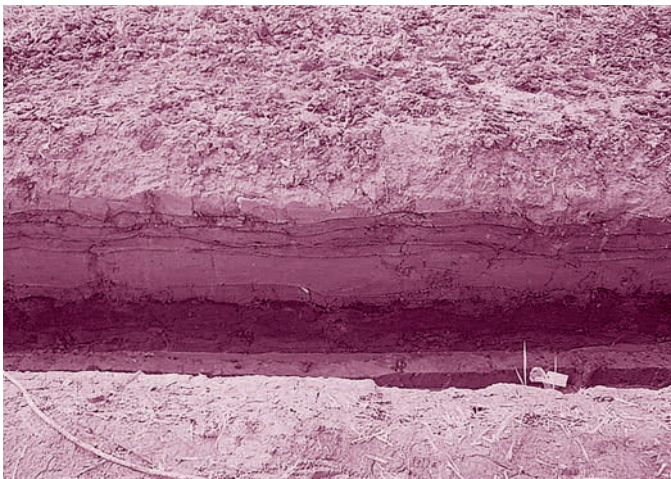
B区 河川1 断面（北東から）



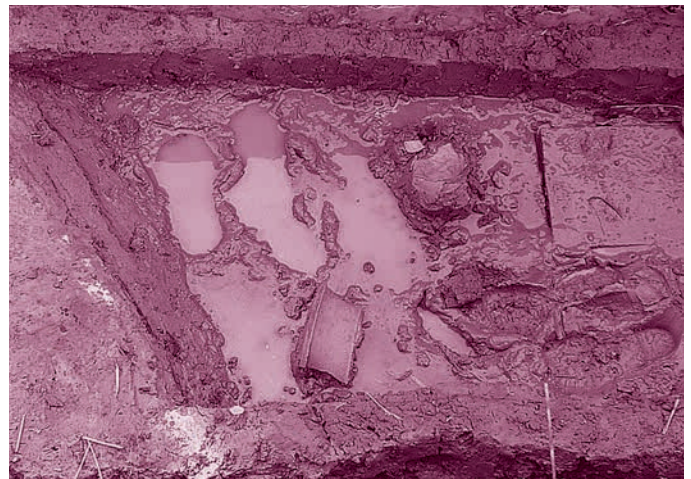
B区 河川1 断面（北から）



B区 河川1 断面（北から）



B区 河川1 断面（北から）



B区 河川1 遺物出土状況（北から）



C区 近景(東から)



C区 表土掘削作業(東から)



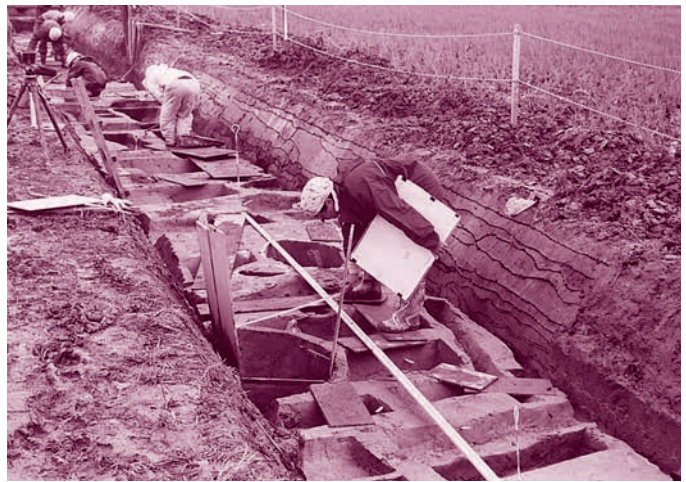
C区上層 遺構発掘作業(西から)



C区下層 遺構発掘作業(西から)



C区下層 遺構断面実測(東から)



C区下層 遺構平面実測(北西から)



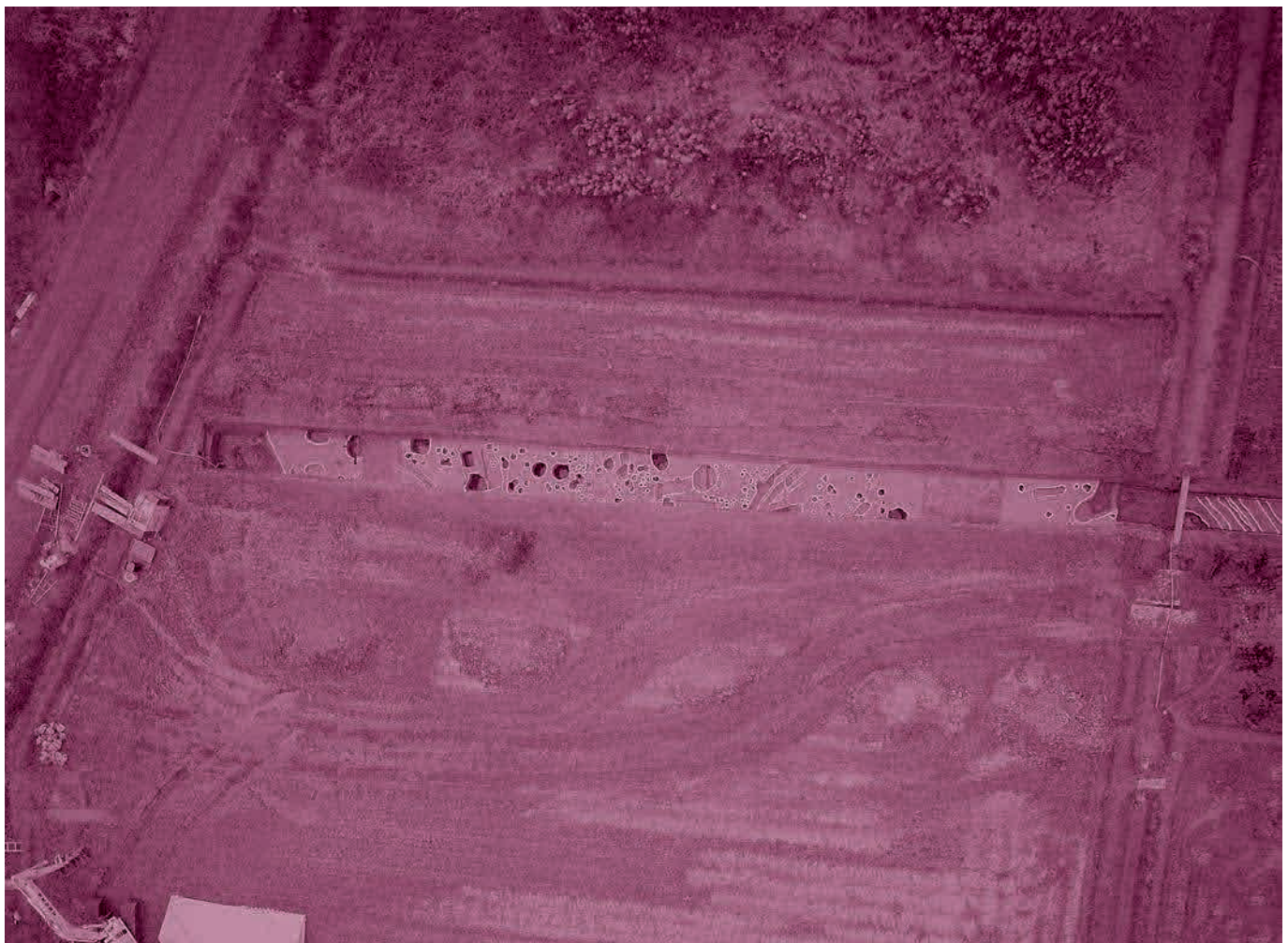
C区 空中写真撮影(南東から)



2005年 調査スタッフ



C区(2005年)上層 全景 空中写真(東から)



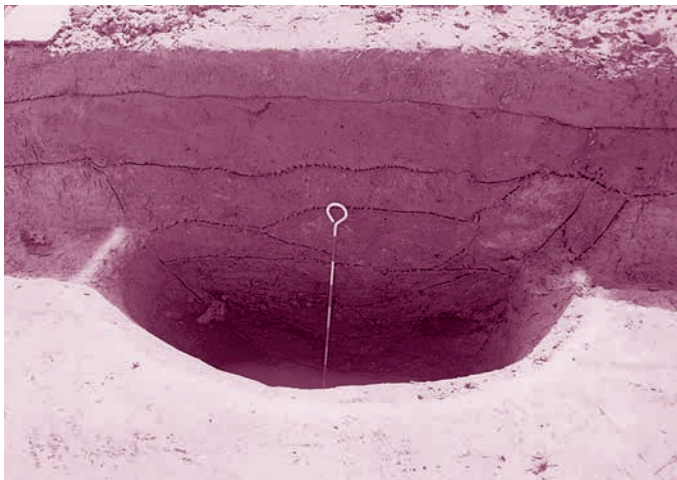
C区(2005年)上層 全景 空中写真(北から)



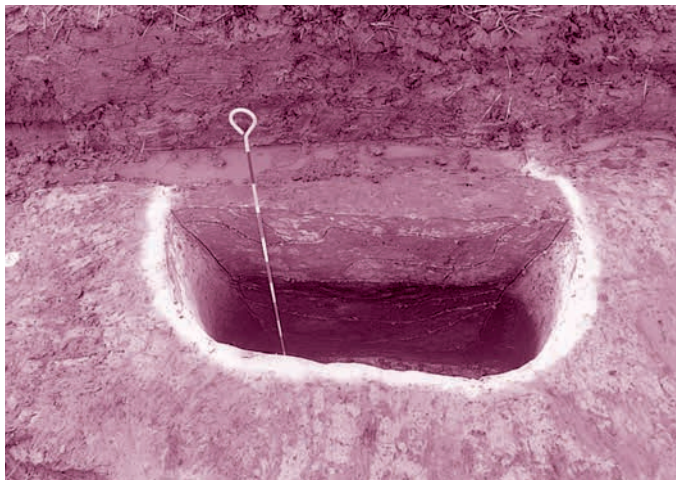
C区(2005年)上層 全景(東から)



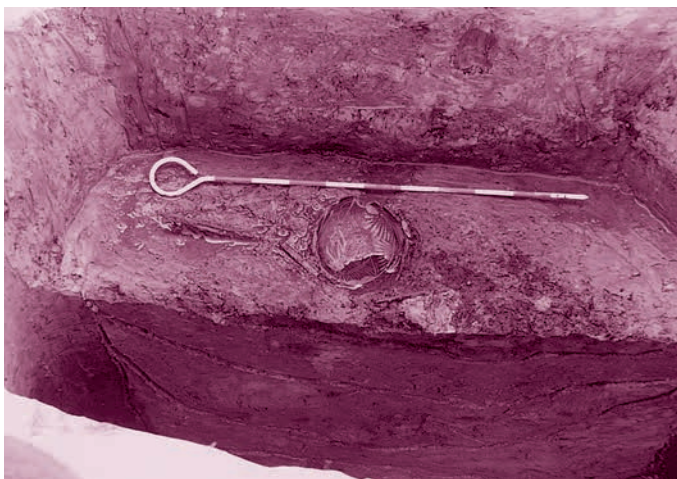
C区(2005年)上層 全景(西から)



C区上層 SE1 断面(北から)



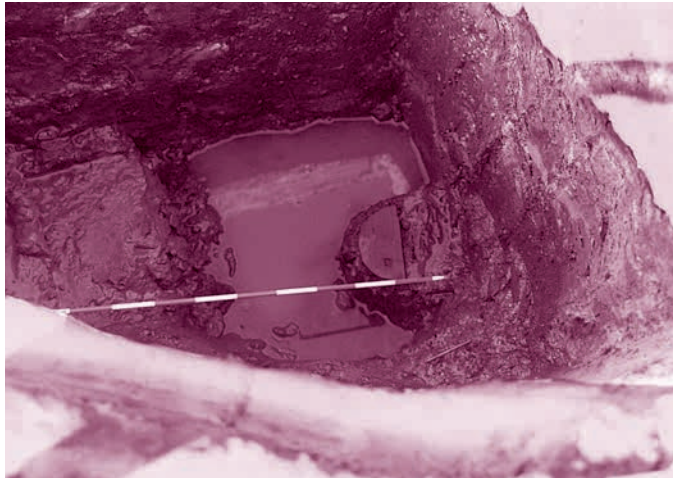
C区上層 SE2 断面(北から)



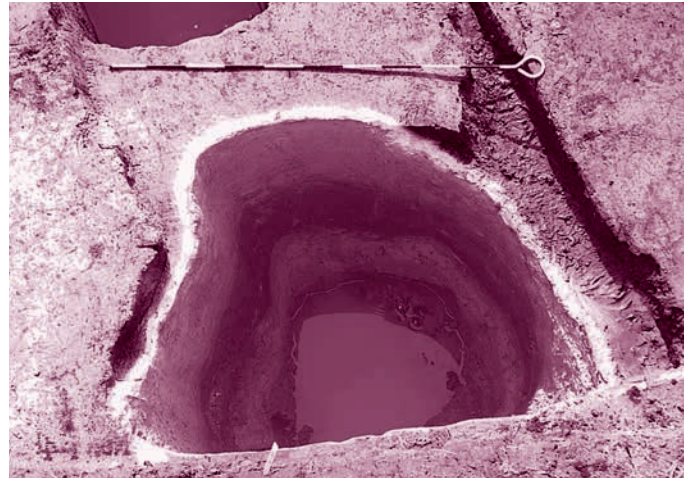
C区上層 SE2 木16出土状況(北から)



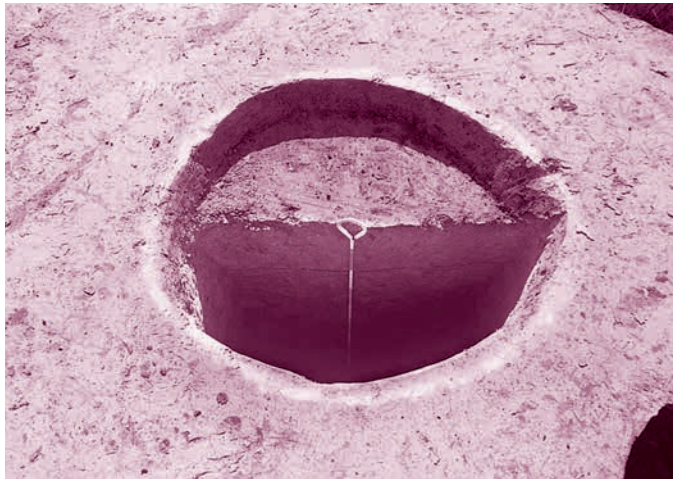
C区上層 SE3 断面(東から)



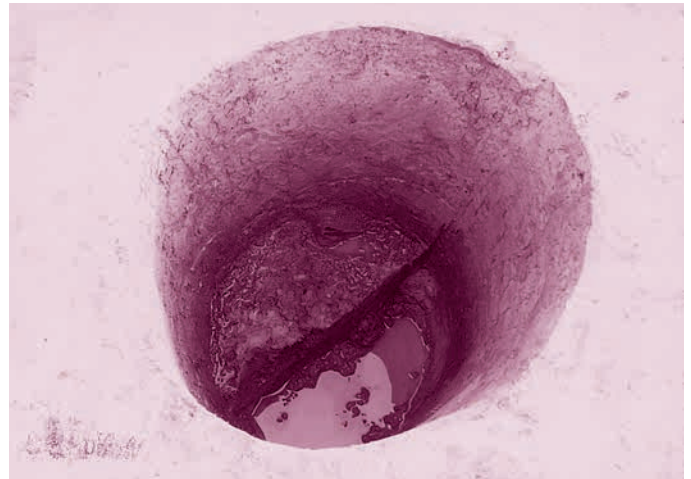
C区上層 SE3 木32出土状況(東から)



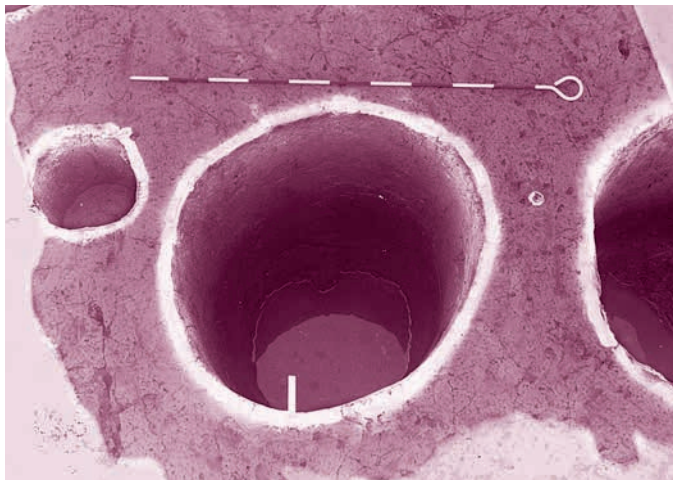
C区上層 SE3 完掘(北から)



C区上層 SE4 断面(北から)



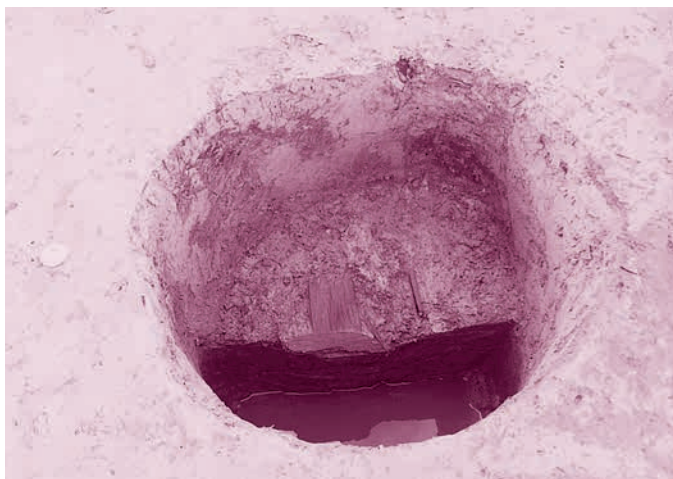
C区上層 SE4 木17出土状況(北から)



C区上層 SE4 完掘(北から)



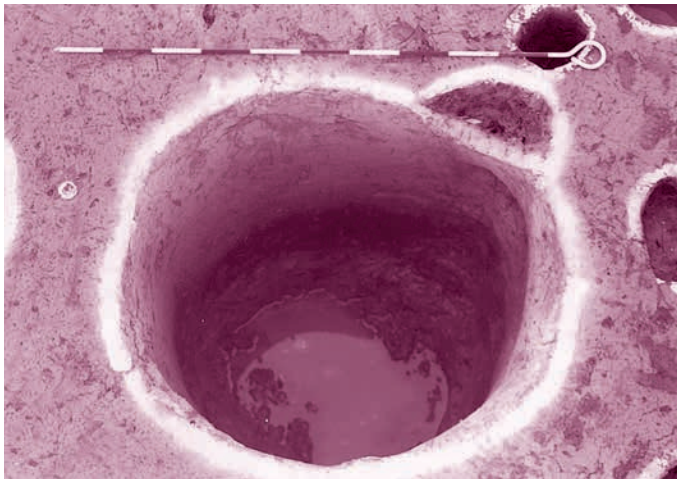
C区上層 SE5 断面(北から)



C区上層 SE5 木30など出土状況(北から)



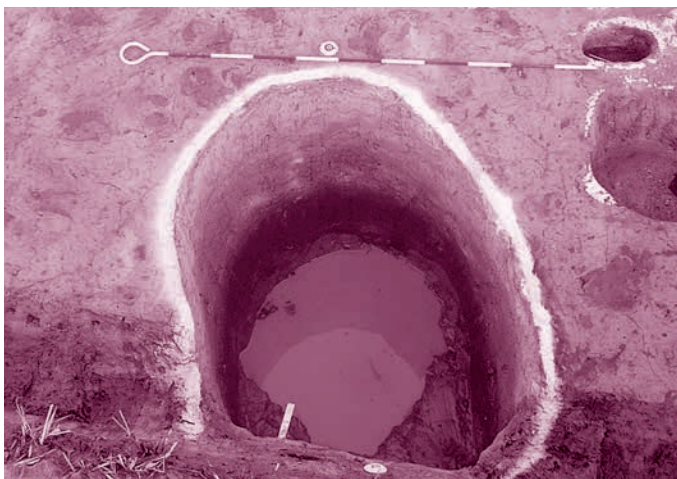
C区上層 SE5 木22出土状況(西から)



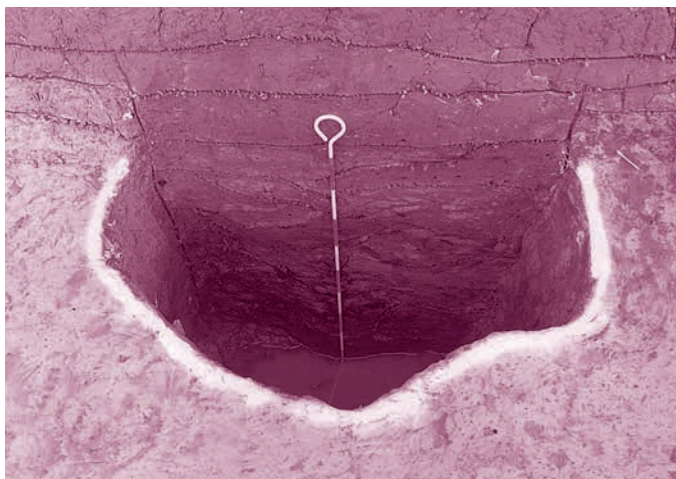
C区上層 SE5 完掘(北から)



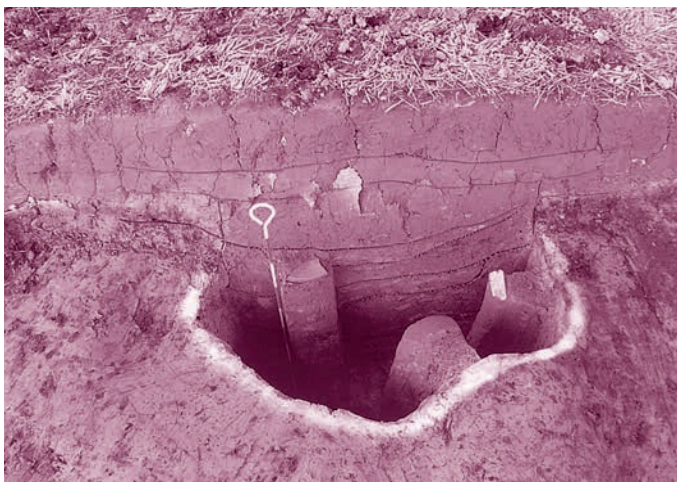
C区上層 SE6 出土状況(東から)



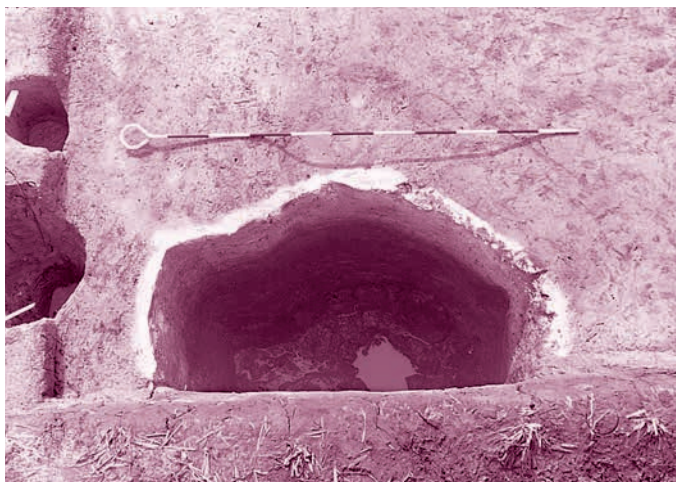
C区上層 SE6 完掘(南から)



C区上層 SE7 断面(南から)



C区上層 SE7 遺物出土状況(南から)



C区上層 SE7 完掘(北から)



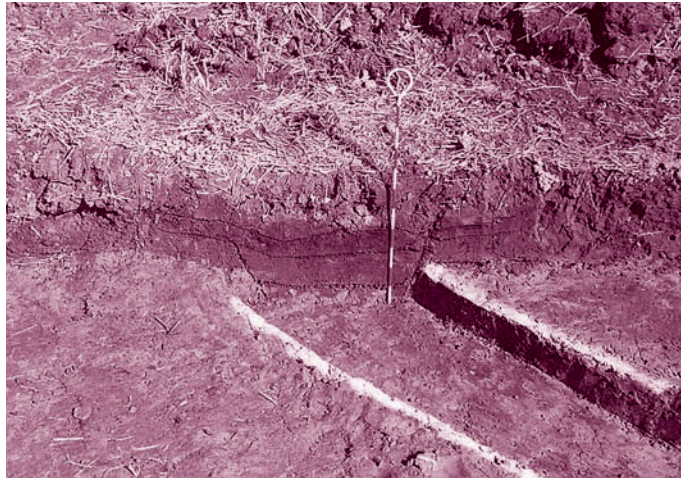
C区上層 SK3 断面(北から)



C区上層 SX1 断面(西から)



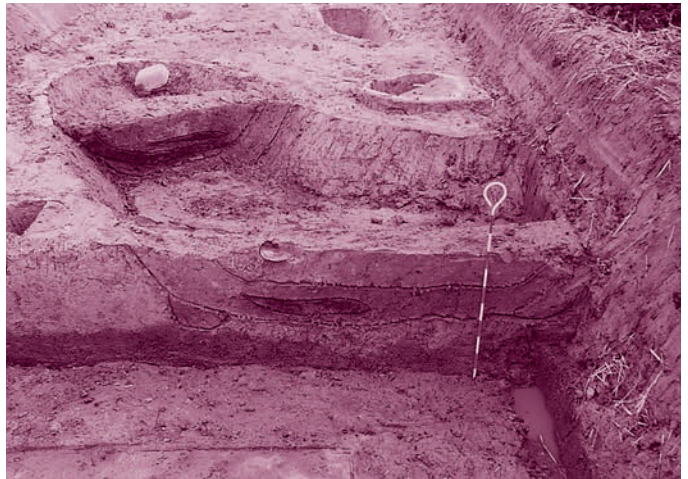
C区上層 SX1 完掘(南から)



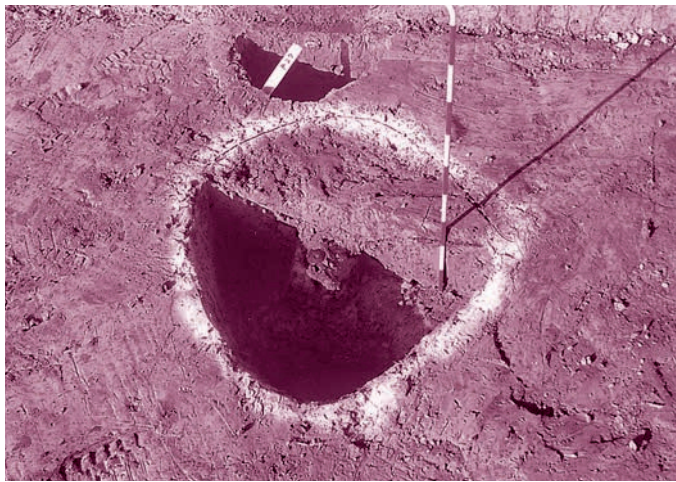
C区上層 SD1 断面(南から)



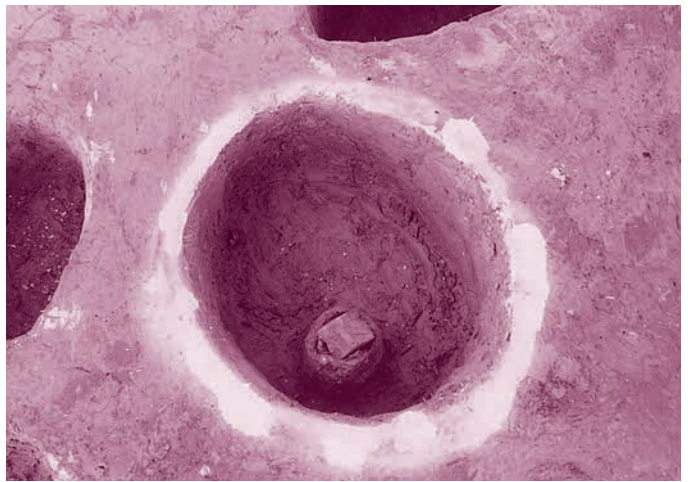
C区上層 SD3・SD4 断面(南から)



C区上層 SD6 断面(西から)



C区上層 SP19 断面・金10出土状況(南から)



C区上層 SP71 石13出土状況(東から)



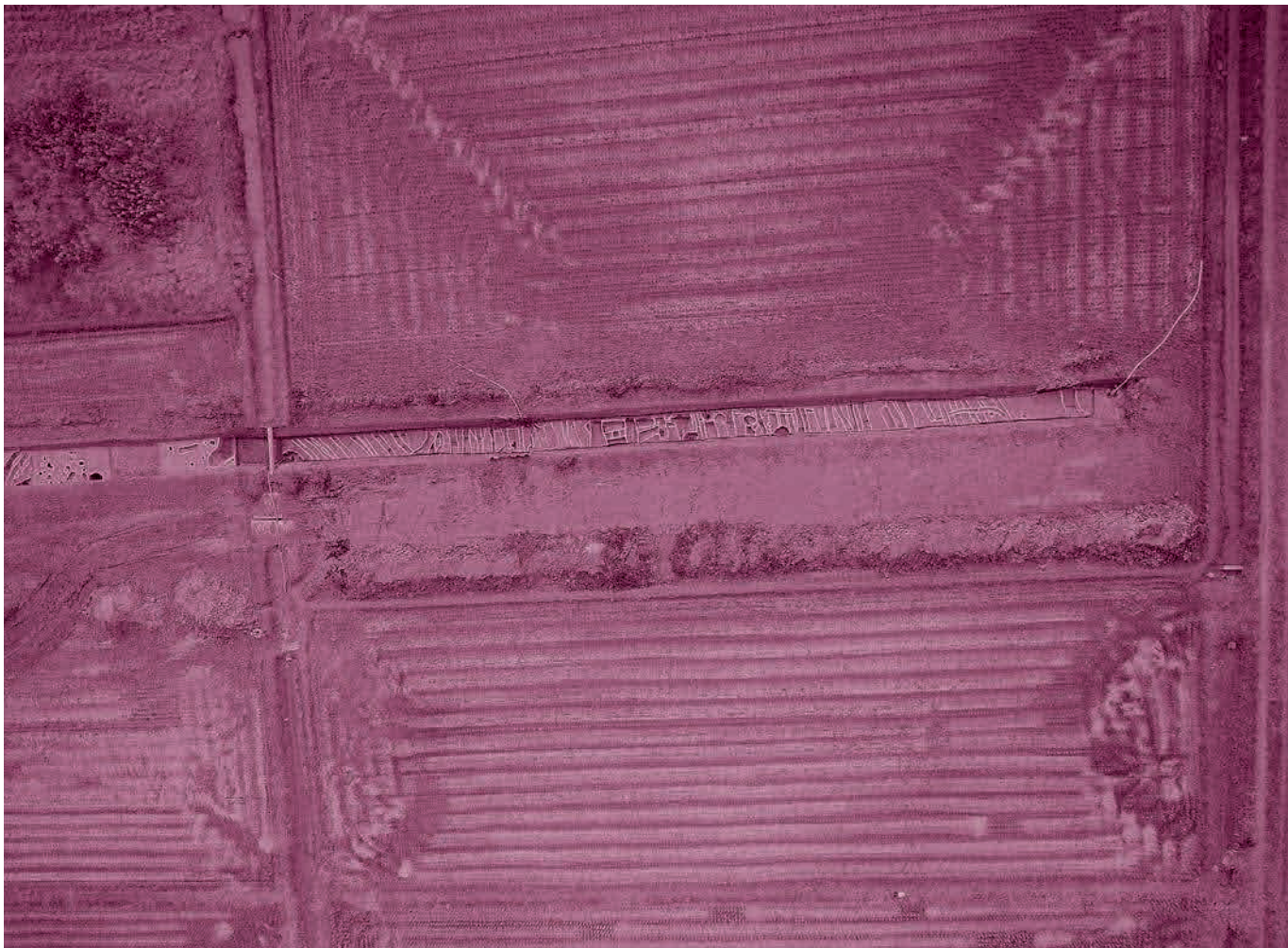
C区上層 河川1 断面(南から)



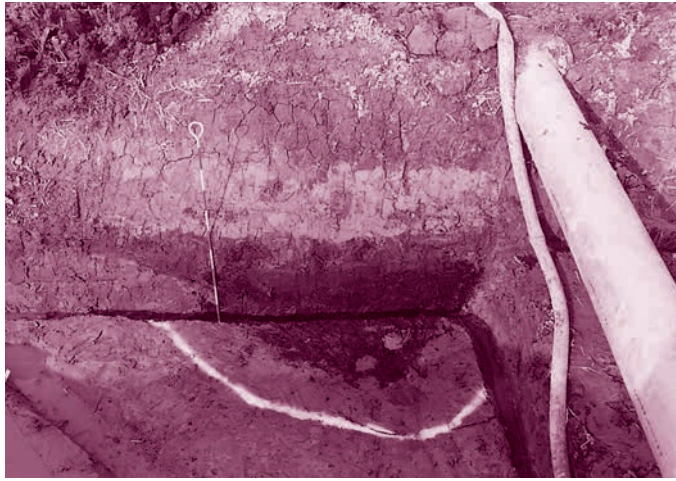
C区上層 河川1 断面(南西から)



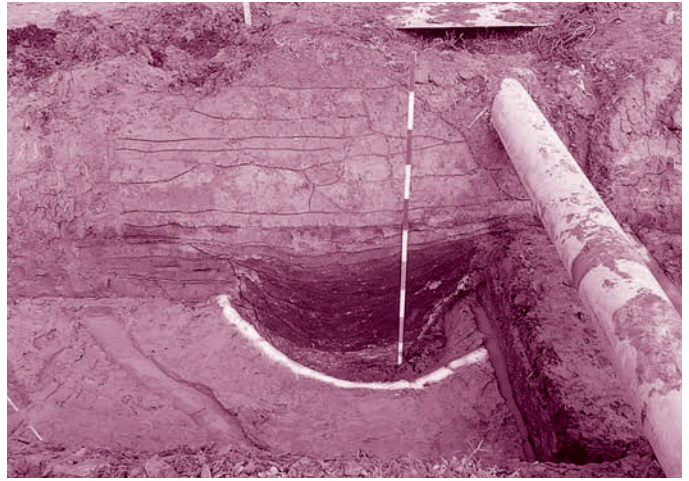
C区(2005年)下層 全景 空中写真(西から)



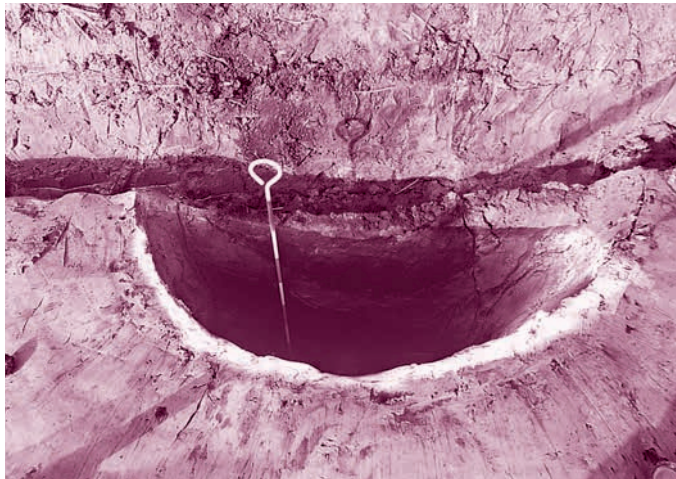
C区(2005年)下層 全景 空中写真(北から)



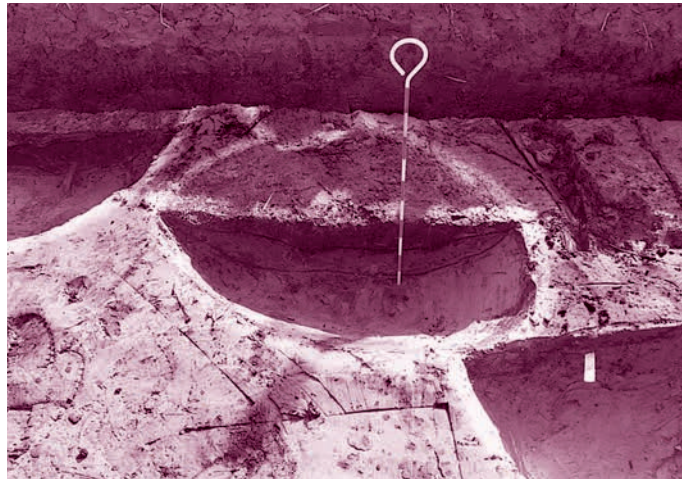
C区下層 SE7 検出状況(南から)



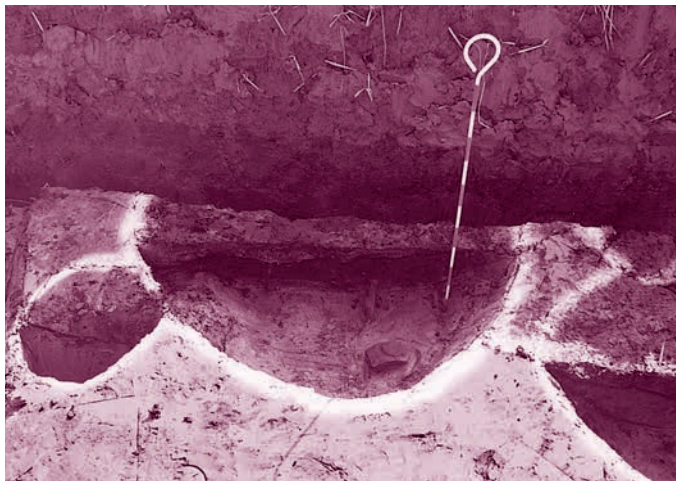
C区下層 SE7 断面(南から)



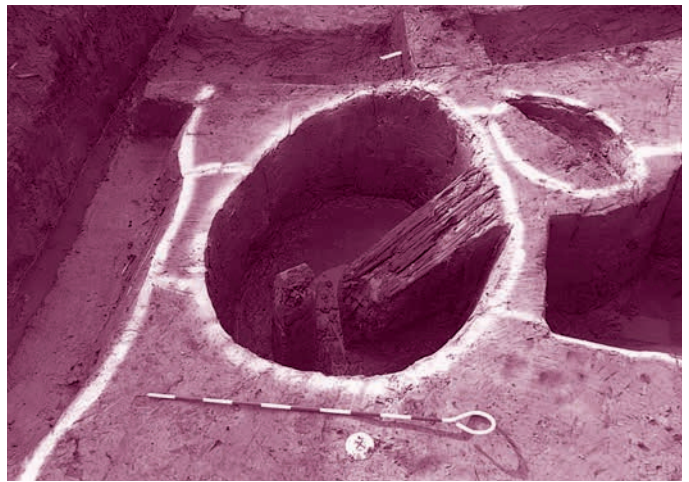
C区下層 SK1 断面(南から)



C区下層 SK2 断面(北から)



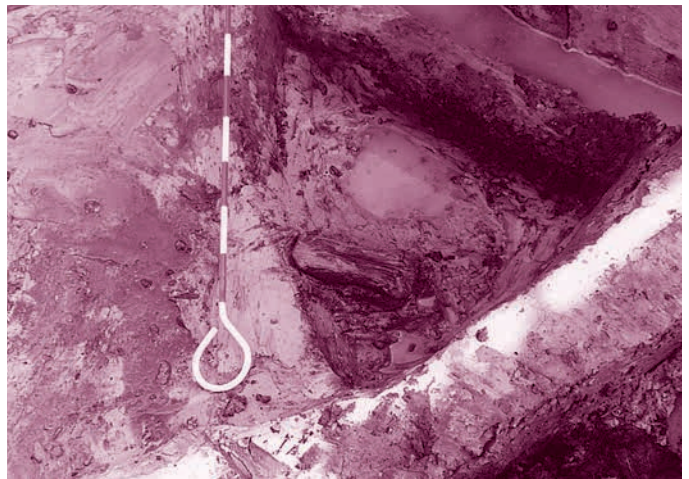
C区下層 SK3 断面(北から)



C区下層 SK4 板材出土状況(東から)



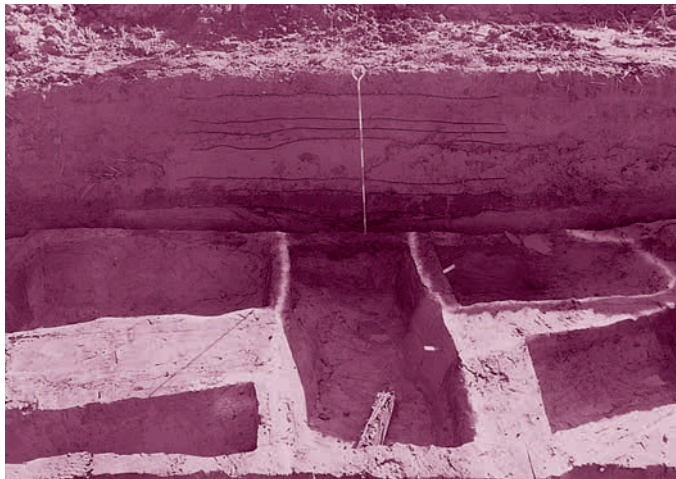
C区下層 SK6・SD29 断面(南から)



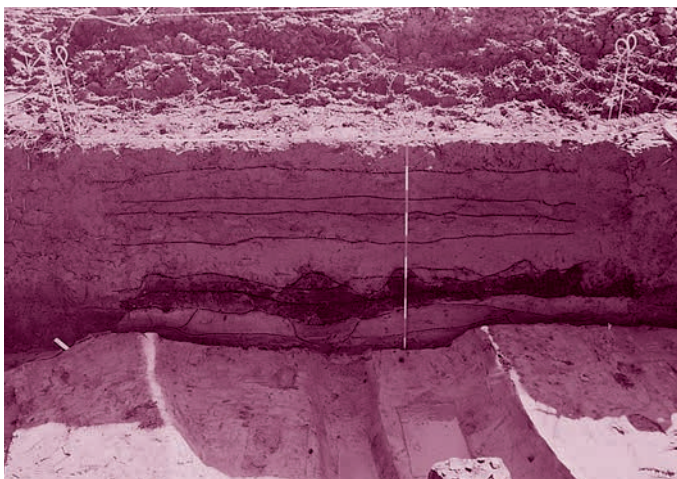
C区下層 SK8 木61出土状況(北から)



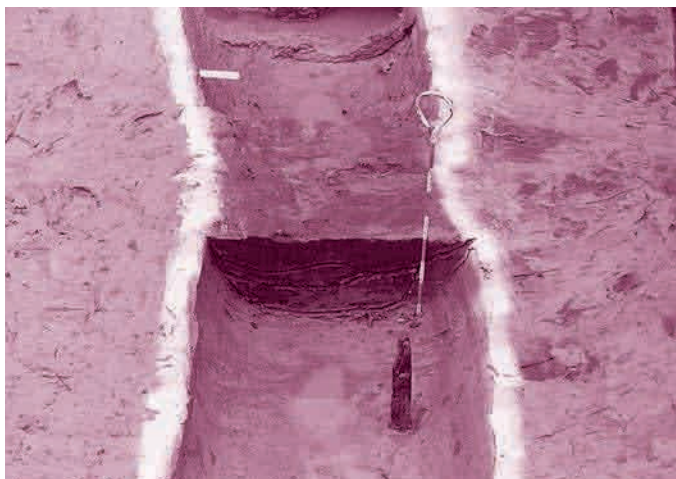
C区下層 SD1~6 断面(北西から)



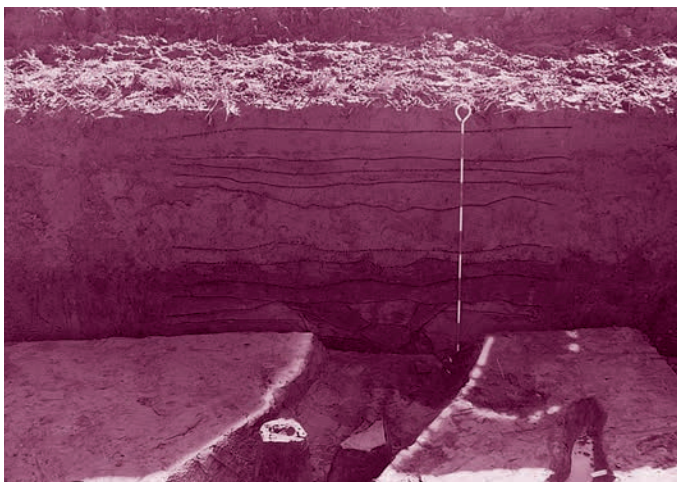
C区下層 SD22 断面(北から)



C区下層 SD24 断面(北から)



C区下層 SD34 断面(北から)



C区下層 SD41 断面(北から)



C区下層 断面(北西から)



C区下層 断面(北から)



C区下層 SP3 断面(西から)



C区 表土掘削作業(西から)



C区下層 遺構発掘作業(西から)



C区下層 遺構発掘作業(東から)



C区下層 遺構断面実測作業(南東から)



C区(2006年)下層 全景 空中写真(東から)



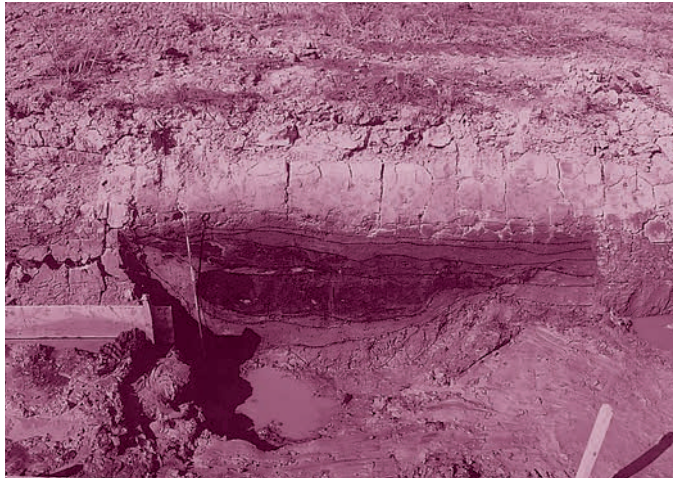
C区(2006年)下層 全景 空中写真(西から)



C区(2006年)下層 全景 空中写真(北から)



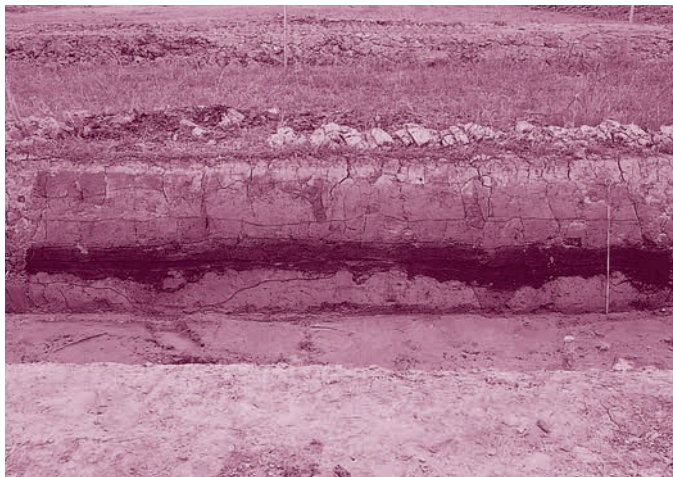
C区(2005年・2006年)下層 全景 空中写真(合成)(南から)



C区下層 SE14 断面(南から)



C区下層 SD5・9~11 断面(南から)



C区下層 SD19 断面(南から)



C区下層 SP22 断面(北から)



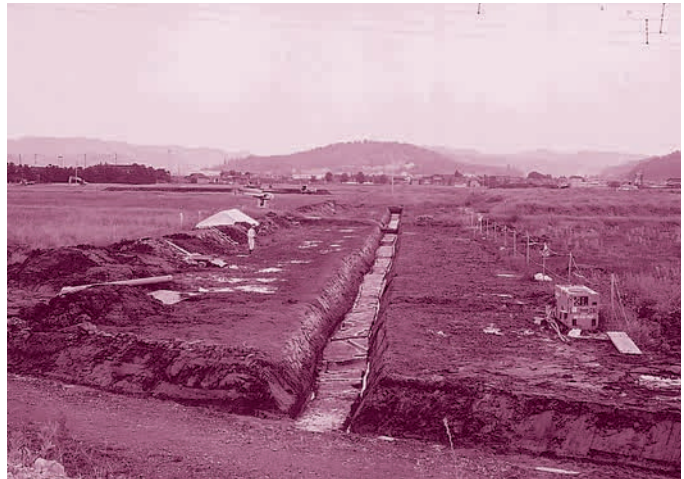
D区 近景(北西から)



D区 表土掘削作業(西から)



D区 遺構発掘作業(北東から)



D区 空中写真撮影(東から)



D区 全景 空中写真(合成)(南から)



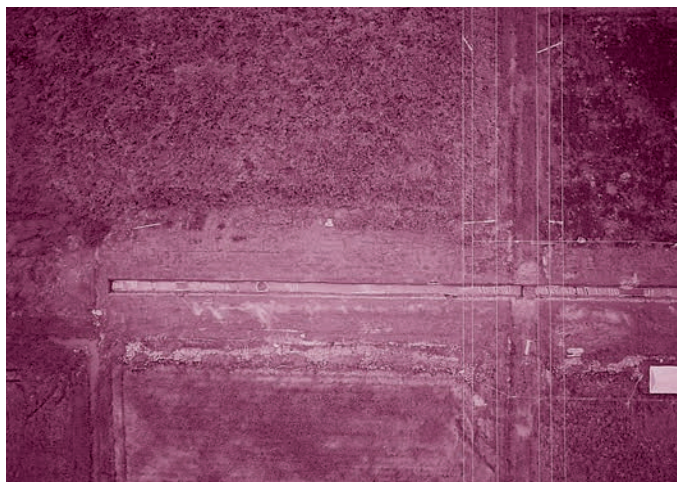
D区 全景 空中写真 (西から)



D区 全景 空中写真 (東から)



D区 全景 空中写真(北東から)



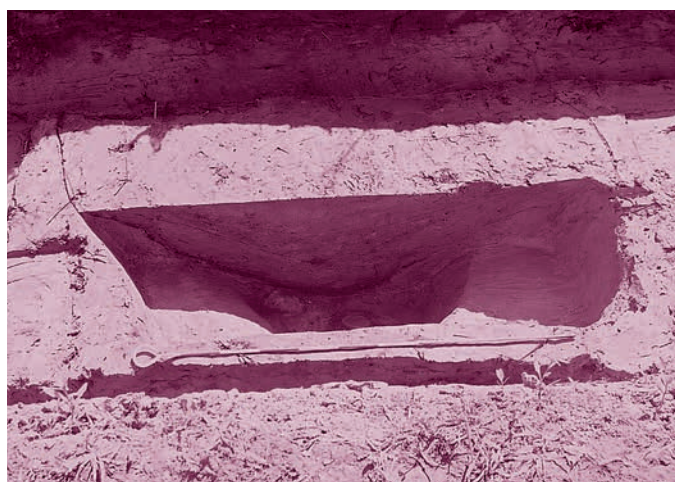
D区 空中写真(部分)(北から)



D区 空中写真(部分)(北から)



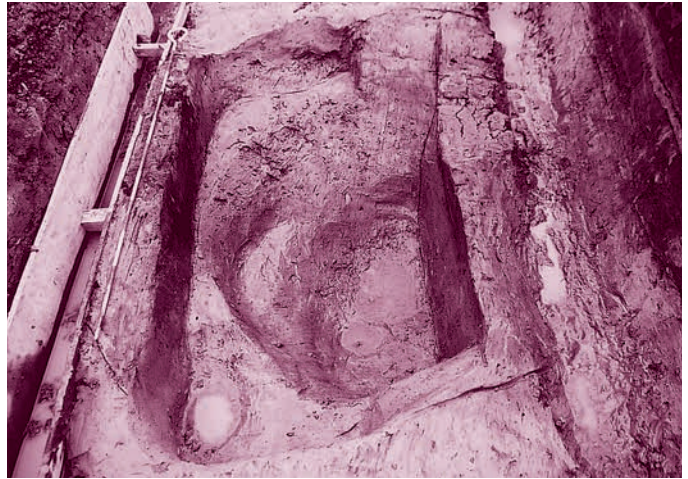
D区 空中写真(部分)(北から)



D区 SK80 断面(北から)



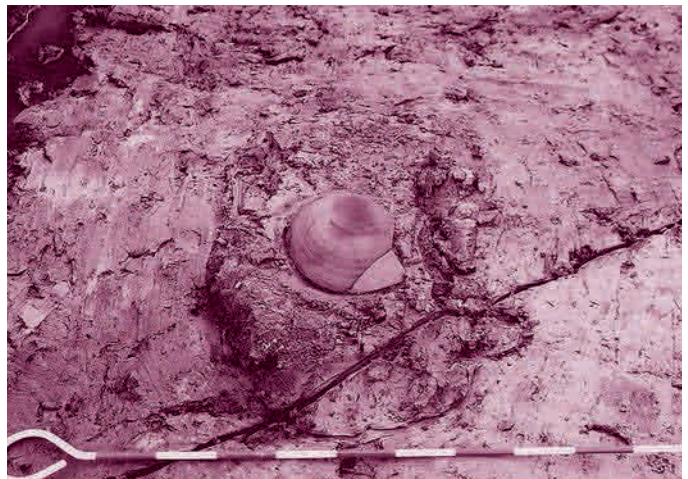
D区 SK80 遺物出土状況(北から)



D区 SK80 完掘(東から)



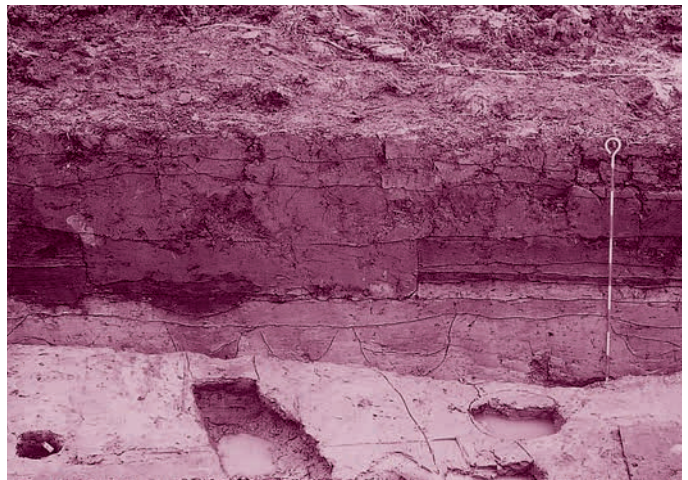
D区 SD1・SD77 断面(北から)



D区 SD1 206出土状況(西から)



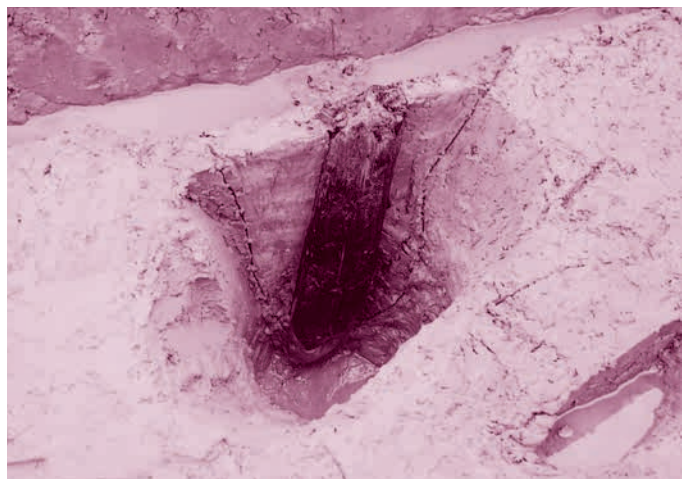
D区 SD77 遺物出土状況(北から)



D区 SD53・SD54・SD60 断面(北から)



D区 SD85・SD86 断面(北から)



D区 SP112 断面(南から)



E区上層 表土掘削作業（北東から）



E区上層 遺構発掘作業（南から）



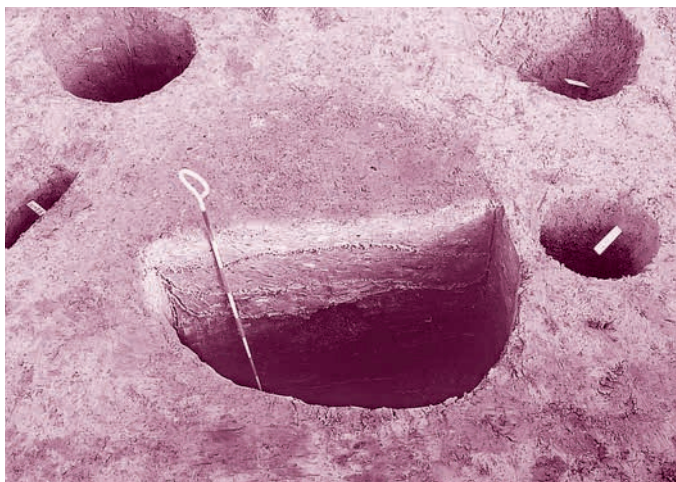
E区上層 全景（北から）



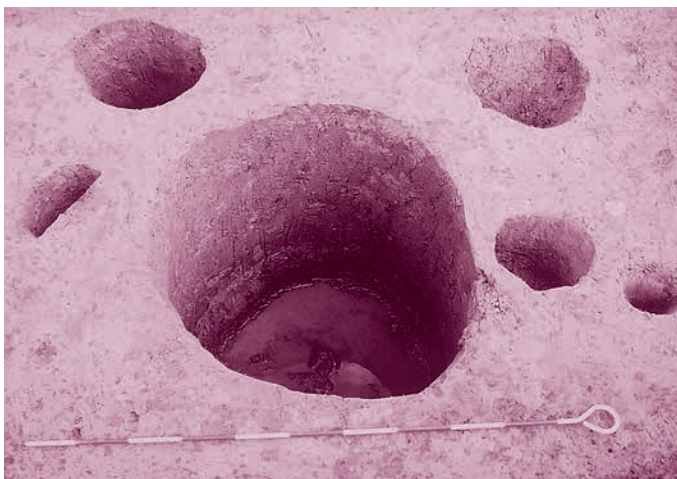
E区上層 全景（南から）



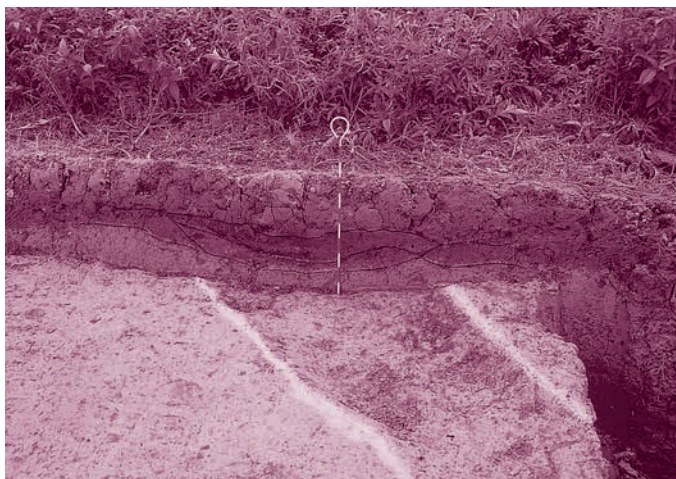
E区上層 基本土層 断面（西から）



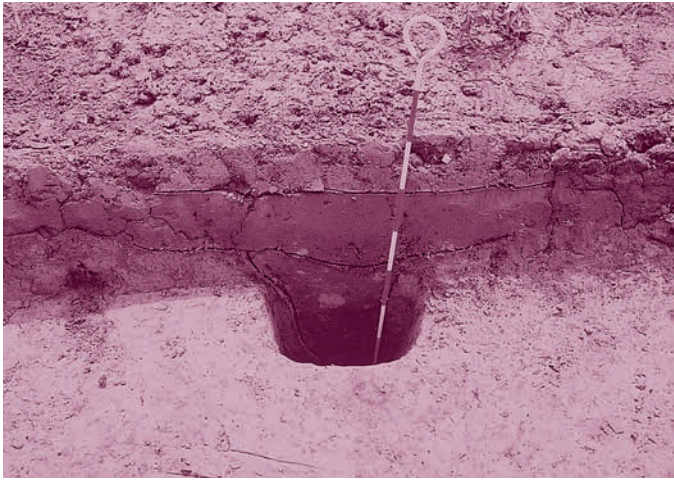
E区上層 SE15 断面（西から）



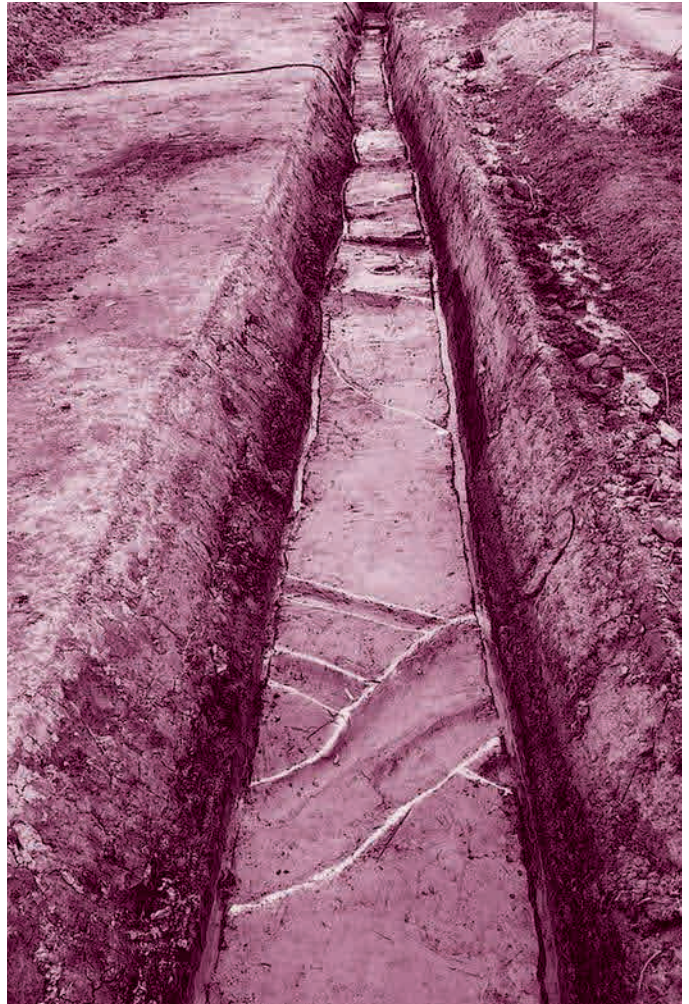
E区上層 SE15 完掘（西から）



E区上層 SD1 断面（西から）



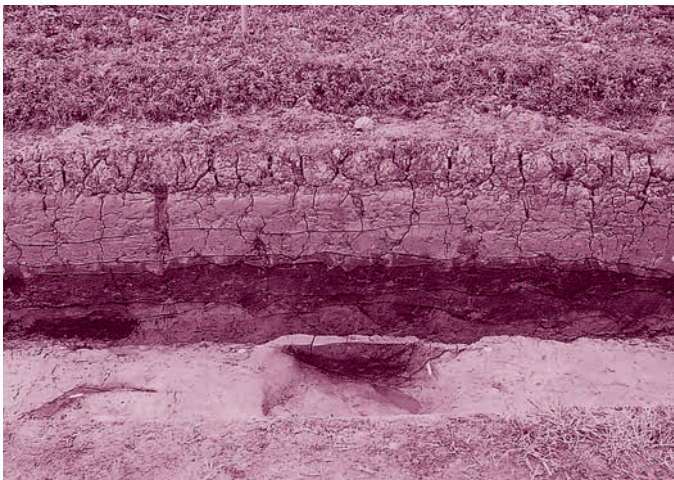
E区上層 SP9 断面 (西から)



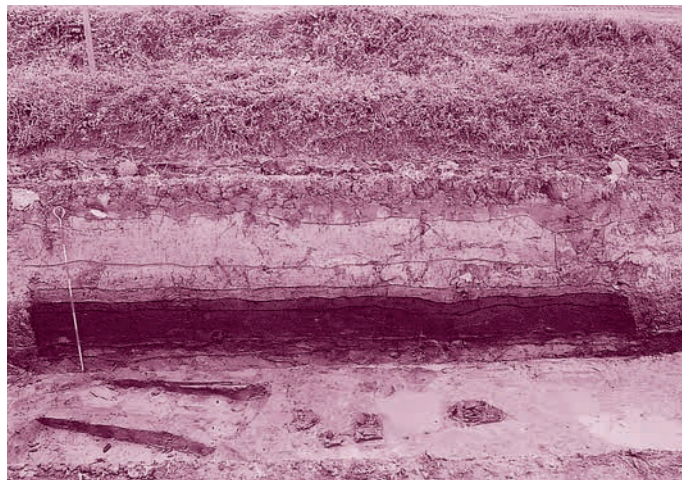
E区下層 全景 (南から)



E区下層 基本土層1 断面 (北から)



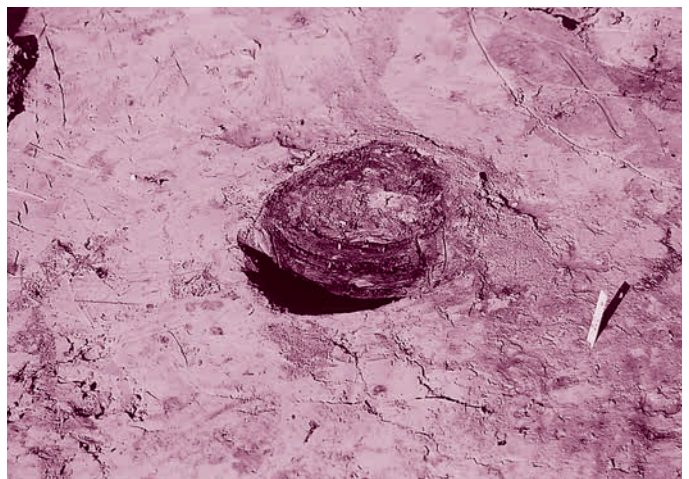
E区下層 SK4・SD2 断面 (西から)



E区下層 SD18 断面 (西から)



E区下層 SD18 断面 (北西から)



E区下層 SP16 断面 (南から)



F区 近景 (西から)



F区 遺構発掘作業 (東から)



F区 全景 (東から)



F区 全景 (西から)



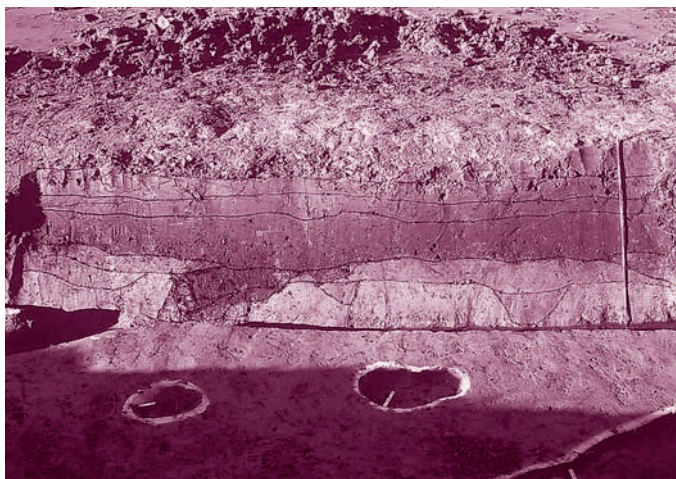
F区 全景 (東から)



F区 全景 (西から)



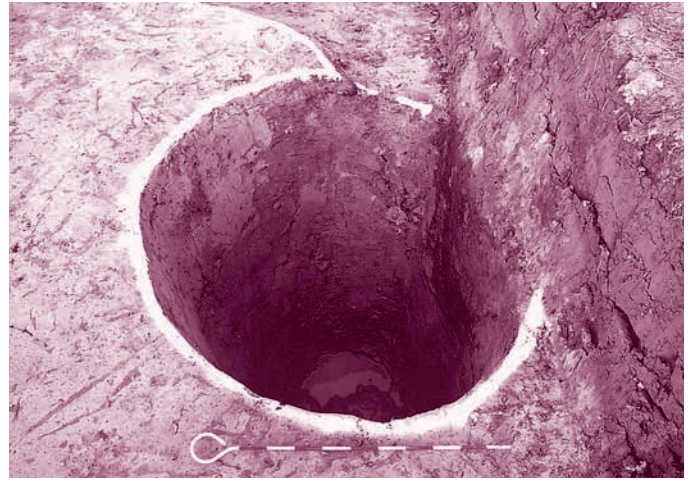
F区上層 全景 (東から)



F区 基本土層・SD14 断面 (南から)



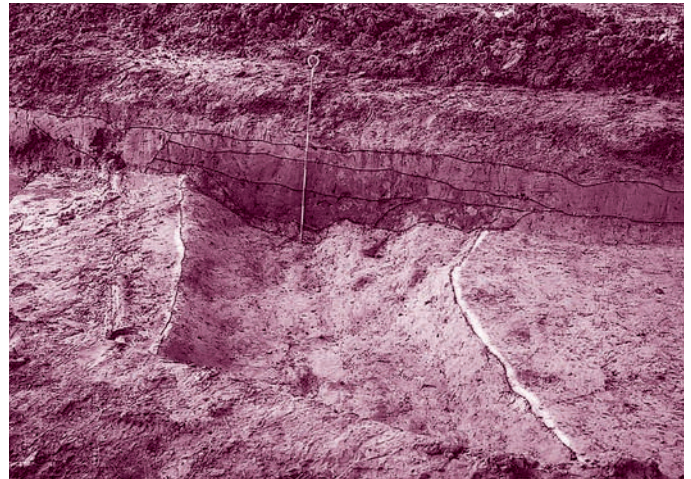
F区 SK11 断面 (南から)



F区 SK11 完掘 (南西から)



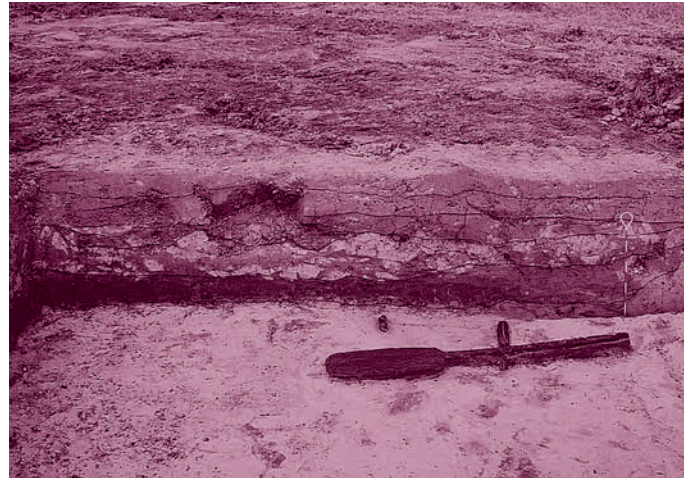
F区 SD5 断面 (北東から)



F区 SD9 断面 (南東から)



F区 SD10 断面 (南西から)



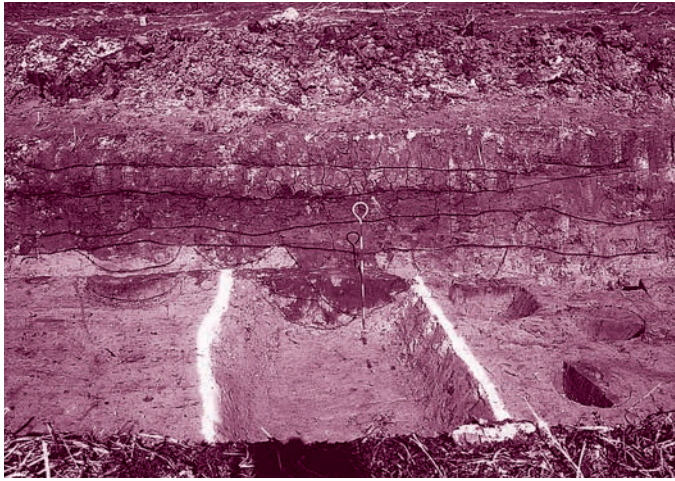
F区 SD10 木5出土状況 (南から)



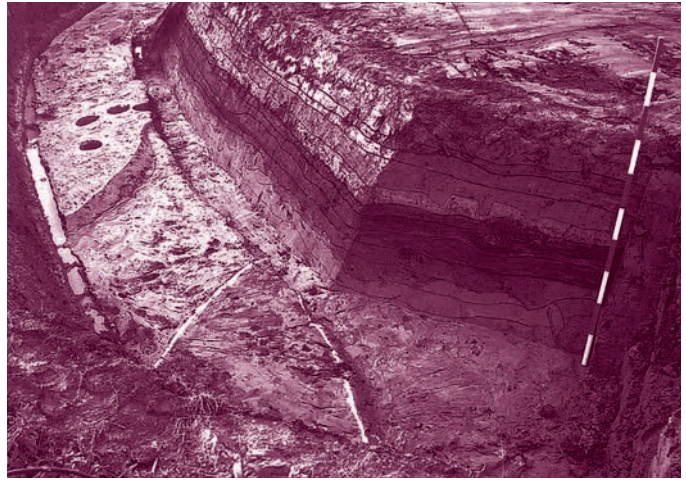
F区 SD10 木5出土状況 (西から)



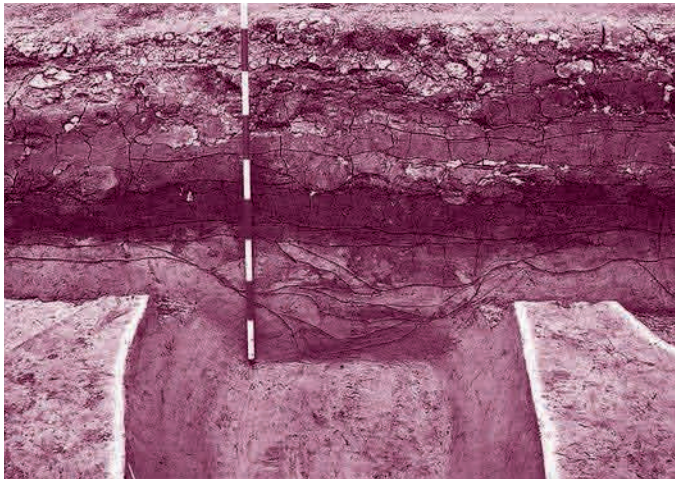
F区 SD10 木5出土状況 (北から)



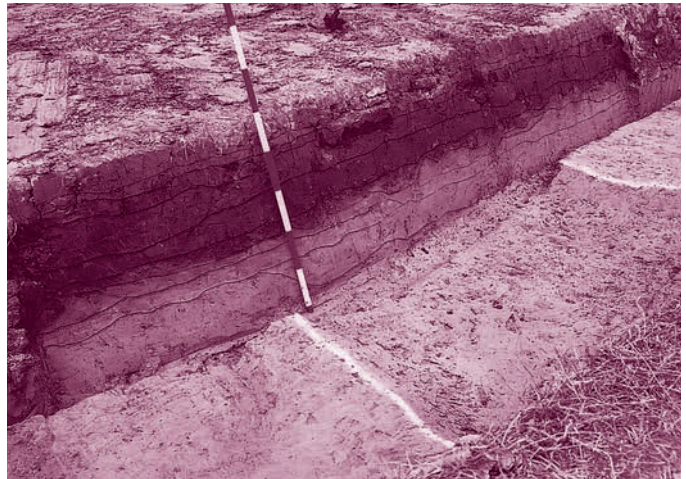
F区 SD31 断面(南から)



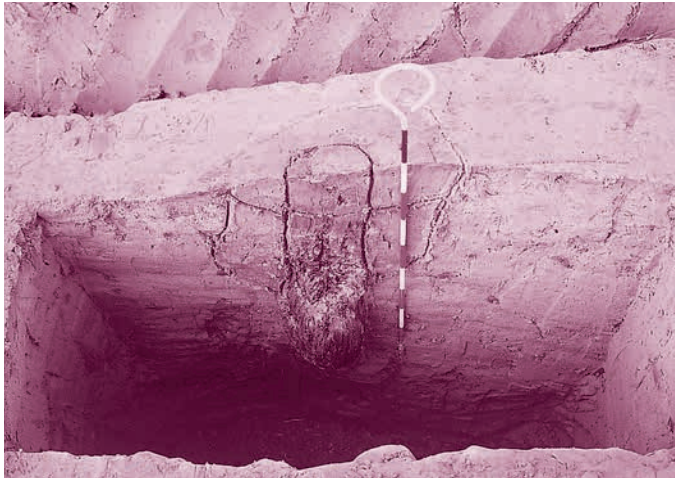
F区 SD74・SD76 断面(南東から)



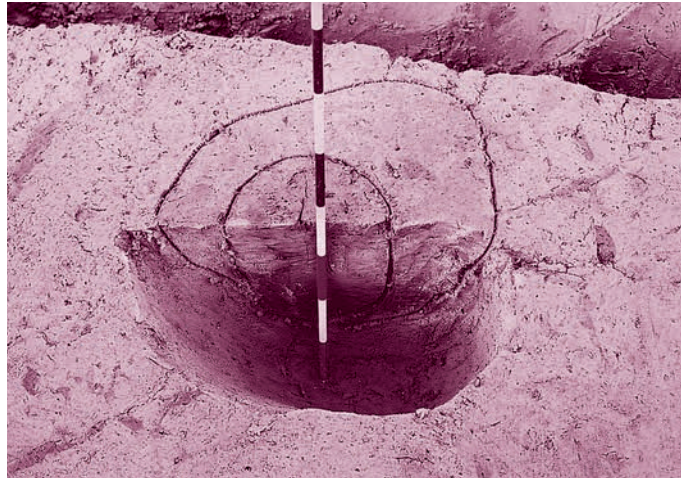
F区 SD79 断面(南西から)



F区 SD90 断面(南西から)



F区 SP48 断面(南から)



F区 SP64 断面(南から)



F区 河川20 断面⑮(北西から)



F区 河川20 断面⑯(北西から)



G区 近景 (東から)



G区 表土掘削作業 (西から)



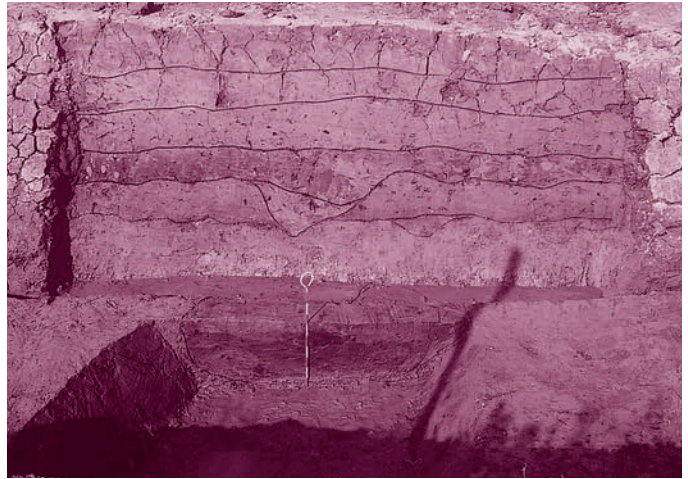
G区 遺構発掘作業 (東から)



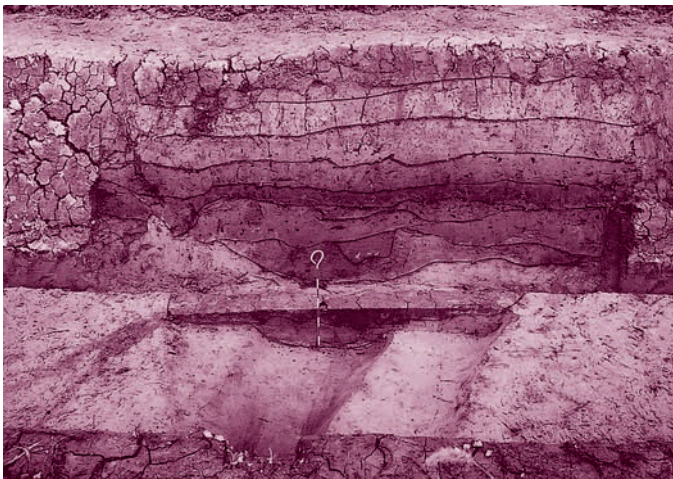
G区 全景 (西から)



G区 全景 (東から)



G区 SD6 断面 (南から)



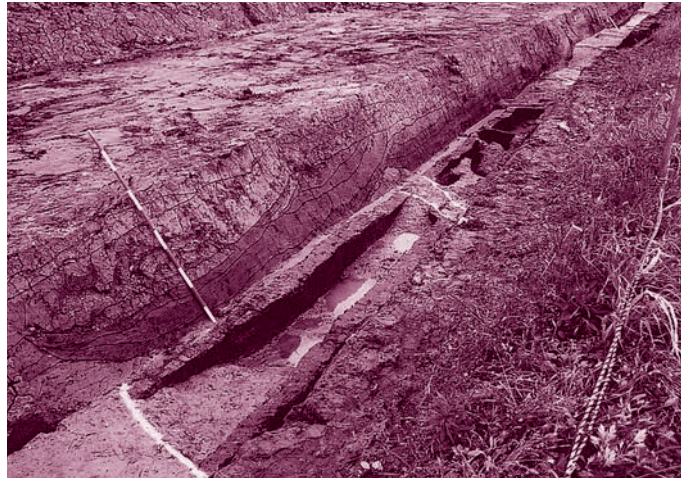
G区 SD11 断面 (南から)



G区 河川5 断面 (南東から)



G区 河川5 全景 (南東から)



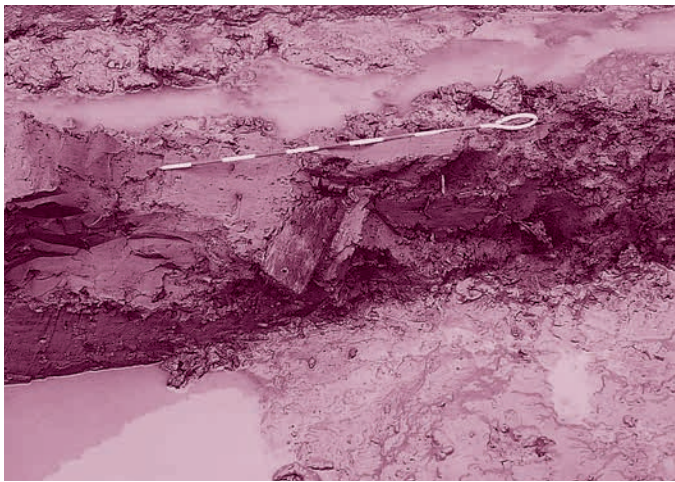
G区 河川9・河川10 断面 (南西から)



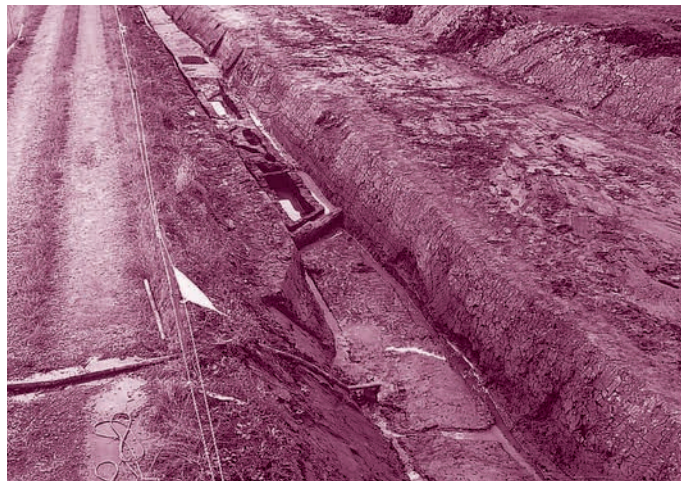
G区 河川9・河川10 断面 (南東から)



G区 河川10 木9出土状況 (北西から)



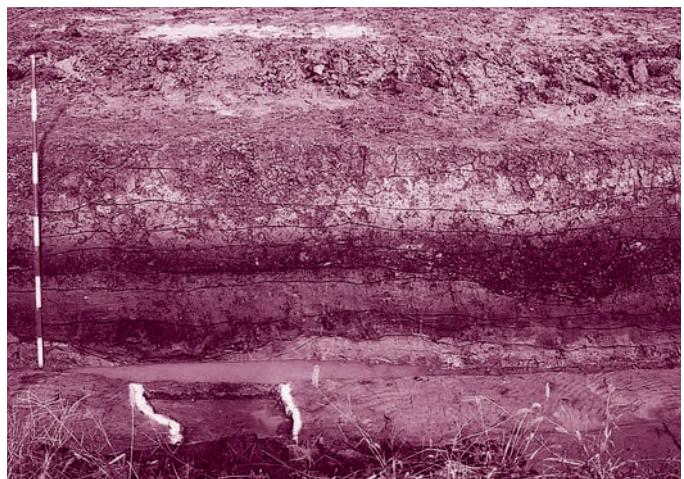
G区 河川10 木10出土状況 (南から)



G区 河川9・河川10 全景 (南東から)



G区 SD21・河川26 断面 (南東から)



G区 SD21・河川26 断面 (部分) (南から)



H区 近景 (西から)



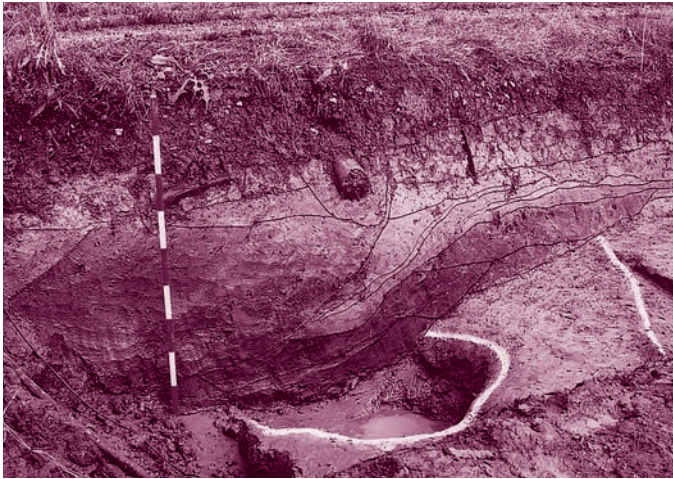
H区 遺構発掘作業 (東から)



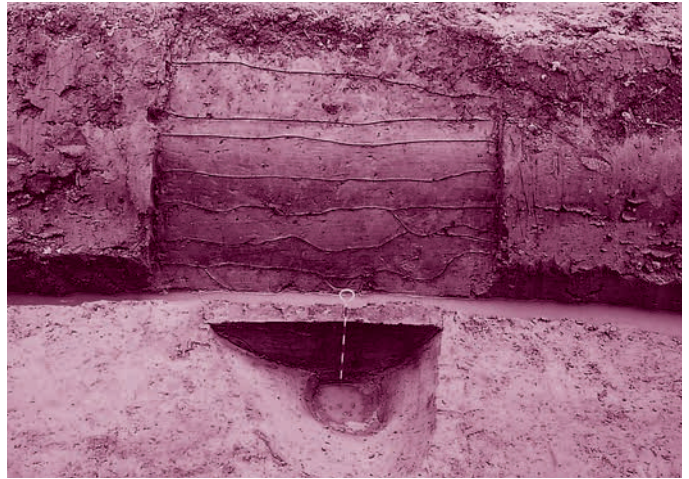
H区 全景 (西から)



H区 全景 (東から)



H区 SK12・河川1 断面 (南から)



H区 SD3 断面 (北から)



H区 河川2 断面 (北から)



H区 河川5 断面 (南西から)



I区 近景 (南東から)



I区 表土掘削作業 (西から)



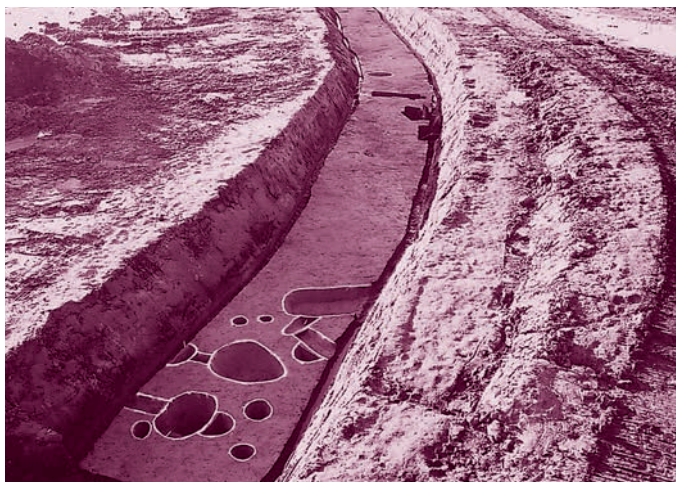
I区 遺構発掘作業 (西から)



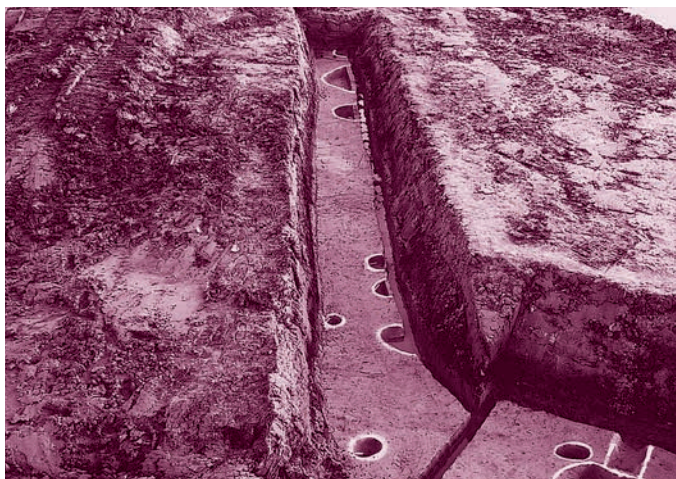
I区 遺構断面実測 (南西から)



I区 全景 (西から)



I区 全景 (部分) (東から)



I区 全景 (部分) (北から)



I区 基本土層 断面（北東から）



I区 SB1 全景（西から）



I区 SB1-1 (SP29) 断面（西から）



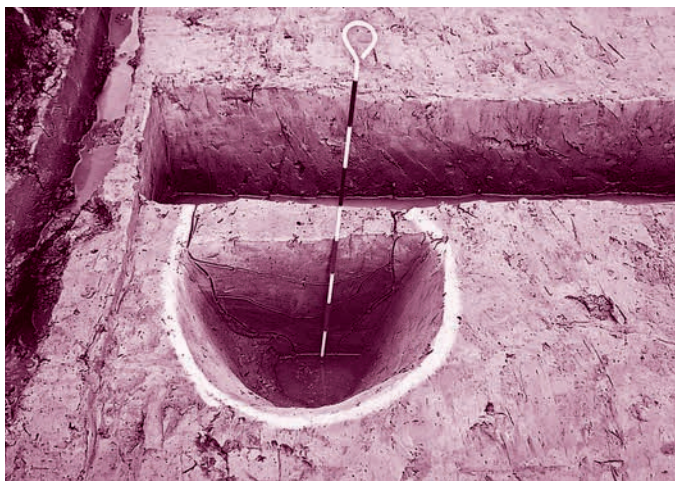
I区 SB1-2 (SP30) 断面（南から）



I区 SB1-3 (SP50) 断面（南から）



I区 SK34・SK47 断面（北東から）



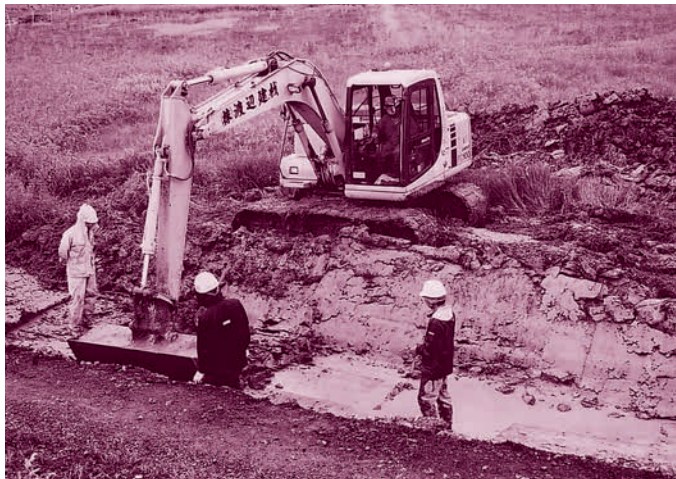
I区 SP64 断面（西から）



I区 SB1 周辺噴砂確認状況（東から）



J区 近景(南から)



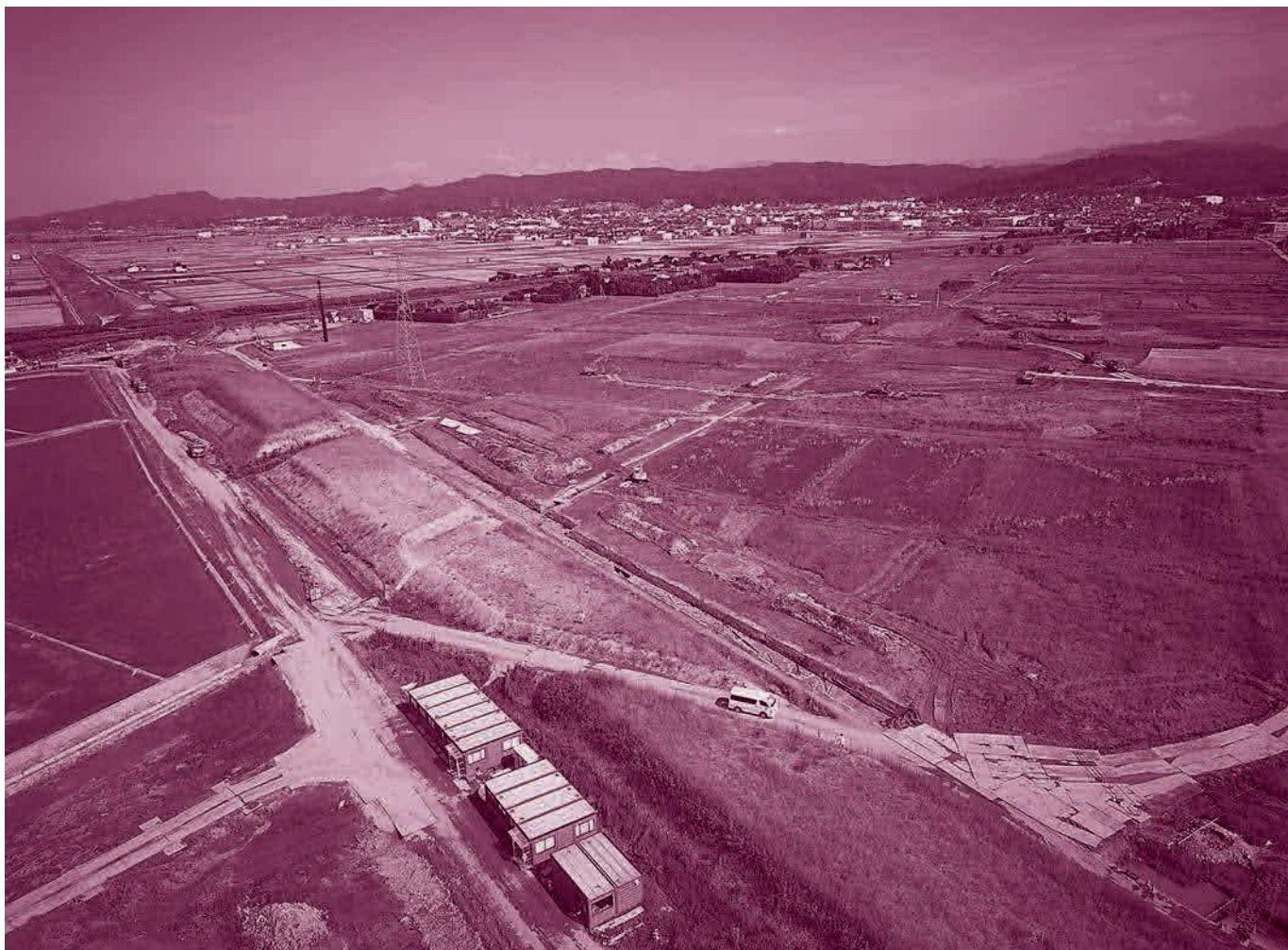
J区 表土掘削作業(南西から)



J区 遺構発掘作業(南西から)



J区 遺構発掘作業(南から)



J・K区 全景 空中写真(南西から)



J・K区 全景 空中写真 (北から)



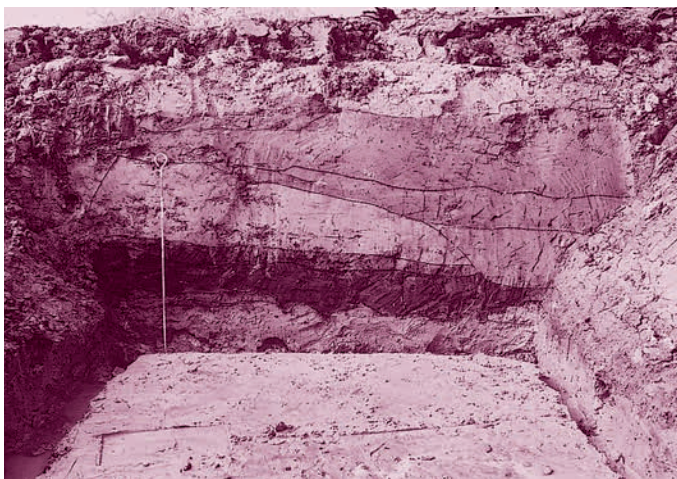
J・K区 全景 空中写真 (西から)



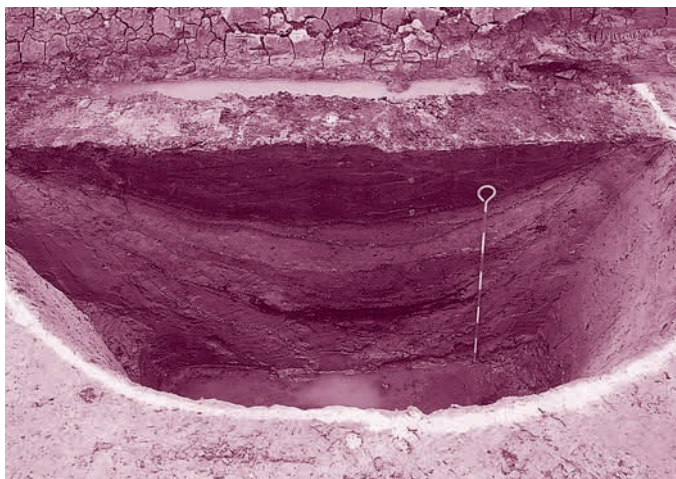
J区 全景(南から)



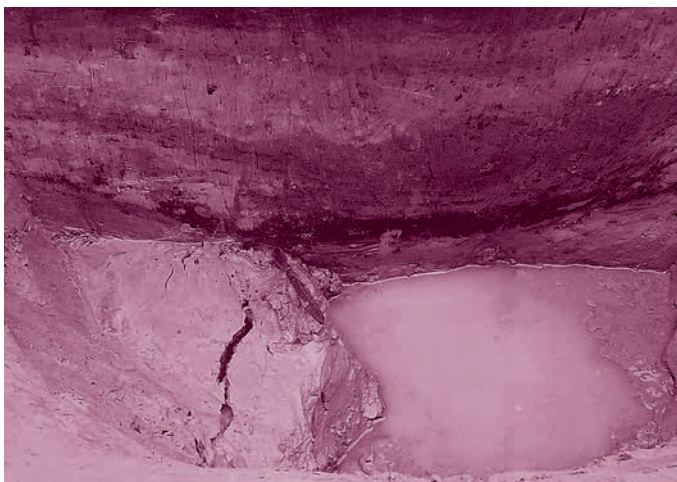
J区 南端部 全景(北から)



J区 基本土層 断面(北東から)



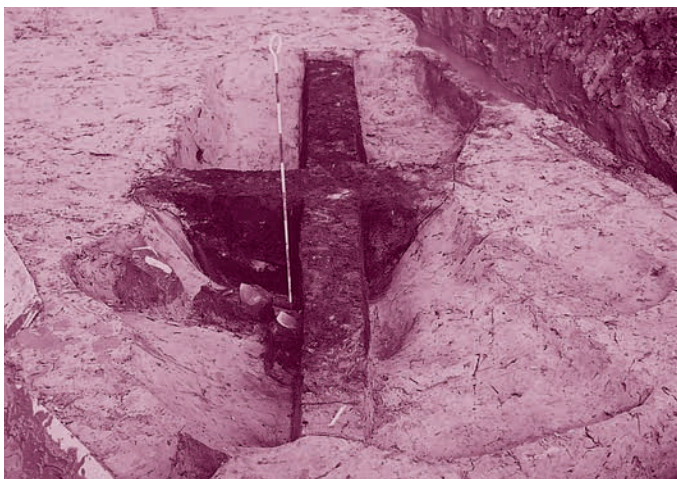
J区 SE87 断面(東から)



J区 SE87 木53出土状況(東から)



J区 SK15 断面③(北から)



J区 SK15 断面④(西から)



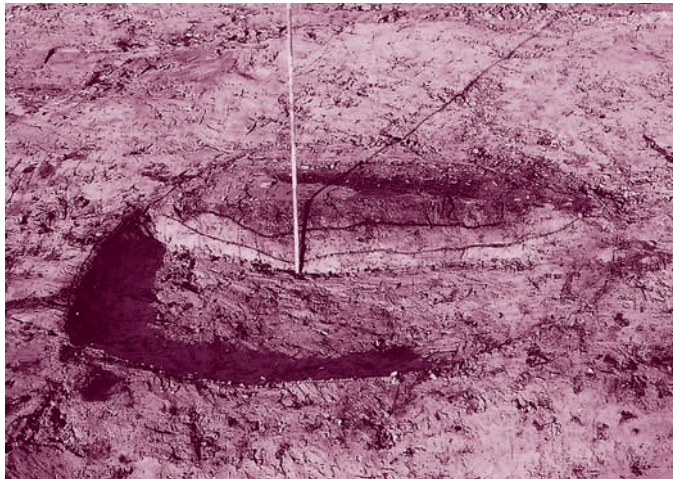
J区 SK15 完掘(北西から)



J区 SK29 断面(南から)



J区 SK89 断面(北西から)



J区 SK90 断面(南から)



J区 SD20 断面(南から)



J区 SD34 断面(南東から)



J区 SD67 断面(西から)



J区 SD67 木6出土状況(西から)



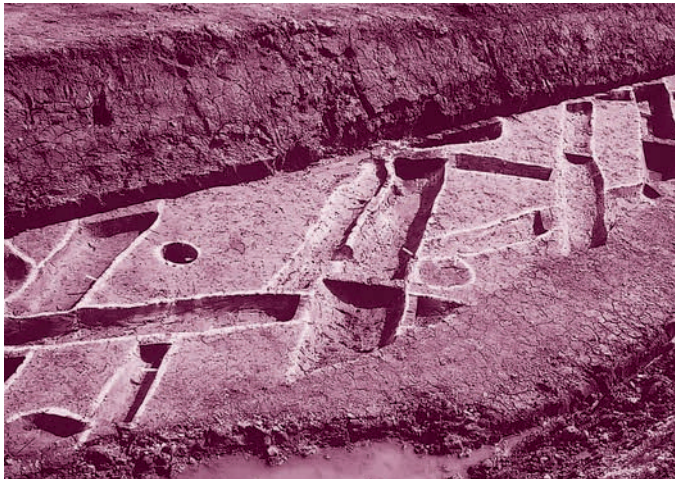
J区 SD71 遺物出土状況(南東から)



J区 SD86 断面(南から)



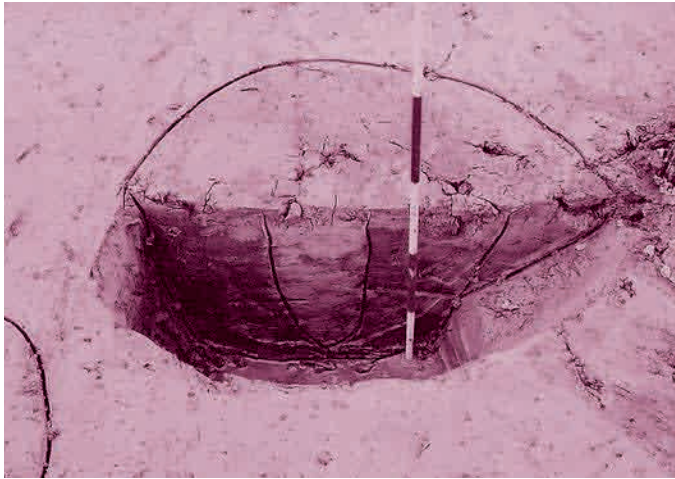
J区 SD20 周辺 完掘(南西から)



J区 SD42 周辺 完掘(北から)



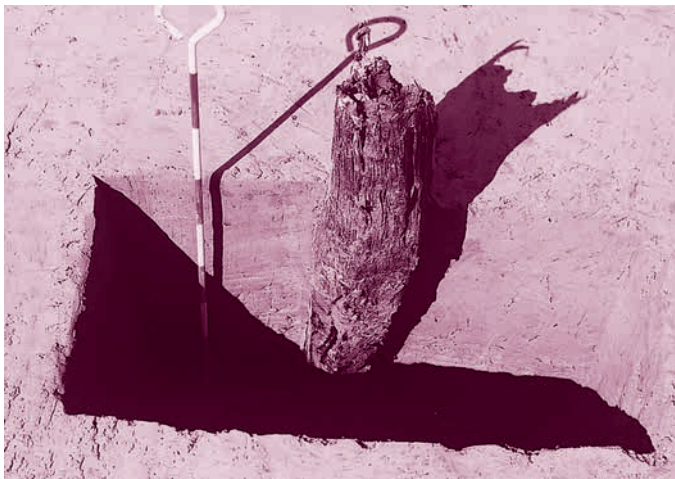
J区 SD47 周辺 完掘(北西から)



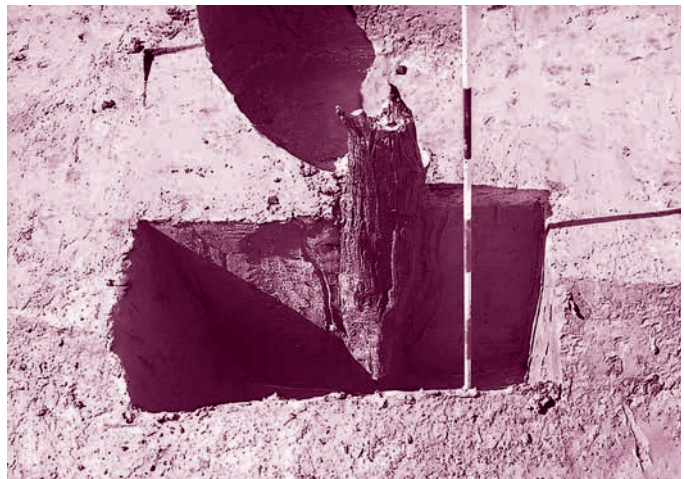
J区 SP85 断面(南から)



J区 SP100 断面(東から)



J区 SP101 断面(東から)



J区 SP103 断面(北東から)



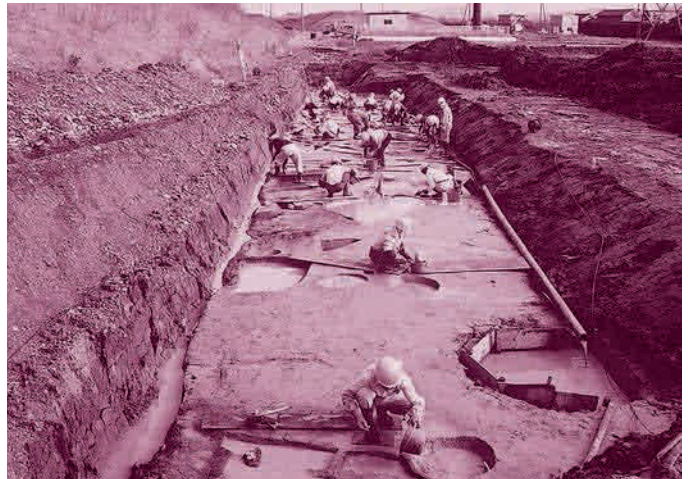
K区 遺構発掘作業（南から）



K区 遺構発掘作業（北から）



K区 遺構発掘作業（南から）



K区 遺構発掘作業（南から）



K区 遺構発掘作業（南西から）



K区 遺構発掘作業（南から）



K区 空中写真撮影（北東から）



2006年 調査スタッフ



K区 全景 空中写真 (D区・J区・K区の合成) (南東から)



K区 全景 空中写真 (北から)



K区 全景 空中写真(北東から)



K区 全景 空中写真(北西から)



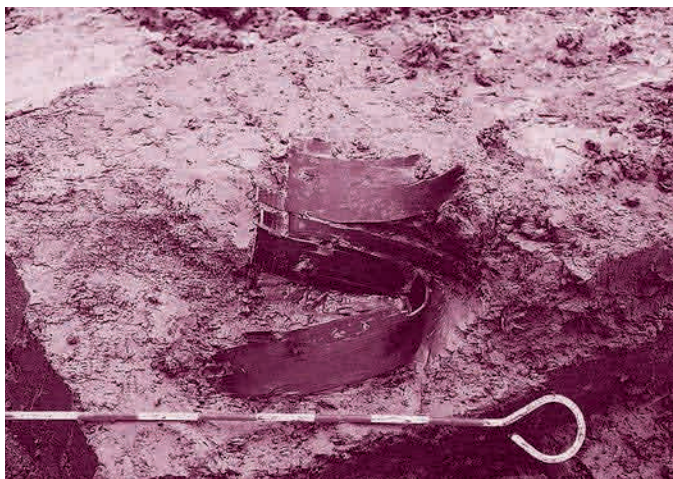
K区 G3～H4グリッド 全景(南西から)



K区 I6グリッド 全景(北から)



K区 基本土層 断面(南東から)



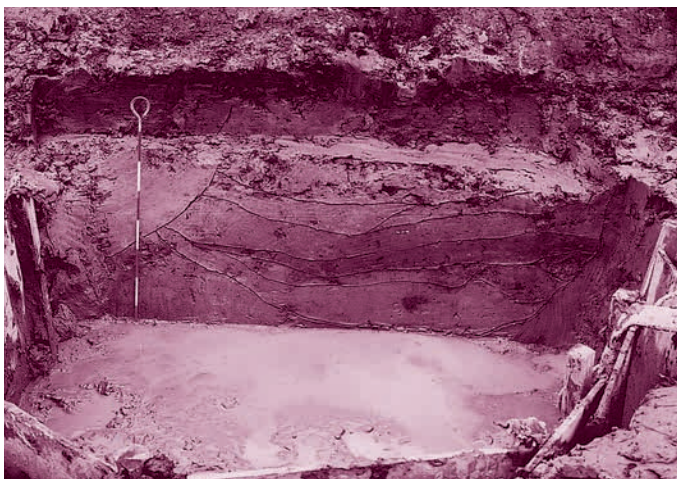
K区 木26出土状況(南から)



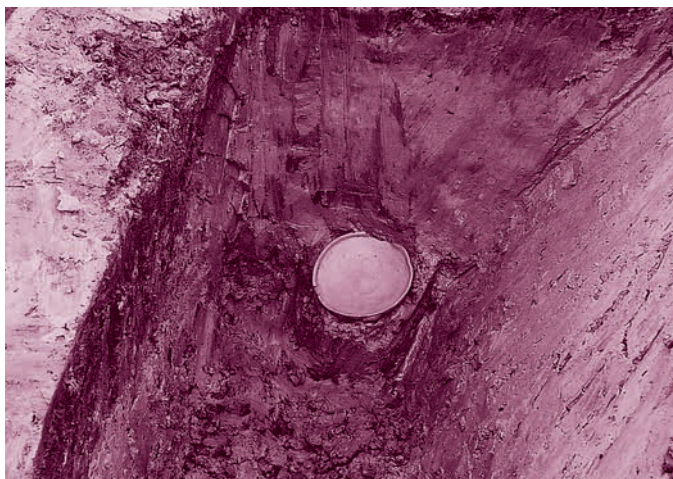
K区 SK1 434出土状況(北西から)



K区 SK19 遺物出土状況(南から)



K区 SK74 断面(西から)



K区 SK74 441出土状況(西から)



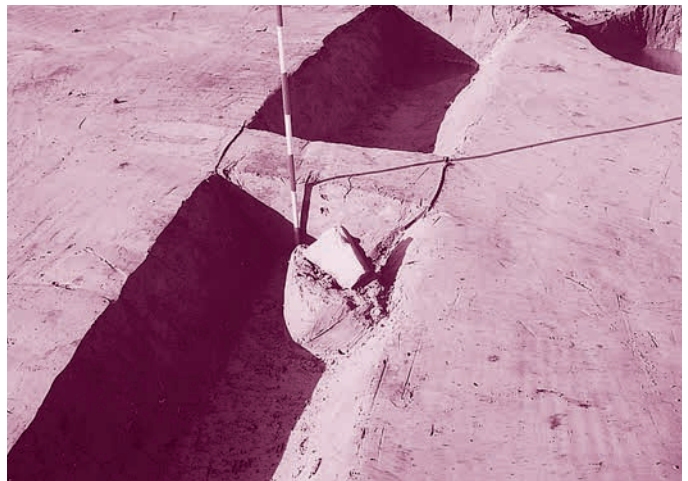
K区 SK77 断面(南から)



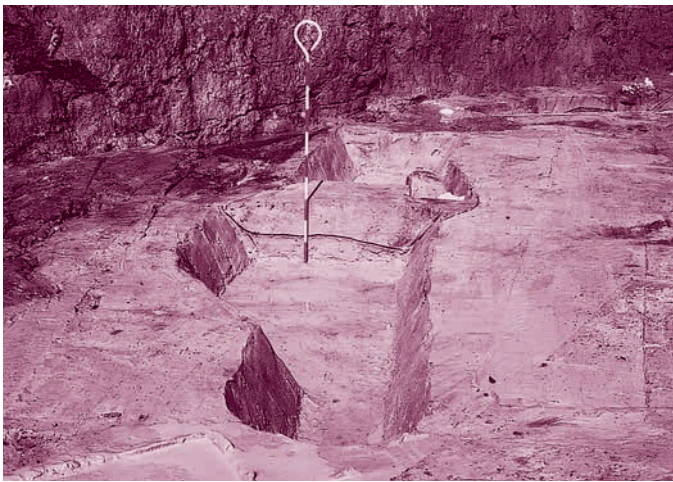
K区 SK190 金2出土状況(東から)



K区 SD51 断面(南から)



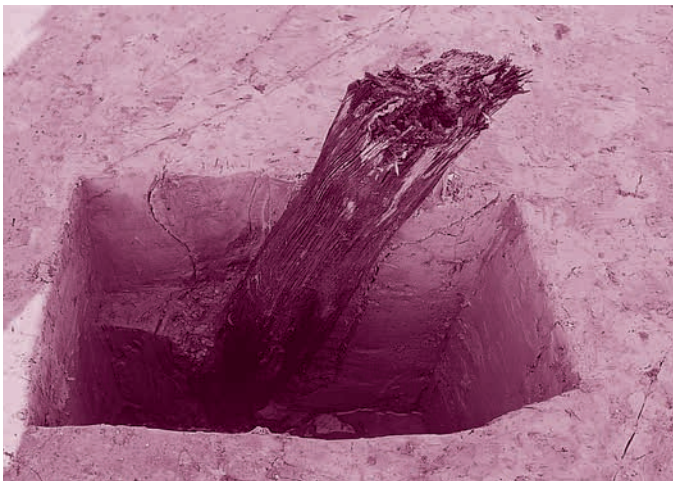
K区 SD98 遺物出土状況(南から)



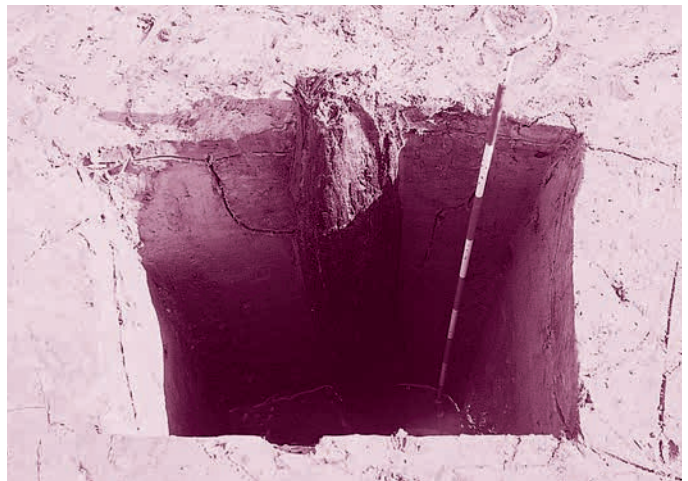
K区 SD193 断面(南から)



K区 SD193 474・475 出土状況(東から)

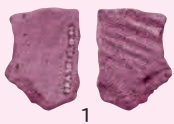


K区 SP32 断面(南から)



K区 SP61 断面(北西から)

SD1 (1)

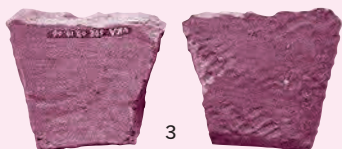


SD6 (4)

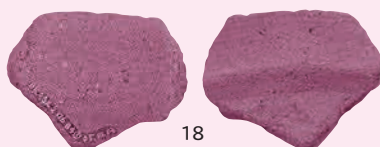
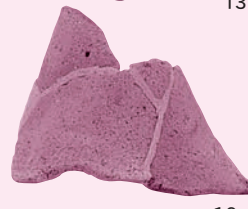
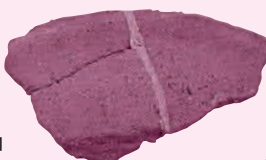
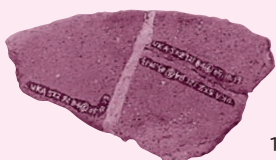
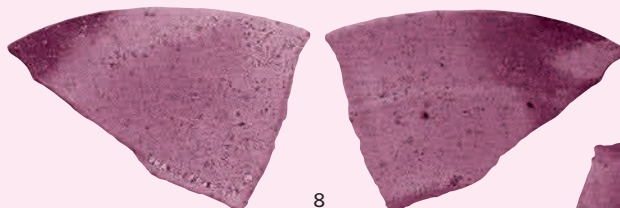
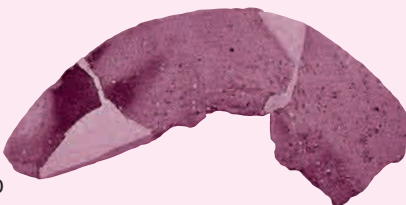
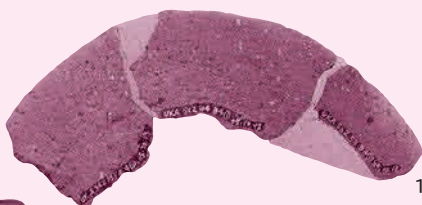
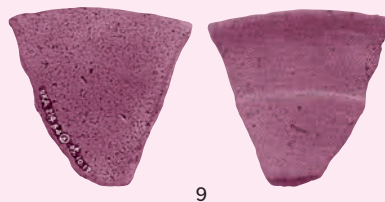
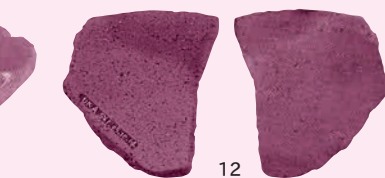
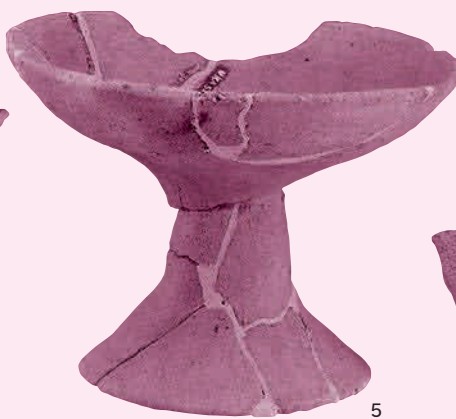
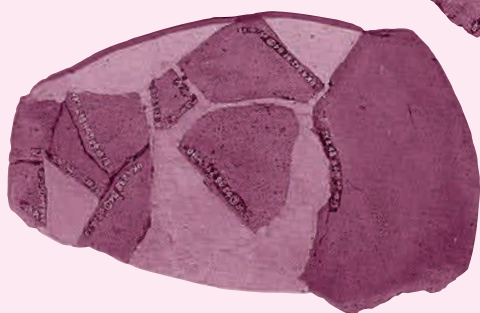
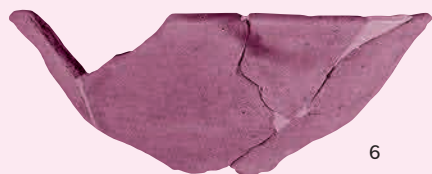
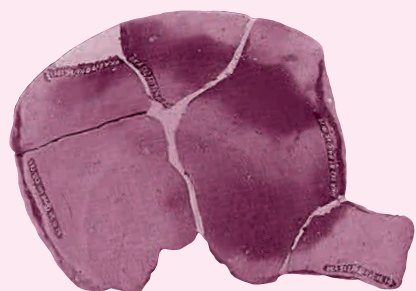


A区
出土土器 (1)

SD2 (2・3)



河川1・2 (5~16・18)



14

18

16

12

9

5

10

8

11

15

13

6

1

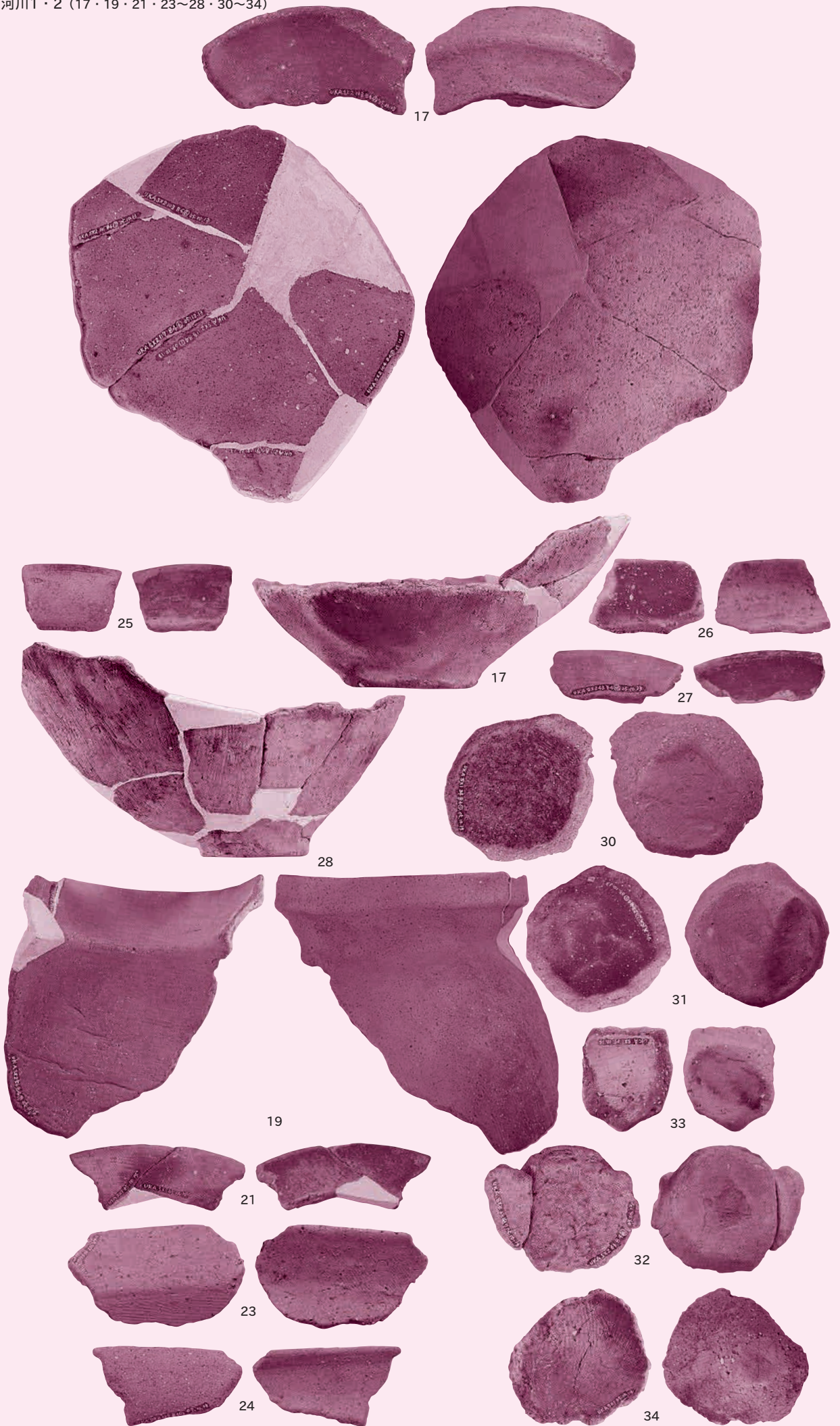
2

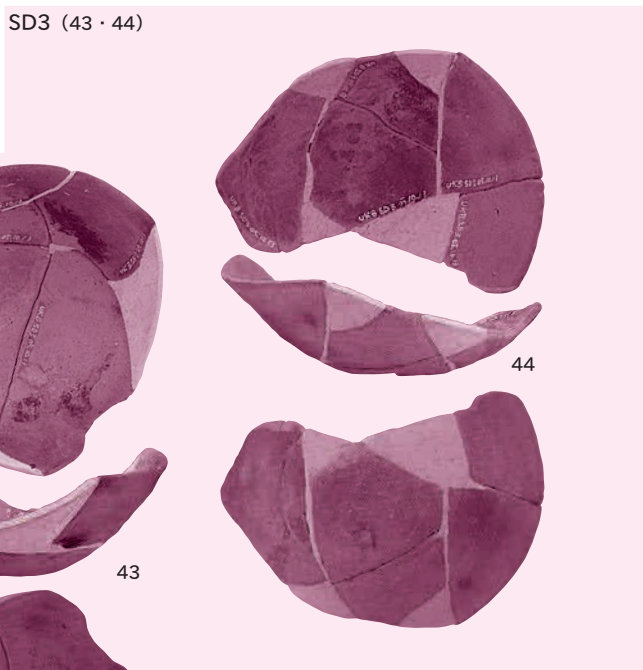
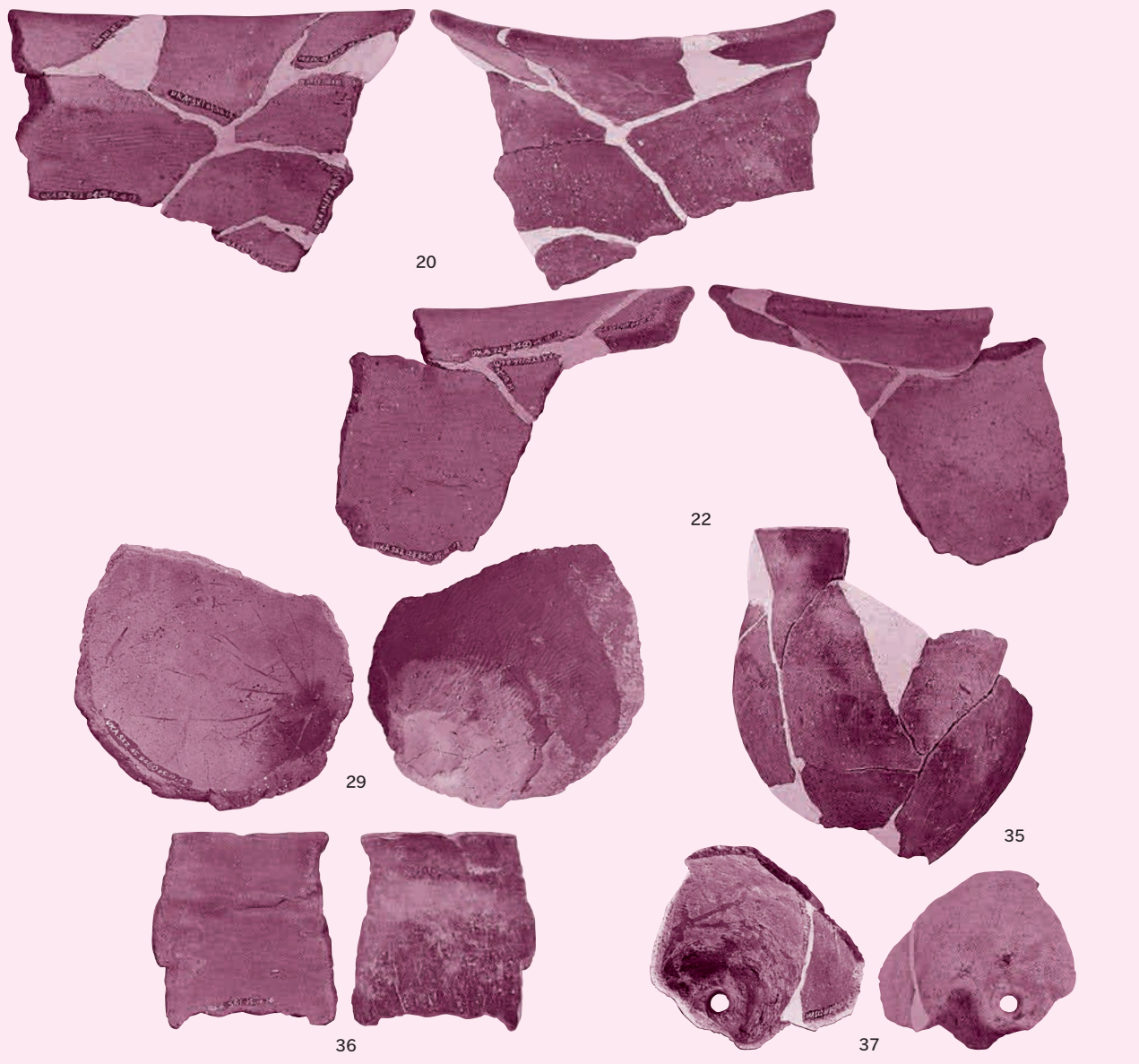
3

4

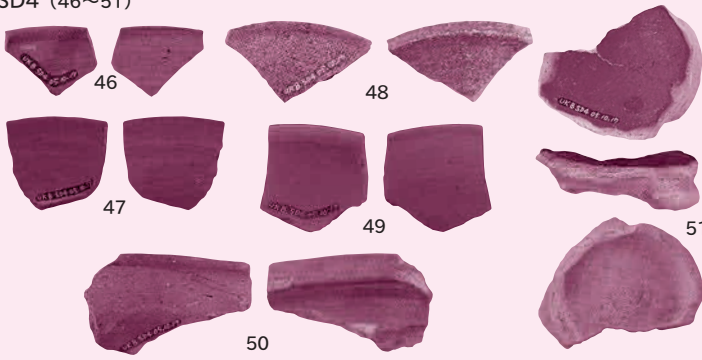
河川1・2 (17・19・21・23~28・30~34)

A区
出土土器 (2)





SD4 (46~51)



SD5 (52)



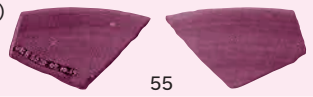
SD19 (54)



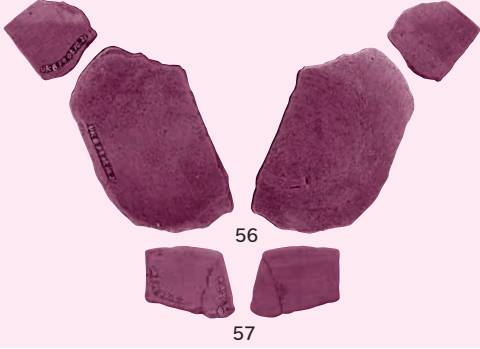
SD9 (53)



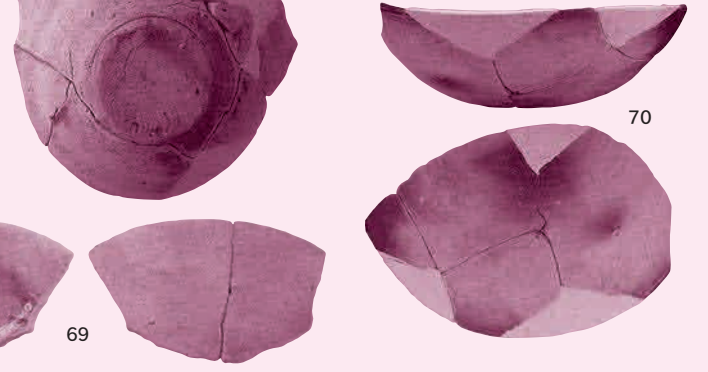
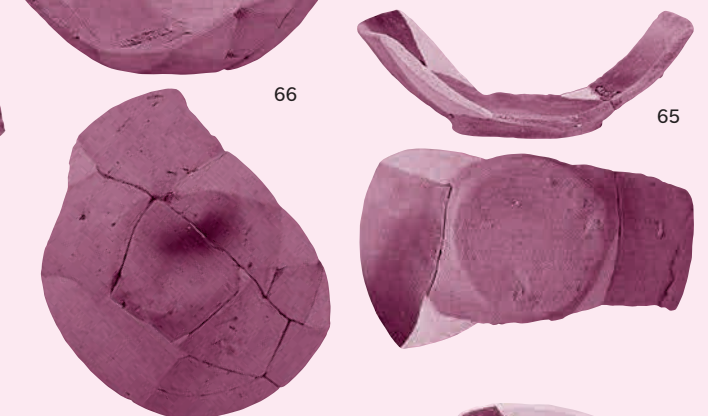
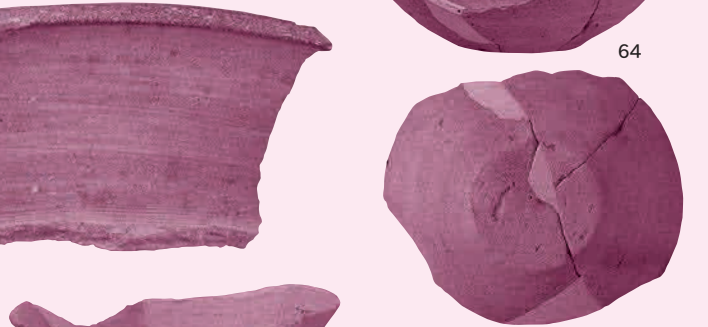
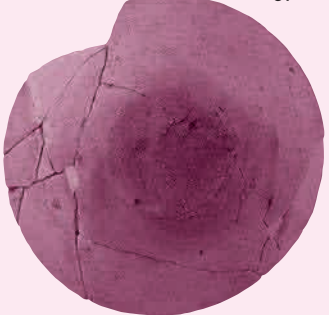
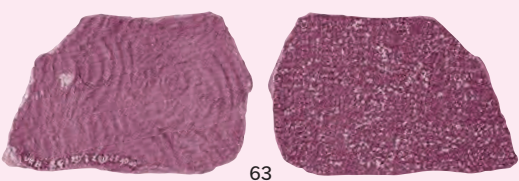
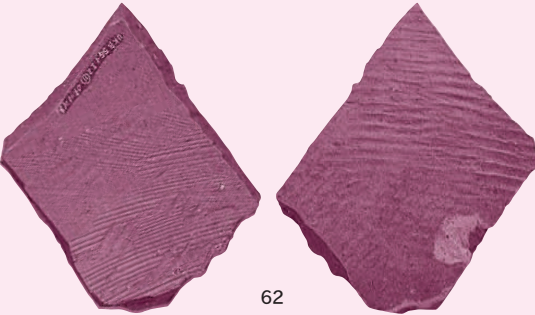
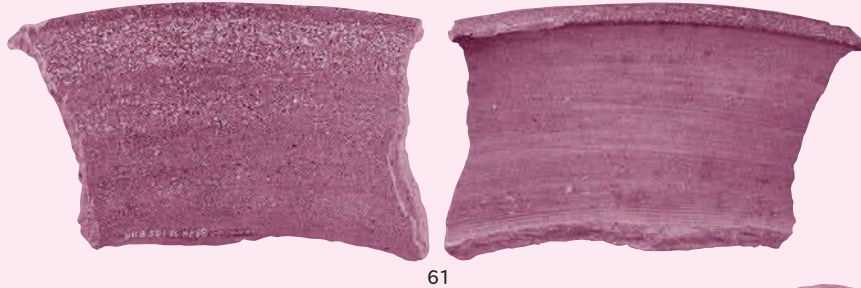
SD20 (55)



SP7 (56・57)



河川1 (58~70)





出土遺物6

101・107

108・113

117~119

(S=1:4)

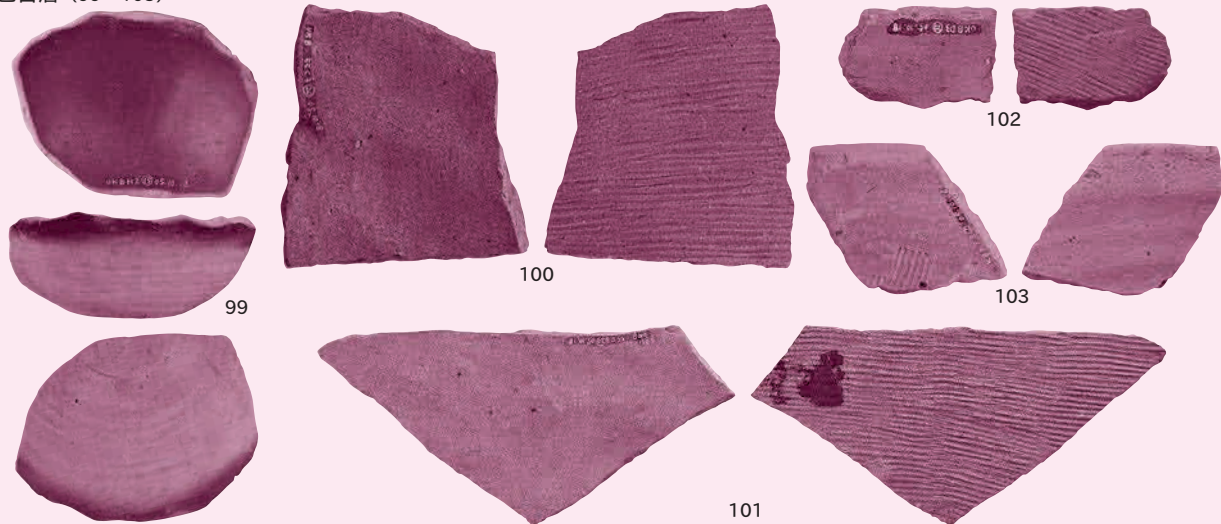
他

(S=1:3)

B区

出土土器 (4)

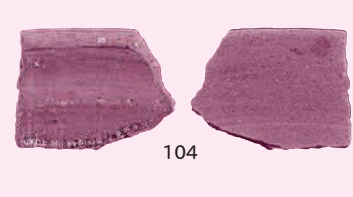
包含層 (99~103)



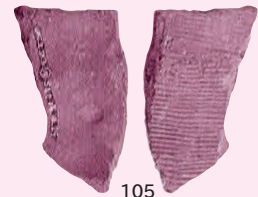
C区上層

出土土器

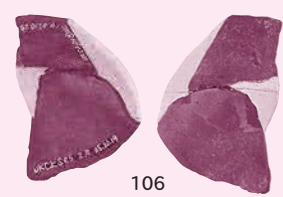
SE1 (104)



SE2 (105)



SE5 (106)



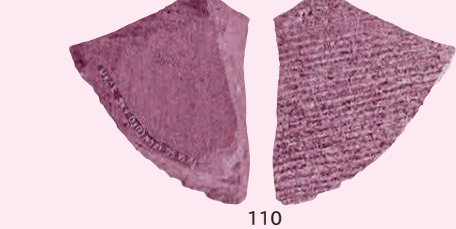
SK2 (109)



SE7 (107・108)



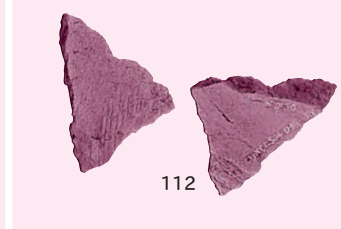
SK4 (110)



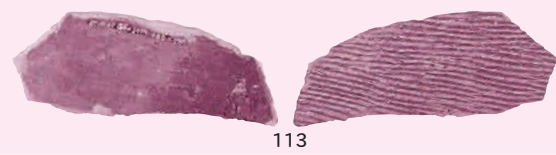
SX1 (111)



SD4 (112)



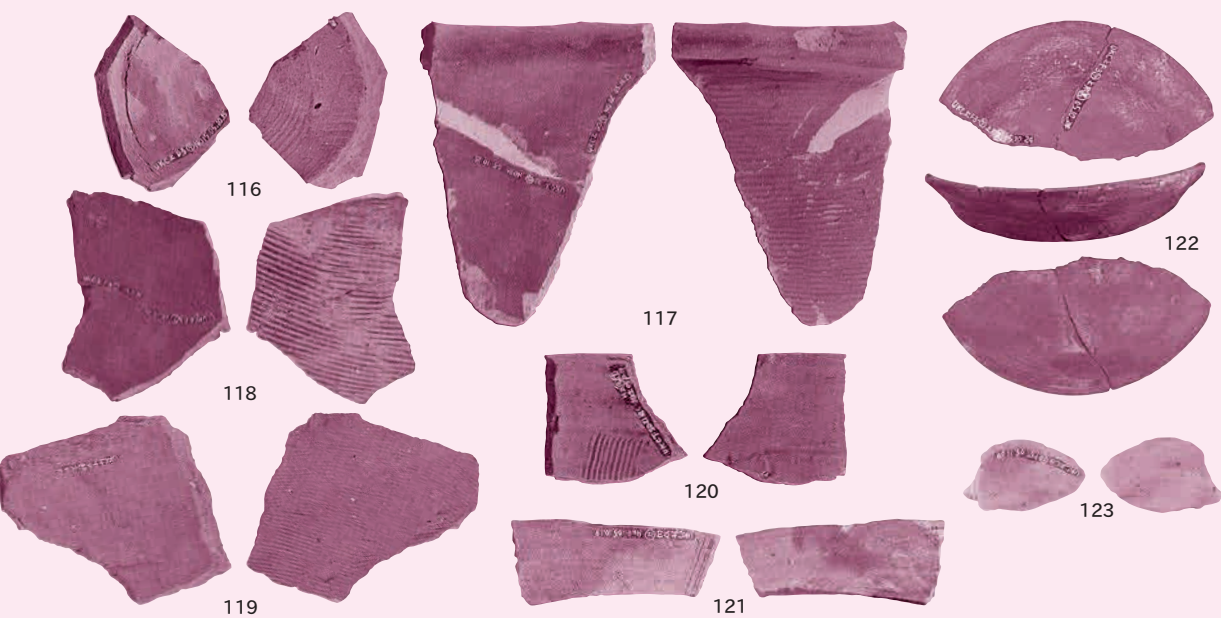
SD6 (113)



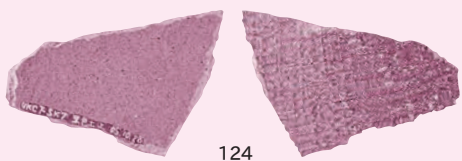
河川 (114・115)



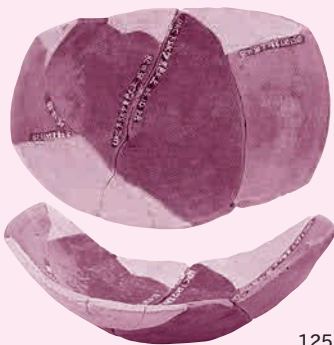
包含層 (116~123)



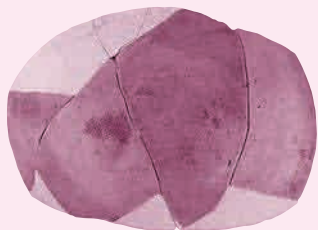
SE7 (124 · 125)



124



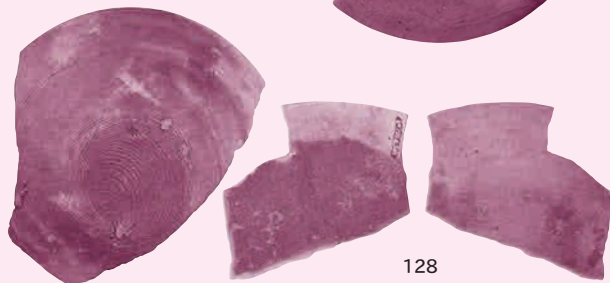
125



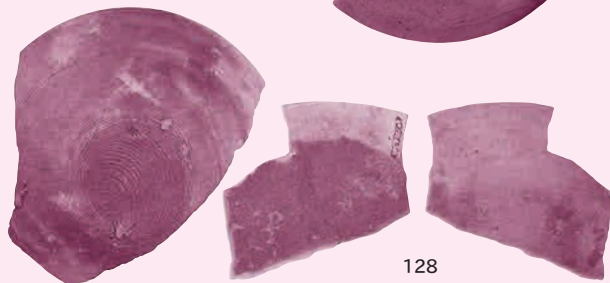
SK1 (126~128)



126

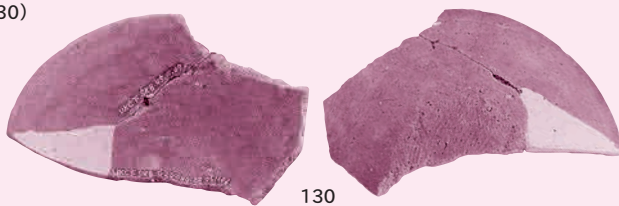


127



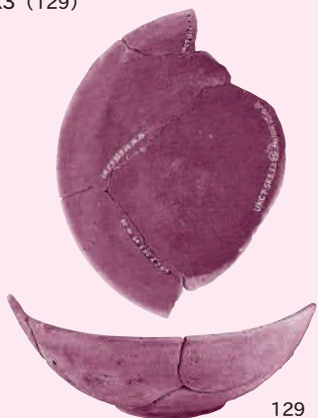
128

SK8 (130)

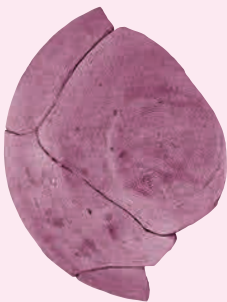


130

SK3 (129)



129



SD19 (131 · 132)

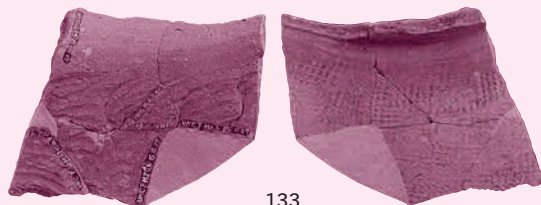


131



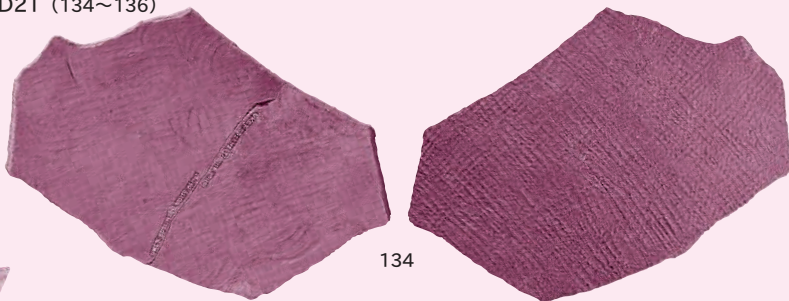
132

SD20 (133)



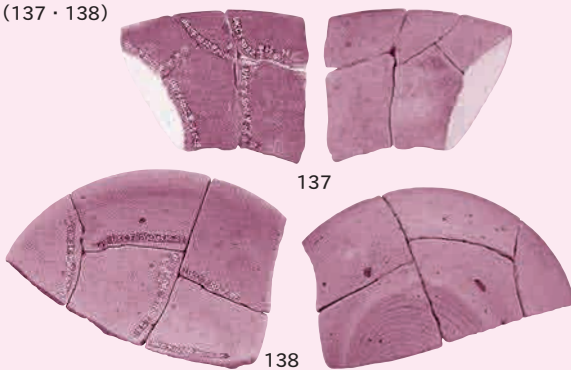
133

SD21 (134~136)

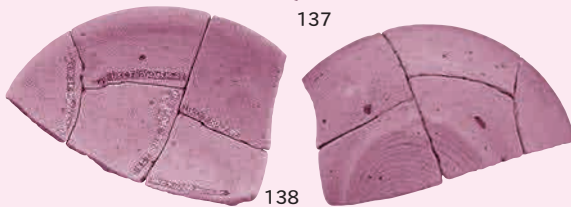


134

SD22 (137 · 138)



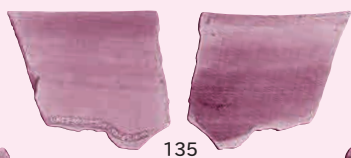
137



138

出土遺物7
133 · 134
(S=1 : 4)
他
(S=1 : 3)

C区下層
出土土器 (1)



135

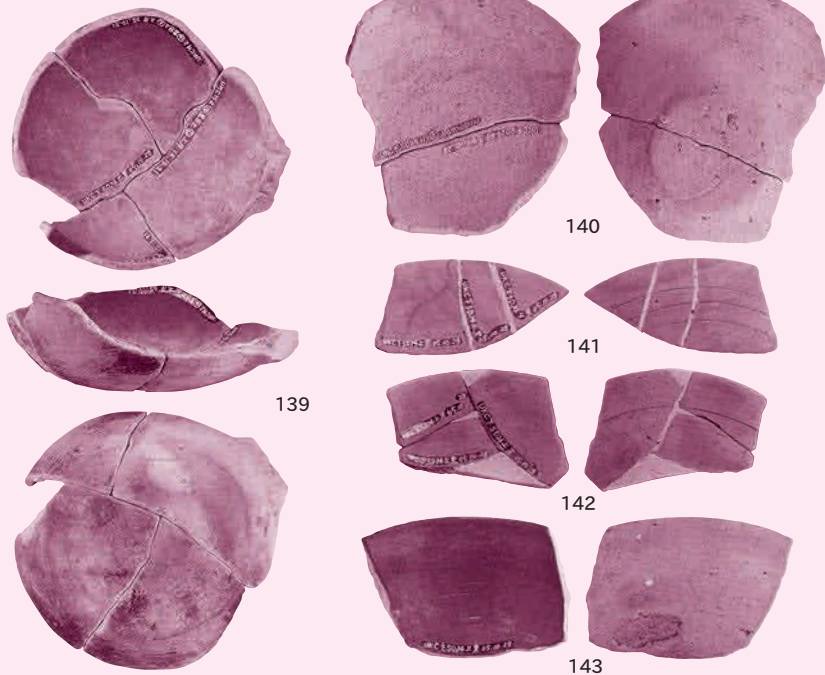


136

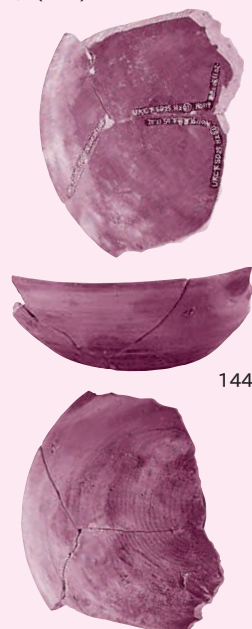
出土遺物8
146・150
(S=1:4)
他
(S=1:3)

C区下層
出土土器 (2)

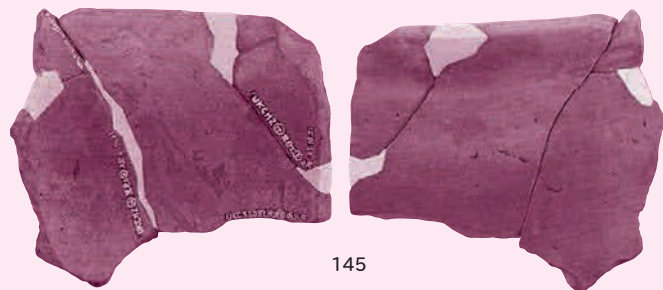
SD24 (139~143)



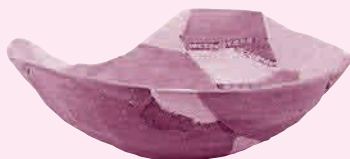
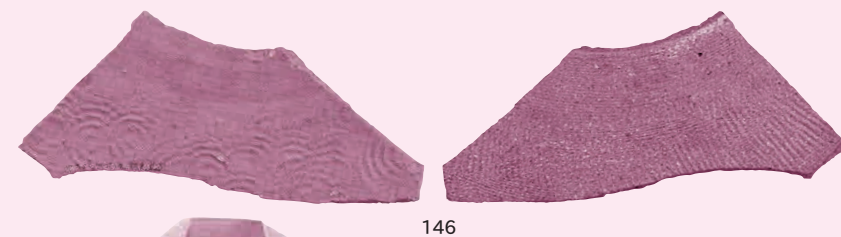
SD25 (144)



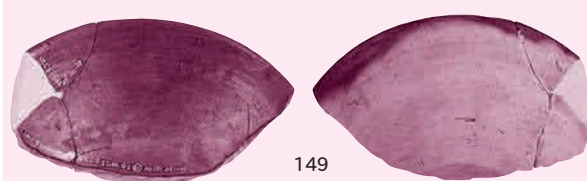
SD37 (145)



SD41 (146~148)



SD44 (149)



SD64 (151)



SD63 (150)



遺構間接合 (153・154・158)

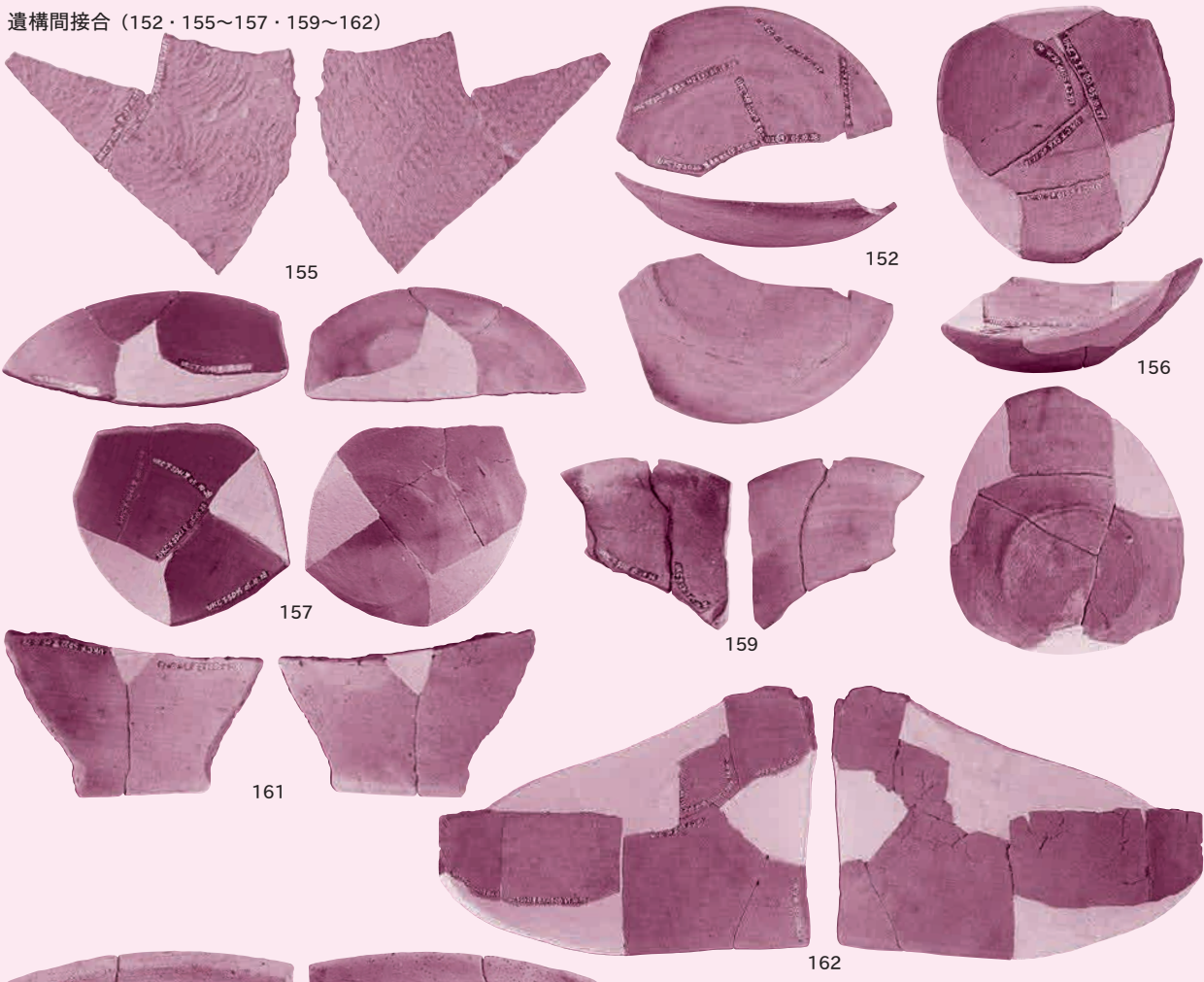


154

153

158

遺構間接合 (152・155~157・159~162)

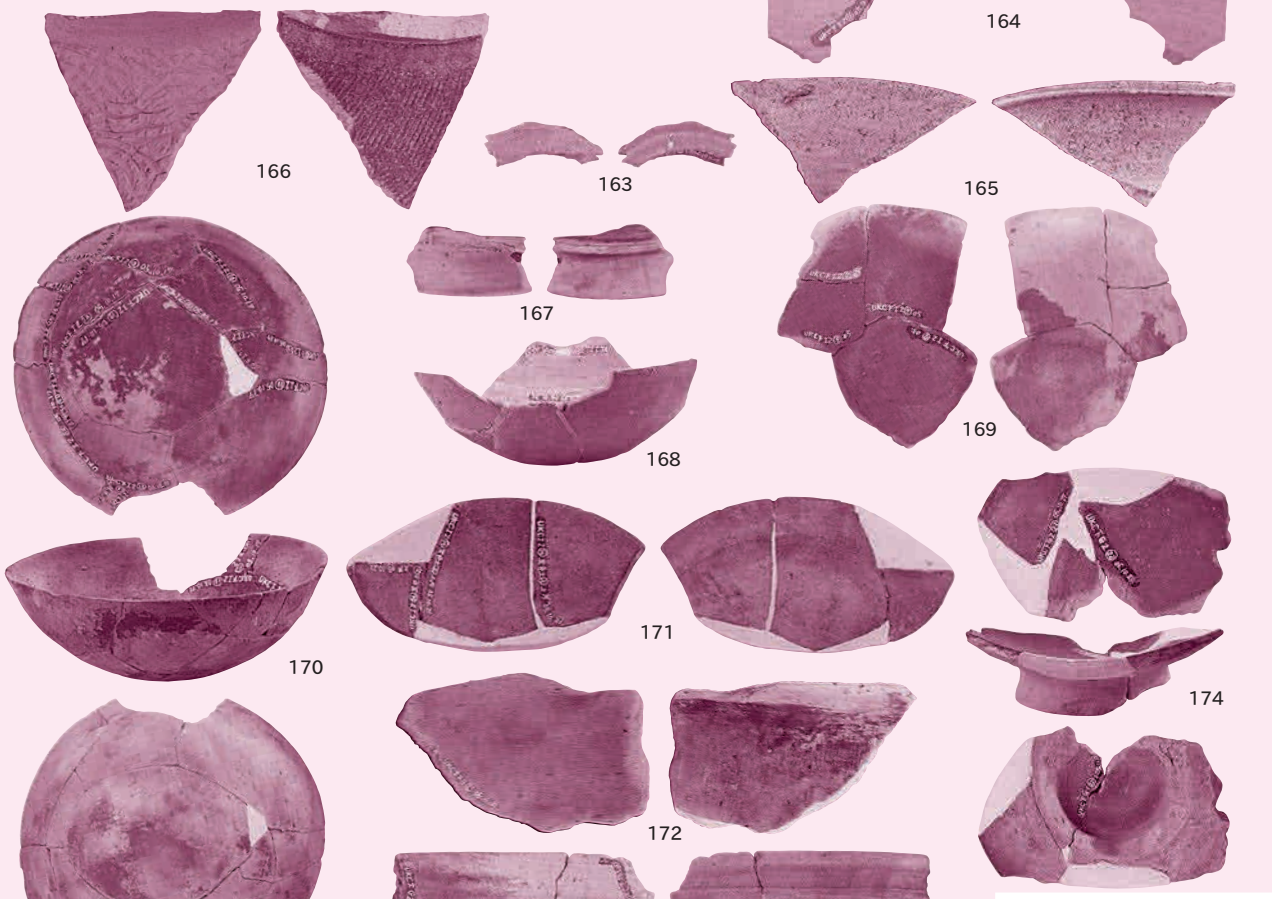


出土遺物9
165・166
(S=1:4)
他
(S=1:3)

C区下層
出土土器 (3)



包含層 (163~174)



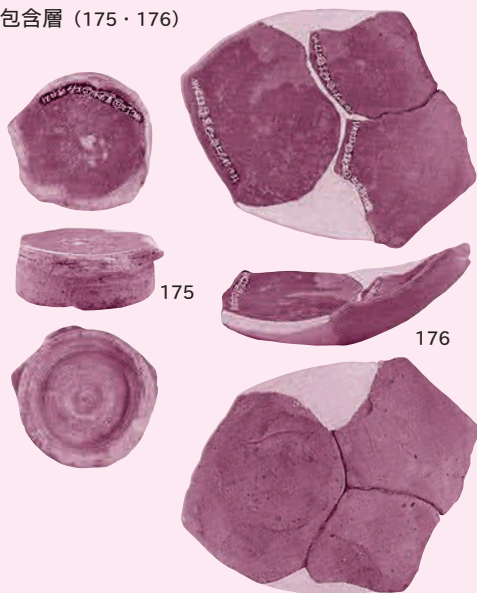
出土地不明 (177)



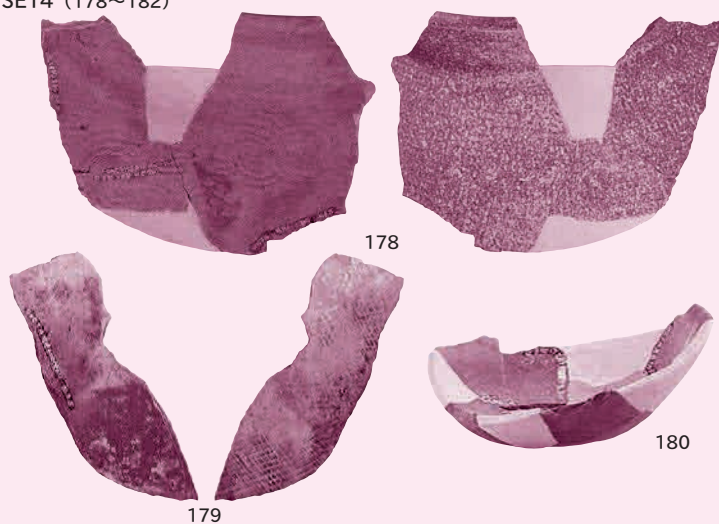
出土遺物10
178・179
(S=1:4)
他
(S=1:3)

C区下層
出土土器 (4)

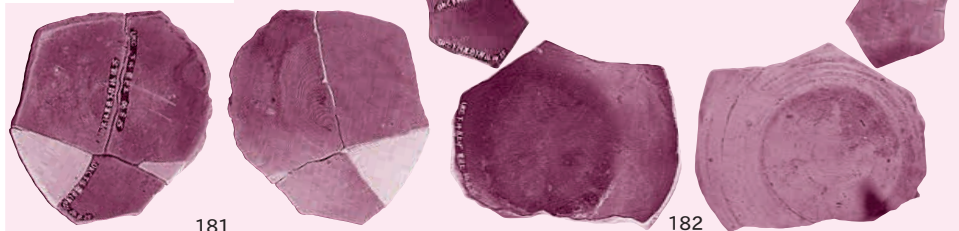
包含層 (175・176)



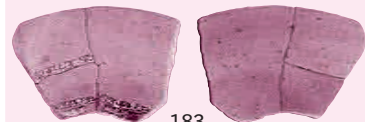
SE14 (178~182)



SD12 (185)



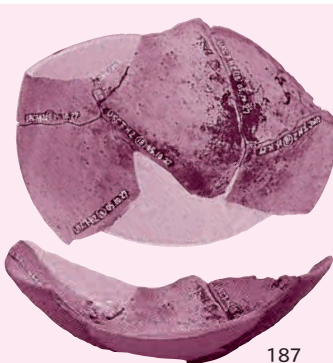
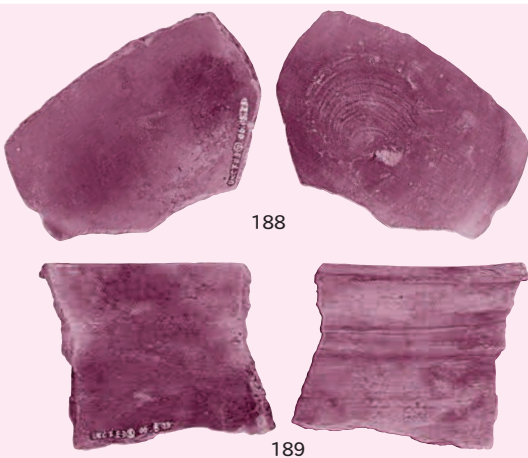
SD2 (183)



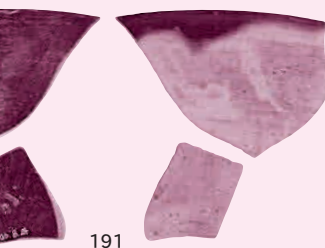
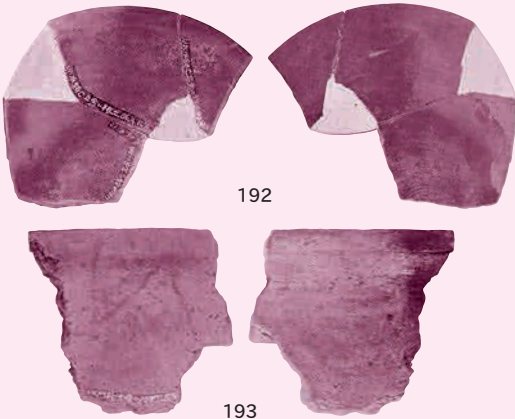
SD4 (184)



包含層 (186~191)



出土地不明 (192・193)



D区
出土土器 (1)

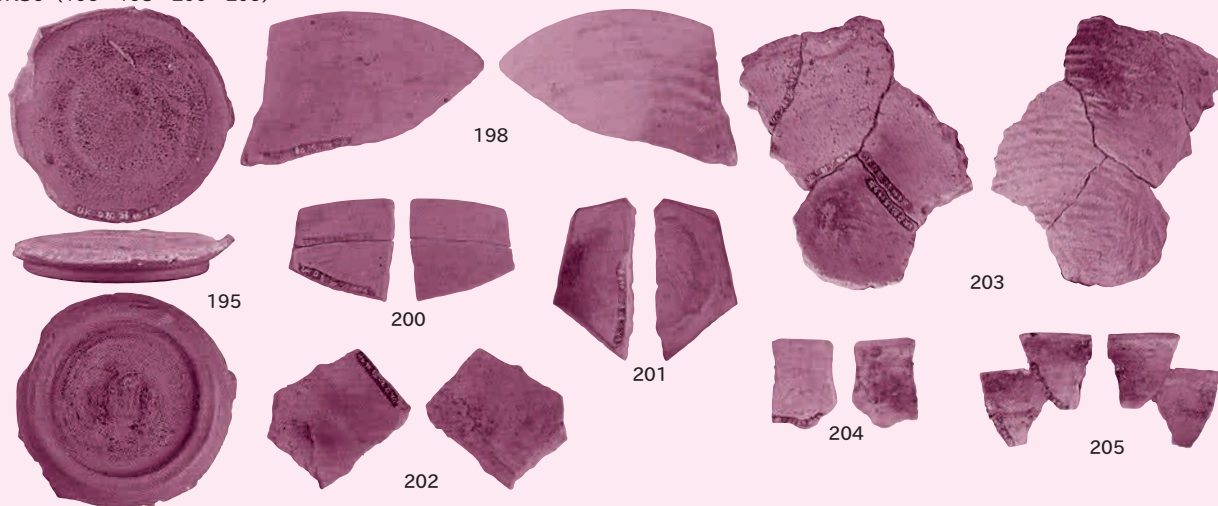
SK11 (194)



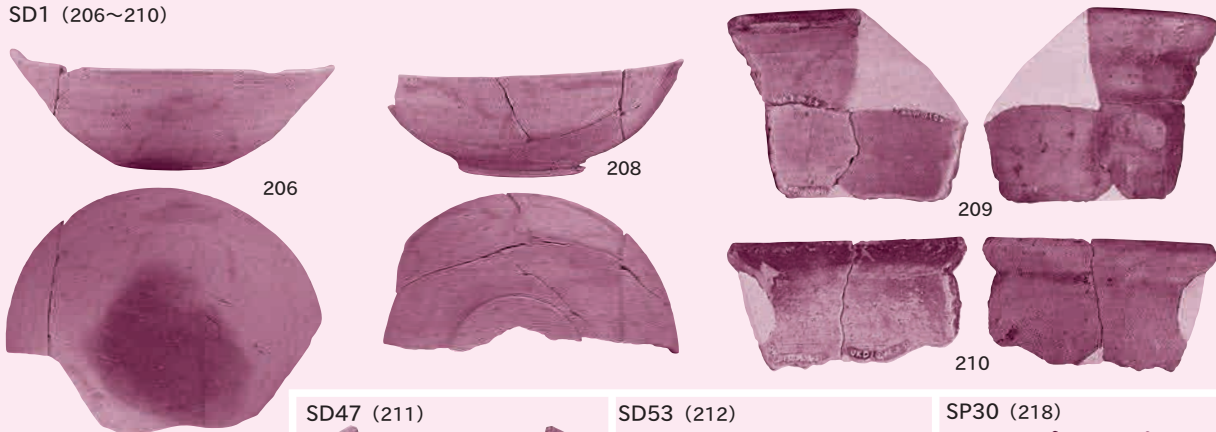
SK80 (196・197・199)



SK80 (195・198・200~205)



SD1 (206~210)



SD47 (211)



SD53 (212)



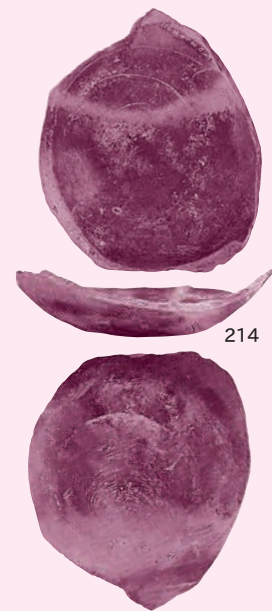
SP30 (218)



SD61 (213)



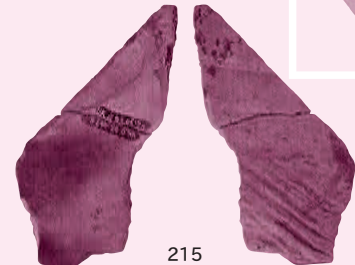
SD77 (214)



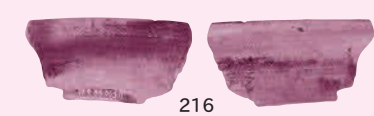
SD106 (217)



SD83 (215)



SD85 (216)



SP112 (219)



包含層 (221)



遺構間接合 (220)

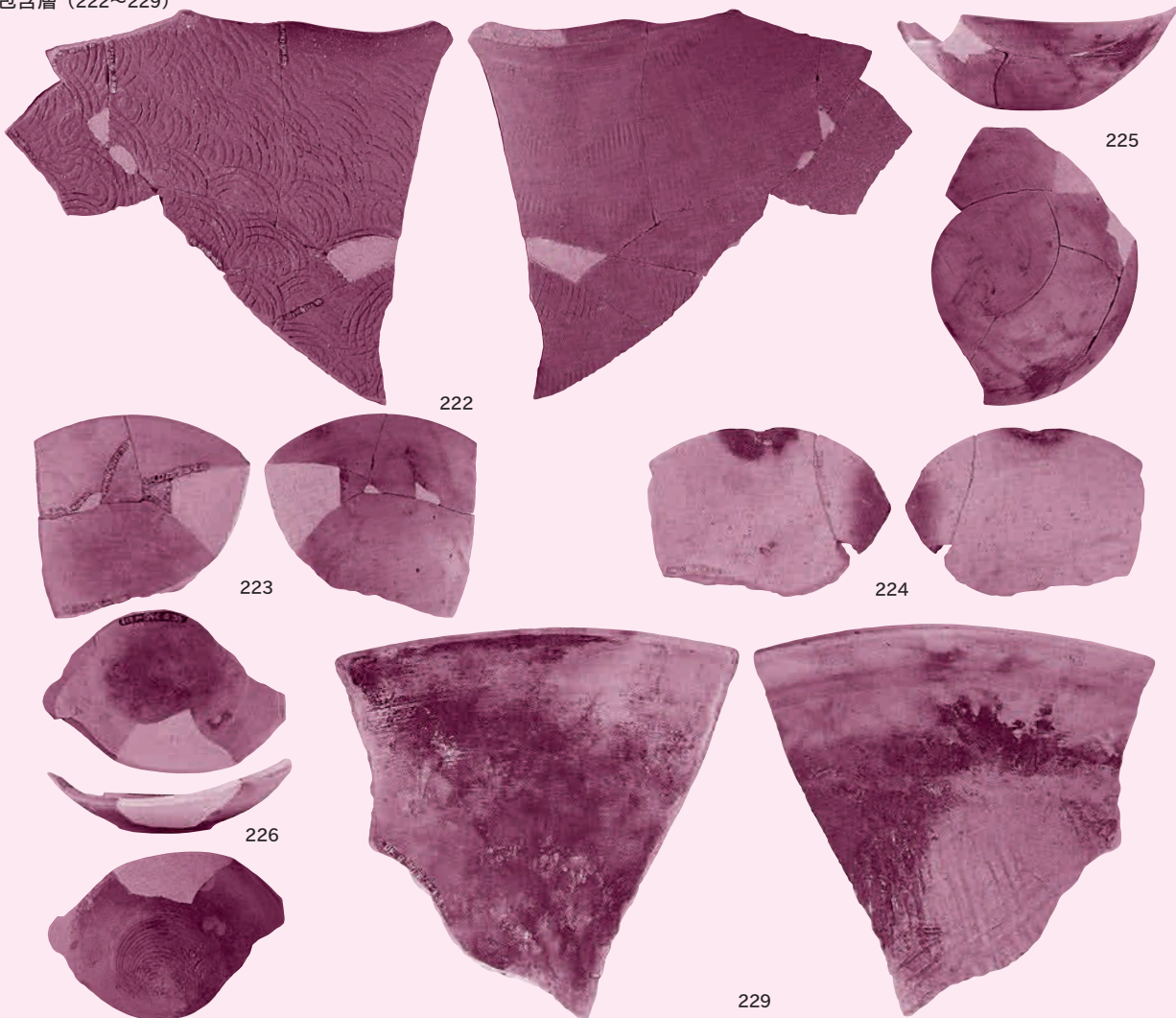


出土遺物12

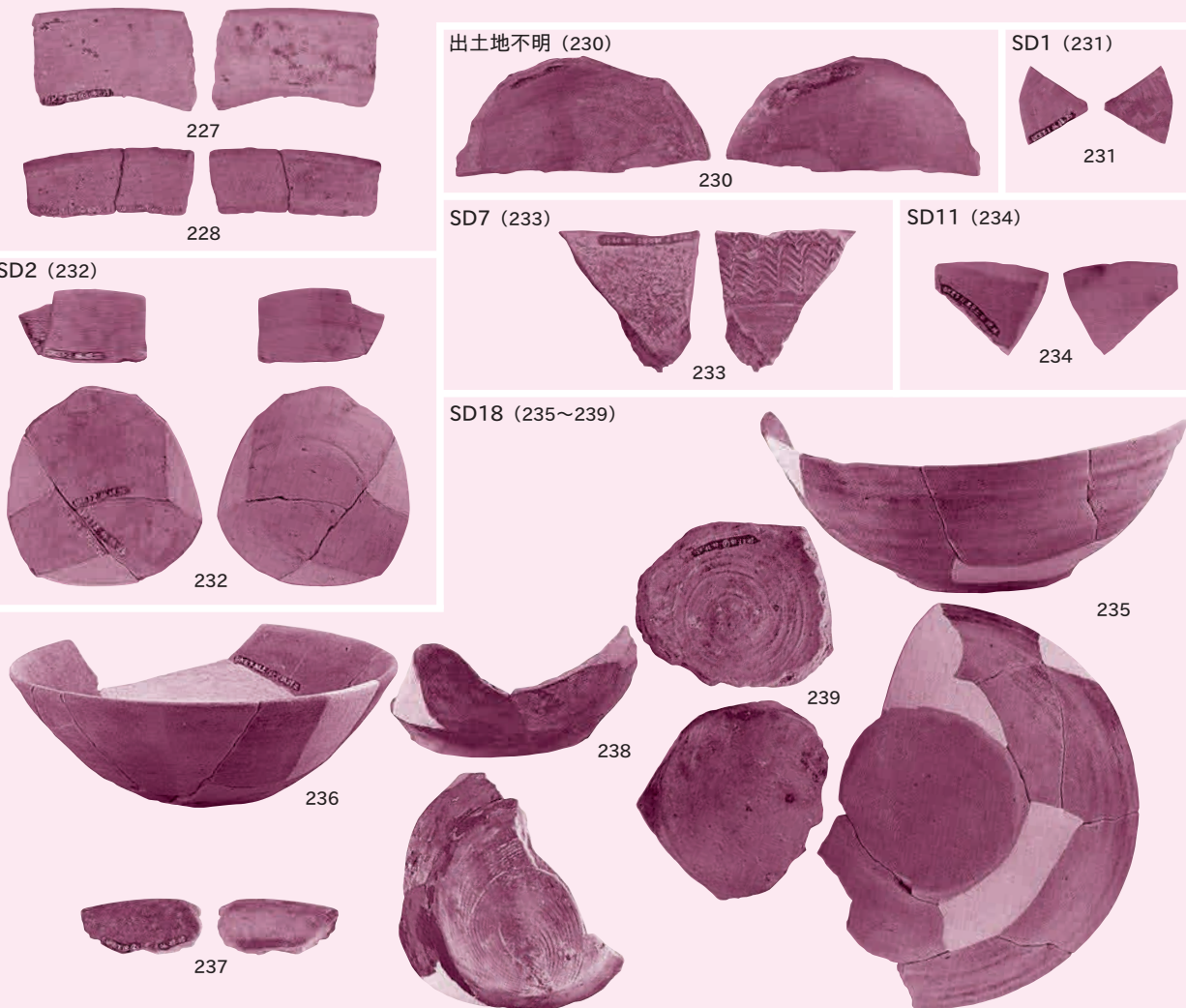
222
(S=1:4)
他
(S=1:3)

包含層 (222~229)

D区
出土土器 (3)



E区
出土土器 (1)





240



241

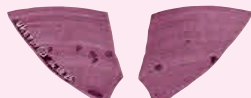
包含層 (242~254)



242



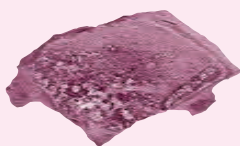
244



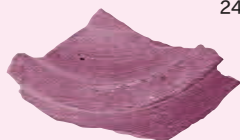
245



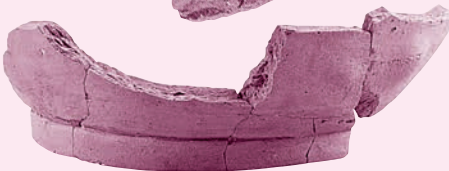
246



248



243



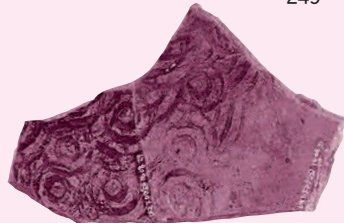
247



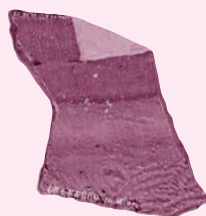
249



250



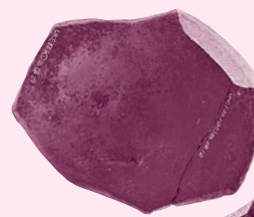
251



252



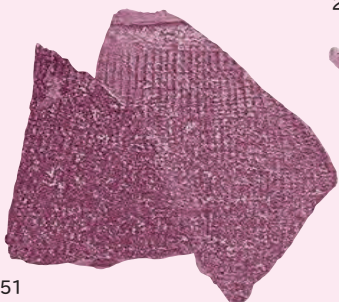
252



253



251



251



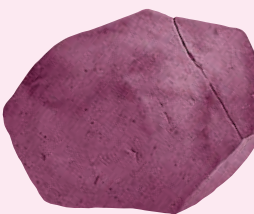
254



253



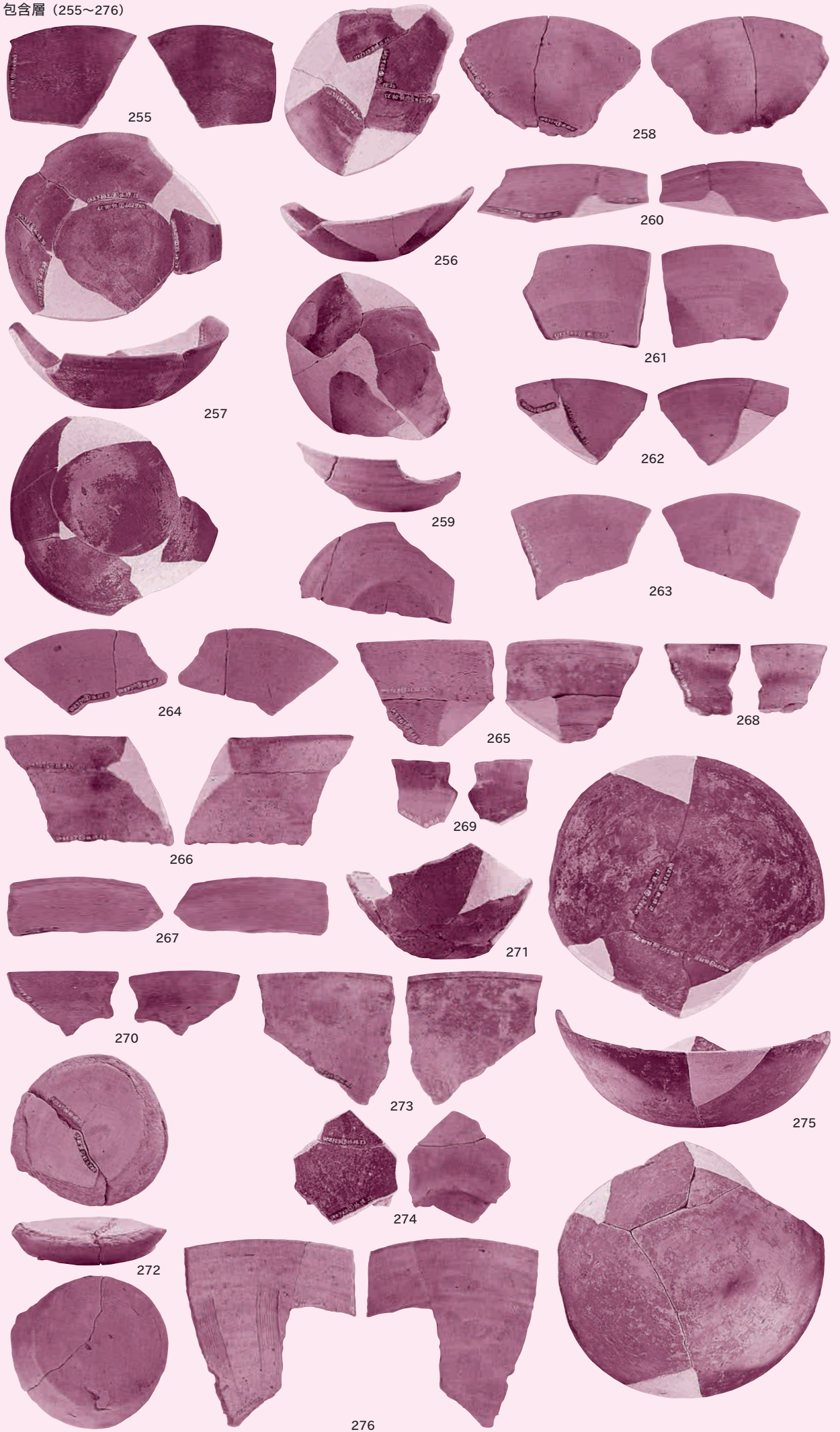
254



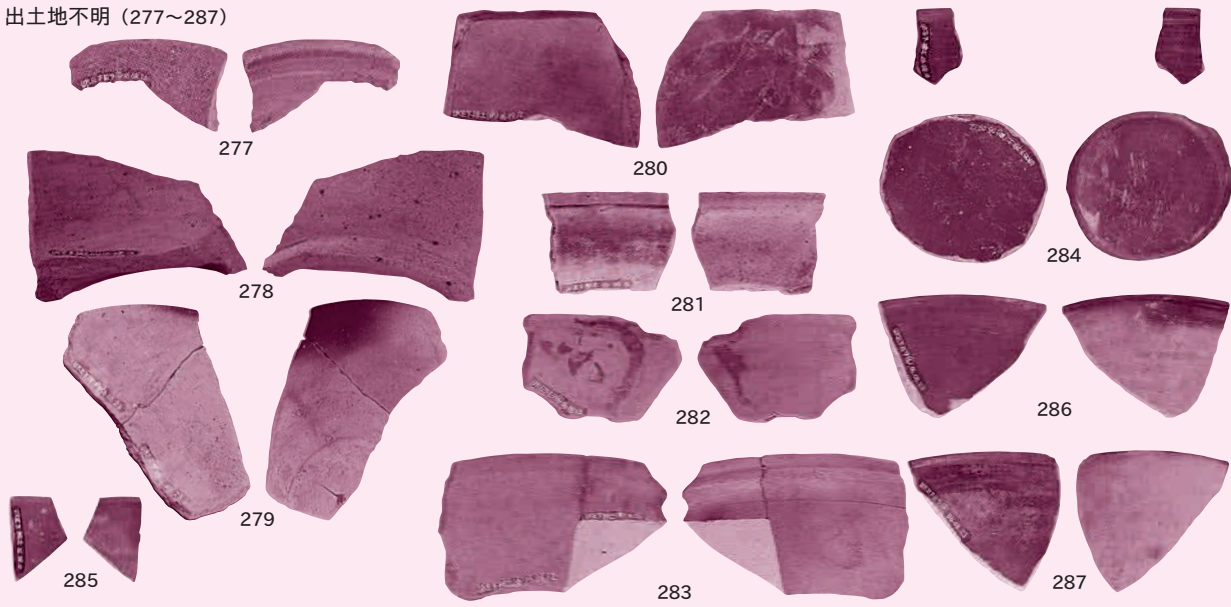
253

包含層 (255~276)

E区
出土土器 (3)



出土地不明 (277~287)



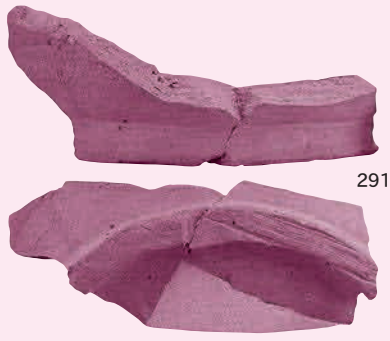
出土遺物15 (S=1:3)

E区 出土土器 (4)

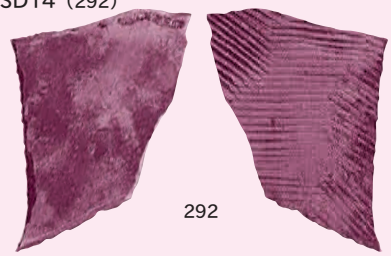
SD1 (288)



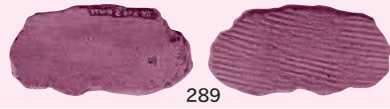
SD9 (291)



SD14 (292)



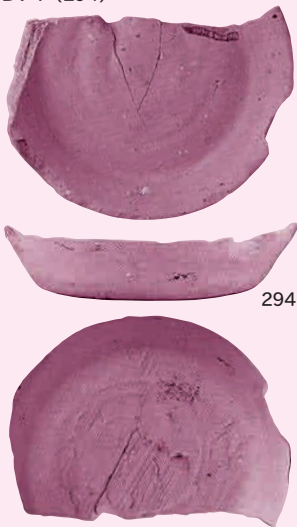
SD3 (289)



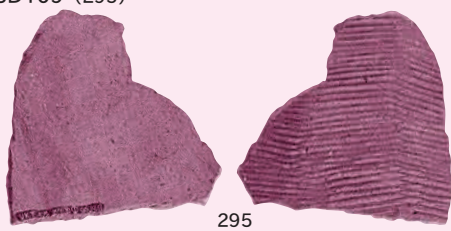
SD5 (290)



SD74 (294)



SD109 (295)



SD30 (293)



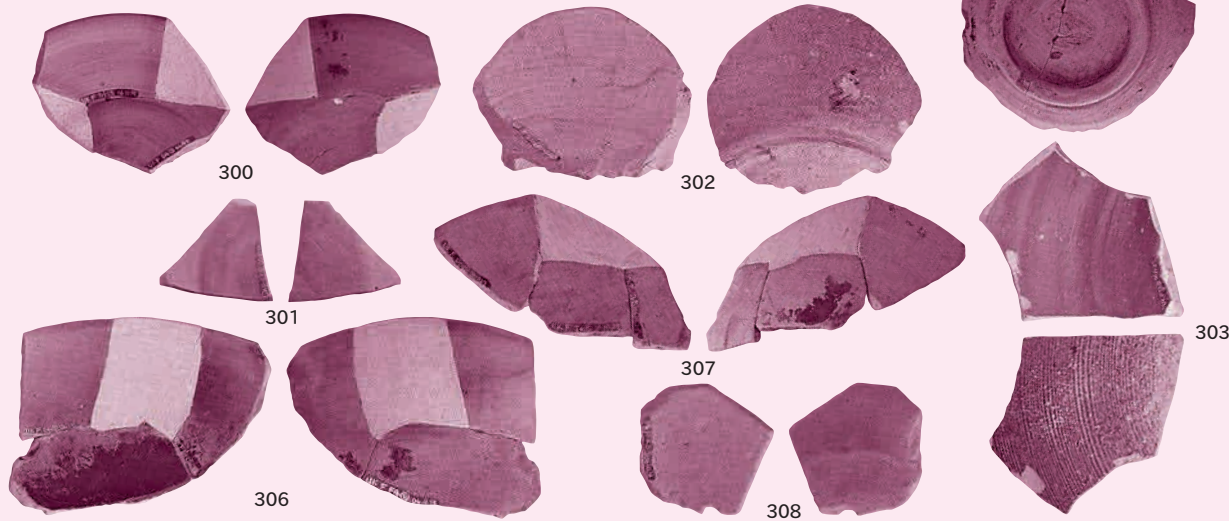
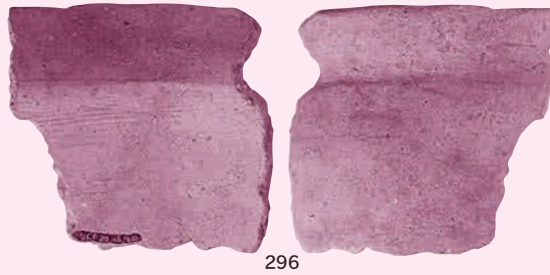
遺構間接合 (297)



包含層 (298~303・306~308)



河川120 (296)

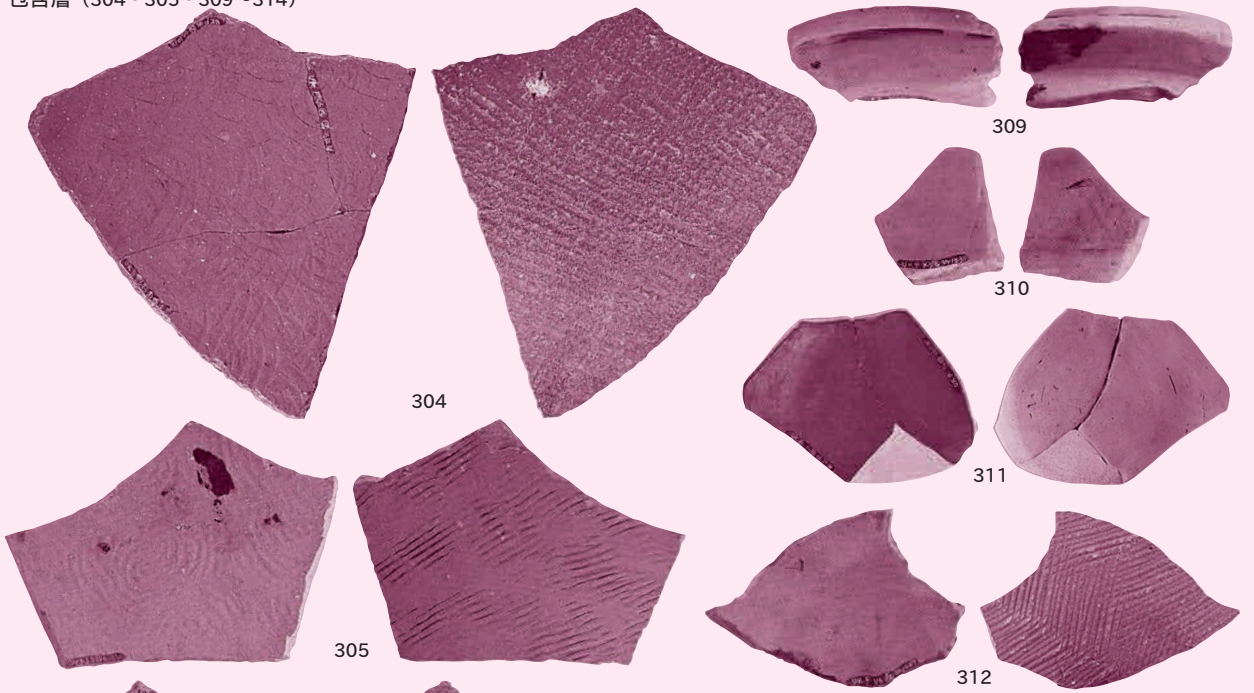


F区 出土土器 (1)

出土遺物16
329
(S=1:4)
他
(S=1:3)

包含層 (304・305・309~314)

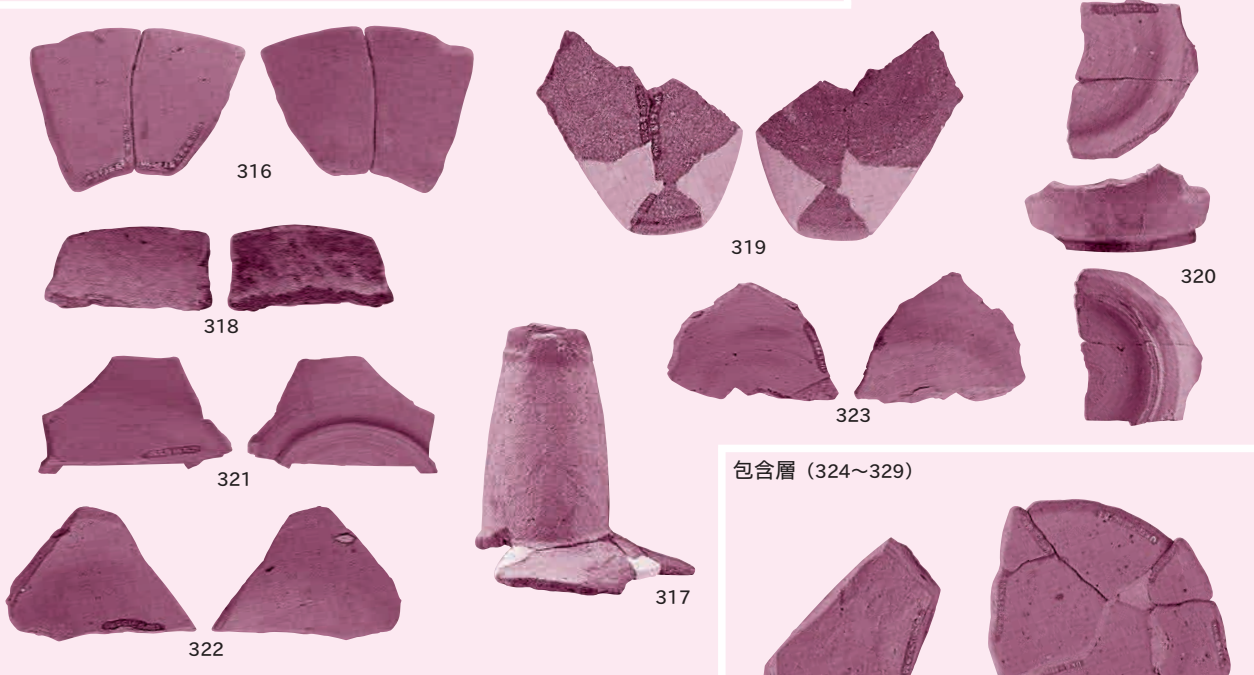
F区
出土土器 (2)



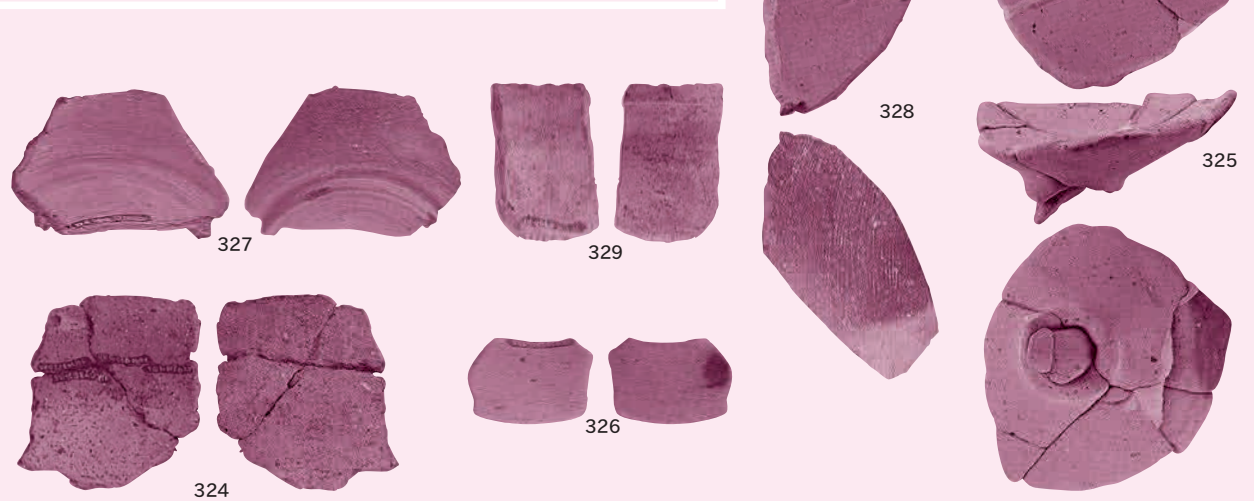
G区
出土土器

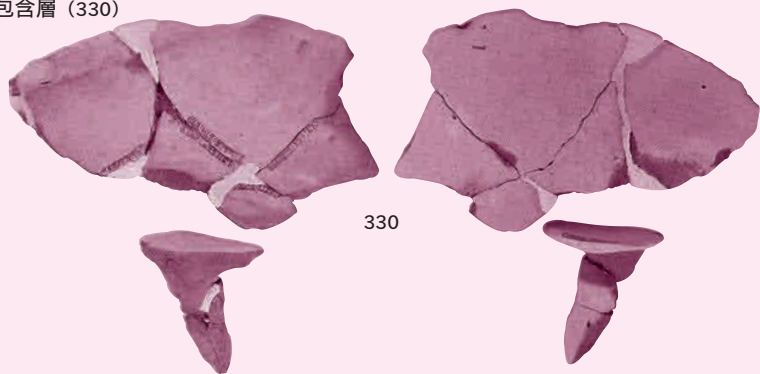


河川9 (315~323)



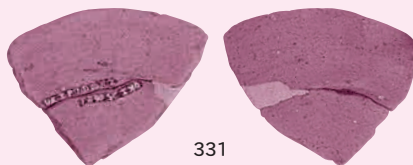
包含層 (324~329)





330

SK25 (331)



331

H区
出土土器
I区
出土土器 (1)

SX60・61 (332~334)



332



333



334

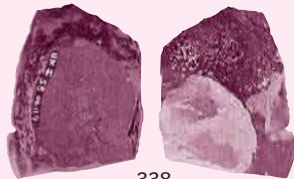
SD58・59 (335~339)



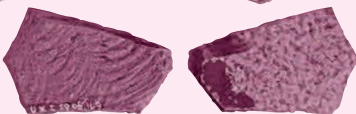
335



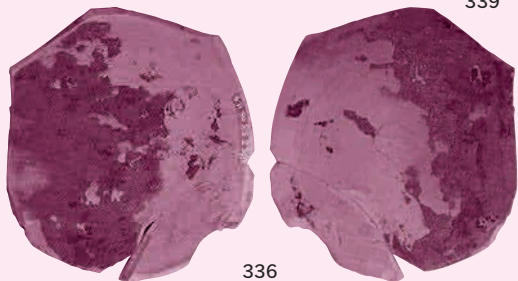
337



338



339



336

SP4 (340)



340

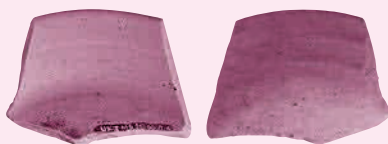
包含層 (341~351・354)



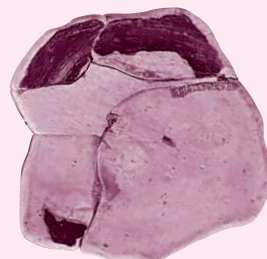
341



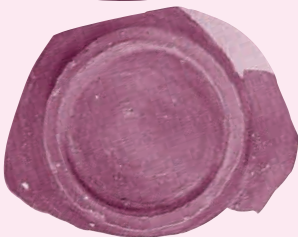
342



343



344



346



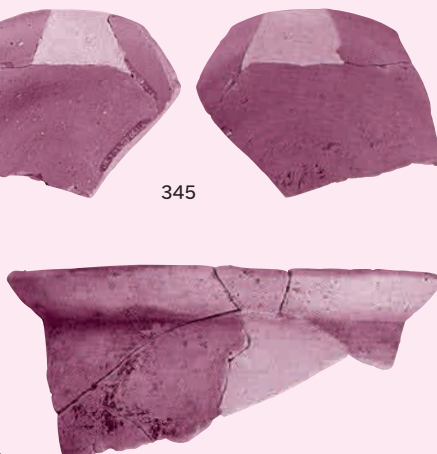
345



348



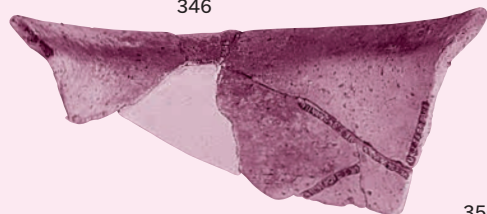
350



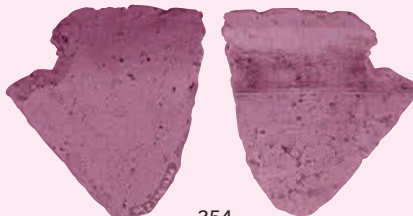
349



351



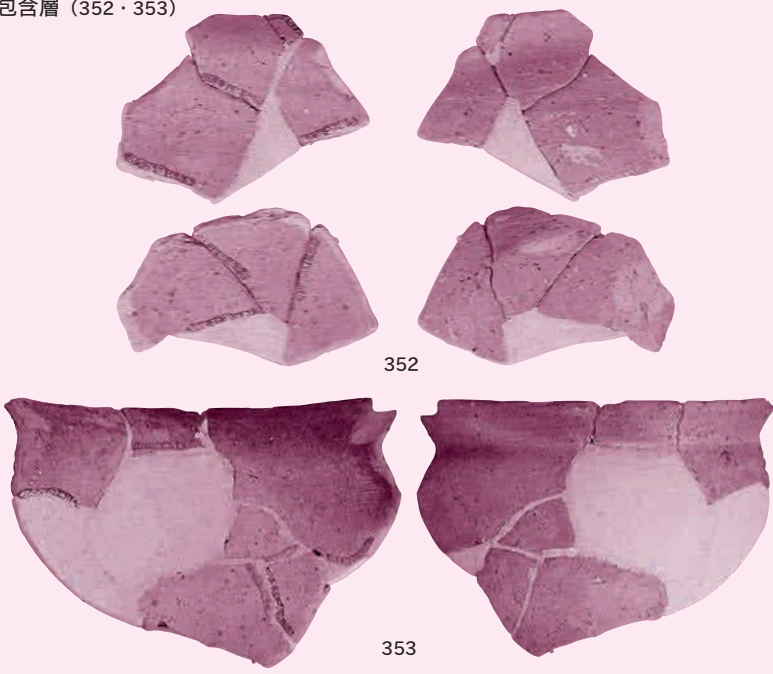
347



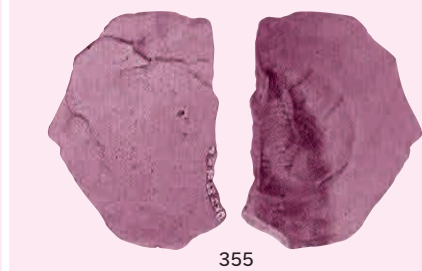
354

I区
出土土器 (2)
J区
出土土器 (1)

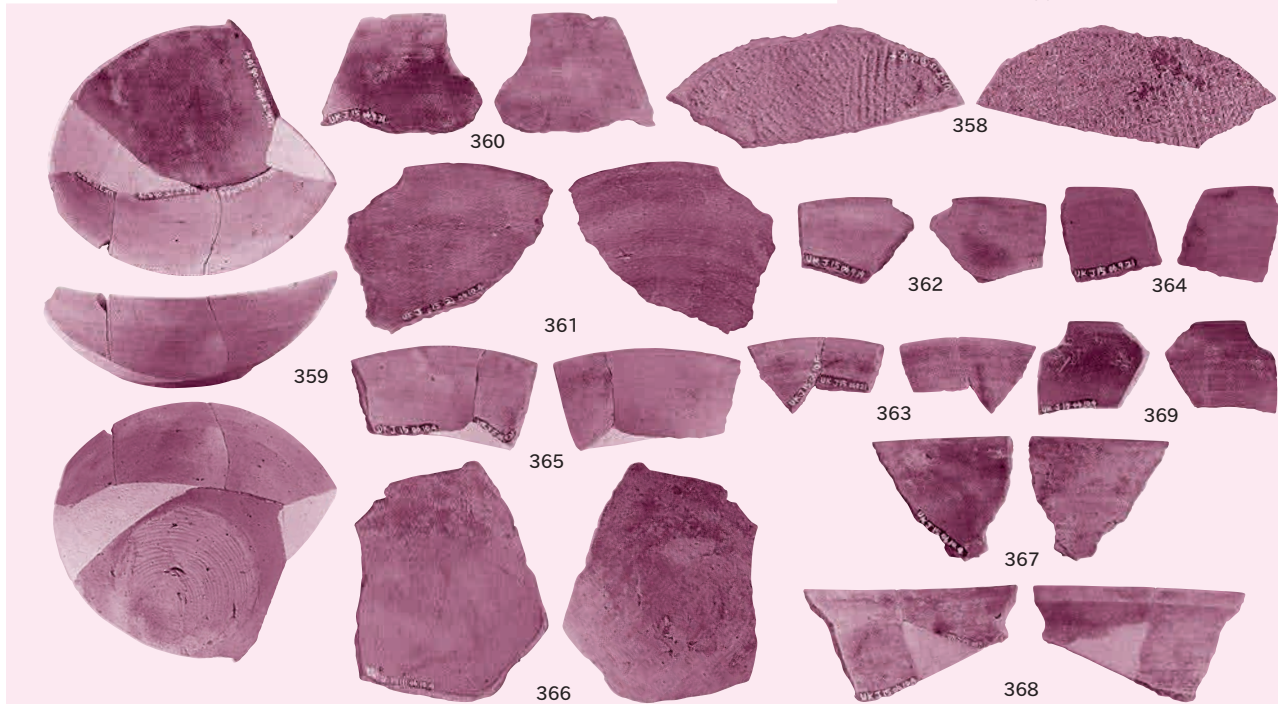
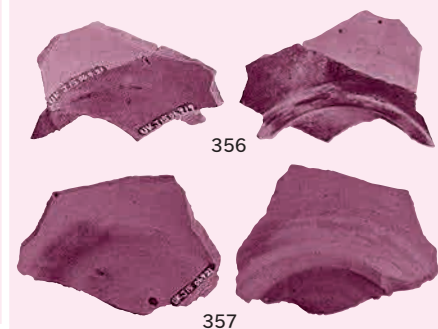
包含層 (352・353)



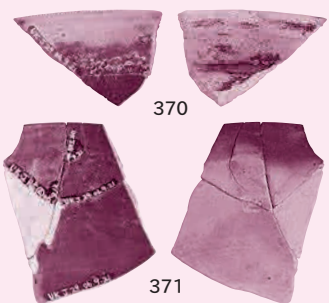
SE87 (355)



SK15 (356~369)



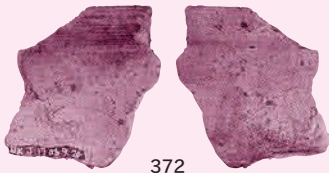
SK29 (370・371)



SD20 (374・375)



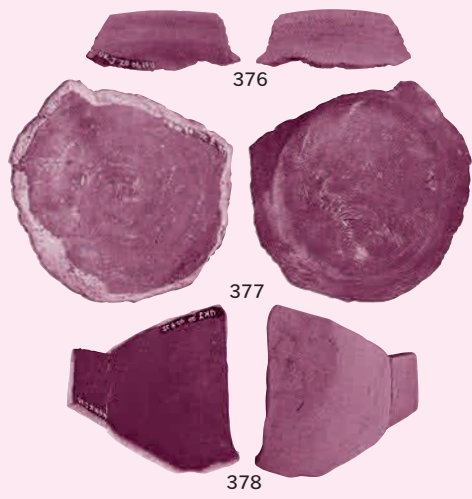
SD17 (372)



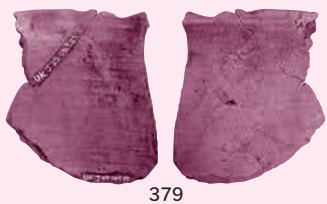
SD18 (373)



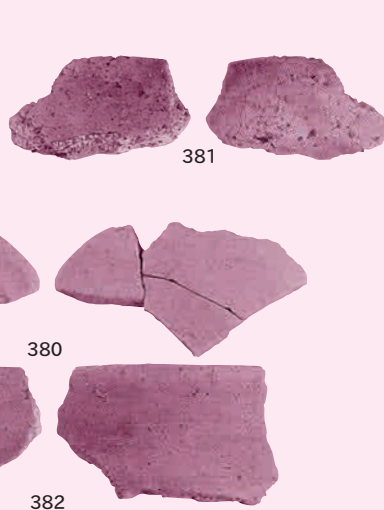
SD20 (376~378)



SD25 (379)

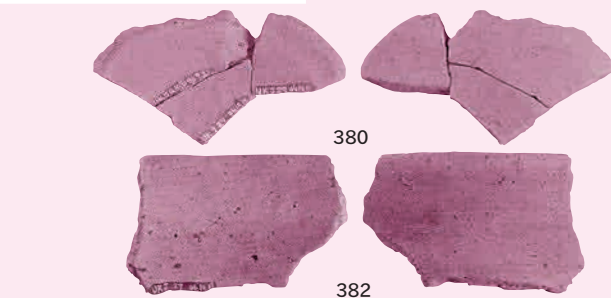


SD27 (380~385)

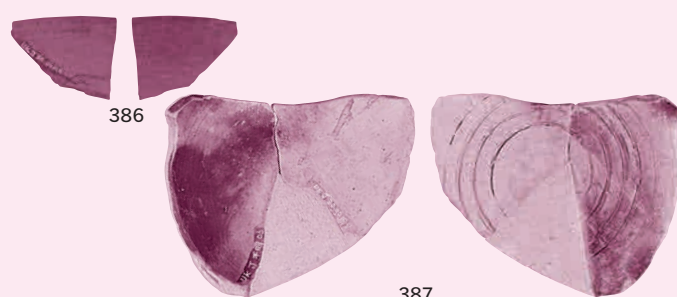


出土遺物19
399
(S=1:4)
他
(S=1:3)

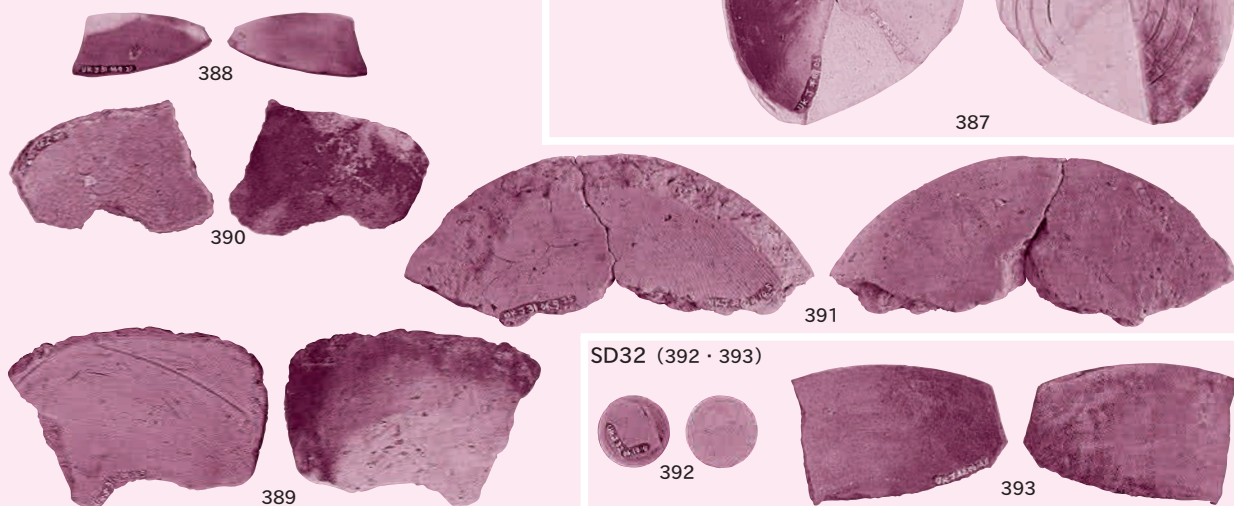
J区
出土土器(2)



SD30 (386・387)



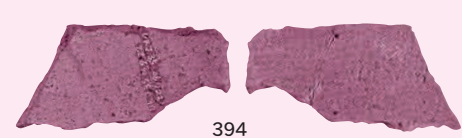
SD31 (388~391)



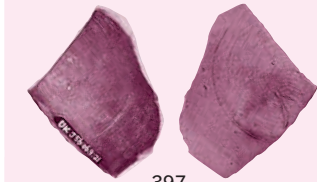
SD32 (392・393)



SD35 (394)



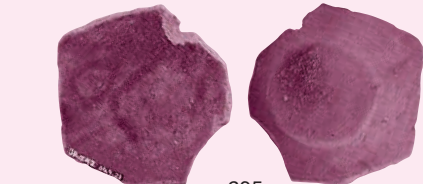
SD56 (397)



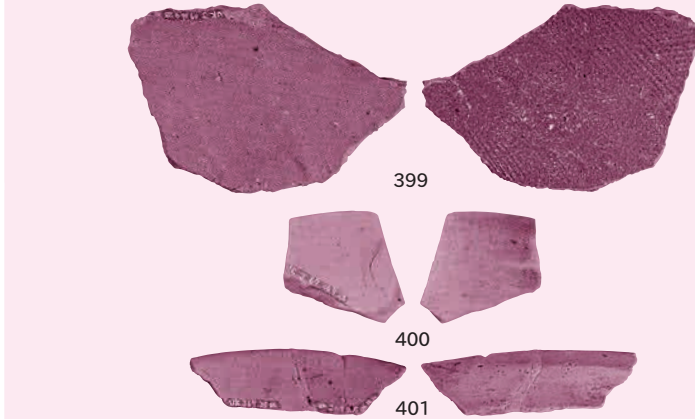
SD63 (398)



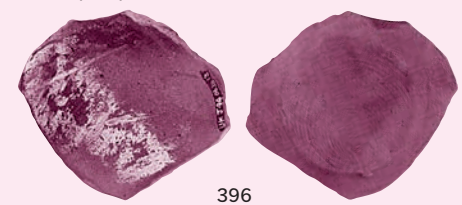
SD42 (395)



SD67 (399~401)



SD44 (396)



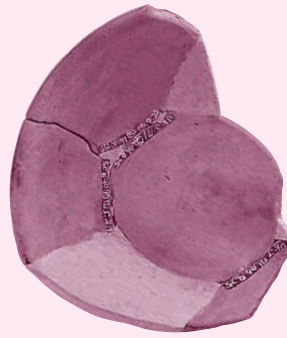
出土遺物20
414
(S=1:4)
他
(S=1:3)

J区
出土土器 (3)

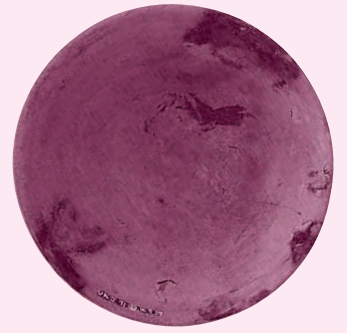
SD71 (402~407)



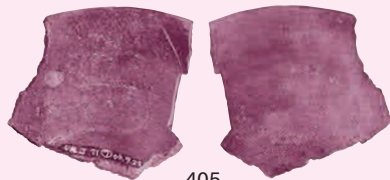
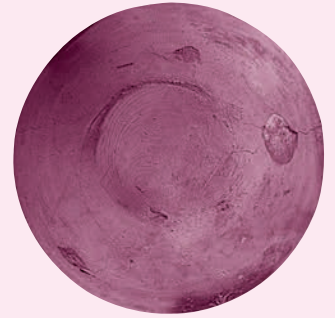
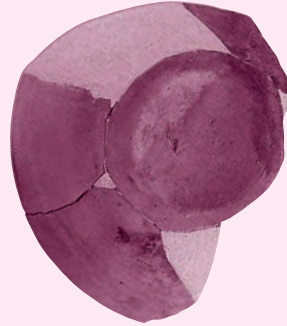
402



403



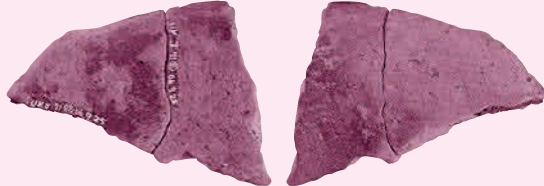
404



405



406

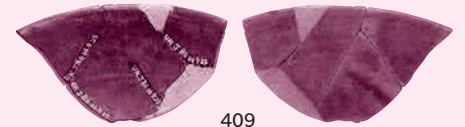


407

SD86 (408・409)



408

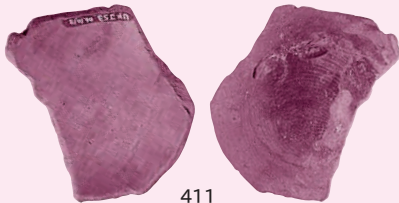


409

SP53 (410・411)



410



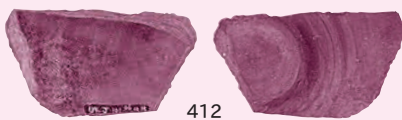
411

SP102 (414)

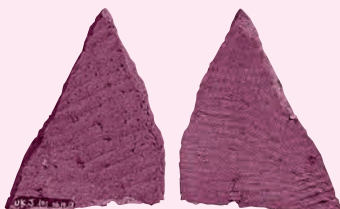


414

SP101 (412・413)

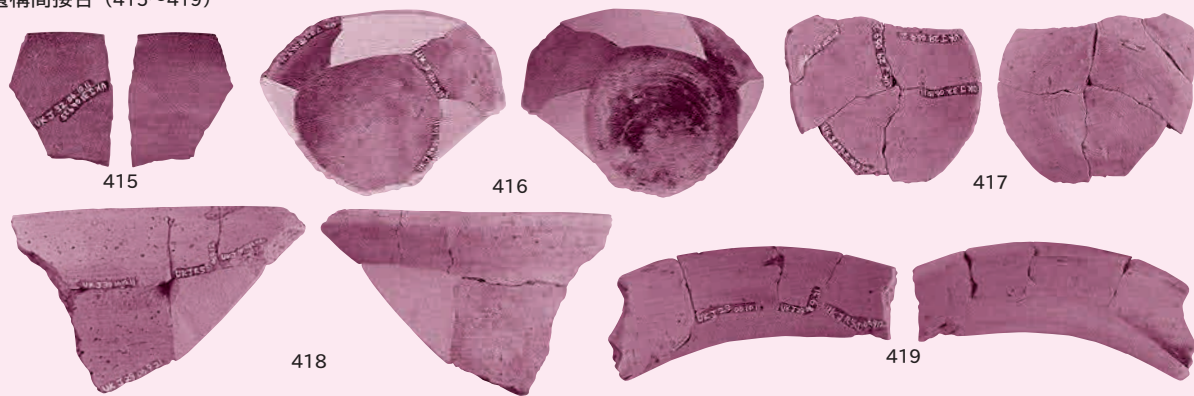


412

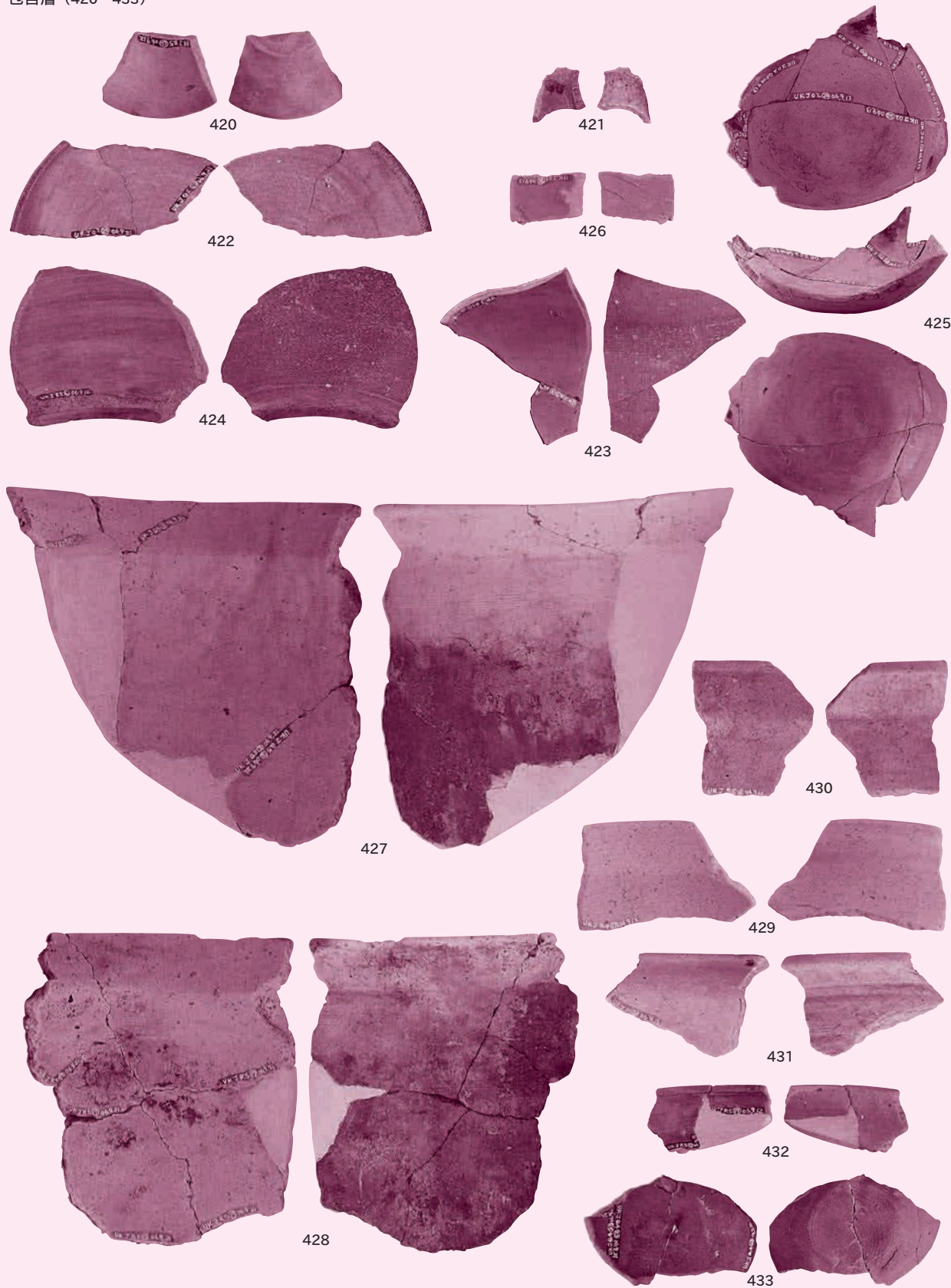


413

遺構間接合 (415~419)

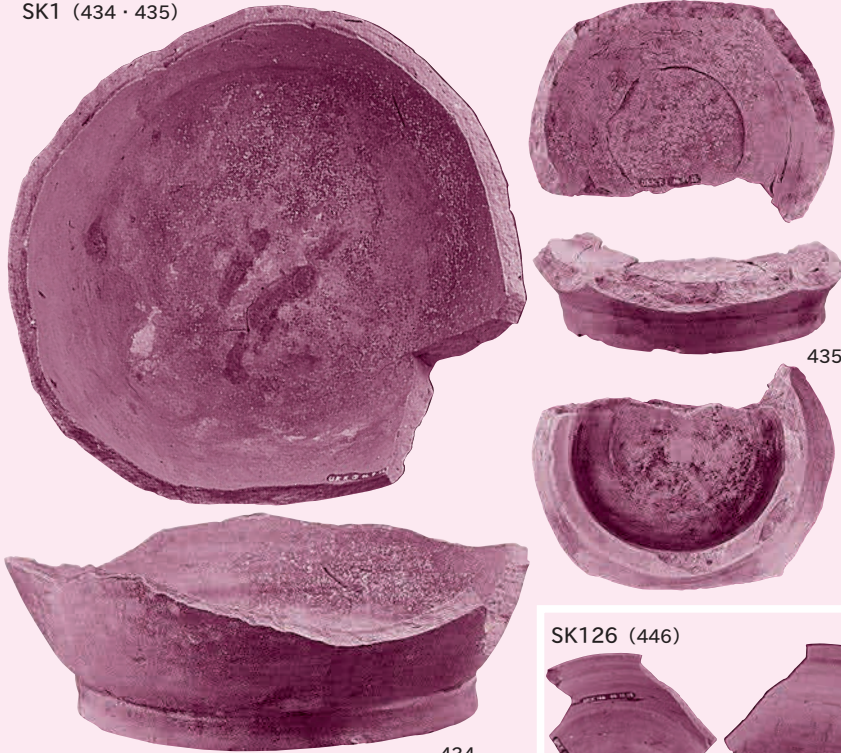


包含層 (420~433)

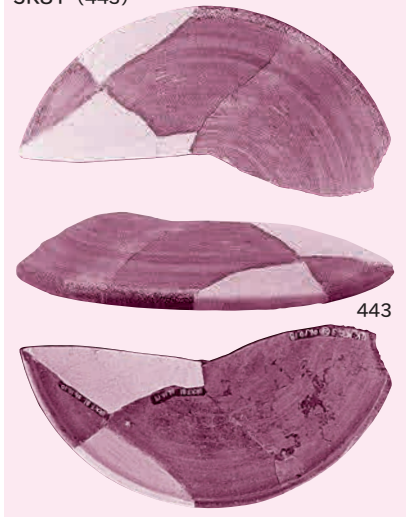


K区
出土土器 (1)

SK1 (434・435)

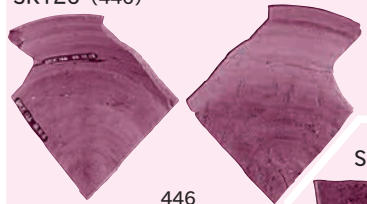


SK81 (443)



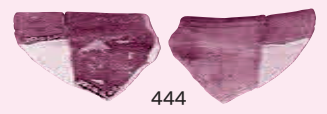
434

SK126 (446)



446

SK110 (444)



444

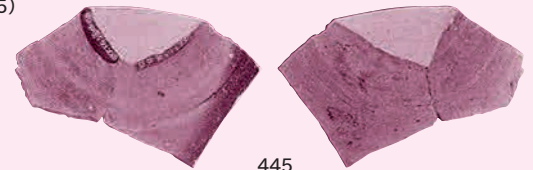


SK77 (442)



442

SK116 (445)



445

SK74 (440・441)

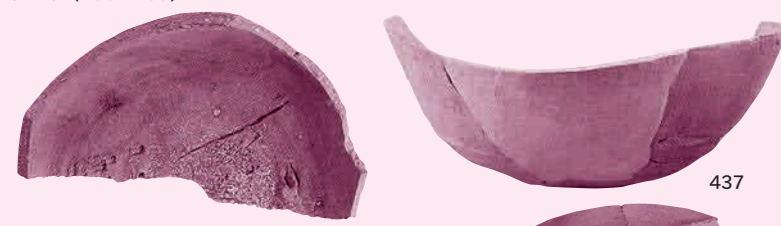


440



441

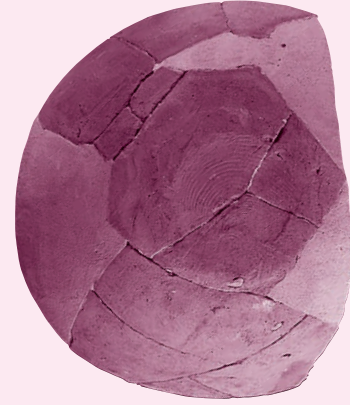
SK19 (436~439)



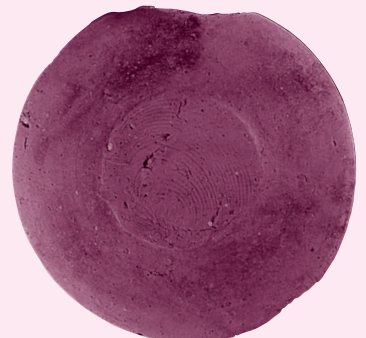
437



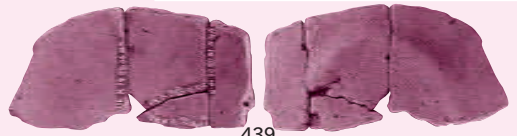
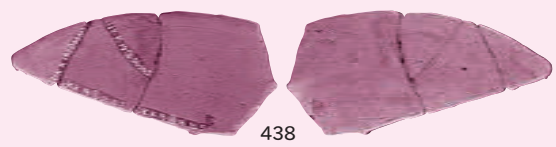
436

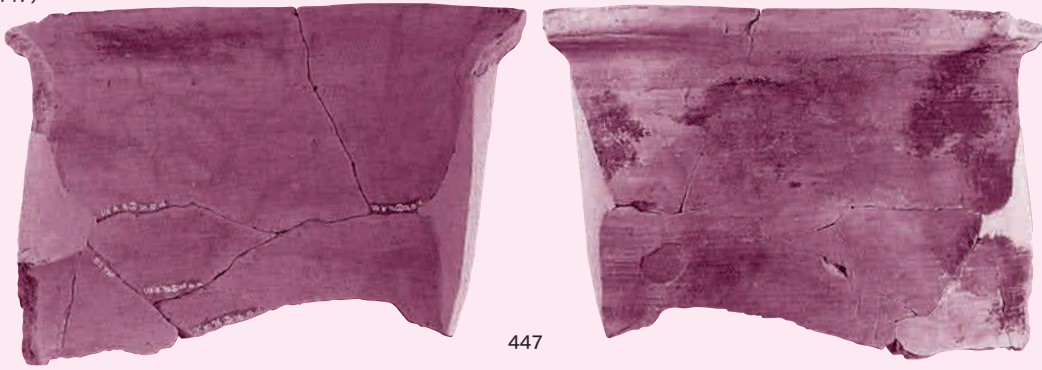


438

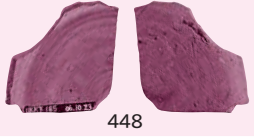


439

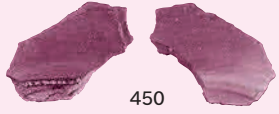




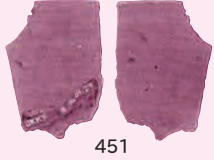
SK185 (448)



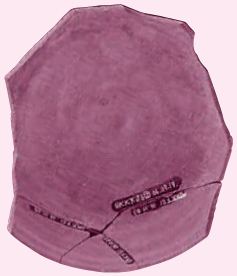
SK241 (450)



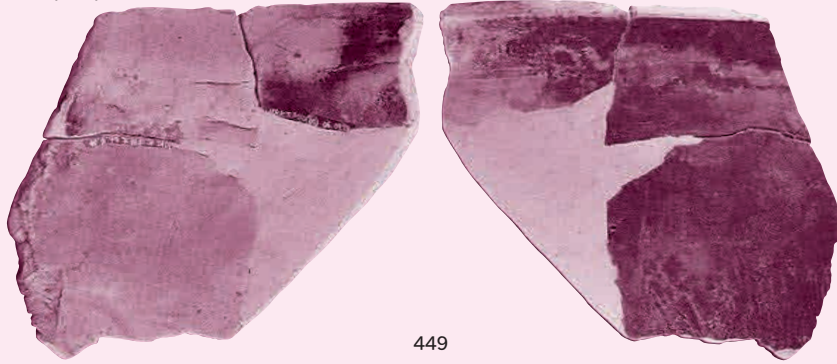
SD3 (451)



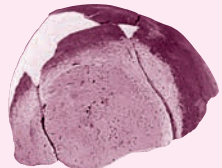
SD51 (458・459)



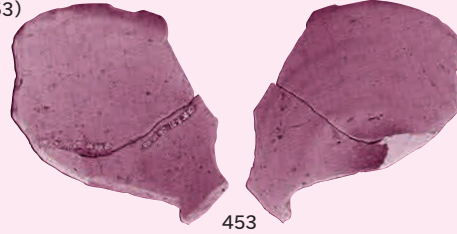
SK204 (449)



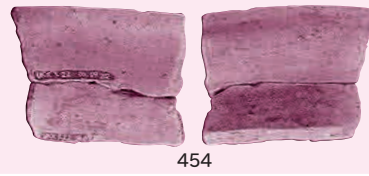
SD7 (452)



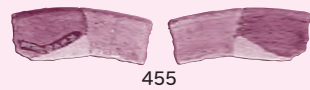
SD21 (453)



SD22 (454)



SD23 (455)



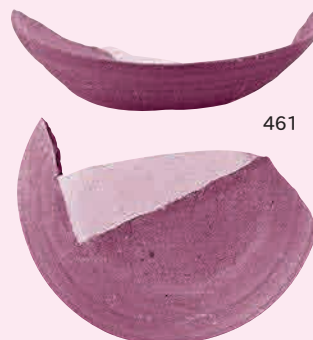
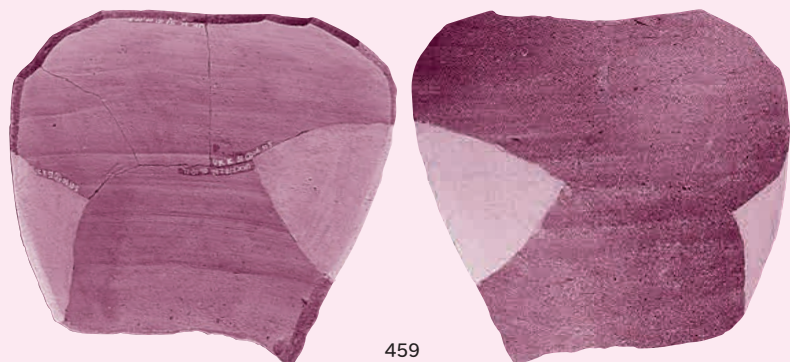
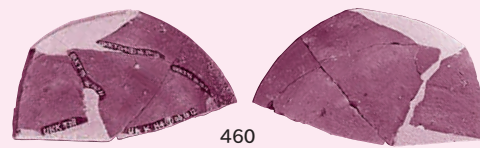
SD47 (457)



SD41 (456)

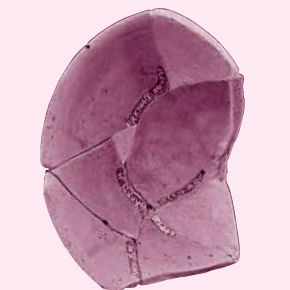
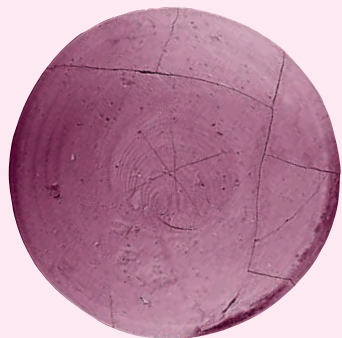
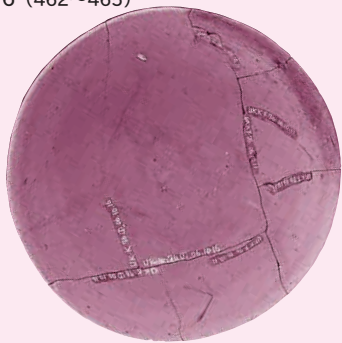


SD76 (460・461)

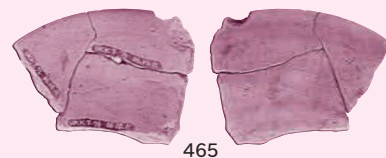


K区
出土土器 (3)

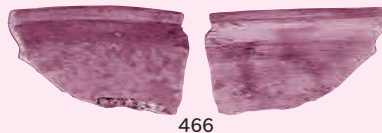
SD76 (462~465)



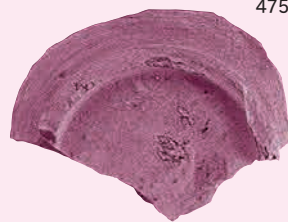
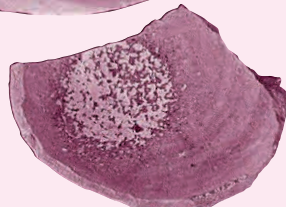
SD186 (473)



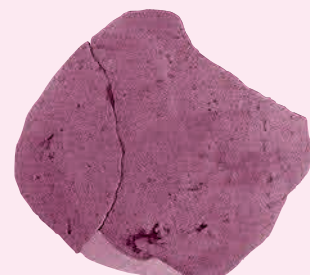
SD87 (466)



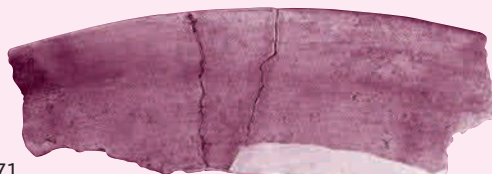
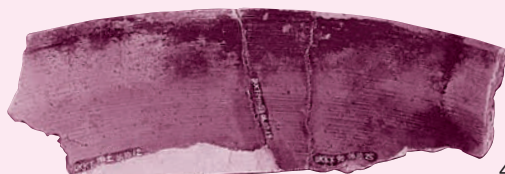
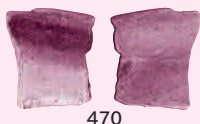
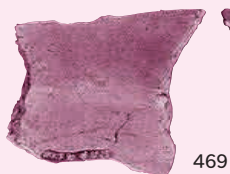
SD193 (474 · 475)



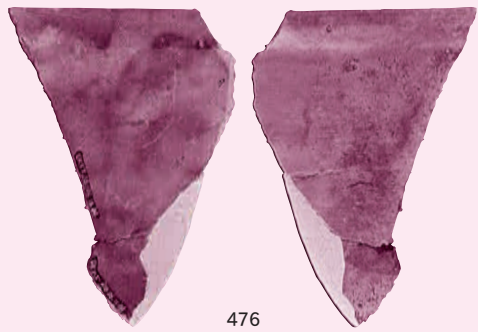
SD99 (472)



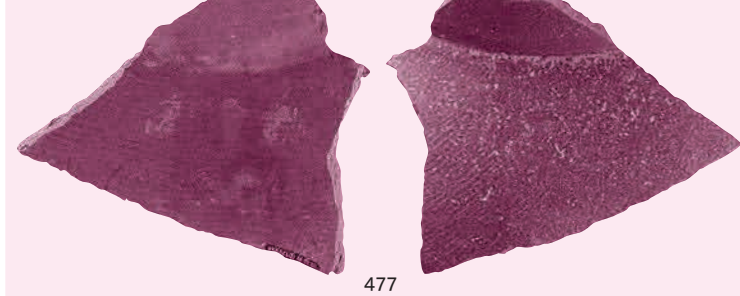
SD90 (467~471)



SD216 (476)



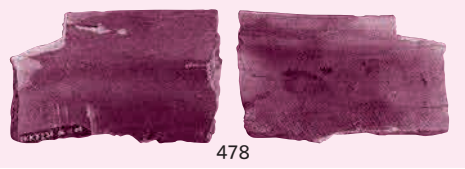
SD223 (477)



出土遺物25
477
(S=1:4)
他
(S=1:3)

K区
出土土器 (4)

SD234 (478)



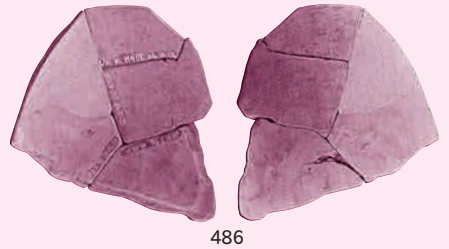
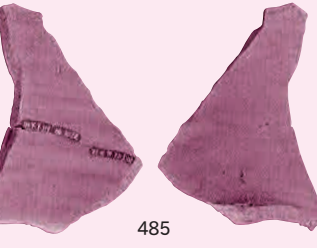
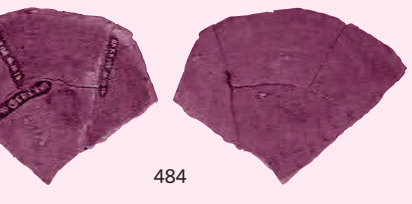
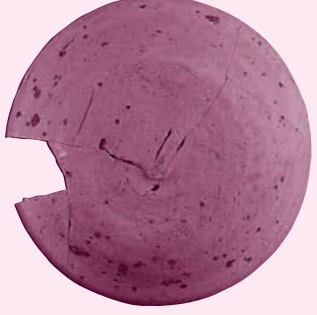
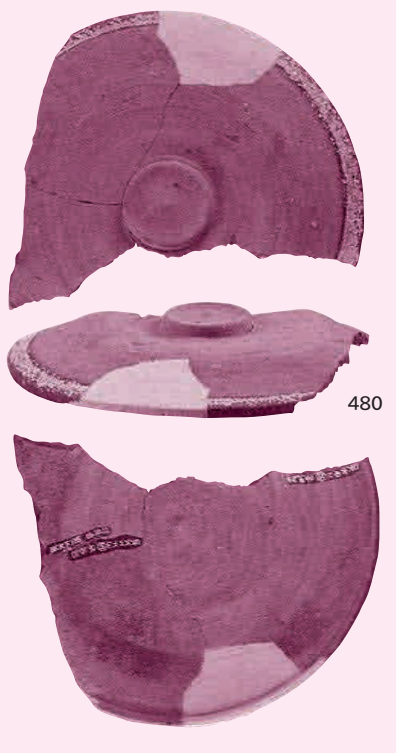
SP8 (479)



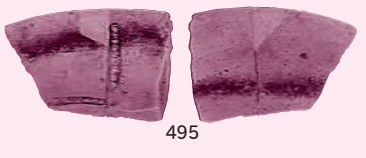
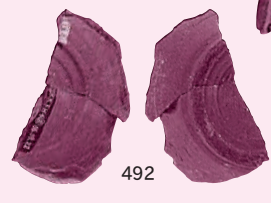
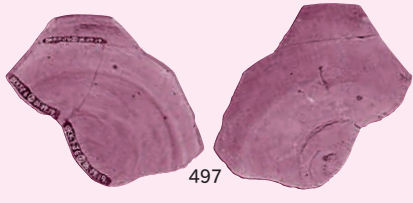
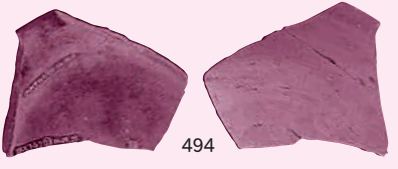
遺構間接合 (481~490)



SP135 (480)



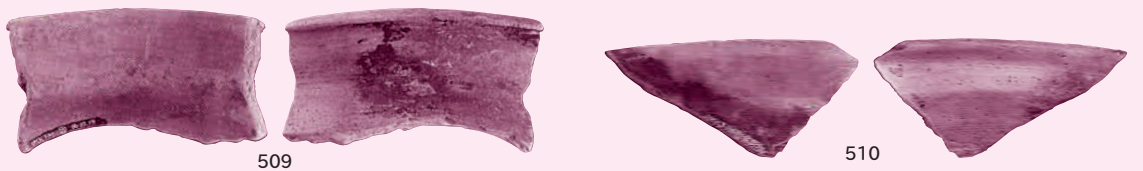
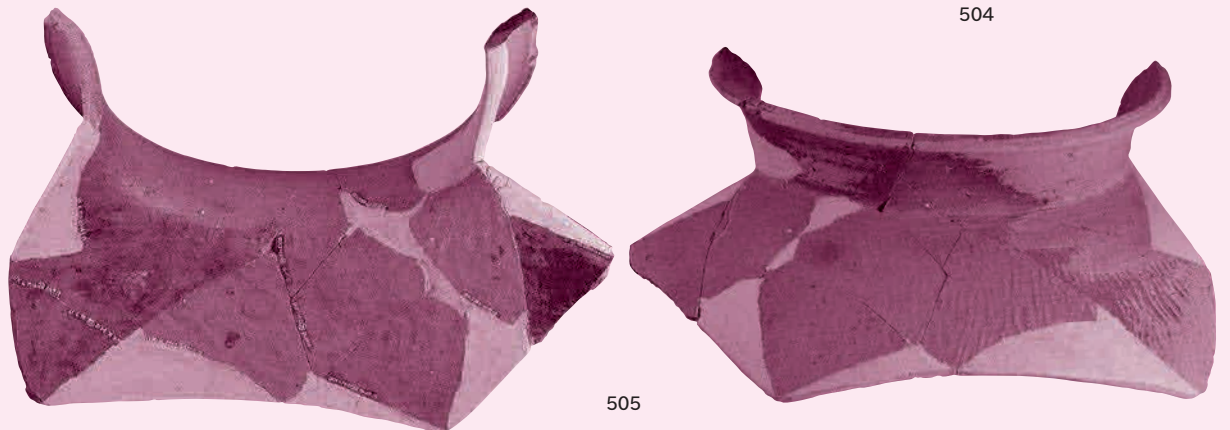
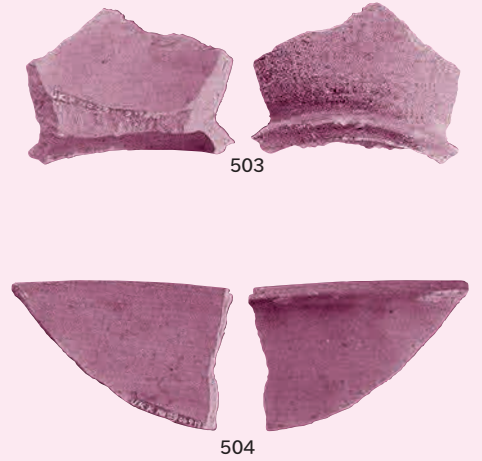
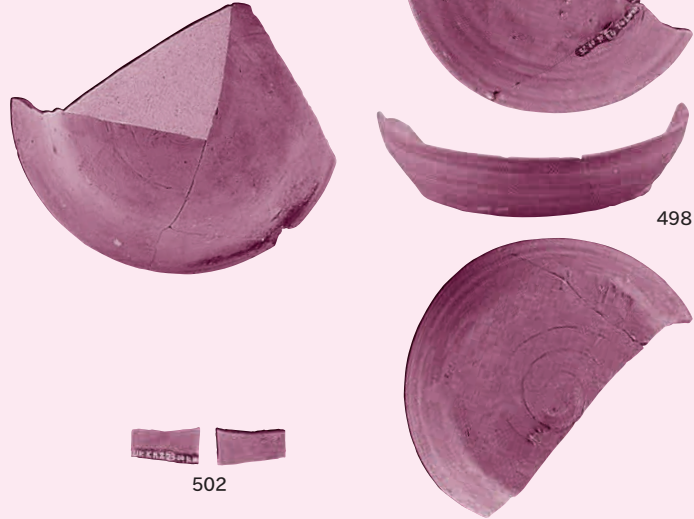
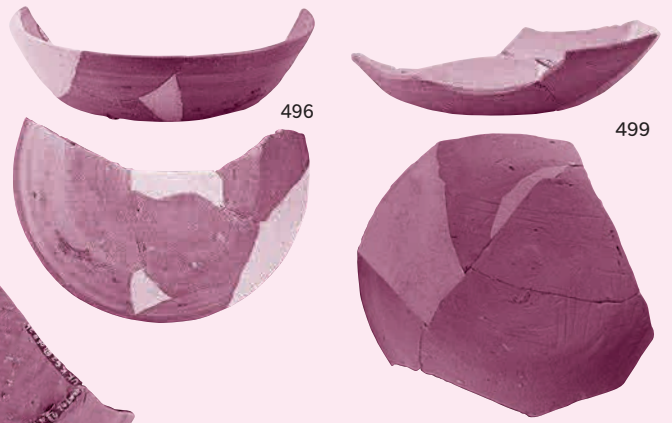
包含層 (491・492・494・495・497・500・501)

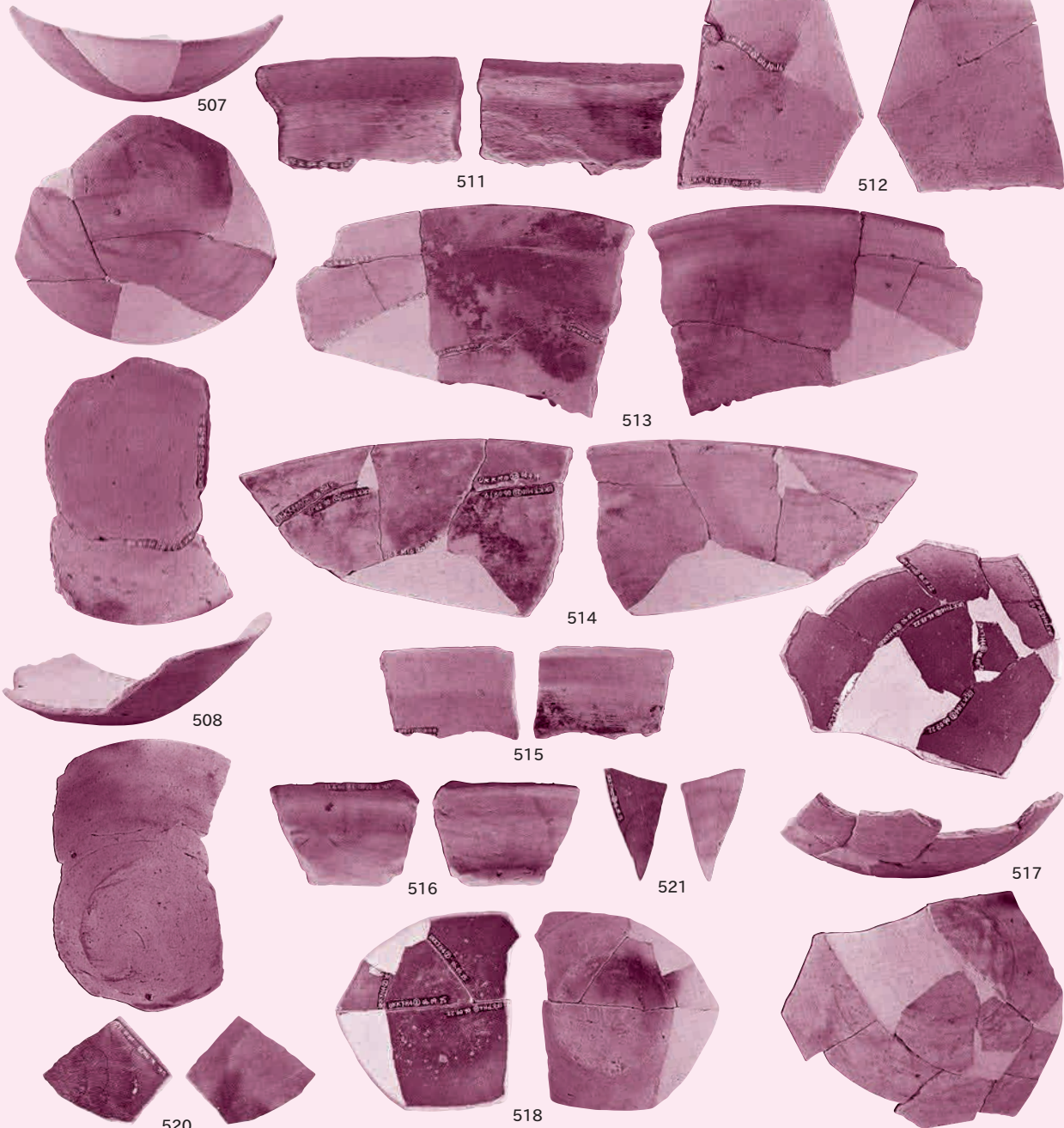


出土遺物26
505・506
(S=1:4)
他
(S=1:3)

包含層 (493・496・498・499・502~506・509・510)

K区
出土土器 (5)

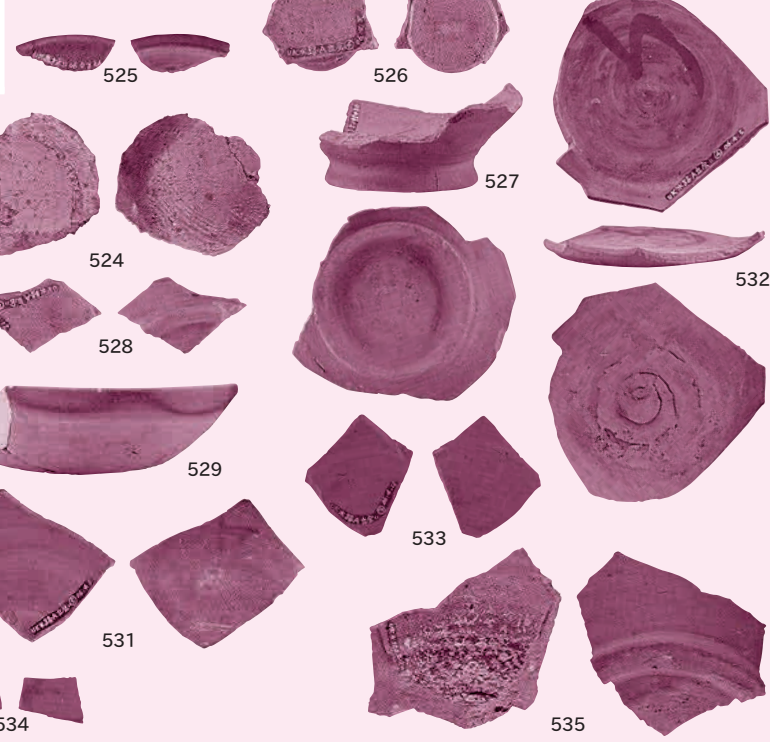




出土遺物27
515
(S=1:4)
他
(S=1:3)

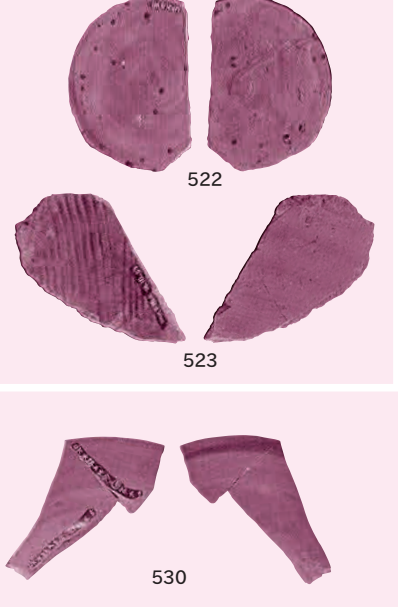
K区
出土土器 (6)

立会い (524~535)



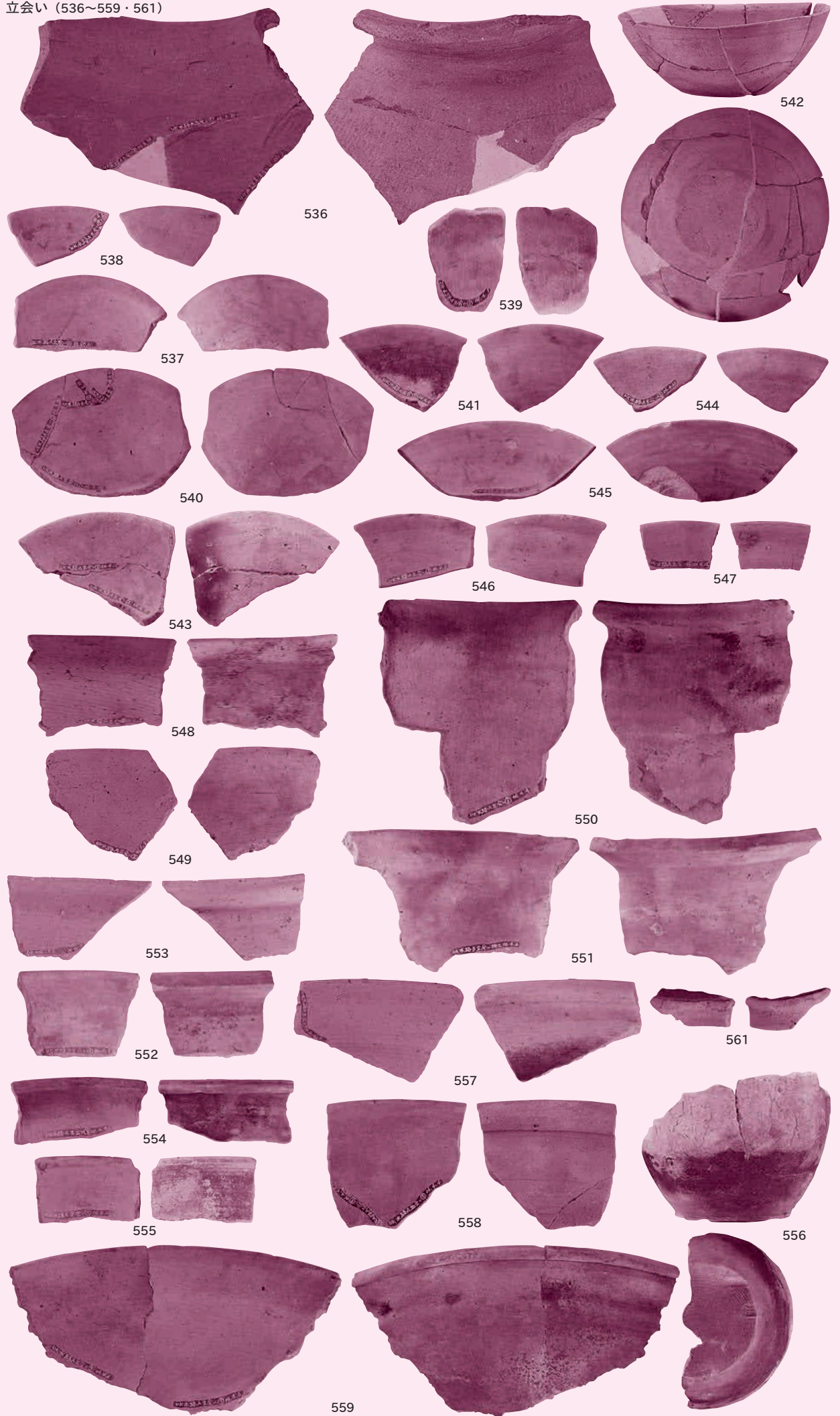
立会い
出土土器 (1)

出土地不明 (522・523)

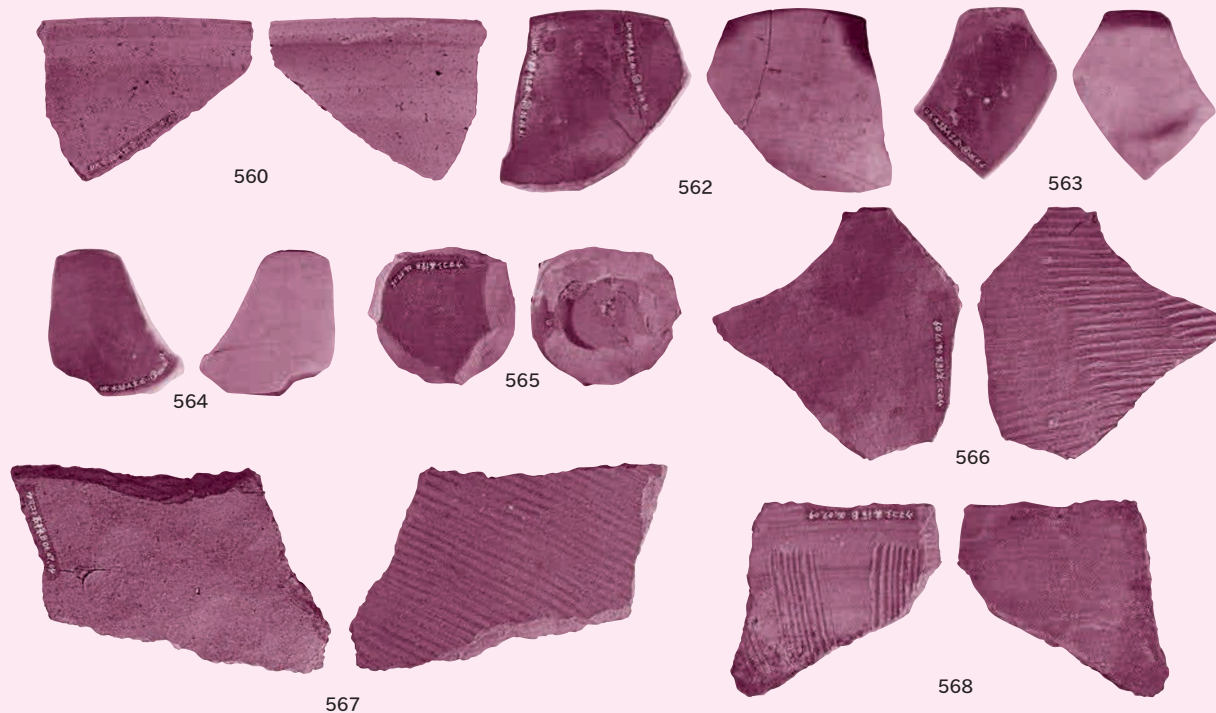


立会い
出土土器 (2)

立会い (536~559・561)



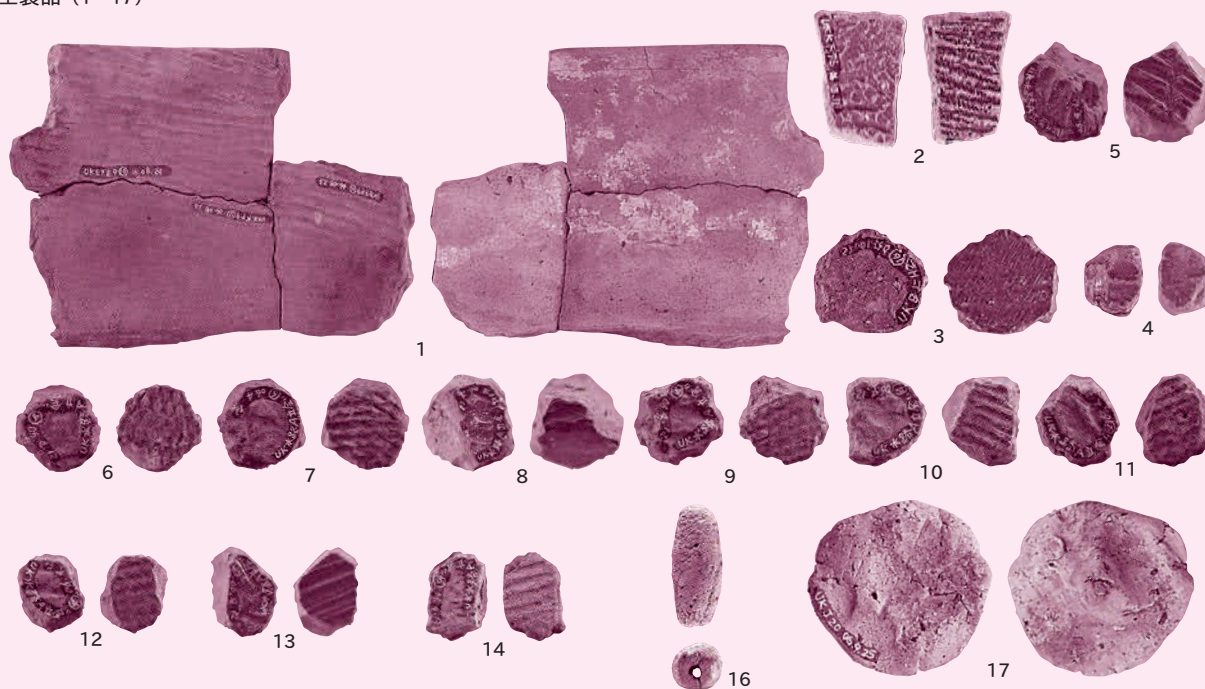
立会い (560・562~568)



出土遺物29
土製品2~14・
16・17
金属製品1・2・
4
(S=1:2)
他
(S=1:3)

立会い
出土土器 (3)

土製品 (1~17)



土製品

金属製品 (1~4・6)

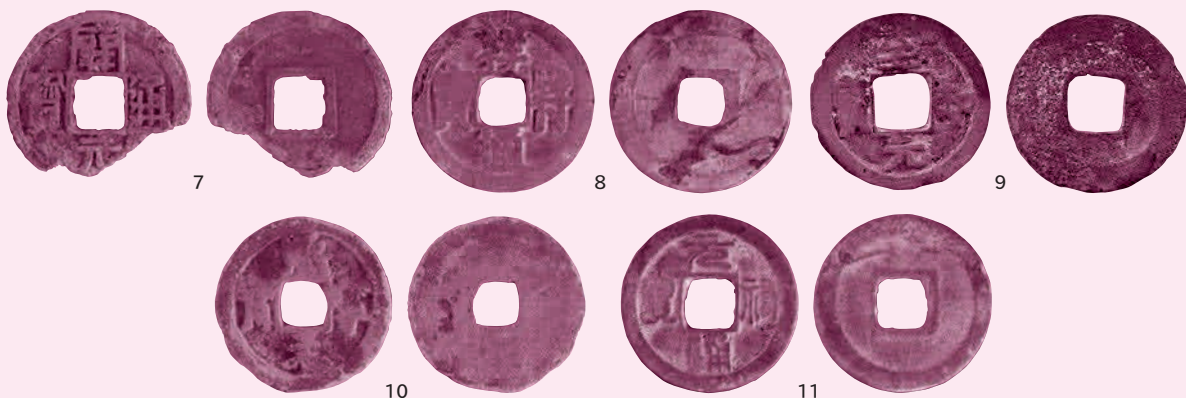


金属製品 (1)

金属製品 (5・7~11)

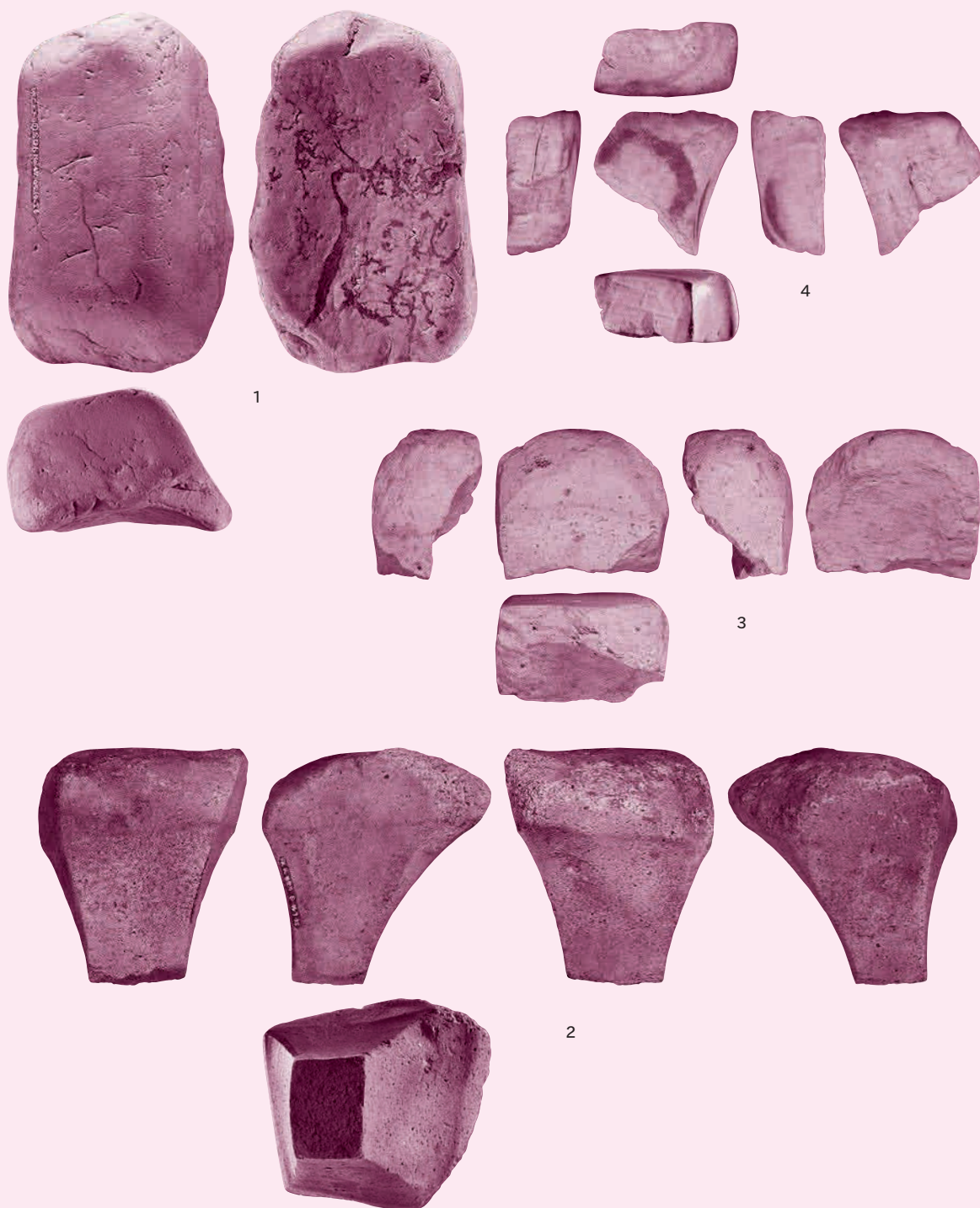


金属製品 (2)



石製品 (1)

石製品 (1~4)



石製品 (5~17)



出土遺物31
 木製品1・2・7
 (S=1:2)
 他
 (S=1:3)
 石製品 (2)

木製品 (1~3・7~9・11)



木製品 (1)

4・6

(S=1:6)

5

(S=1:8)

他

(S=1:3)

木製品 (4~6・10・12・14~16)

木製品 (2)





35

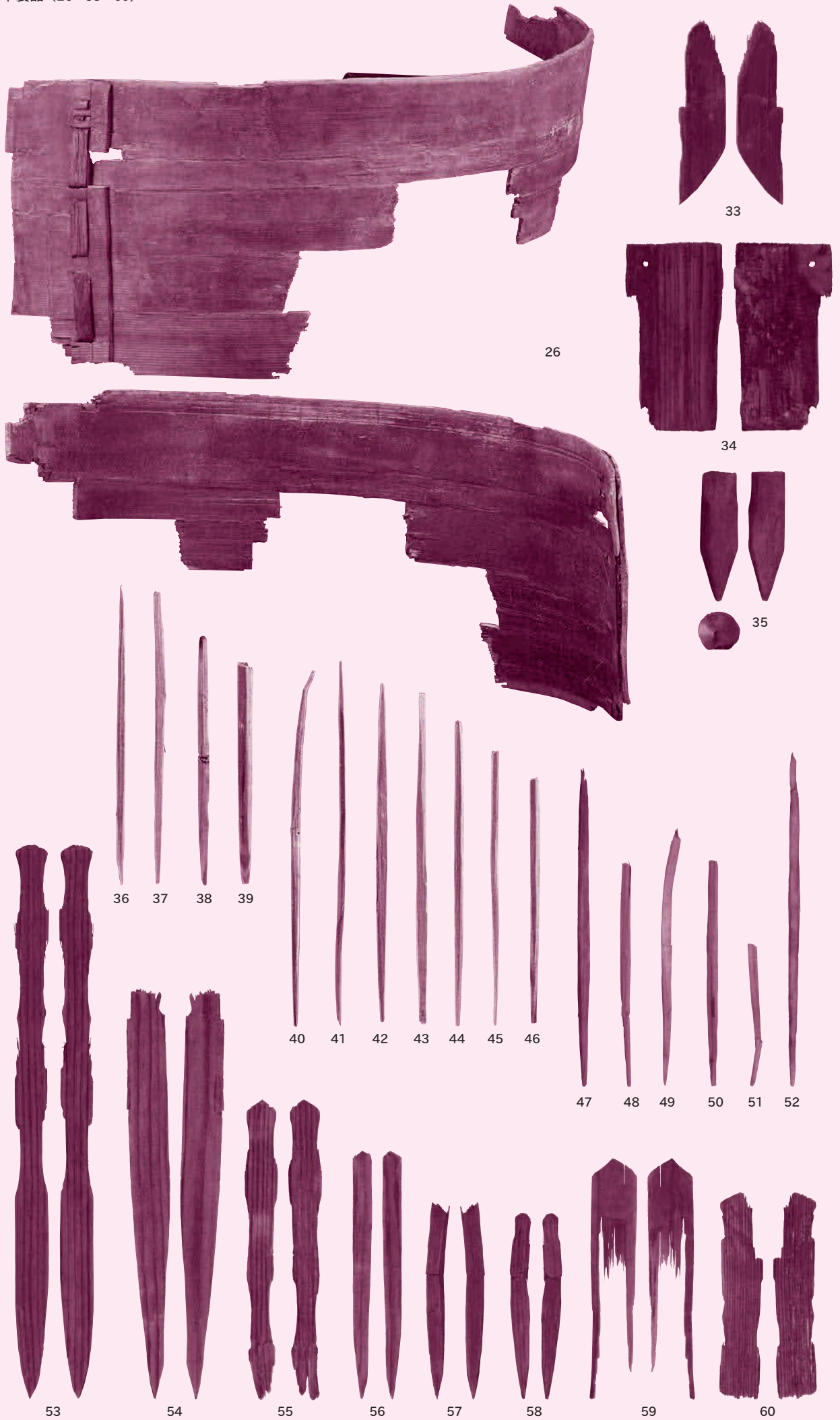
木製品 (26・33~60)

(S=1:2)

他

(S=1:3)

木製品 (4)





78
(S=1:4)
70・73・75・
76・79~81
(S=1:6)
他
(S=1:3)

木製品 (70~81)

木製品 (6)



出土遺物37
82~85・90・
91
(S=1:8)
94
(S=1:3)
86~89
(S=1:6)

木製品 (7)



95・99

木製品 (92・93・95~99)

(S=1:3)

97

(S=1:4)

92・93・96・

98

(S=1:6)

木製品 (8)



92

93

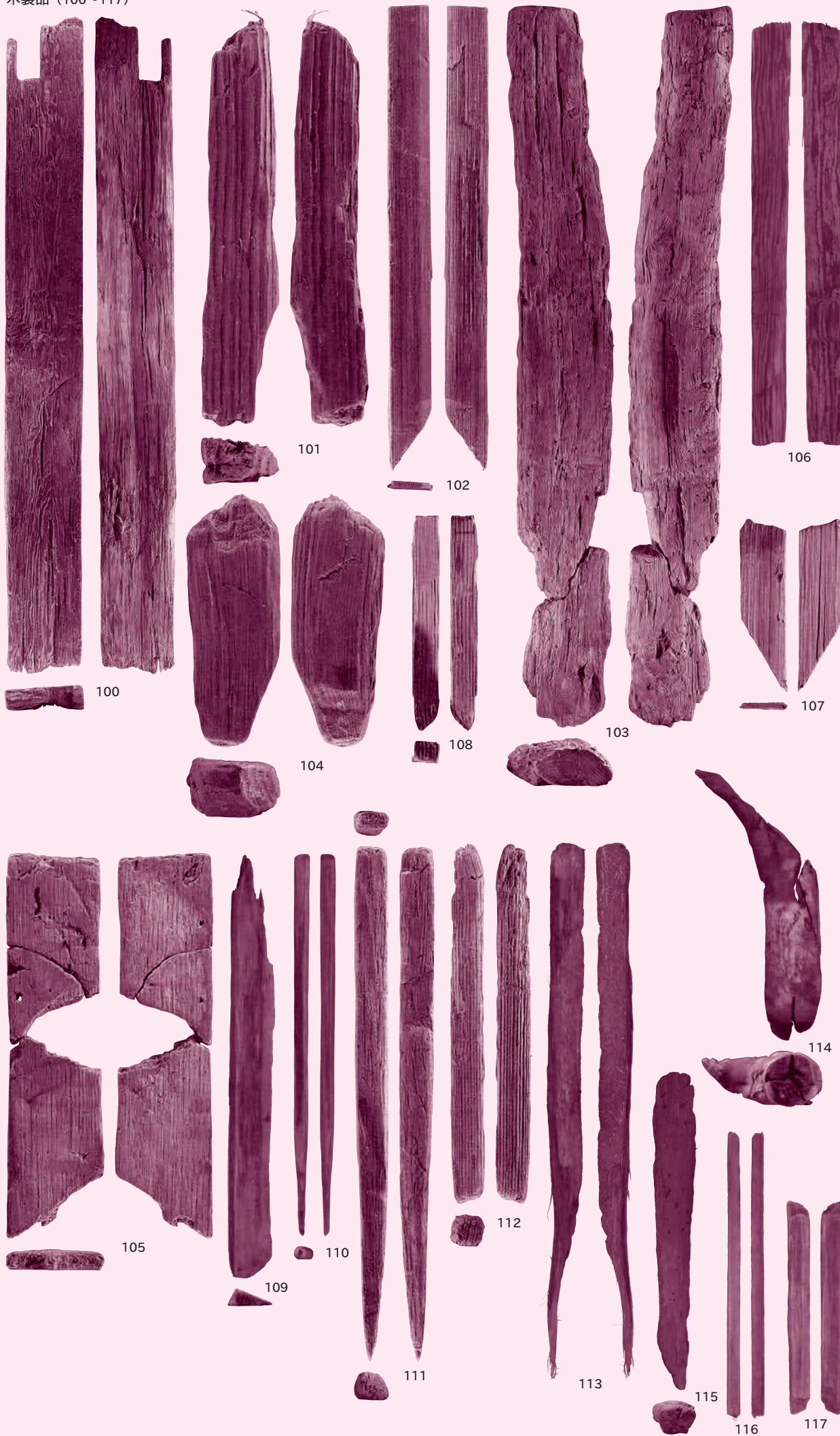
95

96

98

97

99



出土遺物39
 106・109・
 110・113・
 115
 (S=1:6)
 100・103
 (S=1:8)
 他
 (S=1:3)
 木製品 (9)

出土遺物40

金属製品

1・2・4

(S=1:2)

3・5

(S=1:3)

木簡・墨書土器

(S=1:1)

金属製品X線写真

木簡赤外線写真

墨書土器

金属製品X線写真 (1~5)



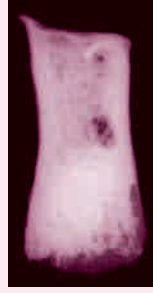
1



2



3

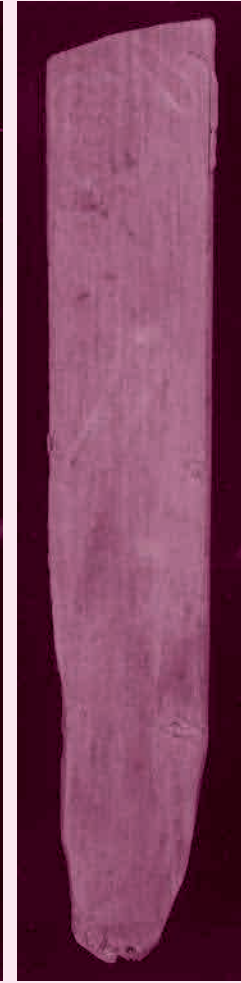


4



5

木簡赤外線写真 (1・2)

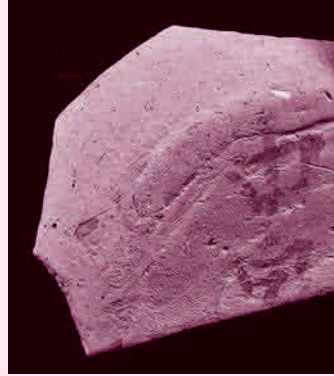


1



2

墨書土器



457



474

報告書抄録

| ふりがな | うまこしいせきはつかつちょうさほうこくしょ さん | | | | | | | |
|-----------------|--|---------------------------|---|--|--------------------|---|-------------|-------------------------------------|
| 書名 | 馬越遺跡発掘調査報告書 Ⅲ | | | | | | | |
| 副書名 | 県営吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | Ⅲ | | | | | | | |
| シリーズ名 | 加茂市文化財調査報告(19) | | | | | | | |
| 編著者名 | 伊藤秀和 | | | | | | | |
| 編集機関 | 加茂市教育委員会 社会教育課 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒959-1313 新潟県加茂市幸町2丁目3番5号 TEL 0256(52)0080 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2010年3月10日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ° ' " | 東経 ° ' " | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| うまこしいせき 馬越遺跡 | かもしおおあざげじょう 加茂市大字下条 あざうまこしこう 字馬越甲1763ほ か | 15209 | 117 | 37度 39分 28秒 | 139度 01分 17秒 | 20050929～ 20051114 20060807～ 20061117 | 3,615 | 県営吉津川地区 ほ場整備事業及 び送ガス管移設 工事 |
| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 馬越遺跡 | 集落跡 | 古墳時代中期 奈良・平安時代 鎌倉時代 | 掘立柱建物跡1棟 井戸11基 土坑183基 不明遺構1基 溝410条 ピット516基 河川・自然流路13条 | 古式土師器・施釉陶器 須恵器・土師器・黒色土器 珠洲焼・土製品・石製品・ 金属製品・木製品 | | 古墳中期古式土師器の 一括出土 木簡・「中家」墨書土器・ 帯金具などが出土 鎌倉時代の井戸跡から 多様な木製品が出土 | | |

加茂市文化財調査報告(19)

馬越遺跡 Ⅲ

—県営吉津川地区ほ場整備事業及び送ガス管移設工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷月日 平成22年3月1日

発行月日 平成22年3月10日

発行・編集者 加茂市教育委員会

〒959-1313 新潟県加茂市幸町2丁目3番5号

TEL 0256(52)0080

印刷所

有限会社いとう印刷

〒959-1378 新潟県加茂市駅前4番4号

TEL 0256(52)0696